

第 17 回 葛飾区世論調査

調 査 報 告 書

令和 3 年（2021 年）12 月



はじめに

このたび、「第17回葛飾区世論調査」について、集計結果がまとまりました。

本調査は昭和45年より実施しており、今回で17回目を数えます。

本区では、前回調査を実施した平成30年からこの間、未曾有の台風や新型コロナウイルス感染症を経験するなど、皆様の生活には大きな変化が生じています。今回の調査結果からは、これらの経験が皆様の意識や意向にどのような影響を与えているかを把握することができます。

定住意向に関する質問に対しては、前回調査に引き続き、84.5%の方が「今後も葛飾区に住み続けたい」と答えています。

そして、重点施策に関する問いに対しても、4回連続で「防災対策」が1位となるなど、依然として皆様の防災に対する関心が高くなっています。また、今回の調査から新たに追加した「防犯・治安対策」が2番目に高くなり、次いで「高齢者支援」という結果となりました。

一方、区内すべての高校及び大学に通う生徒・学生を対象に行った同調査では、「防犯・治安対策」が最も高く、次いで「防災対策」、「生活環境対策」と続いています。

区では今回の調査結果を踏まえ、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を目指し、これらの施策に重点的に取り組んでまいります。

最後に、今般、葛飾区世論調査にご協力いただきました区民の皆様並びに都立葛飾商業高等学校、都立葛飾総合高等学校、都立葛飾野高等学校、都立農産高等学校、都立南葛飾高等学校、共栄学園高等学校、修徳高等学校、東京聖栄大学、東京理科大学の方々に心よりお礼申し上げます。

令和3年（2021）年12月



葛飾区長 青木克徳

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の内容.....	3
3. 調査設計.....	3
4. 調査機関.....	3
5. 回収結果.....	3
6. 報告書の見方.....	4
II 調査回答者のプロフィール	7
III 調査結果の詳細	17
調査結果の要約.....	19
1. 定住性.....	35
(1) 居住年数.....	35
(2) 定住意向.....	42
(2-1) 住み続けたい理由.....	49
(2-2) 区外へ移りたい理由.....	53
(3) 愛着の有無.....	56
(4) 誇りの有無.....	59
(5) 人に区を勧めたい意思.....	62
(5-1) アピール事項.....	65
2. 区政への関心.....	69
(1) 整備・充実が必要な施設.....	69
(2) 区に力を入れてほしいもの.....	81
3. SDGs.....	85
(1) SDGsの認知度.....	85
(2) 「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいもの.....	87
4. 住民参加.....	90
(1) 区政への参加意向.....	90
(1-1) 区政への参加方法.....	92
5. 広報媒体.....	95
(1) 区の情報の入手方法.....	95
(2) インターネットの利用状況.....	98
(2-1) インターネットの利用方法.....	100
6. IT.....	102
(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況.....	102
(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能.....	104
7. 社会貢献活動.....	107
(1) 社会貢献活動への参加.....	107
(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動.....	109
(1-2) 社会貢献活動をしたくない理由.....	112

8. 地域貢献活動に対する支援	115
(1) 地域貢献活動に対する支援	115
9. 生涯学習	118
(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況	118
(2) 生涯学習を充実させるために重要なこと	121
(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと	124
10. 健康	127
(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと	127
11. 高齢者支援	130
(1) 介護生活に望むこと	130
12. 障害者支援	132
(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと	132
13. 子育て	135
(1) 少子化対策における必要な施策	135
(2) 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策	139
14. 高齢社会への対応	143
(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策	143
(2) 民生委員・児童委員の認知度	146
15. 男女平等社会の実現	149
(1) 男女平等社会の進展状況	149
(1-1) 男女の不平等を感じる点	151
16. 同和問題	154
(1) 同和問題の認知度	154
(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処	156
(3) 同和問題の解決方法	159
17. 産業	162
(1) 商業振興について大切なこと	162
(2) 工業振興について大切なこと	166
(3) 農業振興について大切なこと	170
18. 観光	174
(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと	174
19. 国際	178
(1) 外国人(区民)に努力してほしいこと	178
(2) 日本人区民が努力・工夫していくべきこと	180
20. 防災	182
(1) 日頃行っている防災対策や準備	182
(2) 住居の建築年数	186
(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定	189
(3) 居住地域における災害時の安全性	192
(3-1) 居住地域が災害時に安全でないと思う理由	195
21. 公園・河川敷	199
(1) 公園に期待すること	199
(2) 河川敷に期待すること	203
22. 道路	207
(1) 道路施策で力を入れてほしいこと	207

23. 環境	211
(1) 環境保護のための行動	211
(2) 「生物多様性」の認知度	222
24. ごみの減量・リサイクル	224
(1) 「3つのR」の実施状況	224
(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと	233
25. 感染症対策	237
(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと	237
IV 学生意識調査	241
i. 調査の概要	243
ii. 調査回答者のプロフィール	245
iii. 調査結果の詳細	247
V 調査票	357

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の意識・意向・意見や要望を把握し、今後の区政運営の資料とすることを目的としたものである。

2. 調査の内容

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 定住性 | (14) 高齢社会への対応 |
| (2) 区政への関心 | (15) 男女平等社会の実現 |
| (3) S D G s | (16) 同和問題 |
| (4) 住民参加 | (17) 産業 |
| (5) 広報媒体 | (18) 観光 |
| (6) I T | (19) 国際 |
| (7) 社会貢献活動 | (20) 防災 |
| (8) 地域貢献活動に対する支援 | (21) 公園・河川敷 |
| (9) 生涯学習 | (22) 道路 |
| (10) 健康 | (23) 環境 |
| (11) 高齢者支援 | (24) ごみの減量・リサイクル |
| (12) 障害者支援 | (25) 感染症対策 |
| (13) 子育て | |

3. 調査設計

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 調査地域 | 葛飾区内全域 |
| (2) 調査対象 | 満 18 歳以上の区民 |
| (3) 標本数 | 3,000 |
| (4) 抽出方法 | 単純無作為抽出法（抽出日：令和 3 年 5 月 1 日） |
| (5) 調査方法 | 郵送による発送、郵送・インターネットによる回収 |
| (6) 調査期間 | 令和 3 年 7 月 1 日～7 月 22 日 |

4. 調査機関

株式会社都市計画 2 1

5. 回収結果

標本数	有効回答数		有効回収率			
	郵送	WEB	郵送	WEB		
3,000	1,247	962	285	41.6%	77.1%	22.9%

6. 報告書の見方

本報告書の留意点は、以下のとおり。

1. 比率はすべて百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
2. “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数とし、算出している。
3. 複数回答の設問では、1人の回答者が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
4. 図表および本文中では、スペースの都合により選択肢を省略して表記している場合がある。
5. 各設問の回答数に対し、1%未満の回答については参考値とし、本文中では触れないこととする。

(1%未満の回答例：全回答が対象 (n=1,247) の場合は、回答数が12以下の回答)

6. すべての調査項目に対し、単純集計および属性別クロス集計を行っている（属性とは、「性別」「年代別」「居住地域別」等を示している）。クロス集計では、分析軸の「無回答」を表記していないため、分析軸における各項目の回答数の合計値と全体の回答数が一致しない場合がある（項目9参照）。
7. クロス集計では、nが小さい数字の場合、統計上の誤差（標本誤差）が生じる可能性が高いので注意する必要がある。誤差の大きさは、標本数が少ないほど大きくなる。
8. 標本調査である本調査は、確率論に基づき、母集団（満18歳以上の区民）の値と標本（サンプル）の値との間に生じる誤差を以下の式によって求めることができる。

$$b = 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \dots (1)$$

$\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ のため、以下の数式が得られる。

$$b = 2 \times \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}} \quad \dots (2)$$

<p>b=標本誤差 N=母集団 (満18歳以上の葛飾区民) n=比率算出の基数(サンプル数) P=回答比率</p>

式(2)から、本調査の標本誤差の早見表を示す。

回答比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,247人	± 1.70%	± 2.27%	± 2.60%	± 2.77%	± 2.83%
1,000人	± 1.90%	± 2.53%	± 2.90%	± 3.10%	± 3.16%
700人	± 2.27%	± 3.02%	± 3.46%	± 3.70%	± 3.78%
500人	± 2.68%	± 3.58%	± 4.10%	± 4.38%	± 4.47%
300人	± 3.46%	± 4.62%	± 5.29%	± 5.66%	± 5.77%

※ 例えば、ある設問の回答者数が1,247人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、満18歳以上のすべての葛飾区民に対して同一の調査を実施した場合と比べ、回答比率の誤差範囲は±2.77%以内(57.23%~62.77%)となる。

9. クロス集計において、集計対象の全設問に回答がない場合、その回答は計数されない。そのため、クロス集計結果は、単純集計結果と数値が異なる場合がある。その一例をパターンA～Fで以下に示す。

	性別	年齢	居住年数	クロス集計可否
A	男性	30歳～39歳	10～20年未満	○（可）
B	女性	－（無回答）	30年以上	×（否）
C	男性	70歳以上	－（無回答）	×（否）
D	女性	65～69歳	3年未満	○（可）
E	－（無回答）	18～29歳	3～5年未満	×（否）
F	－（無回答）	－（無回答）	20～30年未満	×（否）

※ 例えば、37ページの「図表Ⅲ－1－3 居住年数（性別／性・年代別）」の場合、回答者数は男性562人、女性676人、その他2人、性別無回答7人であることから、図表の「性別」におけるnは「男性n=562」、「女性n=676」、「その他n=2」としている。一方、「性・年代別」は、男性の各年代におけるnの合計は562人、女性は675人、その他は2人となり、「性別」の女性と比較し、女性に1人の誤差が生じている。しかし、これは居住年数回答者のうち、女性で年齢を回答しなかった人が1人いたために生じた誤差であり、クロス集計において、この1人分の回答は計数していない。

10. 本報告書における居住地域は以下のように分類した。

居住地域（7区分）	町名
立石・四つ木	立石、東立石、四つ木、東四つ木
南綾瀬・お花茶屋・堀切	小菅、お花茶屋、宝町、堀切、東堀切
亀有・青戸	亀有、西亀有、白鳥、青戸
奥戸・新小岩	奥戸、新小岩、西新小岩、東新小岩
柴又・高砂	柴又、高砂、鎌倉、細田
金町・新宿	金町、東金町、金町浄水場※、新宿
水元地域	水元、西水元、東水元、南水元、水元公園※

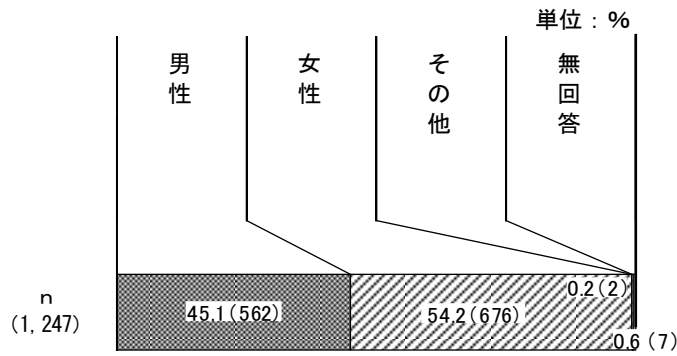
※ 「金町浄水場」および「水元公園」は、居住者がいないため、調査票の選択肢からは除外している。

11. 本報告書における割合の表現は、以下のように表記した。

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

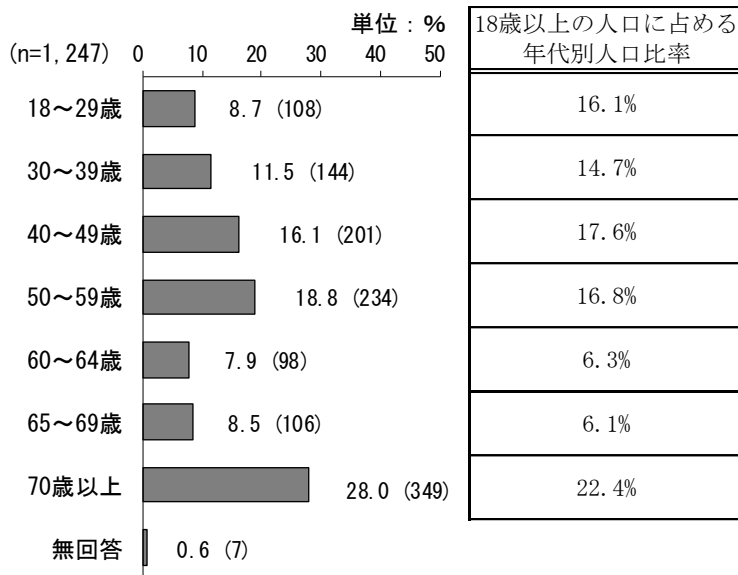
Ⅱ 調査回答者のプロフィール

(1) 性別



調査回答者の性別は、「男性」(45.1%)、「女性」(54.2%)、「その他」(0.2%)となっている。

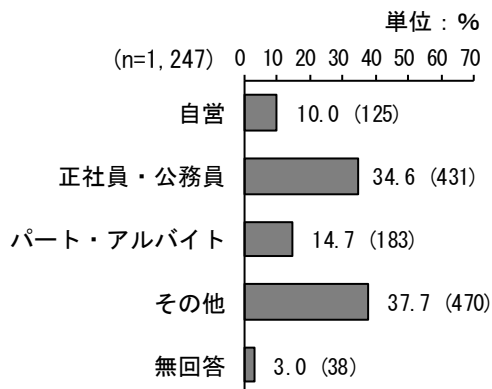
(2) 年齢



調査回答者の年代は、「70歳以上」(28.0%)が最も高く、次いで「50～59歳」(18.8%)、「40～49歳」(16.1%)と続いている。

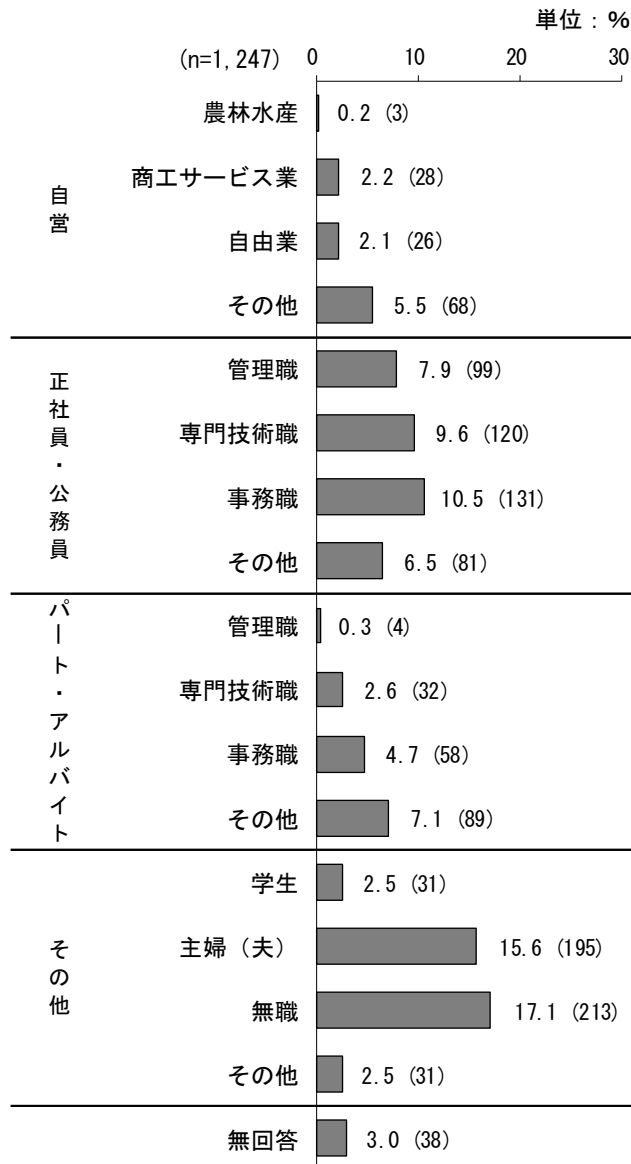
回答者のうち、「18～29歳」と「30～39歳」の合計は、全回答者の20.2%を占めている。これに対し、令和3年5月1日現在の18歳以上人口に占める「18～29歳」と「30～39歳」の人口比率は合計30.8%であり、人口比率に比べ、この年齢層の回答割合が低い結果となっている。

(3) 職業 (4区分)



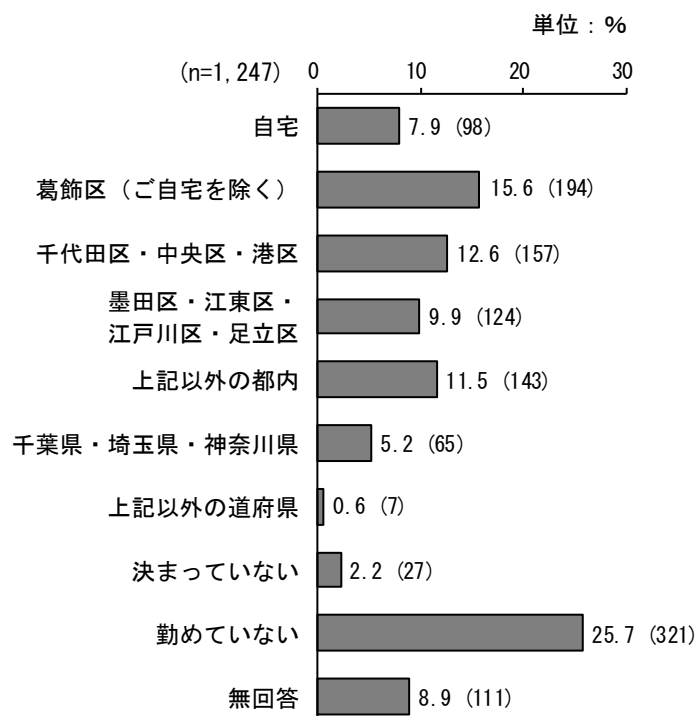
調査回答者の職業(4区分)は、「その他」(37.7%)が最も高く、次いで「正社員・公務員」(34.6%)、「パート・アルバイト」(14.7%)と続いている。

(4) 職業 (16 区分)



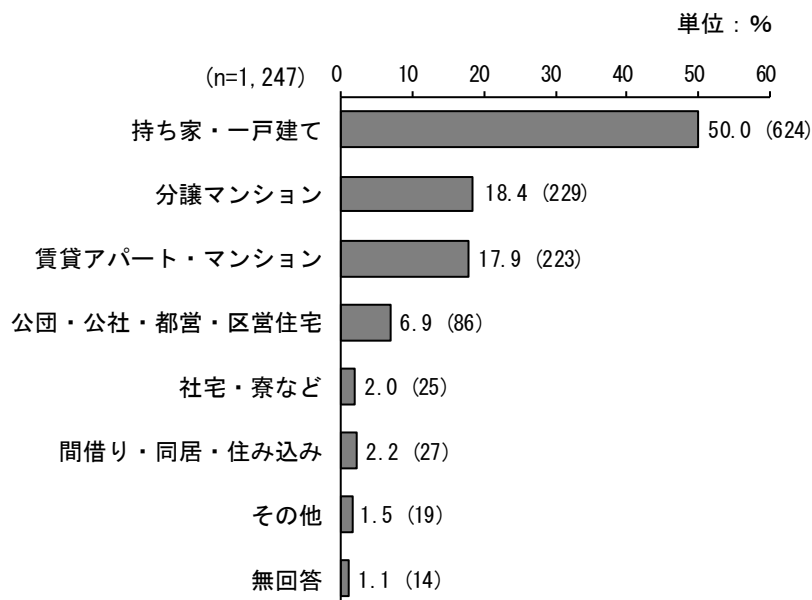
調査回答者の職業(16区分)は、「その他・無職」(17.1%)が最も高く、次いで「その他・主婦(夫)」(15.6%)、「正社員・公務員・事務職」(10.5%)、「正社員・公務員・専門技術職」(9.6%)と続いている。

(5) 勤務先



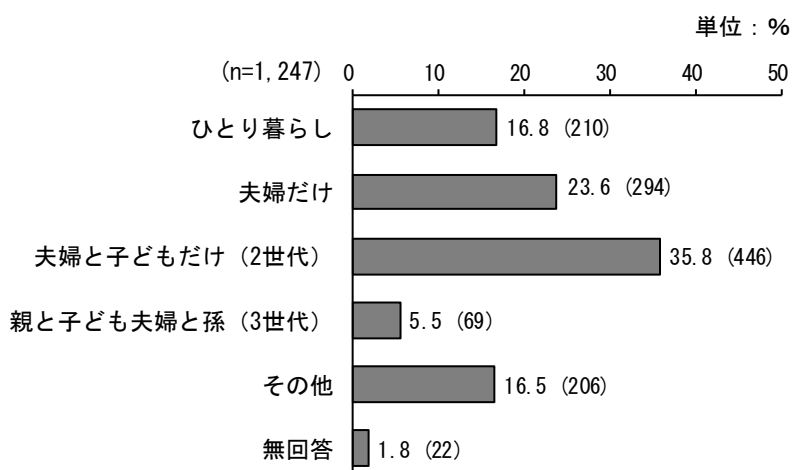
調査回答者の勤務先は、「葛飾区(ご自宅を除く)」(15.6%)が最も高く、次いで「千代田区・中央区・港区」(12.6%)、「葛飾区・千代田区・中央区・港区・墨田区・江東区・江戸川区・足立区以外の都内」(11.5%)と続いている。

(6) 住居形態



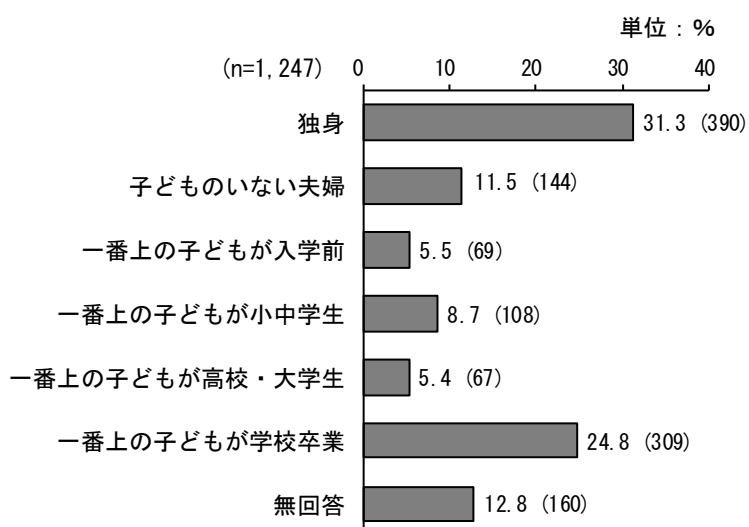
調査回答者の住居形態は、「持ち家・一戸建て」(50.0%)が最も高く、次いで「分譲マンション」(18.4%)、「賃貸アパート・マンション」(17.9%)と続いている。

(7) 家族構成



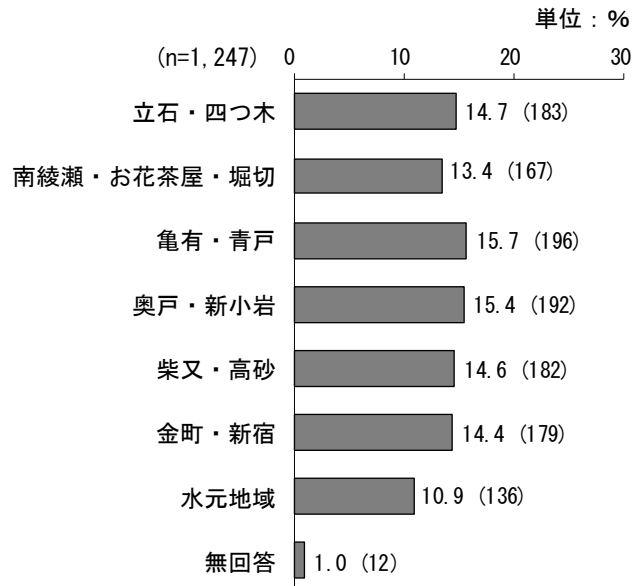
調査回答者の家族構成は、「夫婦と子どもだけ (2世代)」(35.8%)が最も高く、次いで「夫婦だけ」(23.6%)、「ひとり暮らし」(16.8%)と続いている。

(8) ご自身の状況



調査回答者のご自身の状況は、「独身」(31.3%)が最も高く、次いで「一番上の子どもが学校卒業」(24.8%)、「子どものいない夫婦」(11.5%)と続いている。

(9) 居住地域 (7区分)

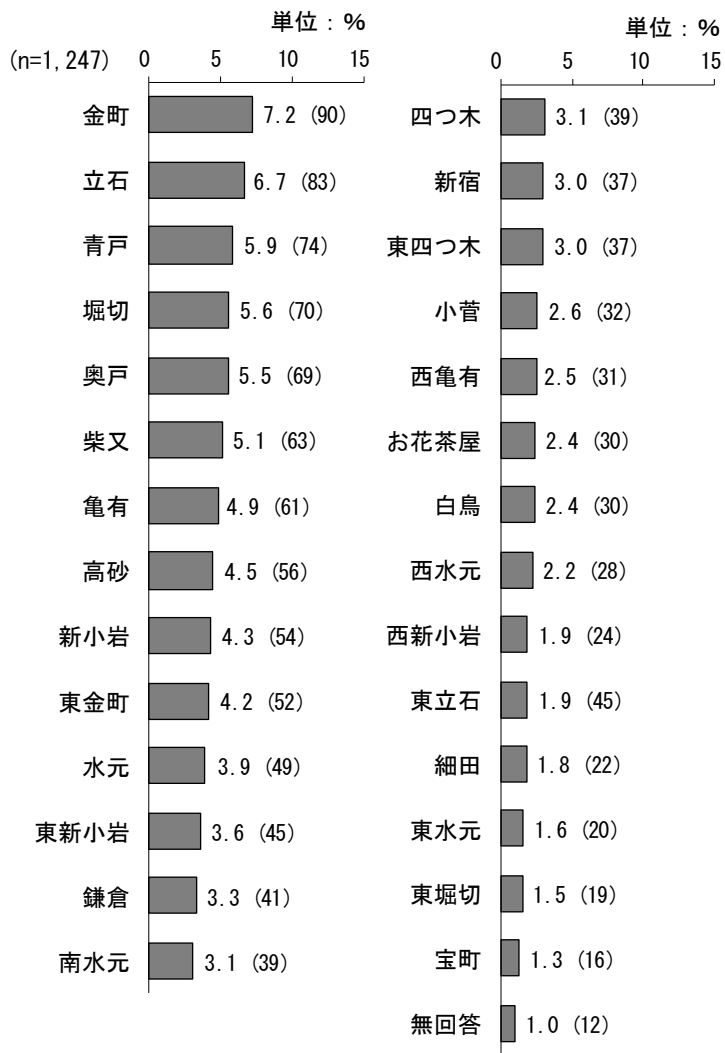


調査回答者の居住地域 (7区分) は、「亀有・青戸」(15.7%) が最も高く、次いで「奥戸・新小岩」(15.4%)、「立石・四つ木」(14.7%) と続いている。

なお、居住地域 (7区分) の内訳は、報告書の見方 (5ページ) を参照いただきたい。



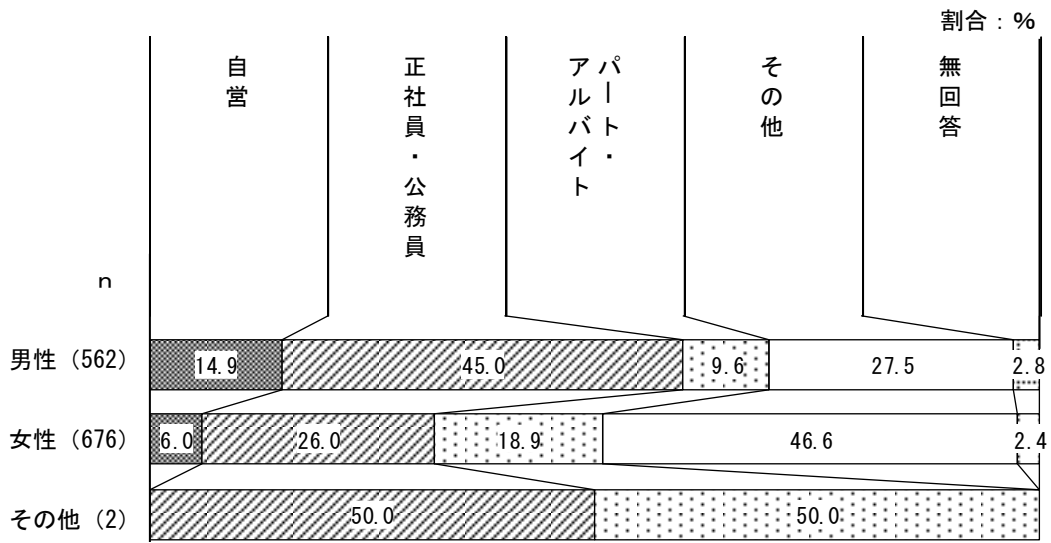
(10) 居住地域 (28 区分)



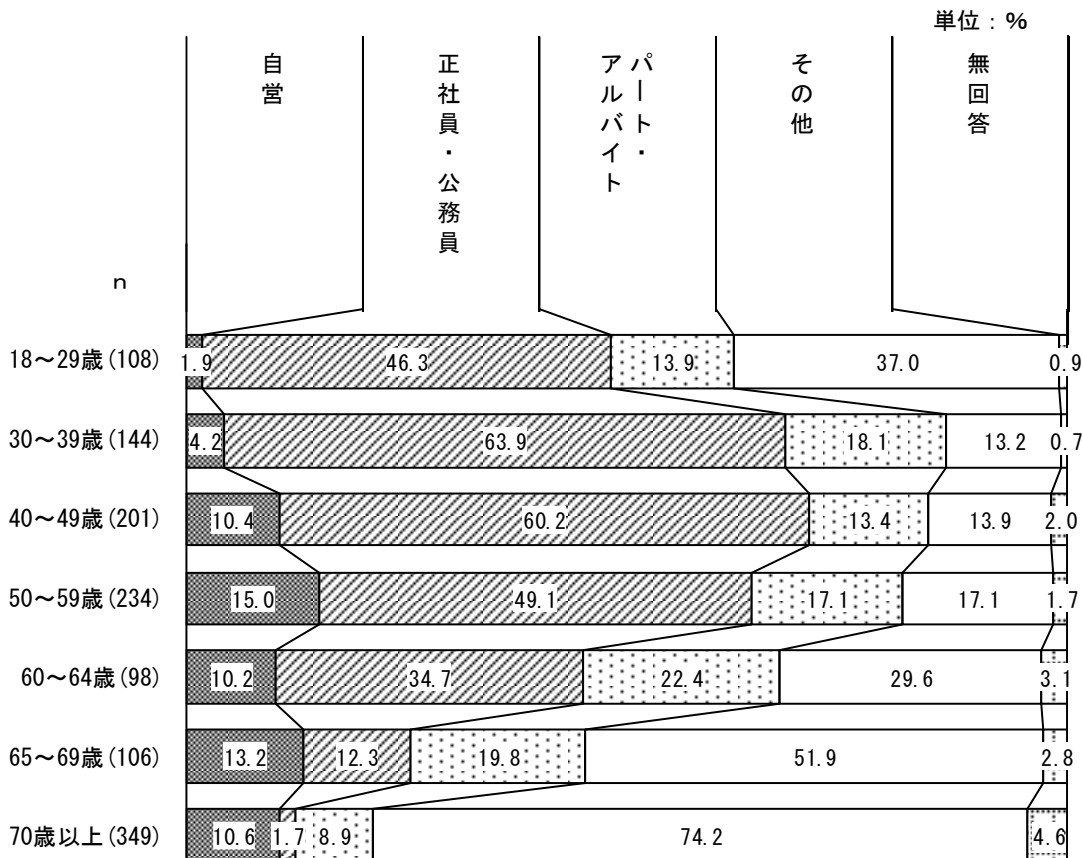
調査回答者の居住地域 (28 区分) は、「金町」(7.2%) が最も高く、次いで「立石」(6.7%)、「青戸」(5.9%) と続いている。

(11) 性別・年代別×職業別（5区分）

【性別×職業別（5区分）】



【年代別×職業別（5区分）】

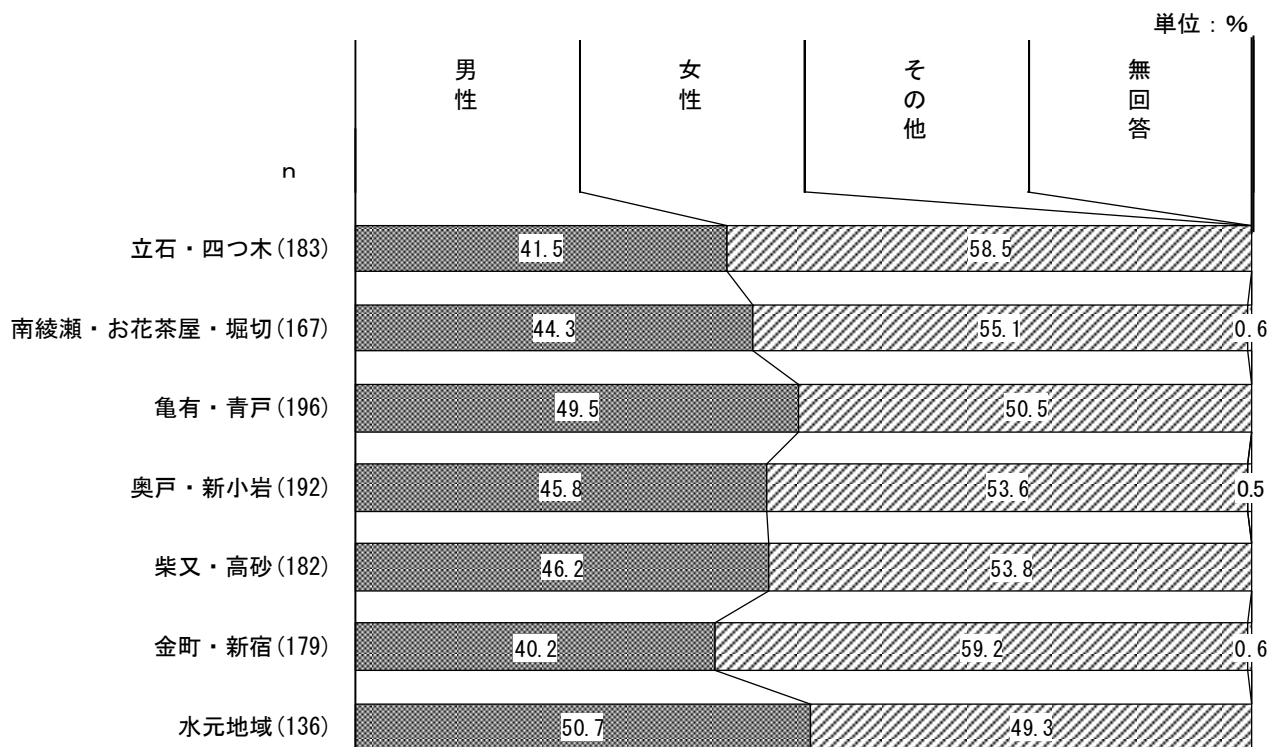


職業（5区分）を性別にみると、「男性」は、「正社員・公務員」（45.0%）が最も高く、次いで「その他」（27.5%）、「自営」（14.9%）と続いている。「女性」は、「その他」（46.6%）が最も高く、次いで「正社員・公務員」（26.0%）、「パート・アルバイト」（18.9%）と続いている。

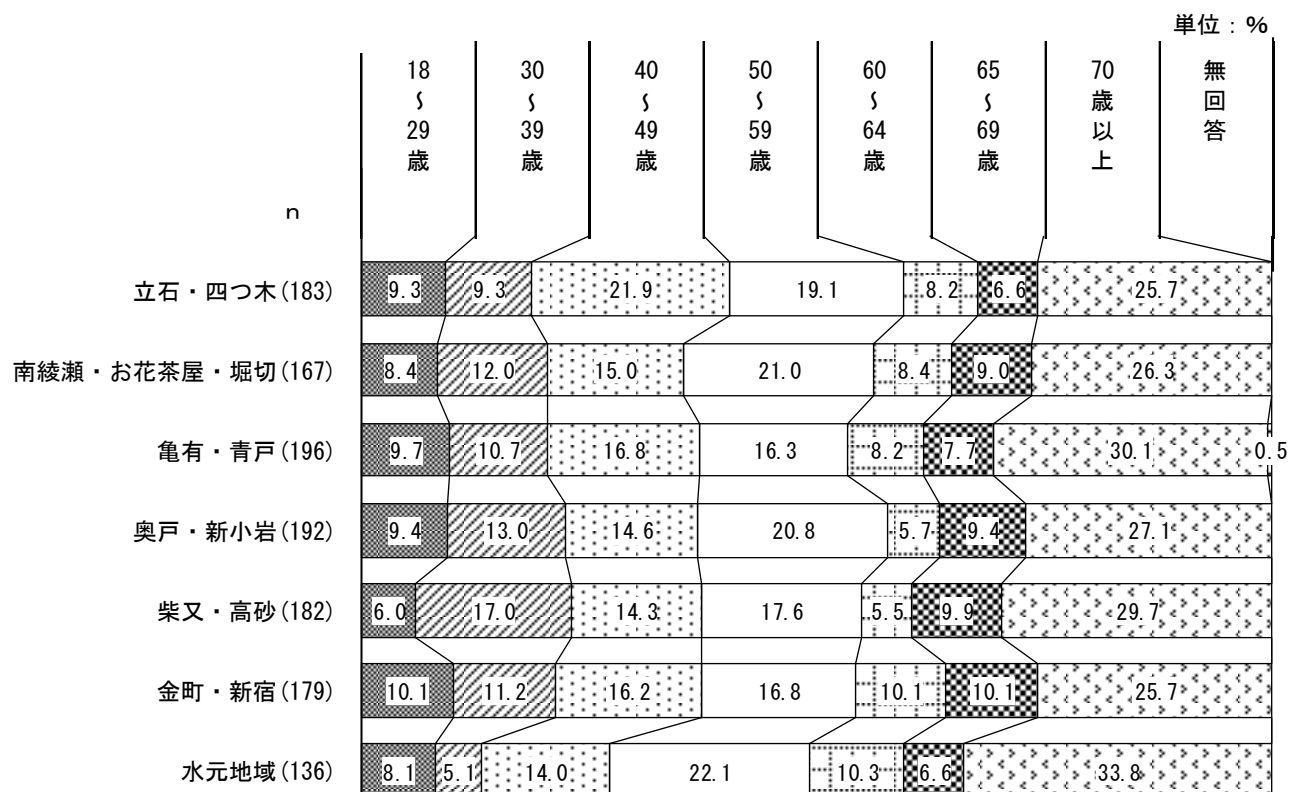
職業（5区分）を年代別にみると、64歳以下は「正社員・公務員」が最も高くなっている。また、65歳以上では「その他」が最も高くなっている。

(12) 居住地域別（7区分）×性別・年代別

【居住地域別（7区分）×性別】



【居住地域別（7区分）×年代別】



性別を居住地域別（7区分）にみると、「男性」は「水元地域」（50.7%）、「女性」は「金町・新宿」（59.2%）が最も高くなっている。

年代を居住地域別（7区分）にみると、「柴又・高砂」では29歳以下、「水元地域」では30～49歳および65～69歳の回答者の割合が、それぞれ他の居住地域より低くなっている。

Ⅲ 調査結果の詳細

調査結果の要約

1. 定住性

(1) 居住年数 (問1 35 ページ)

◆ 『30年以上』が約5割

葛飾区の居住年数は、「30年以上」(32.6%)と「生まれた時から(30年以上)」(18.0%)を合わせた『30年以上』(50.6%)が約5割となっている。

性別で見ると、『30年以上』は、「女性」(51.0%)が「男性」(49.9%)より1.1ポイント高くなっている。

(2) 定住意向 (問2 42 ページ)

◆ 『今後も葛飾区に住むつもり』が8割台半ば

葛飾区に対する定住意向は、「住み続けるつもり」(57.4%)が6割近くと最も高く、これに「当分の間は住むつもり」(27.1%)を合わせた『今後も葛飾区に住むつもり』(84.5%)は8割台半ばとなっている。一方、「区外へ移るつもり」(4.1%)は1割未満となっている。

『今後も葛飾区に住むつもり』(84.5%)は、平成30年度調査(84.5%)と同率で増減なしとなっている。

性別で見ると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「男性」(84.6%)と「女性」(84.6%)は同率となっている。

職業別で見ると、「住み続けるつもり」は、「その他・無職」(71.4%)が7割強と最も高く、次いで「パート・アルバイト・専門技術職」(68.8%)、「その他・主婦(夫)」(68.2%)と続いている。

住居形態別で見ると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「持ち家・一戸建て」(87.2%)、「分譲マンション」(86.9%)、「公団・公社・都営・区営住宅」(84.8%)で8割以上となっている。

(2-1) 住み続けたい理由 (問2-1 49 ページ)

◆ 「持ち家があるから」、「買い物など日常生活が便利だから」、「交通の便が良いから」の順

葛飾区に住み続けたい主な理由は、「持ち家があるから」(65.4%)が6割台半ばと最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利だから」(32.6%)、「交通の便が良いから」(27.6%)と続いている。

居住地域別で見ると、「買い物など日常生活が便利だから」は、「亀有・青戸」(43.8%)が4割強と最も高く、「柴又・高砂」(23.0%)が最も低くなっている。「交通の便が良いから」は、「奥戸・新小岩」(40.0%)が最も高く、「水元地域」(11.8%)が最も低くなっている。

(2-2) 区外へ移りたい理由 (問2-2 53 ページ)

◆ 「持ち家でないから」と「災害時に不安な地域だから」が最多

区外へ移りたい主な理由は、「持ち家でないから」(11.8%)と「災害時に不安な地域だから」(11.8%)が同率で最も高く、次いで「地元へ帰りたいから」(7.8%)、「家が狭いから」(5.9%)と続いている。

(3) 愛着の有無 (問3 56 ページ)

◆ 『愛着がある』が7割強

葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというと思う」(41.1%)が最も高く、これと「そう思う」(30.6%)を合わせた『愛着がある』(71.7%)は7割強となっている。一方、「どちらかというと思わない」(4.6%)と「そう思わない」(3.8%)を合わせた『愛着がない』(8.4%)は、1割未満となっている。

(4) 誇りの有無 (問3 59 ページ)

◆ 『誇りに思う』が4割強

葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというと思う」(30.3%)が最も高く、これと「そう思う」(11.1%)を合わせた『誇りに思う』(41.4%)は4割強となっている。一方、「どちらかというと思わない」(10.0%)と「そう思わない」(9.1%)を合わせた『誇りに思わない』(19.1%)は、2割弱となっている。

(5) 人に区を勧めたい意思 (問4 62 ページ)

◆ 『勧めたいと思う』が5割

人に区を勧めたい意思について、「どちらかというと思う」(36.0%)が最も高く、これと「そう思う」(14.0%)を合わせた『勧めたいと思う』(50.0%)は5割となっていて、平成30年度調査(45.4%)より4.6ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思わない」(12.2%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『勧めたいと思わない』(20.9%)は、約2割となっている。

(5-1) アピール事項 (問4-1 65 ページ)

◆ 「住みやすさ(子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい)」が6割近く

人に区を勧めるときのアピール事項は、「住みやすさ(子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい)」(57.1%)が6割近くと最も高く、次いで「知名度の高い施設や街並み(柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など)」(14.7%)と続いている。

居住地域別でみると、「住みやすさ」は、「立石・四つ木」(69.2%)が最も高く、「水元地域」(42.2%)が4割強と最も低くなっている。また、「知名度の高い施設や街並み」は、「水元地域」(29.7%)が3割弱と最も高くなっている。

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

<子育て・福祉施設> (問5 (1) 69 ページ)

◆ 「特別養護老人ホーム」が3割近く

整備・充実が必要な「子育て・福祉施設」は、「特別養護老人ホーム」(26.4%)が3割近くと最も高く、次いで「介護老人保健施設」(23.9%)、「保育園・認定こども園・幼稚園」(22.5%)と続いている。

「特別養護老人ホーム」(26.4%)は、平成30年度調査(22.7%)より3.7ポイント増加している。一方、「介護老人保健施設」(23.9%)は、平成30年度調査(28.0%)より4.1ポイント、「保育園・認定こども園・幼稚園」(22.5%)は、平成30年度調査(23.9%)より1.4ポイント、それぞれ減少している。

<教育・文化・スポーツ施設> (問5 (2) 73 ページ)

◆ 「図書館」が4割近く

整備・充実が必要な「教育・文化・スポーツ施設」は、「図書館」(37.5%)が4割近くと最も高く、次いで「文化施設(シンフォニーヒルズ・リリオホール)」(26.5%)、「プール(温水プールを含む)」(25.5%)と続いている。

居住地域別でみると、「図書館」は「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(45.5%)が最も高く、「金町・新宿」(26.8%)が最も低くなっている。

<都市施設> (問5 (3) 77 ページ)

◆ 「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」が4割強

整備・充実が必要な「都市施設」は、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(43.7%)が4割強と最も高く、次いで「電線の地中化」(36.2%)、「交通機関」(26.7%)と続いている。

居住地域別でみると、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(47.8%)及び「電線の地中化」(42.3%)に関して、どちらも「柴又・高砂」が最も高くなっている。

(2) 区に力を入れてほしいもの (問6 81 ページ)

◆ 「防災対策」が4割台半ば

区に力を入れてほしいものは、「防災対策」(45.8%)が4割台半ばと最も高く、次いで「防犯・治安対策」(26.5%)、「高齢者支援」(21.6%)と続いている。

「防災対策」(45.8%)は、平成30年度調査(48.1%)より2.3ポイント減少している。また、「高齢者支援」(21.6%)は平成30年度調査(27.2%)より5.6ポイント、「公共交通(バス路線など)の充実」(13.7%)は平成30年度調査(15.8%)より2.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「生活環境対策(ごみ対策など)」(9.5%)は、平成30年度調査(7.7%)より1.8ポイント増加している。

「防災対策」(45.8%)は4回連続で1番高くなっている。

また、今回新たに追加した「感染症対策」(11.7%)は7番目に高くなっている。

居住地域別でみると、「防災対策」は「立石・四つ木」(60.7%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(46.7%)、「亀有・青戸」(45.9%)と続いている。また、「防犯・治安対策」は「奥戸・新小岩」(31.3%)が最も高く、次いで「金町・新宿」(30.2%)、「立石・四つ木」(29.0%)と続いている。

3. SDGs

(1) SDGsの認知度 (問7 85 ページ)

◆ 「知っている」が4割弱

SDGsの認知度は、「知っている」(39.4%)が4割弱となっている。一方、「全く知らない」(29.0%)は3割弱となっている。

性・年代別でみると、「知っている」は、「男性 30~39 歳」(52.2%)および「女性 18~29 歳」(57.6%)が最も高くなっている。

(2) 「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいもの (問8 87 ページ)

◆ 「住み続けられるまちづくりを」が5割近く

「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいものは、「住み続けられるまちづくりを」(46.1%)が5割近くと最も高く、次いで「すべての人に健康と福祉を」(37.0%)、「貧困をなくそう」(25.7%)と続いている。

性別でみると、「住み続けられるまちづくりを」は、「男性」(46.3%)が「女性」(46.0%)より0.3ポイント高くなっている。また、「質の高い教育をみんなに」は、「女性」(22.8%)が「男性」(19.0%)より3.8ポイント高くなっている。

4. 住民参加

(1) 区政への参加意向 (問9 90 ページ)

◆ 『参加したい』が3割強

区政への参加意向は、「わからない」(31.0%)および「参加するつもりはない」(32.1%)が、それぞれ3割強となっている。「機会があったら参加したい」(11.2%)と「参加したい気持ちはある」(22.6%)を合わせた『参加したい』(33.8%)も3割強となっている。

『参加したい』(33.8%)は、平成30年度調査(31.8%)より2.0ポイント増加している。一方、「機会があったら参加したい」(11.2%)は、平成30年度調査(11.7%)より0.5ポイント減少している。

(1-1) 区政への参加方法 (問 9-1 92 ページ)

◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」が5割近く

区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」(48.8%)が5割近くと最も高く、次いで「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(17.3%)、「自治町会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(16.6%)と続いている。

「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(17.3%)は、平成30年度調査(15.6%)より1.7ポイント増加している。一方、「自治町会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(16.6%)は、平成30年度調査(22.5%)より5.9ポイント減少している。

5. 広報媒体

(1) 区の情報入手方法 (問 10 95 ページ)

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が9割近く

区の情報入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」(88.7%)が9割近くと最も高く、次いで「自治町会の回覧板や町会掲示板」(26.6%)、「わたしの便利帳」(18.4%)と続いている。

「区のお知らせ『広報かつしか』」(88.7%)は、平成30年度調査(87.5%)より1.2ポイント増加している。一方、「自治町会の回覧板や町会掲示板」(26.6%)は、平成30年度調査(28.6%)より2.0ポイント減少している。

(2) インターネットの利用状況 (問 11 98 ページ)

◆ 『利用している・利用したい』が8割弱

インターネットの利用状況は、「利用している」(71.9%)が7割強と最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」(7.2%)を合わせた『利用している・利用したい』(79.1%)が8割弱となっている。一方、「利用するつもりはない」は11.6%となっている。

(2-1) インターネットの利用方法 (問 11-1 100 ページ)

◆ 「スマートフォンを利用」が9割強

インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」(91.4%)が9割強と最も高く、次いで「パソコンを利用」(57.1%)、「タブレット端末を利用」(23.2%)と続いている。

「スマートフォンを利用」(91.4%)は、平成30年度調査(82.9%)より8.5ポイント増加している。一方、「パソコンを利用」(57.1%)は、平成30年度調査(62.7%)より5.6ポイント減少している。

6. IT

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況（問 12 102 ページ）

◆ 「はい」が1割未満

「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」（90.5%）が約9割、「はい」（6.4%）は1割未満となっている。

(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（問 12-1 104 ページ）

◆ 「防災・防犯」が4割近く

「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は、「防災・防犯」（38.8%）が4割近くで最も高く、次いで「くらし」（28.8%）、「福祉・介護・健康」（16.3%）と続いている。

なお、「葛飾区総合アプリ」に追加してほしい機能については、「災害時に関するもの」「各種申し込み機能」などがあった。

7. 社会貢献活動

(1) 社会貢献活動への参加（問 13 107 ページ）

◆ 『社会貢献活動の経験あり』が2割台半ば

社会貢献活動への参加は、「現在している」（7.5%）と「現在はしていないが、過去にしたことがある」（16.9%）を合わせた『社会貢献活動の経験あり』（24.4%）が、2割台半ばとなっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」（29.0%）は3割弱となっている。一方、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」（40.6%）は約4割となっている。

(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動（問 13-1 109 ページ）

◆ 「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が3割近く

現在参加している・参加してみたい社会貢献活動は、「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」（27.4%）が3割近くと最も高く、次いで「自然環境保護に関する活動」（19.9%）、「文化・芸術に関する活動」（16.8%）と続いている。

「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」（27.4%）は、平成30年度調査（35.0%）より7.6ポイント、「文化・芸術に関する活動」（16.8%）は、平成30年度調査（18.9%）より2.1ポイント、「子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動」（14.5%）は平成30年度調査（17.1%）より2.6ポイント、それぞれ減少している。一方、「自然環境保護に関する活動」（19.9%）は、平成30年度調査（15.2%）より4.7ポイント、「資源の集団回収などリサイクルに関する活動」（13.6%）は、平成30年度調査（11.0%）より2.6ポイント、それぞれ増加している。

(1-2) 社会貢献活動をしたくない理由 (問 13-2 112 ページ)

◆ 「忙しくて時間がないから」が4割台半ば

社会貢献活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」(44.3%)が4割台半ばと最も高く、次いで「高齢・体力がない・体調が優れないから」(37.9%)、「興味や関心がないから」(20.6%)と続いている。

「忙しくて時間がないから」(44.3%)は、平成30年度調査(51.6%)より7.3ポイント、「興味や関心がないから」(20.6%)は、平成30年度調査(26.2%)より5.6ポイント、「きっかけがないから」(17.8%)は平成30年度調査(25.7%)より7.9ポイント、それぞれ減少している。

8. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援 (問 14 115 ページ)

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が4割台半ば

地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「専門家のアドバイスや情報提供の充実」(35.8%)、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」(31.0%)と続いている。

9. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況 (問 15 118 ページ)

◆ 「健康・スポーツ」が3割弱

最近1年間における生涯学習の実施状況は、「健康・スポーツ」(29.7%)が3割弱と最も高く、次いで「趣味的なもの」(25.2%)、「家庭生活に役立つ技能」(15.0%)と続いている。

(2) 生涯学習を充実させるために重要なこと (問 16 121 ページ)

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が約5割

生涯学習を充実させるために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(50.2%)が約5割と最も高く、次いで「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(23.1%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(21.3%)と続いている。

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと (問 17 124 ページ)

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」が6割近く

誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」(56.9%)が6割近くと最も高く、次いで「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(40.6%)、「既存スポーツ施設の整備(活動場所の拡張)」(34.2%)と続いている。

10. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと (問 18 127 ページ)

◆ 「健康診査・がん検診」が5割近く

健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」(48.4%)が5割近くと最も高く、次いで「飲み水の安全」(36.6%)、「食品の安全」(33.4%)と続いている。

「健康診査・がん検診」(48.4%)は、平成30年度調査(48.3%)より0.1ポイント、「飲み水の安全」(36.6%)は、平成30年度調査(29.9%)より6.7ポイント、「食品の安全」(33.4%)は、平成30年度調査(29.0%)より4.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「寝たきり予防」(24.5%)は、平成30年度調査(25.6%)より1.1ポイント減少している。

11. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと (問 19 130 ページ)

◆ 『自宅で生活』が6割弱

介護生活に望むことは、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」(53.0%)が5割強と最も高くなっている。また、これに「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」(6.7%)を合わせた『自宅で生活』(59.7%)が6割弱となっている。

12. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと (問 20 132 ページ)

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が5割近く

障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(48.4%)が5割近くと最も高くなっている。次いで「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(44.3%)、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(41.8%)と続いている。

13. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策 (問 21 135 ページ)

◆ 「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」が5割近く

少子化対策における必要な施策は、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(48.7%)が5割近くと最も高くなっている。次いで「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(35.0%)、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(30.6%)と続いている。

「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(48.7%)は、平成30年度調査(47.1%)より1.6ポイント増加している。一方、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(35.0%)は、平成30年度調査(38.0%)より3.0ポイント、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(30.6%)は、平成30年度調査(32.5%)より1.9ポイント、それぞれ減少している。

(2) 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（問 22 139 ページ）

◆ 「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」が7割近く

子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策は、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」（67.2%）が7割近くと最も高く、次いで「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」（37.3%）、「学童保育クラブ事業を推進する」（33.5%）と続いている。

14. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（問 23 143 ページ）

◆ 「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」が4割台半ば

高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」（44.7%）が4割台半ばと最も高く、次いで「高齢者の就業支援を行う」（42.7%）、「バリアフリーのまちづくりを進める」（30.6%）と続いている。

(2) 民生委員・児童委員の認知度（問 24 146 ページ）

◆ 『知っている・会ったことがある』が1割台半ば

民生委員・児童委員の認知度は、「知らない」（41.5%）が4割強と最も高く、次いで「地区を担当している人がいることは知っている」（33.9%）と続いている。「よく知っている」（11.5%）と「会ったことはあるが、よく知らない」（4.0%）を合わせた『知っている・会ったことがある』（15.5%）は、1割台半ばとなっている。

『知っている・会ったことがある』（15.5%）は、平成 30 年度調査（16.0%）より 0.5 ポイント減少している。一方、「知らない」（41.5%）は、平成 30 年度調査（38.5%）より 3.0 ポイント増加している。

15. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況（問 25 149 ページ）

◆ 『平等になっている』が2割弱

男女平等社会の進展状況は、「少しは平等になっている」（40.3%）が約4割と最も高くなっている。また、「十分平等になっている」（6.2%）と「かなり平等になっている」（13.6%）を合わせた『平等になっている』（19.8%）が2割弱となっている。一方、「ほとんど平等になっていない」（18.4%）は、2割近くとなっている。

(1-1) 男女の不平等を感じる点（問 25-1 151 ページ）

◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が5割強

男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」（52.9%）が5割強と最も高く、次いで「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくいこと」（36.2%）、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」（33.7%）と続いている。

性別でみると、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」は、「女性」（59.3%）が「男性」（44.3%）より 15.0 ポイント高くなっている。

16. 同和問題

(1) 同和問題の認知度（問 26 154 ページ）

◆ 「知っている」が7割近く

同和問題の認知度は、「知っている」（68.9%）が7割近く、「知らない」（28.1%）は3割近くとなっている。

「知っている」（68.9%）は、平成30年度調査（65.5%）より3.4ポイント増加している。一方、「知らない」（28.1%）は、平成30年度調査（30.0%）より1.9ポイント減少している。

(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処（問 27 156 ページ）

◆ 「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」が4割強

子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処は、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」（41.8%）が4割強と最も高く、次いで「二人の結婚には反対する」（4.4%）、「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」（3.7%）と続いている。

なお、「わからない」（47.1%）が5割近くとなっている。

(3) 同和問題の解決方法（問 28 159 ページ）

◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」が約4割

同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」（40.1%）が約4割と最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」（38.7%）、「差別は自然になくなっていくので、そっとしておく」（14.2%）と続いている。

性別で見ると、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」は、「女性」（43.5%）が「男性」（35.9%）より7.6ポイント高くなっている。

17. 産業

(1) 商業振興について大切なこと (問 29 (1) 162 ページ)

◆ 「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」が4割近く

商業振興について大切なことは、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(36.4%)が4割近くと最も高く、次いで「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(29.1%)、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.8%)と続いている。

「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(36.4%)は、平成30年度調査(39.7%)より3.3ポイント、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.8%)は、平成30年度調査(33.1%)より5.3ポイント、「量り売りや、丁寧な接客サービスなど、小規模小売店の特性を生かした店づくり」(21.4%)は、平成30年度調査(27.5%)より6.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(29.1%)は、平成30年度調査(28.1%)より1.0ポイント、「プレミアム付き商品券の発行」(18.8%)は、平成30年度調査(8.6%)より10.2ポイント、それぞれ増加している。

(2) 工業振興について大切なこと (問 29 (2) 166 ページ)

◆ 「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」が4割台半ば

工業振興について大切なことは、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(44.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(38.7%)、「融資制度・助成制度事業などの充実」(21.1%)と続いている。

「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(44.0%)は、平成30年度調査(46.1%)より2.1ポイント、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(38.7%)は、平成30年度調査(47.7%)より9.0ポイント、「融資制度・助成制度事業などの充実」(21.1%)は平成30年度調査(25.2%)より4.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「新規開業や新分野へ進出する企業への支援」(18.3%)は、平成30年度調査(17.2%)より1.1ポイント増加している。

(3) 農業振興について大切なこと (問 29 (3) 170 ページ)

◆ 「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」が6割弱

農業振興について大切なことは、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(59.4%)が6割弱と最も高く、次いで「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.4%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(21.2%)と続いている。

18. 観光

(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（問 30 174 ページ）

◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が4割強

葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで「葛飾ブランドの開発」(34.3%)、「工場や店舗の見学・体験・直売など」(30.8%)と続いている。

「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(41.3%)は、平成30年度調査(35.9%)より5.4ポイント、「葛飾ブランドの開発」(34.3%)は、平成30年度調査(29.6%)より4.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「工場や店舗の見学・体験・直売など」(30.8%)は、平成30年度調査(34.3%)より3.5ポイント、「イベントの開催・充実」(29.5%)は、平成30年度調査(30.5%)より1.0ポイント、それぞれ減少している。

19. 国際

(1) 外国人（区民）に努力してほしいこと（問 31 178 ページ）

◆ 「生活ルールの遵守」が7割強

外国人（区民）に努力してほしいことは、「生活ルールの遵守」(73.2%)が7割強と最も高く、次いで「日本の文化や習慣などの理解」(59.3%)、「日本語の理解」(28.6%)と続いている。

性別で見ると、「生活ルールの遵守」は、「女性」(74.9%)が「男性」(70.8%)より4.1ポイント高くなっている。

(2) 日本人区民が努力・工夫していくべきこと（問 32 180 ページ）

◆ 「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」が6割弱

日本人区民が努力・工夫していくべきことは、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」(59.5%)が6割弱と最も高く、次いで「自分の周囲にいる外国人（区民）をきちんと認識すること」(51.1%)、「やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること」(38.1%)と続いている。

性別で見ると、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」は、「女性」(61.2%)が「男性」(57.5%)より3.7ポイント高くなっている。

20. 防災

(1) 日頃行っている防災対策や準備（問 33 182 ページ）

◆ 「ハザードマップなどを確認している」が5割強

日頃行っている防災対策や準備は、「ハザードマップなどを確認している」(51.6%)が5割強と最も高く、次いで「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(49.0%)、「家具などを固定し、転倒防止対策を行っている」(37.2%)と続いている。

「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(49.0%)は、平成30年度調査(48.5%)より0.5ポイント増加している。また「地震保険に加入している」(33.8%)は、これまでの調査の中で最も高い割合となっている。

(2) 住居の建築年数（問 34 186 ページ）

◆ 「昭和56年以後に建築された」が7割強

住居の建築年数は、「昭和56年以後に建築された」(72.7%)が7割強、「昭和55年以前に建築された」(17.0%)は、2割近くとなっている。

「昭和55年以前に建築された」(17.0%)は、平成30年度調査(21.2%)より4.2ポイント減少している。一方、「昭和56年以後に建築された」(72.7%)は、平成30年度調査(71.0%)より1.7ポイント増加している。

(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定（問 34-1 189 ページ）

◆ 「耐震診断、耐震補強をする予定はない」が4割近く

耐震診断・耐震補強の実施状況・予定は、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(38.4%)が4割近くと最も高く、次いで「耐震診断、耐震補強をしてある」(21.8%)、「借家、賃貸であり、個人で耐震補強が行えない」(19.9%)と続いている。

「耐震診断、耐震補強をしてある」(21.8%)は、平成30年度調査(25.2%)より3.4ポイント減少している。

(3) 居住地域における災害時の安全性（問 35 192 ページ）

◆ 「安全だとは思わない」が6割強

居住地域における災害時の安全性は、「安全だとは思わない」(63.1%)が6割強となっており、「安全だと思う」(30.5%)が約3割となっている。

「安全だと思う」(30.5%)は、平成30年度調査(29.2%)より1.3ポイント増加している。一方、「安全だとは思わない」(63.1%)は、平成30年度調査(66.7%)より3.6ポイント減少している。

居住地域別でみると、「安全だと思う」は「金町・新宿」(43.6%)が最も高く、次いで「水元地域」(39.7%)、「亀有・青戸」(39.3%)と続いている。

一方、「安全だとは思わない」は、「立石・四つ木」(73.2%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(69.5%)、「奥戸・新小岩」(68.2%)と続いている。

(3-1) 居住地域が災害時に安全でないと思う理由 (問 35-1 195 ページ)

◆ 「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」が7割台半ば

居住地域が災害時に安全でないと思う理由は、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」(75.0%)が7割台半ばと最も高く、次いで「高齢者世帯が多い」(43.6%)、「道路が狭い」(31.0%)と続いている。

「高齢者世帯が多い」(43.6%)は、平成30年度調査(50.3%)より6.7ポイント、「道路が狭い」(31.0%)は、平成30年度調査(43.7%)より12.7ポイント、「木造建物が密集している」(30.9%)は、平成30年度調査(45.9%)より15.0ポイント、それぞれ減少している。

居住地域別でみると、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」は、「水元地域」(80.8%)が最も高く、次いで「柴又・高砂」(80.5%)、「奥戸・新小岩」(80.2%)と続いている。

21. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること (問 36 199 ページ)

◆ 「遊び場」が4割

公園に期待することは、「遊び場」(40.0%)が4割と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」(31.8%)、「身近な自然をはぐくむ場」(29.2%)と続いている。

「遊び場」(40.0%)は、平成30年度調査(42.7%)より2.7ポイント、「街の安全を高める」(22.7%)は、平成30年度調査(25.1%)より2.4ポイント、それぞれ減少している。一方、「心を落ち着ける安らぎの場」(31.8%)は、平成30年度調査(30.3%)より1.5ポイント、「身近な自然をはぐくむ場」(29.2%)は、平成30年度調査(28.7%)より0.5ポイント、それぞれ増加している。

(2) 河川敷に期待すること (問 36 203 ページ)

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割台半ば

河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「散策の場」(36.2%)、「身近な自然をはぐくむ場」(26.8%)と続いている。

性別でみると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「女性」(46.4%)が「男性」(43.6%)より2.8ポイント高くなっている。また、「散策の場」は、「女性」(39.2%)が「男性」(32.0%)より7.2ポイント高くなっている。

居住地域別でみると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「金町・新宿」(50.3%)が最も高くなっている。また、「散策の場」は、「亀有・青戸」(40.3%)が最も高くなっている。

22. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと (問 37 207 ページ)

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が7割近く

道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(66.2%)が7割近くと最も高く、次いで「歩道を広げる」(46.4%)、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」(45.0%)と続いている。

居住地域別でみると、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」は、「水元地域」(73.5%)が最も高く、次いで「柴又・高砂」(68.1%)、「金町・新宿」(67.6%)と続いている。また、「歩道を広げる」は、「柴又・高砂」(56.0%)が最も高くなっている。

23. 環境

(1) 環境保護のための行動 (問 38 211 ページ)

◆ 「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」が認知度、実行状況、今後の実行意思で最も高い

環境保護のための行動で大切だと認識していることは、冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(83.4%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(77.8%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(75.4%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(39.6%)は、4割弱となっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(79.4%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(73.6%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(71.1%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(7.5%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(7.5%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(5.0%)は、1割未満となっている。

環境保護のための行動で今後(も)実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(77.9%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(72.3%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(68.9%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(18.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(19.3%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(17.3%)は、2割近くとなっている。

(2) 「生物多様性」の認知度 (問 39 222 ページ)

◆ 「言葉も内容も知っている」が2割台半ば

「生物多様性」の認知度は、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(39.5%)が4割弱と最も高く、次いで「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(32.4%)、「言葉も内容も知っている」(24.1%)と続いている。

24. ごみの減量・リサイクル

(1) 「3つのR」の実施状況

<リデュース> (問 40 224 ページ)

◆ 「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」が約8割

「3つのR」の実施状況（リデュース）は、「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」（80.6%）が約8割と最も高く、次いで「食べ残しをしない、食材を使いきるなど、食べられる物がごみにならないようにしている」（58.9%）、「必要なものを必要な時に買うようにしている」（56.8%）と続いている。

<リユース> (問 40 227 ページ)

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が6割台半ば

「3つのR」の実施状況（リユース）は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（65.5%）が6割台半ばと最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（39.1%）、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（27.9%）と続いている。

<リサイクル> (問 40 230 ページ)

◆ 「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」が約7割

「3つのR」の実施状況（リサイクル）は、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（70.5%）が約7割と最も高く、次いで「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」（66.9%）、「びん、缶、布類などの資源は分別し地域の集団回収に出している」（48.7%）と続いている。

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと (問 41 233 ページ)

◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が5割弱

ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」（49.4%）が5割弱と最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」（44.4%）、「区民や事業者に対して、『広報かつしか』や区ホームページなどの広報媒体を活用し、発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」（30.4%）と続いている。

25. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと (問 42 237 ページ)

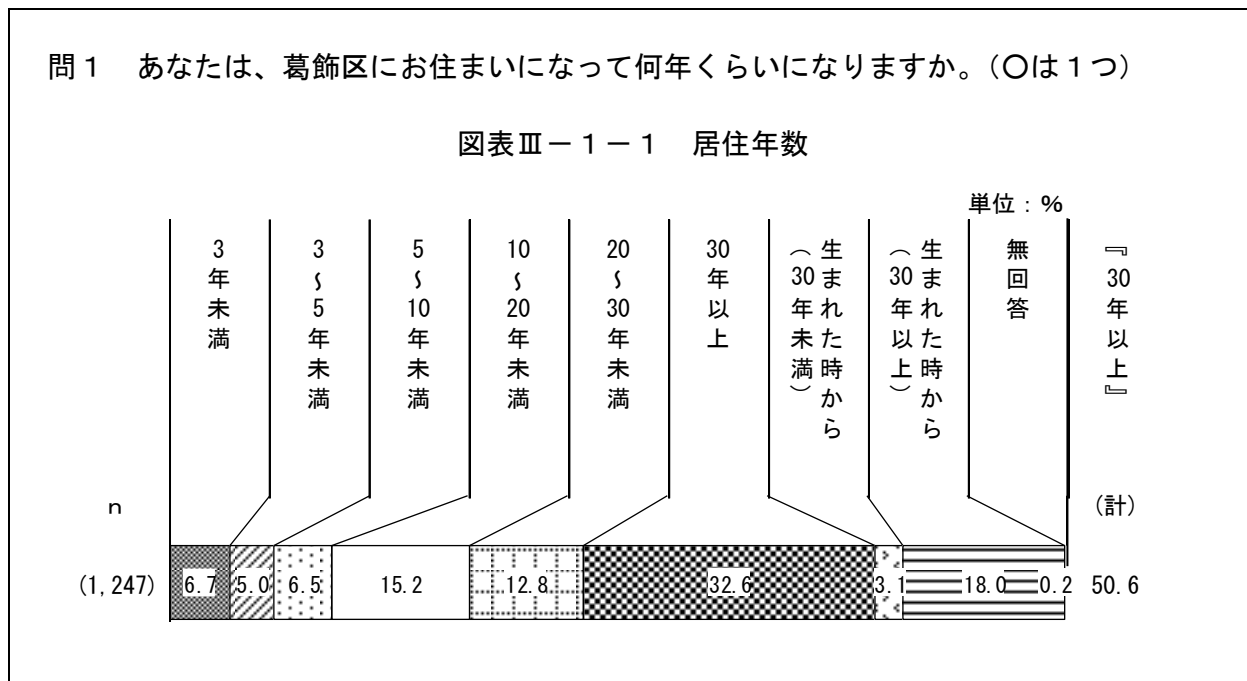
◆ 「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」が7割弱

新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」（69.8%）が7割弱と最も高く、次いで「予防接種や治療薬などの確保」（66.6%）、「発生状況や予防策などの情報提供」（63.0%）と続いている。

1. 定住性

(1) 居住年数

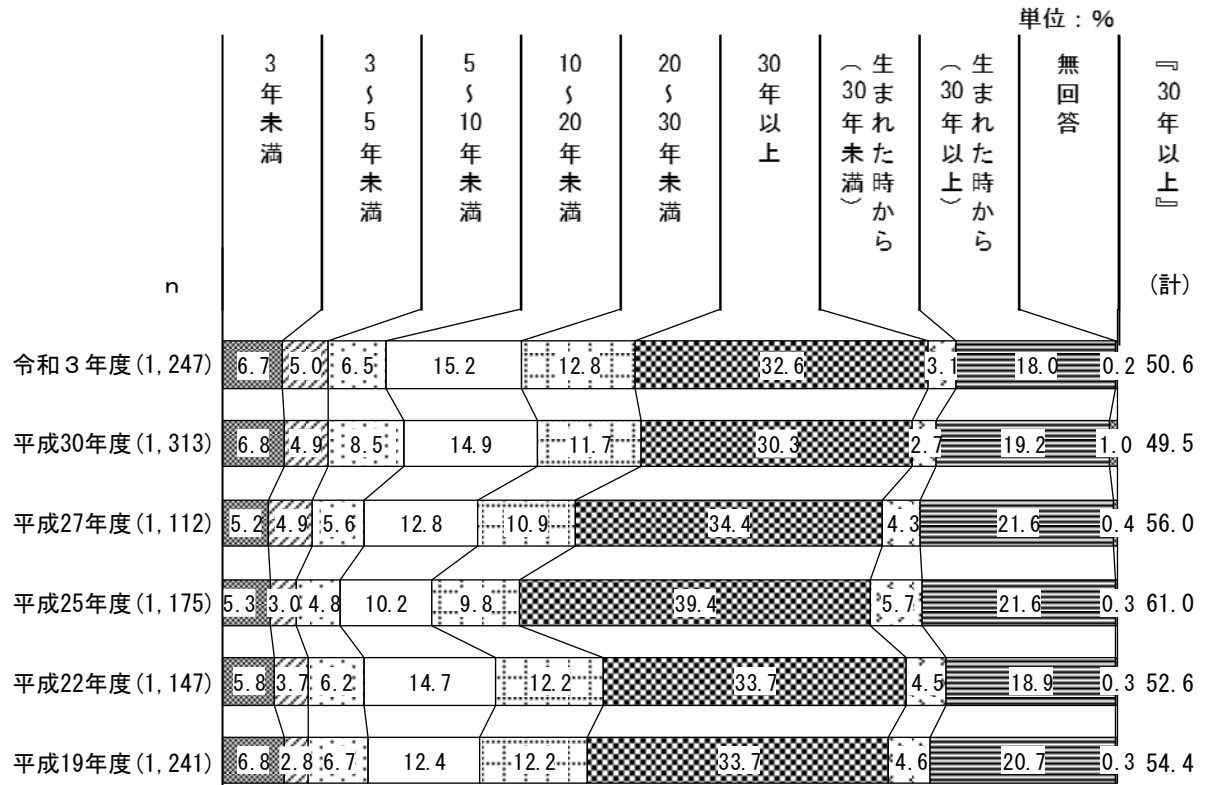
◆ 『30年以上』が約5割



葛飾区の居住年数は、「30年以上」（32.6%）と「生まれた時から（30年以上）」（18.0%）を合わせた『30年以上』（50.6%）が約5割となっている。（図表Ⅲ-1-1）

【経年変化】

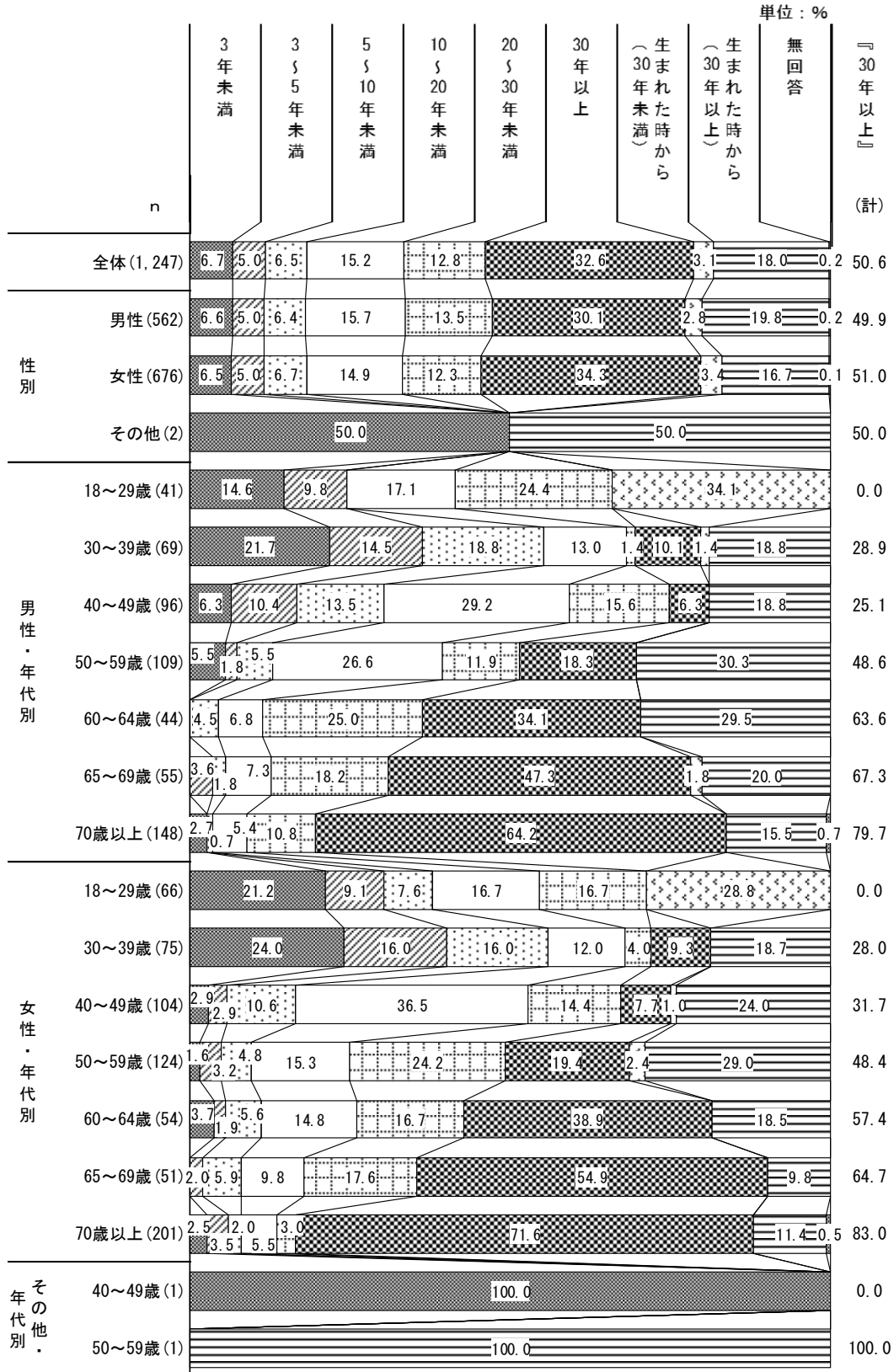
図表Ⅲ－１－２ 居住年数（経年変化）



『30年以上』は、平成27年度調査以前は5割台で推移しており、平成30年度調査（49.5%）に5割を下回ったものの、令和3年度調査（50.6%）では約5割となっている。（図表Ⅲ－１－２）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－３ 居住年数（性別／性・年代別）

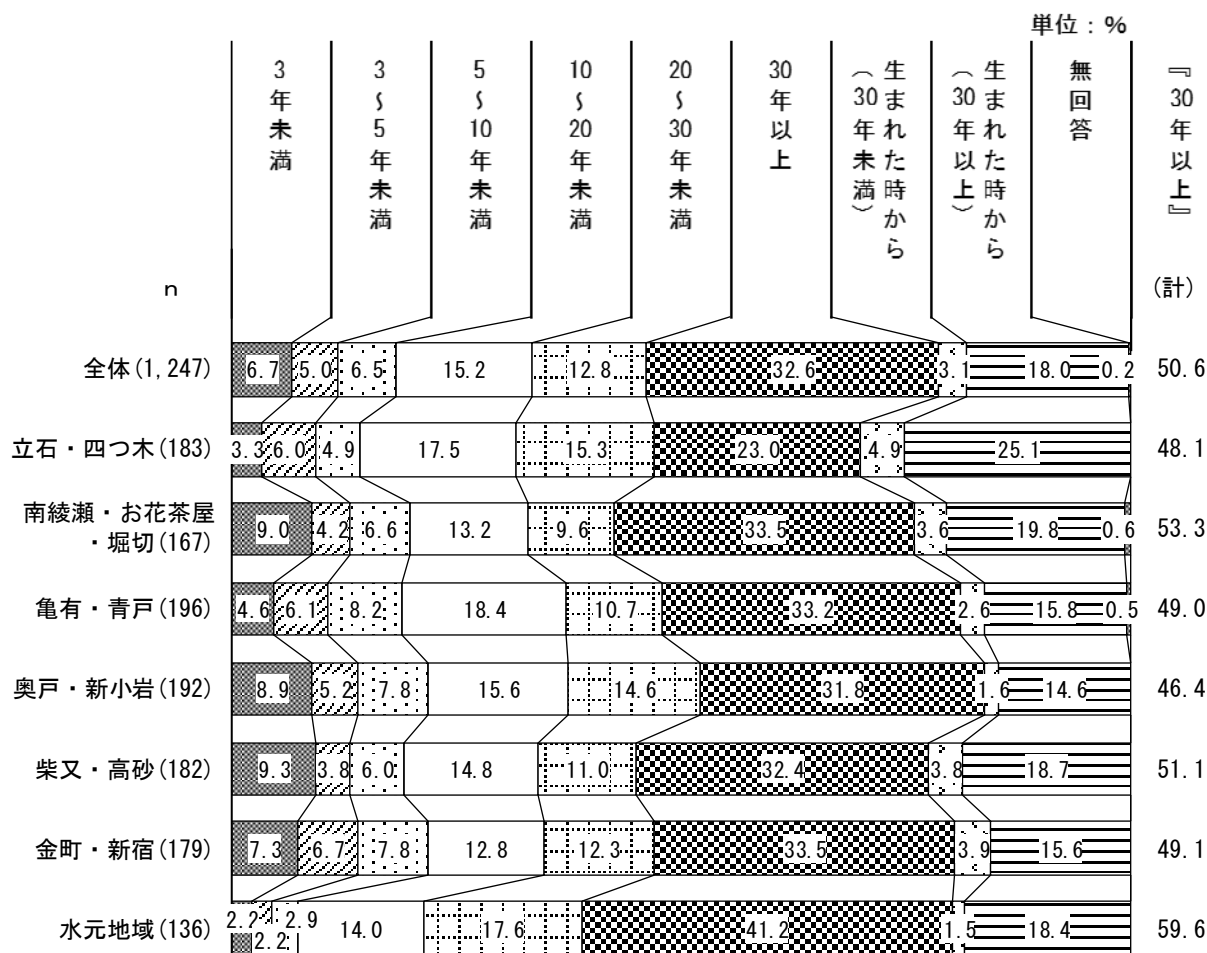


性別でみると、『30年以上』は、「女性」(51.0%)が「男性」(49.9%)より1.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに、「18～29歳」と「30～39歳」の「3年未満」の割合が、他の年代よりも高くなっている。また、『30年以上』は、男女ともに「60歳以上」が5割以上となっている。(図表Ⅲ－１－3)

【居住地域別】

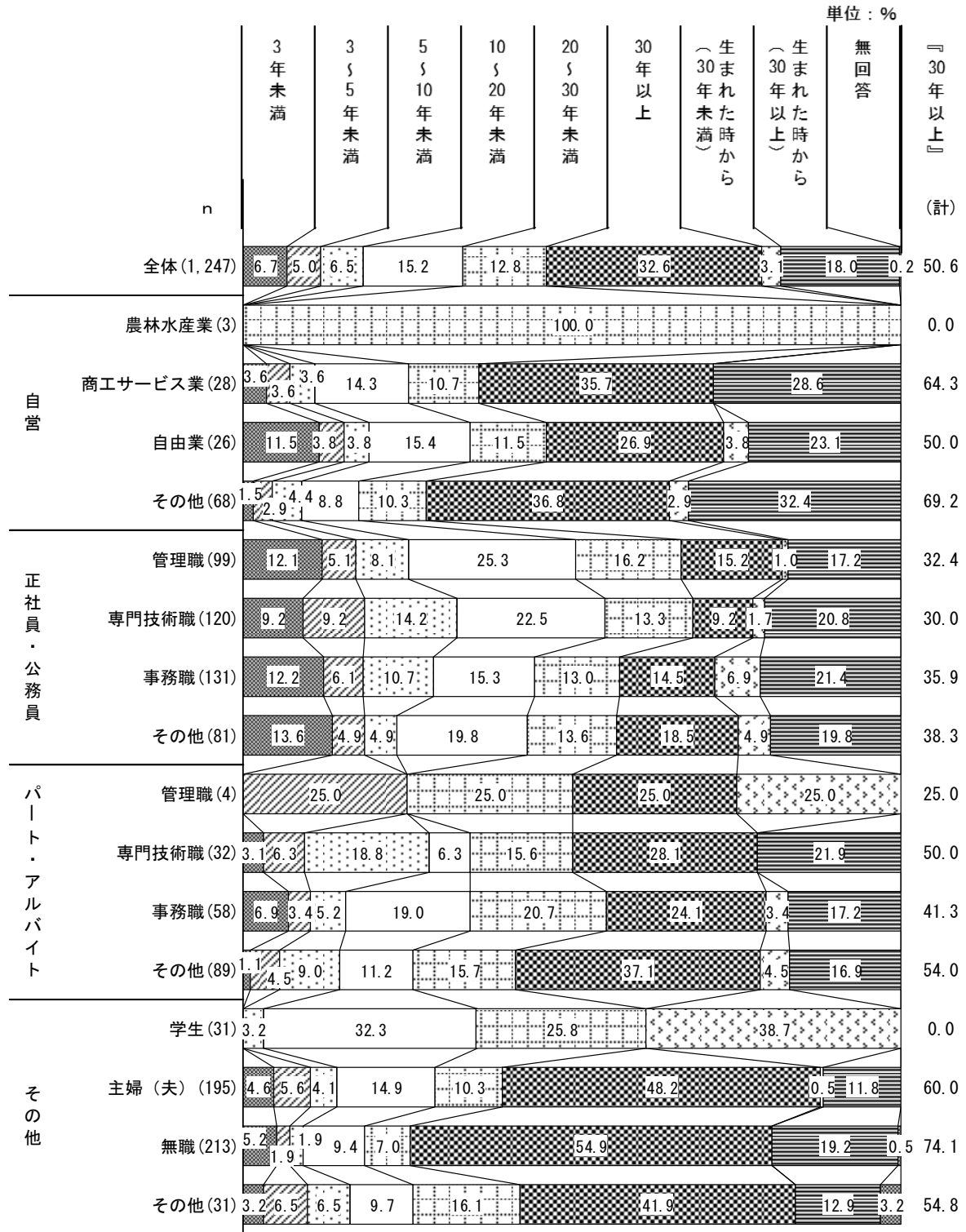
図表Ⅲ－１－４ 居住年数（居住地域別）



居住地域別でみると、『30年以上』は、「水元地域」(59.6%)が6割弱と最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(53.3%)、「柴又・高砂」(51.1%)と続いている。一方、「奥戸・新小岩」(46.4%)は5割近くと最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－４)

【職業別】

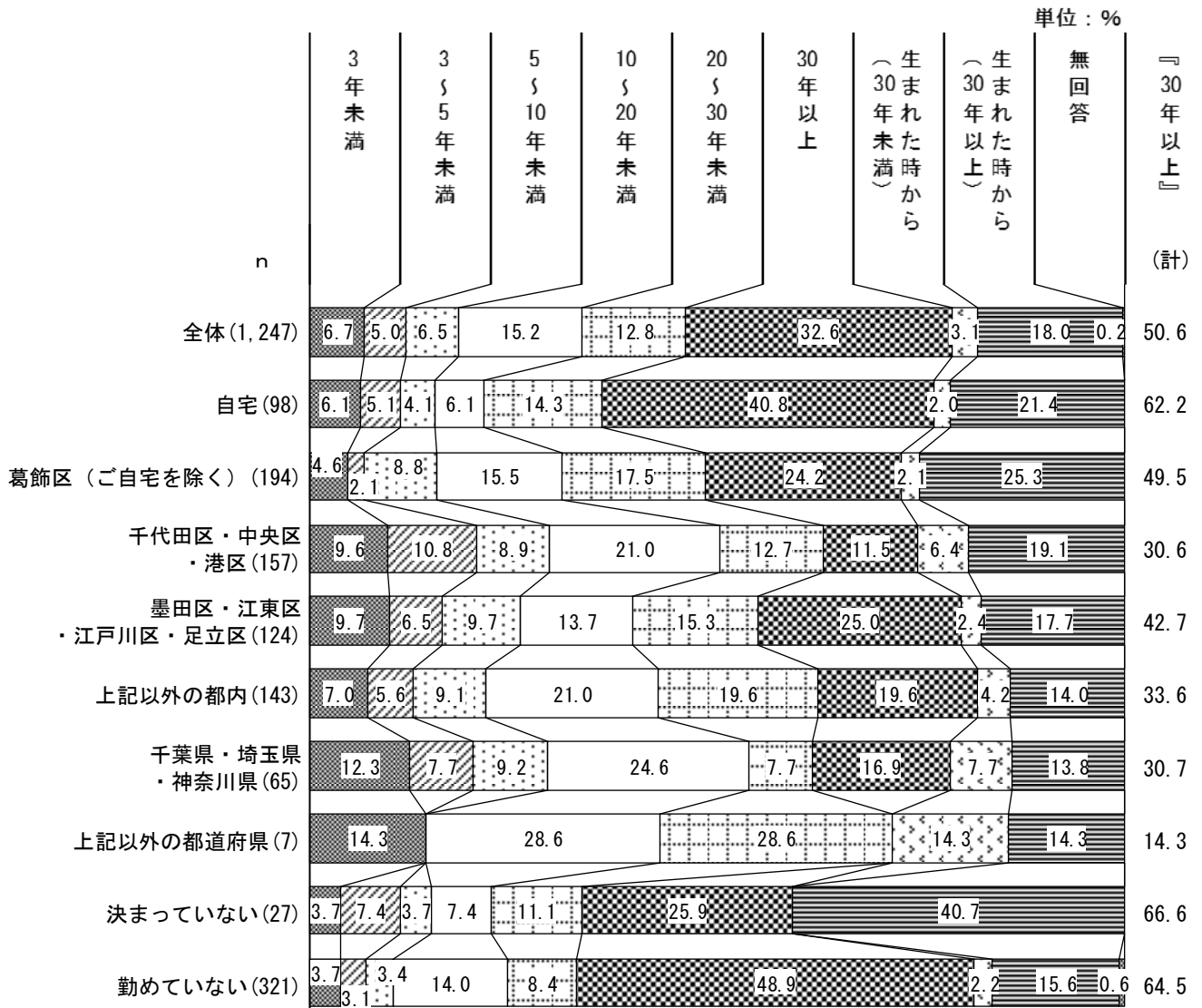
図表Ⅲ－１－５ 居住年数（職業別）



職業別でみると、『30年以上』は、「その他・無職」(74.1%)が7割台半ばと最も高く、次いで「自営・その他」(69.2%)、「自営・商工サービス業」(64.3%)と続いている。(図表Ⅲ－１－５)

【勤務先区域別】

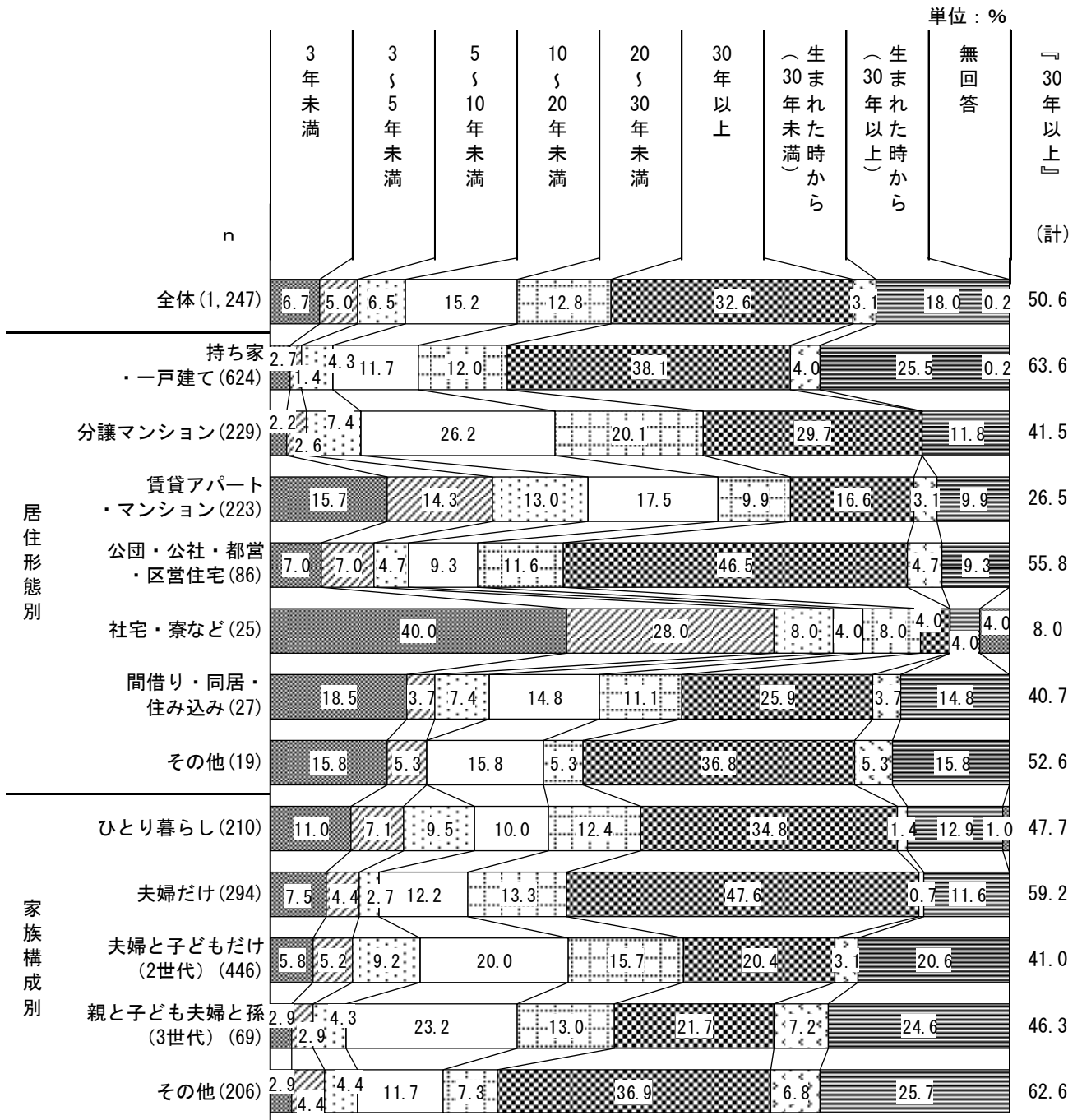
図表Ⅲ－１－６ 居住年数（勤務先区域別）



勤務先区域別でみると、『30年以上』は、「決まっていない」(66.6%)が7割近くと最も高くなっており、次いで「勤めていない」(64.5%)が6割台半ばとなっている。(図表Ⅲ－１－6)

【住居形態別／家族構成別】

図表Ⅲ－１－７ 居住年数（住居形態別／家族構成別）

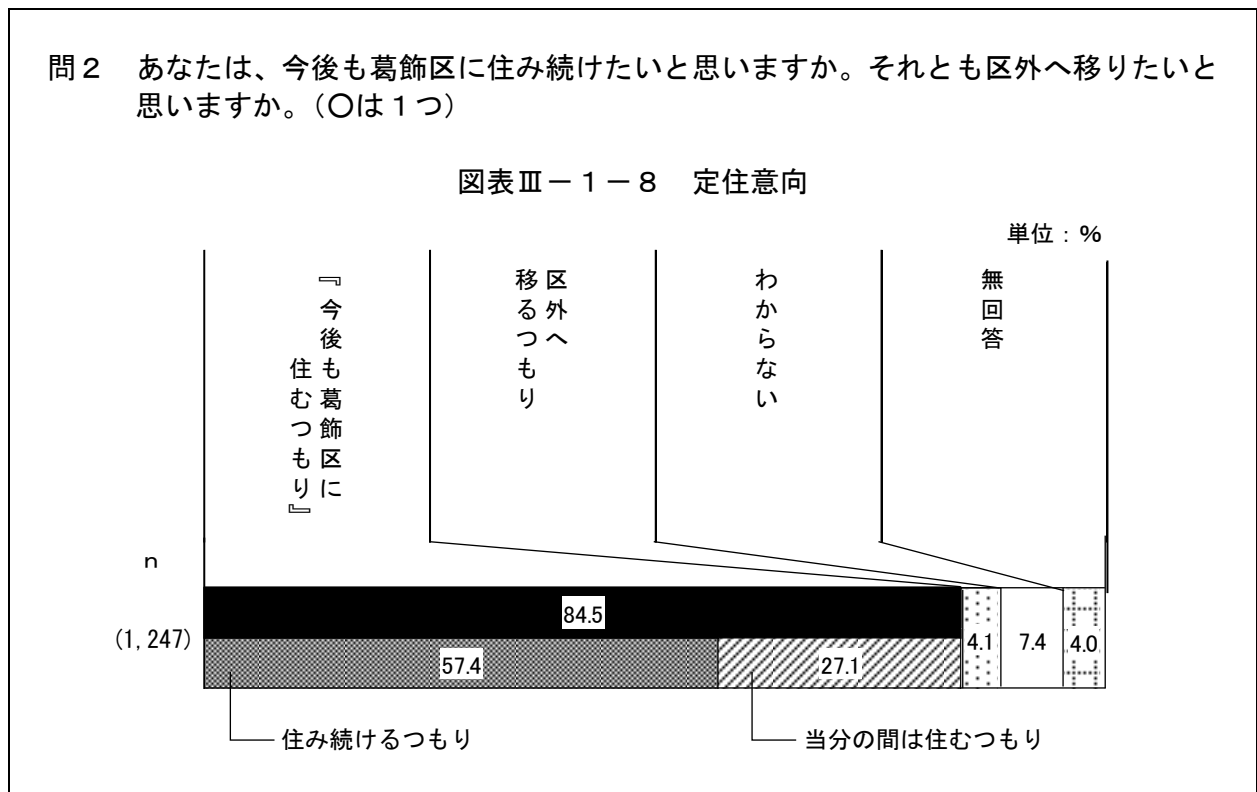


住居形態別にみると、『30年以上』は、「持ち家・一戸建て」(63.6%)が6割強と最も高くなっており、次いで「公団・公社・都営・区営住宅」(55.8%)と続いている。また、「3年未満」は、「社宅・寮など」(40.0%)が最も高く、次いで「間借り・同居・住み込み」(18.5%)と続いている。

家族構成別でみると、『30年以上』は、「その他」(62.6%)が6割強と最も高く、次いで「夫婦だけ」(59.2%)と続いている。(図表Ⅲ－１－７)

(2) 定住意向

◆ 『今後も葛飾区に住むつもり』が8割台半ば

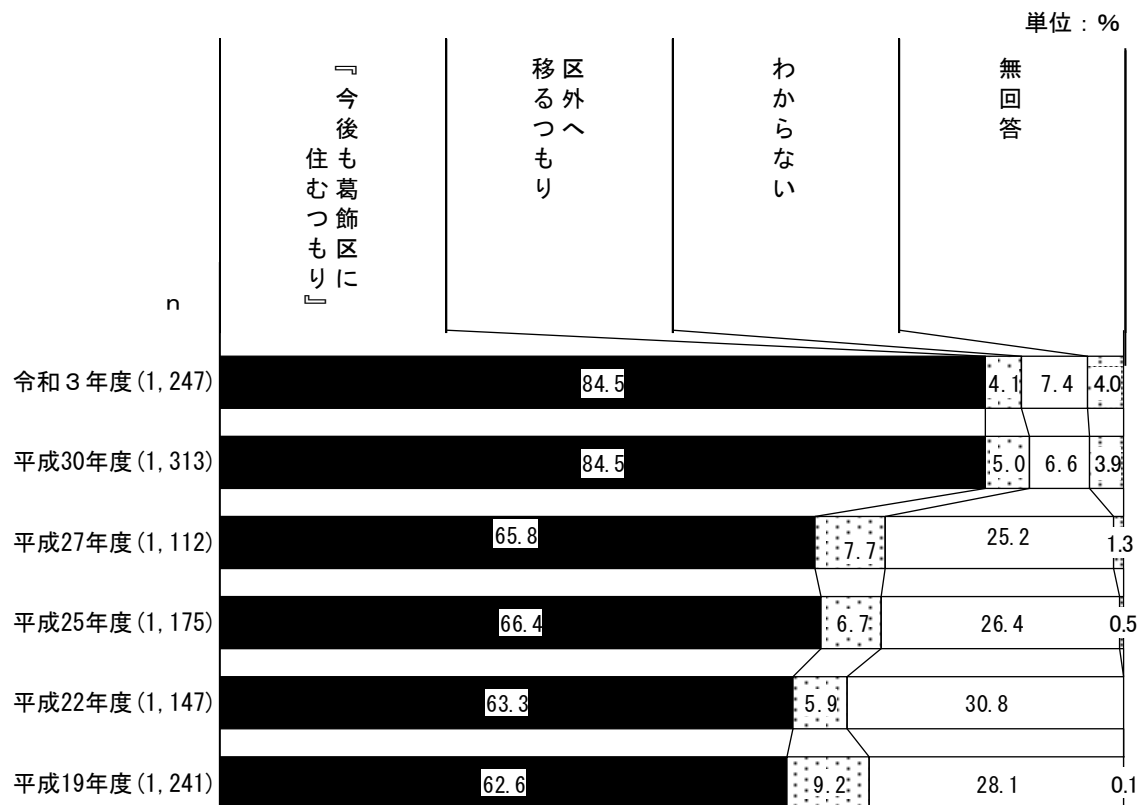


葛飾区に対する定住意向は、「住み続けるつもり」(57.4%)が6割近くと最も高く、これに「当分の間は住むつもり」(27.1%)を合わせた『今後も葛飾区に住むつもり』(84.5%)は8割台半ばとなっている。

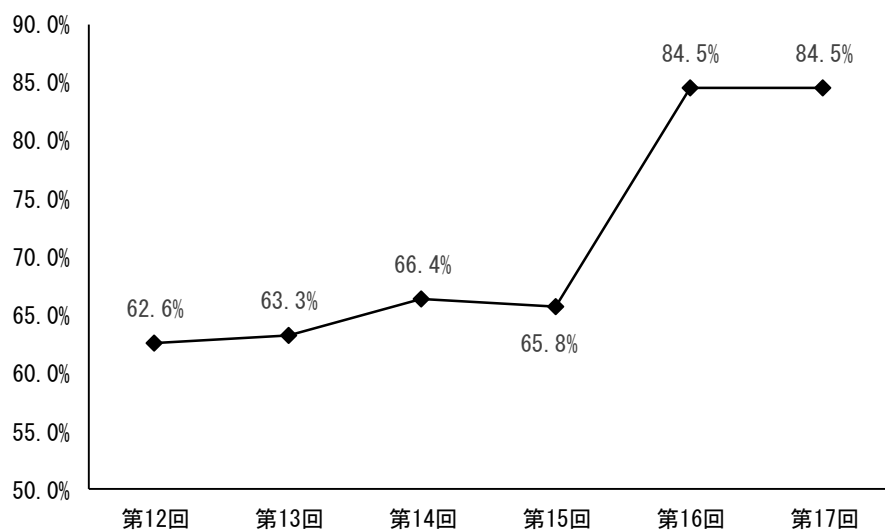
一方、「区外へ移るつもり」(4.1%)は1割未満となっている。(図表Ⅲ-1-8)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－９ 定住意向（経年変化）



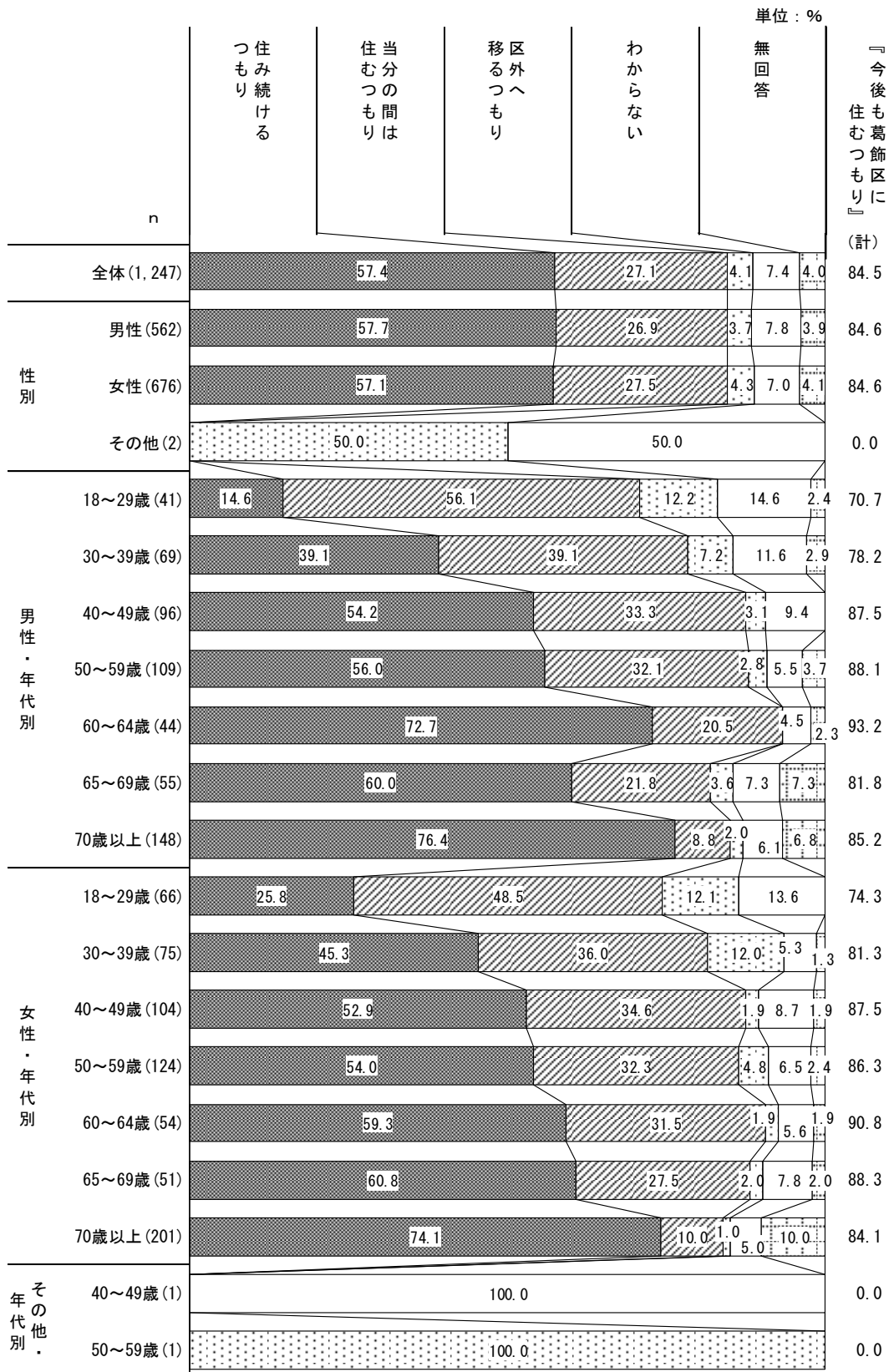
図表Ⅲ－１－10 定住意向（経年変化）



『今後も葛飾区に住むつもり』(84.5%)について、平成30年度(第16回)調査(84.5%)から増減はない。(図表Ⅲ－１－9)(図表Ⅲ－１－10)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－11 定住意向（性別／性・年代別）

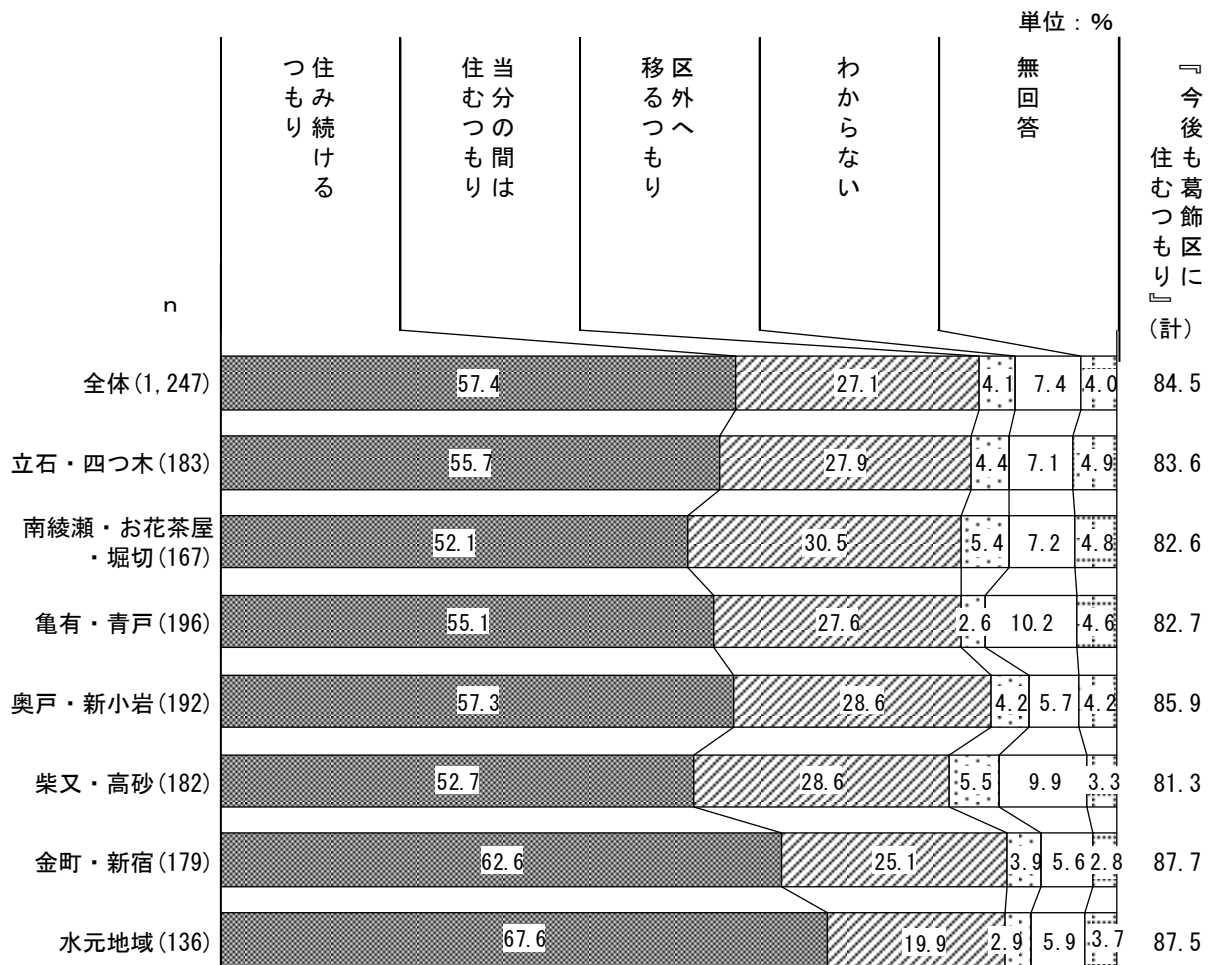


性別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「男性」（84.6％）と「女性」（84.6％）は同率となっている。

性・年代別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』が9割を超えるのは、「男性 60～64 歳」（93.2％）と「女性 60～64 歳」（90.8％）のみとなっている。一方、「区外へ移るつもり」の割合は、「男性 18～29 歳」（12.2％）、「女性 18～29 歳」（12.1％）となっている。（図表Ⅲ－１－11）

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－１２ 定住意向（居住地域別）

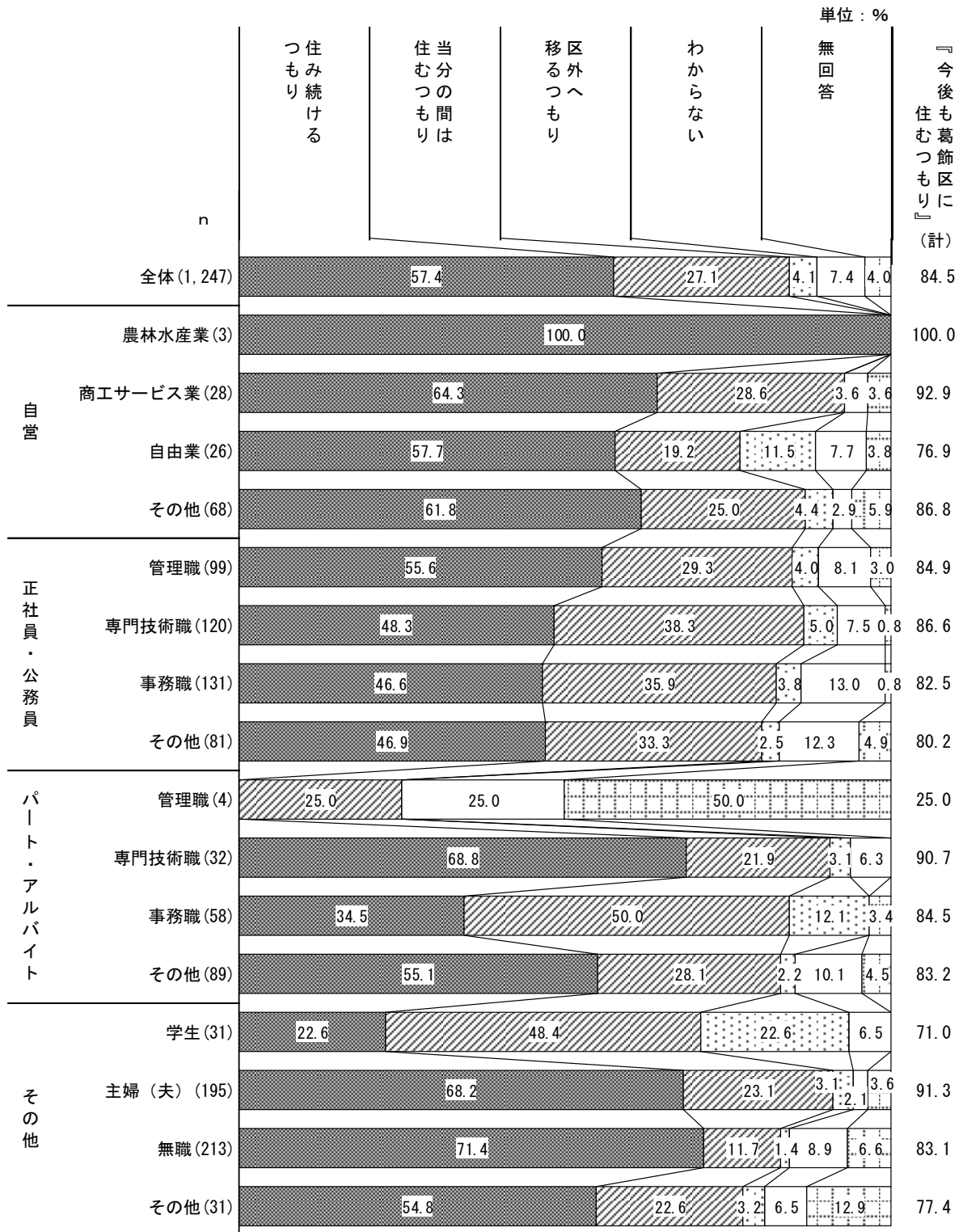


居住地域別でみると、「住み続けるつもり」は、「水元地域」(67.6%)が最も高く、次いで「金町・新宿」(62.6%)、「奥戸・新小岩」(57.3%)と続いている。

また、『今後も葛飾区に住むつもり』は、全居住地域で8割以上となっている。(図表Ⅲ－１－12)

【職業別】

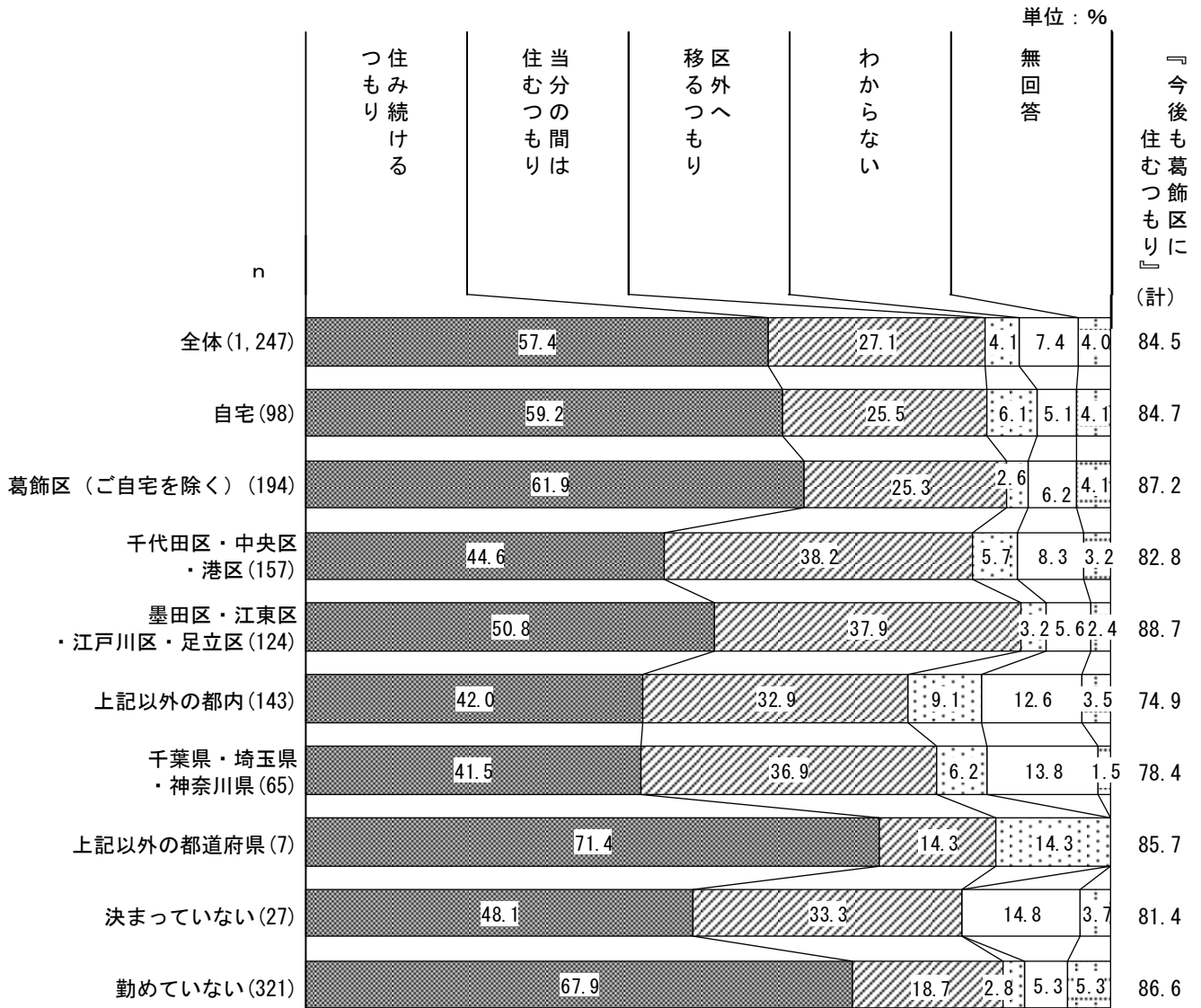
図表Ⅲ－１－１３ 定住意向（職業別）



職業別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「自営・商工サービス業」（92.9％）が最も高く、次いで「その他・主婦（夫）」（91.3％）、「パート・アルバイト・専門技術職」（90.7％）と続いている。一方、「その他・学生」（71.0％）は7割強と最も低くなっている。（図表Ⅲ－１－13）

【勤務先区域別】

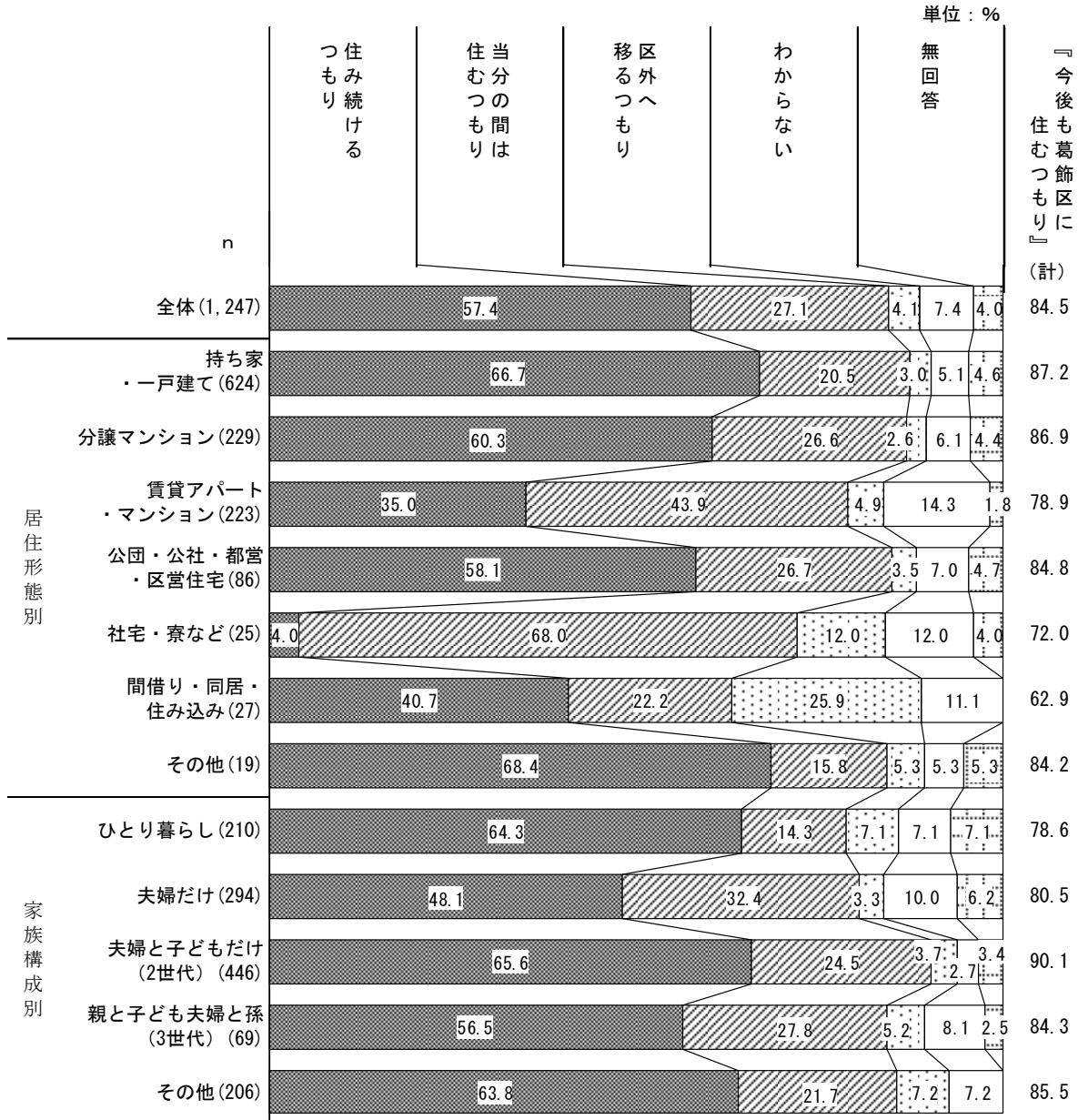
図表Ⅲ－１－14 定住意向（勤務先区域別）



勤務先区域別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「墨田区・江東区・江戸川区・足立区」(88.7%)が9割近くと最も高く、次いで「葛飾区(ご自宅を除く)」(87.2%)と続いている。(図表Ⅲ－１－14)

【住居形態別／家族構成別】

図表Ⅲ－１－１５ 定住意向（住居形態別／家族構成別）



住居形態別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「持ち家・一戸建て」(87.2%)が9割近くと最も高く、次いで「分譲マンション」(86.9%)と続いている。

家族構成別でみると、『今後も葛飾区に住むつもり』は、「夫婦と子どもだけ(2世代)」(90.1%)が約9割と最も高く、次いで「その他」(85.5%)と続いている。(図表Ⅲ－１－１５)

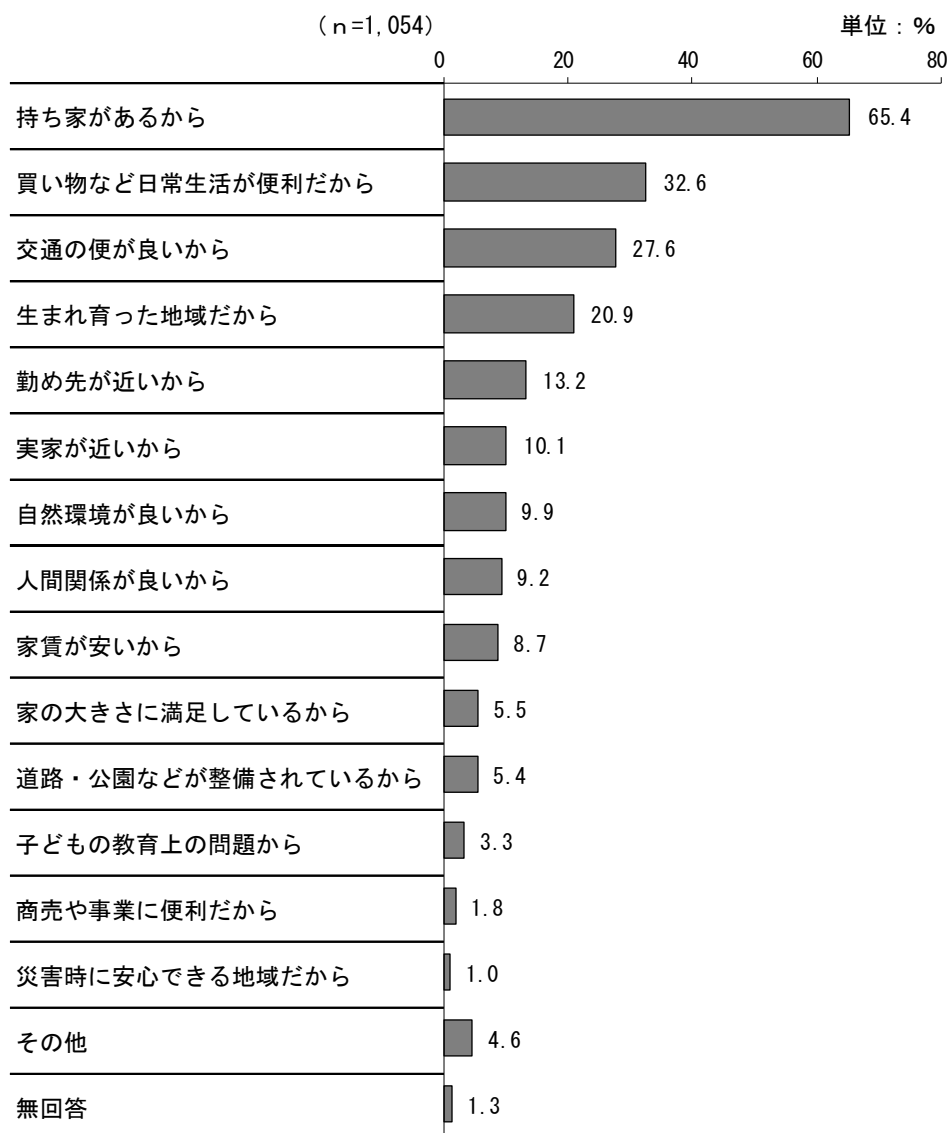
(2-1) 住み続けたい理由

◆ 「持ち家があるから」、「買い物など日常生活が便利だから」、「交通の便が良いから」の順

(問2で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問2-1 あなたが、葛飾区に住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

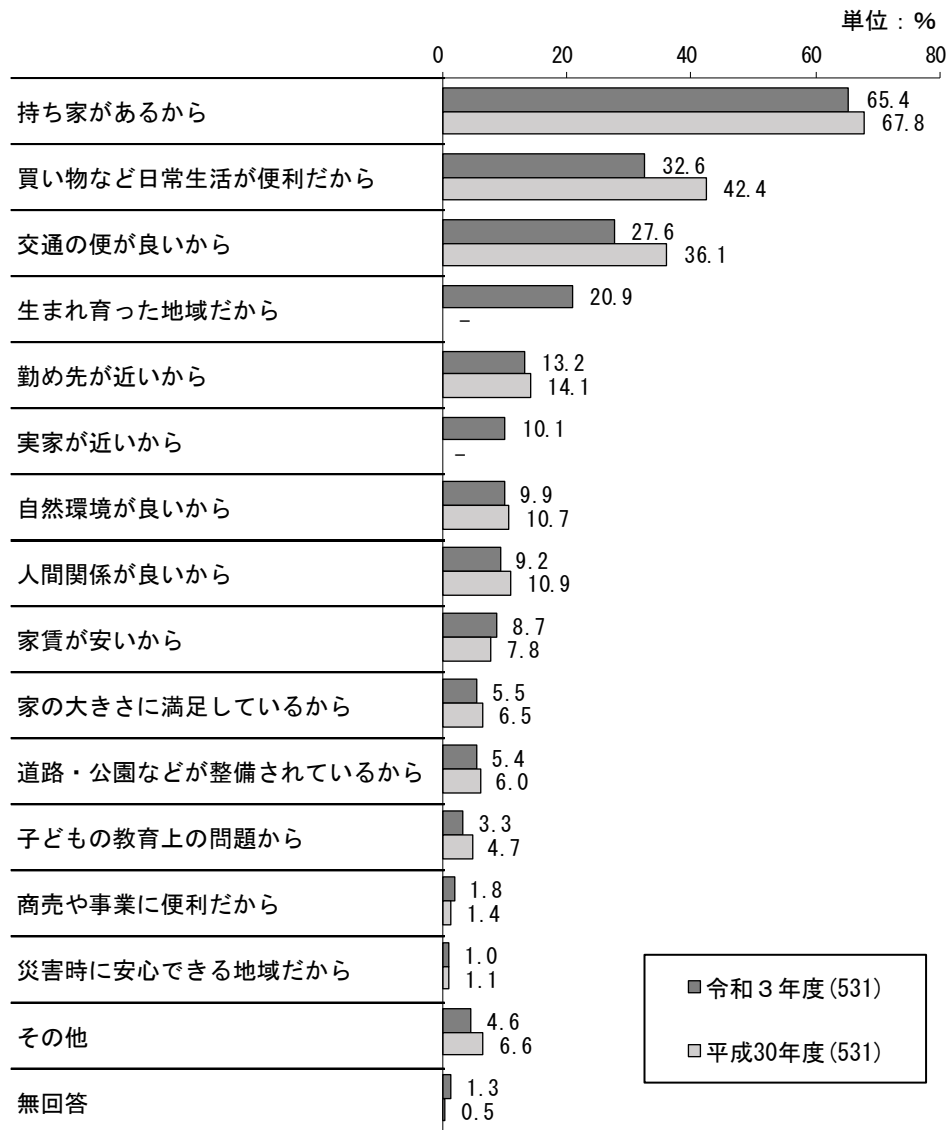
図表Ⅲ-1-16 住み続けたい理由



葛飾区に住み続けたい主な理由は、「持ち家があるから」(65.4%)が6割台半ばと最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利だから」(32.6%)、「交通の便が良いから」(27.6%)と続いている。(図表Ⅲ-1-16)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－１７ 住み続けたい理由（経年変化）



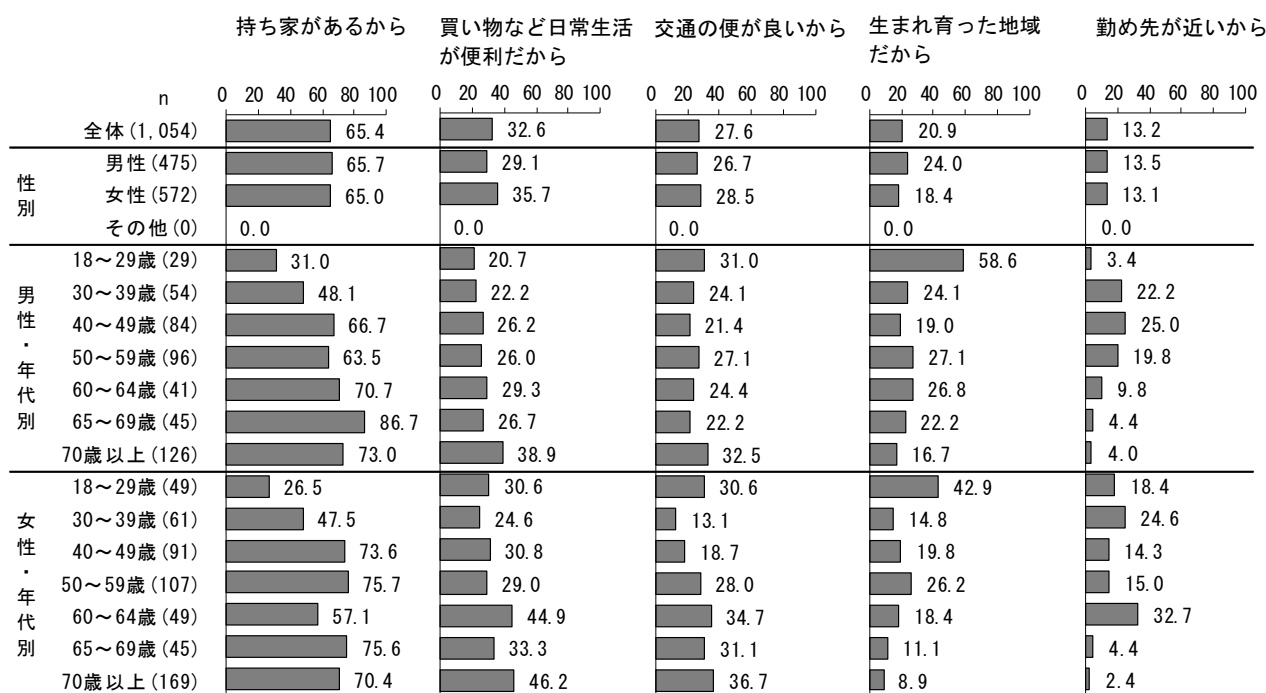
※ 令和3年度調査では、選択肢「生まれ育った地域だから」「実家が近いから」を新たに追加した。

「買い物など日常生活が便利だから」（32.6％）は、平成30年度調査（42.4％）より9.8ポイント減少している。また、「交通の便が良いから」（27.6％）は平成30年度調査（36.1％）より8.5ポイント、「持ち家があるから」（65.4％）は平成30年度調査（67.8％）より2.4ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－１－１７）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－18 住み続けたい理由（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％

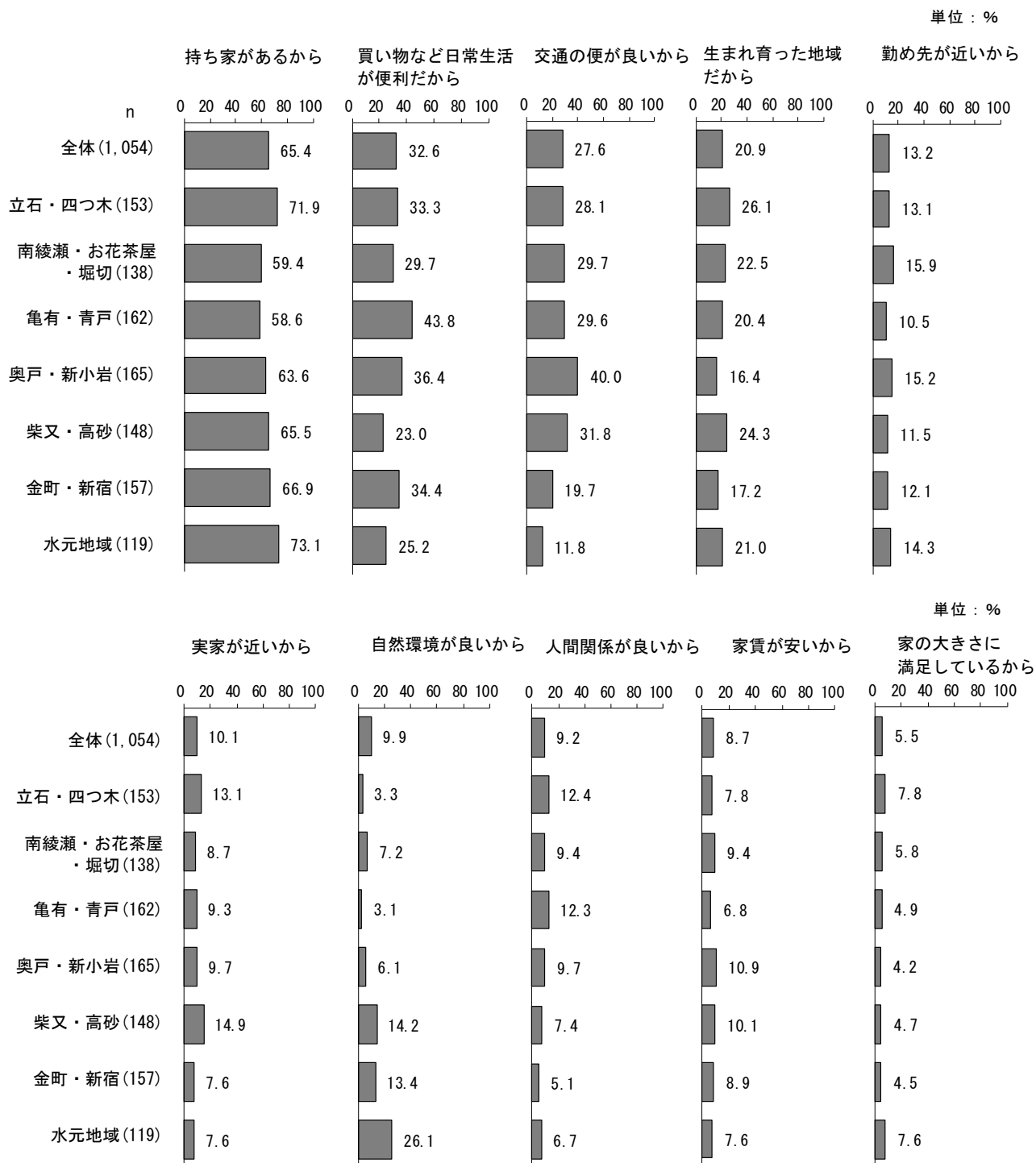


上位10項目について性別で見ると、「買い物など日常生活が便利だから」は、「女性」(35.7%)が「男性」(29.1%)より6.6ポイント高くなっている。一方、「生まれ育った地域だから」は、「男性」(24.0%)が「女性」(18.4%)より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「持ち家があるから」は、「男性65～69歳」(86.7%)が9割近くと最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－18)

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－１９ 住み続けたい理由（上位 10 項目）（居住地域別）



上位 10 項目について居住地域別でみると、「持ち家があるから」はすべての地域で 5 割以上となっており、「水元地域」（73.1％）が最も高くなっている。また、「買い物など日常生活が便利だから」は、「亀有・青戸」（43.8％）が 4 割強と最も高く、「柴又・高砂」（23.0％）が最も低くなっている。「交通の便が良いから」は、「奥戸・新小岩」（40.0％）が最も高く、「水元地域」（11.8％）が最も低くなっている。（図表Ⅲ－１－19）

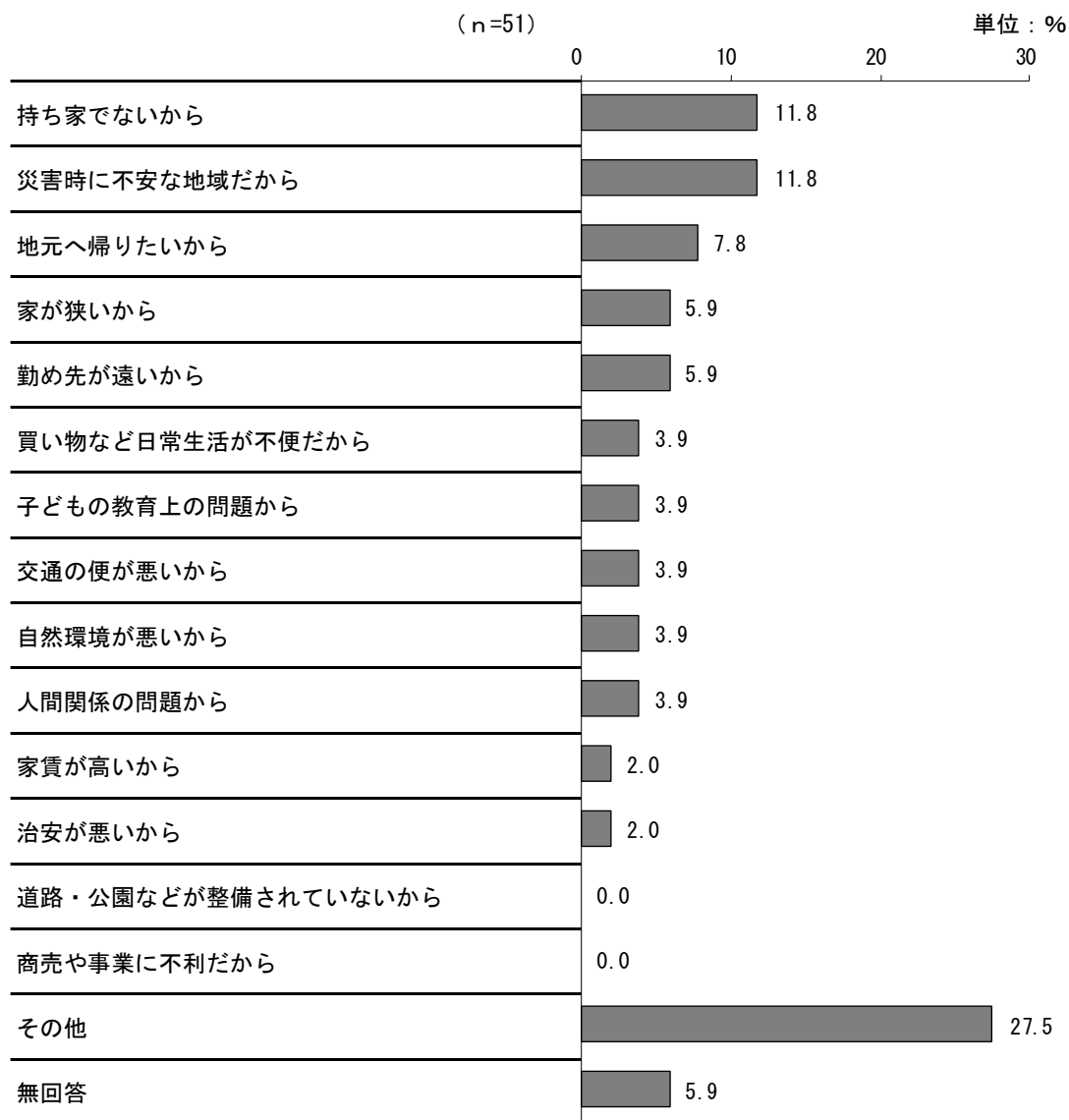
(2-2) 区外へ移りたい理由

◆ 「持ち家でないから」と「災害時に不安な地域だから」が最多

(問2で選択肢「3」を選んだ方のみお答えください。)

問2-2 あなたが、区外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は1つ)

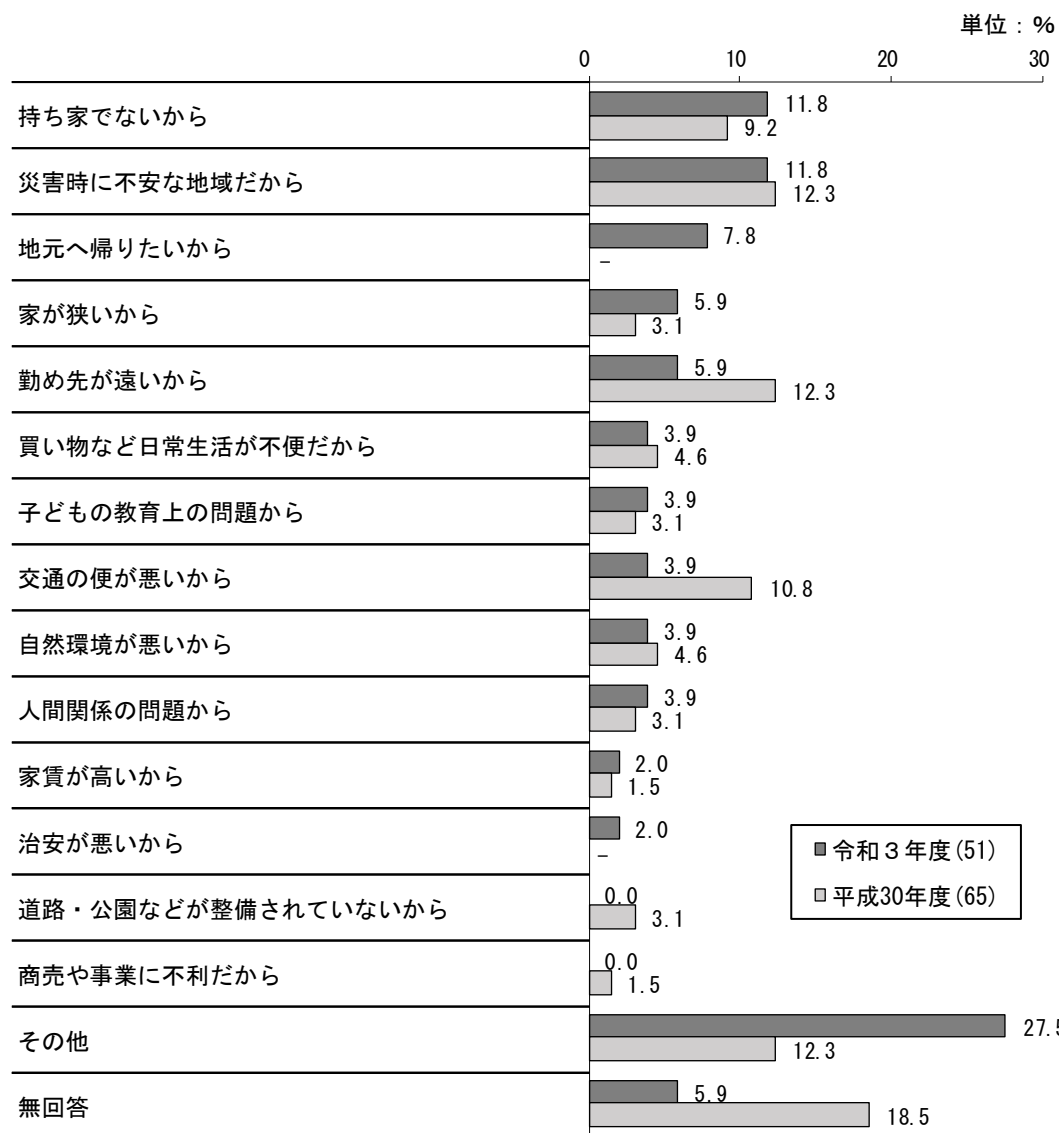
図表Ⅲ-1-20 区外へ移りたい理由



区外へ移りたい主な理由は、「持ち家でないから」(11.8%)と「災害時に不安な地域だから」(11.8%)が同率で最も高く、次いで「地元へ帰りたいから」(7.8%)、「家が狭いから」(5.9%)と続いている。(図表Ⅲ-1-20)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－21 区外へ移りたい理由（経年変化）



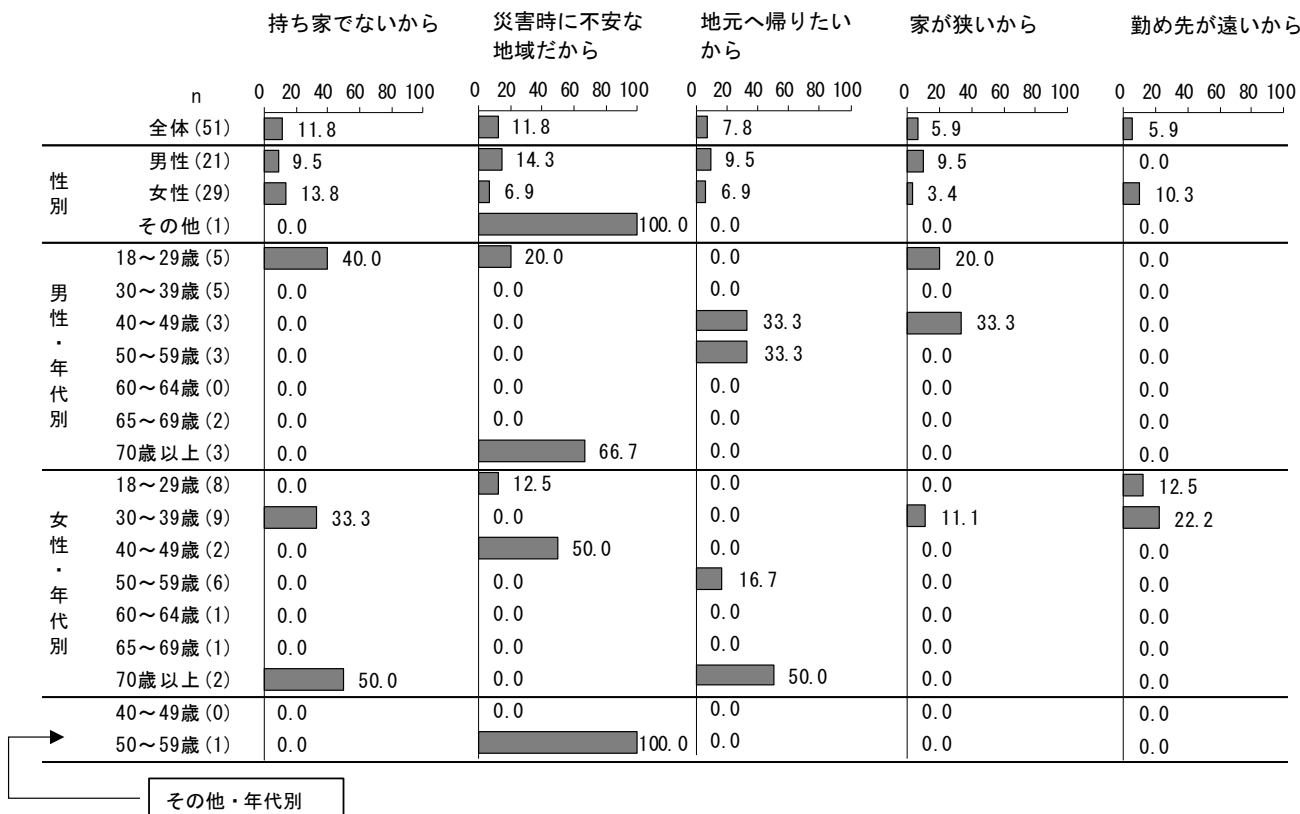
※ 令和3年度調査では、選択肢「地元へ帰りたいから」「治安が悪いから」を新たに追加した。

「持ち家でないから」（11.8%）は平成30年度調査（9.2%）より2.6ポイント増加している。一方、「災害時に不安な地域だから」（11.8%）は平成30年度調査（12.3%）より0.5ポイント減少している。（図表Ⅲ－１－21）

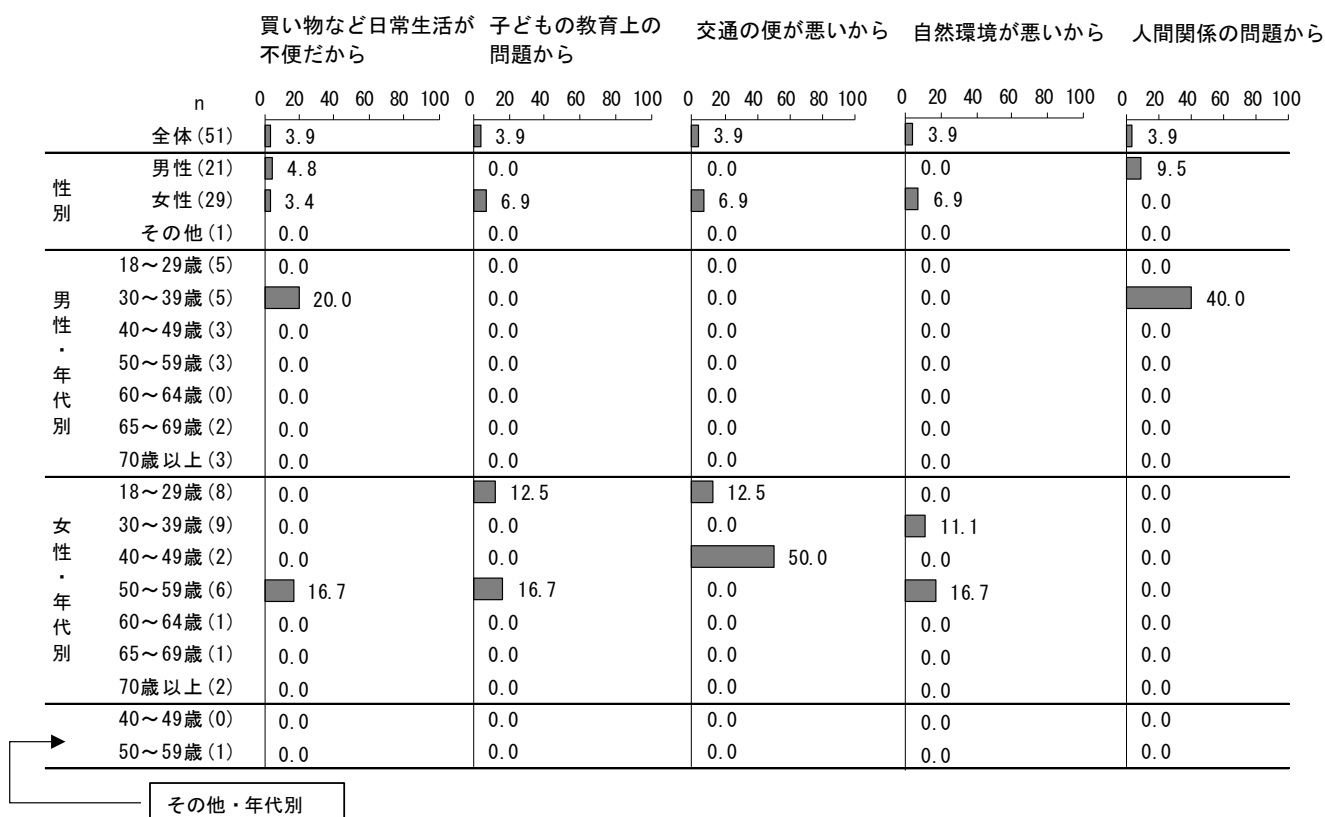
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－22 区外へ移りたい理由（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



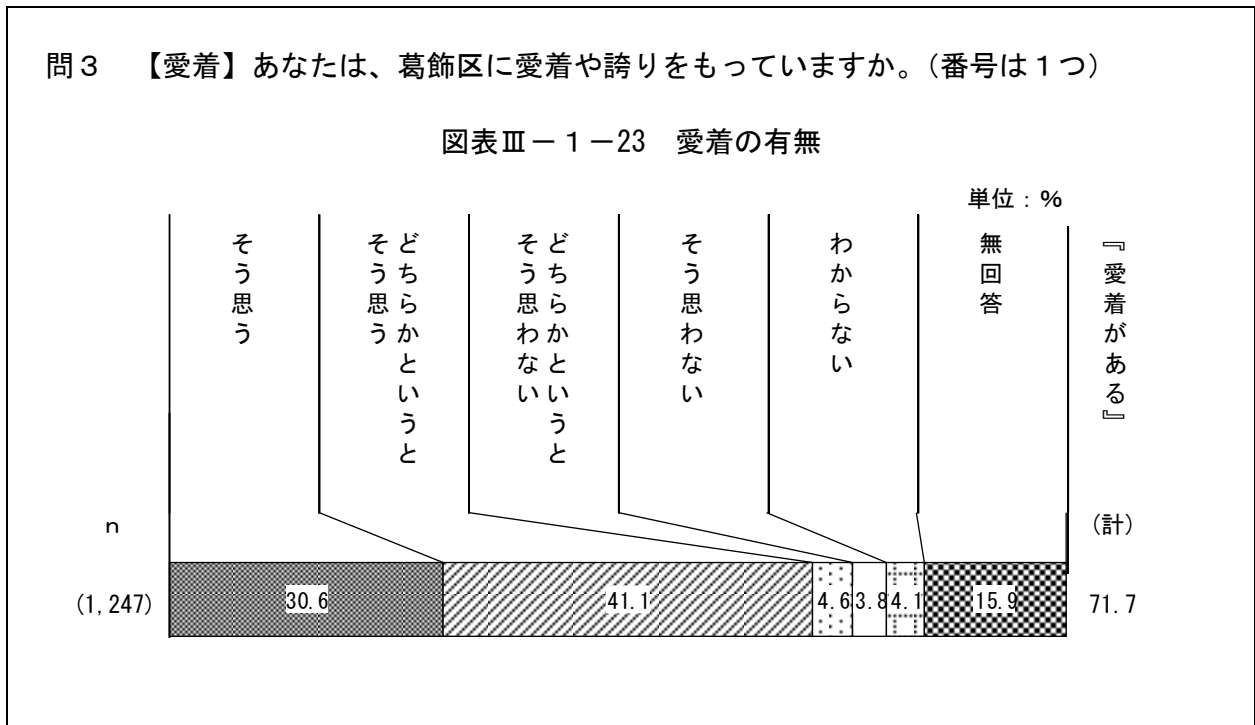
単位：％



性別でみると、「持ち家でないから」は、「女性」(13.8%)が「男性」(9.5%)よりも4.3ポイント高くなっている。一方、「災害時に不安な地域だから」は「男性」(14.3%)が「女性」(6.9%)より7.4ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－１－22)

(3) 愛着の有無

◆ 『愛着がある』が7割強

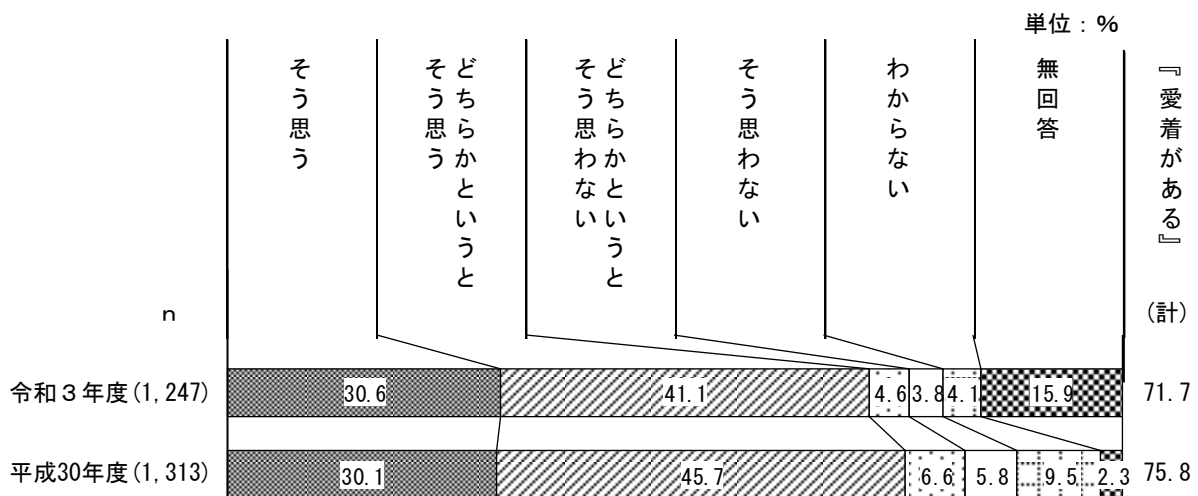


葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというと思う」(41.1%)が最も高く、これと「そう思う」(30.6%)を合わせた『愛着がある』(71.7%)は7割強となっている。

一方、「どちらかというと思わない」(4.6%)と「そう思わない」(3.8%)を合わせた『愛着がない』(8.4%)は、1割未満となっている。(図表Ⅲ-1-23)

【経年変化】

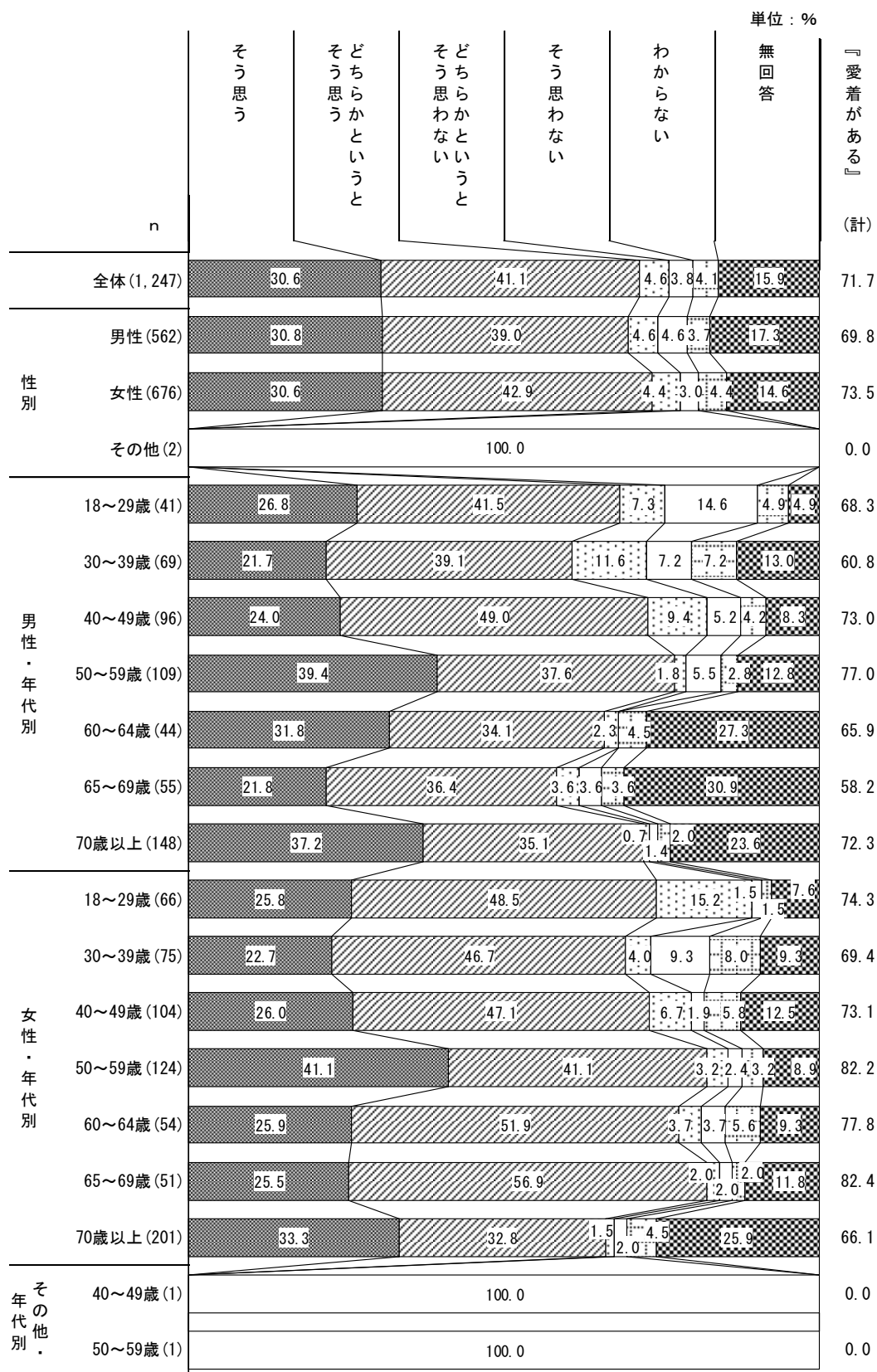
図表Ⅲ-1-24 愛着の有無(経年変化)



『愛着がある』(71.7%)は、平成30年度調査(75.8%)より4.1ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-24)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－25 愛着の有無（性別／性・年代別）

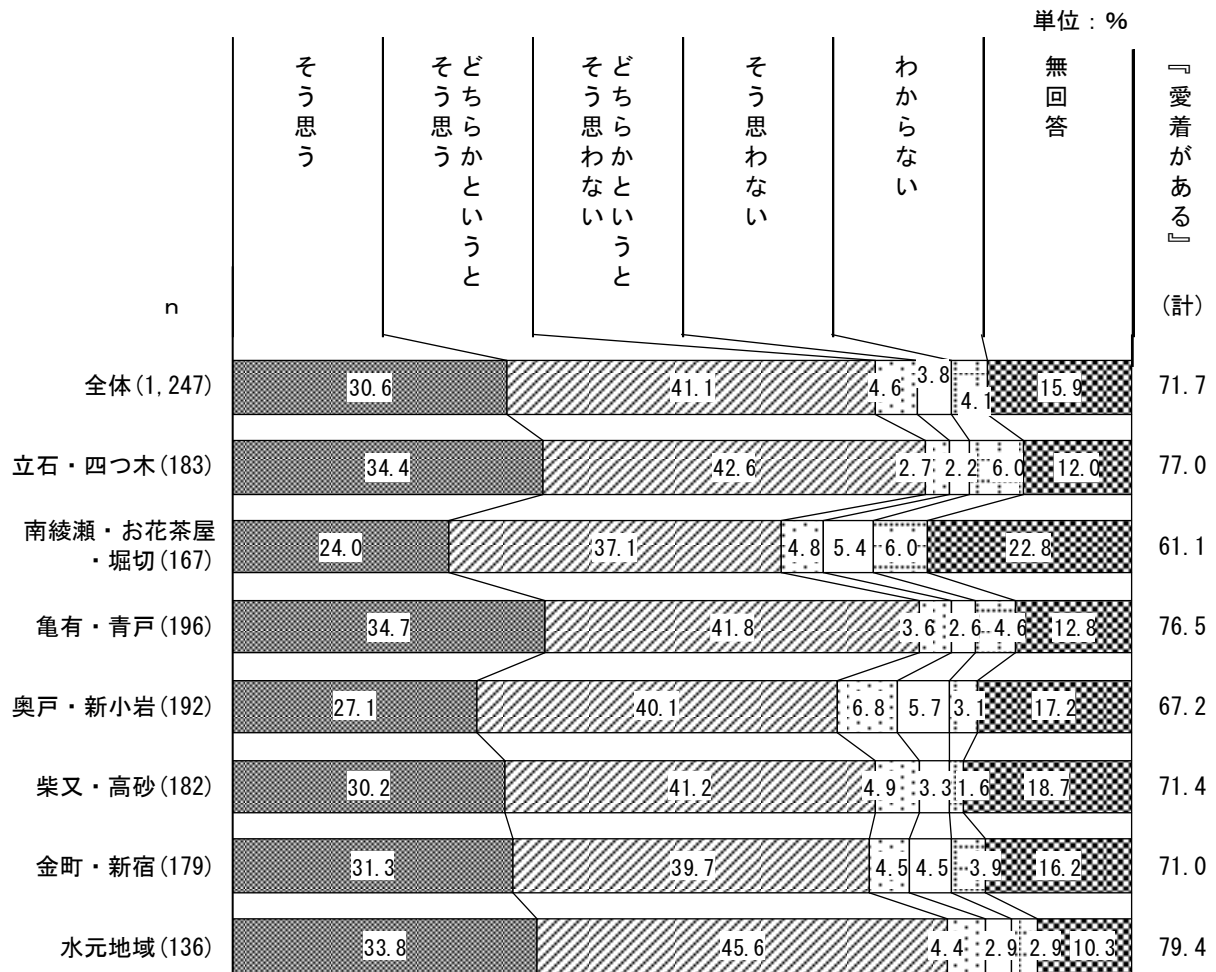


性別で見ると、『愛着がある』は、「女性」(73.5%)が「男性」(69.8%)より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『愛着がある』は、「男性50～59歳」(77.0%)、「女性65～69歳」(82.4%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－25)

【居住地域別】

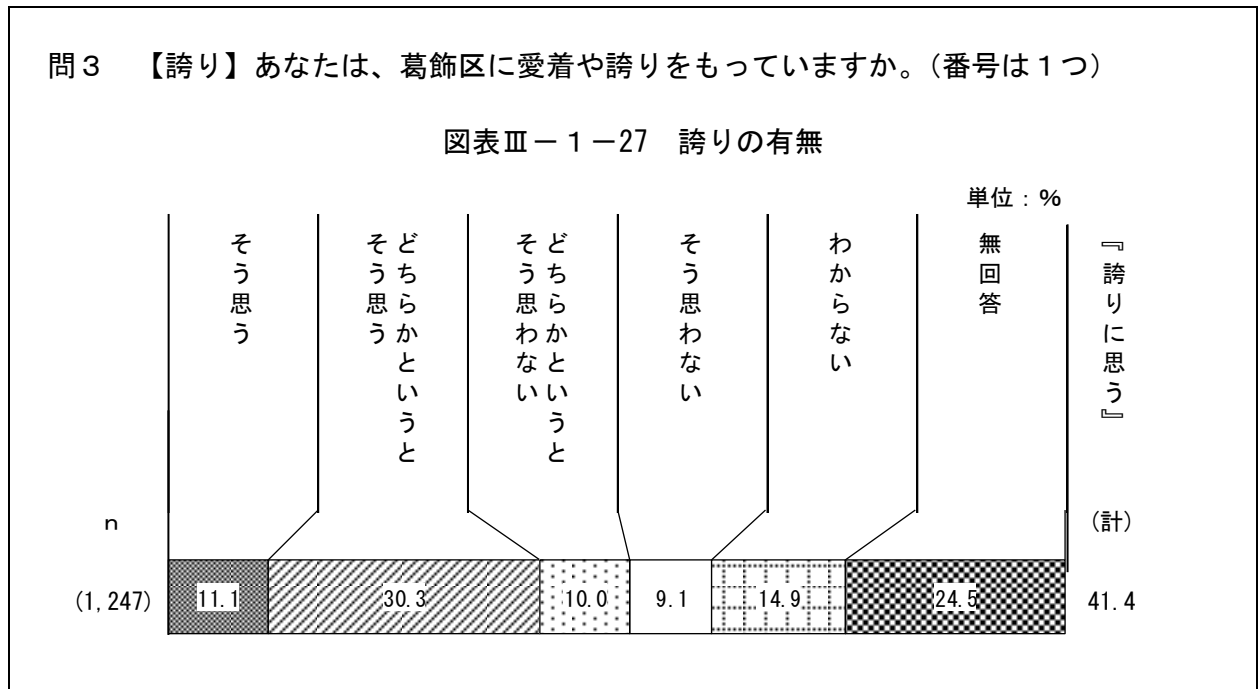
図表Ⅲ－１－26 愛着の有無（居住地域別）



居住地域別で見ると、『愛着がある』は、「水元地域」(79.4%)が8割弱と最も高くなっている。次いで「立石・四つ木」(77.0%)、「亀有・青戸」(76.5%)と続いている。一方、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(61.1%)は6割強と最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－26)

(4) 誇りの有無

◆ 『誇りに思う』が4割強

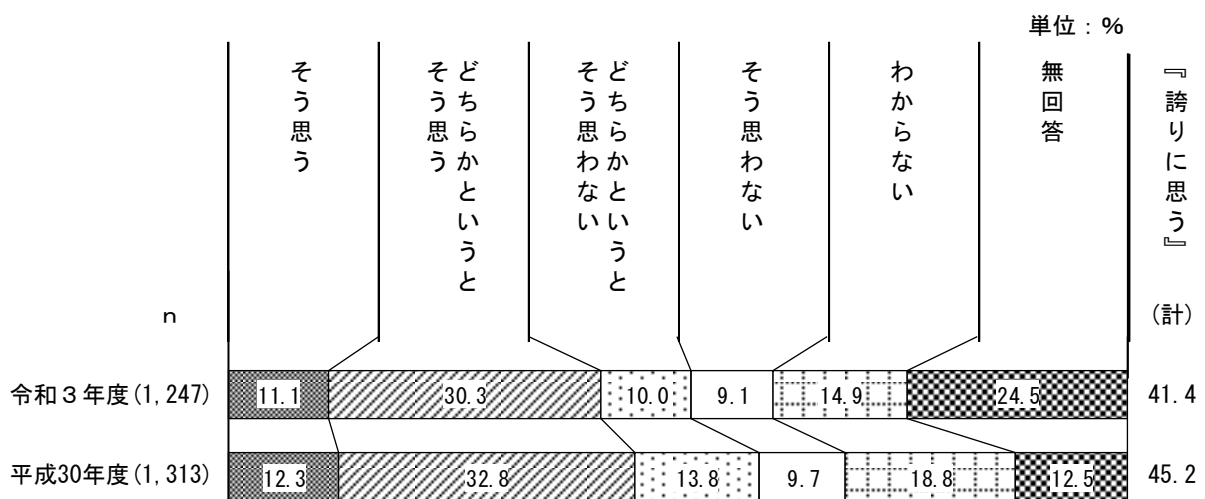


葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというそう思う」(30.3%)が最も高く、これと「そう思う」(11.1%)を合わせた『誇りに思う』(41.4%)は4割強となっている。

一方、「どちらかというそう思わない」(10.0%)と「そう思わない」(9.1%)を合わせた『誇りに思わない』(19.1%)は、2割弱となっている。(図表Ⅲ-1-27)

【経年変化】

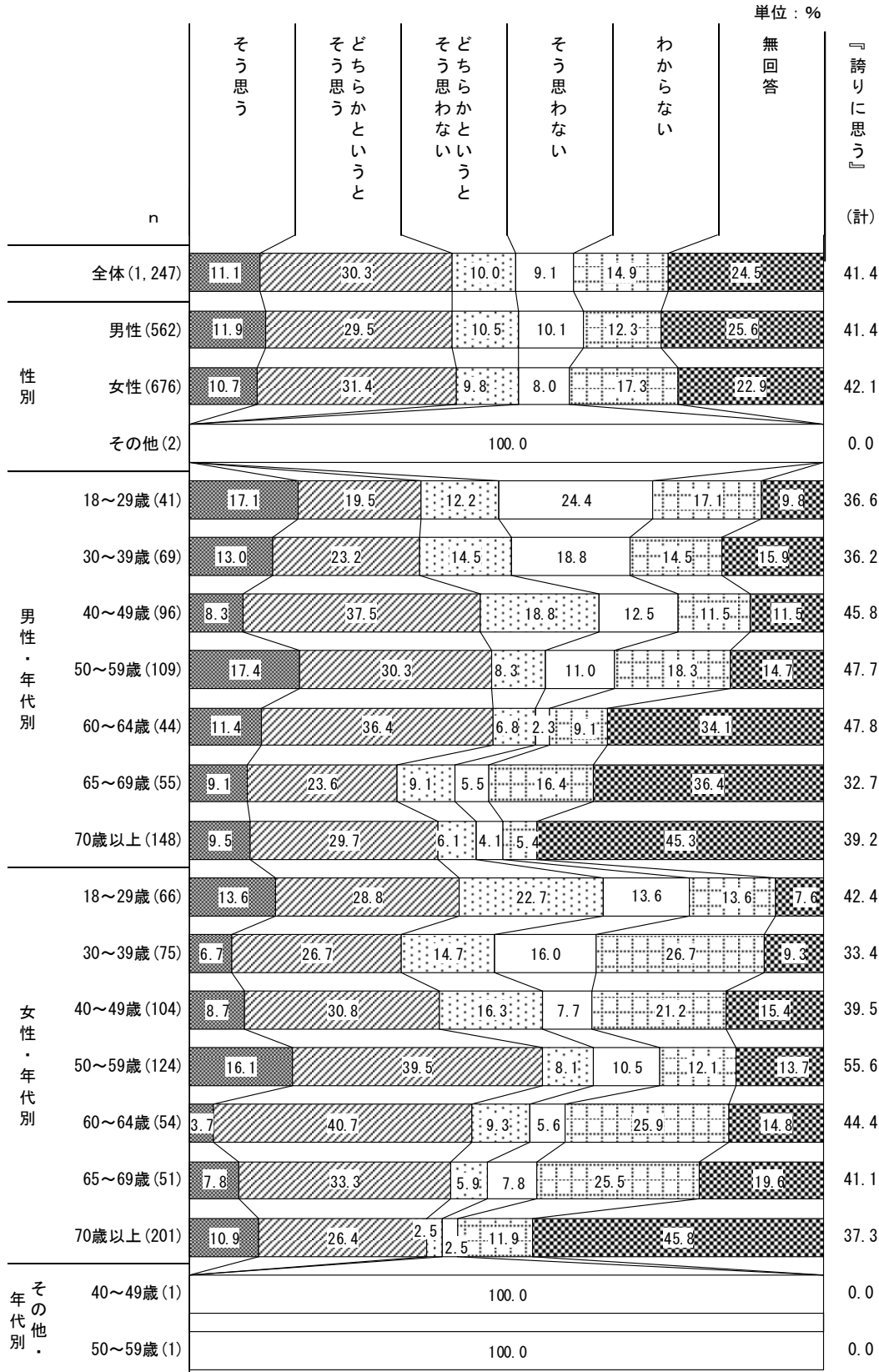
図表Ⅲ-1-28 誇りの有無 (経年変化)



『誇りに思う』(41.4%)は、平成30年度調査(45.2%)から3.8ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-28)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－２９ 誇りの有無（性別／性・年代別）

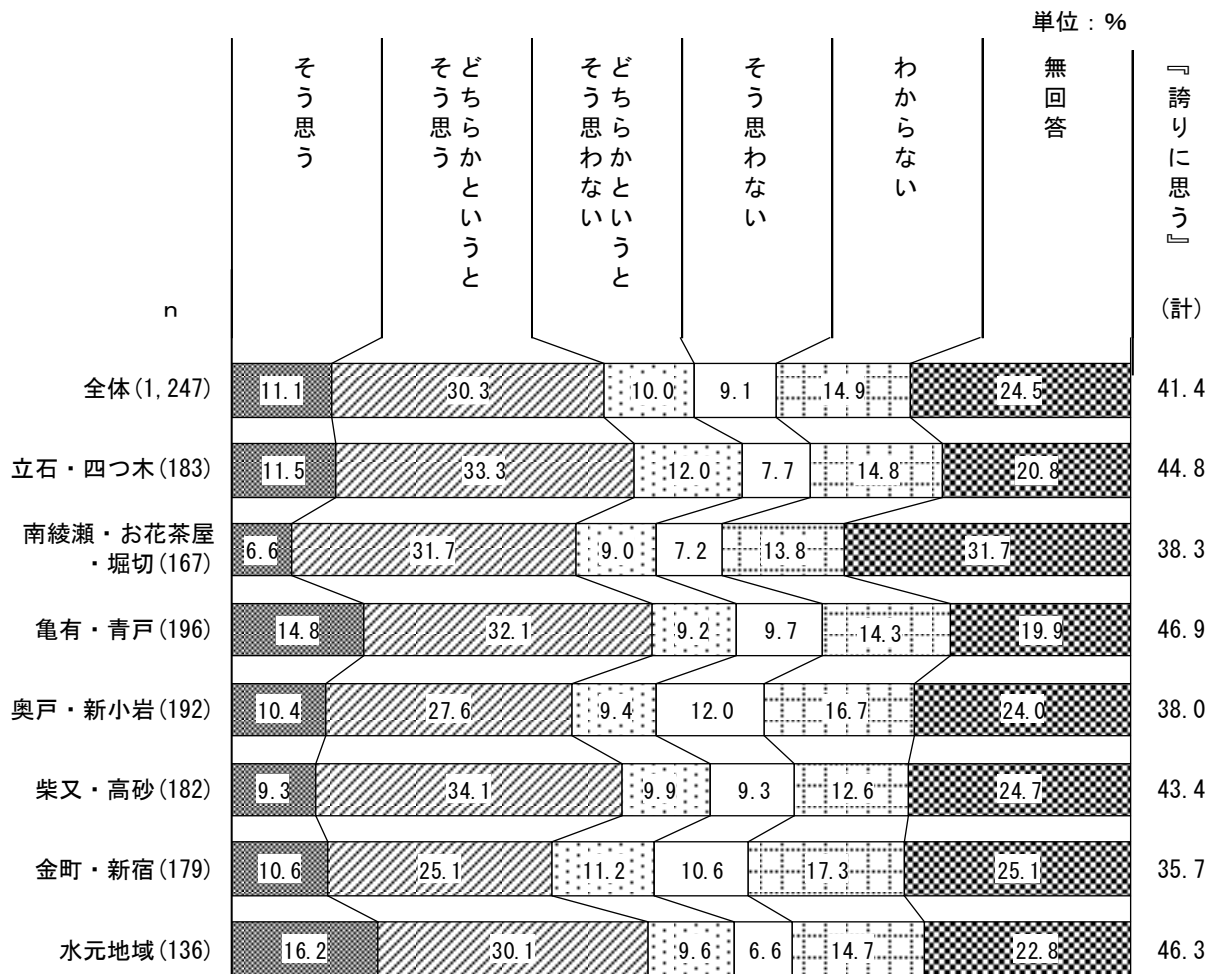


性別でみると、『誇りに思う』は、「女性」(42.1%)が「男性」(41.4%)より0.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『誇りに思う』は、「男性60～64歳」(47.8%)、「女性50～59歳」(55.6%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－２９)

【居住地域別】

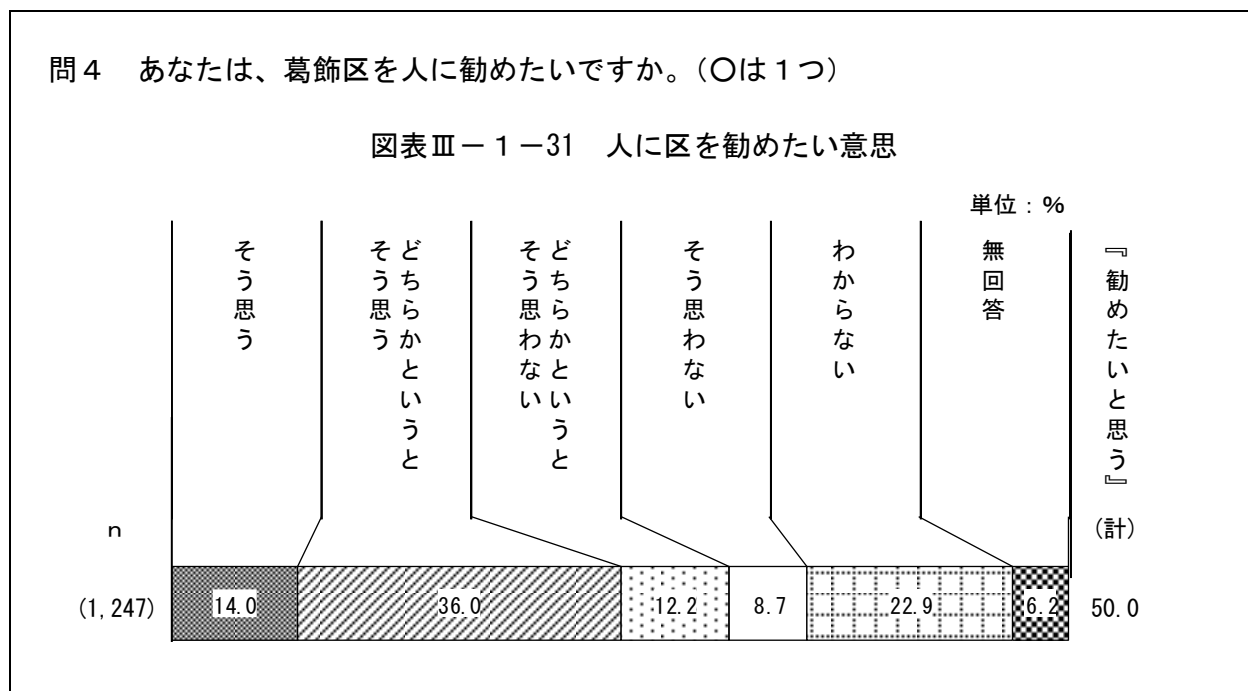
図表Ⅲ－１－30 誇りの有無（居住地域別）



居住地域別でみると、『誇りに思う』は、「亀有・青戸」(46.9%)が5割近くと最も高く、次いで「水元地域」(46.3%)、「立石・四つ木」(44.8%)と続いている。一方、「金町・新宿」(35.7%)は、3割台半ばと最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－30)

(5) 人に区を勧めたい意思

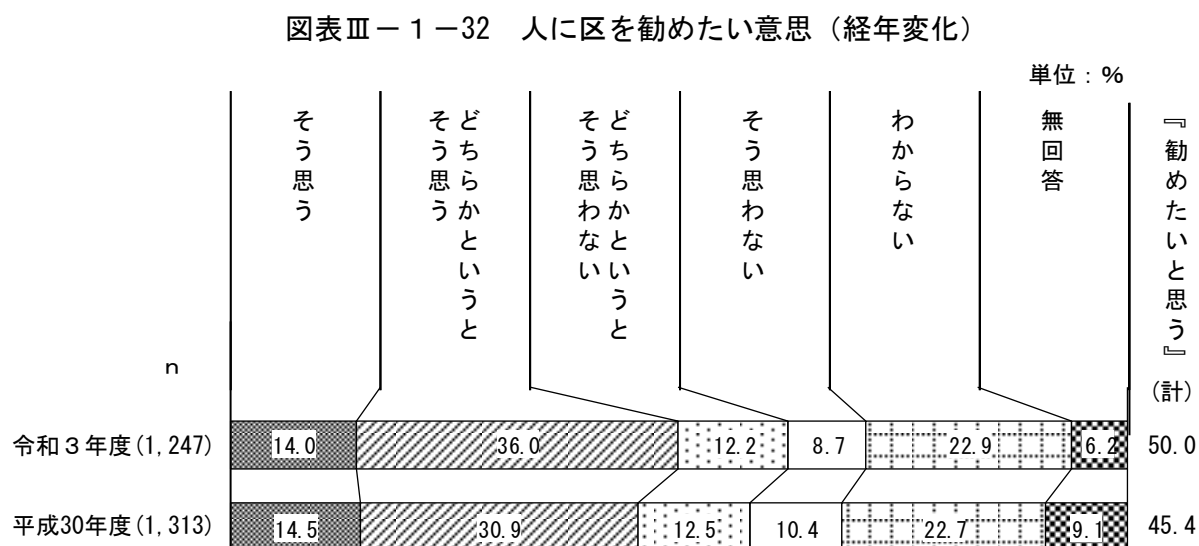
◆ 『勧めたいと思う』が5割



人に区を勧めたい意思について、「どちらかというと思う」(36.0%)が最も高く、これと「そう思う」(14.0%)を合わせた『勧めたいと思う』(50.0%)は5割となっている。

一方、「どちらかというと思わない」(12.2%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『勧めたいと思わない』(20.9%)は、約2割となっている。(図表Ⅲ-1-31)

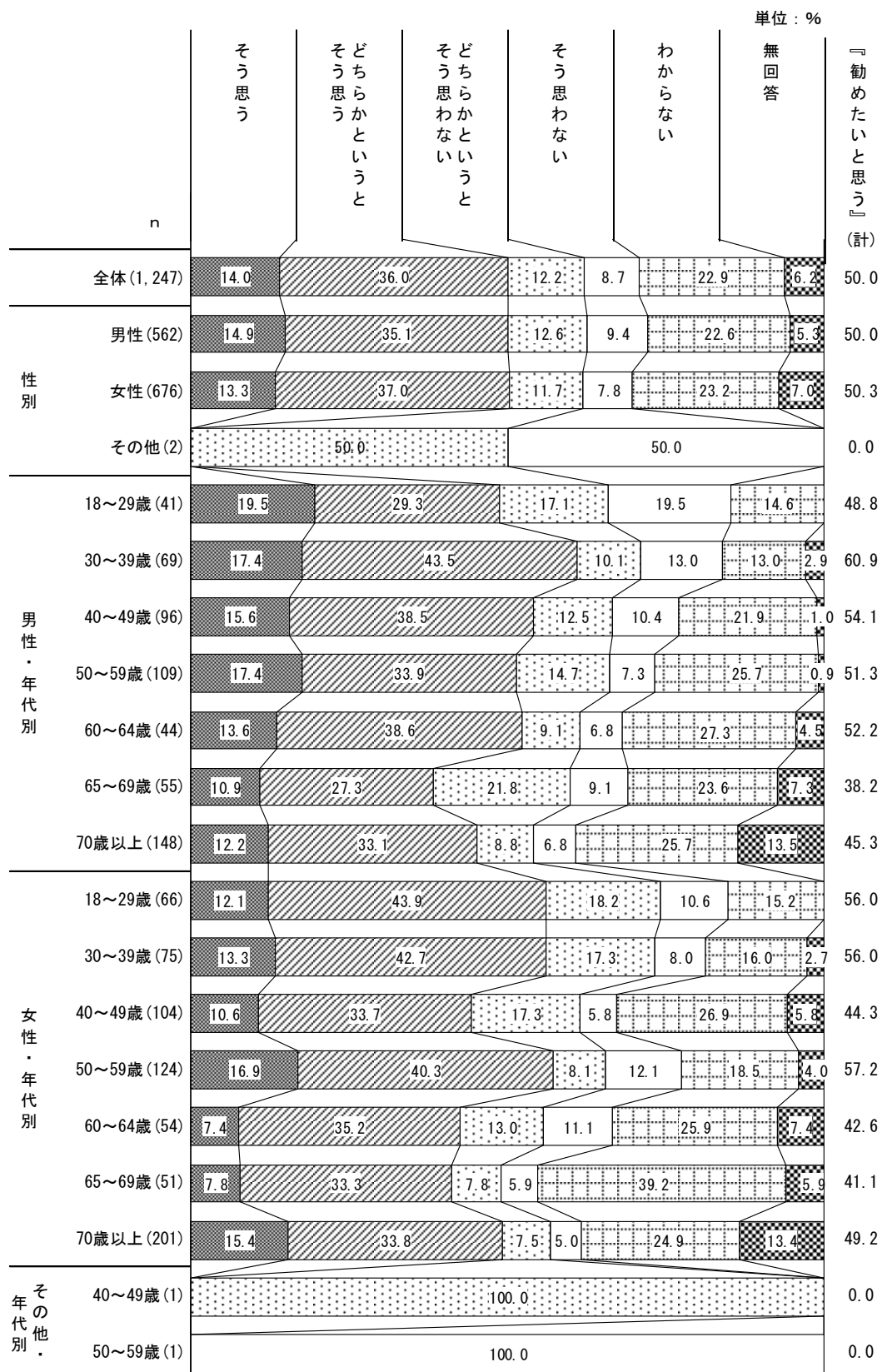
【経年変化】



『勧めたいと思う』(50.0%)は、平成30年度調査(45.4%)から4.6ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-32)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－３３ 人に区を勧めたい意思（性別／性・年代別）

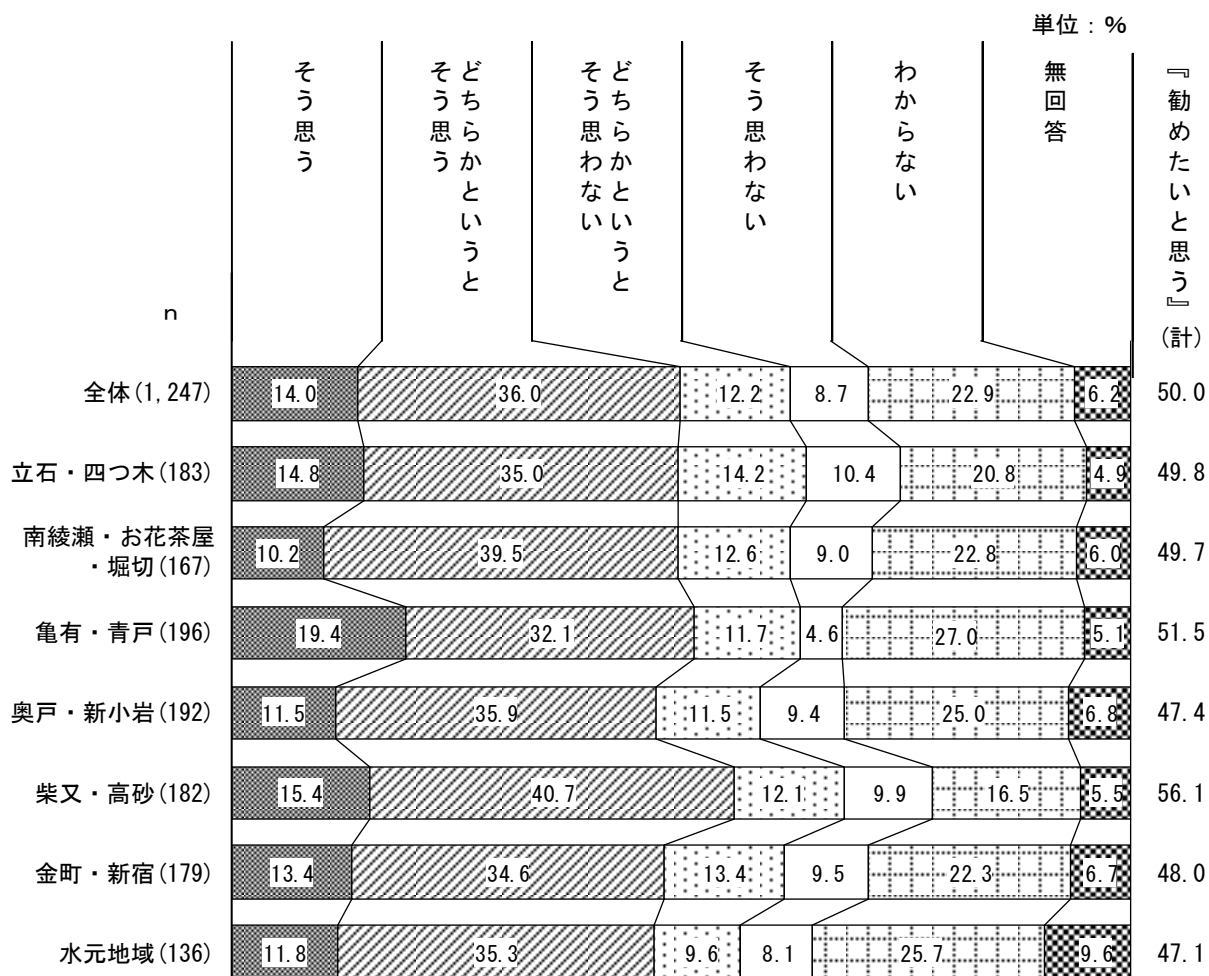


性別でみると、『勧めたいと思う』は、「女性」(50.3%)が「男性」(50.0%)より0.3ポイント高くなっている。一方、『勧めたいと思わない』は、「男性」(22.0%)が「女性」(19.5%)より2.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『勧めたいと思う』は、「男性30～39歳」(60.9%)、「女性50～59歳」(57.2%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－１－３３)

【居住地域別】

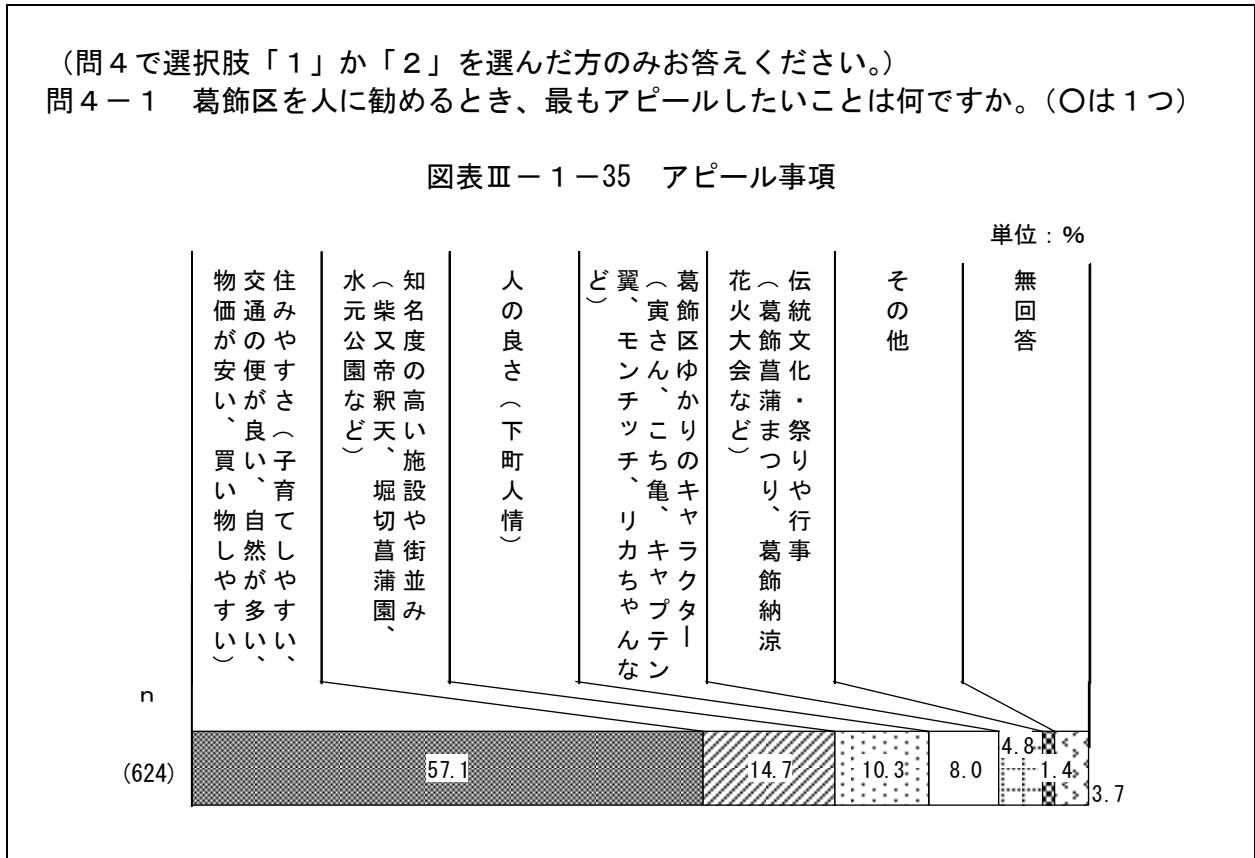
図表Ⅲ－１－34 人に区を勧めたい意思（居住地域別）



居住地域別で見ると、『勧めたいと思う』は、「柴又・高砂」(56.1%)が最も高く、次いで「亀有・青戸」(51.5%)、「立石・四つ木」(49.8%)と続いている。一方、「水元地域」(47.1%)は5割近くと、最も低くなっている。(図表Ⅲ－１－34)

(5-1) アピール事項

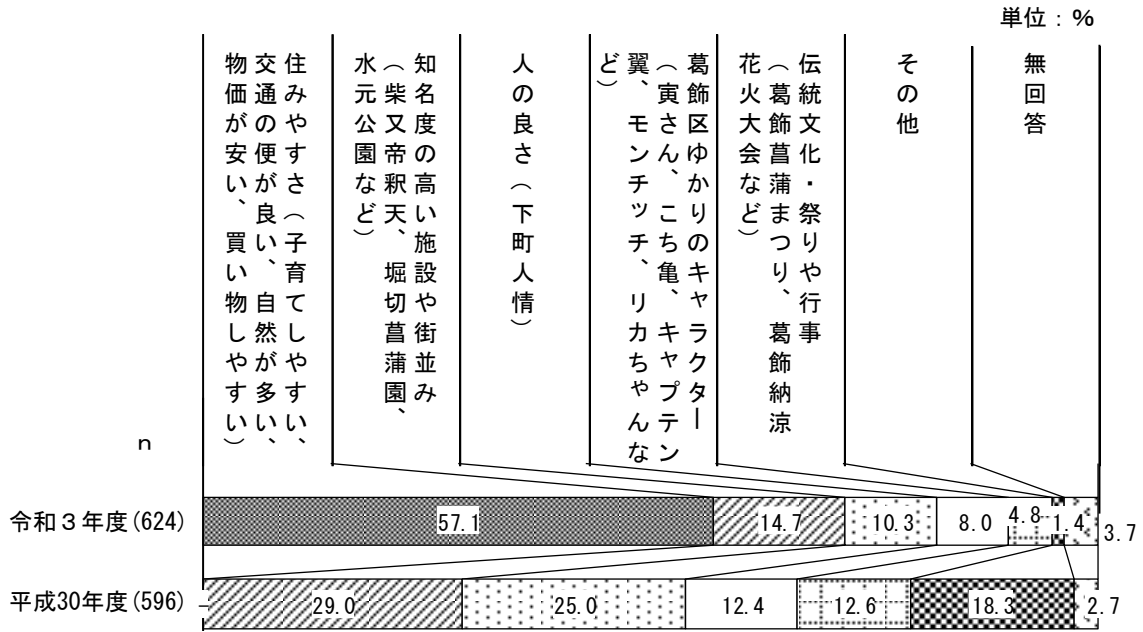
- ◆ 「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」が6割近く



人に区を勧めるときのアピール事項は、「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」(57.1%)が6割近くと最も高く、次いで「知名度の高い施設や街並み（柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など）」(14.7%)と続いている。(図表Ⅲ-1-35)

【経年変化】

図表Ⅲ－１－３６ アピール事項（経年変化）

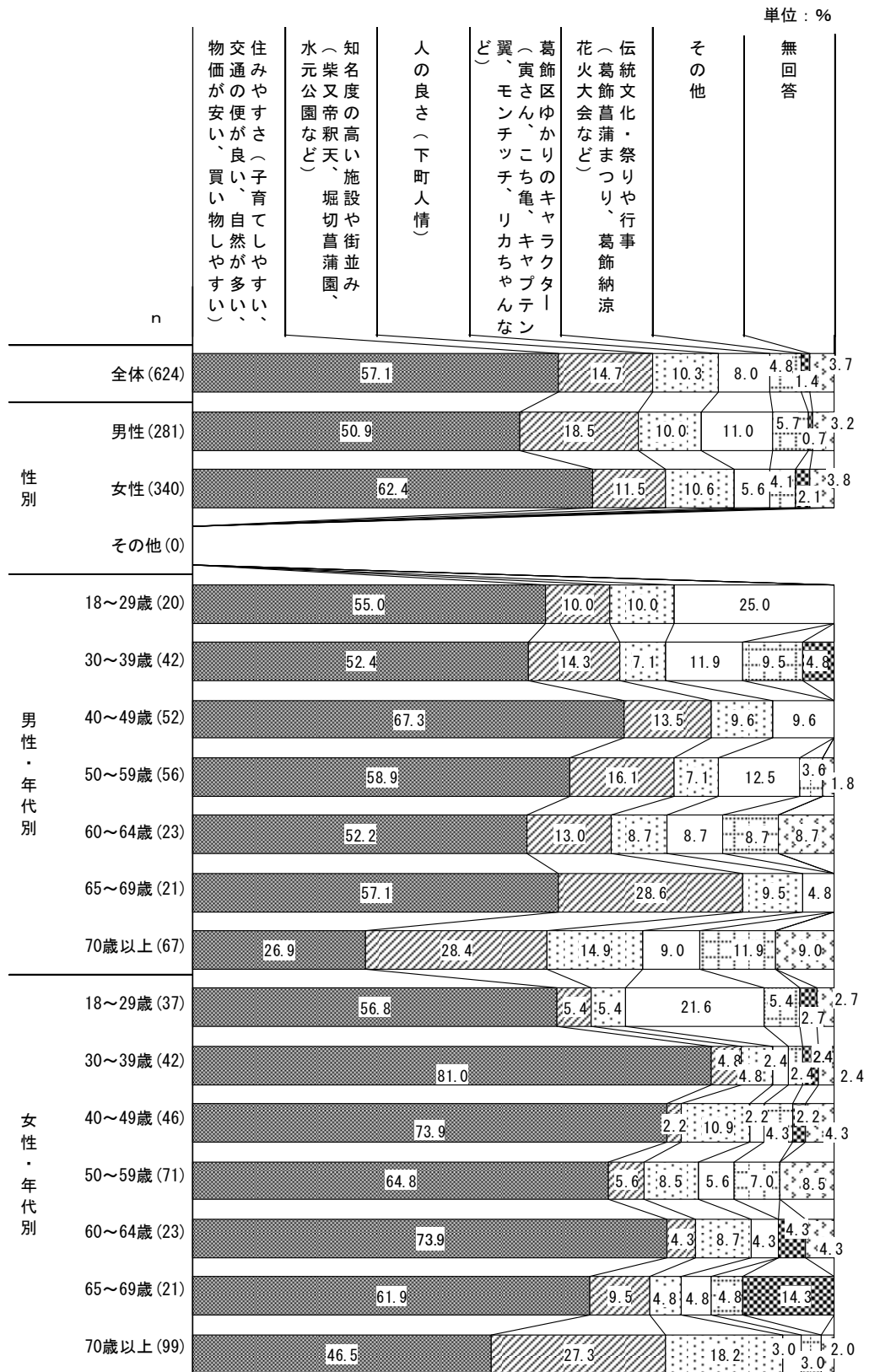


※ 令和3年度調査では、選択肢「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」を新たに追加した。

「知名度の高い施設や街並み（柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など）」（14.7％）は、平成30年度調査（29.0％）から14.3ポイント減少している。（図表Ⅲ－１－36）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－１－37 アピール事項（性別／性・年代別）

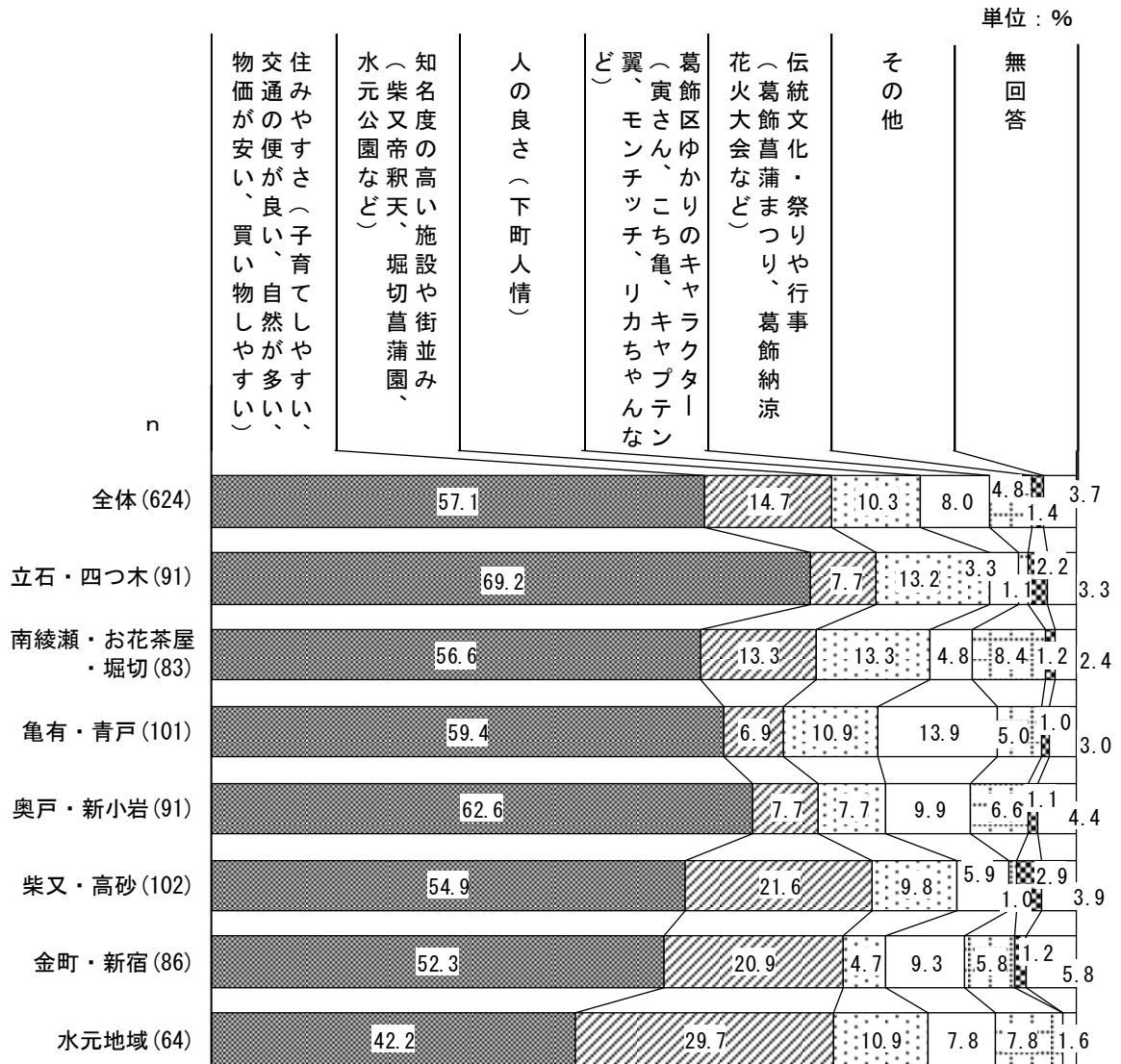


性別で見ると、「住みやすさ」は、「女性」(62.4%)が「男性」(50.9%)より11.5ポイント高くなっている。一方、「知名度の高い施設や街並み」は、「男性」(18.5%)が「女性」(11.5%)より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「住みやすさ」は、「女性30～39歳」(81.0%)が8割強と最も高くなっており、次いで「女性40～49歳」(73.9%)および「女性60～64歳」(73.9%)が同率で続いている。(図表Ⅲ－１－37)

【居住地域別】

図表Ⅲ－１－38 アピール事項（居住地域別）



居住地域別でみると、「住みやすさ」は、「立石・四つ木」(69.2%)が最も高く、次いで「奥戸・新小岩」(62.6%)、「亀有・青戸」(59.4%)と続いている。一方、「水元地域」(42.2%)は4割強と最も低くなっている。また、「知名度の高い施設や街並み」は、「水元地域」(29.7%)が3割弱となっている。(図表Ⅲ－１－38)

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

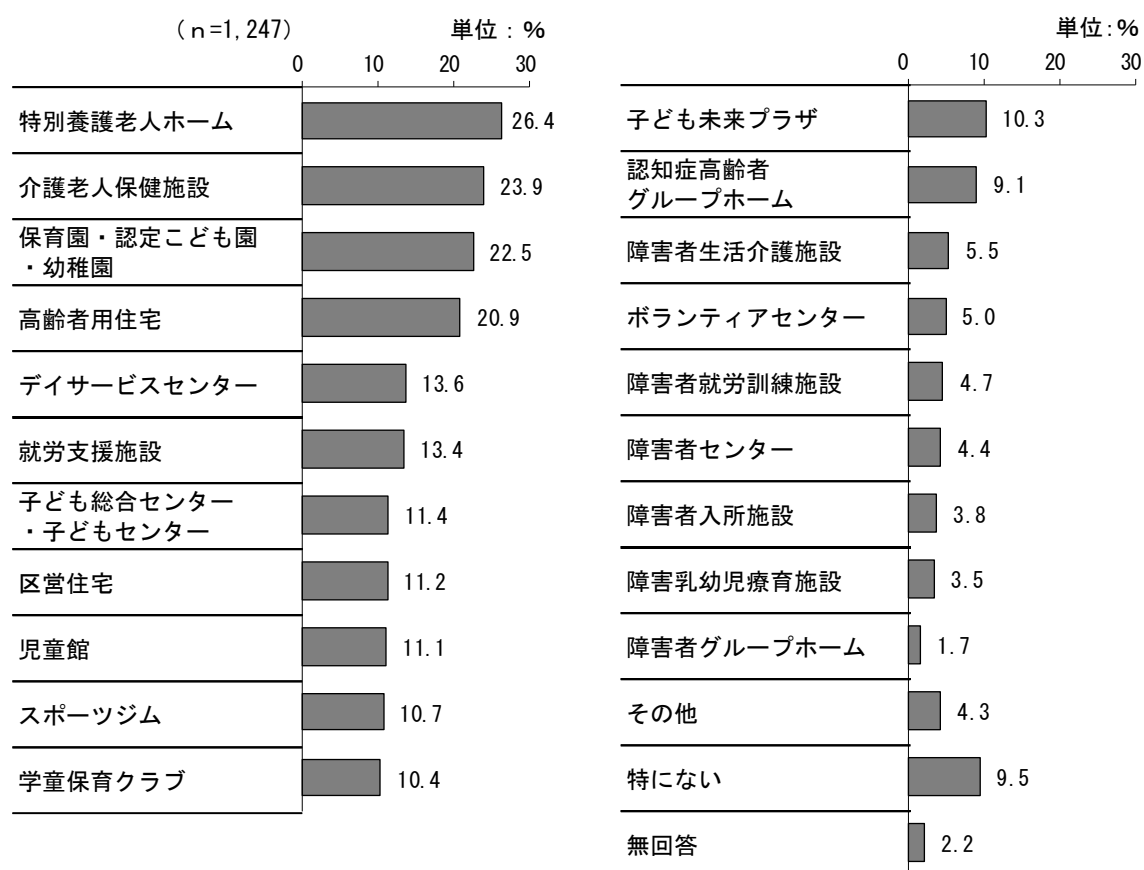
<子育て・福祉施設>

◆ 「特別養護老人ホーム」が3割近く

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(1) 子育て、福祉施設について (〇は3つまで)

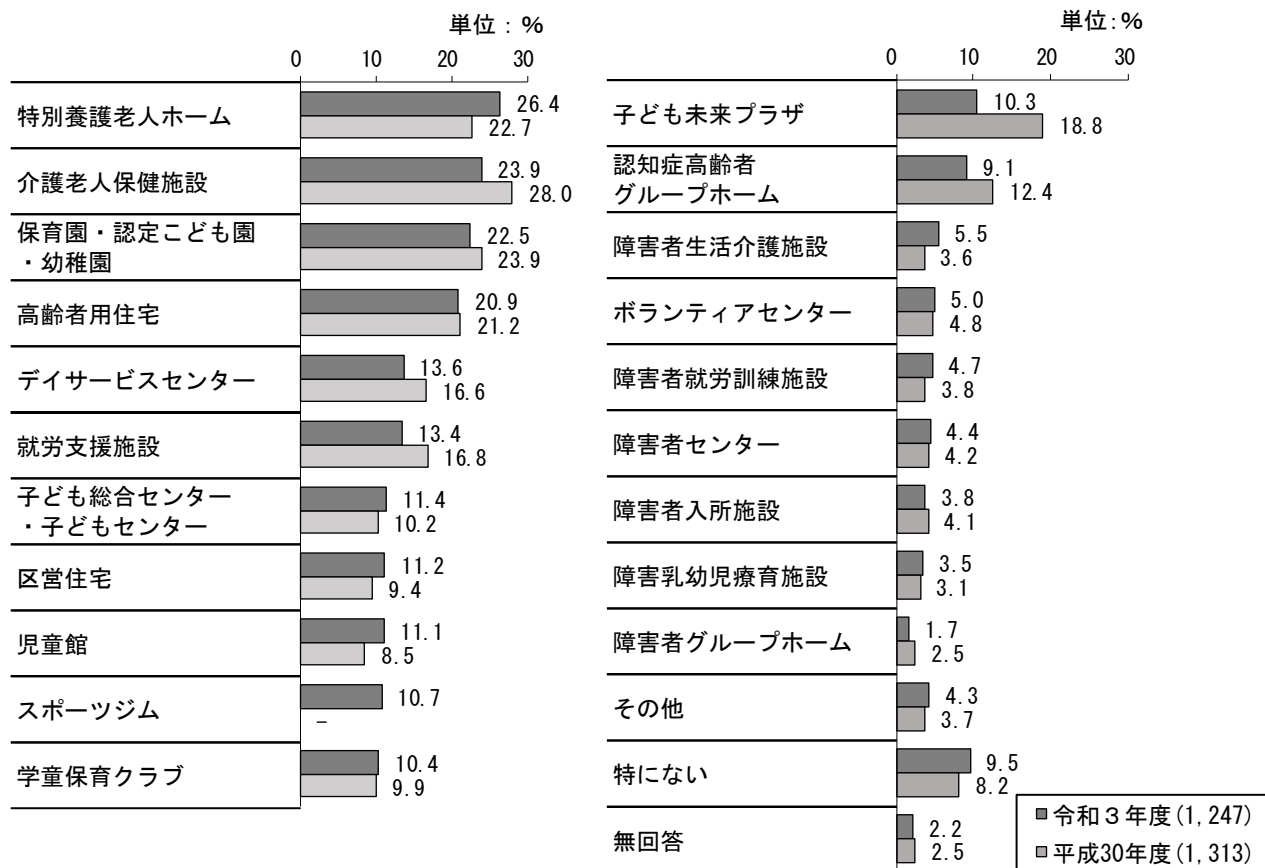
図表Ⅲ-2-1 整備・充実が必要な施設<子育て・福祉施設>



整備・充実が必要な子育て・福祉施設は、「特別養護老人ホーム」(26.4%)が3割近くと最も高く、次いで「介護老人保健施設」(23.9%)、「保育園・認定こども園・幼稚園」(22.5%)と続いている。(図表Ⅲ-2-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－２ 整備・充実が必要な施設＜子育て・福祉施設＞（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「スポーツジム」を新たに追加した。

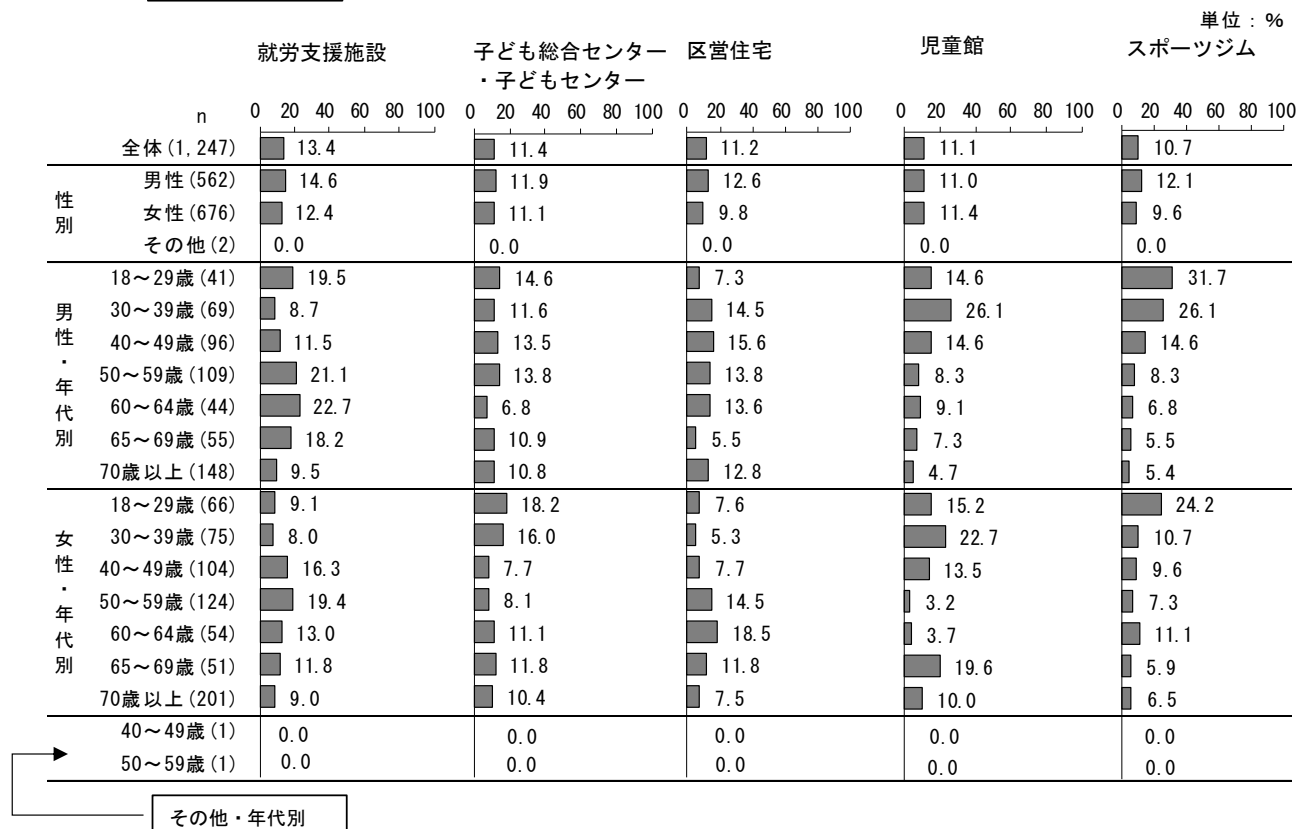
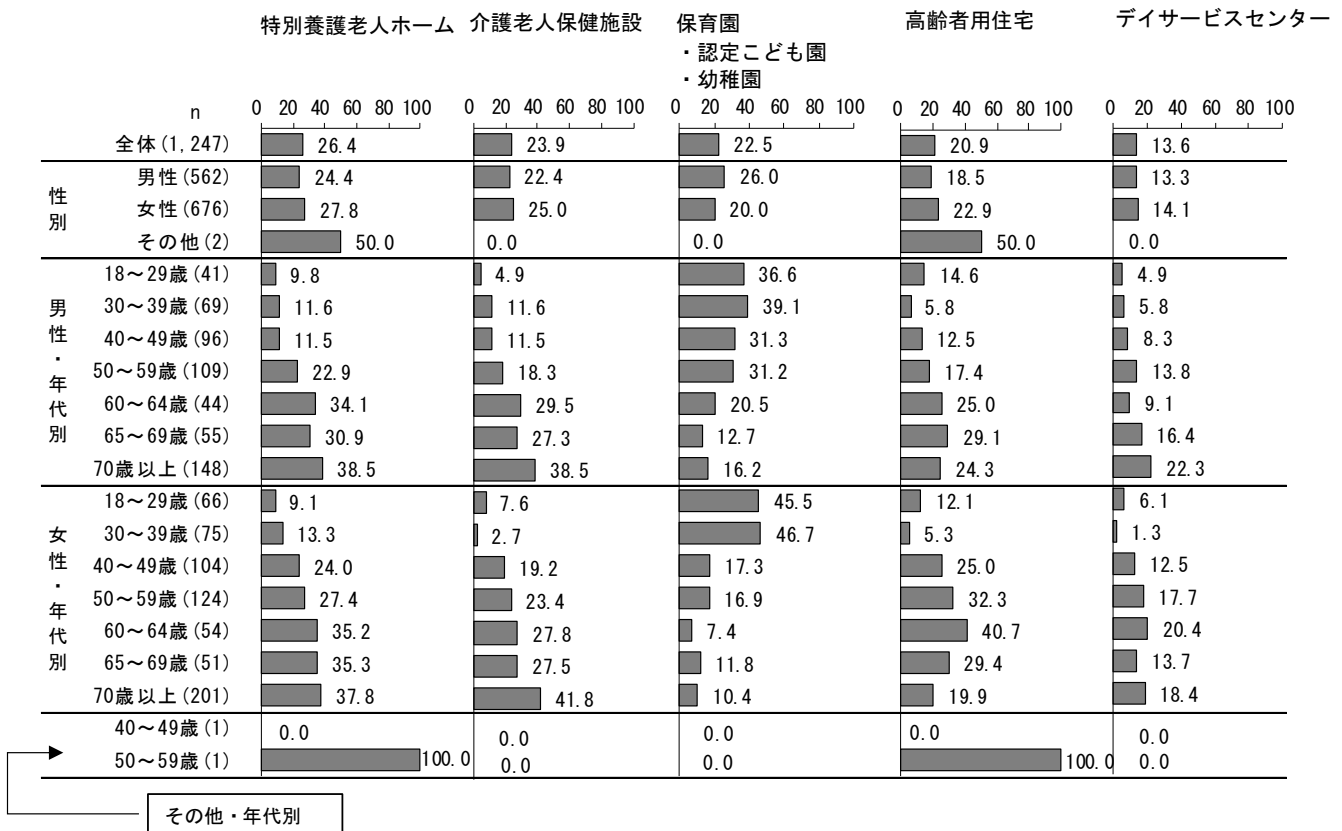
※ 令和3年度調査では、平成30年度調査で選択肢「子育て支援拠点施設」と表記していたものを「子ども未来プラザ」と表記した。

「特別養護老人ホーム」(26.4%)は、平成30年度調査(22.7%)より3.7ポイント増加している。一方、「介護老人保健施設」(23.9%)は、平成30年度調査(28.0%)より4.1ポイント、「保育園・認定こども園・幼稚園」(22.5%)は、平成30年度調査(23.9%)より1.4ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－２－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－３ 整備・充実が必要な施設<子育て・福祉施設>（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％

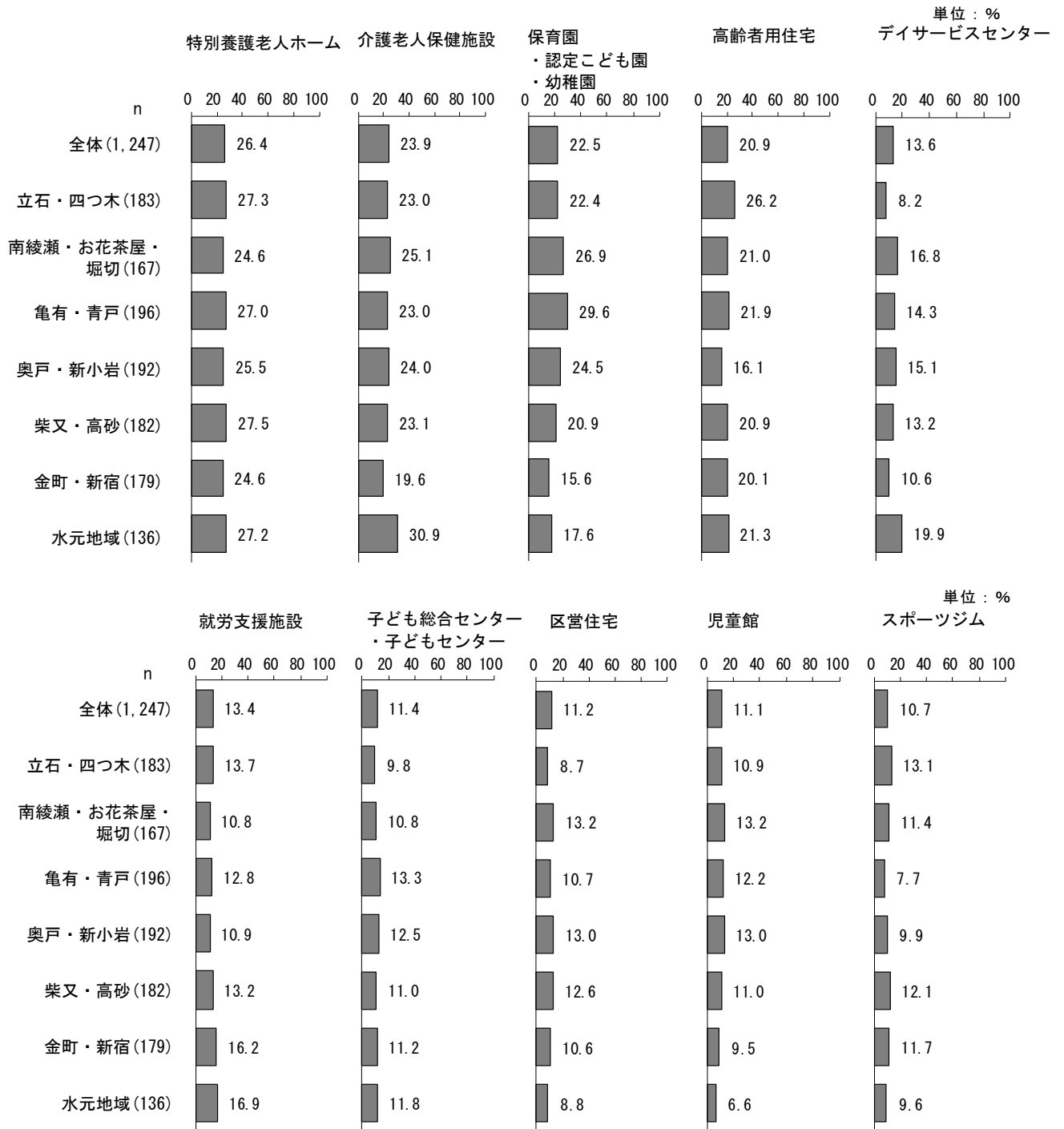


上位10項目について性別でみると、「特別養護老人ホーム」は、「女性」(27.8%)が「男性」(24.4%)より3.4ポイント、「介護老人保健施設」は、「女性」(25.0%)が「男性」(22.4%)より2.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「特別養護老人ホーム」は、「男性70歳以上」(38.5%)と「女性70歳以上」(37.8%)、「保育園・認定こども園・幼稚園」は、「男性30～39歳」(39.1%)と「女性30～39歳」(46.7%)が、それぞれ高くなっている。(図表Ⅲ－２－３)

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－４ 整備・充実が必要な施設＜子育て・福祉施設＞（上位10項目）（居住地域別）



上位10項目について居住地域別でみると、「特別養護老人ホーム」は、「柴又・高砂」(27.5%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(27.3%)、「水元地域」(27.2%)と続いている。また、「介護老人保健施設」は、「水元地域」(30.9%)が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(25.1%)、「奥戸・新小岩」(24.0%)と続いている。(図表Ⅲ－２－４)

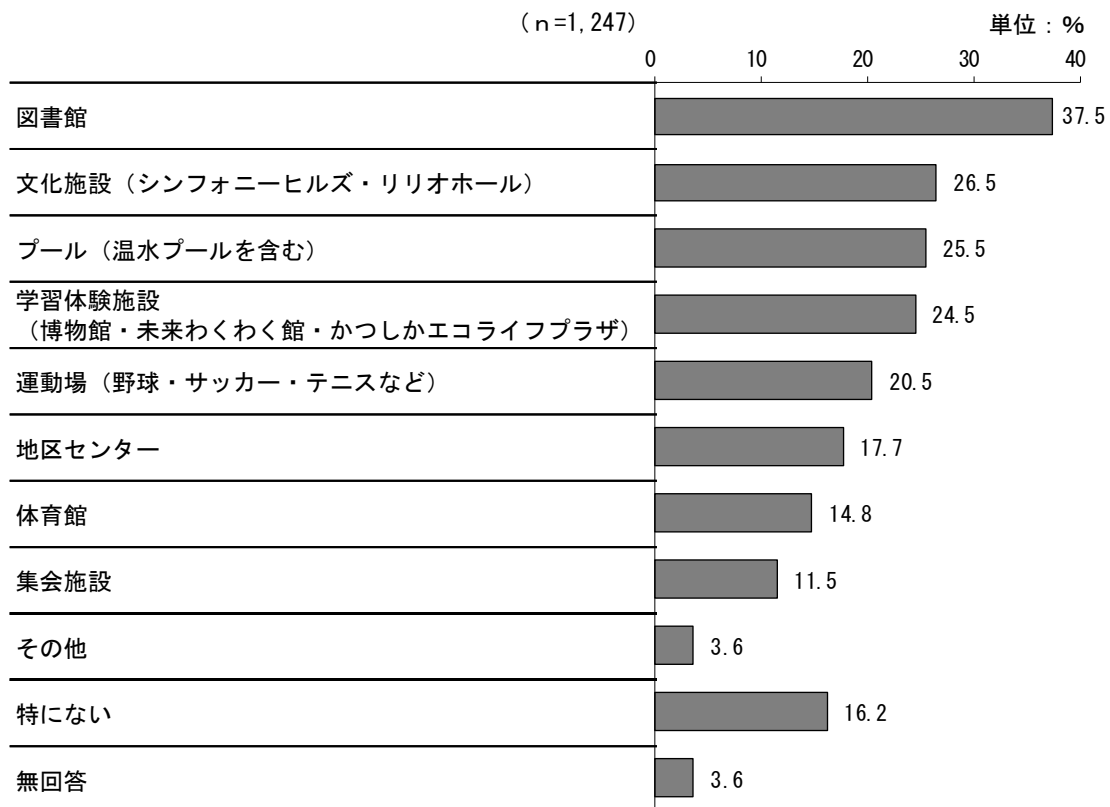
<教育・文化・スポーツ施設>

◆ 「図書館」が4割近く

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(2) 教育・文化・スポーツ施設について (〇は3つまで)

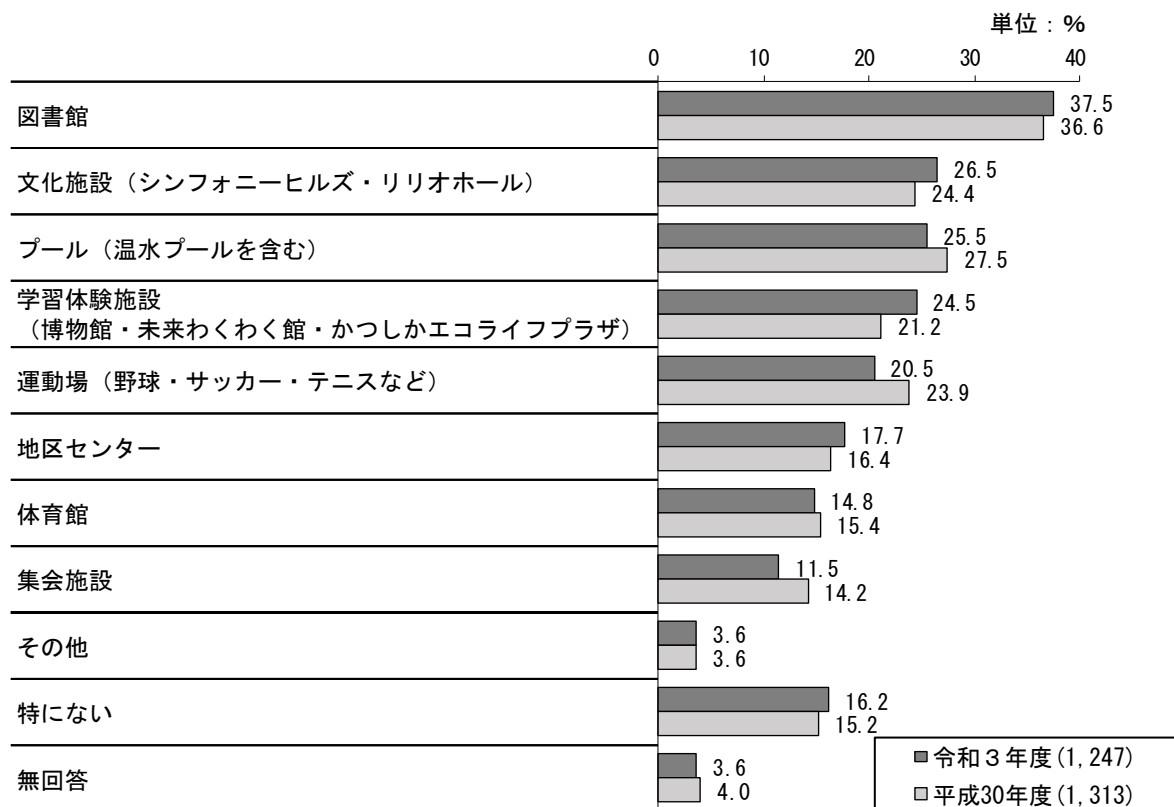
図表Ⅲ-2-5 整備・充実が必要な施設<教育・文化・スポーツ施設>



整備・充実が必要な教育・文化・スポーツ施設は、「図書館」(37.5%)が4割近くと最も高く、次いで「文化施設 (シンフォニーヒルズ・リリオホール)」(26.5%)、「プール (温水プールを含む)」(25.5%)と続いている。(図表Ⅲ-2-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－６ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（経年変化）

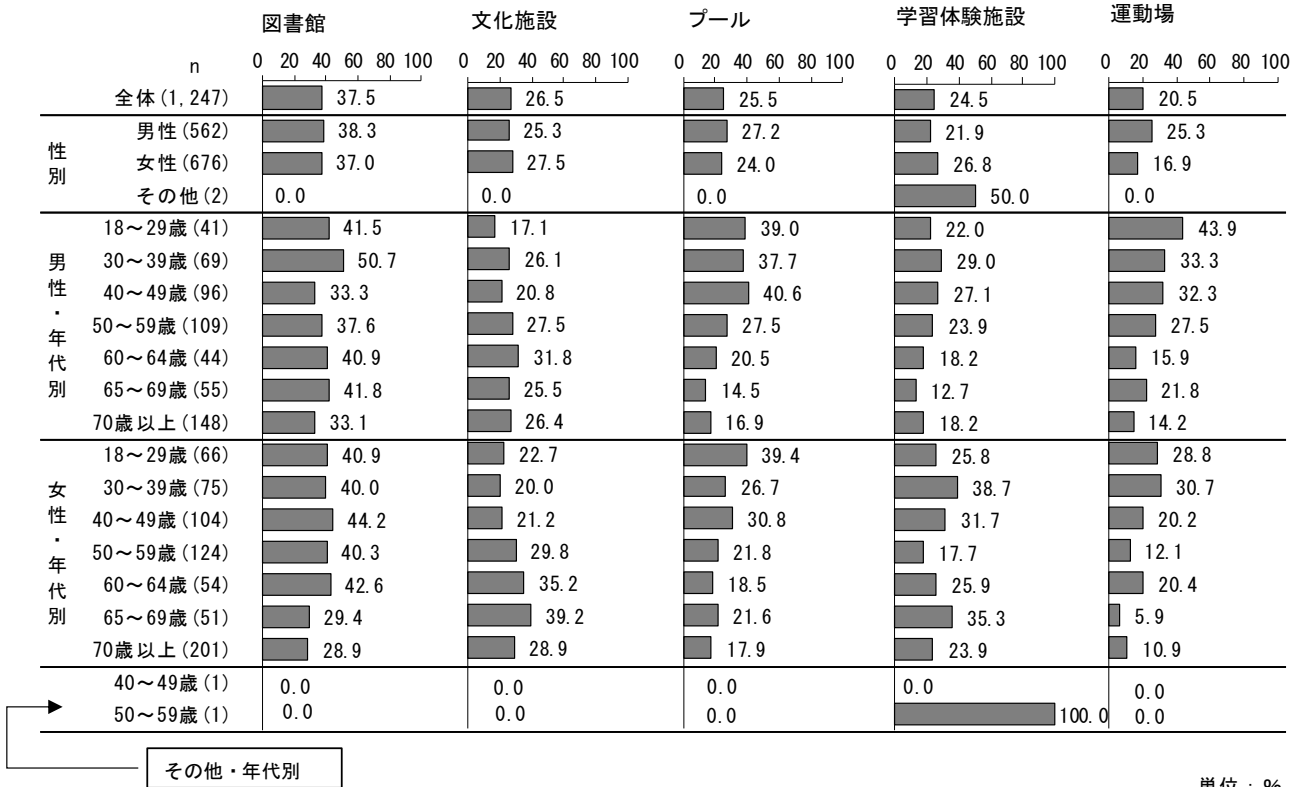


「図書館」（37.5％）は平成30年度調査（36.6％）より0.9ポイント、「文化施設（シンフォニーヒルズ・リリオホール）」（26.5％）は平成30年度調査（24.4％）より2.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」（20.5％）は、平成30年度調査（23.9％）より3.4ポイント減少している。（図表Ⅲ－２－６）

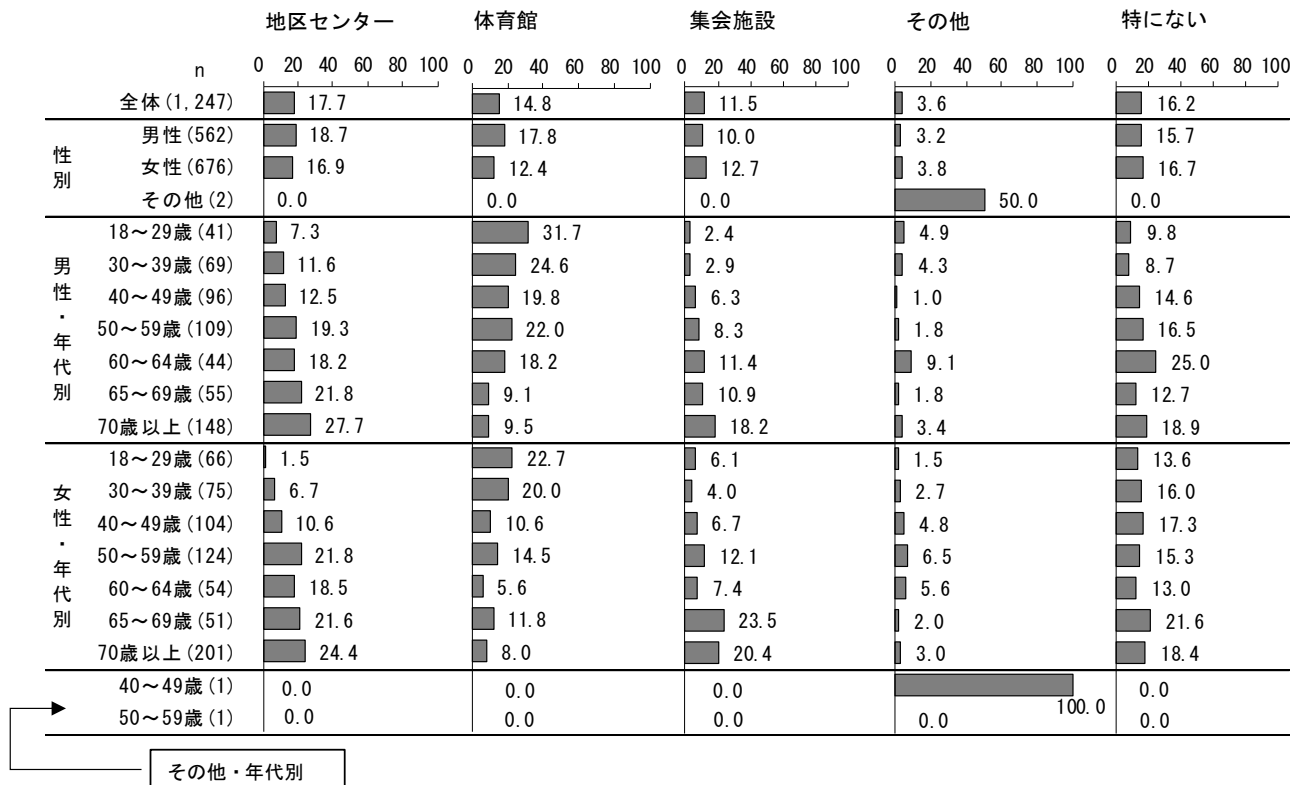
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－７ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



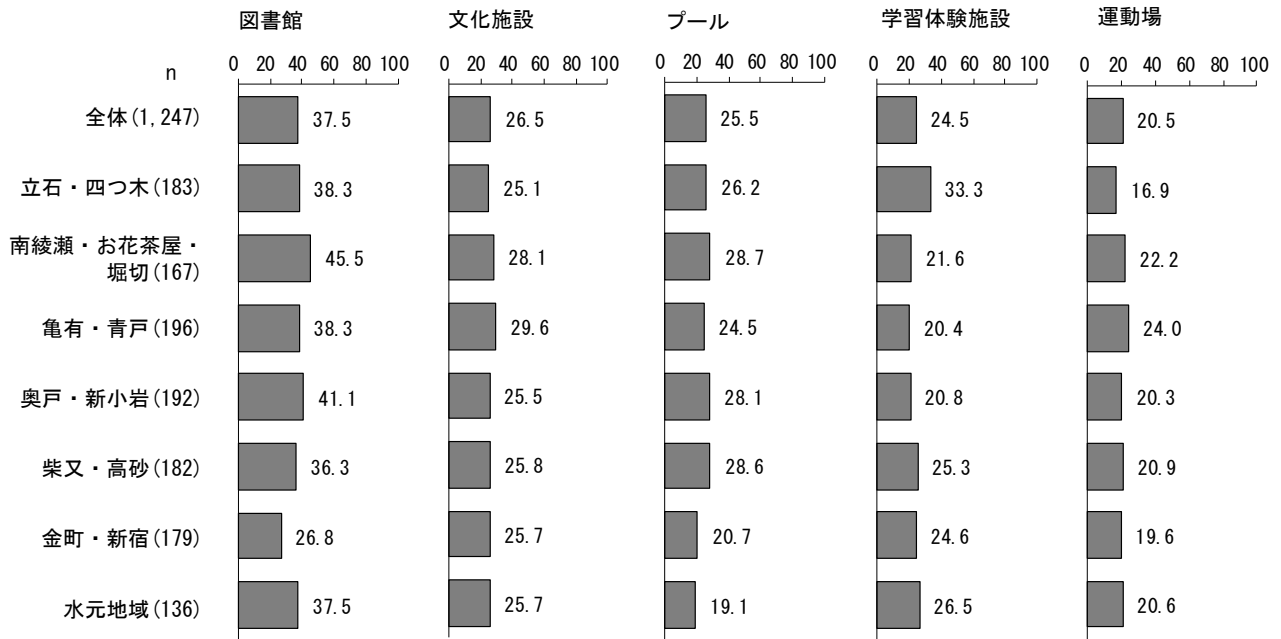
性別で見ると、「図書館」は、「男性」(38.3%)が「女性」(37.0%)より1.3ポイント高くなっている。一方、「学習体験施設(博物館・未来わくわく館・かつしかエコライフプラザ)」は、「女性」(26.8%)が「男性」(21.9%)より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「図書館」は、「男性 30～39歳」(50.7%)が最も高くなっている。「プール(温水プールを含む)」は、「男性 40～49歳」(40.6%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－２－７)

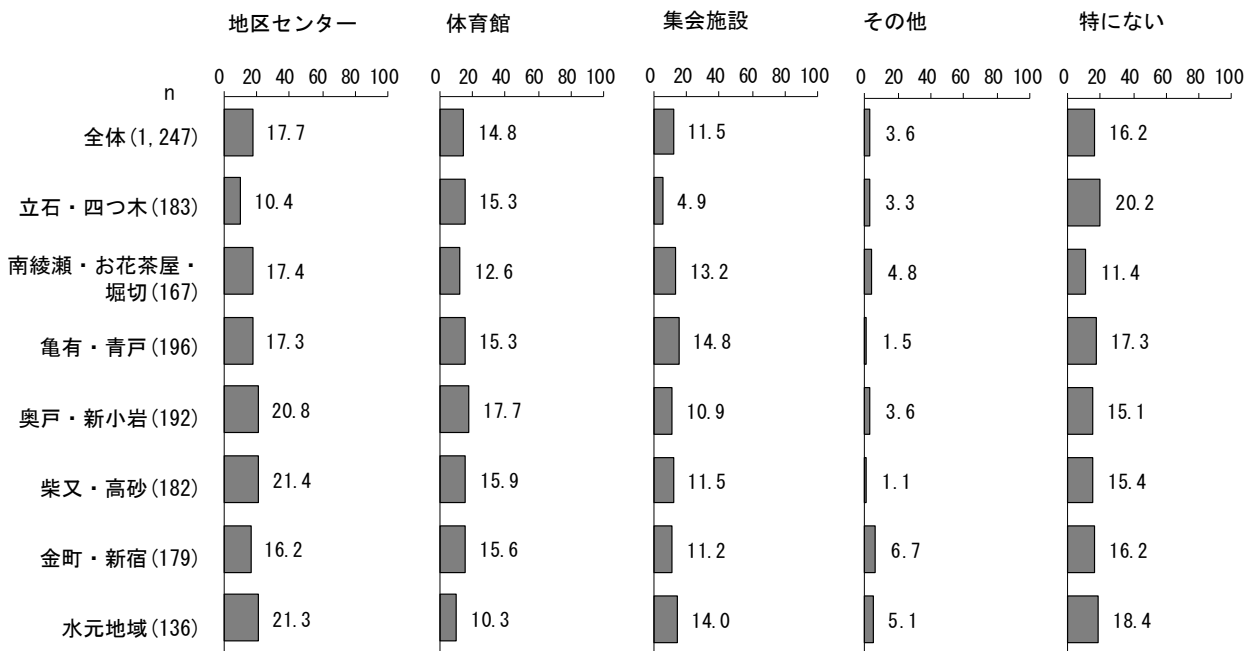
【居住地域別】

図表Ⅲ－２－８ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（居住地域別）

単位：％



単位：％



居住地域別でみると、「図書館」は「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(45.5%)が最も高く、次いで「奥戸・新小岩」(41.1%)、「立石・四つ木」(38.3%)および「亀有・青戸」(38.3%)と続いている。また、「文化施設(シンフォニーヒルズ・リリオホール)」は、「亀有・青戸」(29.6%)が最も高くなっており、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(28.1%)、「柴又・高砂」(25.8%)と続いている。(図表Ⅲ－２－８)

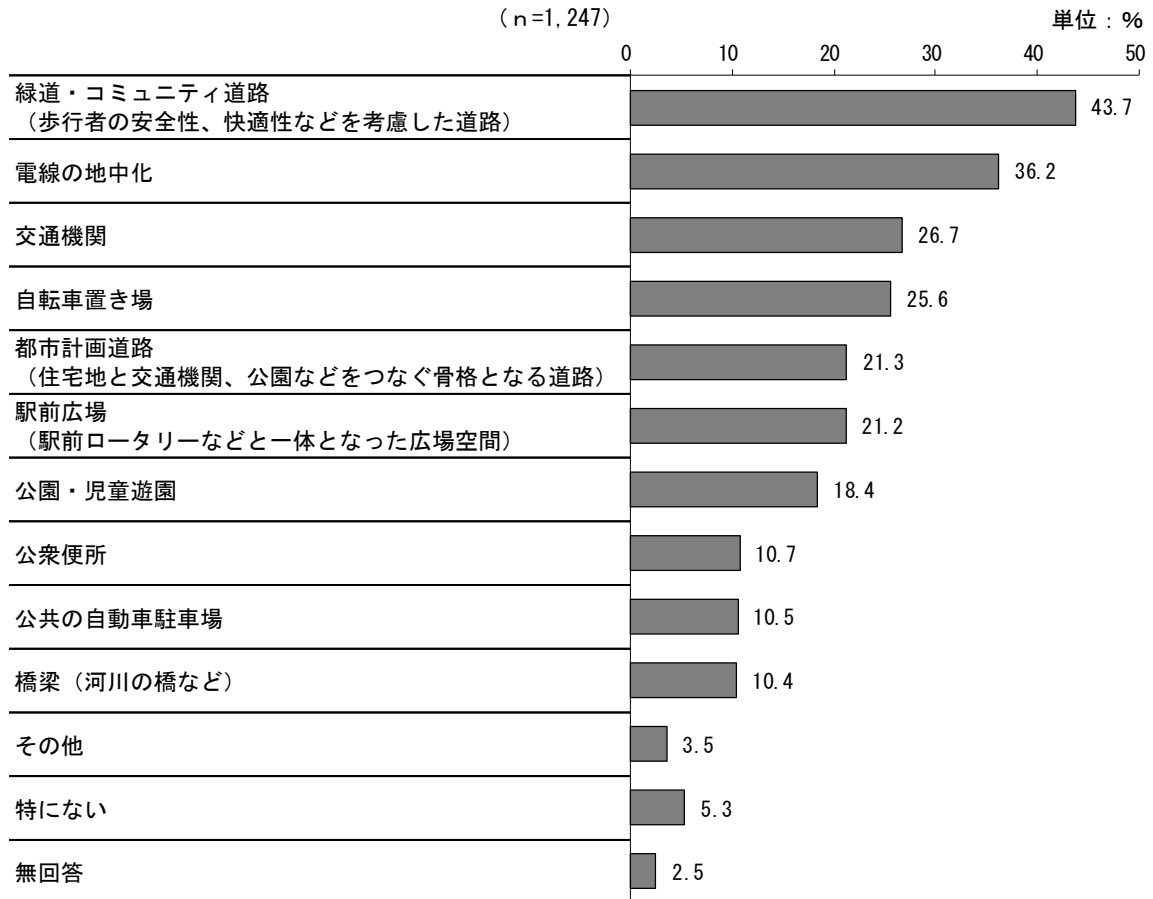
<都市施設>

◆ 「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性を考慮した道路）」が4割強

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(3) 都市施設について (〇は3つまで)

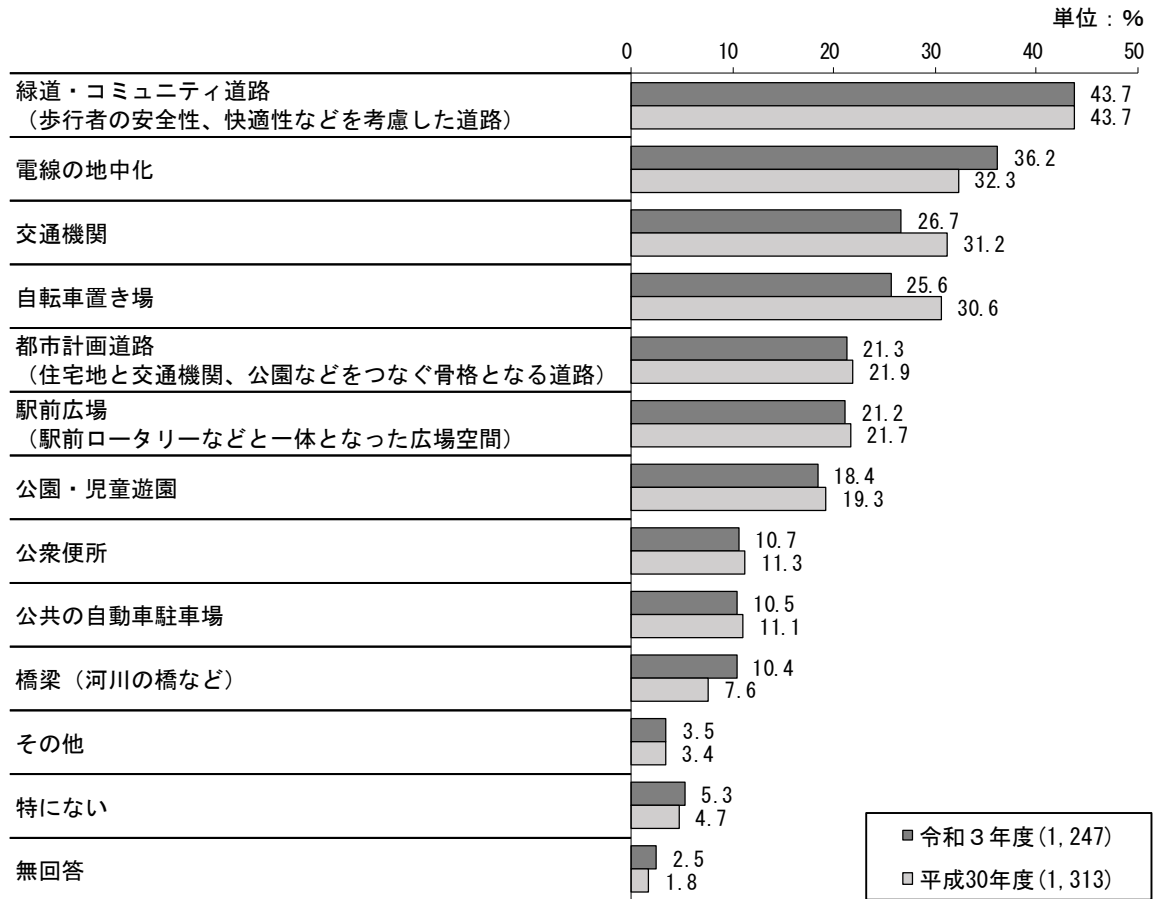
図表Ⅲ－２－９ 整備・充実が必要な施設<都市施設>



整備・充実が必要な「都市施設」は、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性を考慮した道路）」(43.7%)が4割強と最も高く、次いで「電線の地中化」(36.2%)、「交通機関」(26.7%)と続いている。(図表Ⅲ－２－９)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－10 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（経年変化）

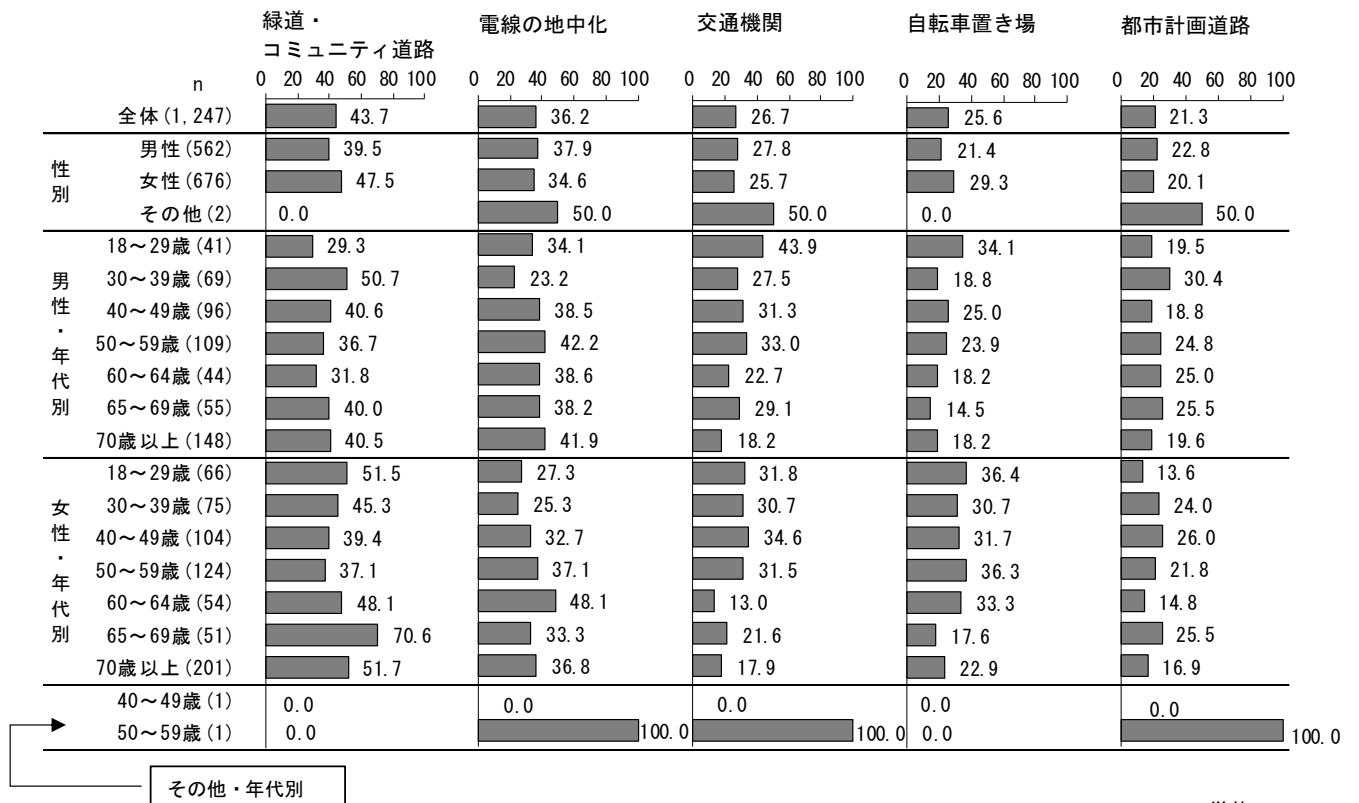


「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性を考慮した道路）」は平成 30 年度調査と同率となっている。「電線の地中化」（36.2％）は平成 30 年度調査（32.3％）より 3.9 ポイント増加している。一方、「交通機関」（26.7％）は平成 30 年度調査（31.2％）より 4.5 ポイント、「自転車置き場」（25.6％）は平成 30 年度調査（30.6％）より 5.0 ポイント、減少している。（図表Ⅲ－２－10）

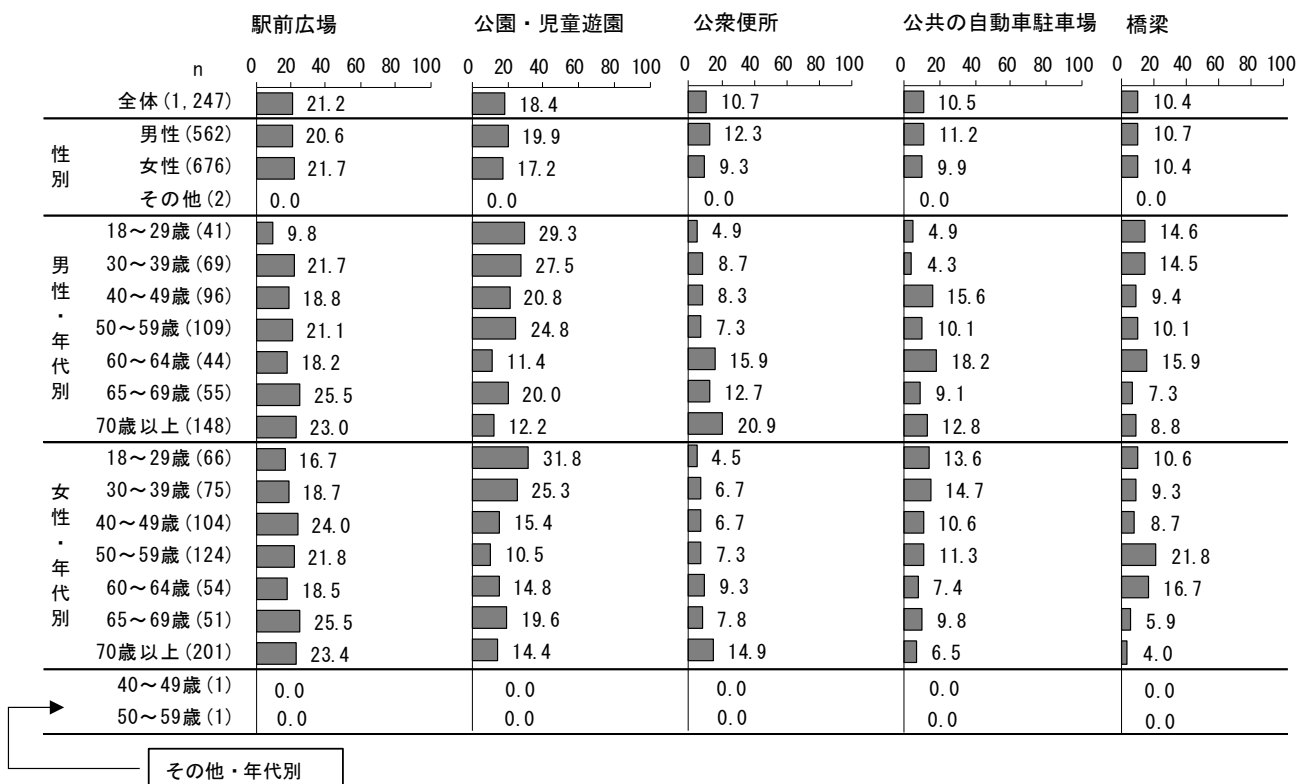
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－１１ 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



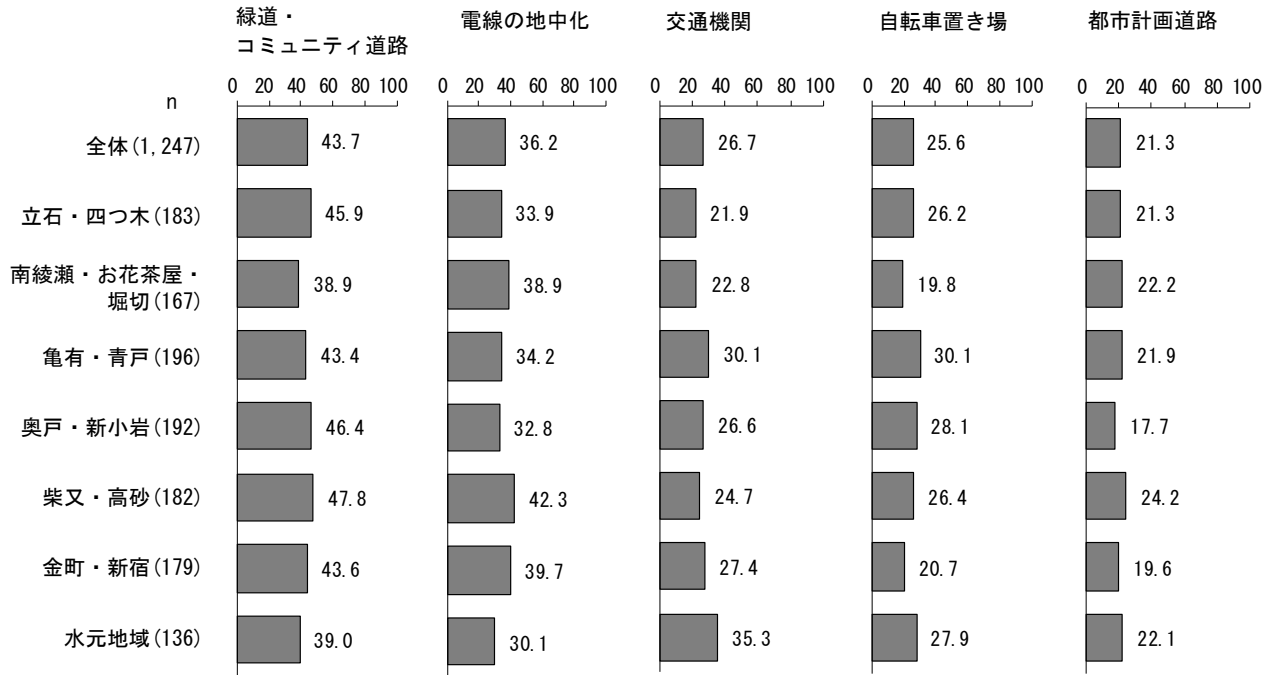
上位10項目について性別で見ると、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」は、「女性」（47.5.％）が「男性」（39.5％）より8.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」は、「女性65～69歳」（70.6％）が約7割、「電線の地中化」は、「女性60～64歳」（48.1％）が5割近く、「交通機関」は、「男性18～29歳」（43.9％）が4割強で高くなっている。（図表Ⅲ－２－11）

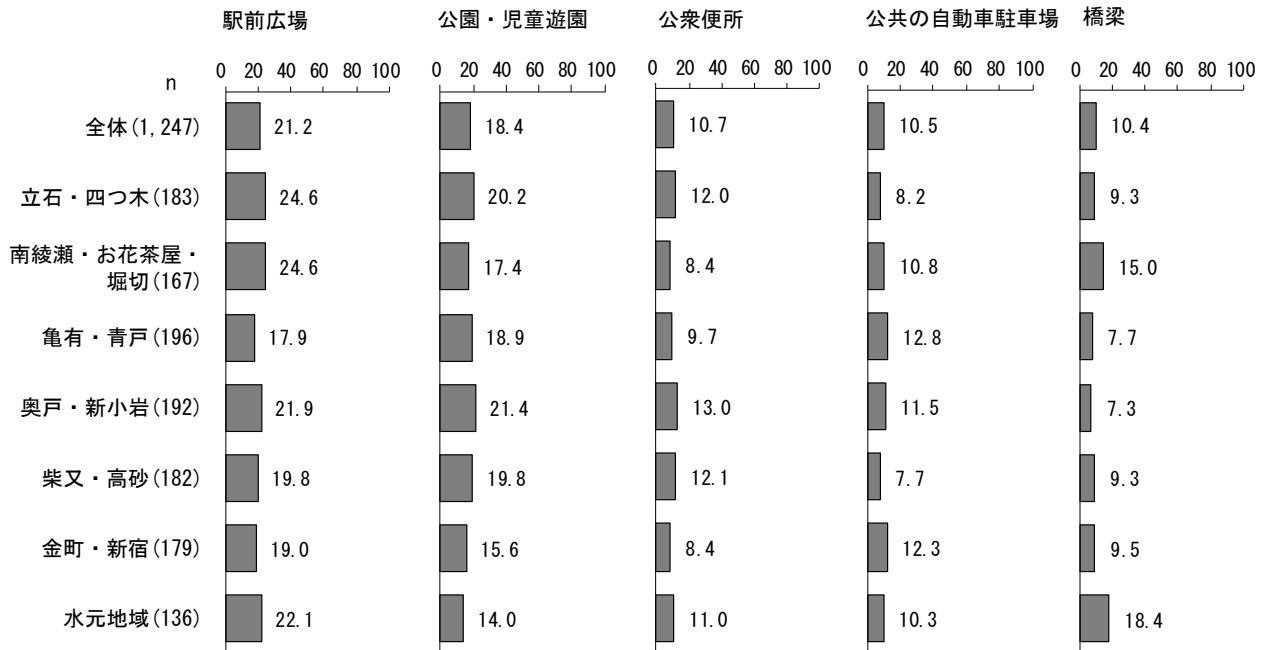
【居住地域別】

図表Ⅲ－２－12 整備・充実が必要な施設<都市施設>（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



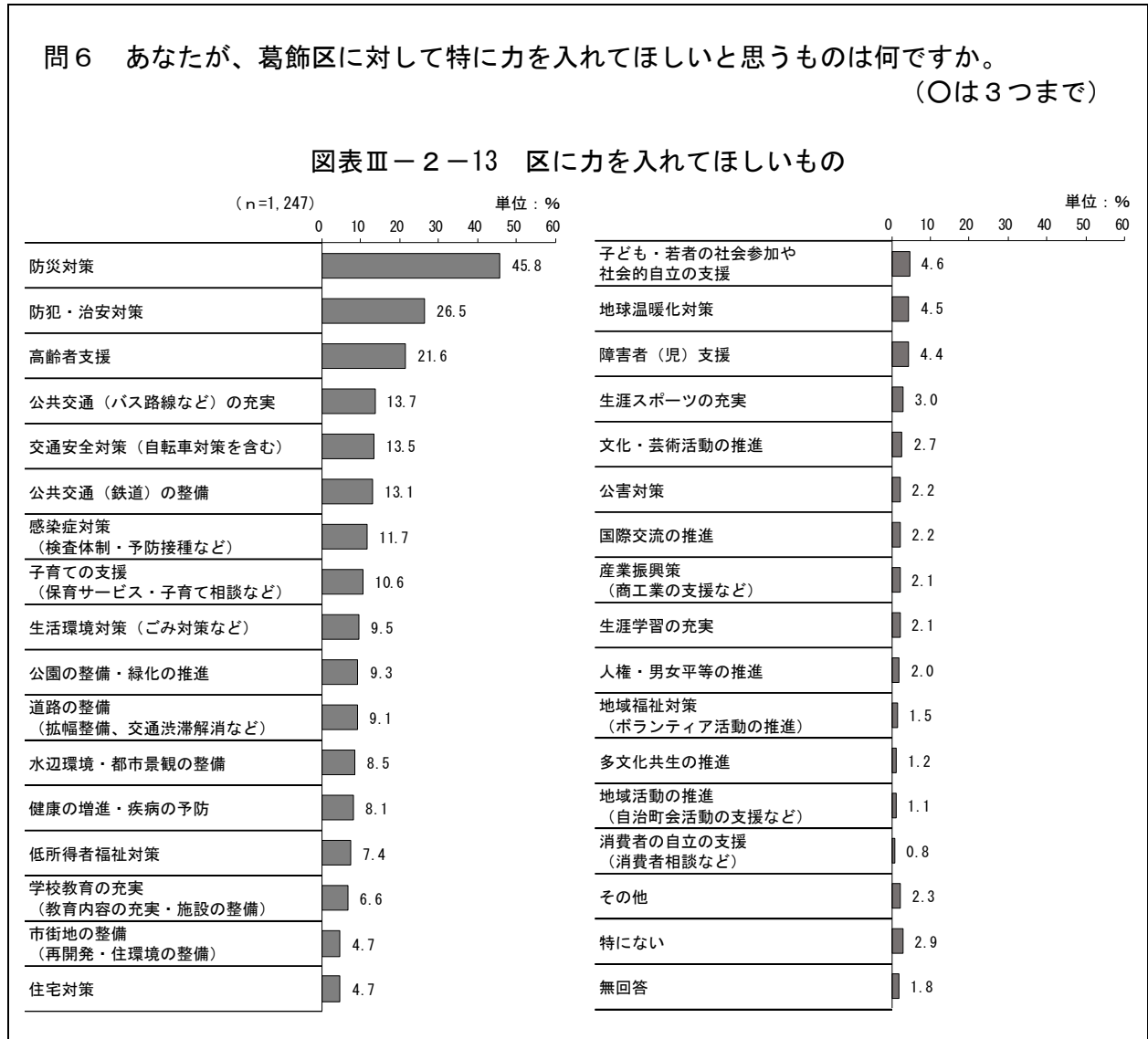
単位：%



上位10項目について居住地域別でみると、「緑道・コミュニティ道路（歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路）」は、「柴又・高砂」（47.8%）が5割近くで最も高く、次いで「奥戸・新小岩」（46.4%）、「立石・四つ木」（45.9%）と続いている。また、「電線の地中化」は「柴又・高砂」（42.3%）、「交通機関」は「水元地域」（35.3%）がそれぞれ最も高くなっている。（図表Ⅲ－２－12）

(2) 区に力を入れてほしいもの

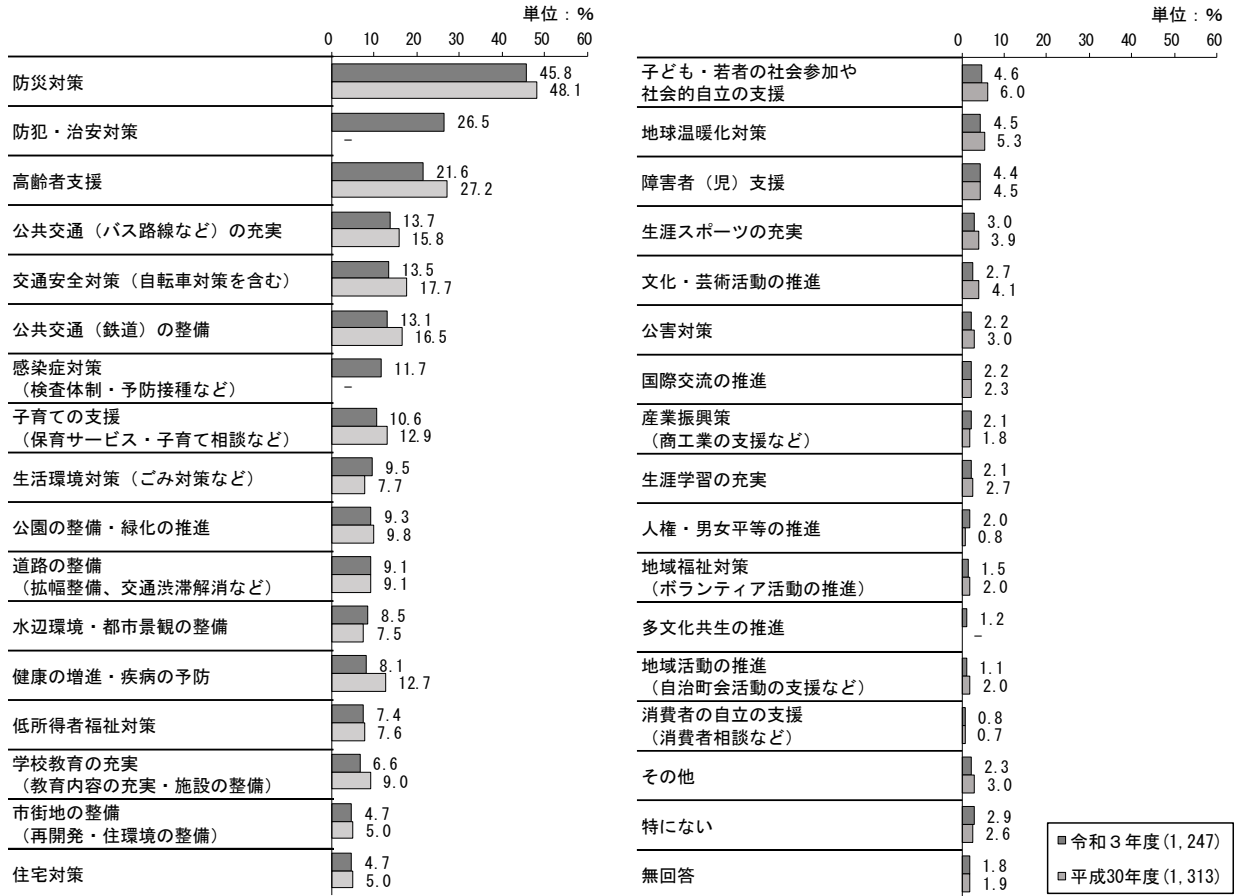
◆ 「防災対策」が4割台半ば



区に力を入れてほしいものは、「防災対策」(45.8%)が4割台半ばと最も高く、次いで「防犯・治安対策」(26.5%)、「高齢者支援」(21.6%)と続いている。(図表Ⅲ-2-13)

【経年変化】

図表Ⅲ－２－14 区に力を入れてほしいもの（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「防犯・治安対策」「感染症対策（検査体制・予防接種など）」「多文化共生の推進」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「地域活動の推進（町会・自治会活動の支援など）」を「地域活動の推進（自治町会活動の支援など）」に変更した。

「防災対策」(45.8%)は、平成30年度調査(48.1%)より2.3ポイント減少している。また、「高齢者支援」(21.6%)は平成30年度調査(27.2%)より5.6ポイント、「公共交通（バス路線など）の充実」(13.7%)は平成30年度調査(15.8%)より2.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「生活環境対策（ごみ対策など）」(9.5%)は、平成30年度調査(7.7%)より1.8ポイント増加している。(図表Ⅲ－２－14)

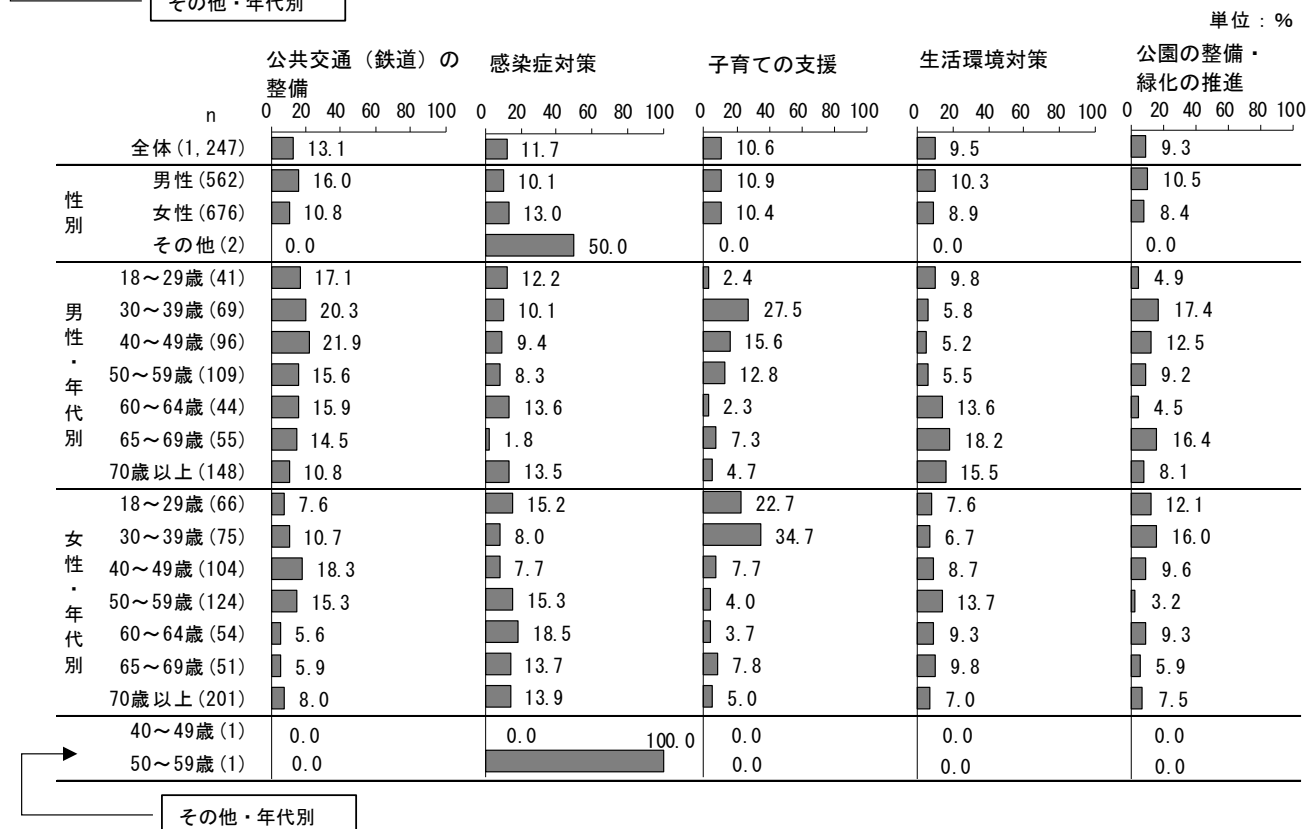
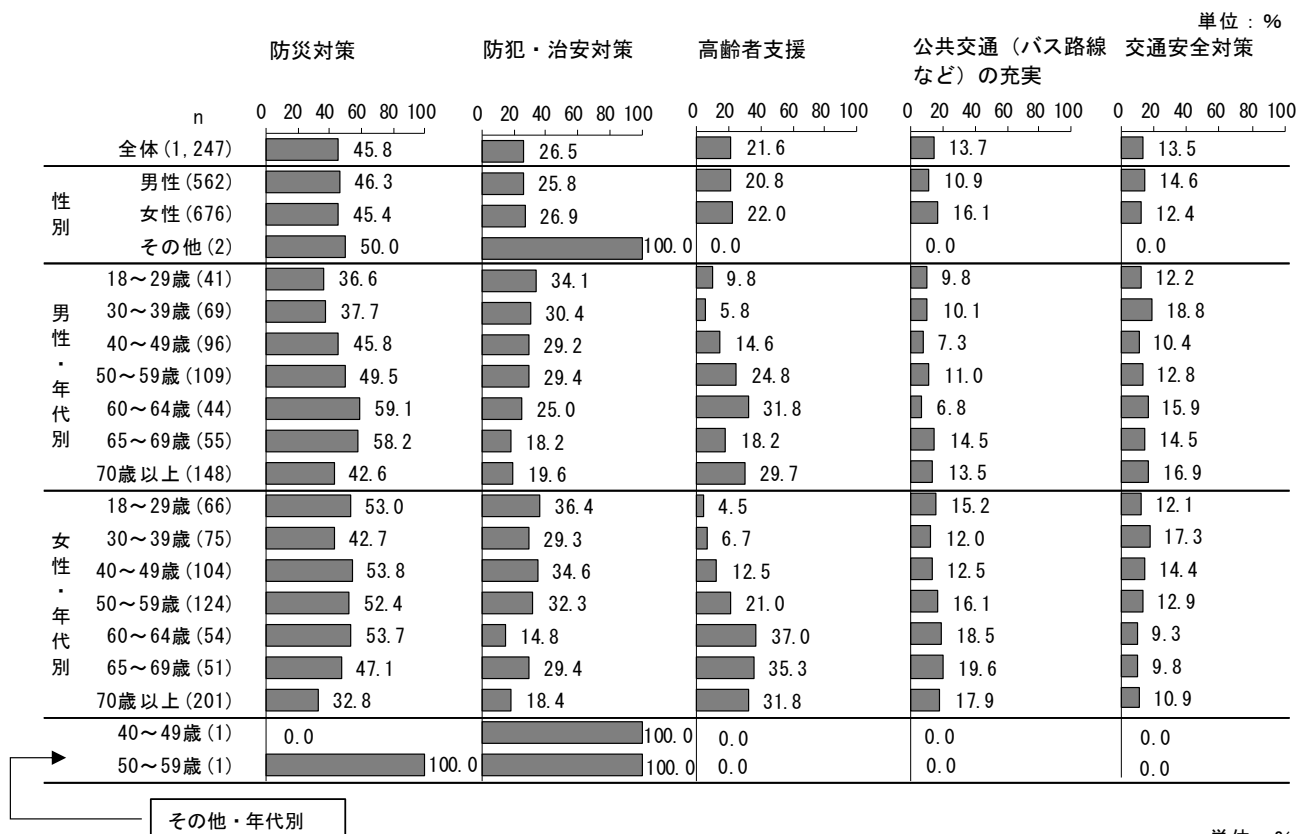
図表Ⅲ－２－15 区に力を入れてほしいもの（経年変化）

	第13回 (平成22年度)	第14回 (平成25年度)	第15回 (平成27年度)	第16回 (平成30年度)	第17回 (令和3年度)
1	高齢者福祉対策	防災対策	防災対策	防災対策	防災対策
2	防災対策	高齢者福祉対策	高齢者福祉対策	高齢者支援	防犯・治安対策
3	子育ての支援	交通安全対策 (自転車対策を含む)	交通安全対策 (自転車対策を含む)	交通安全対策 (自転車対策を含む)	高齢者支援
4	学校教育の充実	健康の増進・疾病の予防	健康の増進・疾病の予防	公共交通（鉄道）の整備	公共交通（バス路線など）の整備
5	健康の増進・疾病の予防	子育ての支援	子育ての支援	公共交通（バス路線など）の整備	交通安全対策 (自転車対策を含む)

第14回以降「防災対策」は第1位を維持している。「高齢者福祉対策」は第14回以降第2位であったが、令和3年度調査では第3位となった。(図表Ⅲ－２－15)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－２－１６ 区に力を入れてほしいもの（上位10項目）（性別／性・年代別）

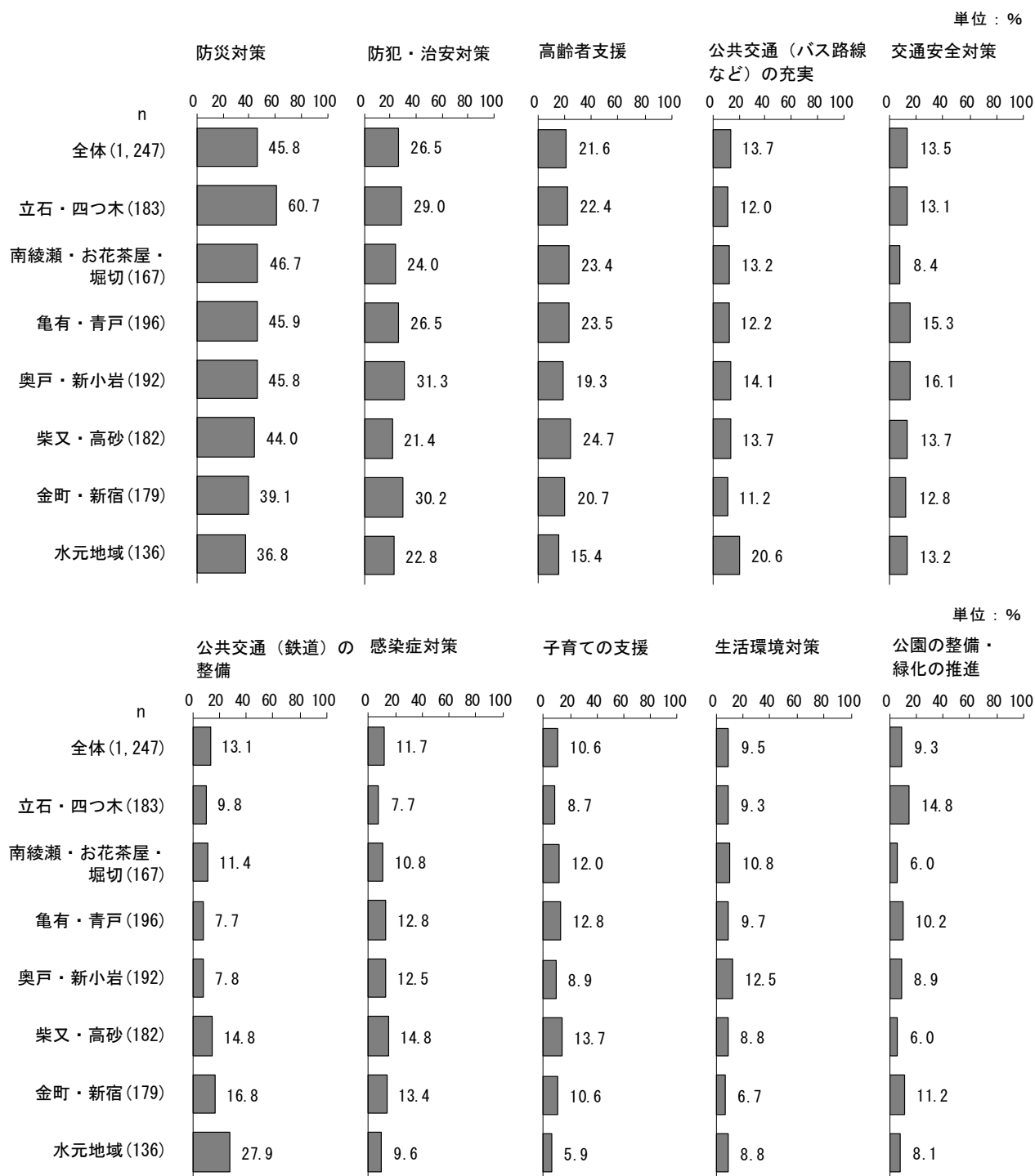


上位10項目について性別で見ると、上位3項目に大きな差はみられない。「公共交通（バス路線など）の充実」は、「女性」（16.1%）が「男性」（10.9%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「防災対策」は、「男性60～64歳」（59.1%）が6割弱、「女性40～49歳」（53.8%）が4割強で最も高くなっている。「高齢者支援」は、「女性60～64歳」（37.0%）が最も高くなっている。（図表Ⅲ－２－16）

【居住地域別】

図表Ⅲ－２－１７ 区に力を入れてほしいもの（上位 10 項目）（居住地域別）

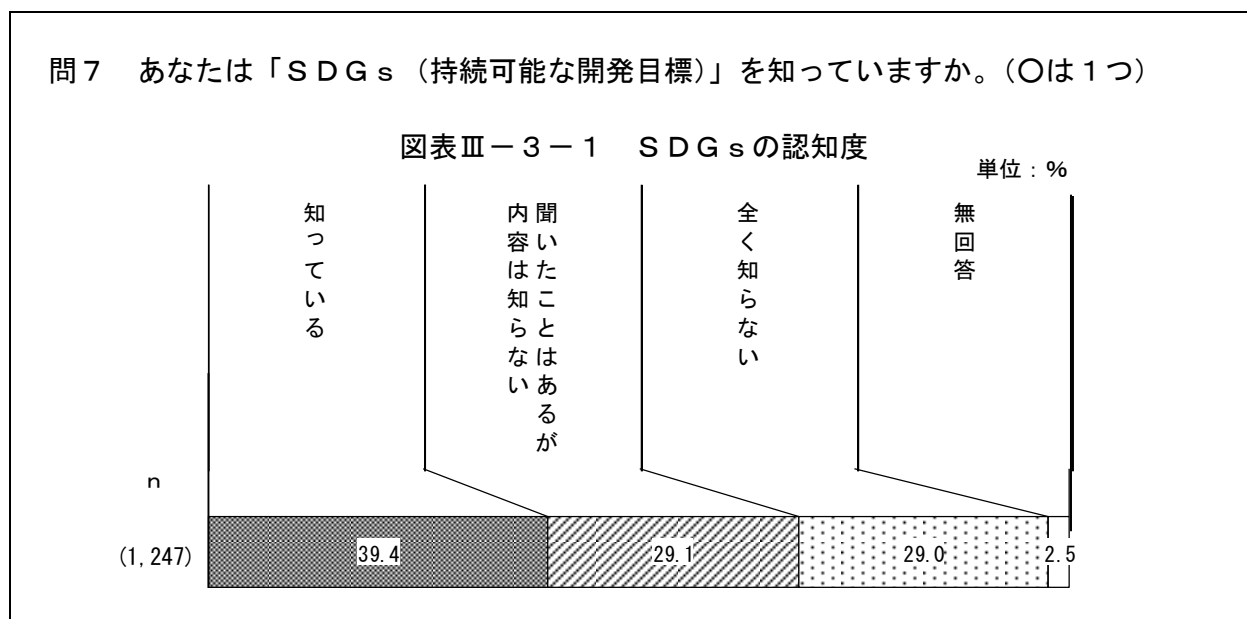


上位 10 項目について居住地域別でみると、「防災対策」は「立石・四つ木」（60.7％）が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（46.7％）、「亀有・青戸」（45.9％）と続いている。また、「防犯・治安対策」は「奥戸・新小岩」（31.3％）が最も高く、次いで「金町・新宿」（30.2％）、「立石・四つ木」（29.0％）と続いている。（図表Ⅲ－２－１７）

3. SDGs

(1) SDGsの認知度

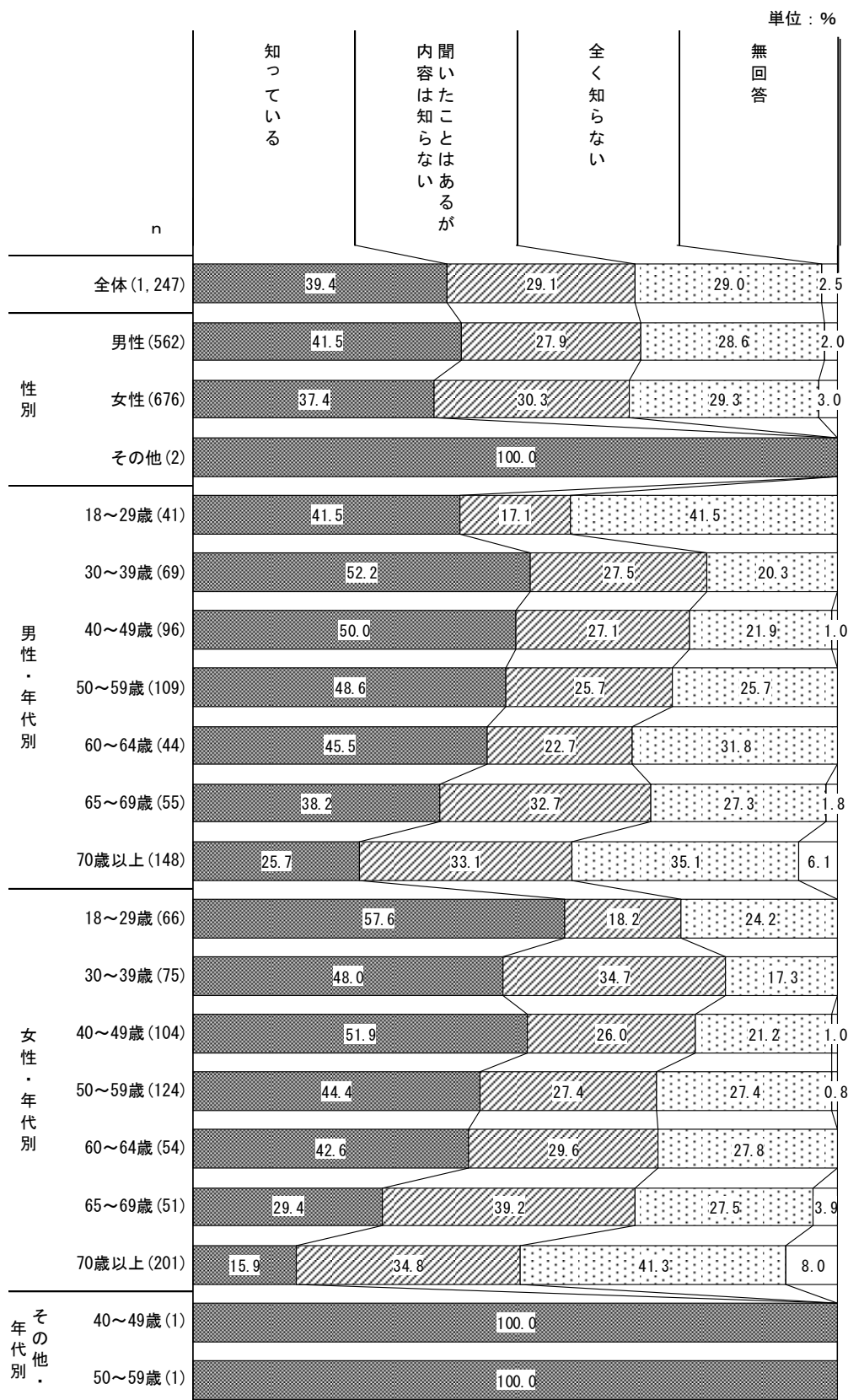
◆ 「知っている」が4割弱



SDGsの認知度は、「知っている」(39.4%)が4割弱となっている。一方、「全く知らない」(29.0%)は3割弱となっている。(図表Ⅲ-3-1)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－3－2 SDGsの認知度（性別／性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は、「男性」(41.5%)が「女性」(37.4%)より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は、「男性30～39歳」(52.2%)および「女性18～29歳」(57.6%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－3－2)

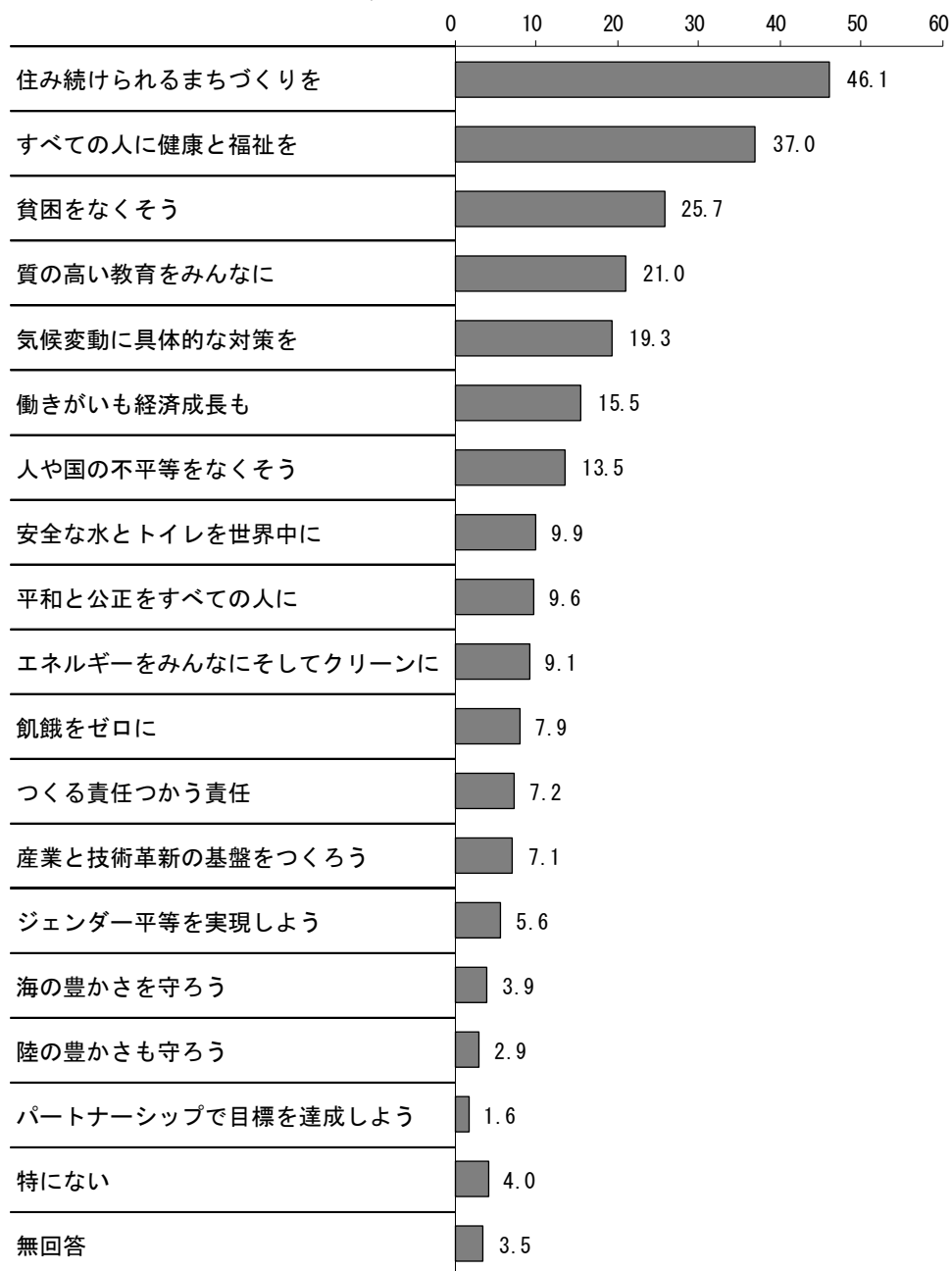
(2) 「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいもの

◆ 「住み続けられるまちづくりを」が5割近く

問8 「SDGs」の17の目標のうち葛飾区に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(〇は3つまで)

図表Ⅲ-3-3 「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいもの

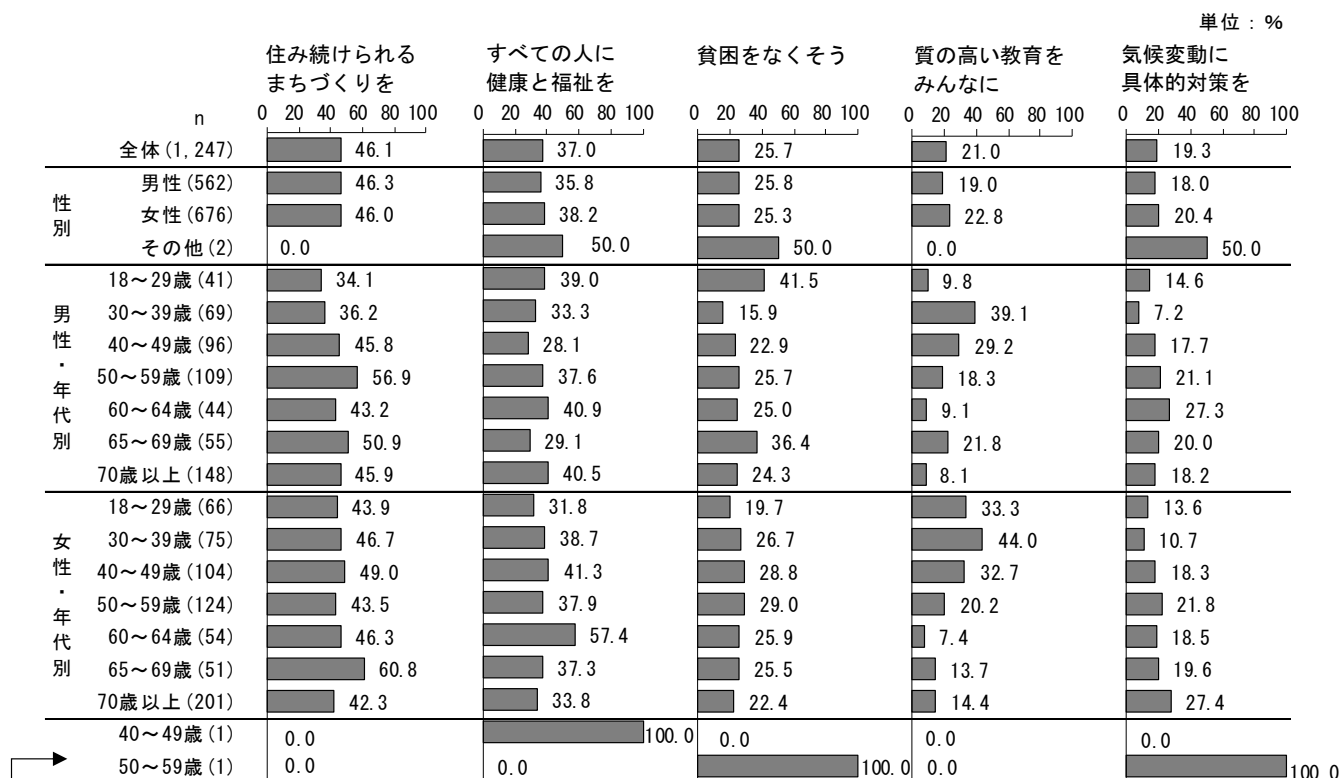
(n=1,247)



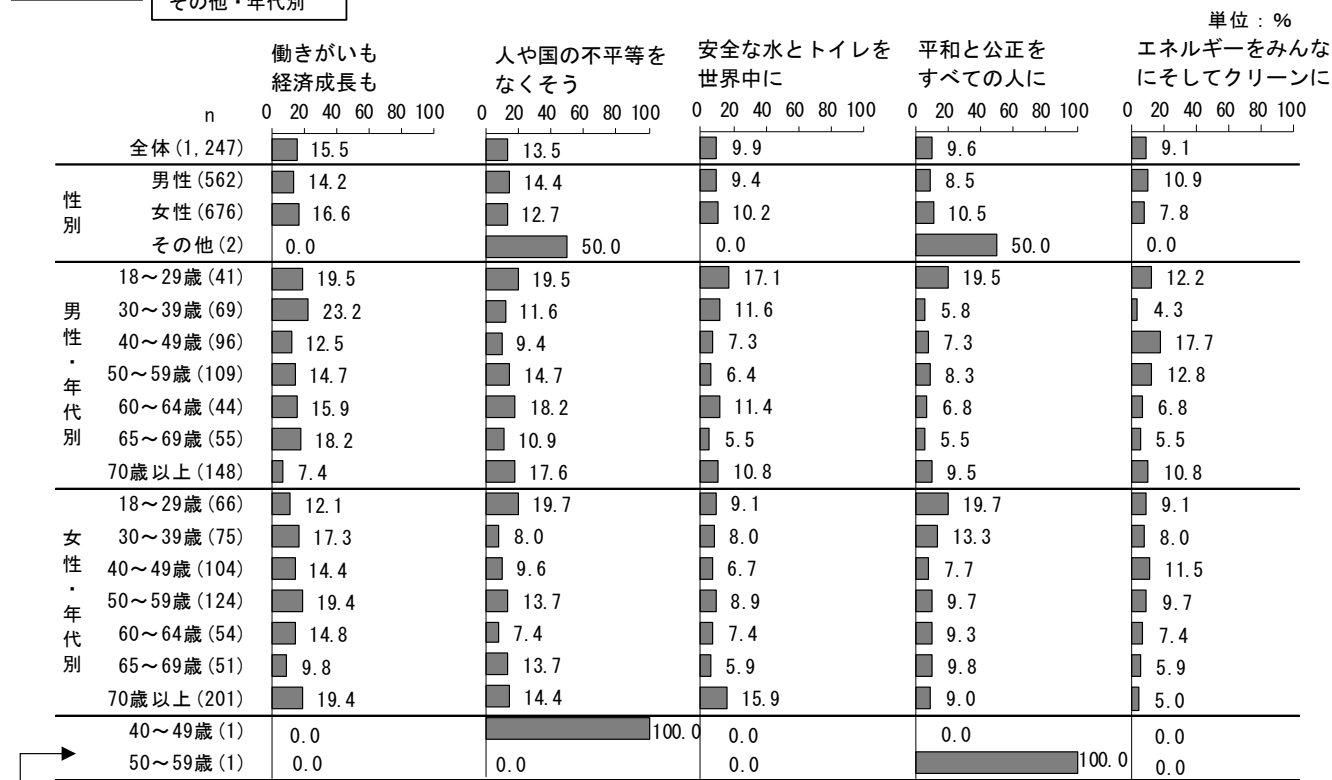
「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいものは、「住み続けられるまちづくりを」(46.1%)が5割近くと最も高く、次いで「すべての人に健康と福祉を」(37.0%)、「貧困をなくそう」(25.7%)と続いている。(図表Ⅲ-3-3)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－３－４ 「SDGs」の17の目標のうち区に力を入れてほしいもの（上位10項目）
（性別／性・年代別）



その他・年代別



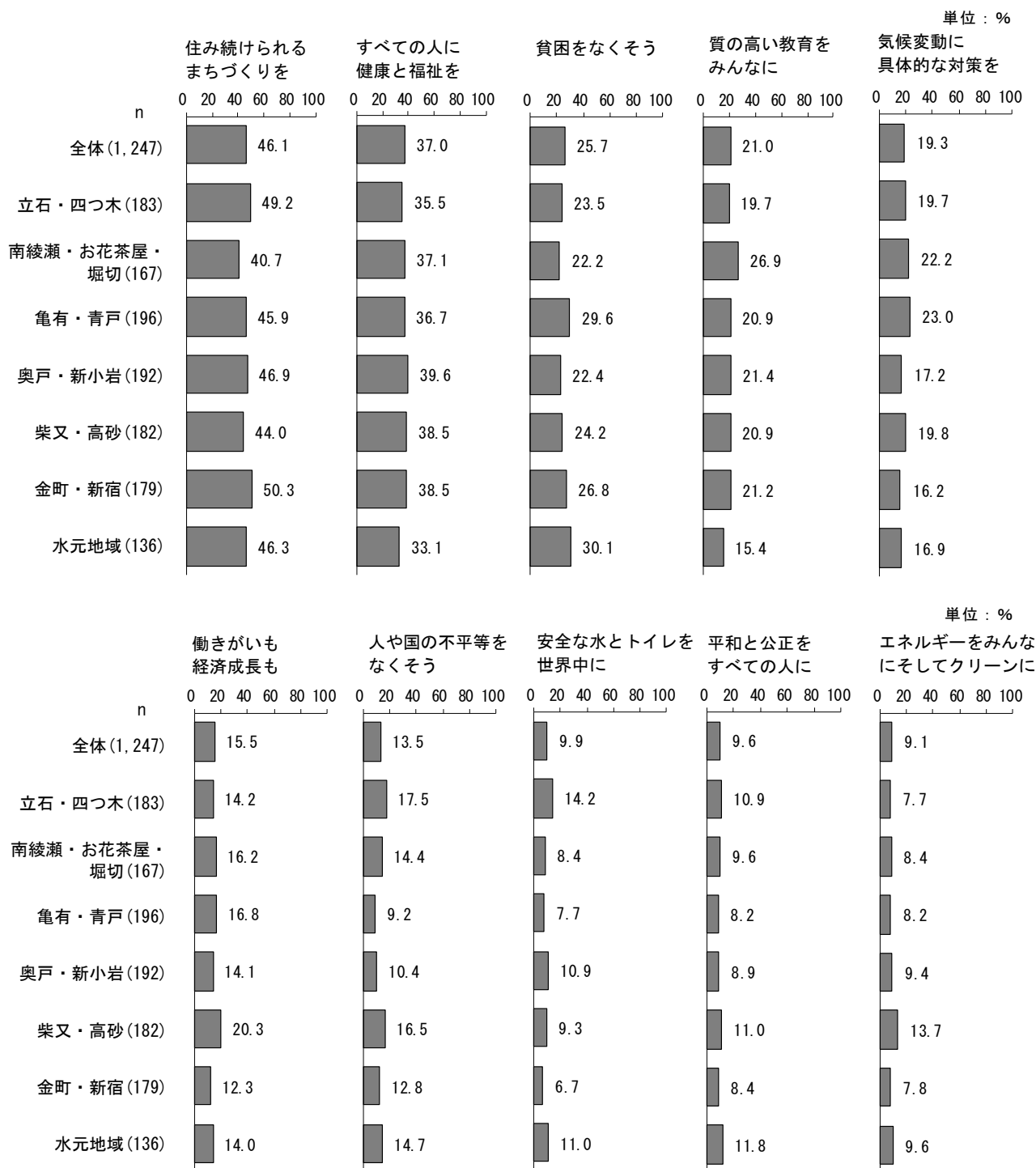
その他・年代別

上位10項目について性別で見ると、「住み続けられるまちづくりを」は、「男性」(46.3%)が「女性」(46.0%)より0.3ポイント高くなっている。また、「質の高い教育をみんなに」は、「女性」(22.8%)が「男性」(19.0%)より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「住み続けられるまちづくりを」は、「女性65～69歳」(60.8%)が最も高くなっている。また、「すべての人に健康と福祉を」は、「女性60～64歳」(57.4%)がそれぞれ高くなっている。(図表Ⅲ－３－４)

【居住地域別】

図表Ⅲ－３－５ 区に力を入れてほしいもの（上位10項目）（居住地域別）



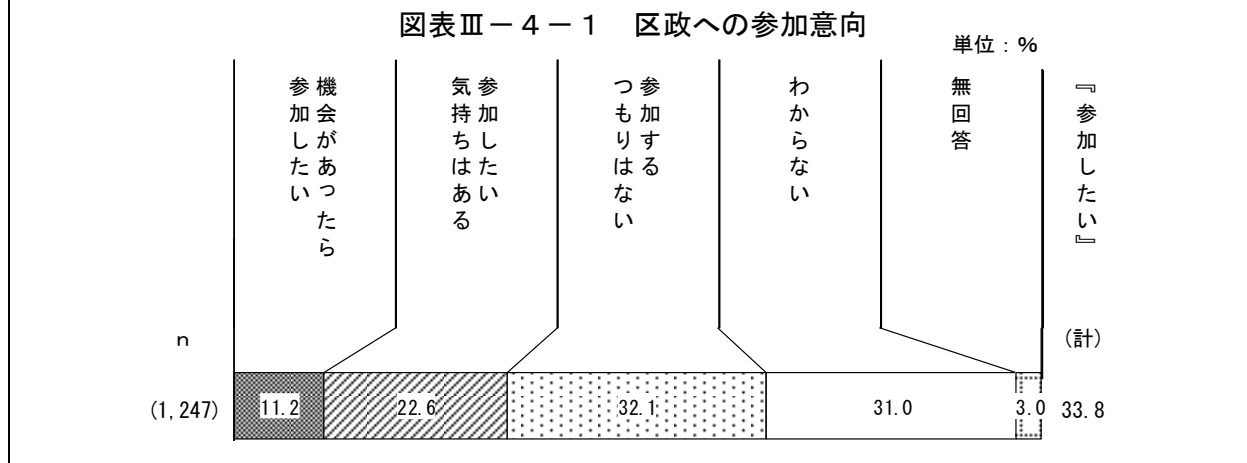
上位10項目について居住地域別でみると、「住み続けられるまちづくりを」は「金町・新宿」(50.3%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(49.2%)、「水元地域」(46.3%)と続いている。また、「すべての人に健康と福祉を」は「奥戸・新小岩」(39.6%)が最も高く、次いで「柴又・高砂」(38.5%)および「金町・新宿」(38.5%)と続いている。(図表Ⅲ－３－５)

4. 住民参加

(1) 区政への参加意向

◆ 『参加したい』が3割強

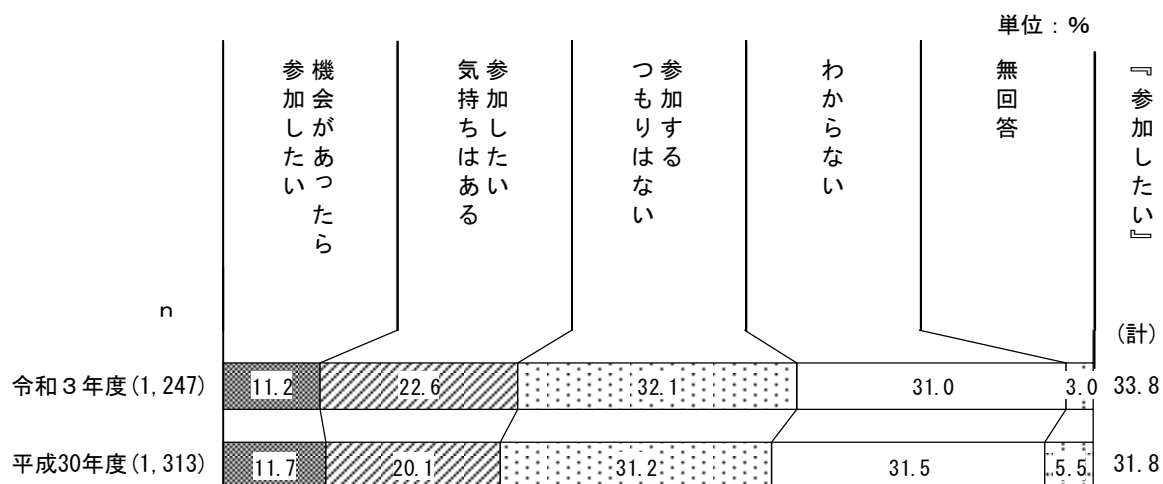
問9 葛飾区では区民との協働（パートナーシップ）により、区政を運営しています。あなたは区政に参加する機会があるならば参加したいという意思はありますか。（○は1つ）



区政への参加意向は、「わからない」(31.0%) および「参加するつもりはない」(32.1%) が、それぞれ3割強となっている。「機会があったら参加したい」(11.2%) と「参加したい気持ちはある」(22.6%) を合わせた『参加したい』(33.8%) も3割強となっている。(図表Ⅲ-4-1)

【経年変化】

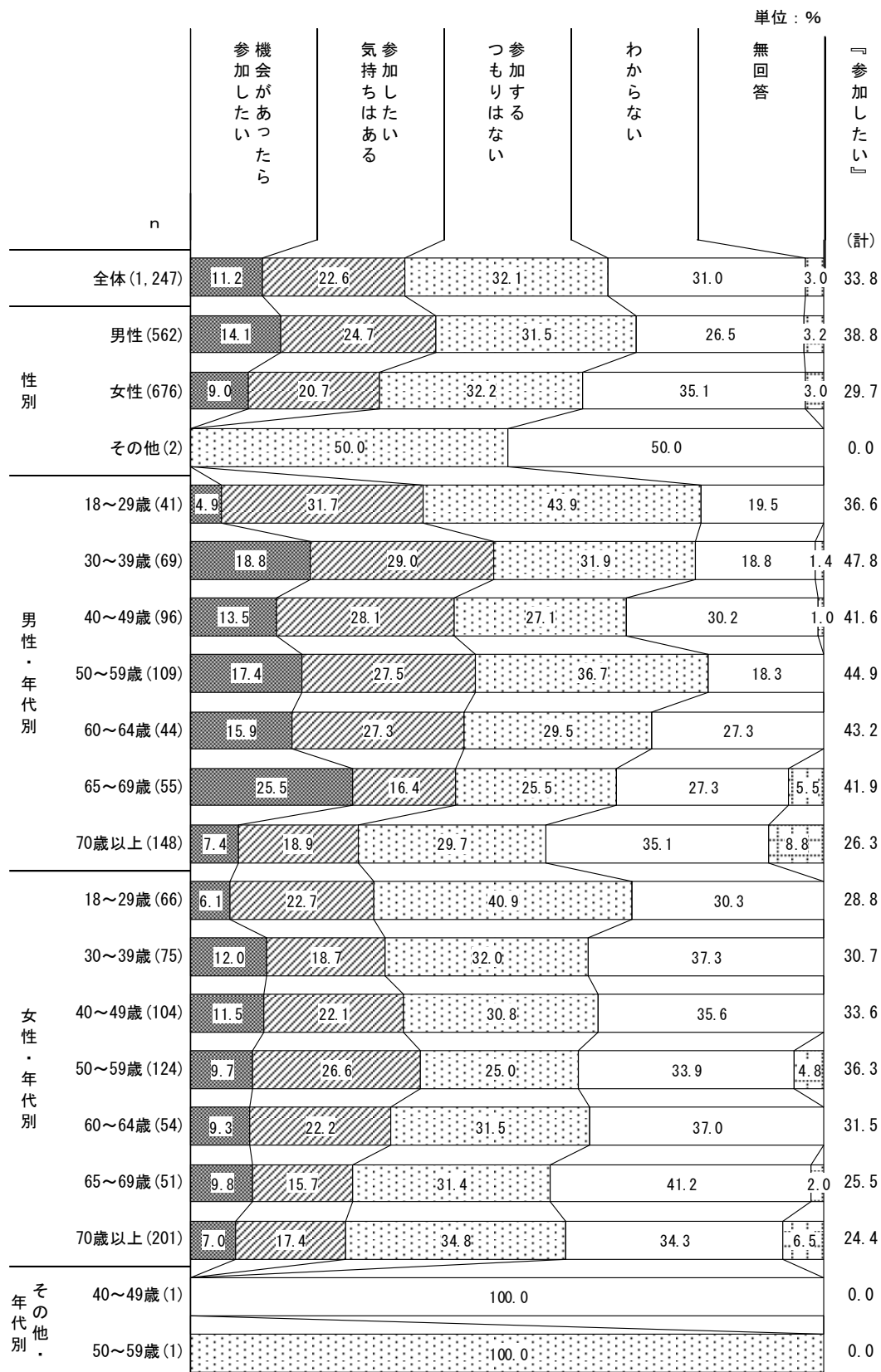
図表Ⅲ-4-2 区政への参加意向（経年変化）



『参加したい』(33.8%) は、平成30年度調査(31.8%)より2.0ポイント増加している。一方、「機会があったら参加したい」(11.2%) は、平成30年度調査(11.7%)より0.5ポイント減少している。(図表Ⅲ-4-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－４－３ 区政への参加意向（性別／性・年代別）



性別で見ると、『参加したい』は、「男性」(38.8%)が「女性」(29.7%)より9.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『参加したい』は、「男性30～39歳」(47.8%)および「女性50～59歳」(36.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－４－3)

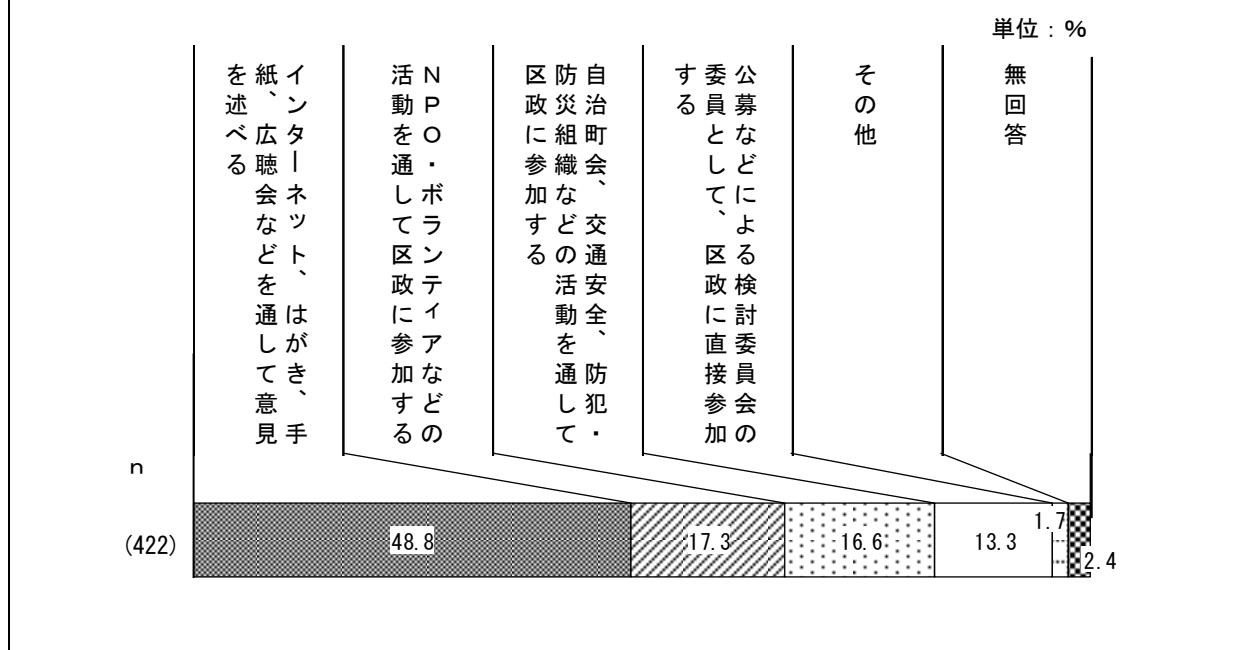
(1-1) 区政への参加方法

◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」が5割近く

(問9で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問9-1 どのような形で区政へ参加してみたいですか。(〇は1つ)

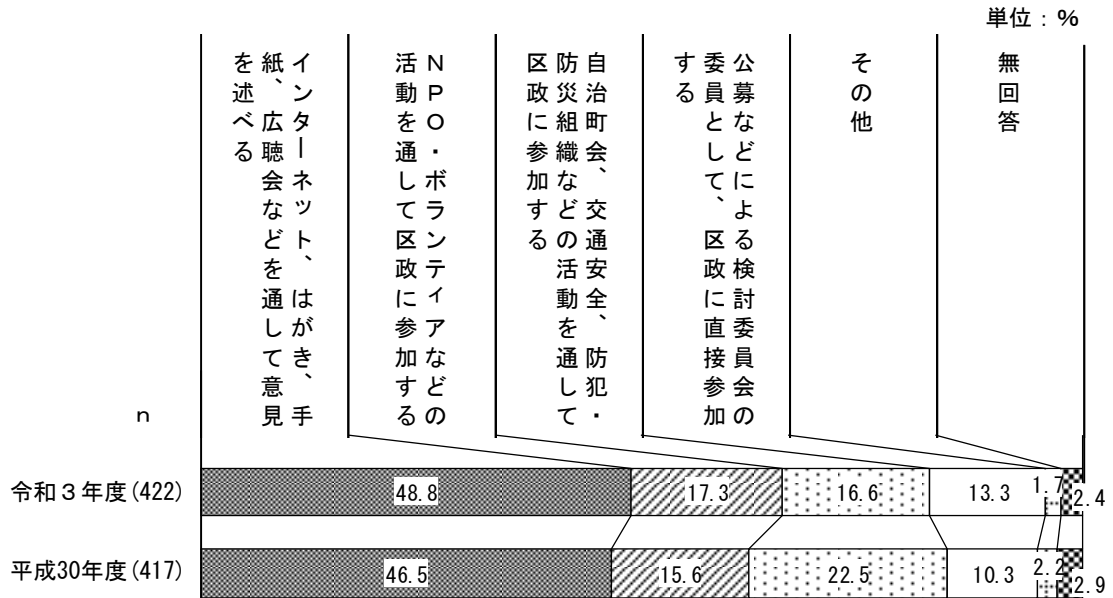
図表Ⅲ-4-4 区政への参加方法



区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」(48.8%)が5割近くと最も高く、次いで「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(17.3%)、「自治町会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(16.6%)と続いている。(図表Ⅲ-4-4)

【経年変化】

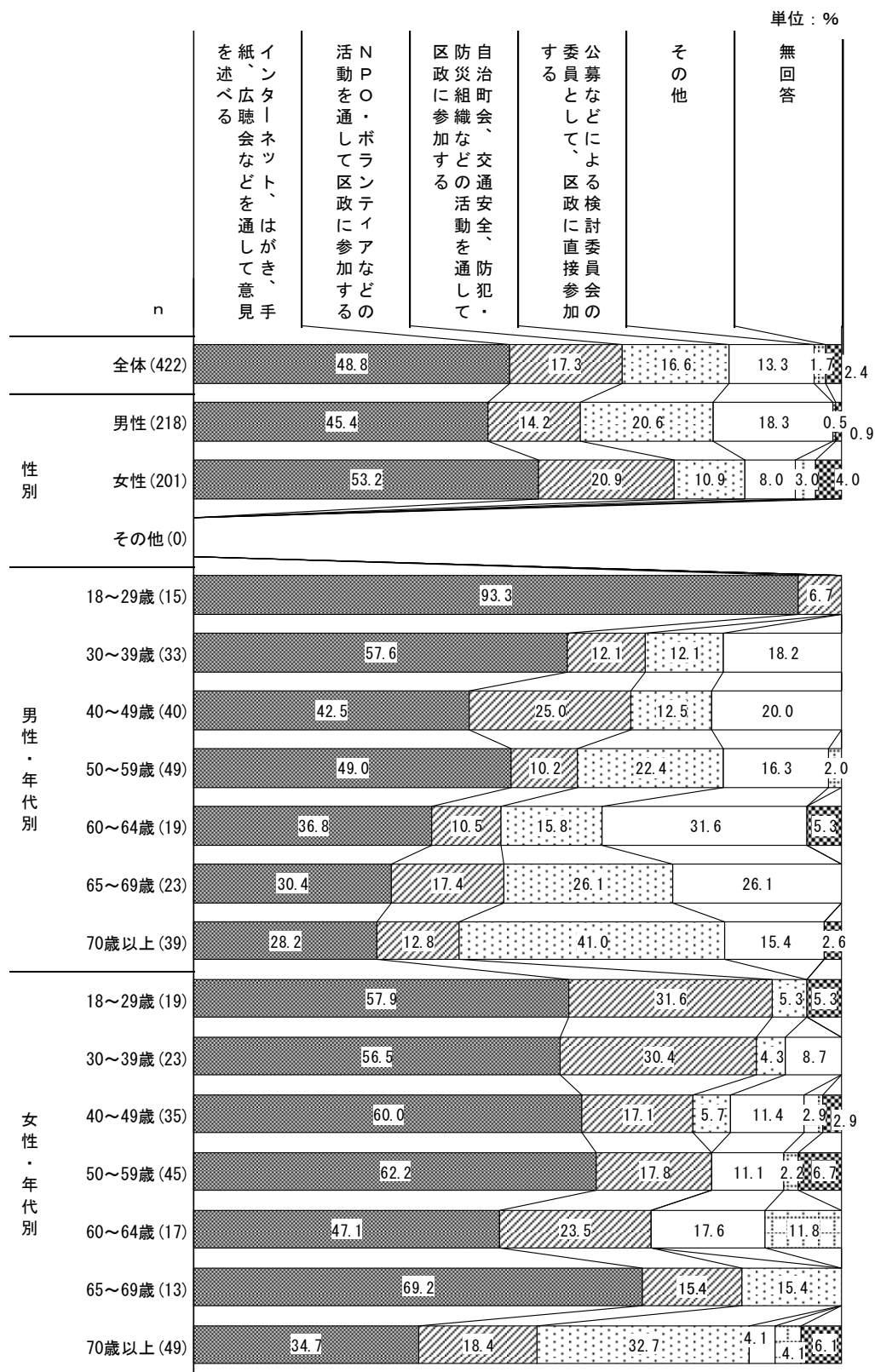
図表Ⅲ－４－５ 区政への参加方法（経年変化）



「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」（17.3％）は、平成30年度調査（15.6％）より1.7ポイント増加している。一方、「自治町会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」（16.6％）は、平成30年度調査（22.5％）より5.9ポイント減少している。（図表Ⅲ－４－５）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－４－６ 区政への参加方法（性別／性・年代別）



性別で見ると、「公募などによる検討委員会の委員として、区政に直接参加する」は、「男性」(18.3%)が「女性」(8.0%)より10.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」は、「男性18～29歳」(93.3%)および「女性50～59歳」(62.2%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－４－6)

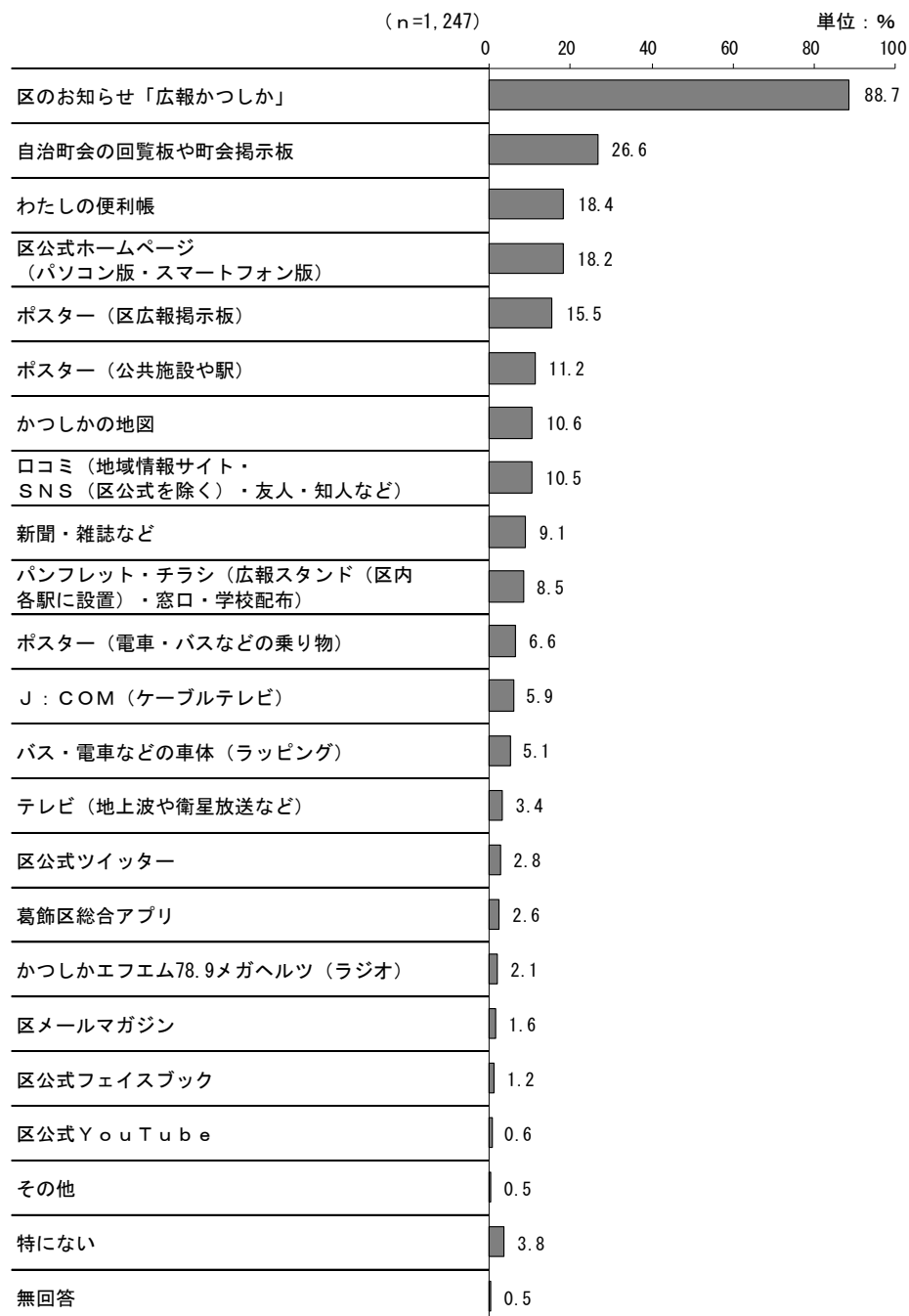
5. 広報媒体

(1) 区の情報入手方法

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が9割近く

問10 あなたは、どのようにして葛飾区に関するお知らせや催しなどの情報を入手していますか。(〇はいくつでも)

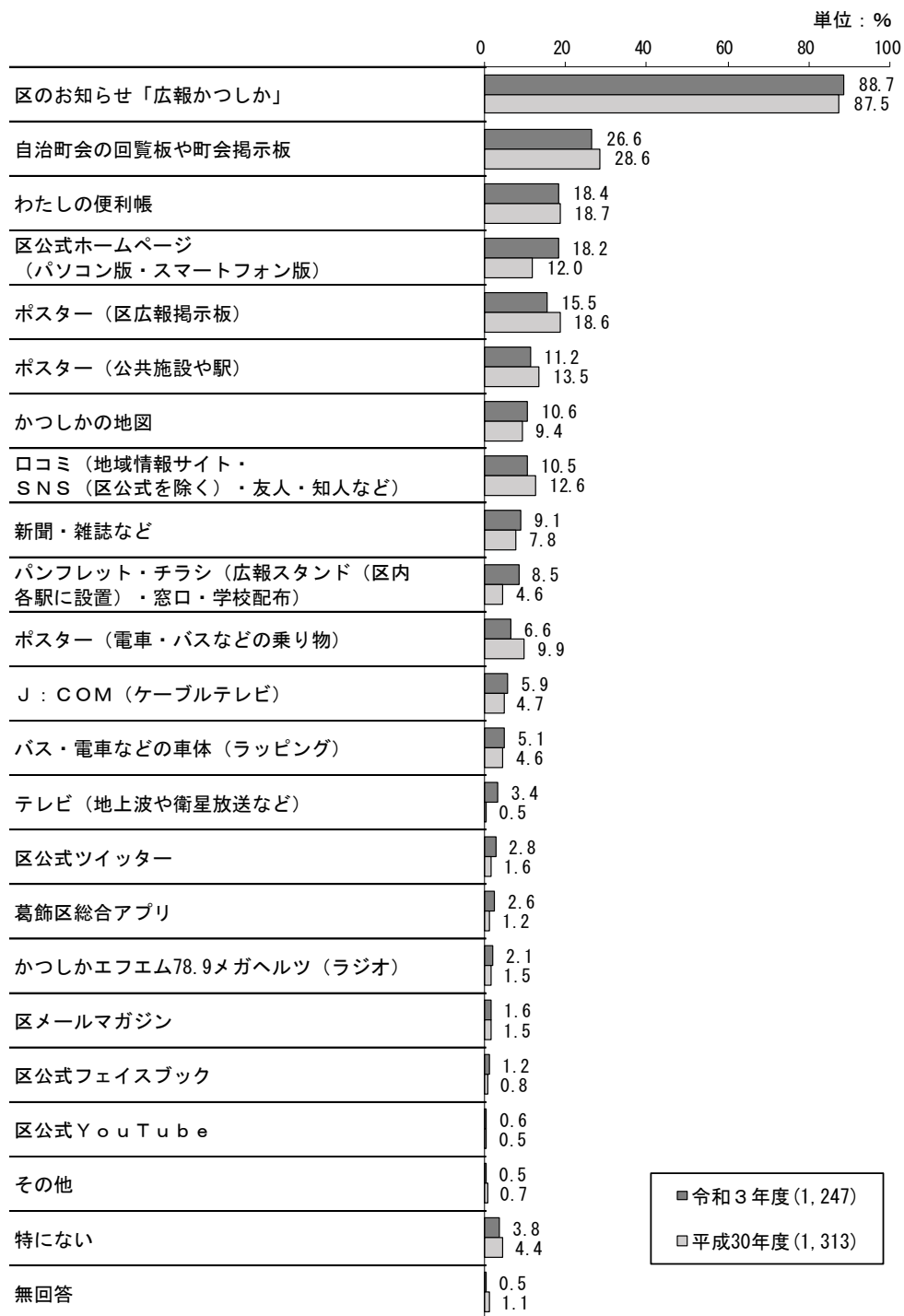
図表Ⅲ－5－1 区の情報入手方法



区の情報入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」(88.7%)が9割近くと最も高く、次いで「自治町会の回覧板や町会掲示板」(26.6%)、「わたしの便利帳」(18.4%)と続いている。(図表Ⅲ－5－1)

【経年変化】

図表Ⅲ－５－２ 区の情報の入手方法（経年変化）



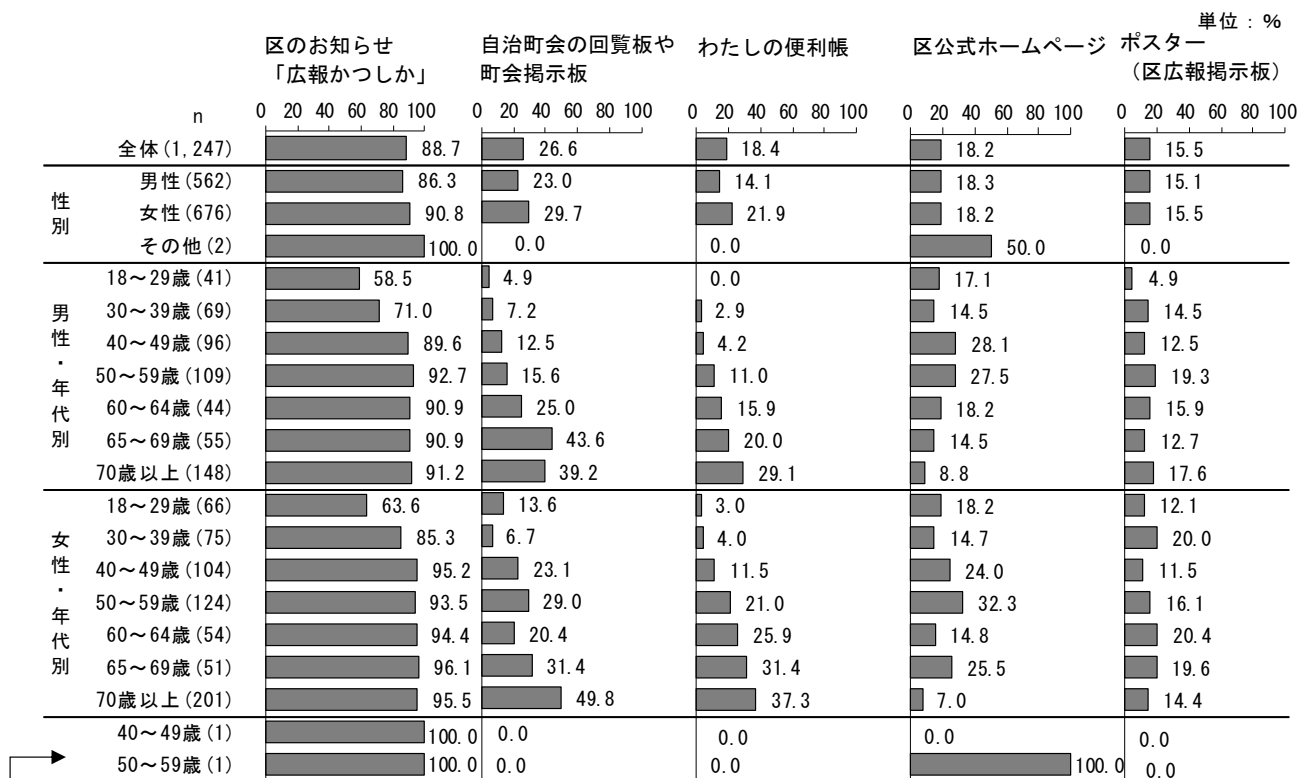
※ 令和3年度調査では、平成30年度調査で選択肢「町会・自治会の回覧板や町会掲示板」と表記していたものを「自治町会の回覧板や町会掲示板」と表記した。

「区のお知らせ『広報かつしか』」（88.7％）は、平成30年度調査（87.5％）より1.2ポイント、「区公式ホームページ」（18.2％）は、平成30年度調査（12.0％）より6.2ポイントそれぞれ増加している。

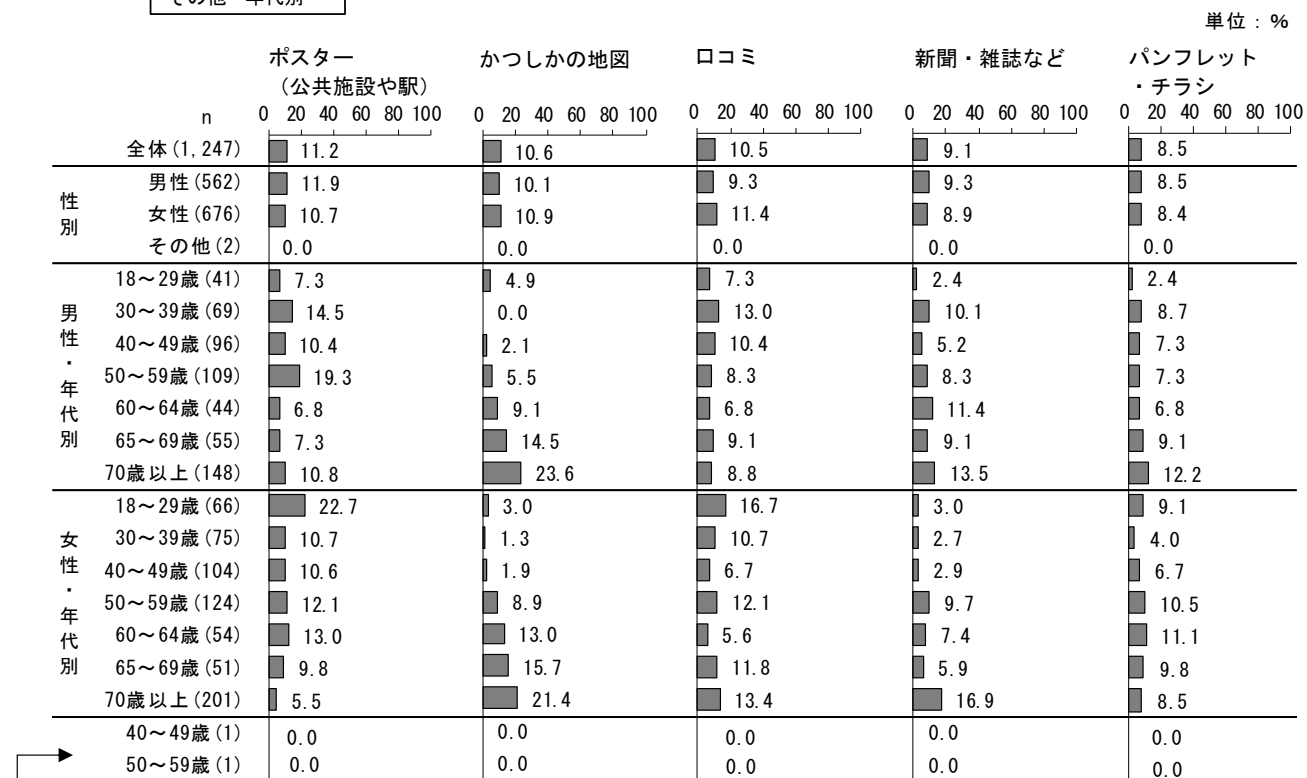
一方、「自治町会の回覧板や町会掲示板」（26.6％）は、平成30年度調査（28.6％）より2.0ポイント、「わたしの便利帳」（18.4％）は、平成30年度調査（18.7％）より0.3ポイント、「ポスター（区広報掲示板）」（15.5％）は、平成30年度調査（18.6％）より3.1ポイントそれぞれ減少している。（図表Ⅲ－５－２）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－５－３ 区の情報の入手方法（上位 10 項目）（性別／性・年代別）



その他・年代別

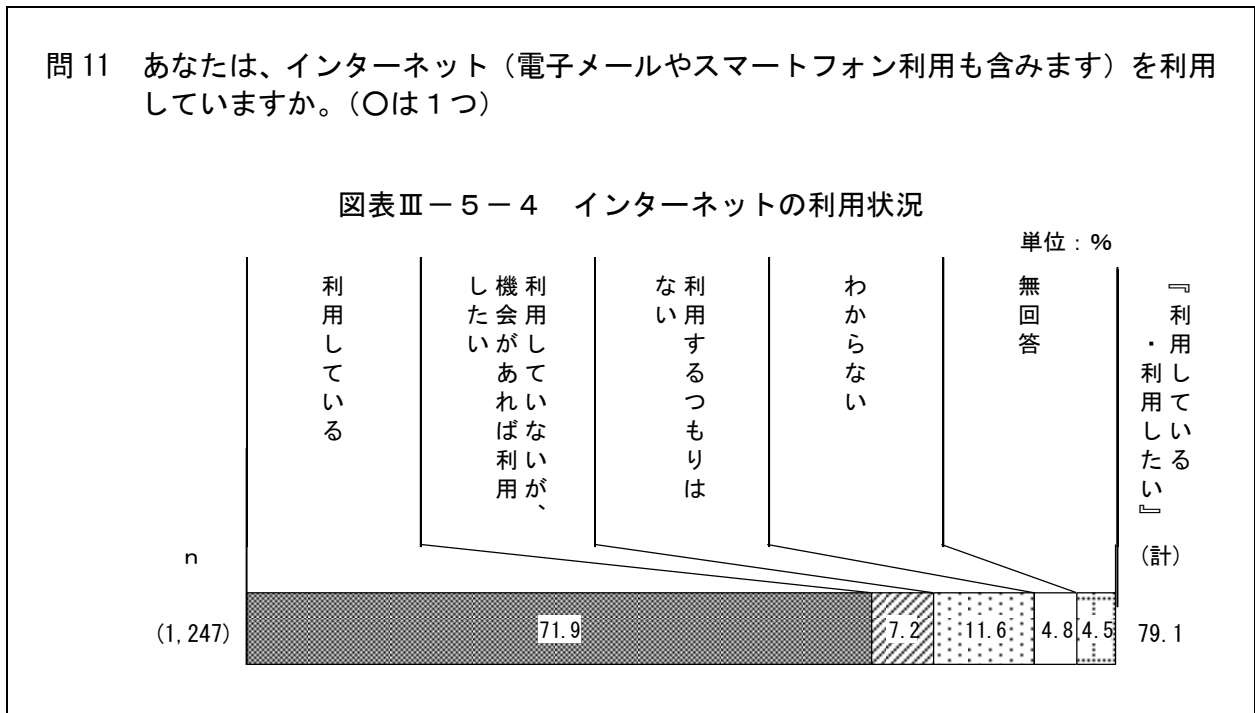


その他・年代別

上位 10 項目について性別でみると、「区のお知らせ『広報かつしか』」は、「女性」(90.8%) が「男性」(86.3%) より 4.5 ポイント高くなっている。
 性・年代別でみると、「区のお知らせ『広報かつしか』」は、「男性 50～59 歳」(92.7%)、「女性 65～69 歳」(96.1%) が、それぞれ最も高くなっている。また、「自治町会の回覧板や町会掲示板」は、「男性 65～69 歳」(43.6%)、「女性 70 歳以上」(49.8%) が、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－５－３)

(2) インターネットの利用状況

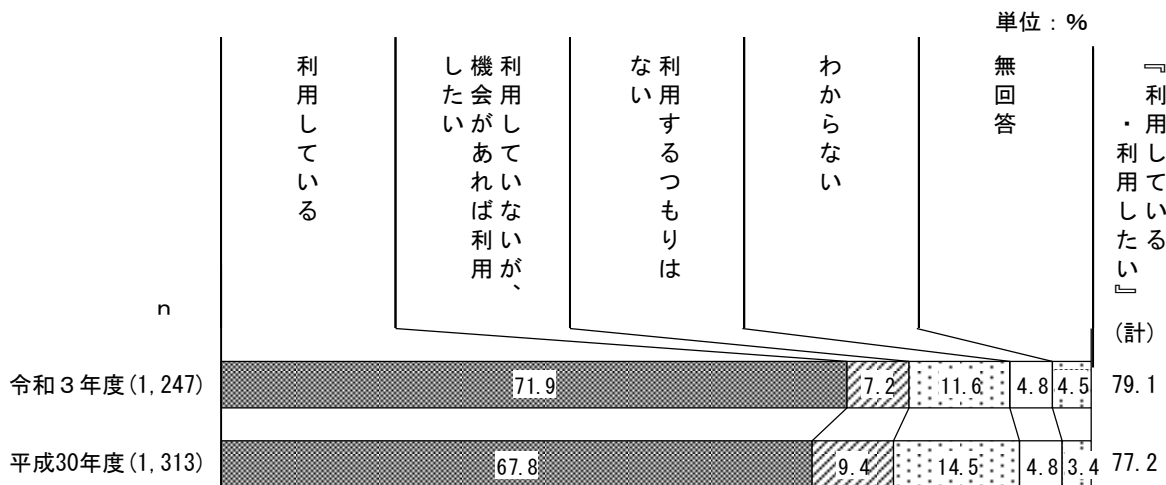
◆ 『利用している・利用したい』が8割弱



インターネットの利用状況は、「利用している」（71.9%）が7割強と最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」（7.2%）を合わせた『利用している・利用したい』（79.1%）が8割弱となっている。一方、「利用するつもりはない」は11.6%となっている。（図表Ⅲ-5-4）

【経年変化】

図表Ⅲ-5-5 インターネットの利用状況（経年変化）

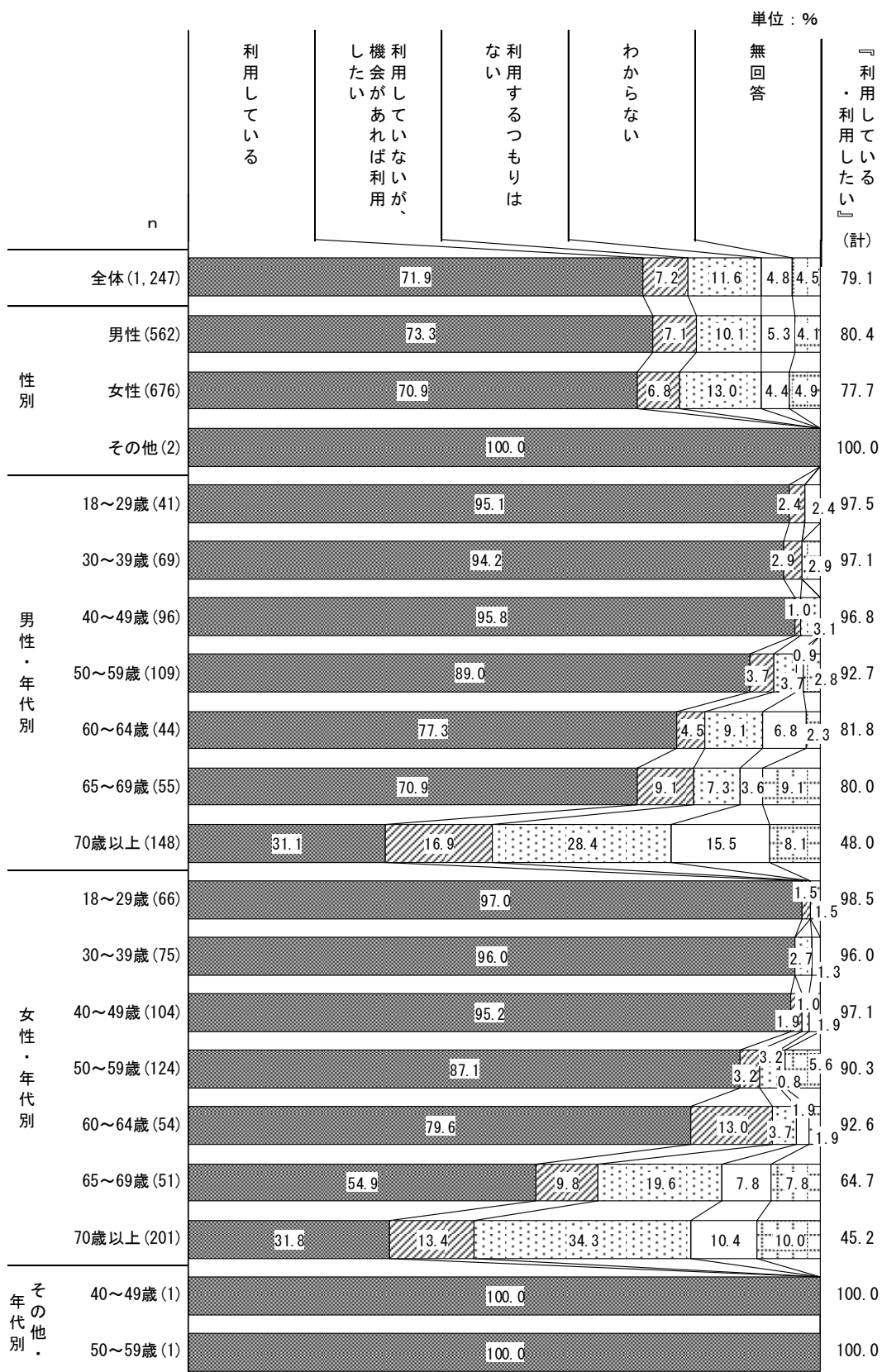


「利用している」（71.9%）は、平成30年度調査（67.8%）より4.1ポイント増加している。また、『利用している・利用したい』（79.1%）も、平成30年度調査（77.2%）より1.9ポイント増加している。

一方、「利用するつもりはない」（11.6%）は、平成30年度調査（14.5%）より2.9ポイント減少している。（図表Ⅲ-5-5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－５－６ インターネットの利用状況（性別／性・年代別）



性別でみると、「利用している」は、「男性」(73.3%)が「女性」(70.9%)より2.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『利用している・利用したい』は、「男性18～29歳」(97.5%)、「女性18～29歳」(98.5%)が、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－５－６)

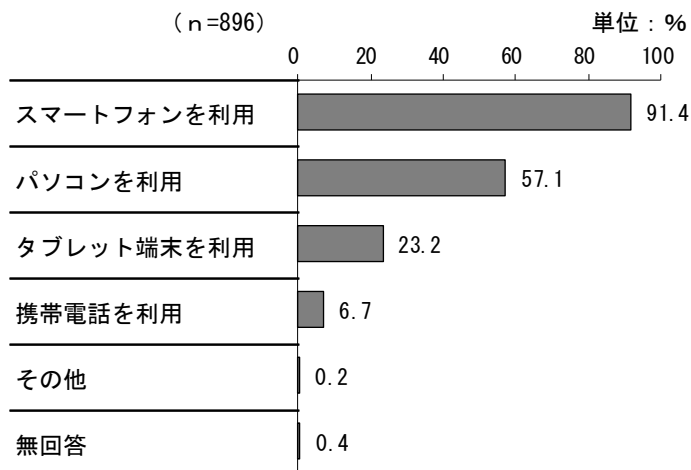
(2-1) インターネットの利用方法

◆ 「スマートフォンを利用」が9割強

(問11で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問11-1 どのような方法でインターネットを利用していますか。(〇はいくつでも)

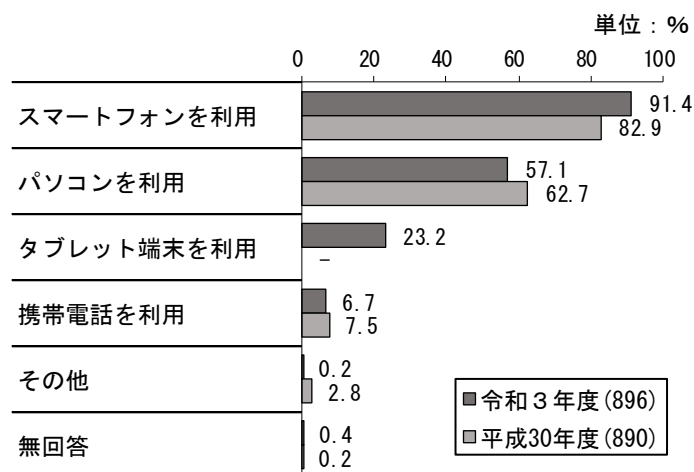
図表Ⅲ-5-7 インターネットの利用方法



インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」(91.4%)が9割強と最も高く、次いで「パソコンを利用」(57.1%)、「タブレット端末を利用」(23.2%)と続いている。(図表Ⅲ-5-7)

【経年変化】

図表Ⅲ-5-8 インターネットの利用方法(経年変化)



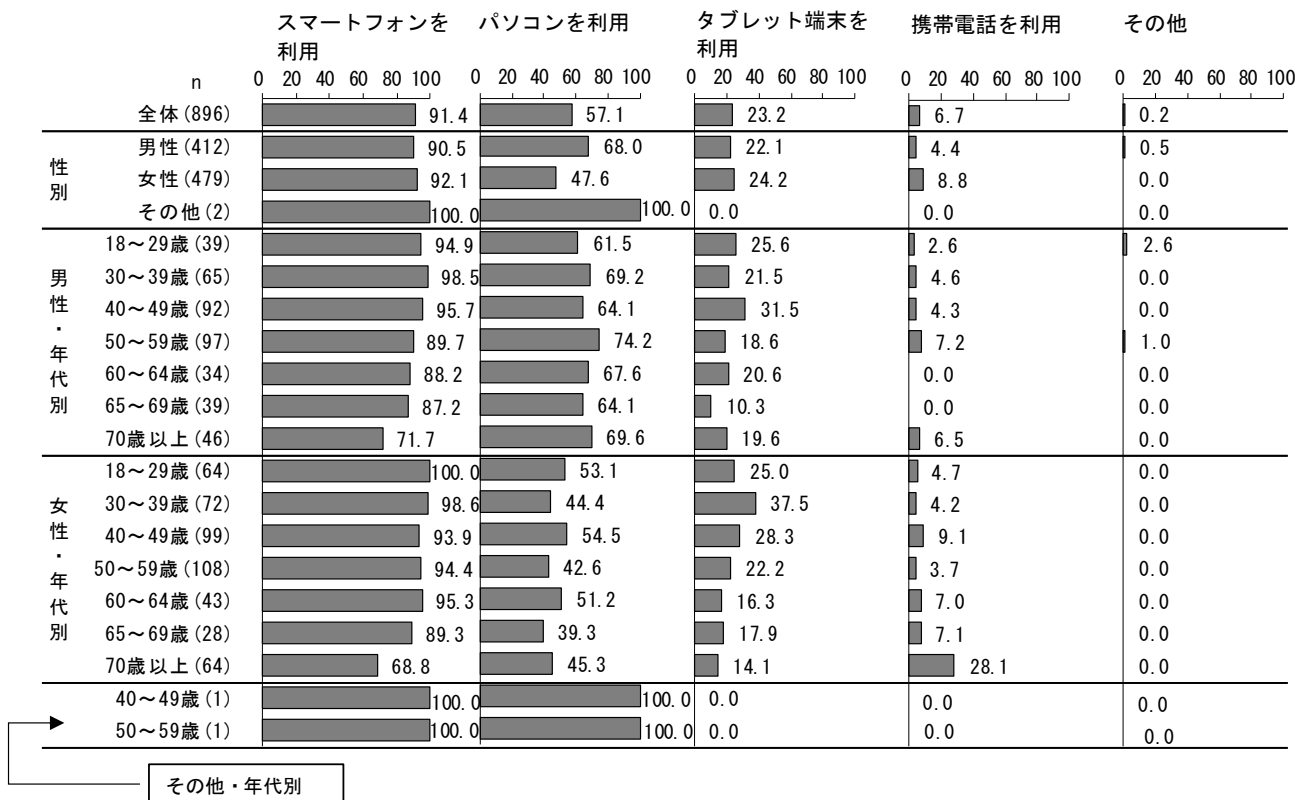
※ 令和3年度調査では、選択肢「タブレット端末を利用」を新たに追加した。

「スマートフォンを利用」(91.4%)は、平成30年度調査(82.9%)より8.5ポイント増加している。一方、「パソコンを利用」(57.1%)は、平成30年度調査(62.7%)より5.6ポイント減少している。(図表Ⅲ-5-8)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－５－９ インターネットの利用方法（性別／性・年代別）

単位：％



性別でみると、「スマートフォンを利用」は、「女性」(92.1%)が「男性」(90.5%)より1.6ポイント高くなっている。一方、「パソコンを利用」は、「男性」(68.0%)が「女性」(47.6%)より20.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「スマートフォンを利用」は、「男性30～39歳」(98.5%)、「女性18～29歳」(100.0%)が、それぞれ最も高くなっている。また、「パソコンを利用」は「男性」のすべての年代で6割以上となっている。一方、「女性40～49歳」(54.5%)が5割台半ばと最も高くなっている。(図表Ⅲ－５－9)

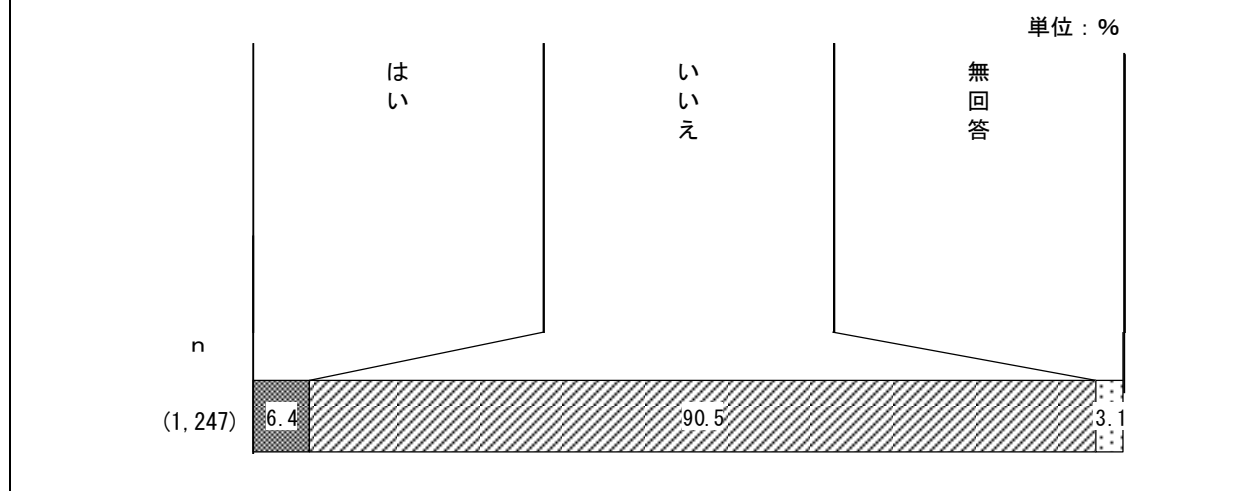
6. IT

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況

◆ 「はい」が1割未満

問 12 葛飾区では、平成 29 年 1 月から「葛飾区総合アプリ」として、観光情報や防災情報、ごみ分別、電子母子手帳機能、ARを使った街歩きアプリなどを提供しております。「葛飾区総合アプリ」を使ったことがありますか。(〇は1つ)

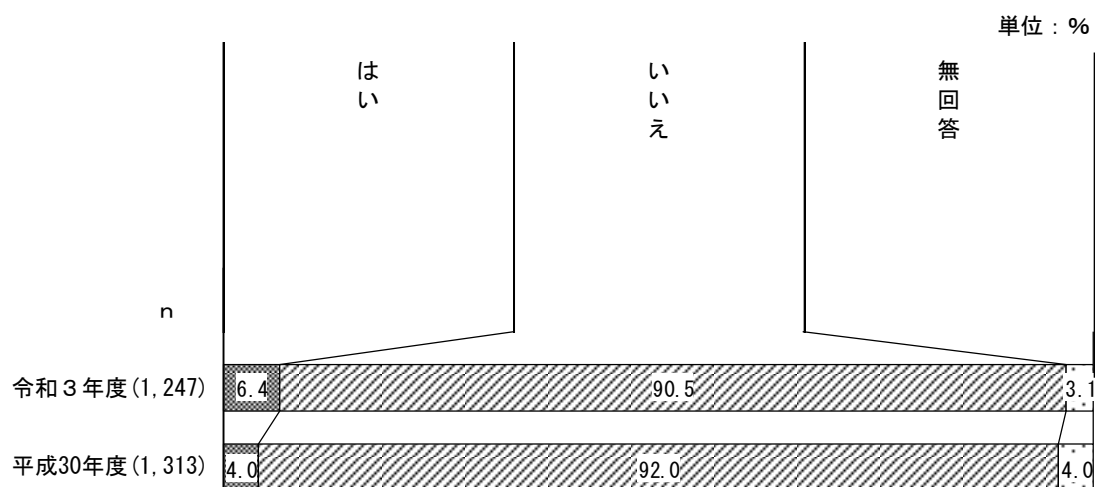
図表Ⅲ-6-1 「葛飾区総合アプリ」の利用状況



「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」(90.5%)が約9割、「はい」(6.4%)は1割未満となっている。(図表Ⅲ-6-1)

【経年変化】

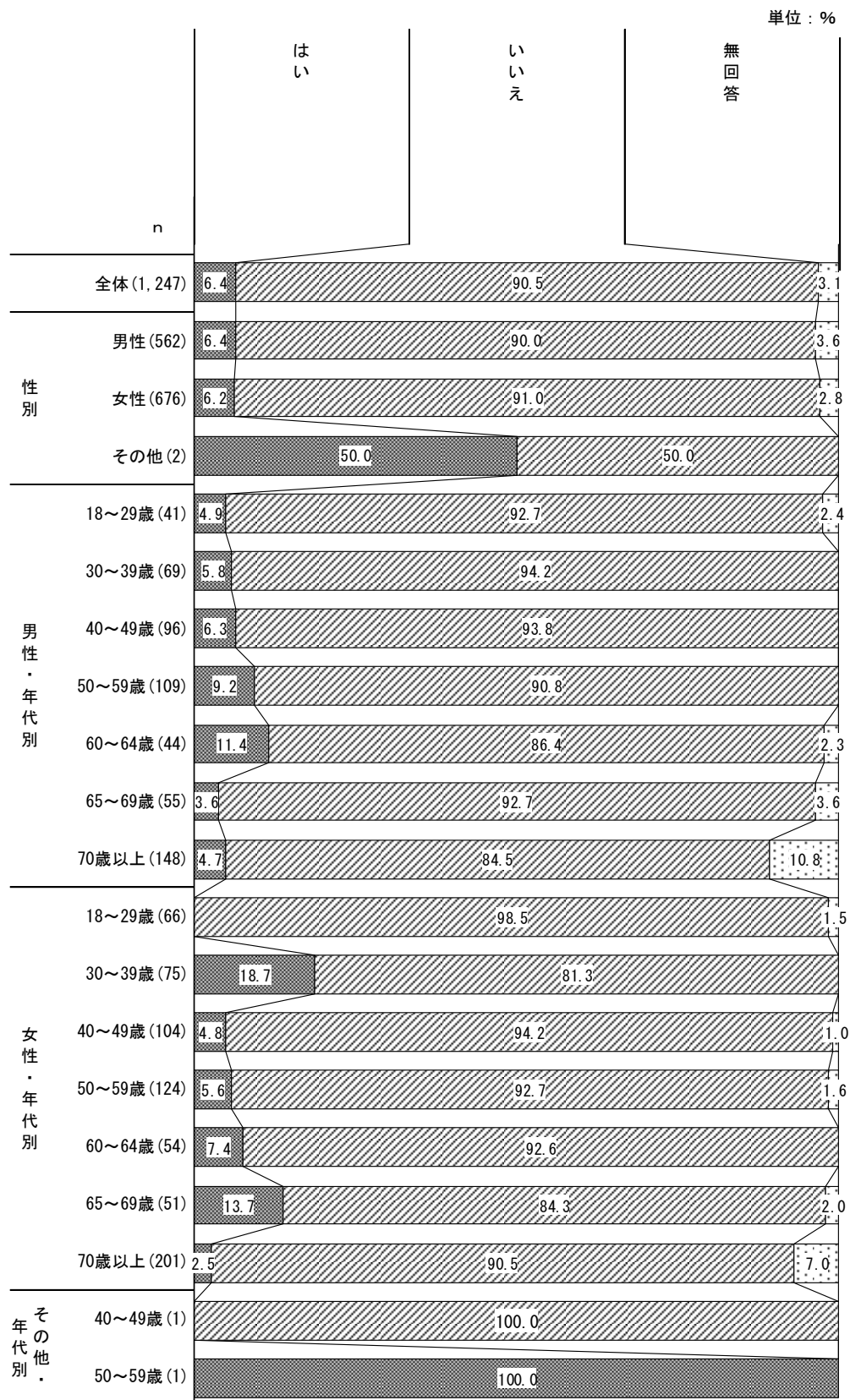
図表Ⅲ-6-2 「葛飾区総合アプリ」の利用状況(経年変化)



「はい」(6.4%)は、平成30年度調査(4.0%)より2.4ポイント増加している。一方、「いいえ」(90.5%)は、平成30年度調査(92.0%)より1.5ポイント減少している。(図表Ⅲ-6-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－６－３ 「葛飾区総合アプリ」の利用状況（性別／性・年代別）



性別で見ると、男女ともに「いいえ」が9割台となっている。

性・年代別で見ると、すべての性・年代において「いいえ」が8割以上となっている。一方、「はい」は、「男性 60～64 歳」(11.4%)、「女性 30～39 歳」(18.7%) がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－６－３)

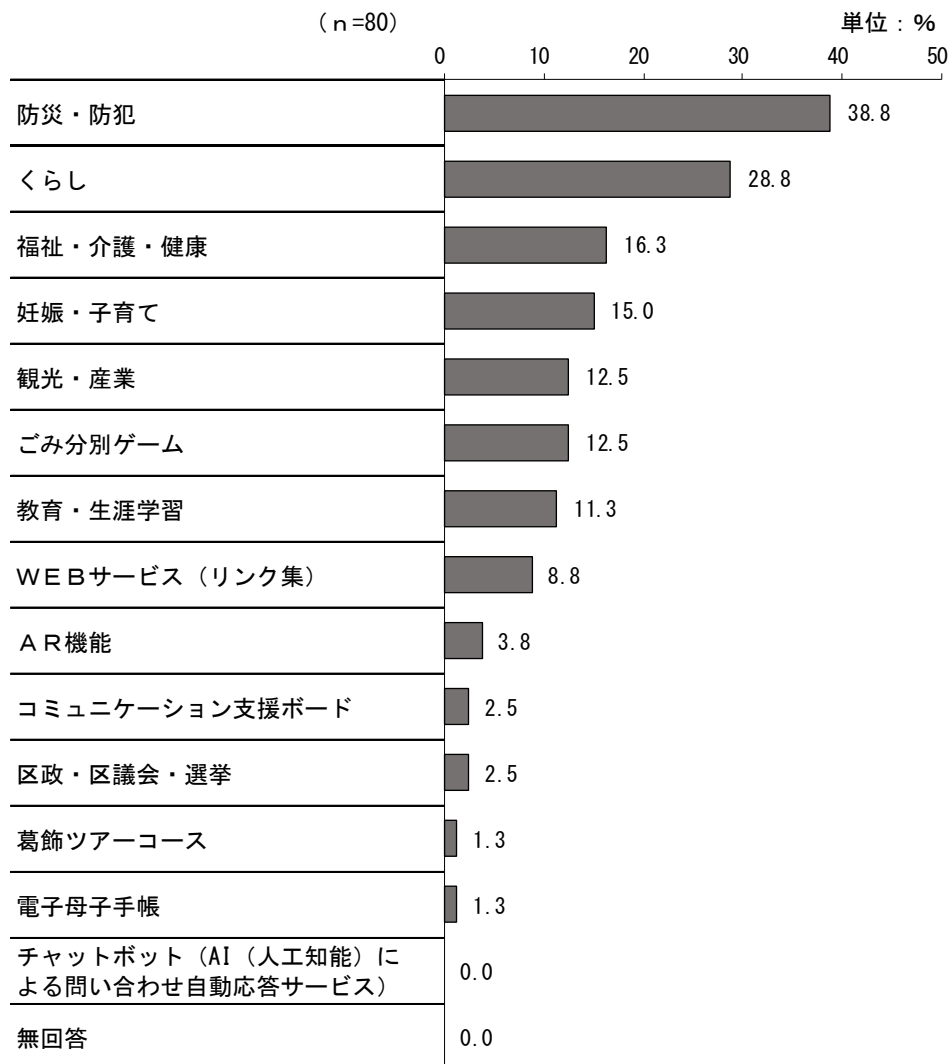
(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能

◆ 「防災・防犯」が4割近く

(問12で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問12-1 「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は何ですか。(〇はいくつでも)

図表Ⅲ-6-4 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能

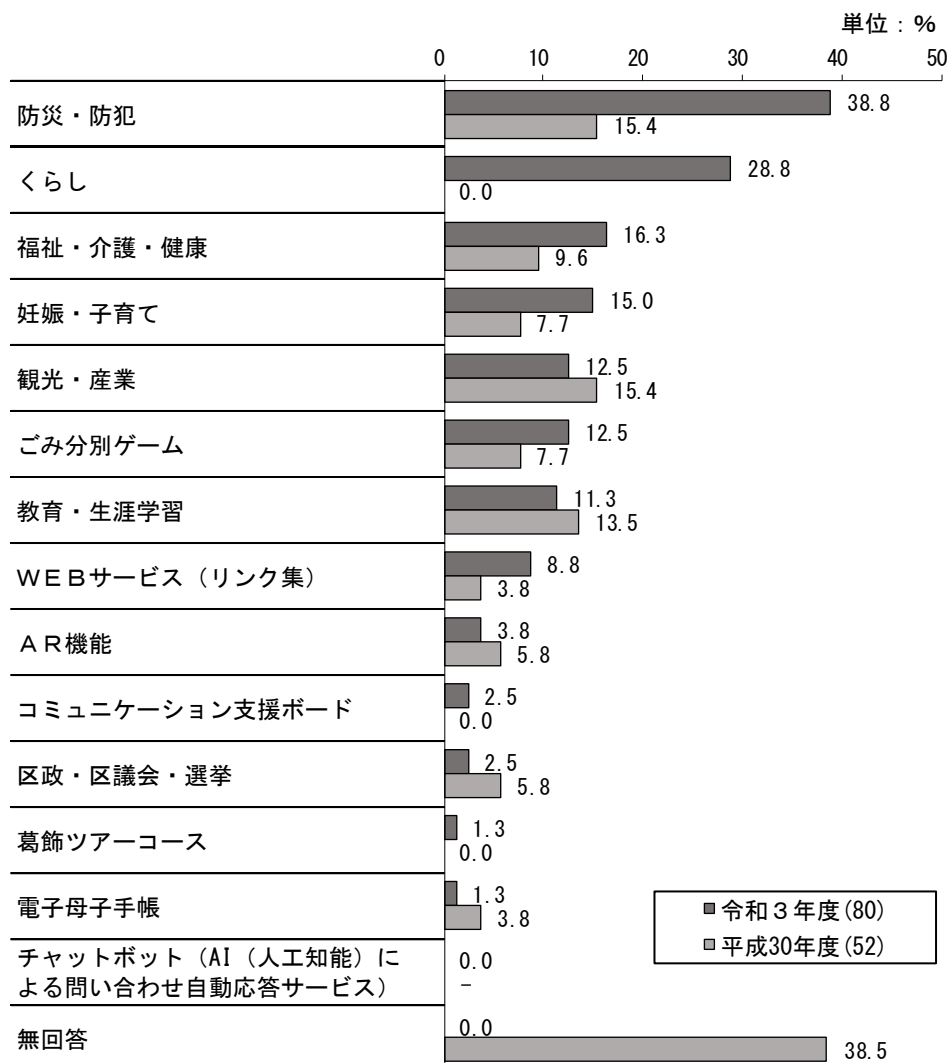


「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は、「防災・防犯」(38.8%)が4割近くで最も高く、次いで「くらし」(28.8%)、「福祉・介護・健康」(16.3%)と続いている。

なお、「葛飾区総合アプリ」に追加してほしい機能については、「災害時に関するもの」「各種申し込み機能」などがあった。(図表Ⅲ-6-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－６－５ 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（経年変化）



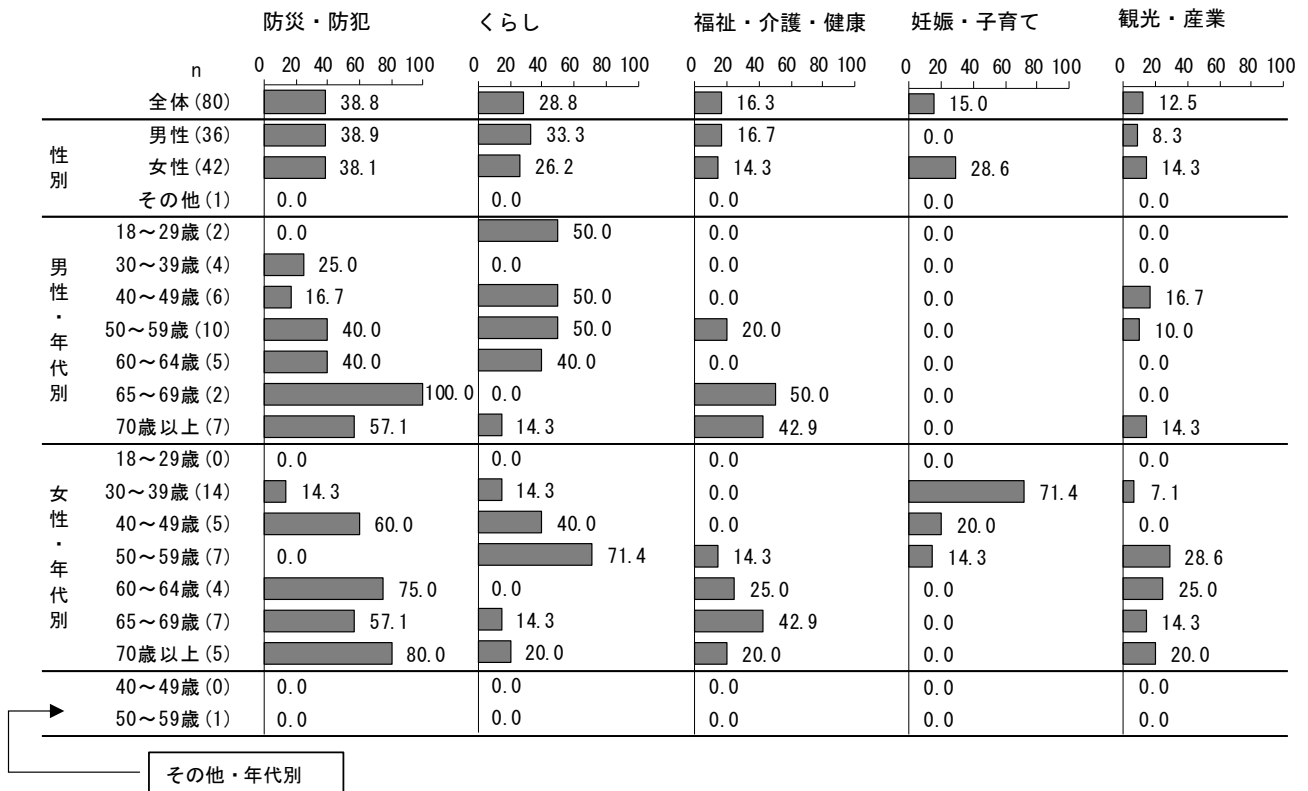
※ 令和3年度調査では、選択肢「チャットボット（AI（人工知能）による問い合わせ自動応答サービス）」を新たに追加した。

「防災・防犯」（38.8%）は、平成30年度調査（15.4%）より23.4ポイント、「くらし」（28.8%）は、平成30年度調査（0.0%）より28.8%、「福祉・介護・健康」（16.3%）は、平成30年度調査（9.6%）より6.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「観光・産業」（12.5%）は、平成30年度調査（15.4%）より2.9ポイント減少している。（図表Ⅲ－６－５）

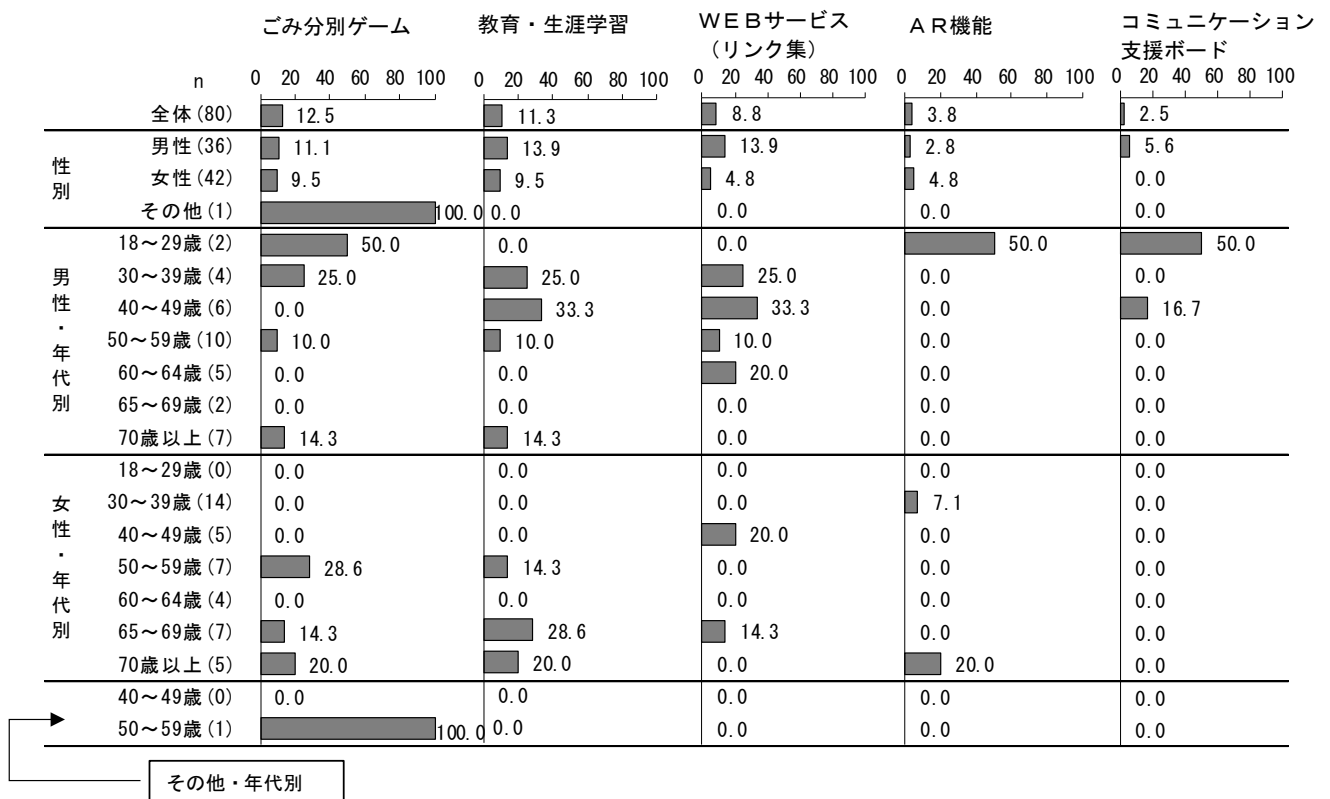
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－６－６ 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％

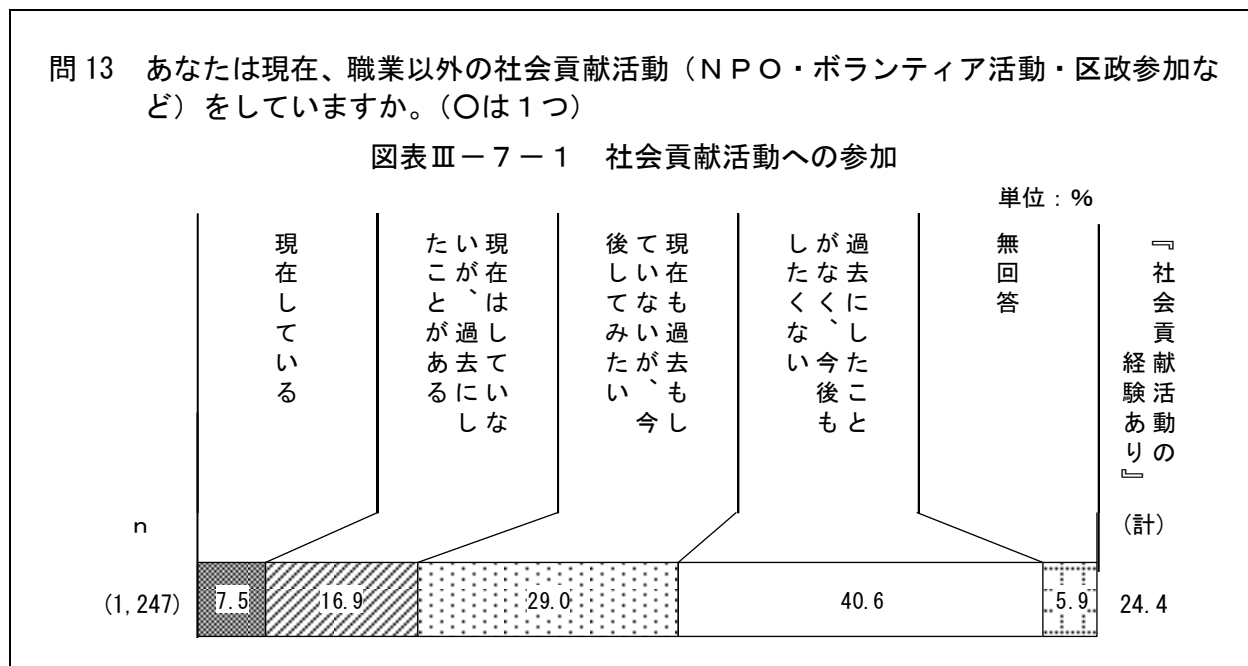


上位10項目について性別で見ると、「くらし」は「男性」（33.3%）が「女性」（26.2%）より7.1ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－６－６）

7. 社会貢献活動

(1) 社会貢献活動への参加

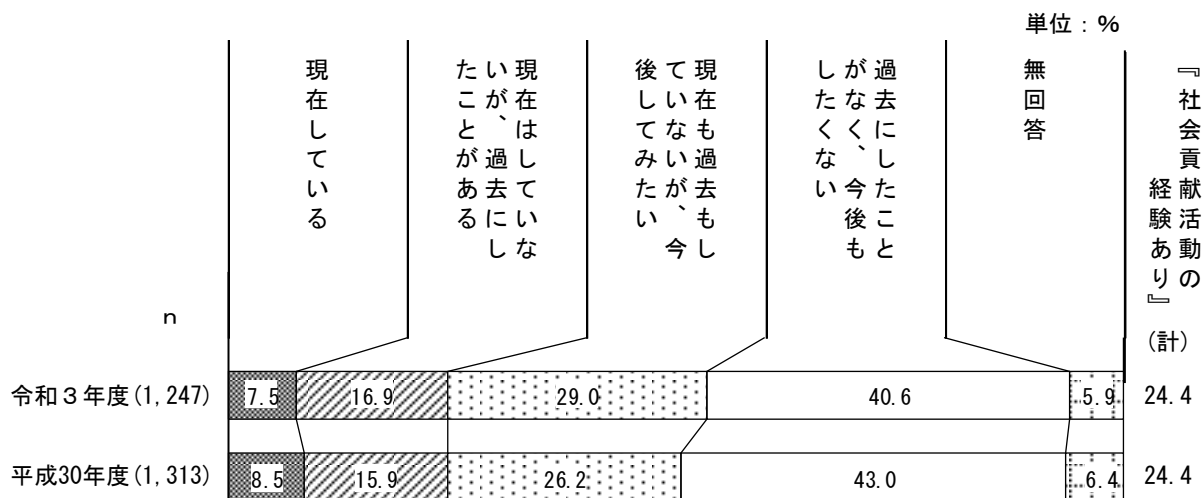
◆ 『社会貢献活動の経験あり』が2割台半ば



社会貢献活動への参加は、「現在している」(7.5%)と「現在はしていないが、過去にしていたことがある」(16.9%)を合わせた『社会貢献活動の経験あり』(24.4%)が、2割台半ばとなっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(29.0%)は3割弱となっている。一方、「過去にすることがなく、今後もしたくない」(40.6%)は約4割となっている。(図表Ⅲ-7-1)

【経年変化】

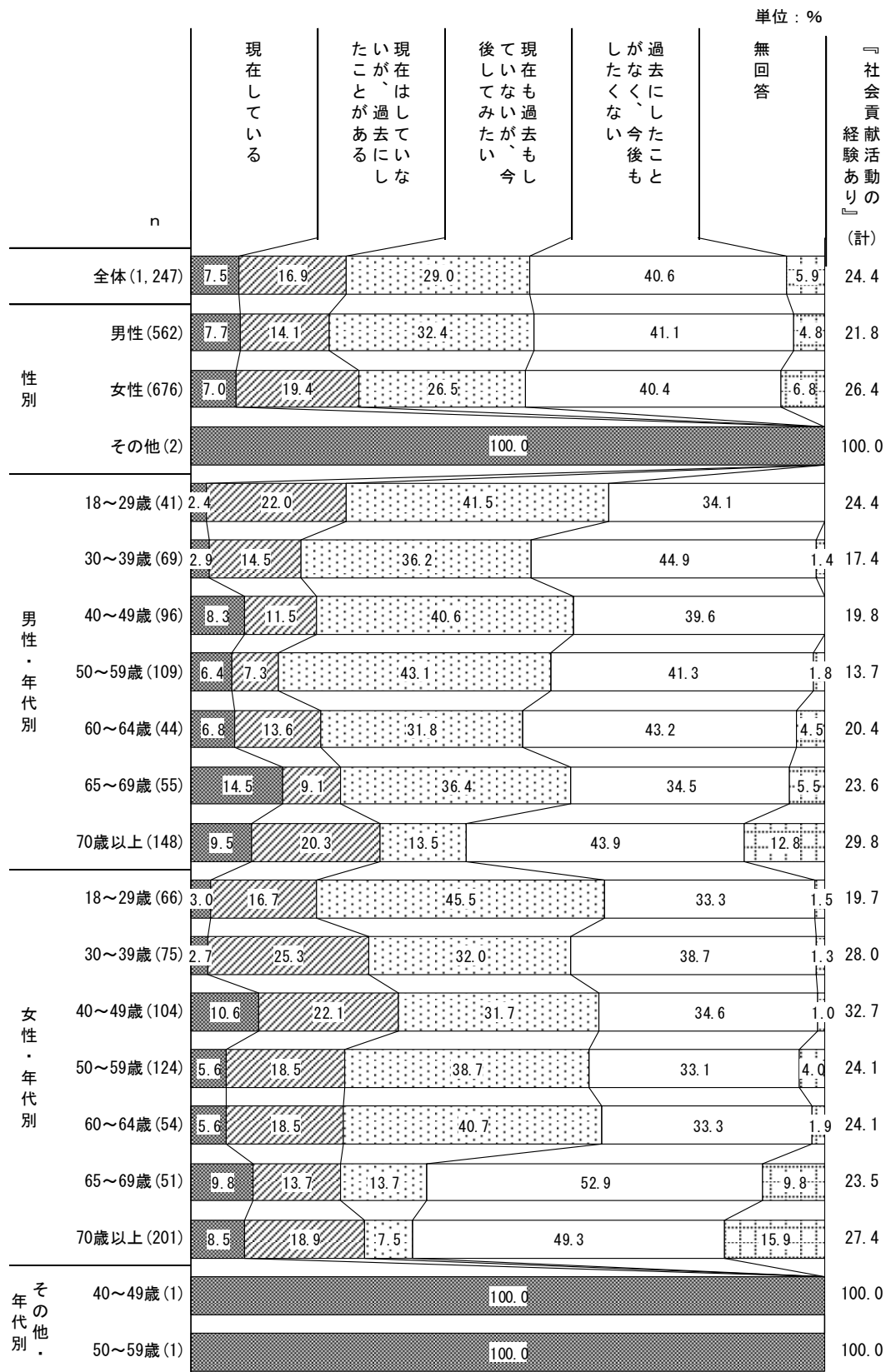
図表Ⅲ-7-2 社会貢献活動への参加（経年変化）



「現在している」(7.5%)は、平成30年度調査(8.5%)より1.0ポイント減少している。一方、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(29.0%)は、平成30年度調査(26.2%)より2.8ポイント増加している。また、『社会貢献活動の経験あり』(24.4%)は、平成30年度調査(24.4%)と同様となっている。(図表Ⅲ-7-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－7－3 社会貢献活動への参加（性別／性・年代別）



性別で見ると、「過去にしたことがなく、今後もしたくなかった」は、「男性」(41.1%)が「女性」(40.4%)より0.7ポイント高くなっている。一方、『社会貢献活動の経験あり』は、「女性」(26.4%)が「男性」(21.8%)より4.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『社会貢献活動の経験あり』は、「男性 70歳以上」(29.8%)、「女性 40～49歳」(32.7%)がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－7－3)

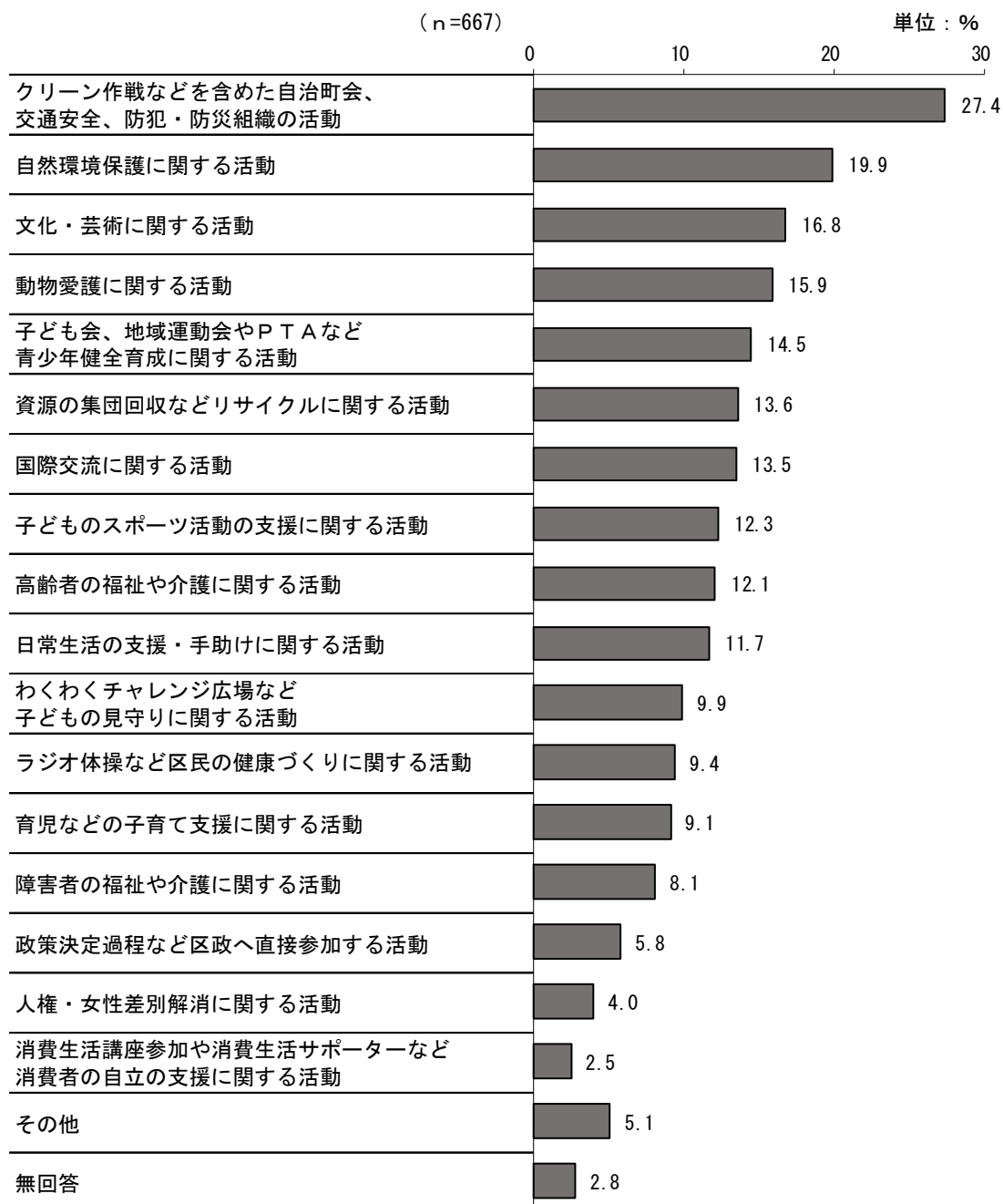
(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動

◆「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が3割近く

(問13で選択肢「1」から「3」を選んだ方のみお答えください。)

問13-1 あなたが現在参加している、または参加をしてみたい社会貢献活動はどのような分野の活動ですか。(〇はいくつでも)

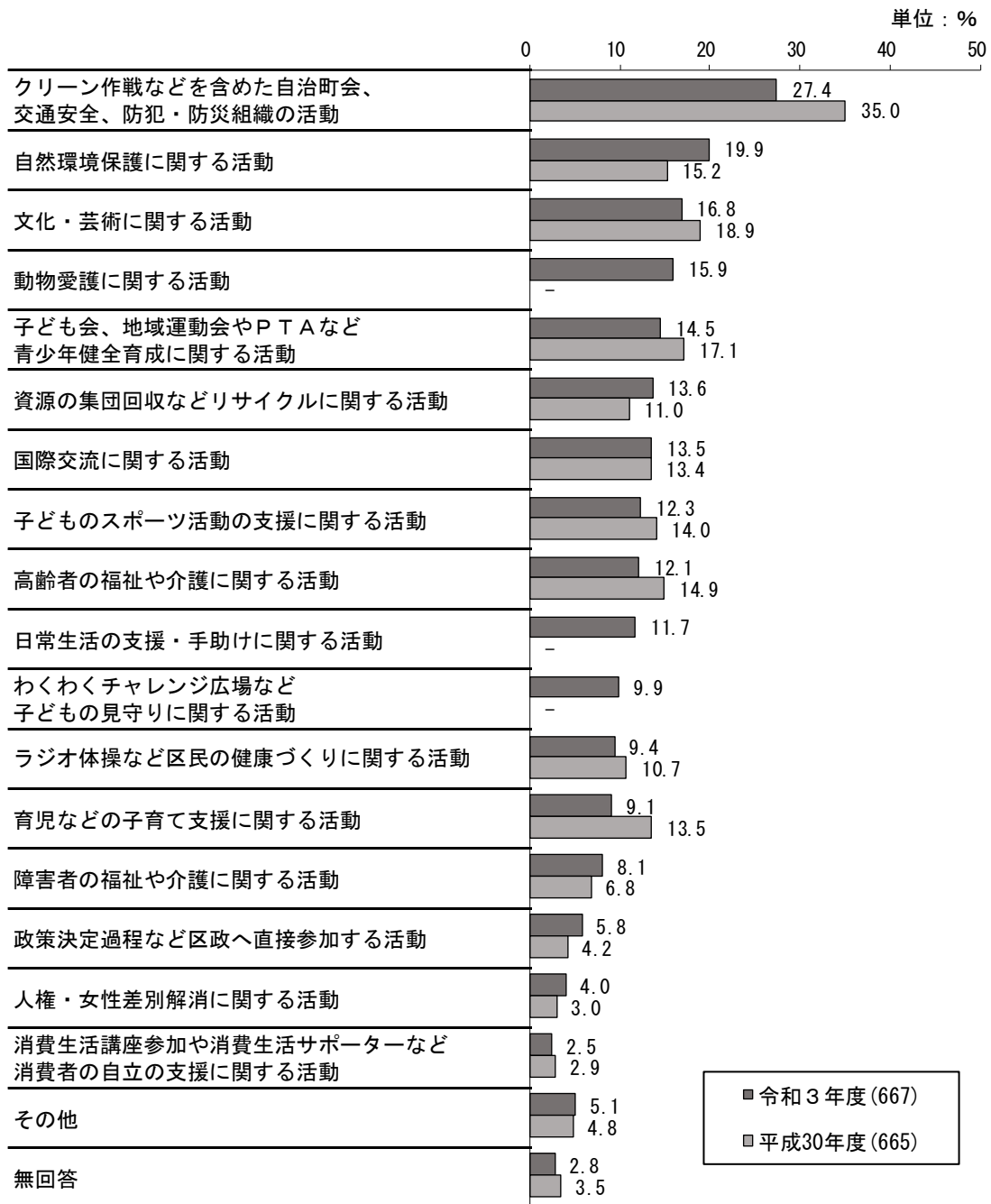
図表Ⅲ-7-4 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動



現在参加している・参加してみたい社会貢献活動は、「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(27.4%)が3割近くと最も高く、次いで「自然環境保護に関する活動」(19.9%)、「文化・芸術に関する活動」(16.8%)と続いている。(図表Ⅲ-7-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－７－５ 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「動物愛護に関する活動」「日常生活の支援・手助けに関する活動」「わくわくチャレンジ広場など子どもの見守りに関する活動」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査で選択肢「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」と表記していたものを「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」と表記した。

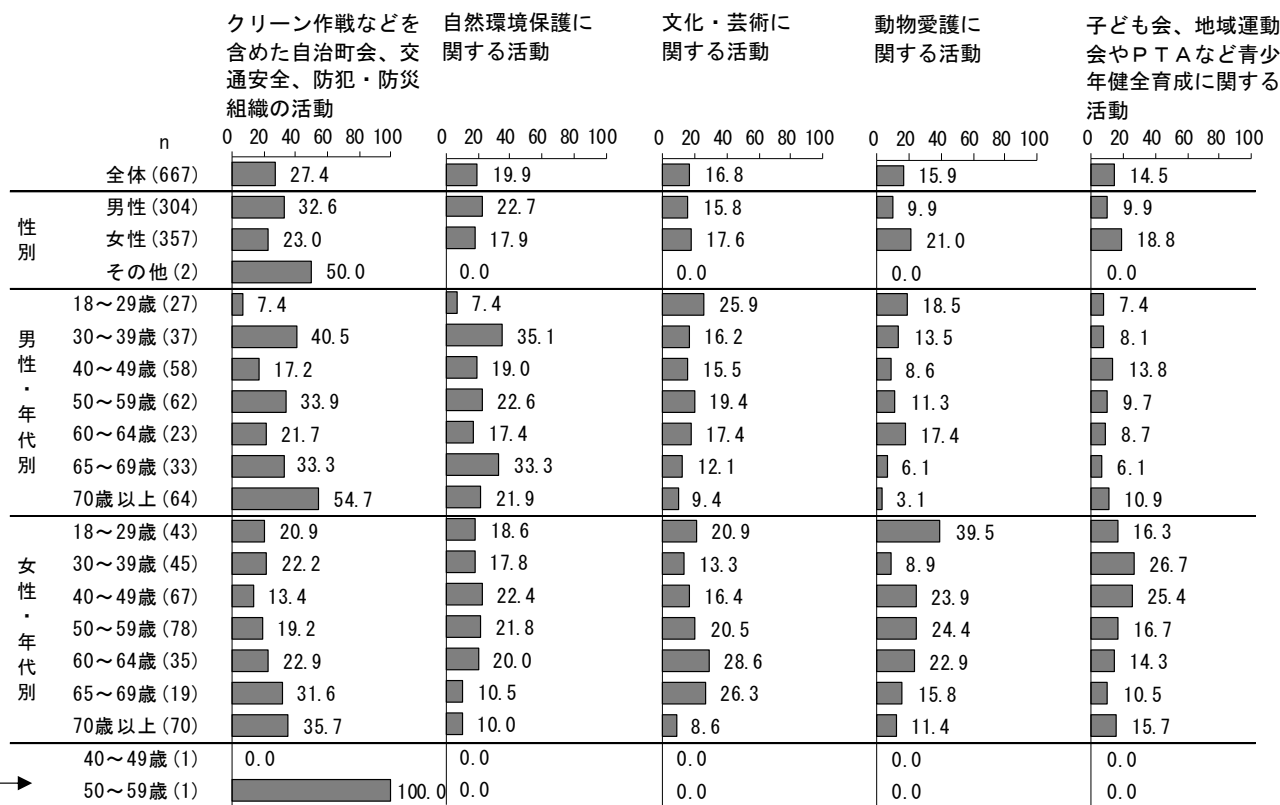
「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」（27.4％）は、平成30年度調査（35.0％）より7.6ポイント、「文化・芸術に関する活動」（16.8％）は、平成30年度調査（18.9％）より2.1ポイント、「子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動」（14.5％）は平成30年度調査（17.1％）より2.6ポイント、それぞれ減少している。

一方、「自然環境保護に関する活動」（19.9％）は、平成30年度調査（15.2％）より4.7ポイント、「資源の集団回収などリサイクルに関する活動」（13.6％）は、平成30年度調査（11.0％）より2.6ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅲ－７－５）

【性別／性・年代別】

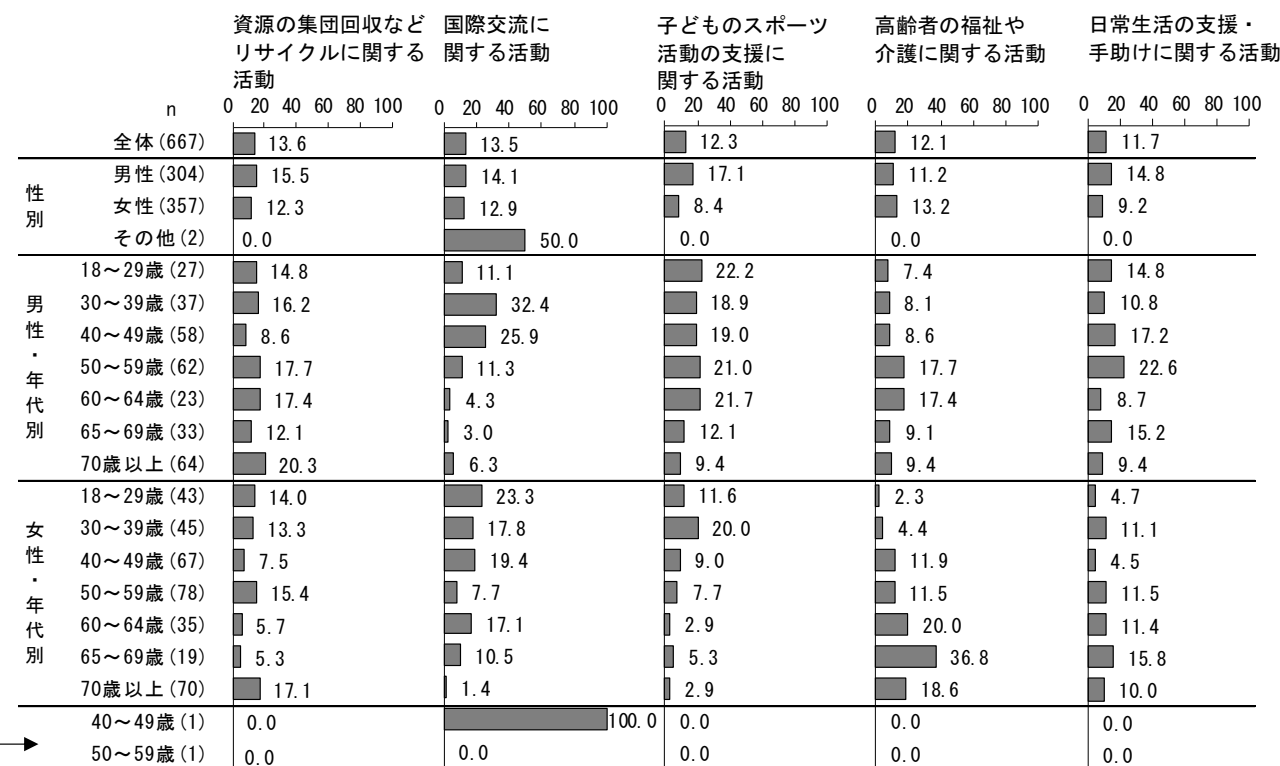
図表Ⅲ－７－６ 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



その他・年代別

単位：％



その他・年代別

上位10項目について性別で見ると、「クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動」は、「男性」(32.6%)が「女性」(23.0%)より9.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「自然環境保護に関する活動」は、「男性30～39歳」(35.1%)、「女性40～49歳」(22.4%)が、それぞれ高くなっている。(図表Ⅲ－7－6)

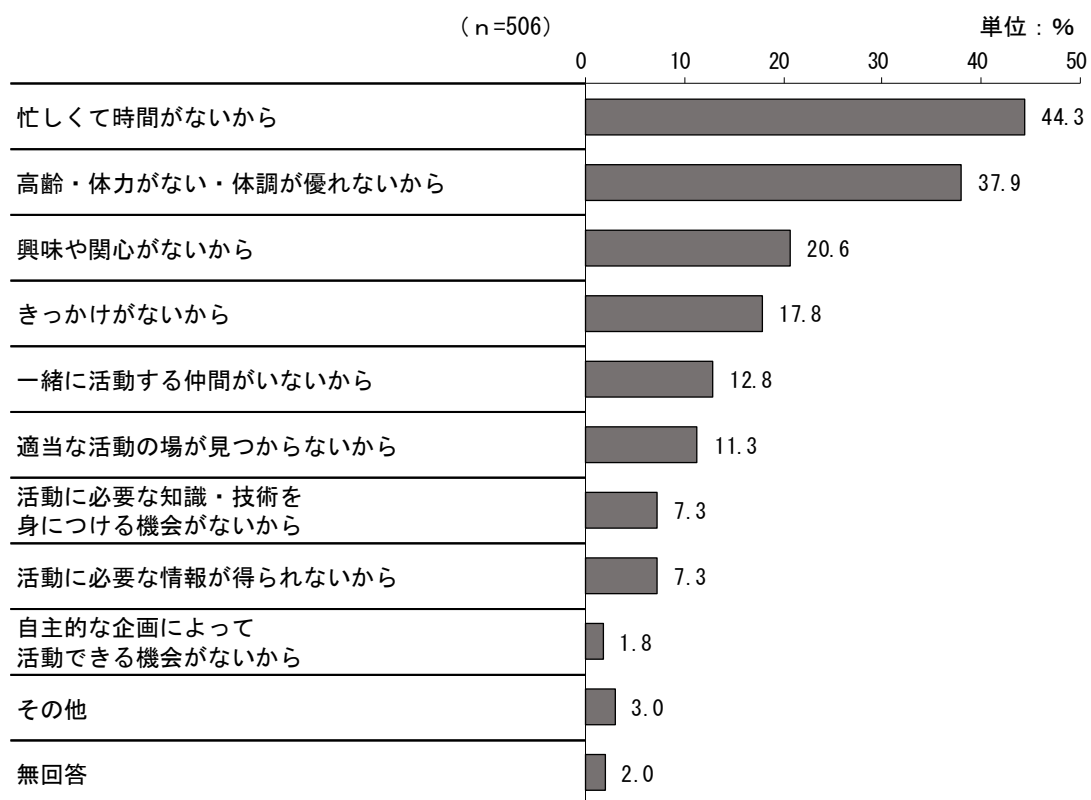
(1-2) 社会貢献活動をしたくない理由

◆ 「忙しくて時間がないから」が4割台半ば

(問13で選択肢「4」を選んだ方のみお答えください。)

問13-2 職業以外の社会貢献活動をしたくない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

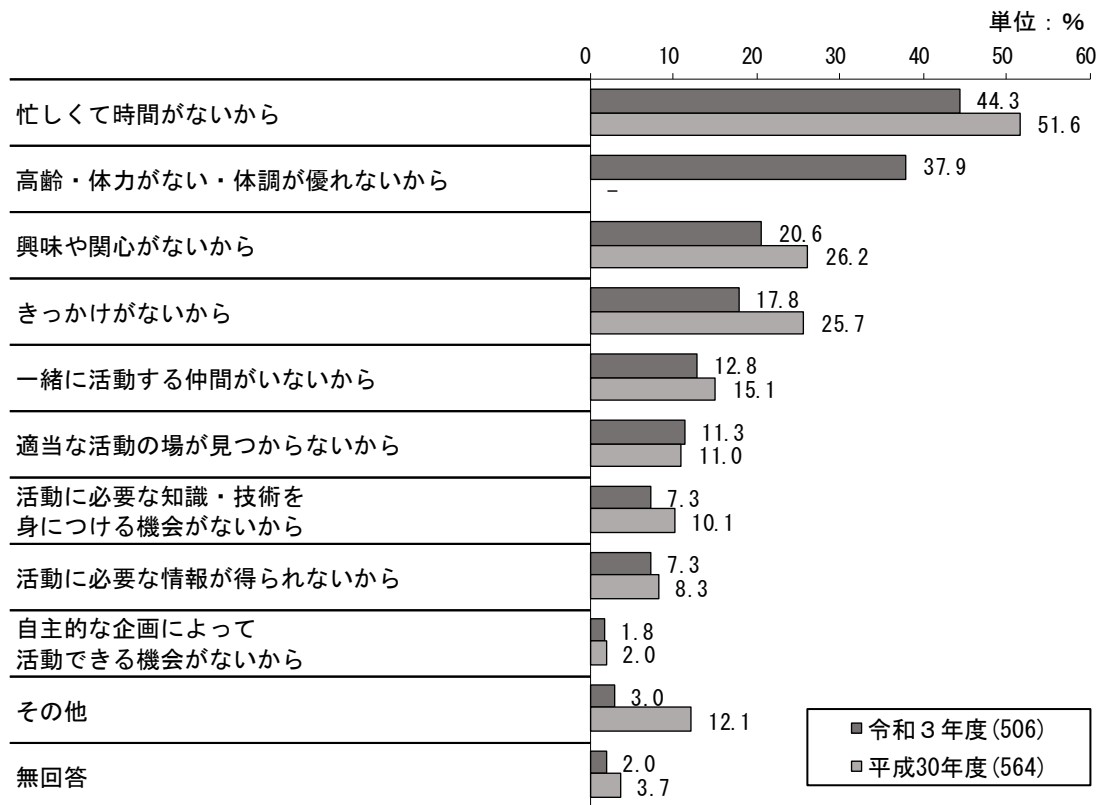
図表Ⅲ-7-7 社会貢献活動をしたくない理由



社会貢献活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」(44.3%)が4割台半ばと最も高く、次いで「高齢・体力がない・体調が優れないから」(37.9%)、「興味や関心がないから」(20.6%)と続いている。(図表Ⅲ-7-7)

【経年変化】

図表Ⅲ－７－８ 社会貢献活動をしたくない理由（経年変化）

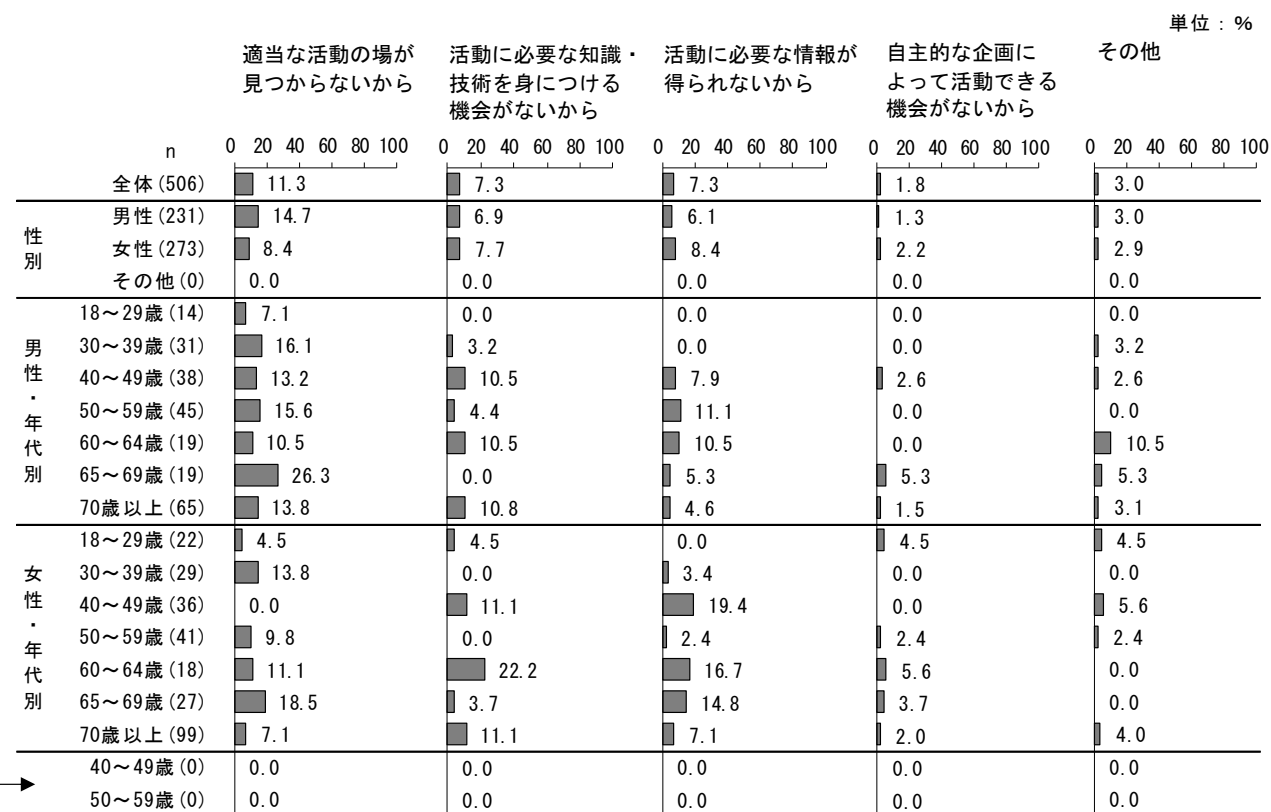
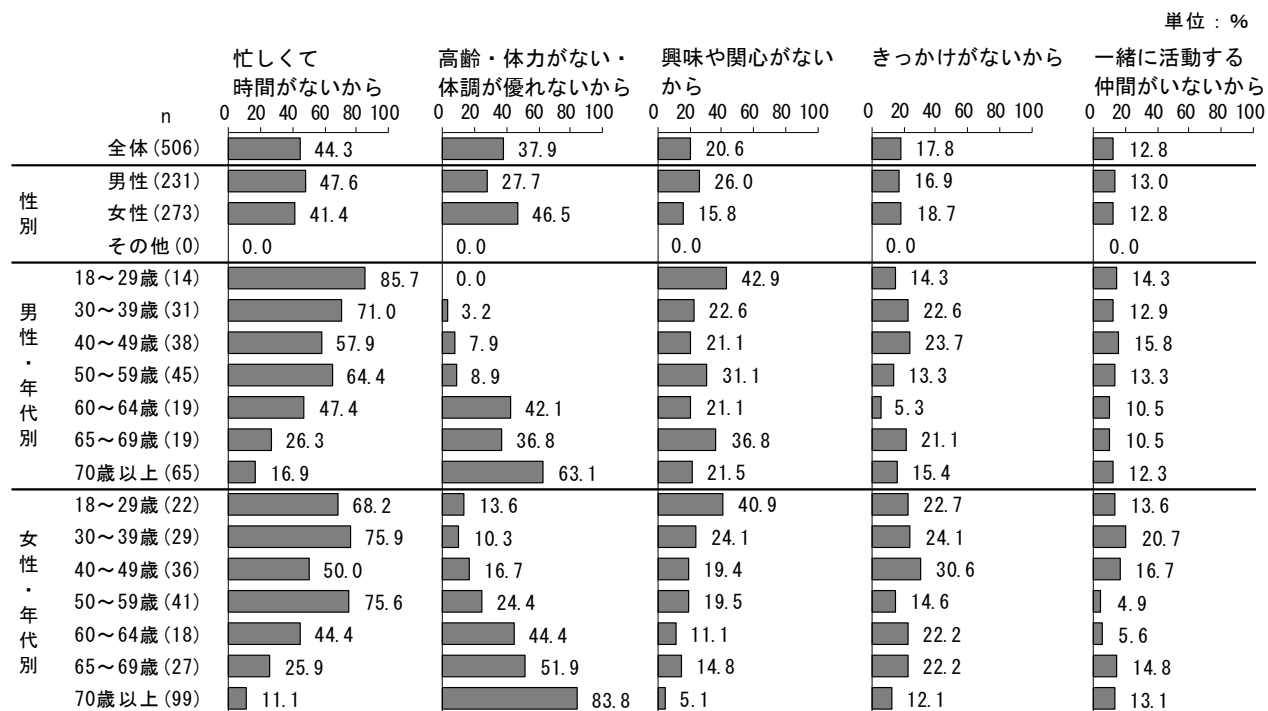


※ 令和3年度調査では、選択肢「高齢・体力がない・体調が優れないから」を新たに追加した。

「忙しくて時間がないから」(44.3%)は、平成30年度調査(51.6%)より7.3ポイント、「興味や関心がないから」(20.6%)は、平成30年度調査(26.2%)より5.6ポイント、「きっかけがないから」(17.8%)は平成30年度調査(25.7%)より7.9ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－７－８)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－７－９ 社会貢献活動をしたくない理由（性別／性・年代別）



その他・年代別

性別でみると、「忙しくて時間がないから」は、「男性」(47.6%)が「女性」(41.4%)より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「忙しくて時間がないから」は、「男性18～29歳」(85.7%)が8割台半ばと最も高くなっている。「高齢・体力がない・体調が優れないから」は、「女性70歳以上」(83.8%)が8割強と最も高くなっている。(図表Ⅲ－7－9)

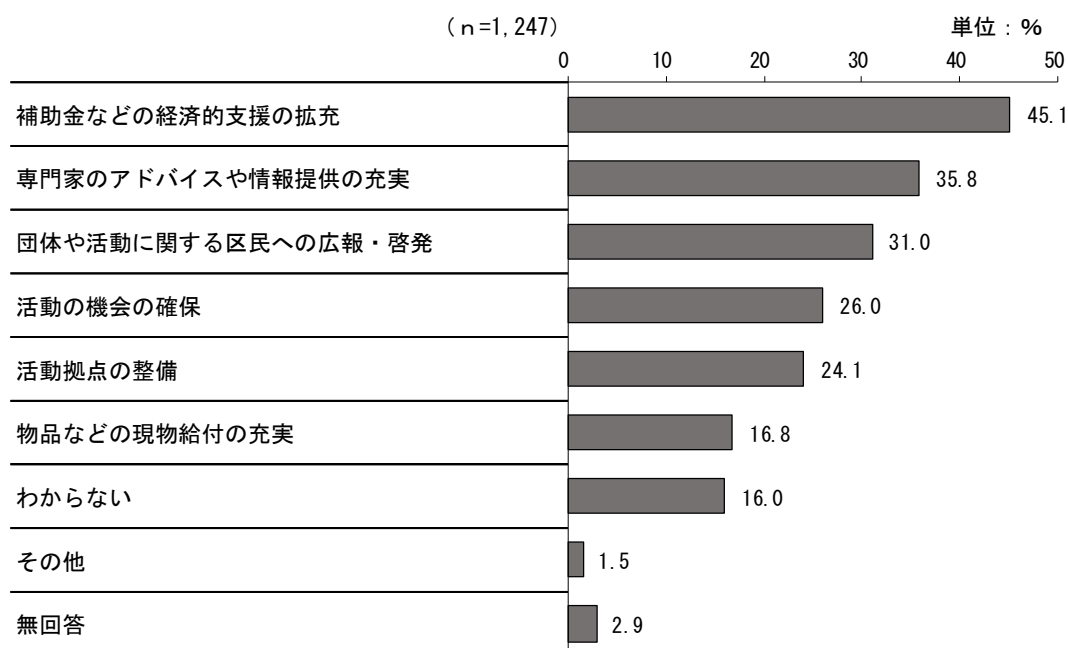
8. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が4割台半ば

問 14 自治町会や地域ボランティア団体などの活動を促進するために、行政が支援すべきことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

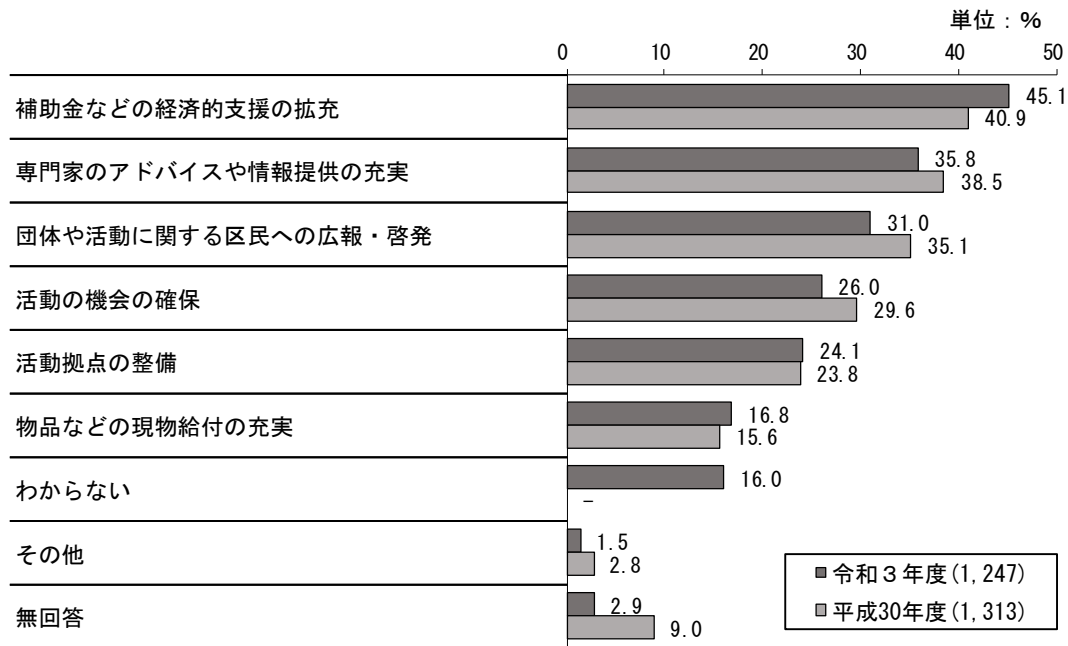
図表Ⅲ－8－1 地域貢献活動に対する支援



地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「専門家のアドバイスや情報提供の充実」(35.8%)、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」(31.0%)と続いている。(図表Ⅲ－8－1)

【経年変化】

図表Ⅲ－８－２ 地域貢献活動に対する支援（経年変化）



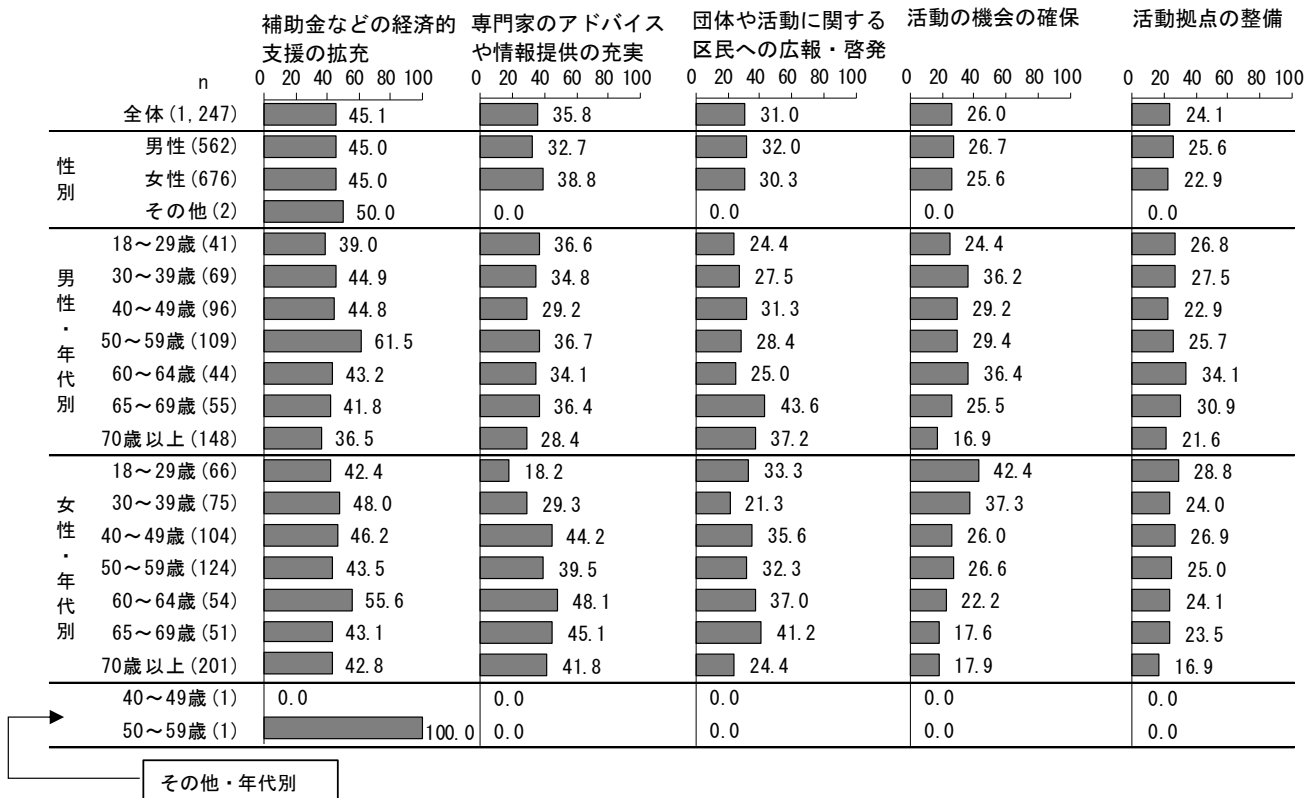
※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「補助金などの経済的支援の拡充」（45.1%）は平成30年度調査（40.9%）より4.2ポイント増加している。一方、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」（35.8%）は、平成30年度調査（38.5%）より2.7ポイント、「団体や活動に関する区民への広報・啓発」（31.0%）は、平成30年度調査（35.1%）より4.1ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－８－２）

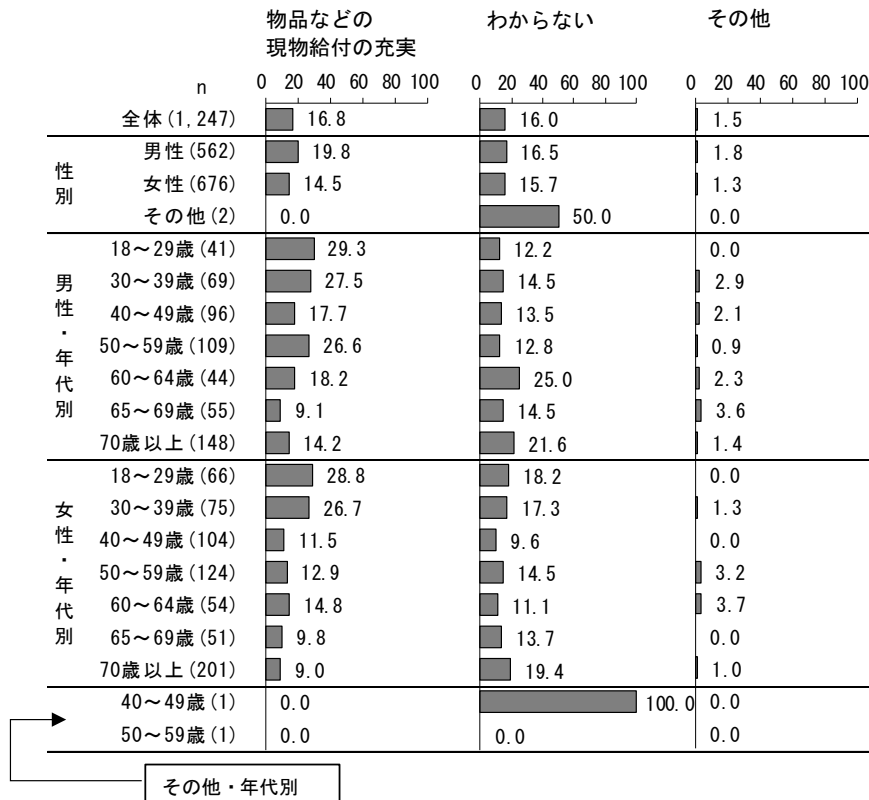
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－８－３ 地域貢献活動に対する支援（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



性別でみると、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」は、「女性」(38.8%)が「男性」(32.7%)より6.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「補助金などの経済的支援の充実」は「男性 50～59歳」(61.5%)が6割強と最も高くなっている。「専門家のアドバイスや情報提供の充実」は「女性 60～64歳」(48.1%)が5割近くと最も高くなっている。(図表Ⅲ－８－３)

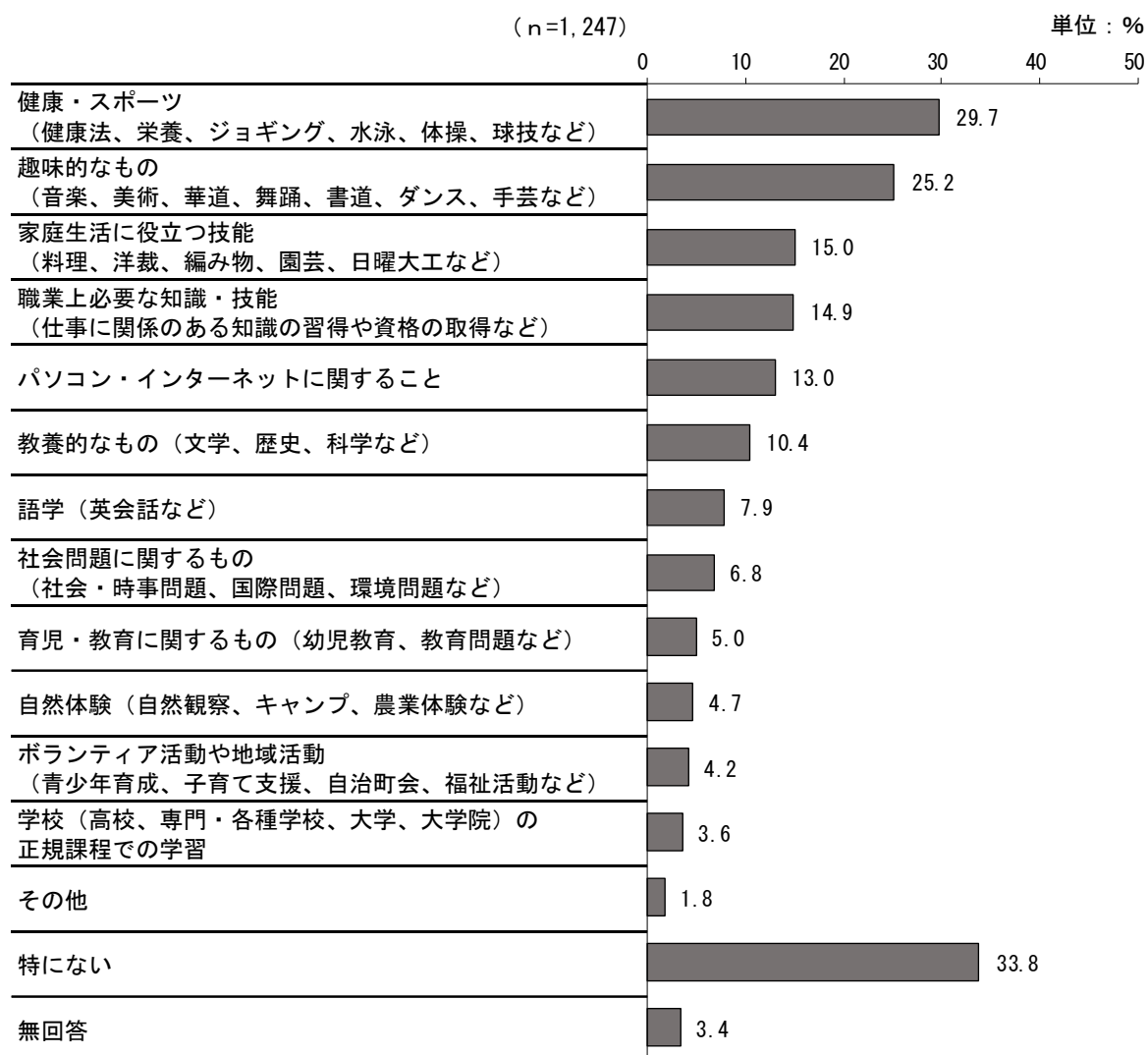
9. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況

◆ 「健康・スポーツ」が3割弱

問15 「生涯学習」とは、学校教育や社会教育、自宅などで行う学習活動を含めて、自分から進んで行う学習・文化活動、スポーツ、ボランティア活動、趣味などの様々な学習活動のことをいいます。あなたは、この1年くらいの間に、このような「生涯学習」をしましたか。(〇はいくつでも)

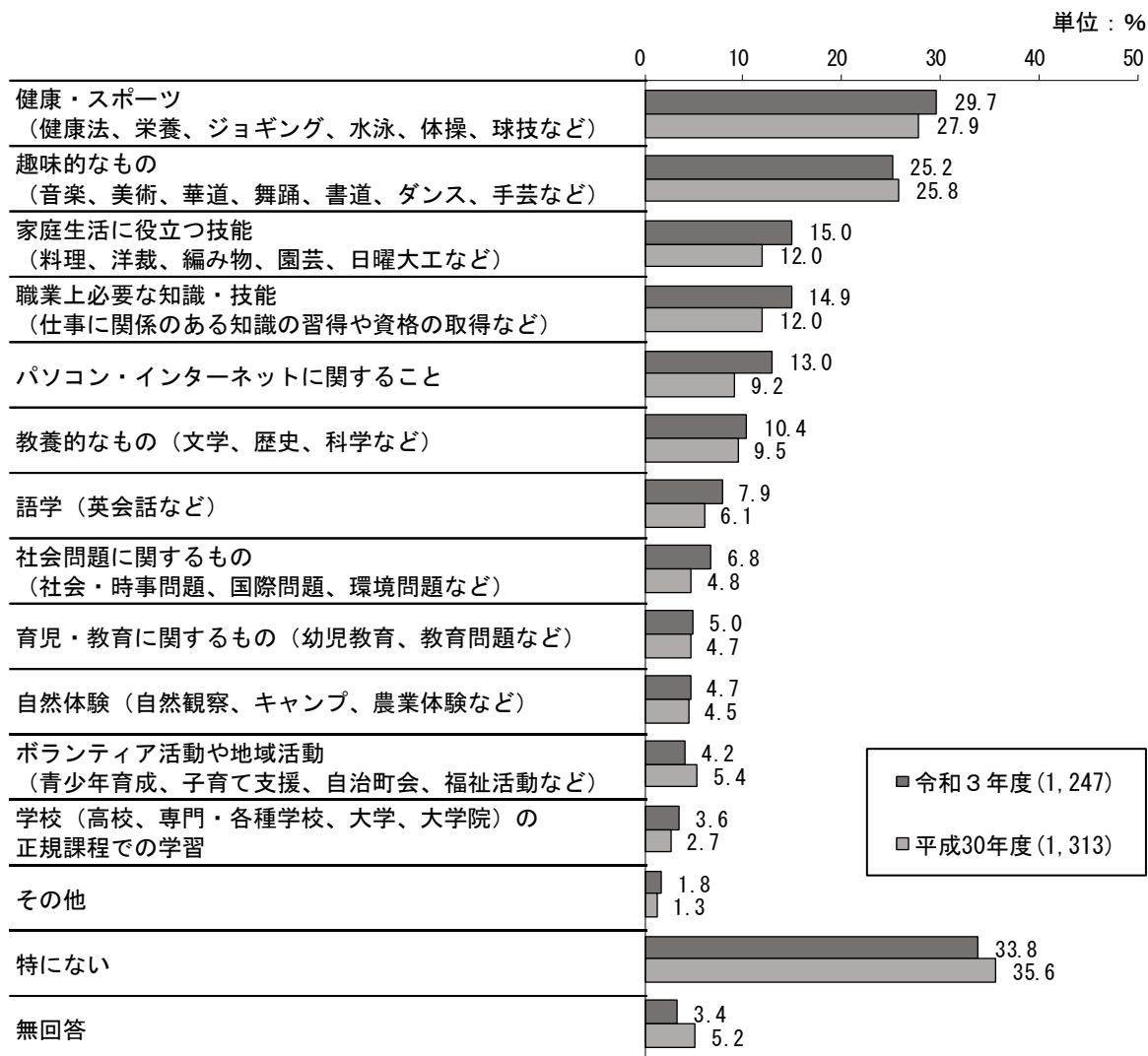
図表Ⅲ－9－1 最近1年間における生涯学習の実施状況



最近1年間における生涯学習の実施状況は、「健康・スポーツ」(29.7%)が3割弱と最も高く、次いで「趣味的なもの」(25.2%)、「家庭生活に役立つ技能」(15.0%)と続いている。なお、「特にない」(33.8%)は、3割強となっている。(図表Ⅲ－9－1)

【経年変化】

図表Ⅲ－９－２ 最近１年間における生涯学習の実施状況（経年変化）

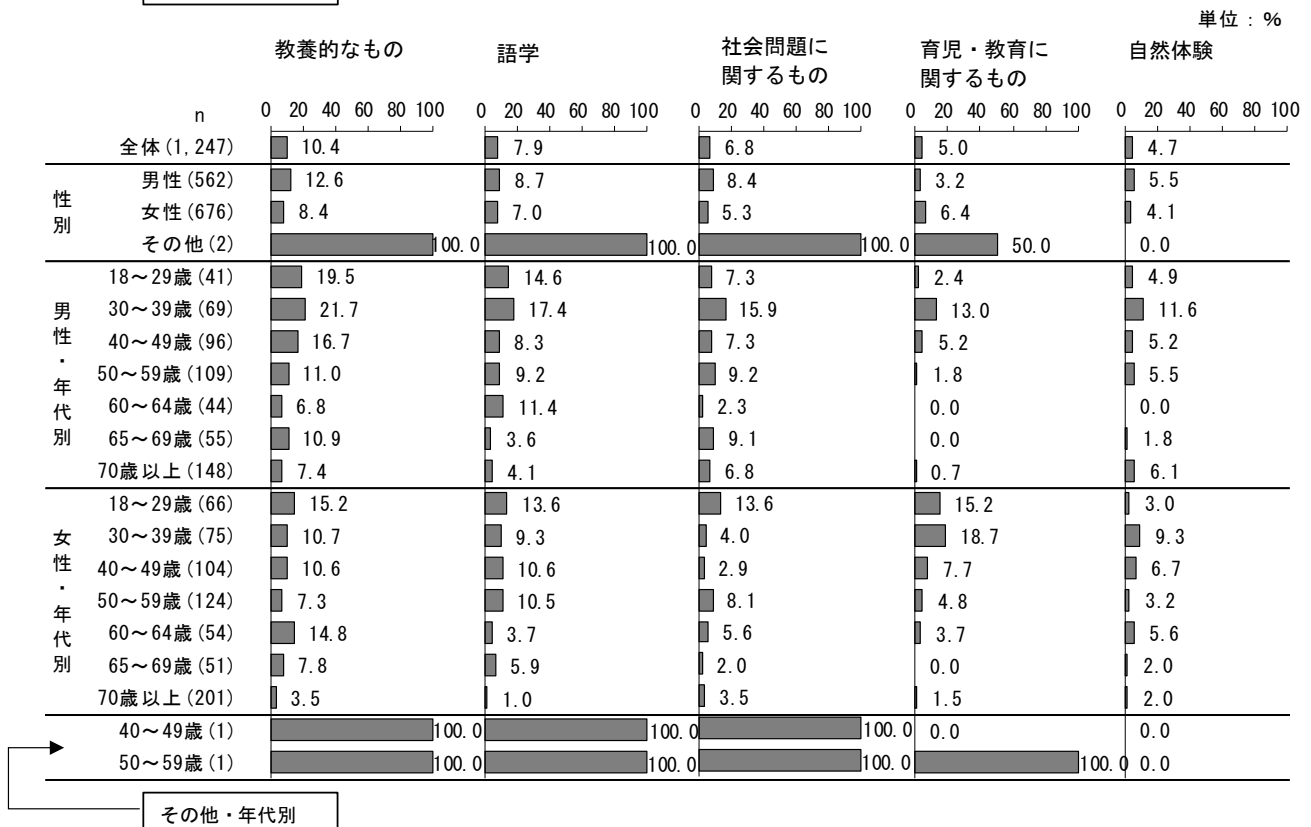
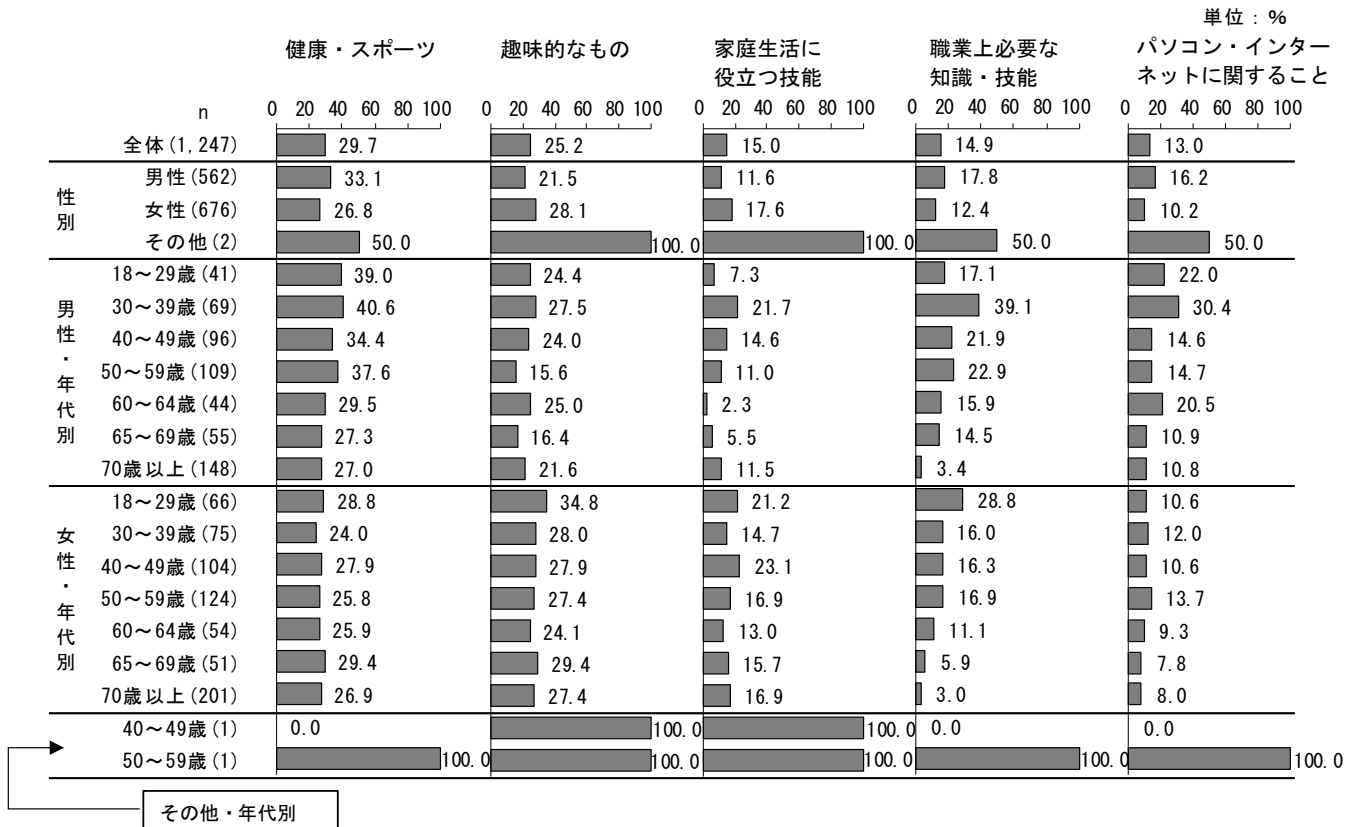


「健康・スポーツ」(29.7%)は、平成30年度調査(27.9%)より1.8ポイント、「家庭生活に役立つ技能」(15.0%)は、平成30年度調査(12.0%)より3.0ポイント、「職業上必要な知識・技能」(14.9%)は、平成30年度調査(12.0%)より2.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「趣味的なもの」(25.2%)は、平成30年度調査(25.8%)より0.6ポイント減少している。

なお、「特にない」(33.8%)は、平成30年度調査(35.6%)より1.8ポイント減少している。(図表Ⅲ－９－２)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－９－３ 最近１年間における生涯学習の実施状況（上位10項目）（性別／性・年代別）



上位10項目について性別で見ると、「健康・スポーツ」は、「男性」(33.1%)が「女性」(26.8%)より6.3ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの」は、「女性」(28.1%)が「男性」(21.5%)より6.6ポイント高くなっている。

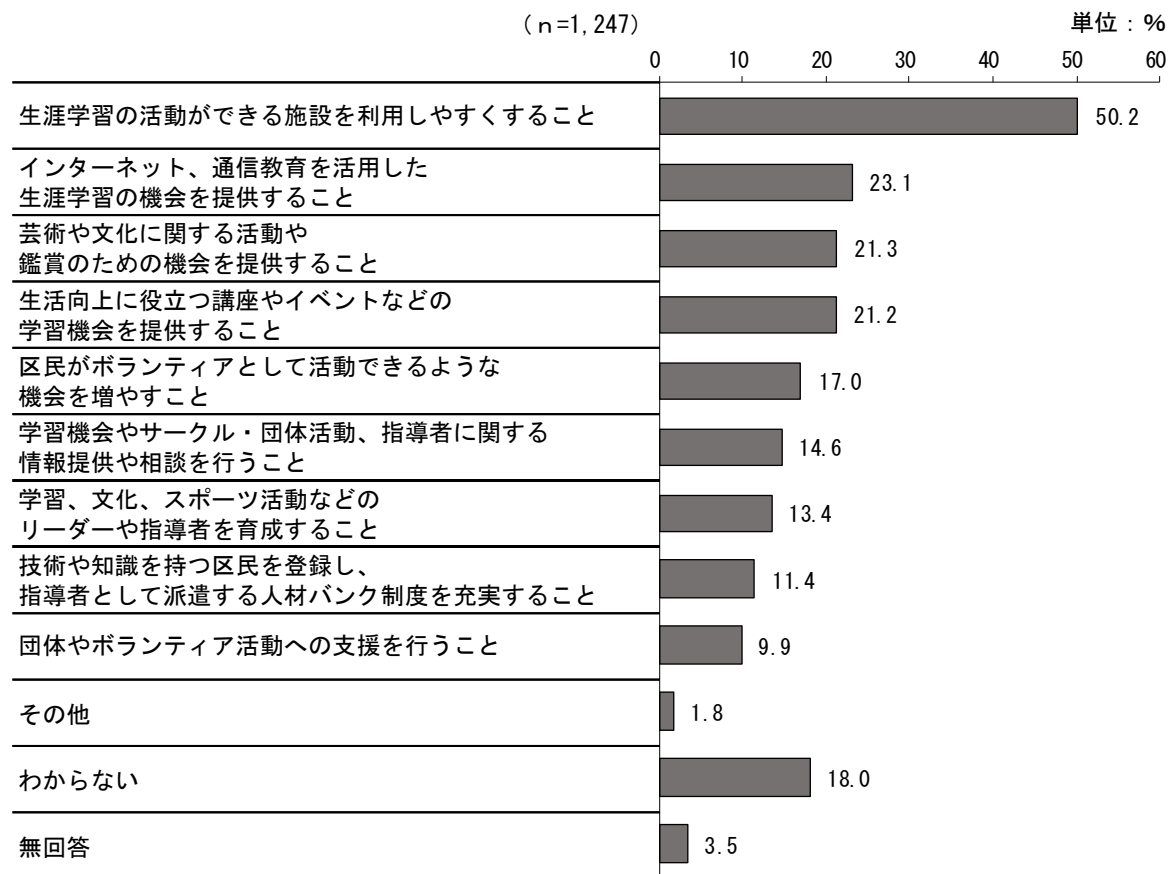
性・年代別で見ると、「趣味的なもの」は、「女性18～29歳」(34.8%)が3割台半ばと高くなっている。(図表Ⅲ－9－3)

(2) 生涯学習を充実させるために重要なこと

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が約5割

問 16 生涯学習を充実させるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

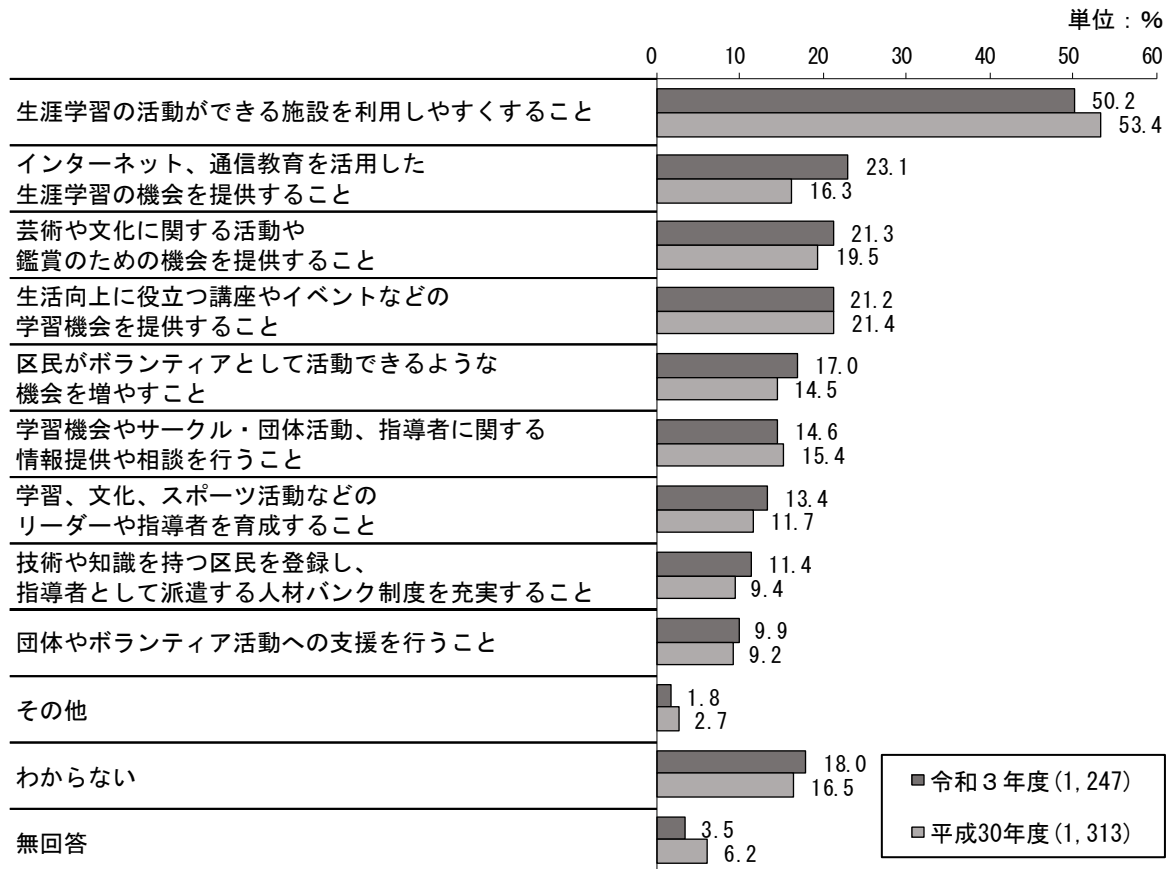
図表Ⅲ－9－4 生涯学習を充実させるために重要なこと



生涯学習を充実させるために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(50.2%)が約5割と最も高く、次いで「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(23.1%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(21.3%)と続いている。(図表Ⅲ－9－4)

【経年変化】

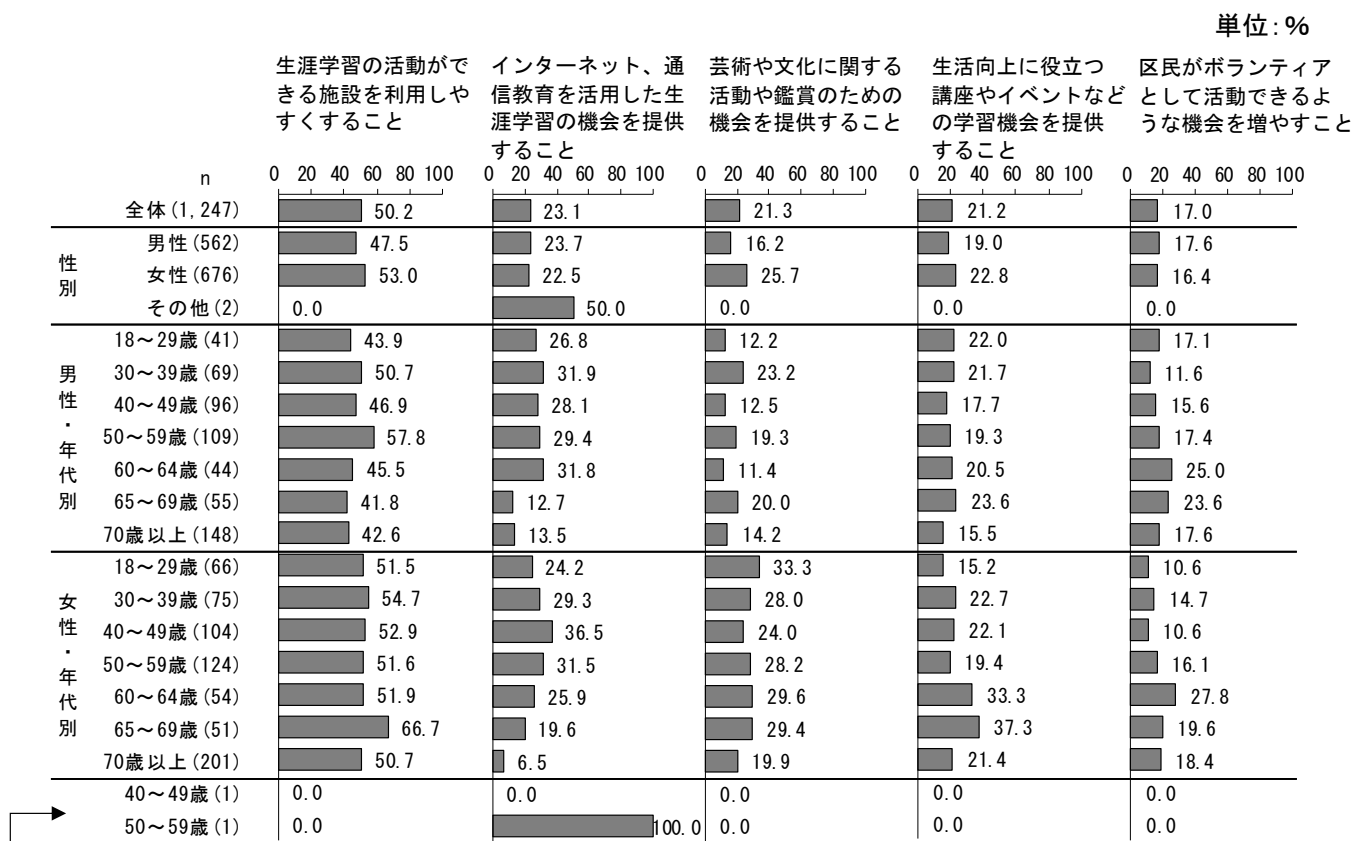
図表Ⅲ－９－５ 生涯学習を充実させるために重要なこと（経年変化）



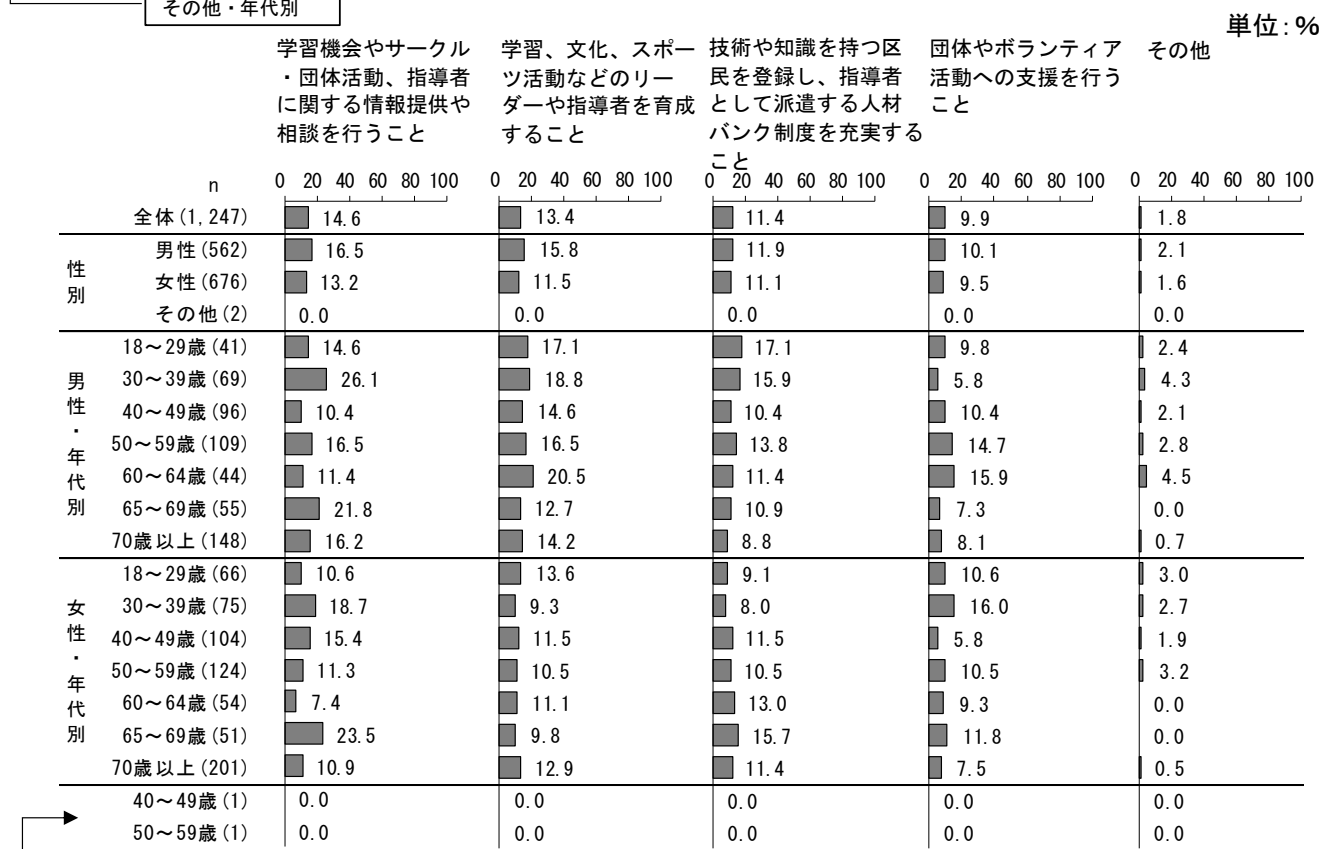
「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(50.2%)は、平成30年度調査(53.4%)より3.2ポイント、「生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること」(21.2%)は、平成30年度調査(21.4%)より0.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(23.1%)は、平成30年度調査(16.3%)より6.8ポイント、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(21.3%)は、平成30年度調査(19.5%)より1.8ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅲ－９－５)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－9－6 生涯学習を充実させるために重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）



その他・年代別



その他・年代別

上位10項目について性別で見ると、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」は、「女性」(53.0%)が「男性」(47.5%)より5.5ポイント高くなっている。

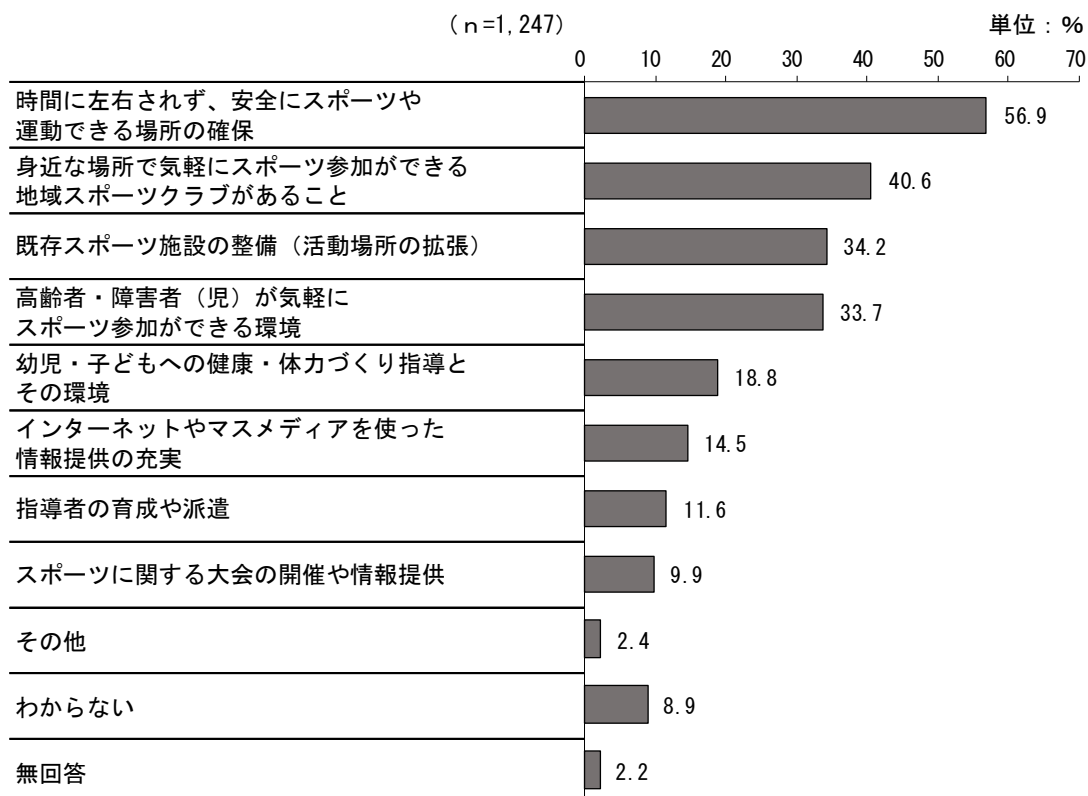
性・年代別で見ると、「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」は、「女性40～49歳」(36.5%)が高くなっている。(図表Ⅲ－9－6)

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」が6割近く

問17 誰もがスポーツを楽しむために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

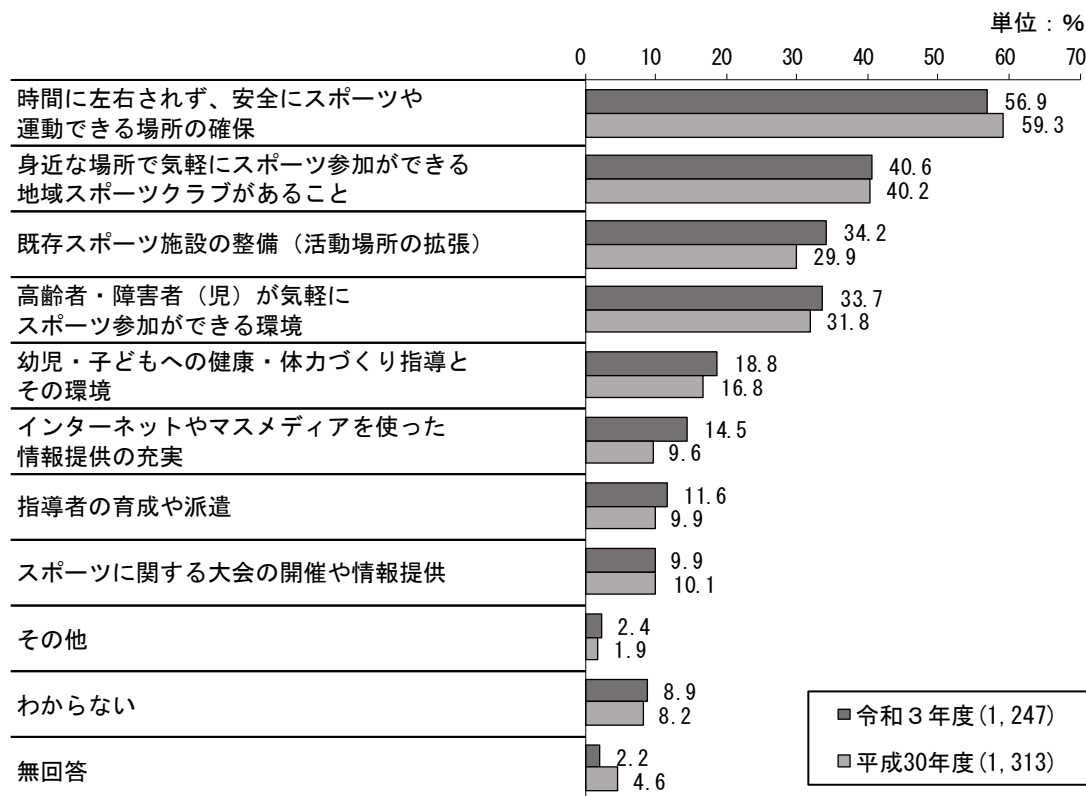
図表Ⅲ－9－7 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと



誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」(56.9%)が6割近くと最も高く、次いで「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(40.6%)、「既存スポーツ施設の整備（活動場所の拡張）」(34.2%)と続いている。(図表Ⅲ－9－7)

【経年変化】

図表Ⅲ－９－８ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（経年変化）

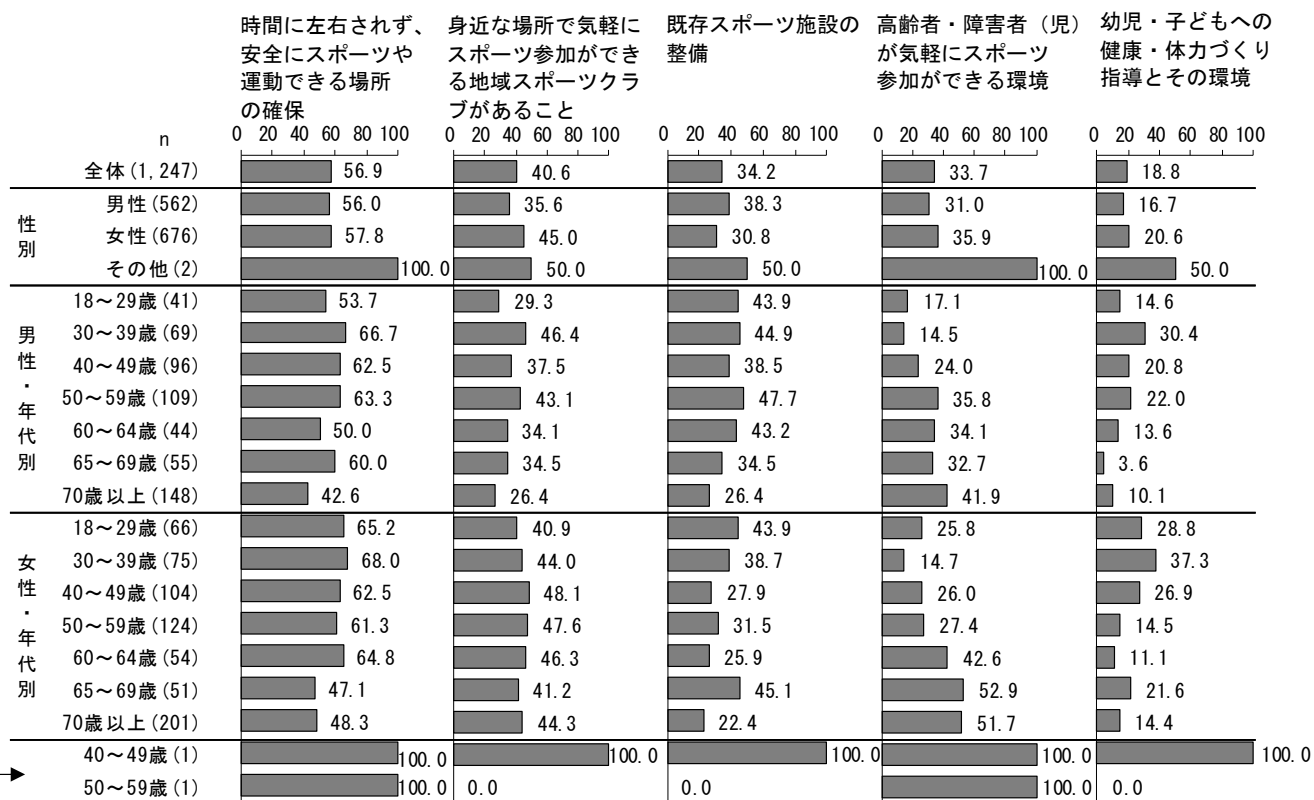


「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」（56.9%）は、平成30年度調査（59.3%）より2.4ポイント減少している。一方「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」（40.6%）は、平成30年度調査（40.2%）より0.4ポイント、「既存スポーツ施設の整備（活動場所の拡張）」（34.2%）は、平成30年度調査（29.9%）より4.3ポイント、「高齢者・障害者（児）が気軽にスポーツ参加ができる環境」（33.7%）は、平成30年度調査（31.8%）より1.9ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅲ－９－８）

【性別／性・年代別】

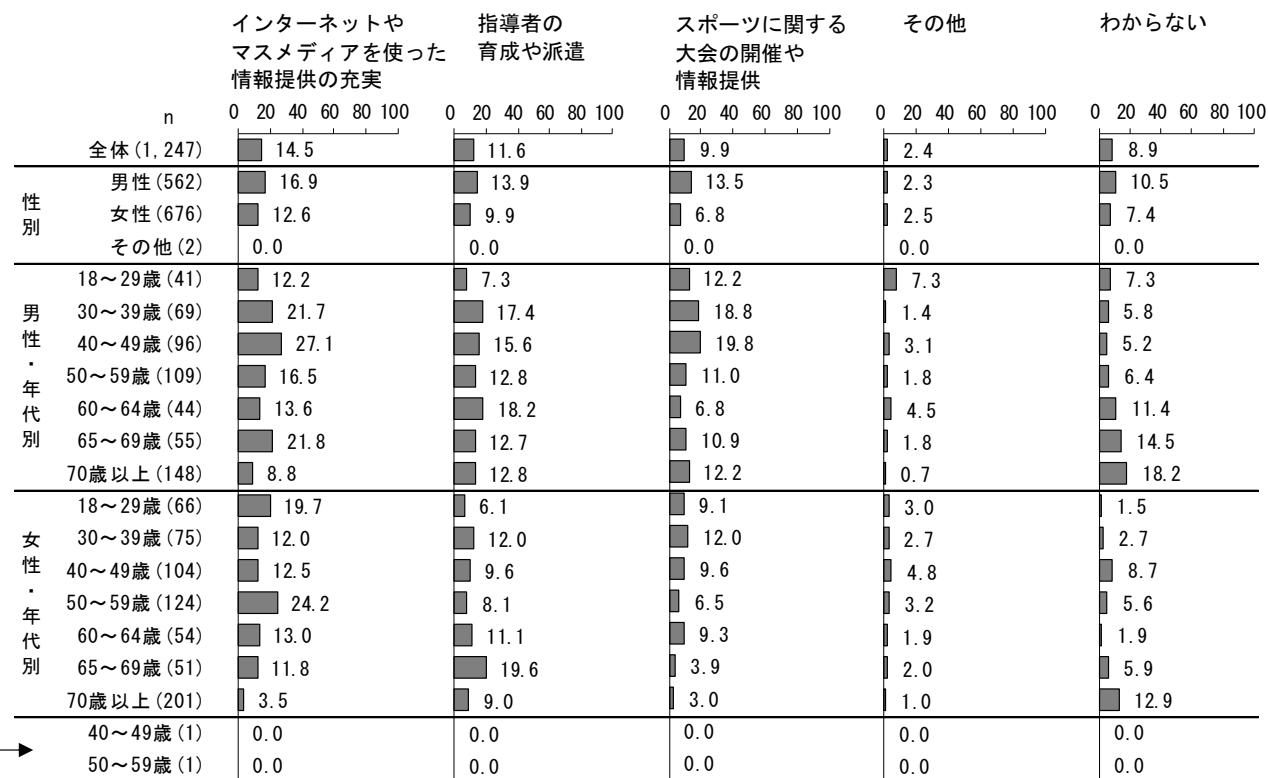
図表Ⅲ－９－９ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（性別／性・年代別）

単位：%



その他・年代別

単位：%



その他・年代別

性別でみると、「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」は、「女性」(45.0%)が「男性」(35.6%)より9.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」は、男女ともに「30～39歳」が最も高くなっている。(図表Ⅲ－９－９)

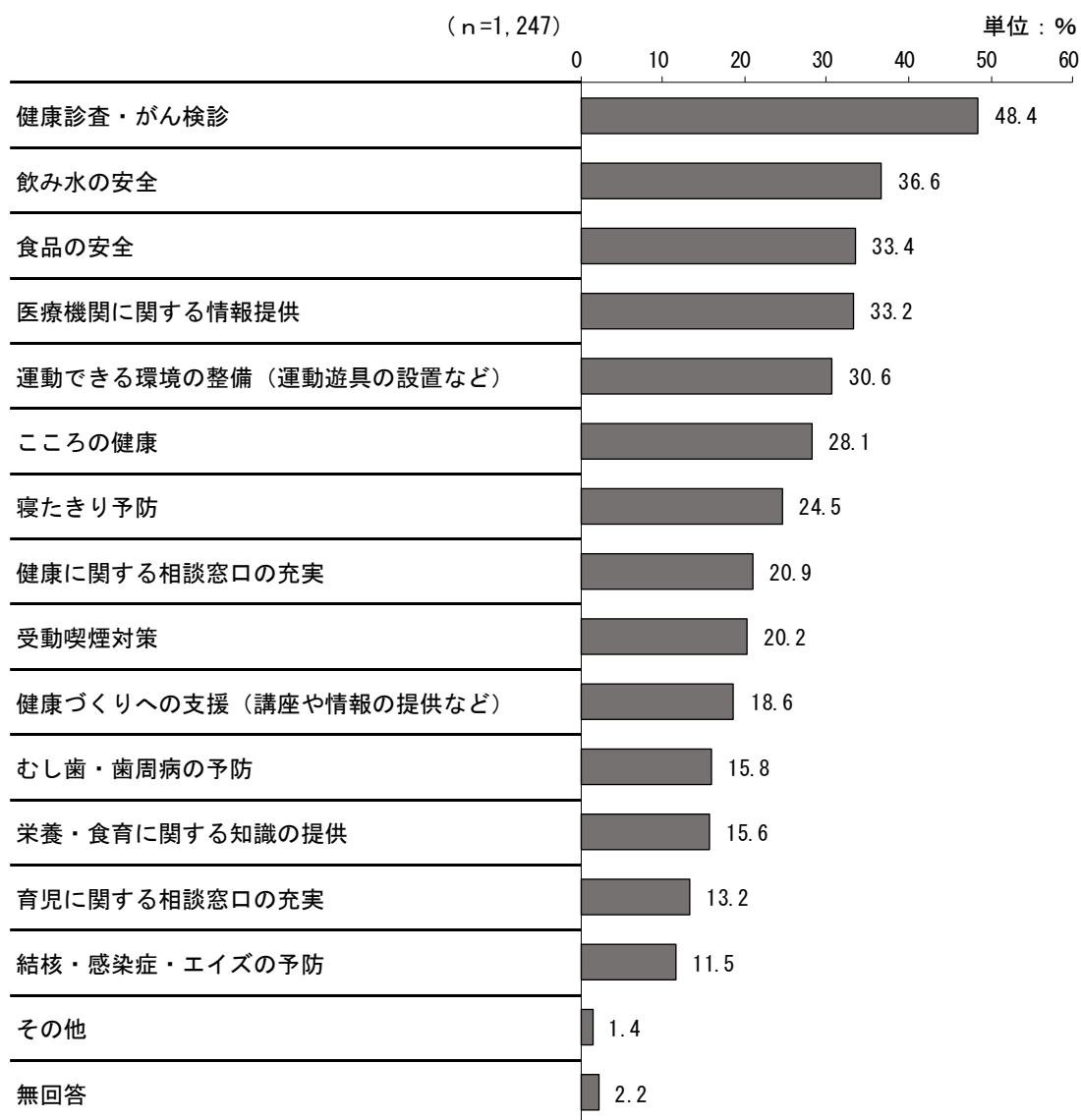
10. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと

◆ 「健康診査・がん検診」が5割近く

問 18 あなたがより健康な生活を送るために、葛飾区にはどのようなことに力を入れてほしいですか。(〇はいくつでも)

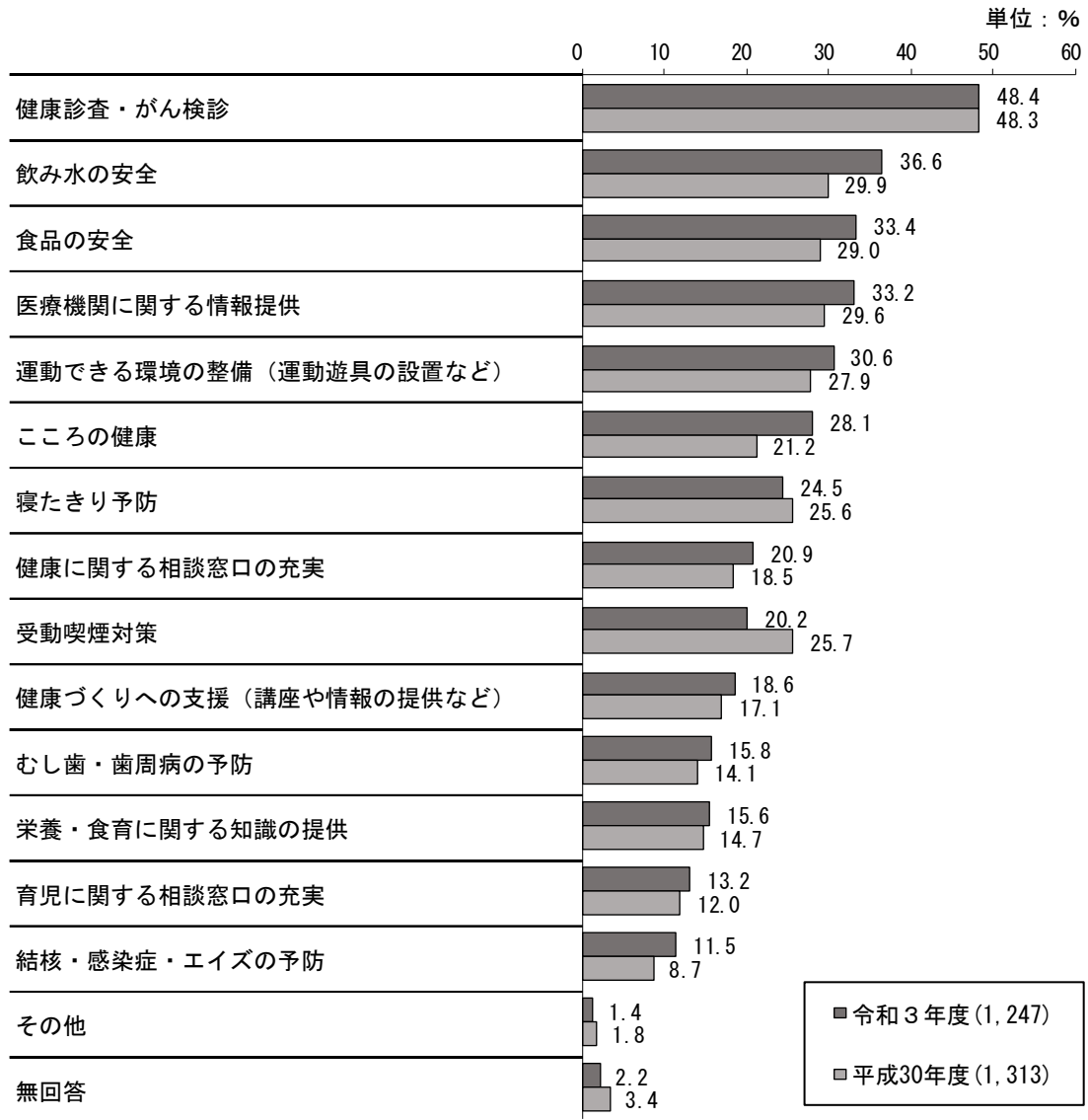
図表Ⅲ-10-1 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと



健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」(48.4%)が5割近くと最も高く、次いで「飲み水の安全」(36.6%)、「食品の安全」(33.4%)と続いている。(図表Ⅲ-10-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－10－2 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（経年変化）

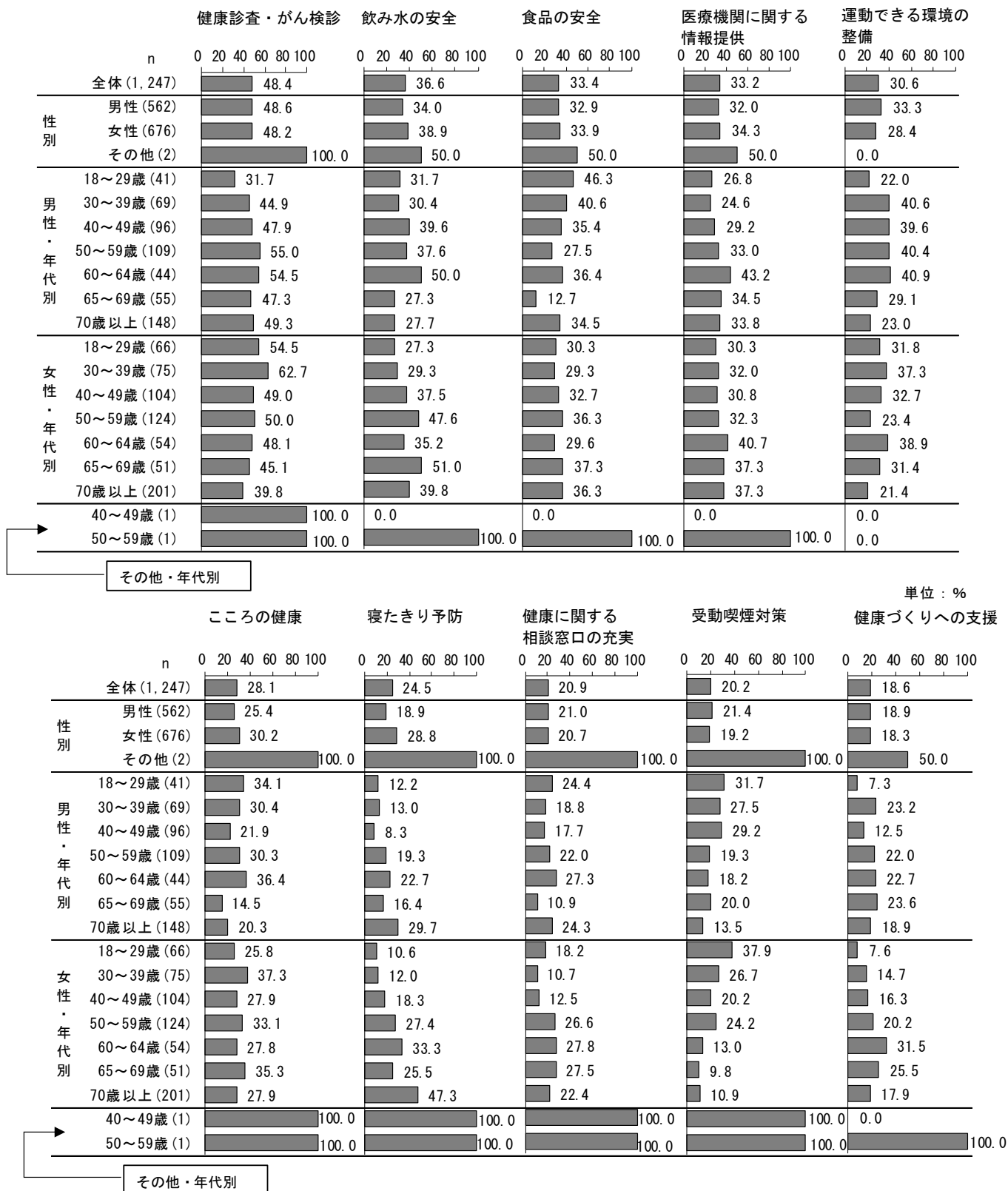


「健康診査・がん検診」（48.4%）は、平成30年度調査（48.3%）より0.1ポイント、「飲み水の安全」（36.6%）は、平成30年度調査（29.9%）より6.7ポイント、「食品の安全」（33.4%）は、平成30年度調査（29.0%）より4.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「寝たきり予防」（24.5%）は、平成30年度調査（25.6%）より1.1ポイント減少している。（図表Ⅲ－10－2）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-10-3 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



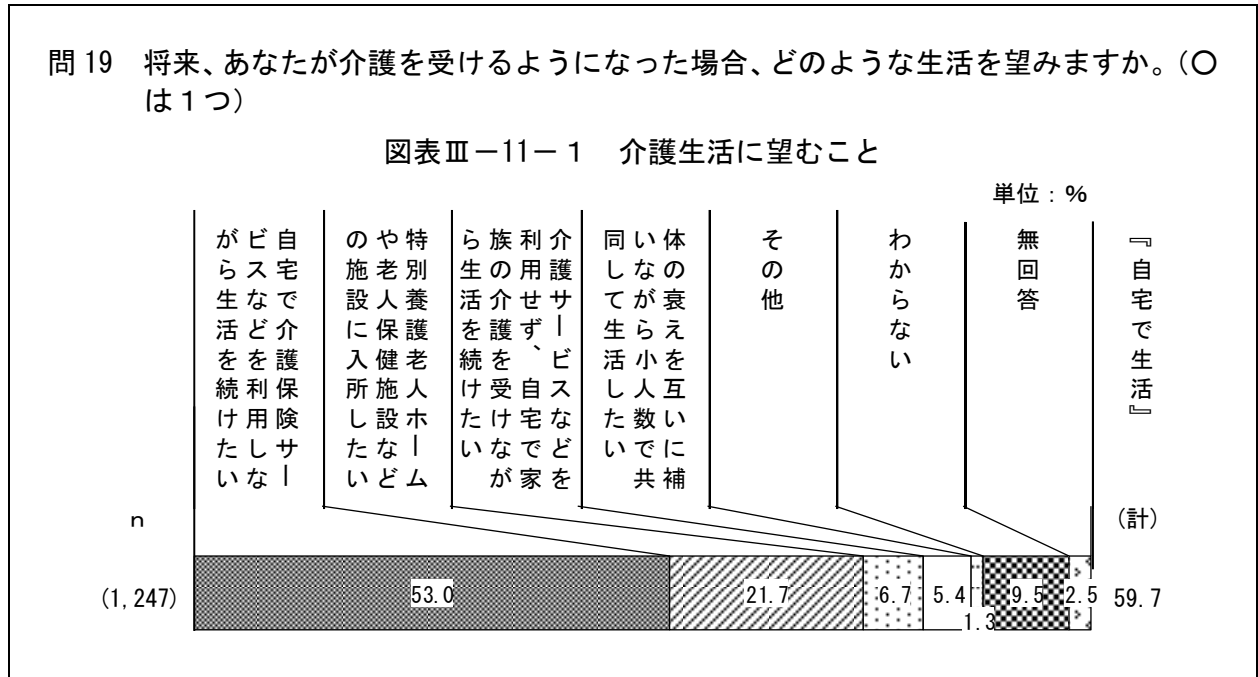
上位10項目について性別で見ると、「飲み水の安全」は、「女性」(38.9%)が「男性」(34.0%)より4.9ポイント高くなっている。一方、「運動できる環境の整備」は、「男性」(33.3%)が「女性」(28.4%)より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「健康診査・がん検診」は、「男性 50～59歳」(55.0%)、「女性 30～39歳」(62.7%)がそれぞれ最も高くなっている。また、「飲み水の安全」は、「女性 65～69歳」(51.0%)が5割強と最も高くなっている。(図表Ⅲ-10-3)

11. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと

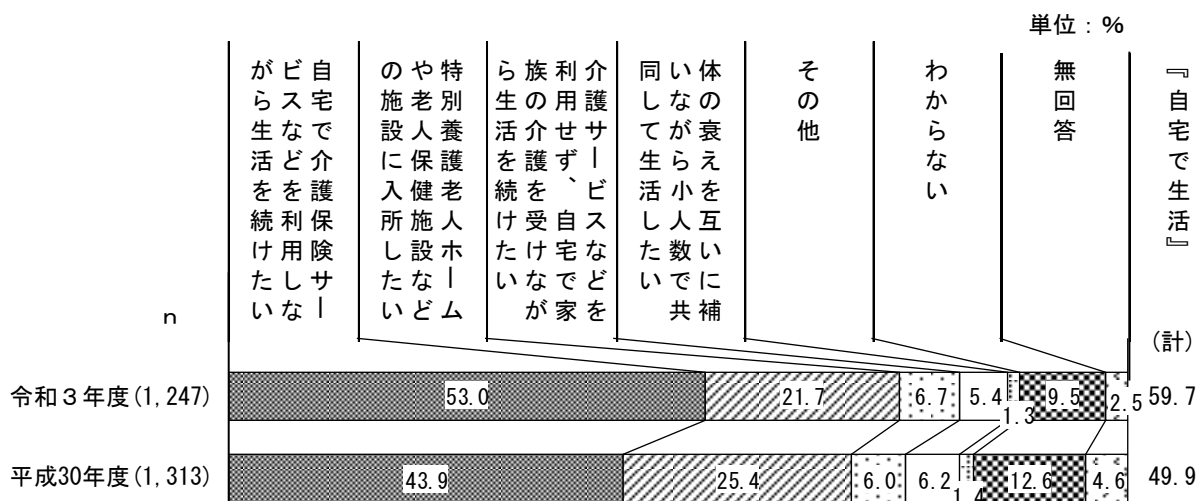
◆ 『自宅で生活』が6割弱



介護生活に望むことは、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」(53.0%)が5割強と最も高くなっている。また、これに「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」(6.7%)を合わせた『自宅で生活』(59.7%)が6割弱となっている。(図表Ⅲ-11-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-11-2 介護生活に望むこと(経年変化)

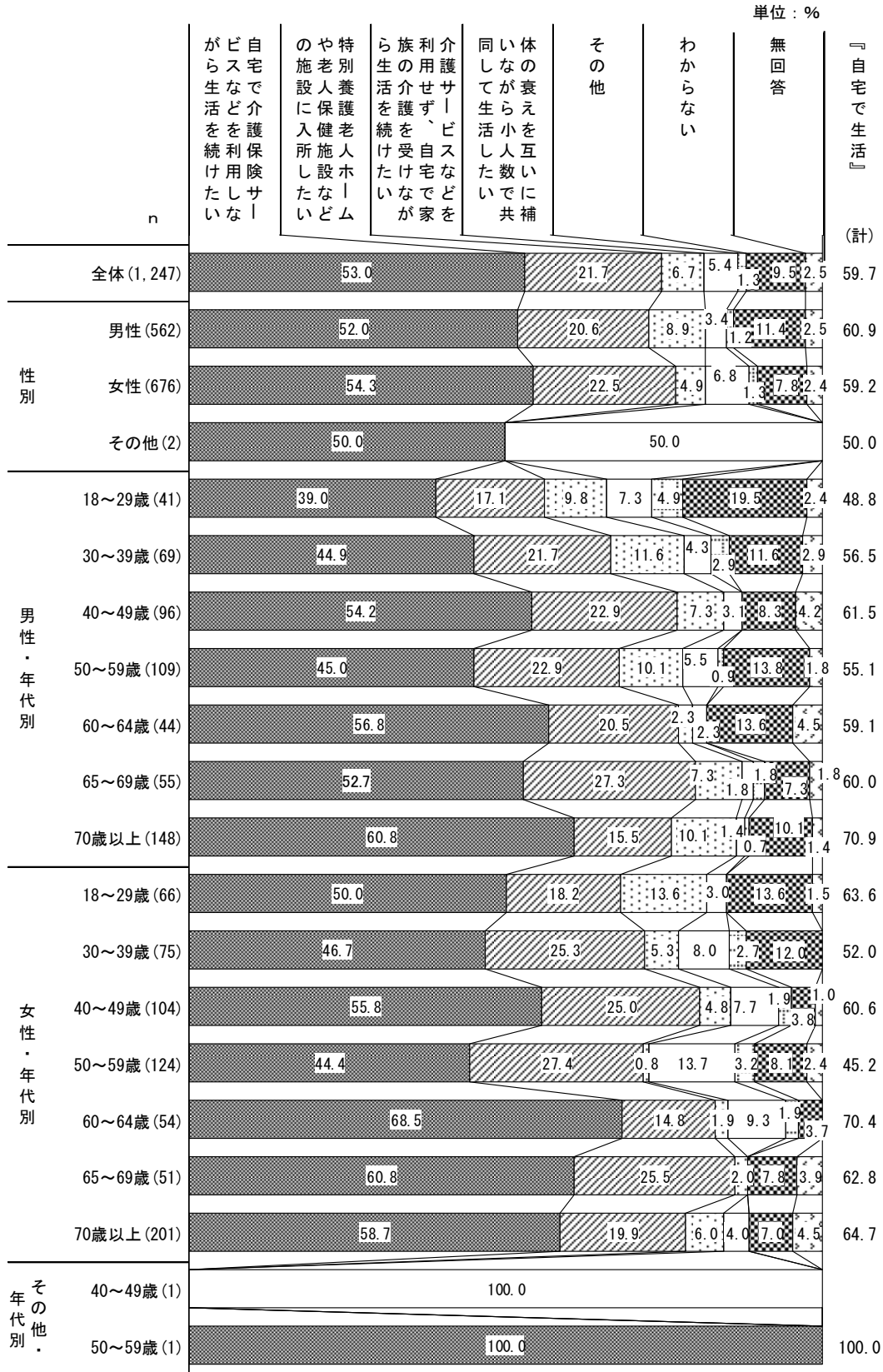


「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」(21.7%)は、平成30年度調査(25.4%)より3.7ポイント減少している。

一方、『自宅で生活』(59.7%)は、平成30年度調査(49.9%)より9.8ポイント増加している。(図表Ⅲ-11-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－11－3 介護生活に望むこと（性別／性・年代別）



性別で見ると、『自宅で生活』は、「男性」(60.9%)が「女性」(59.2%)より1.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」は、「女性60～64歳」(68.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－11－3)

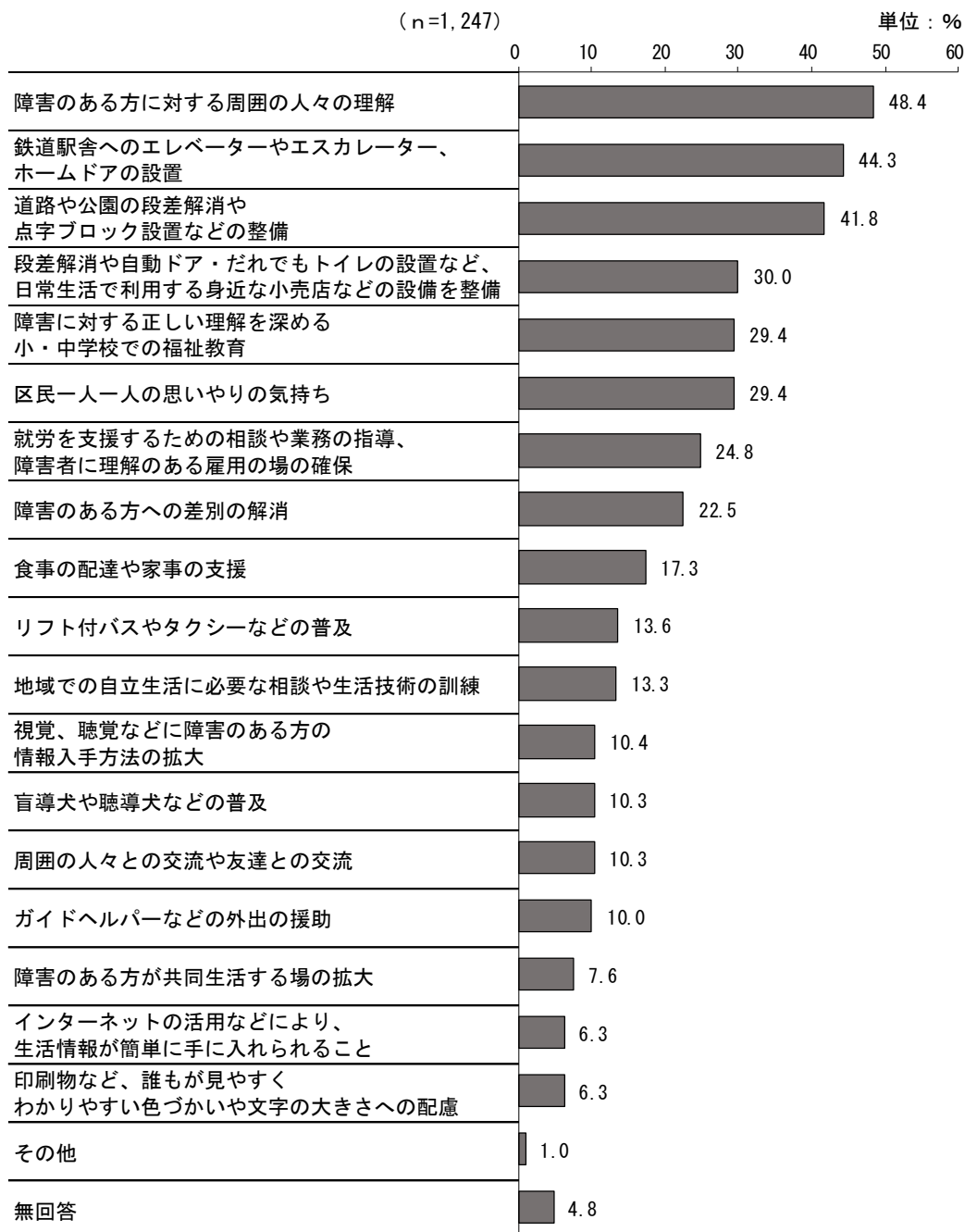
12. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が5割近く

問 20 障害がある方など誰もが安心して暮らせるためには、何が重要だと思いますか。(〇は5つまで)

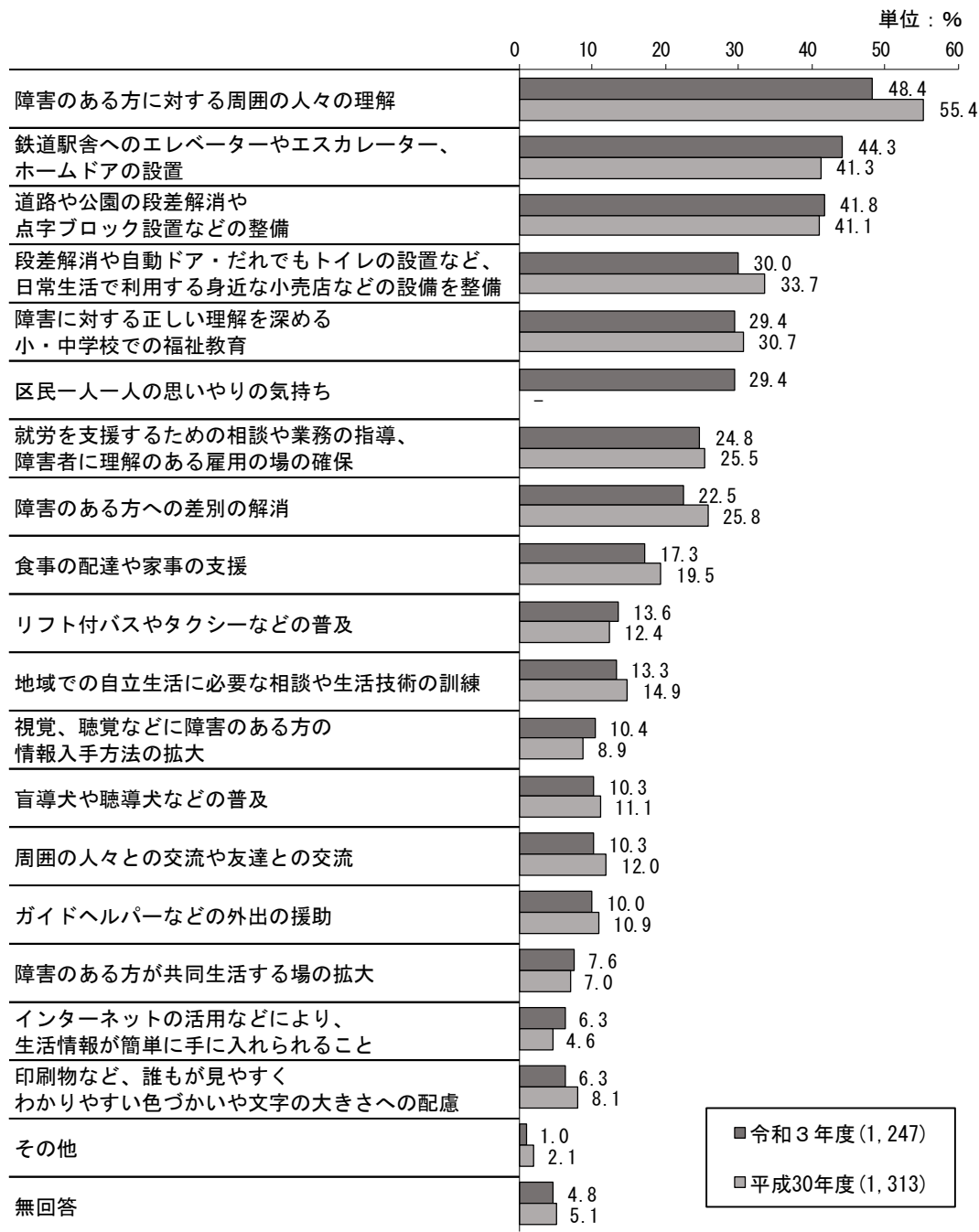
図表Ⅲ-12-1 障害者が安心して暮らすために重要なこと



障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(48.4%)が5割近くと最も高くなっている。次いで「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(44.3%)、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(41.8%)と続いている。(図表Ⅲ-12-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-12-2 障害者が安心して暮らすために重要なこと（経年変化）



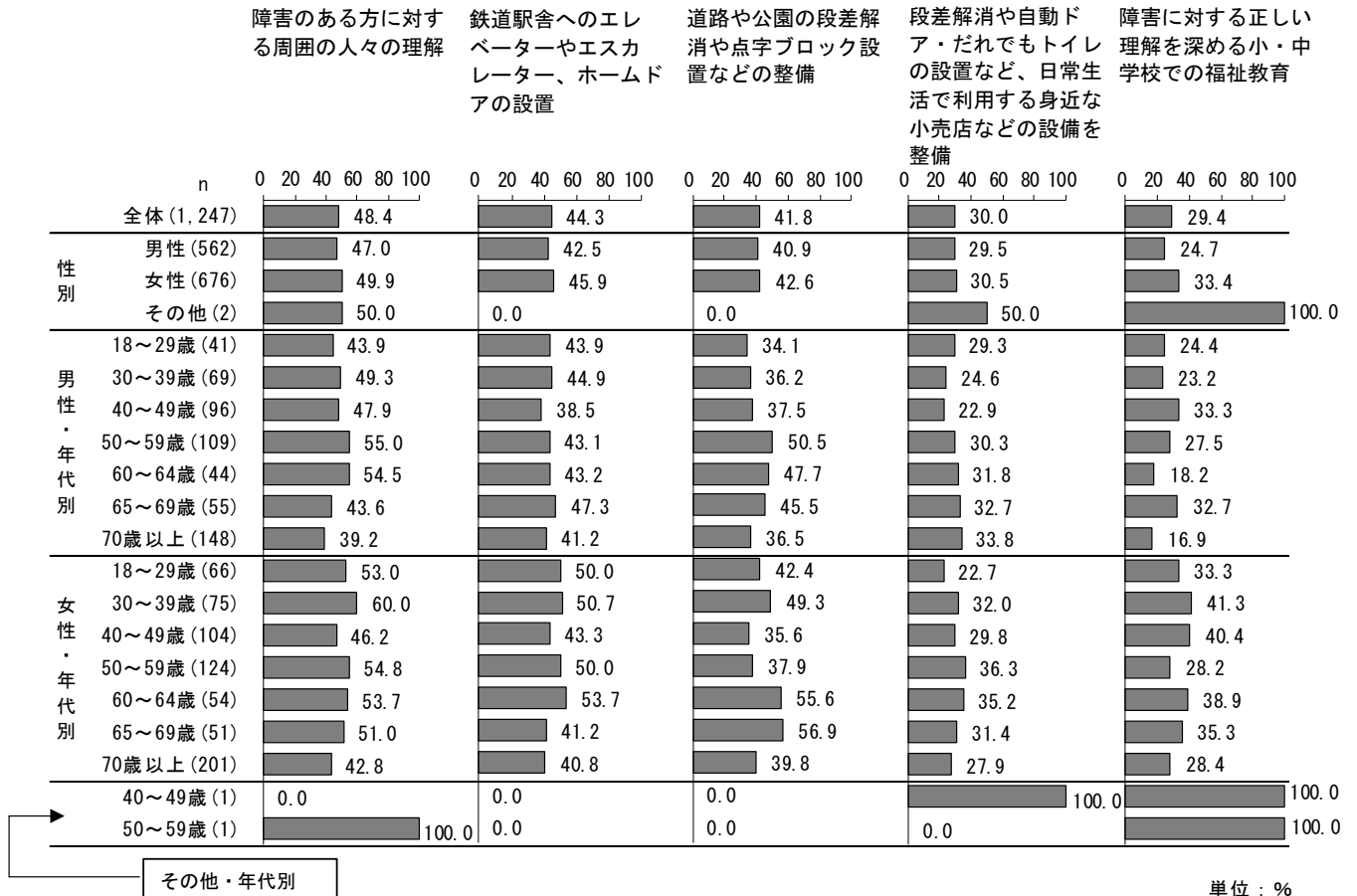
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「区民一人一人の思いやりの気持ち」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査で選択肢「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーターの設置」と表記していたものを「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」と表記した。

「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(48.4%)は、平成30年度調査(55.4%)より7.0ポイント、「段差解消や自動ドア・だれでもトイレの設置など、日常生活で利用する身近な小売店などの設備を整備」(30.0%)は、平成30年度調査(33.7%)より3.7ポイント、それぞれ減少している。一方、「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(44.3%)は、平成30年度調査(41.3%)より3.0ポイント、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(41.8%)は、平成30年度調査(41.1%)より0.7ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅲ-12-2)

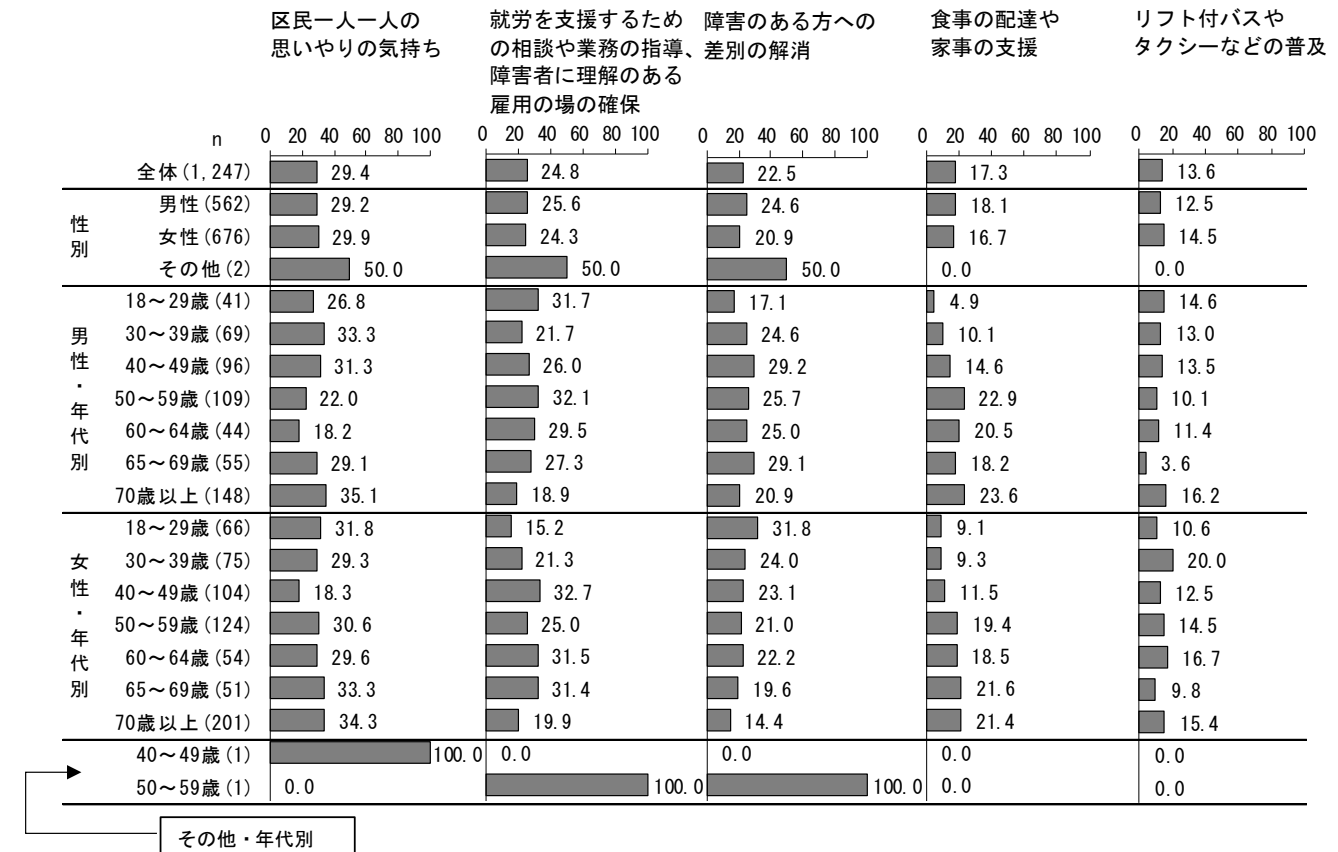
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-12-3 障害者が安心して暮らすために重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



上位10項目について性別で見ると、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」は、「女性」(49.9%)が「男性」(47.0%)より2.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」は、「女性30～39歳」(60.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-12-3)

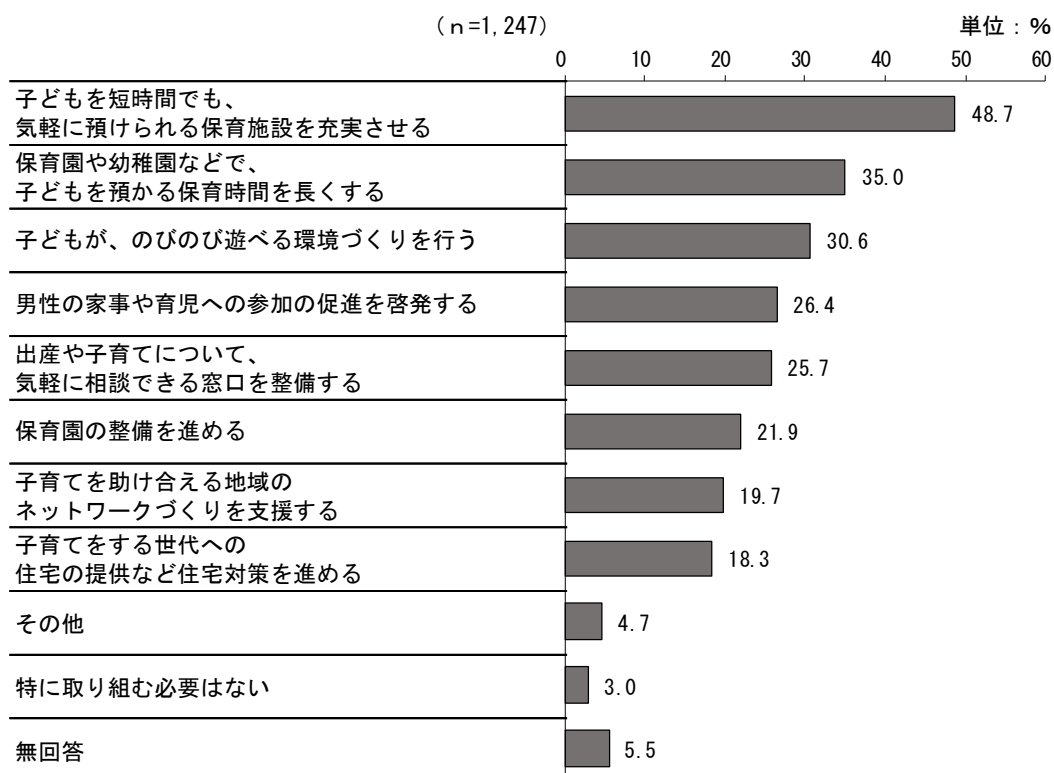
13. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策

◆ 「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」が5割近く

問 21 少子化社会の中で、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。(○は3つまで)

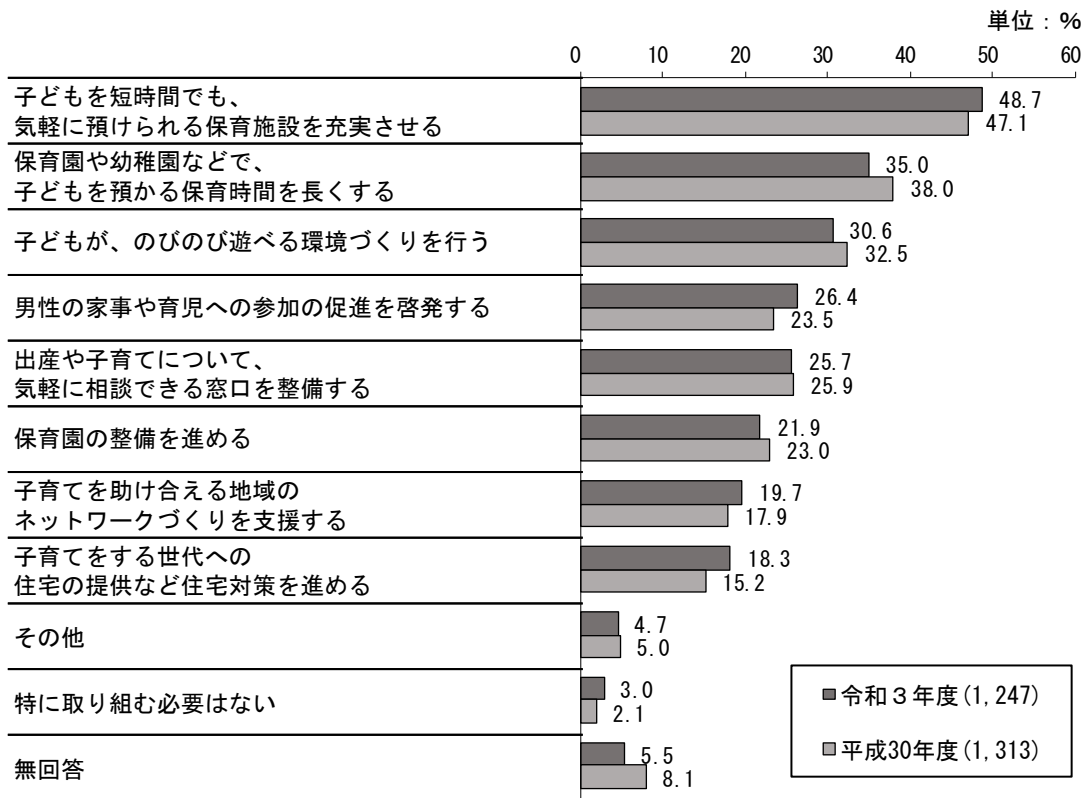
図表Ⅲ-13-1 少子化対策における必要な施策



少子化対策における必要な施策は、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(48.7%)が5割近くと最も高くなっている。次いで「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」(35.0%)、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(30.6%)と続いている。(図表Ⅲ-13-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－13－2 少子化対策における必要な施策（経年変化）

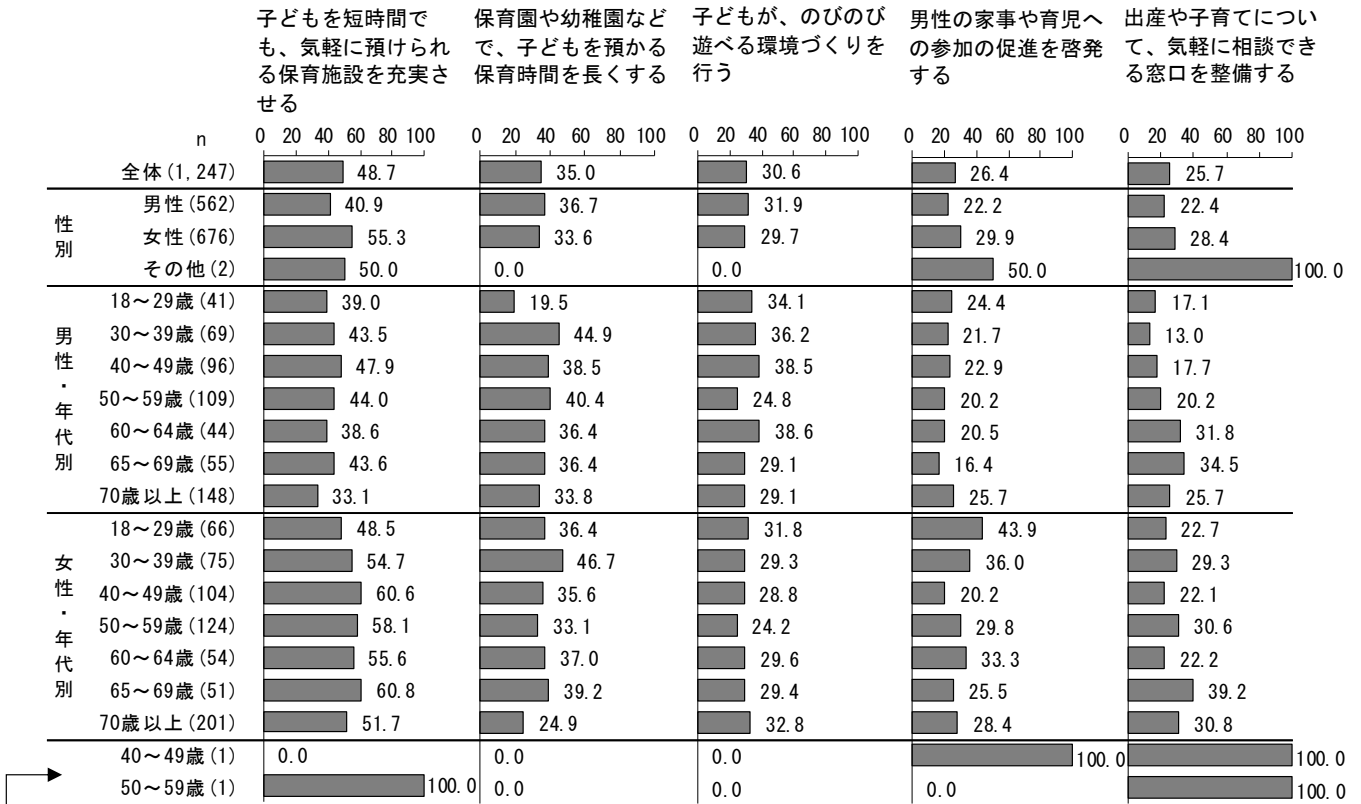


「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」（48.7%）は、平成30年度調査（47.1%）より1.6ポイント増加している。一方、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」（35.0%）は、平成30年度調査（38.0%）より3.0ポイント、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」（30.6%）は、平成30年度調査（32.5%）より1.9ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－13－2）

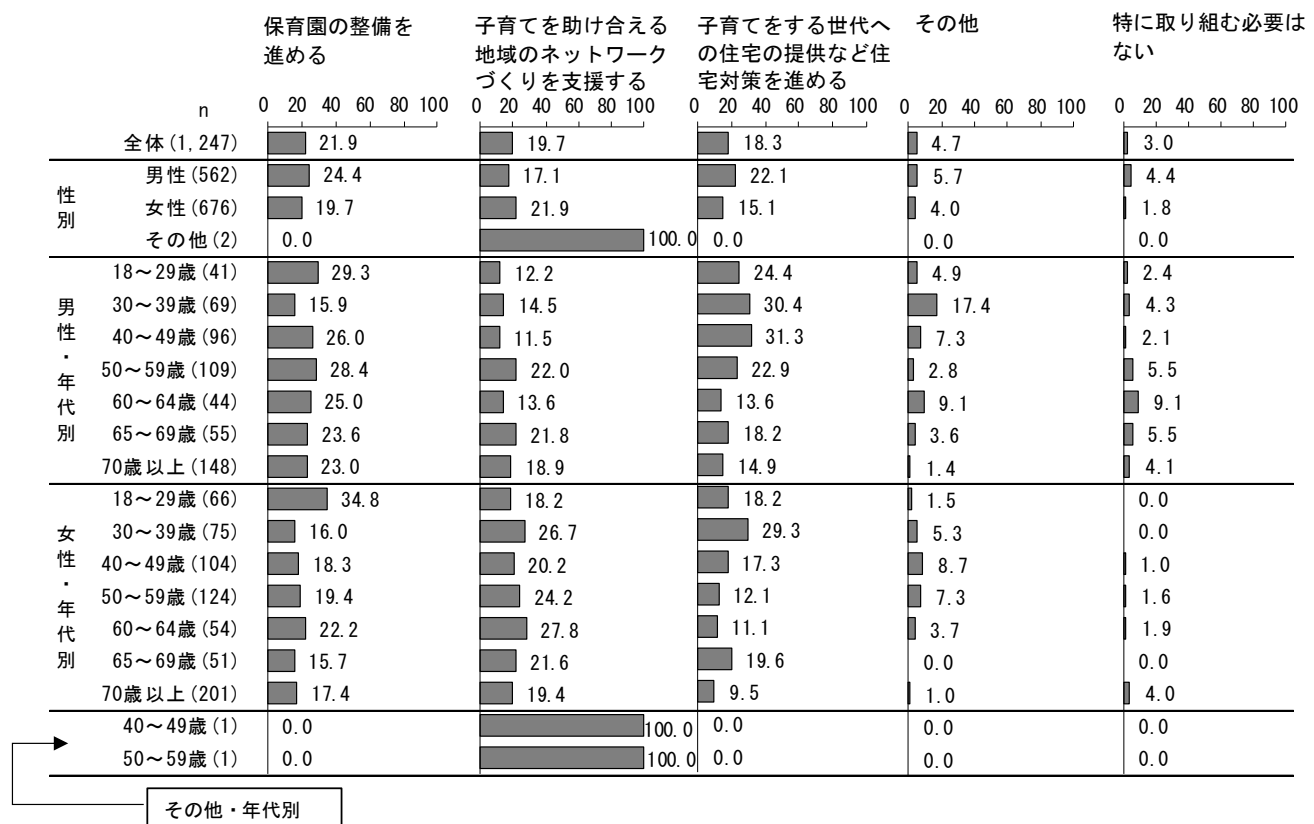
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-13-3 少子化対策における必要な施策（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％

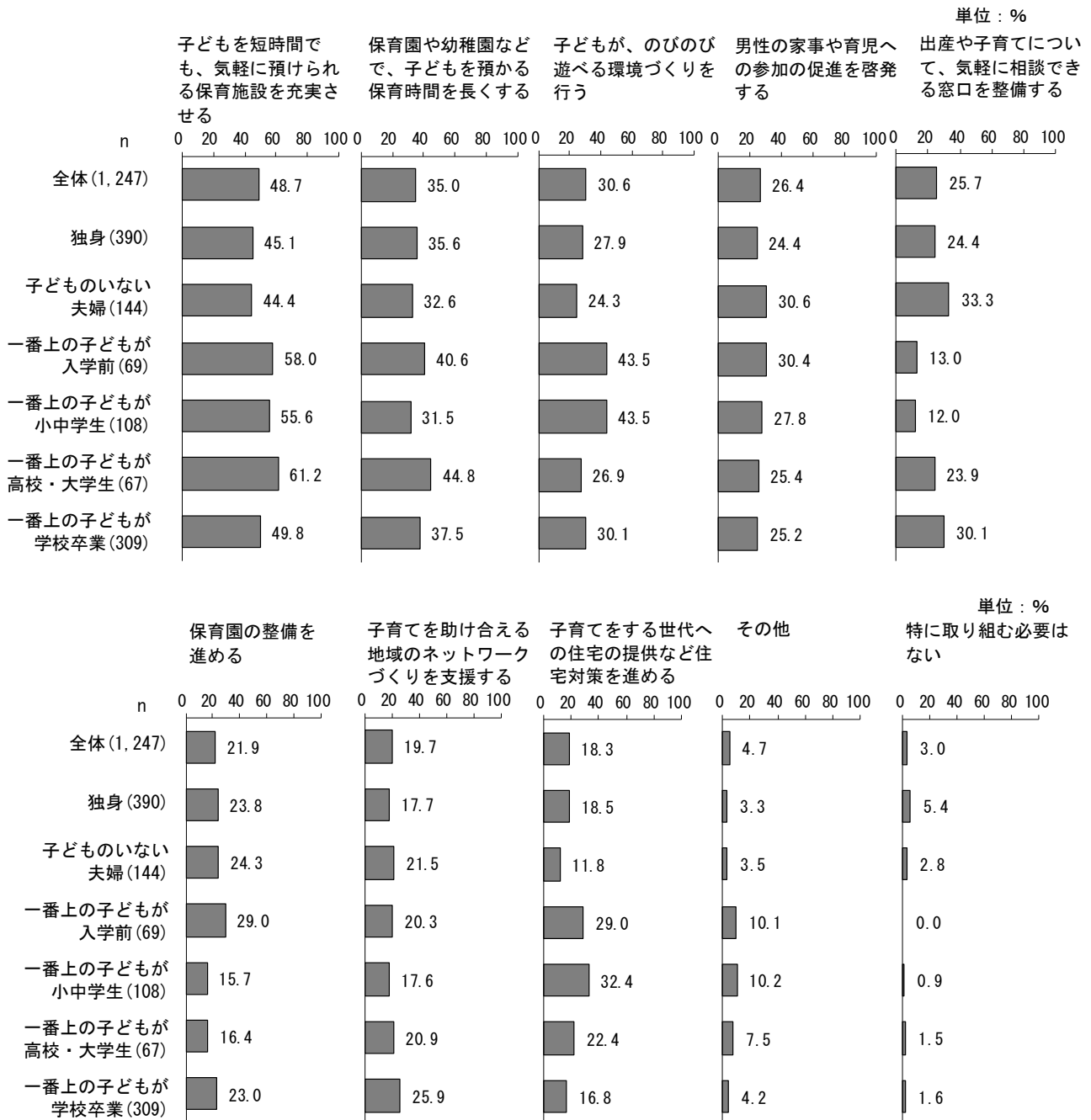


性別でみると、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」は、「女性」(55.3%)が「男性」(40.9%)より14.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」は、「女性30～39歳」(46.7%)が最も高くなっている。また、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」は、「男性60～64歳」(38.6%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-13-3)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ－13－4 少子化対策における必要な施策（ご自身の状況別）



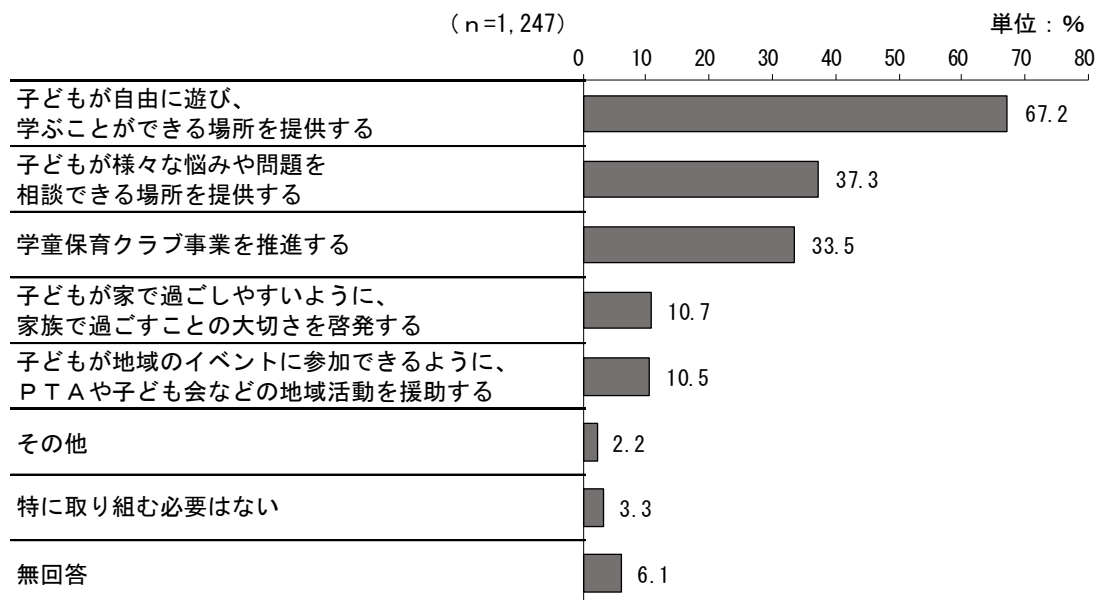
ご自身の状況別でみると、「一番上の子どもが高校・大学生」が、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」（61.2%）、「保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする」（44.8%）において最も高くなっている。「子どものいない夫婦」が、「出産や子育てについて、気軽に相談できる窓口を整備する」（33.3%）において、最も高くなっている。（図表Ⅲ－13－4）

(2) 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策

◆ 「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」が7割近く

問 22 子どもたちの放課後などの過ごし方について、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は2つまで)

図表Ⅲ-13-5 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策

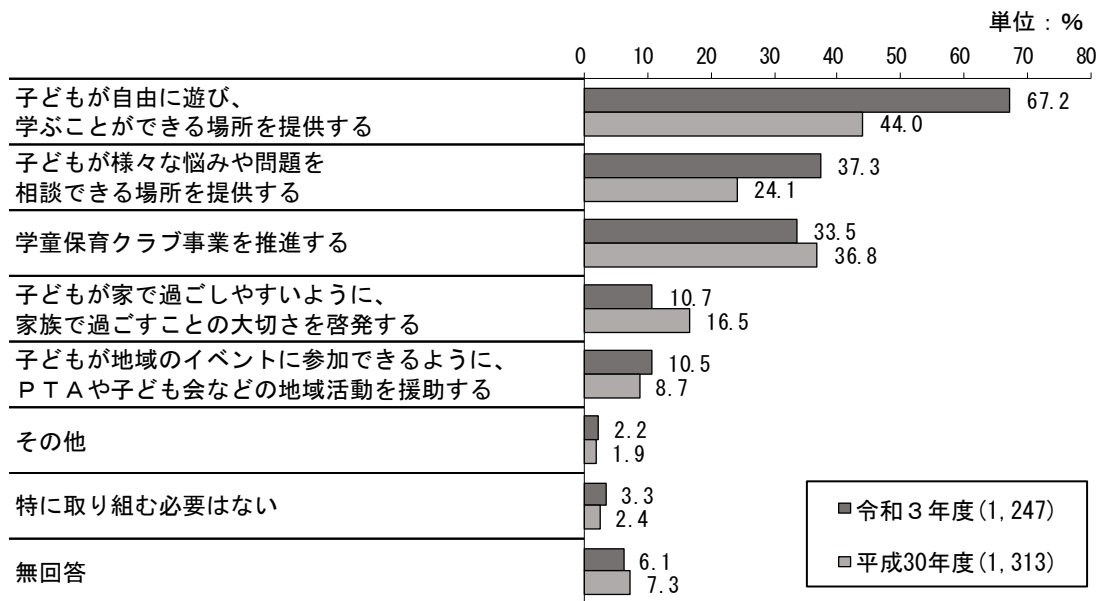


子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策は、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」(67.2%)が7割近くと最も高く、次いで「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」(37.3%)、「学童保育クラブ事業を推進する」(33.5%)と続いている。

(図表Ⅲ-13-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－13－6 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（経年変化）

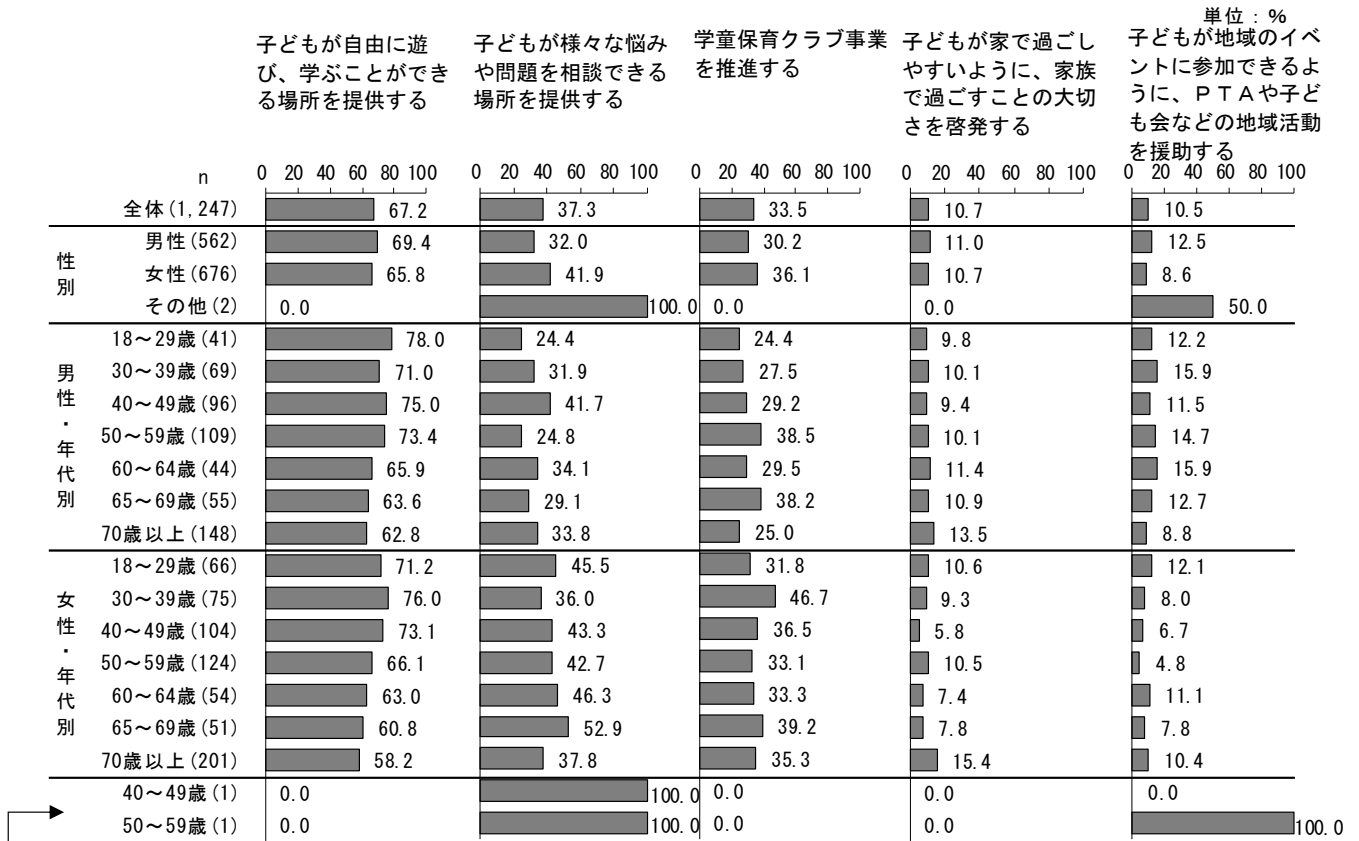


- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」を平成30年度調査の選択肢「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」を平成30年度調査の選択肢「家庭や友人関係等に悩みや問題を抱える子供に適切な支援をする」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「学童保育クラブ事業を推進する」を平成30年度調査の選択肢「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが家で過ごしやすいうように、家族で過ごすことの大切さを啓発する」を平成30年度調査の選択肢「家庭に対して、家族で過ごすことの大切さを啓発する」と比較している。

「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」(67.2%)は平成30年度調査(44.0%)より23.2ポイント、「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」(37.3%)は、平成30年度調査(24.1%)より13.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「学童保育クラブ事業を推進する」(33.5%)は、平成30年度調査(36.8%)より3.3ポイント減少している。(図表Ⅲ－13－6)

【性別／性・年代別】

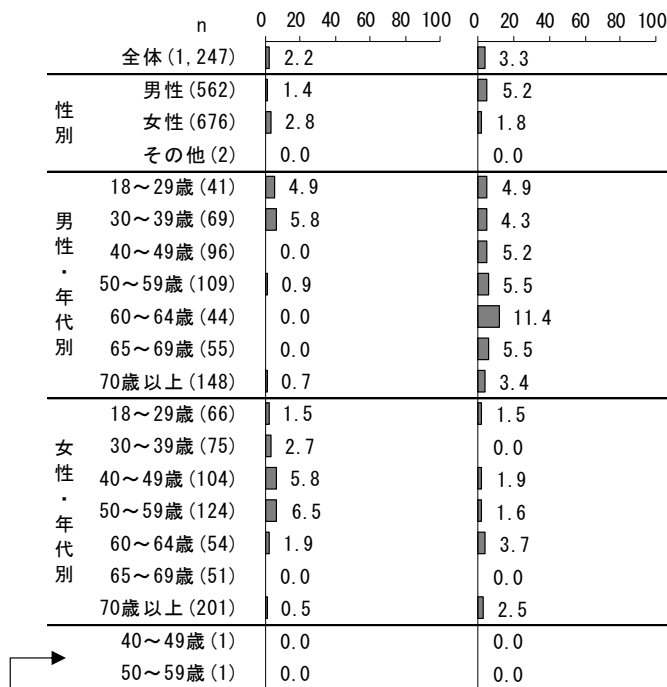
図表Ⅲ-13-7 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（性別／性・年代別）



その他・年代別

単位：%

その他 特に取り組む必要はない



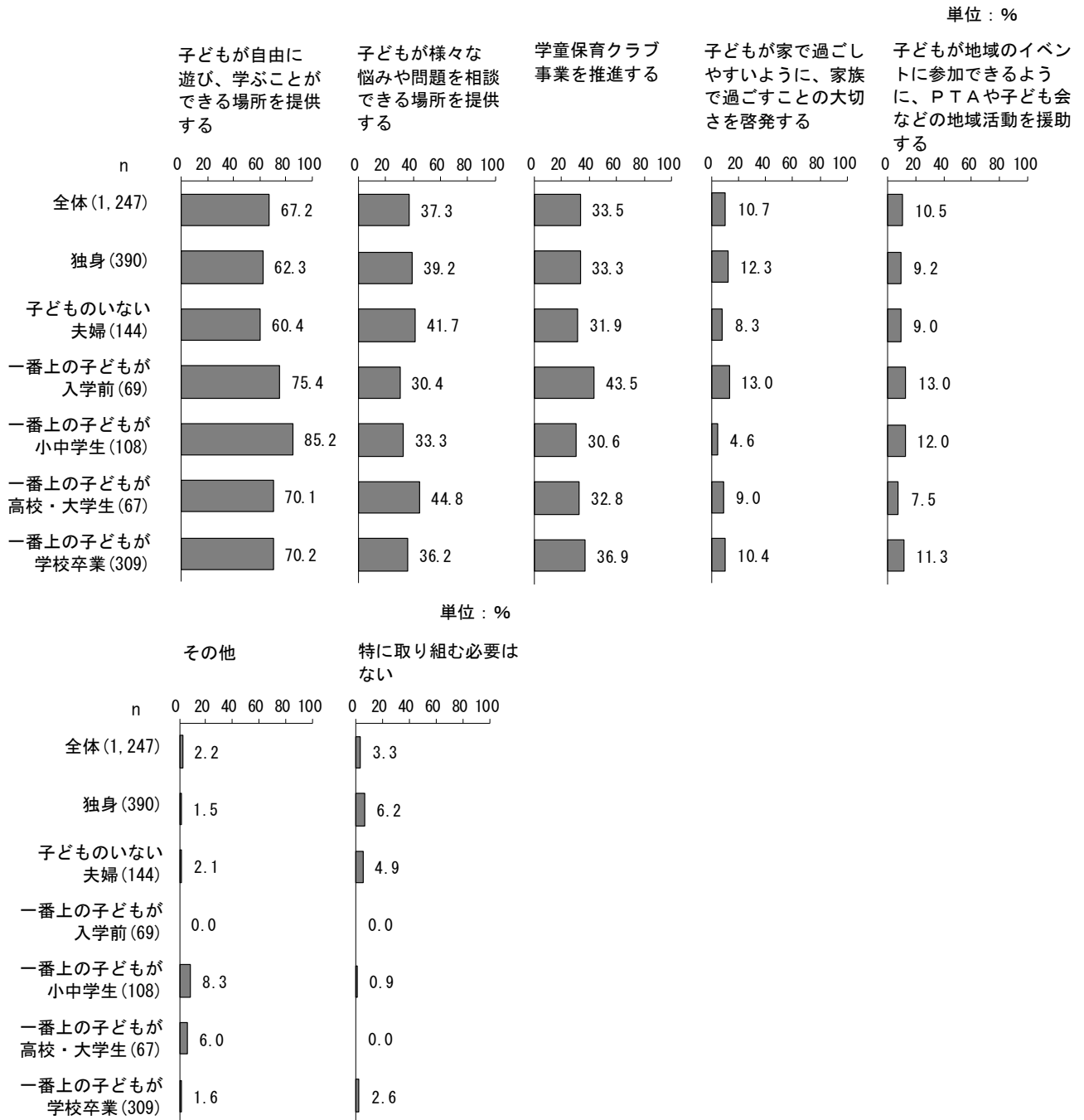
その他・年代別

性別でみると、「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」は、「女性」(41.9%)が「男性」(32.0%)より9.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」は「男性18～29歳」(78.0%)が最も高くなっている。「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」は、「女性65～69歳」(52.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-13-7)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ-13-8 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（ご自身の状況別）



ご自身の状況別でみると、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」は、「一番上の子どもが小中学生」(85.2%)が最も高くなっている。また、「学童保育クラブ事業を推進する」は、「一番上の子どもが入学前」(43.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-13-8)

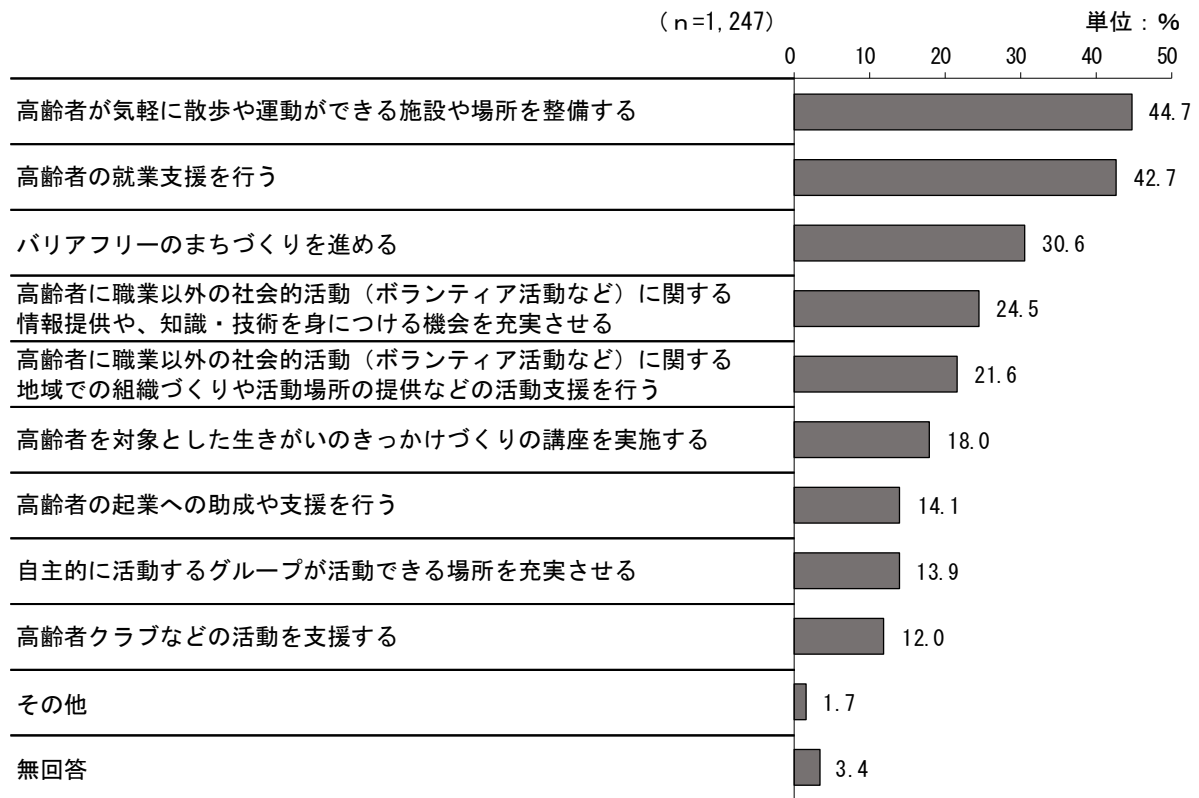
14. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策

◆ 「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」が4割台半ば

問 23 高齢社会の中で葛飾区は社会参加を促すため、どのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

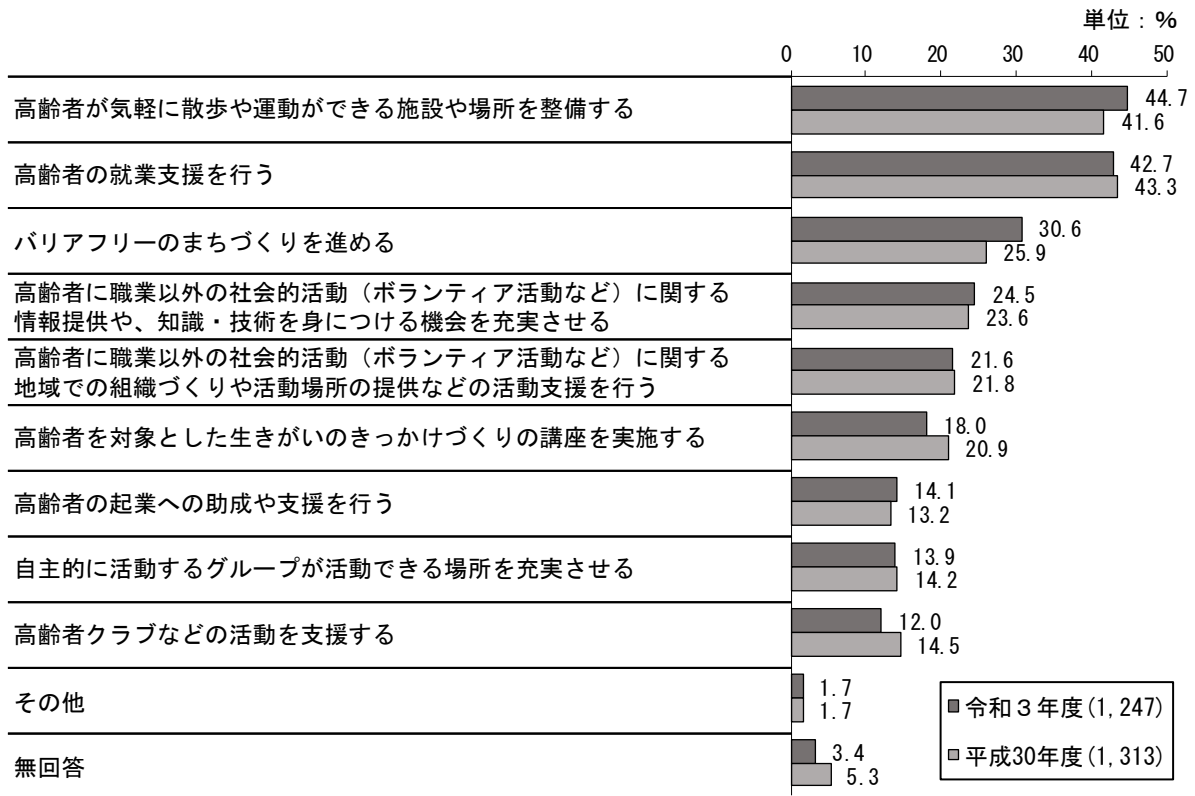
図表Ⅲ-14-1 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策



高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」(44.7%)が4割台半ばと最も高く、次いで「高齢者の就業支援を行う」(42.7%)、「バリアフリーのまちづくりを進める」(30.6%)と続いている。(図表Ⅲ-14-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－14－2 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（経年変化）

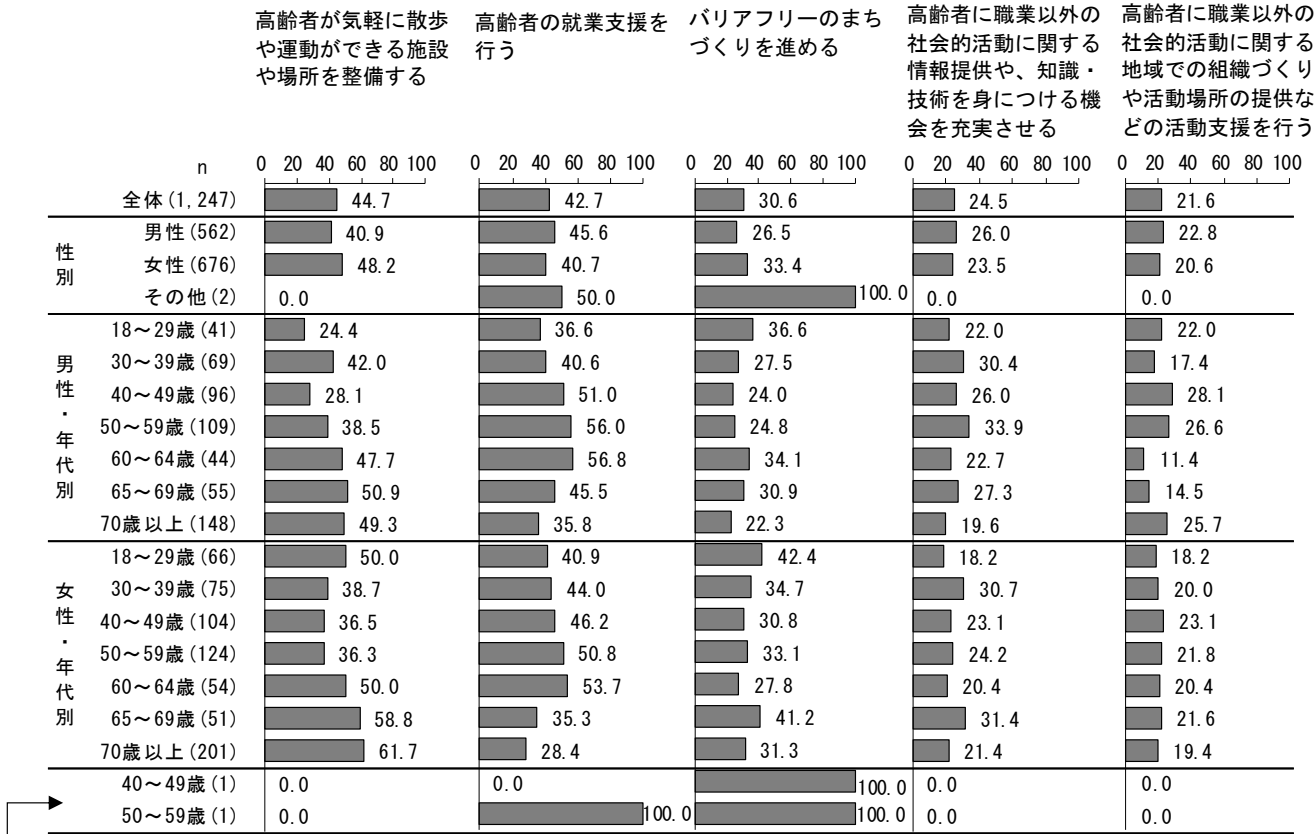


「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」（44.7％）は、平成30年度調査（41.6％）より3.1ポイント、「バリアフリーのまちづくりを進める」（30.6％）は平成30年度調査（25.9％）より4.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「高齢者の就業支援を行う」（42.7％）は、平成30年度調査（43.3％）より0.6ポイント減少している。（図表Ⅲ－14－2）

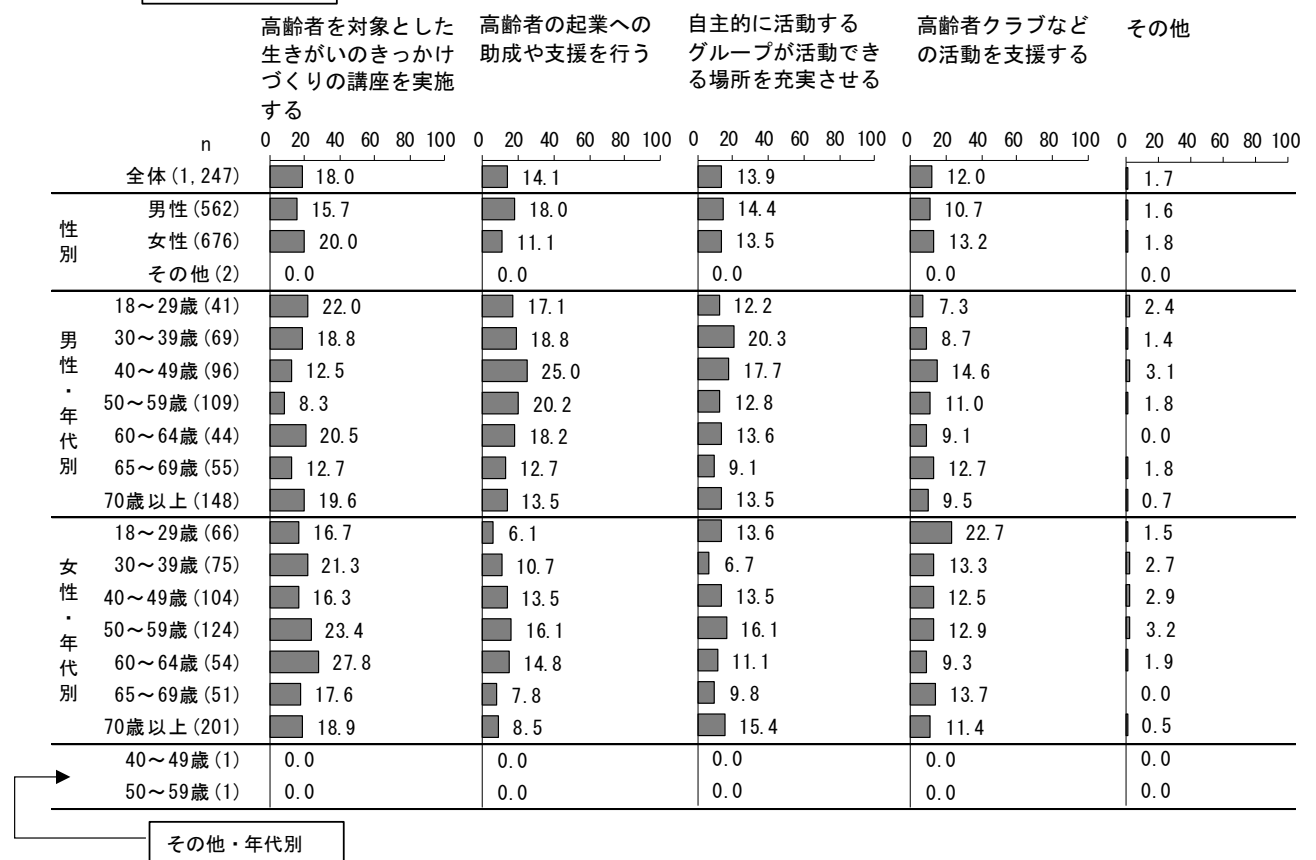
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-14-3 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（性別／性・年代別）

単位：％



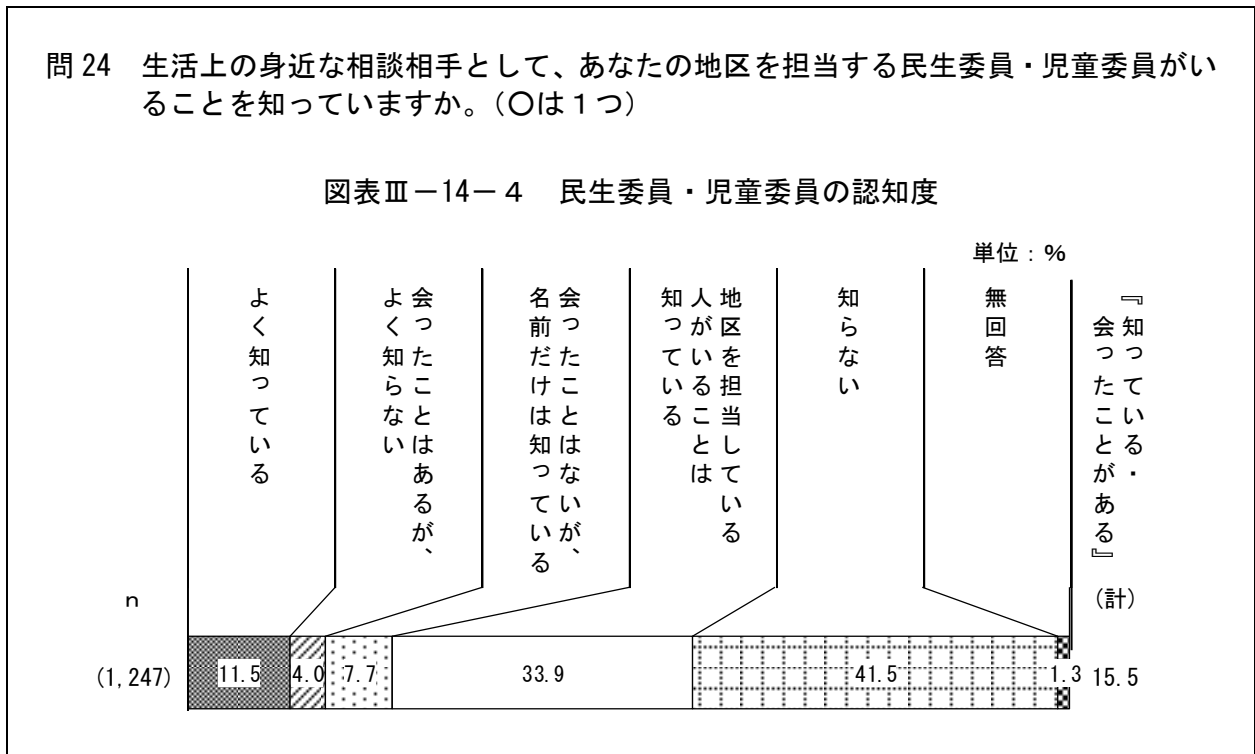
単位：％



性別で見ると、「高年齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」は、「女性」(48.2%)が「男性」(40.9%)より7.3ポイント高くなっている。
 性・年代別で見ると、「高年齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」は、「女性70歳以上」(61.7%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-14-3)

(2) 民生委員・児童委員の認知度

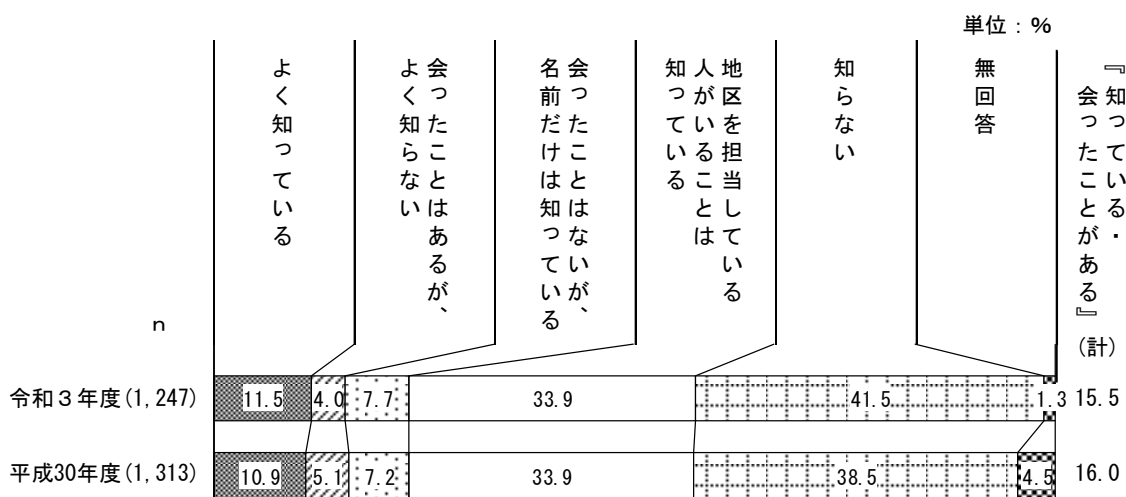
◆ 『知っている・会ったことがある』が1割台半ば



民生委員・児童委員の認知度は、「知らない」(41.5%)が4割強と最も高く、次いで「地区を担当している人がいることは知っている」(33.9%)と続いている。「よく知っている」(11.5%)と「会ったことはあるが、よく知らない」(4.0%)を合わせた『知っている・会ったことがある』(15.5%)は、1割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-14-4)

【経年変化】

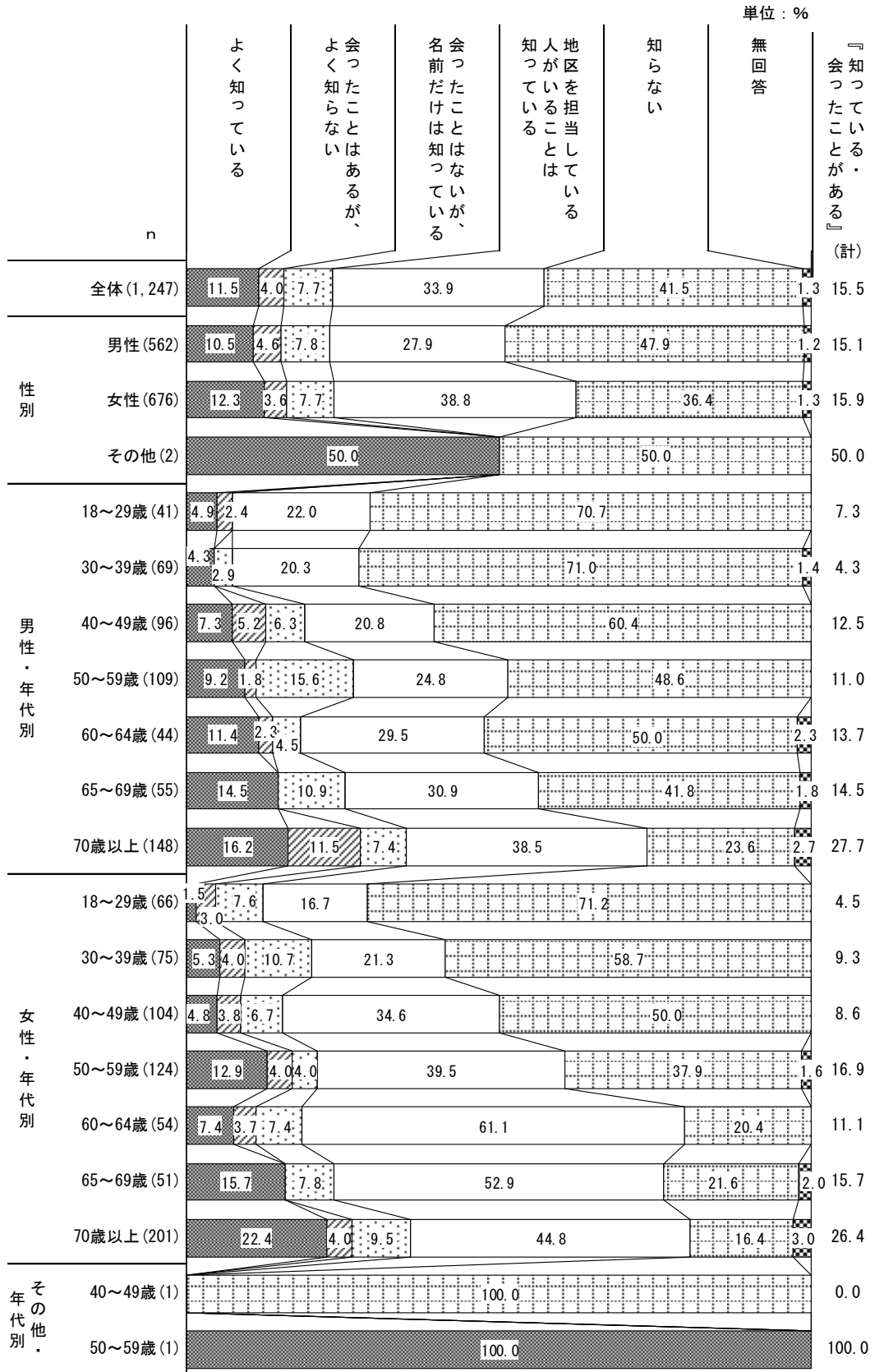
図表Ⅲ-14-5 民生委員・児童委員の認知度(経年変化)



『知っている・会ったことがある』(15.5%)は、平成30年度調査(16.0%)より0.5ポイント減少している。一方、「知らない」(41.5%)は、平成30年度調査(38.5%)より3.0ポイント増加している。(図表Ⅲ-14-5)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-14-6 民生委員・児童委員の認知度（性別／性・年代別）

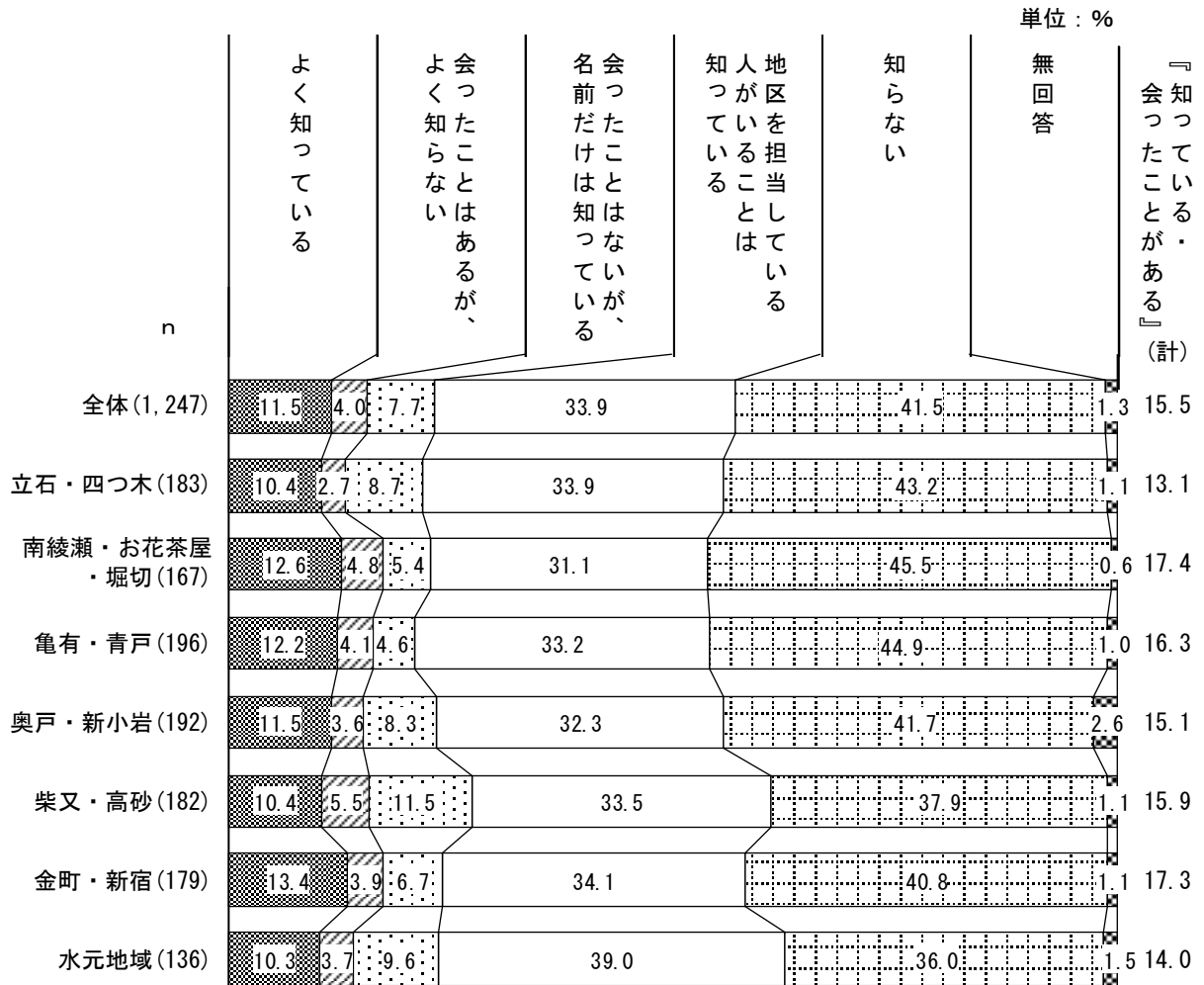


性別でみると、『知っている・会ったことがある』は、「女性」(15.9%)が「男性」(15.1%)より0.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「知らない」が男女ともに「18~29歳」が7割以上となっている。また、「男性30~39歳」(71.0%)も7割強と高くなっている。(図表Ⅲ-14-6)

【居住地域別】

図表Ⅲ-14-7 民生委員・児童委員の認知度（居住地域別）



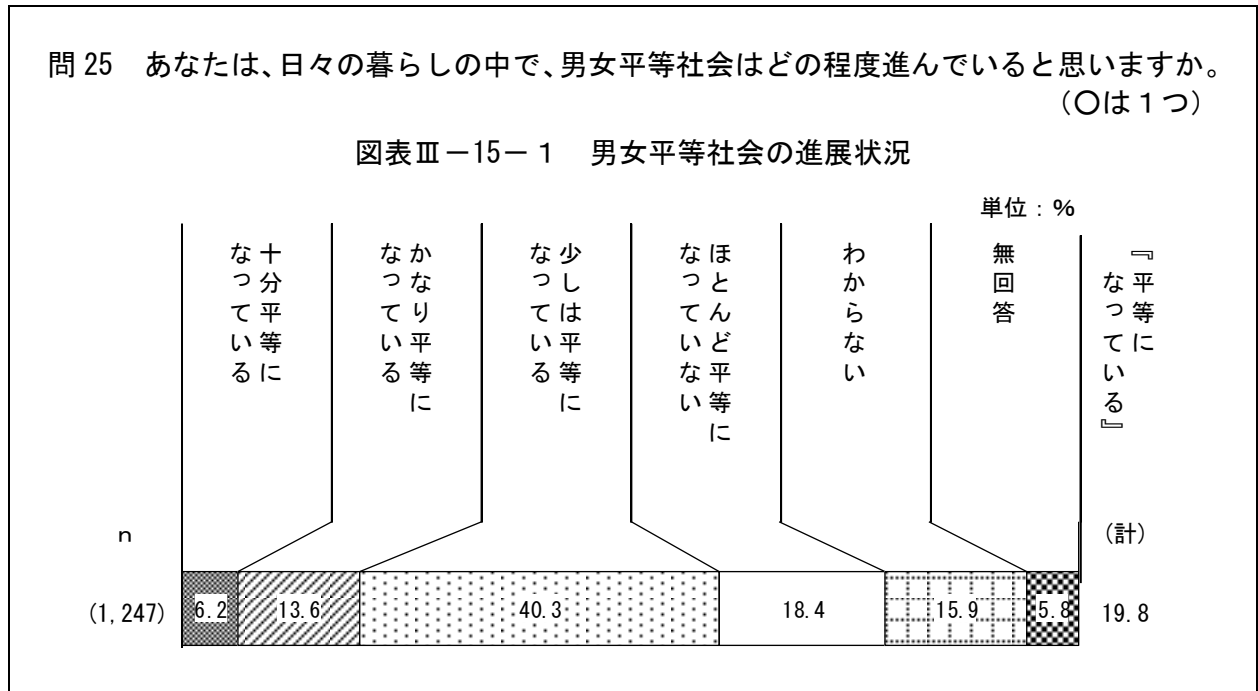
居住地域別で見ると、『知っている・会ったことがある』は、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」(17.4%)が最も高く、次いで「金町・新宿」(17.3%)、「亀有・青戸」(16.3%)と続いている。

一方、「知らない」は、「南綾瀬・お花茶屋・堀切域」(45.5%)が最も高くなっており、次いで「亀有・青戸」(44.9%)、「立石・四つ木」(43.2%)と続いている。(図表Ⅲ-14-7)

15. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況

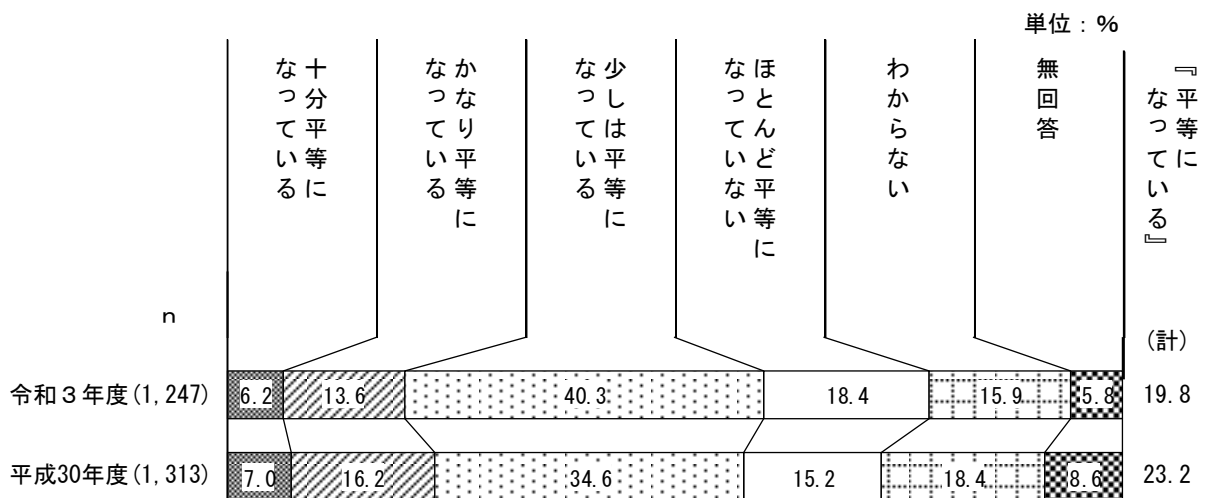
◆ 『平等になっている』が2割弱



男女平等社会の進展状況は、「少しは平等になっている」(40.3%) が約4割と最も高くなっている。また、「十分平等になっている」(6.2%) と「かなり平等になっている」(13.6%) を合わせた『平等になっている』(19.8%) が2割弱となっている。一方、「ほとんど平等になっていない」(18.4%) は、2割近くとなっている。(図表Ⅲ-15-1)

【経年変化】

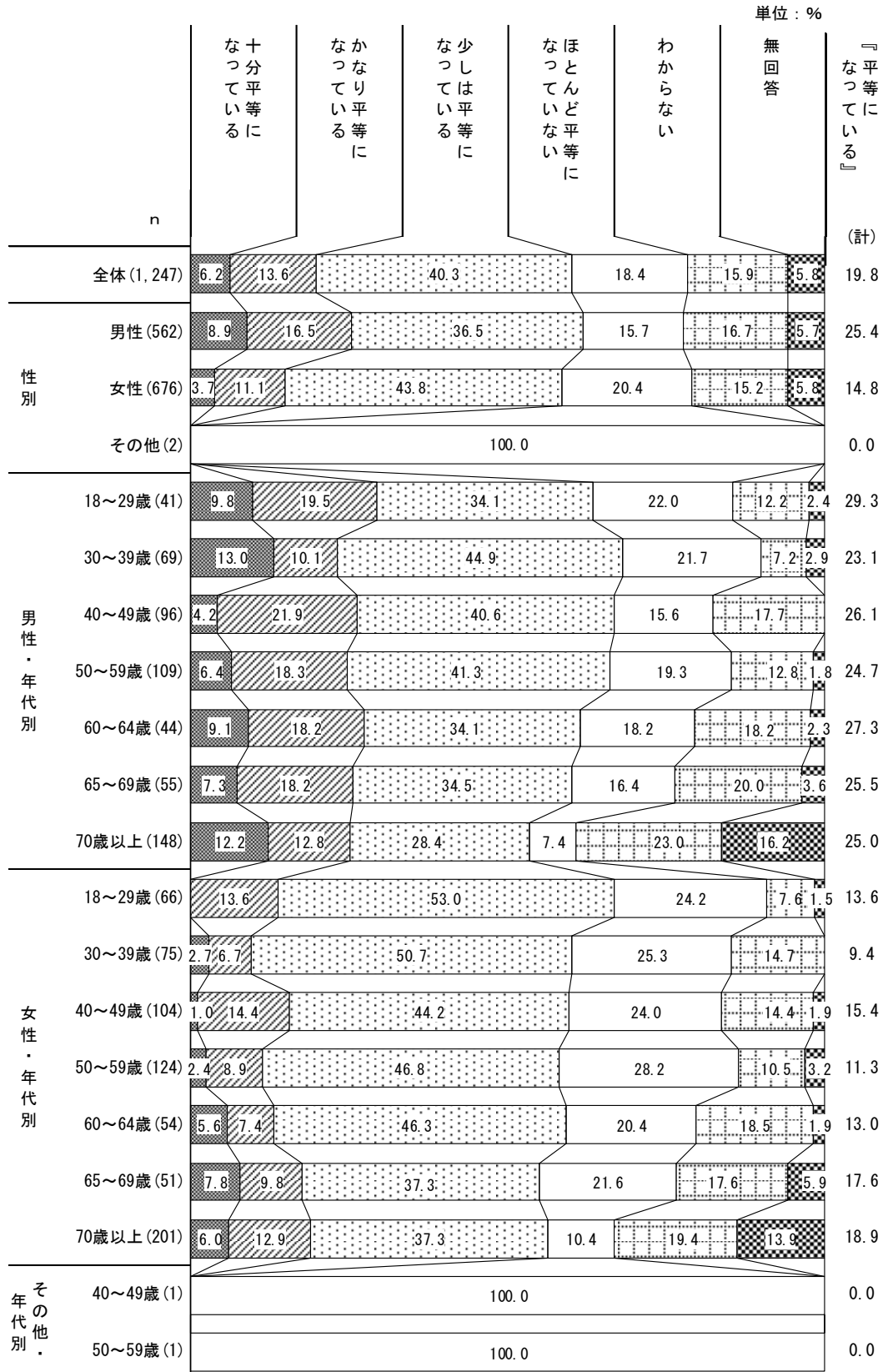
図表Ⅲ-15-2 男女平等社会の進展状況 (経年変化)



『平等になっている』(19.8%) は、平成30年度調査(23.2%)より3.4ポイント減少している。一方、「少しは平等になっている」(40.3%) は、平成30年度調査(34.6%)より5.7ポイント増加している。(図表Ⅲ-15-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-15-3 男女平等社会の進展状況（性別／性・年代別）



性別で見ると、『平等になっている』は、「男性」(25.4%)が「女性」(14.8%)より10.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『平等になっている』は、「男性18～29歳」(29.3%)、「女性70歳以上」(18.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-15-3)

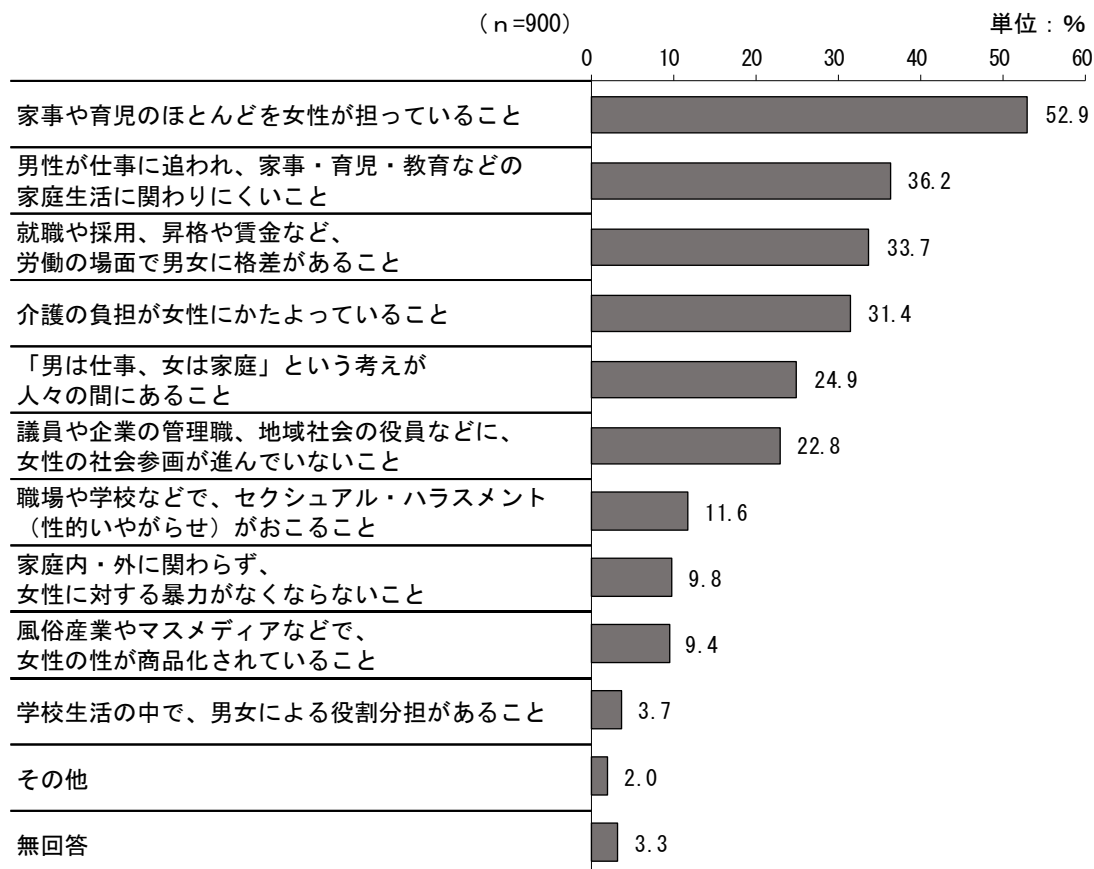
(1-1) 男女の不平等を感じる点

◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が5割強

(問25で選択肢「2」から「4」を選んだ方のみお答えください。)

問25-1 具体的にどのような点で男女の不平等を感じますか。(〇は3つまで)

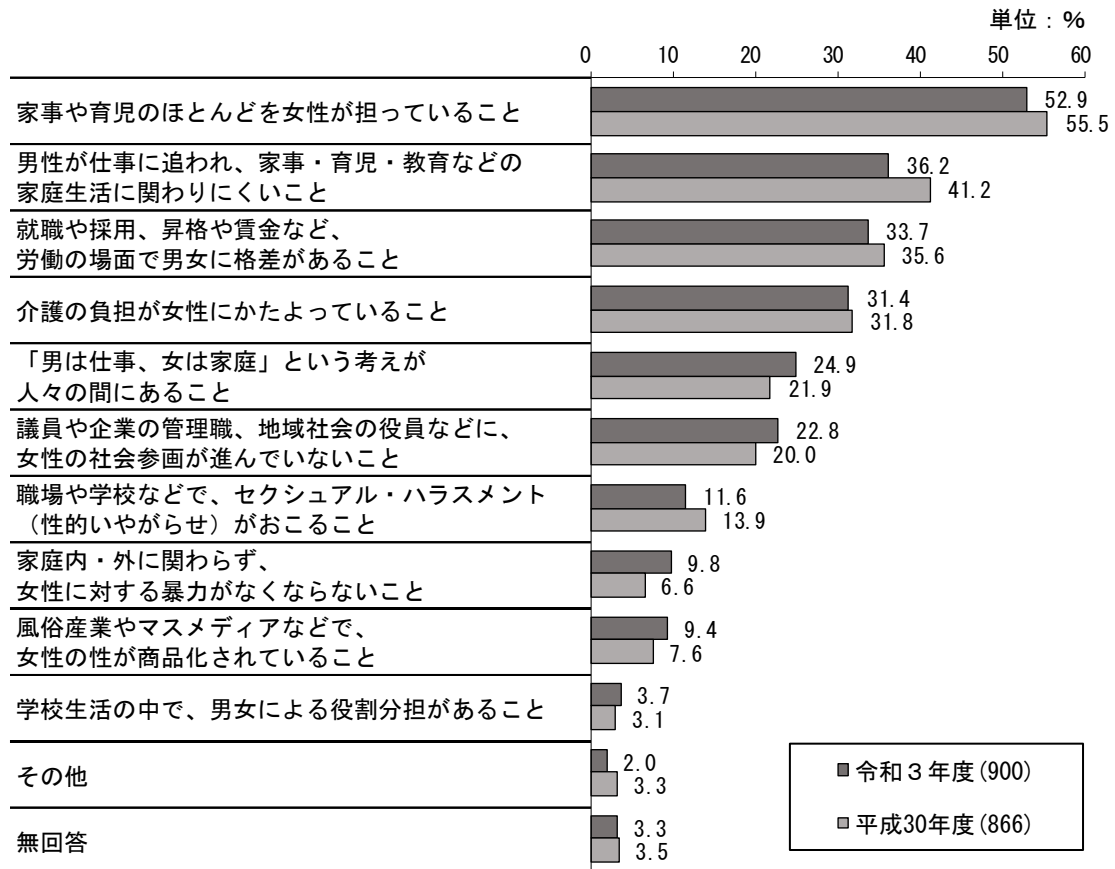
図表Ⅲ-15-4 男女の不平等を感じる点



男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」(52.9%)が5割強と最も高く、次いで「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくいこと」(36.2%)、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」(33.7%)と続いている。(図表Ⅲ-15-4)

【経年変化】

図表Ⅲ－15－5 男女の不平等を感じる点（経年変化）

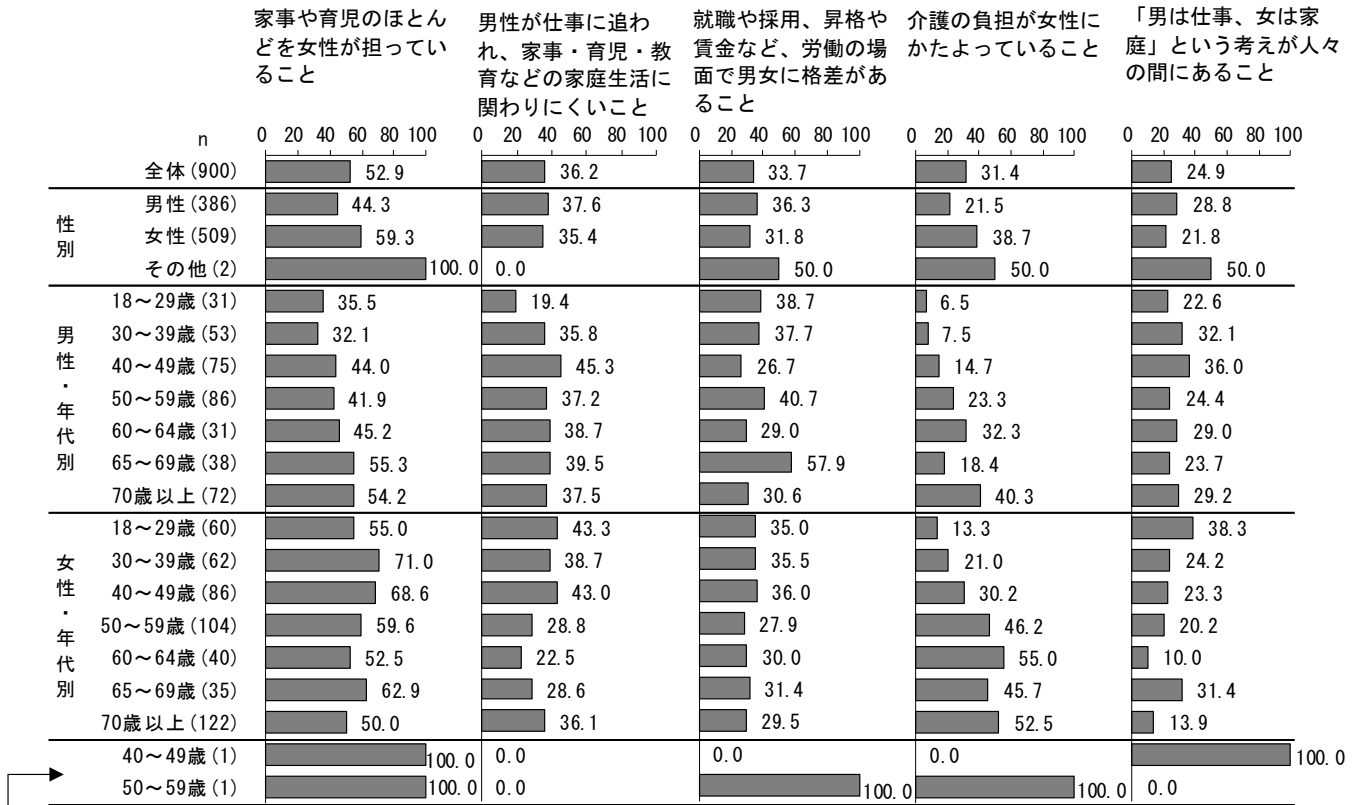


「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」（52.9%）は、平成30年度調査（55.5%）より2.6ポイント、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくいこと」（36.2%）は、平成30年度調査（41.2%）より5.0ポイント、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」（33.7%）は、平成30年度調査（35.6%）より1.9ポイント、それぞれ減少している。一方、「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」（24.9%）は、平成30年度調査（21.9%）より3.0ポイント増加している。（図表Ⅲ－15－5）

【性別／性・年代別】

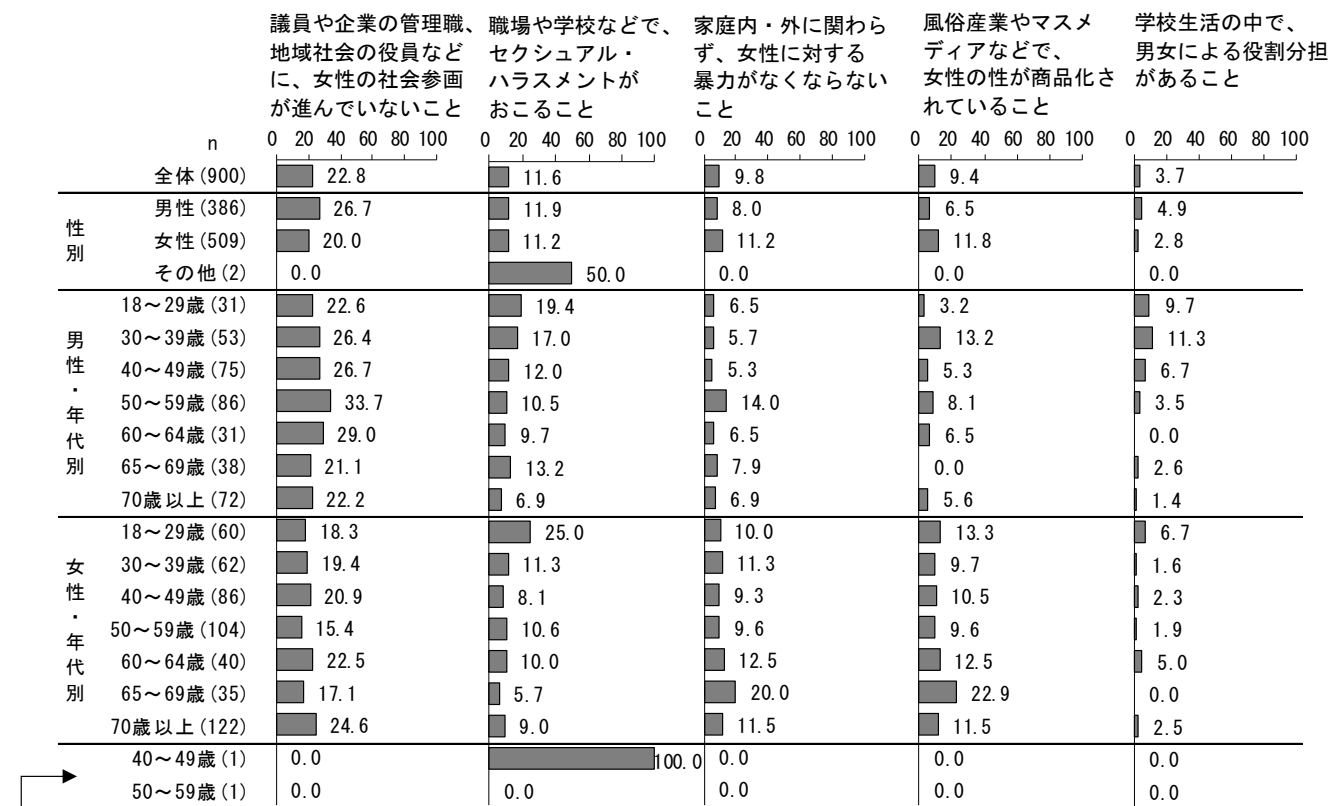
図表Ⅲ-15-6 男女の不平等を感じる点（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



その他・年代別

単位：％



その他・年代別

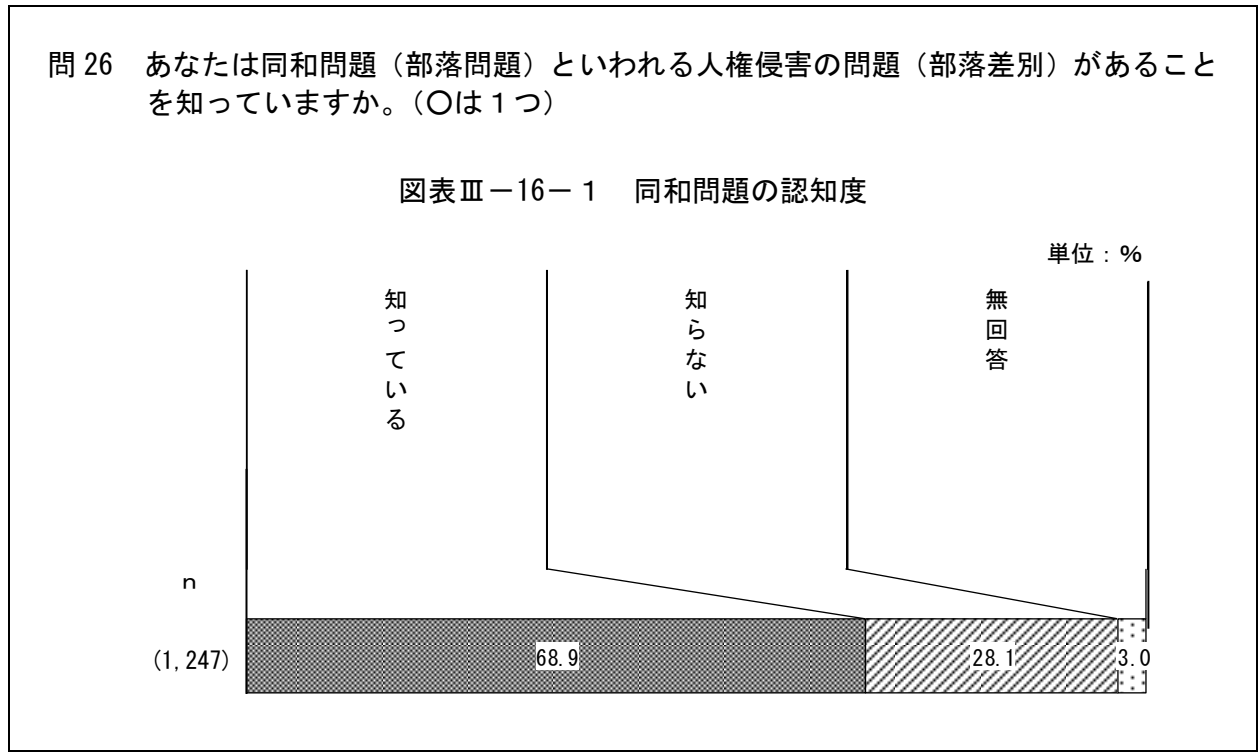
上位10項目について性別で見ると、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」は、「女性」(59.3%)が「男性」(44.3%)より15.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」は、「女性」のすべての年代で5割以上となっている。また、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」は、「男性65～69歳」(57.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-15-6)

16. 同和問題

(1) 同和問題の認知度

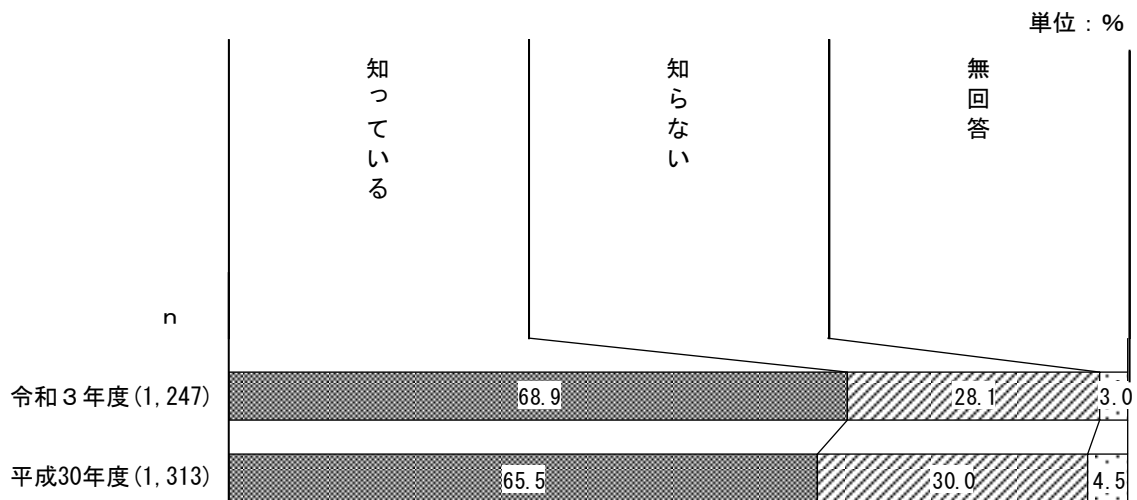
◆ 「知っている」が7割近く



同和問題の認知度は、「知っている」(68.9%)が7割近く、「知らない」(28.1%)は3割近くとなっている。(図表Ⅲ-16-1)

【経年変化】

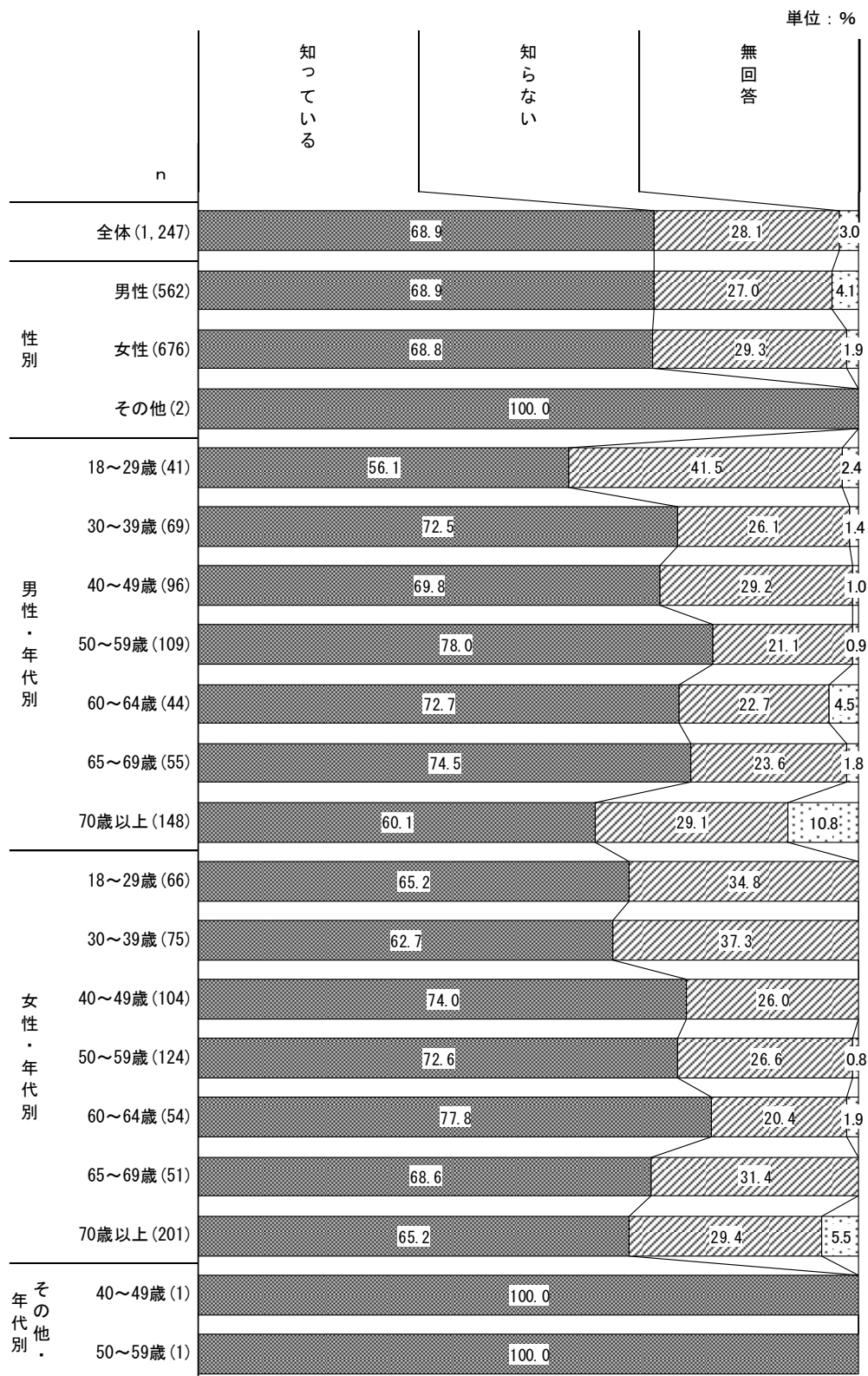
図表Ⅲ-16-2 同和問題の認知度（経年変化）



「知っている」(68.9%)は、平成30年度調査(65.5%)より3.4ポイント増加している。一方、「知らない」(28.1%)は、平成30年度調査(30.0%)より1.9ポイント減少している。(図表Ⅲ-16-2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－16－3 同和問題の認知度（性別／性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は、「男性」(68.9%)が「女性」(68.8%)より0.1ポイント高くなっている。

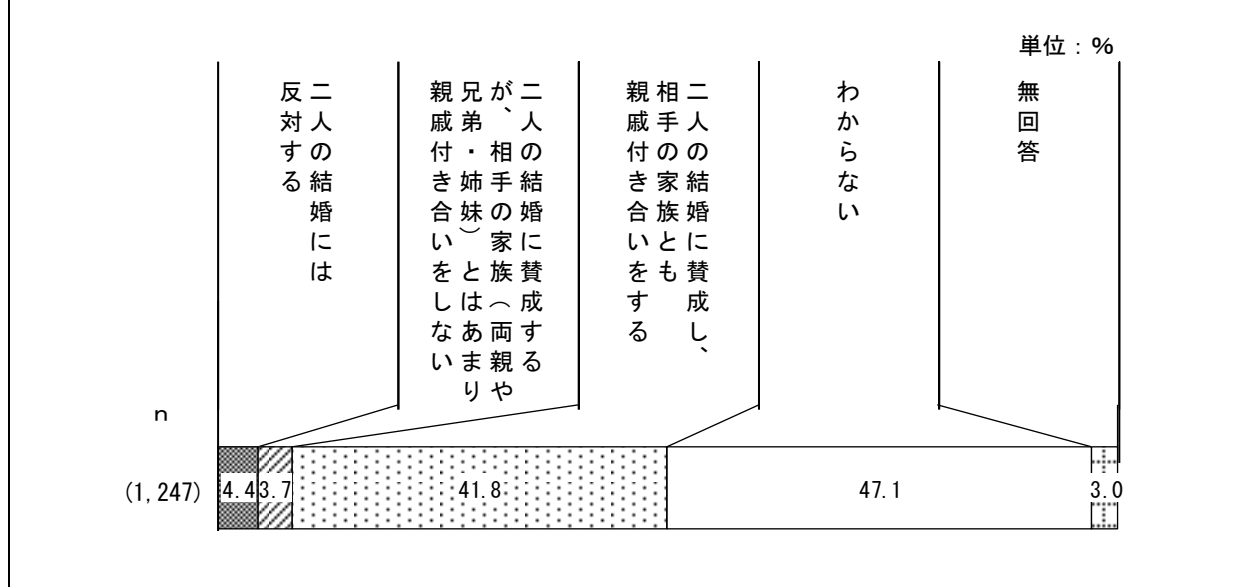
性・年代別で見ると、「知っている」は、「男性 50～59歳」(78.0%)、「女性 60～64歳」(77.8%)が、それぞれ最も高くなっている。(図表Ⅲ－16－3)

(2) 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処

◆ 「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」が4割強

問 27 もしあなたのお子さんの結婚相手が「同和地区」（被差別部落）出身の人だとわかった場合、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）

図表Ⅲ-16-4 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処

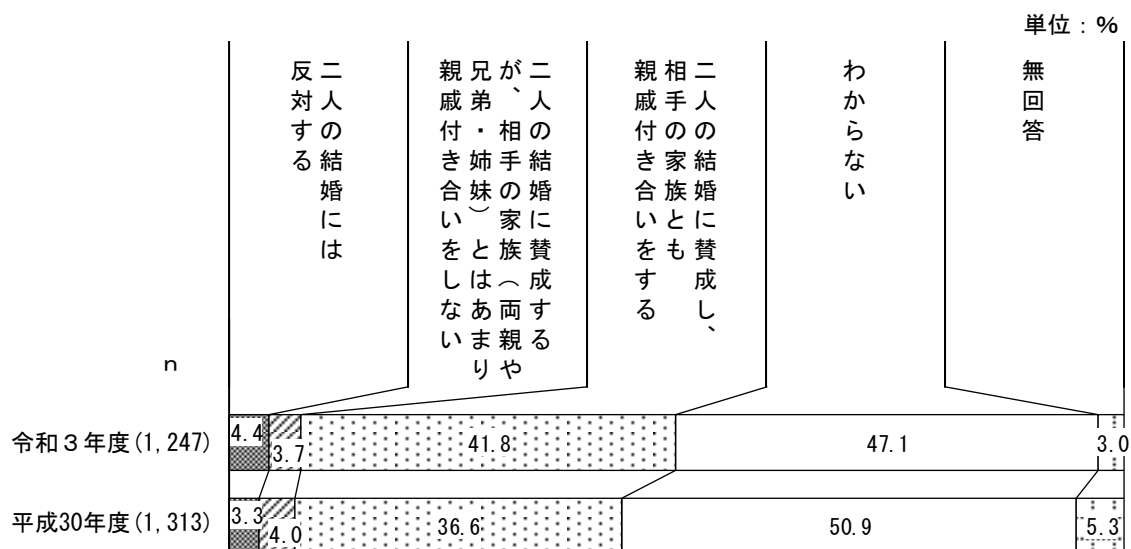


子どもの結婚相手が「同和地区」出身者の場合における対処は、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」(41.8%)が4割強と最も高く、次いで「二人の結婚には反対する」(4.4%)、「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」(3.7%)と続いている。

なお、「わからない」(47.1%)が5割近くとなっている。(図表Ⅲ-16-4)

【経年変化】

図表Ⅲ-16-5 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処（経年変化）

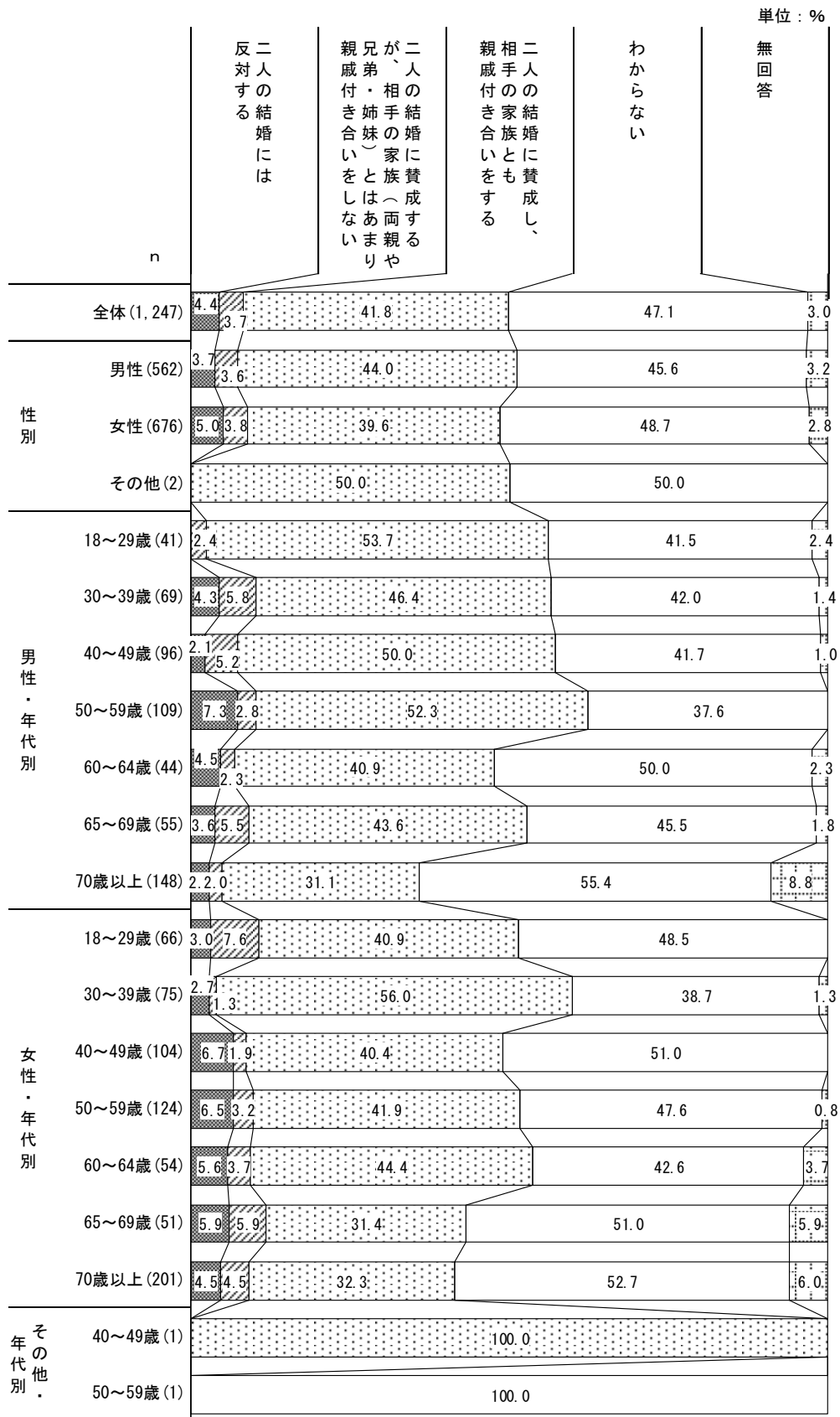


「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」（41.8%）は、平成30年度調査（36.6%）より5.2ポイント、「二人の結婚には反対する」（4.4%）は、平成30年度調査（3.3%）より1.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「二人の結婚に賛成するが、相手の家族（両親や兄弟・姉妹）とはあまり親戚付き合いをしない」（3.7%）は、平成30年度調査（4.0%）より0.3ポイント減少している。

また、「わからない」（47.1%）は、平成30年度調査（50.9%）より3.8ポイント減少している。（図表Ⅲ-16-5）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-16-6 子どもの結婚相手が「同和地区」出身者における対処（性別／性・年代別）



性別でみると、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」は、「男性」(44.0%)が「女性」(39.6%)より4.4ポイント高くなっている。

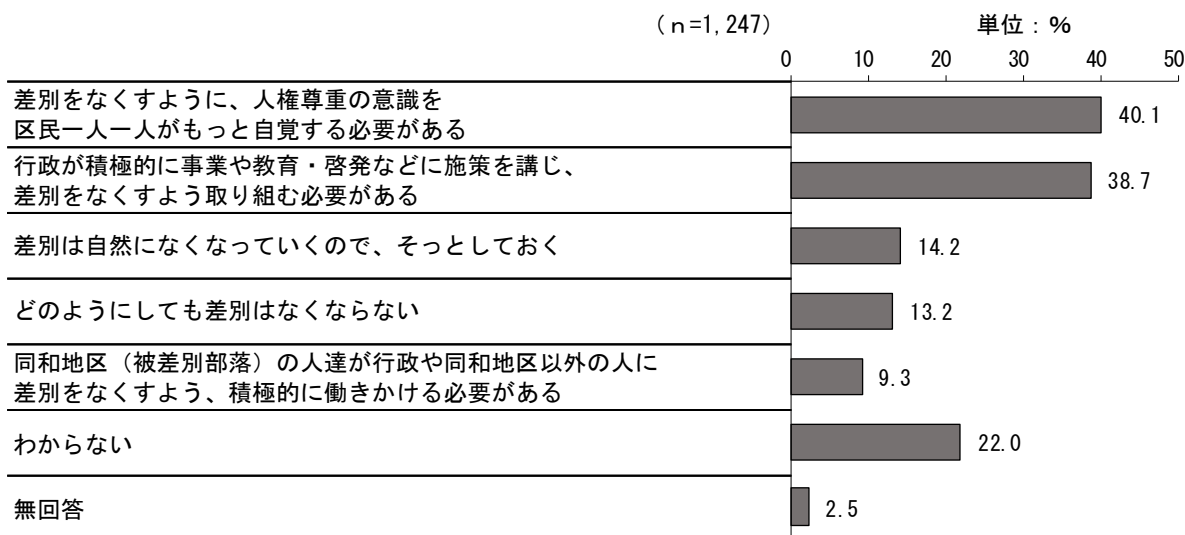
性・年代別でみると、「二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする」は、「女性30～39歳」(56.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-16-6)

(3) 同和問題の解決方法

- ◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」が約4割

問 28 同和問題（部落問題）を解決するためには、今後どのようにすれば良いと思いますか。（○は2つまで）

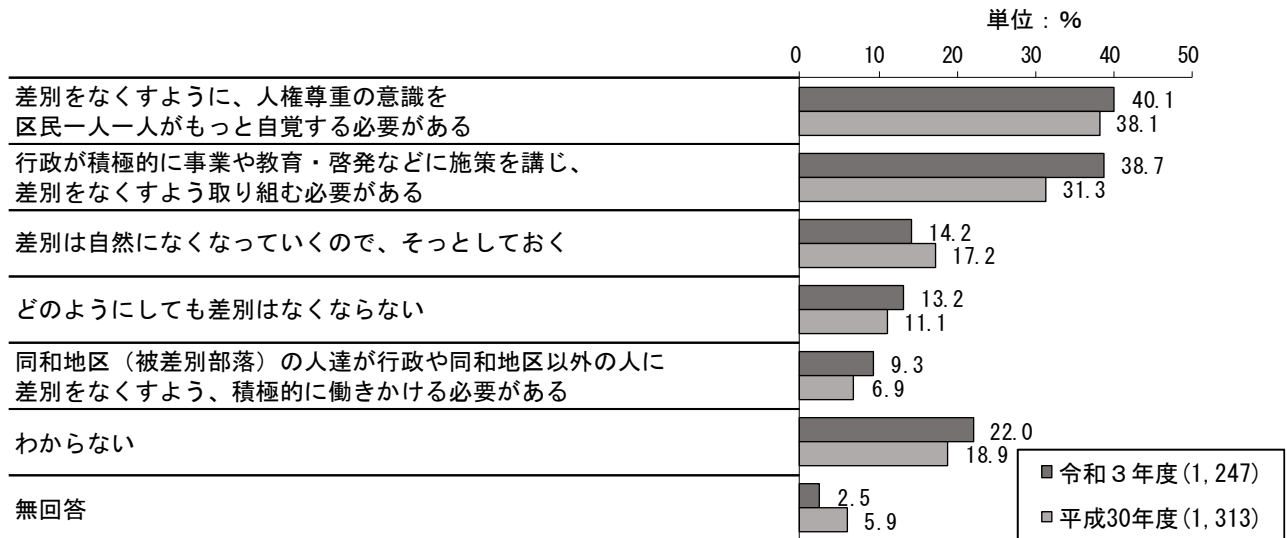
図表Ⅲ－16－7 同和問題の解決方法



同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」（40.1%）が約4割と最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」（38.7%）、「差別は自然になくなっていくので、そっとしておく」（14.2%）と続いている。（図表Ⅲ－16－7）

【経年変化】

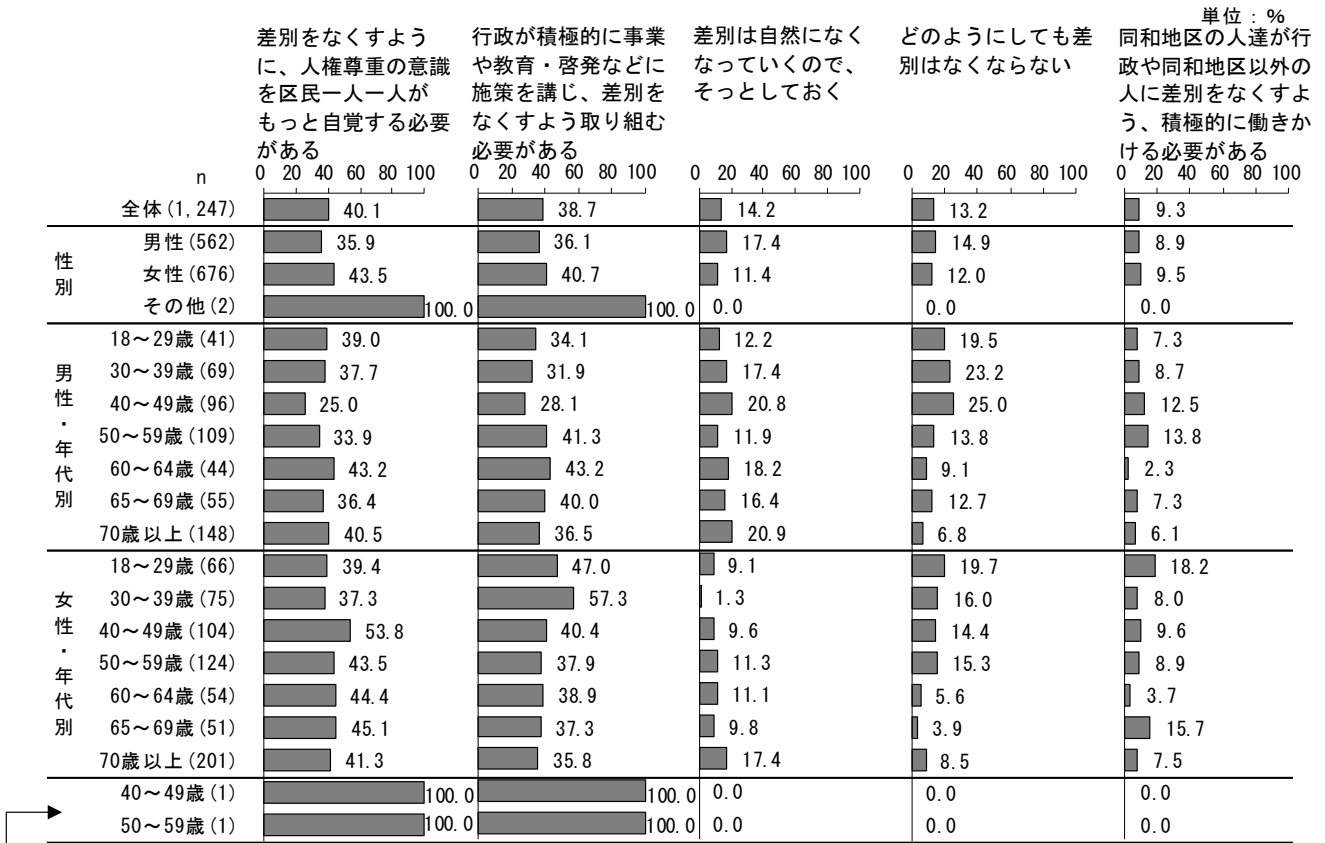
図表Ⅲ－16－8 同和問題の解決方法（経年変化）



「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」（40.1％）は、平成30年度調査（38.1％）より2.0ポイント、「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」（38.7％）は、平成30年度調査（31.3％）より7.4ポイント増加している。一方、「差別は自然になくなっていくので、そっとしておく」（14.2％）は、平成30年度調査（17.2％）より3.0ポイント減少している。（図表Ⅲ－16－8）

【性別／性・年代別】

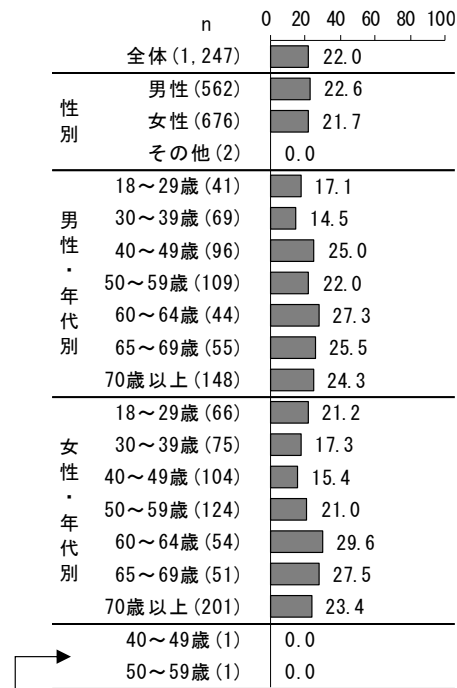
図表Ⅲ-16-9 同和問題の解決方法（性別／性・年代別）



その他・年代別

単位：%

わからない



その他・年代別

性別でみると、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」は、「女性」(43.5%)が「男性」(35.9%)より7.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」は、「女性40～49歳」(53.8%)が最も高くなっている。「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」は「女性30～39歳」(57.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-16-9)

17. 産業

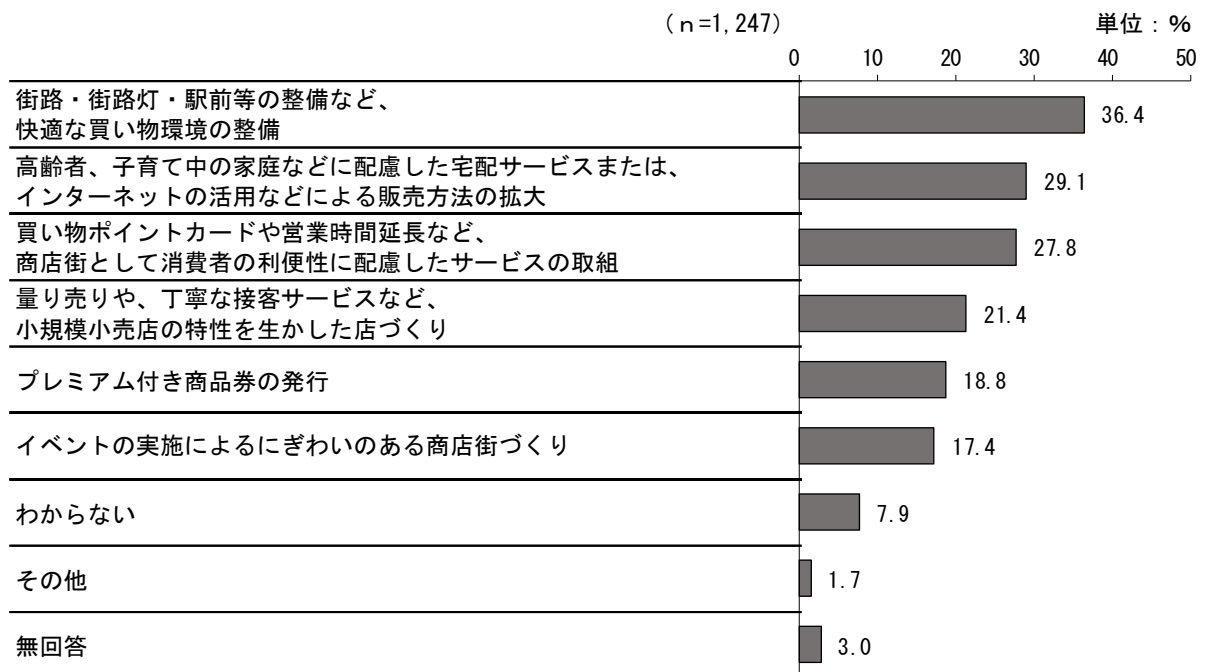
(1) 商業振興について大切なこと

◆ 「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」が4割近く

問 29 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(1) 商業振興について (〇は2つまで)

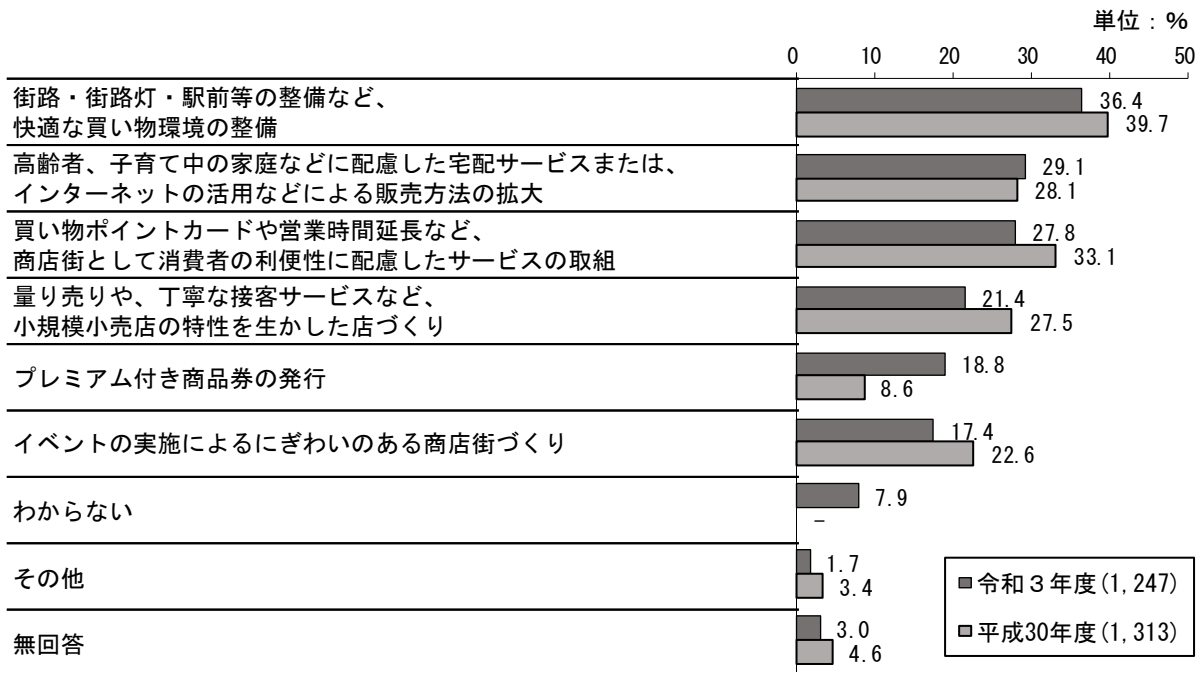
図表Ⅲ-17-1 商業振興について大切なこと



商業振興について大切なことは、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(36.4%)が4割近くと最も高く、次いで「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(29.1%)、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.8%)と続いている。(図表Ⅲ-17-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-17-2 商業振興について大切なこと（経年変化）



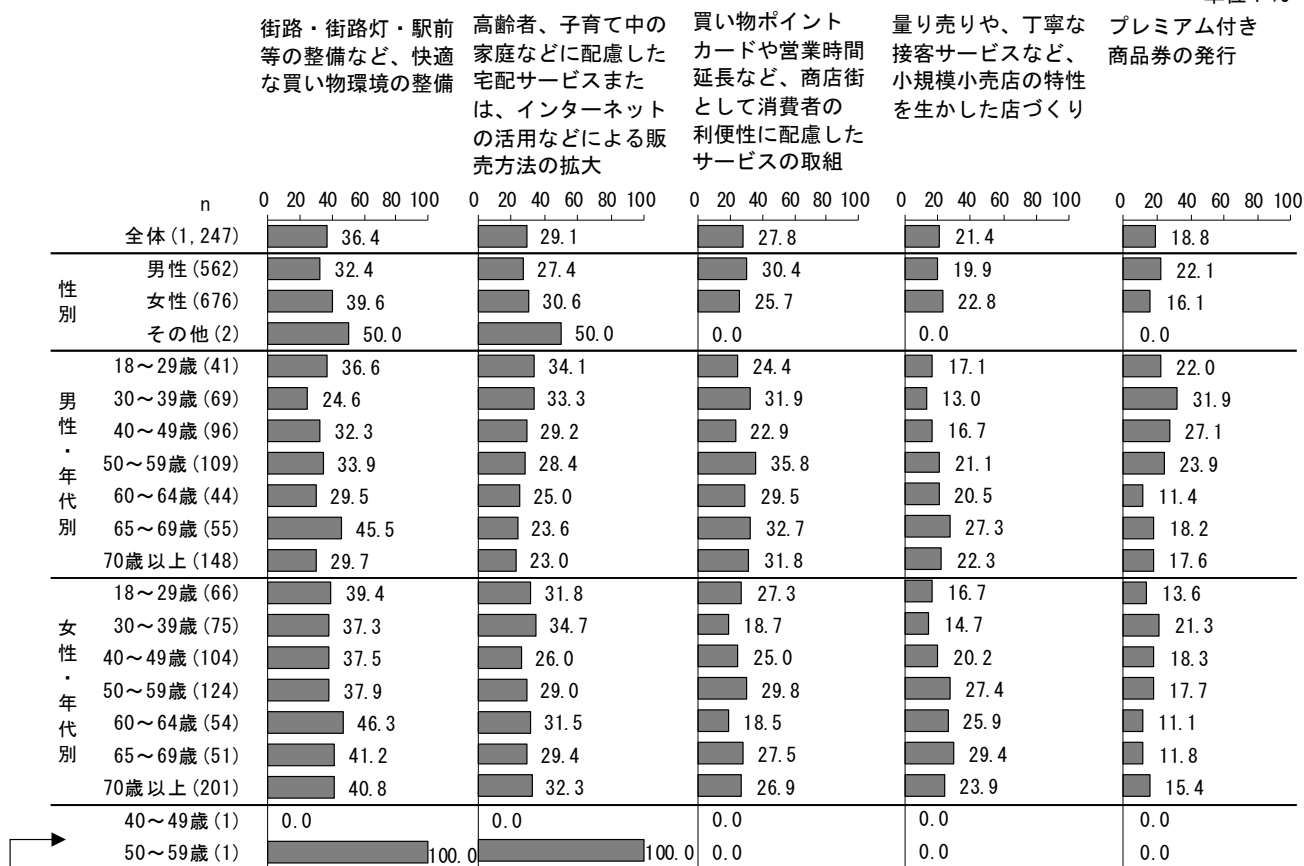
※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(36.4%)は、平成30年度調査(39.7%)より3.3ポイント、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.8%)は、平成30年度調査(33.1%)より5.3ポイント、「量り売りや、丁寧な接客サービスなど、小規模小売店の特性を生かした店づくり」(21.4%)は、平成30年度調査(27.5%)より6.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(29.1%)は、平成30年度調査(28.1%)より1.0ポイント、「プレミアム付き商品券の発行」(18.8%)は、平成30年度調査(8.6%)より10.2ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅲ-17-2)

【性別／性・年代別】

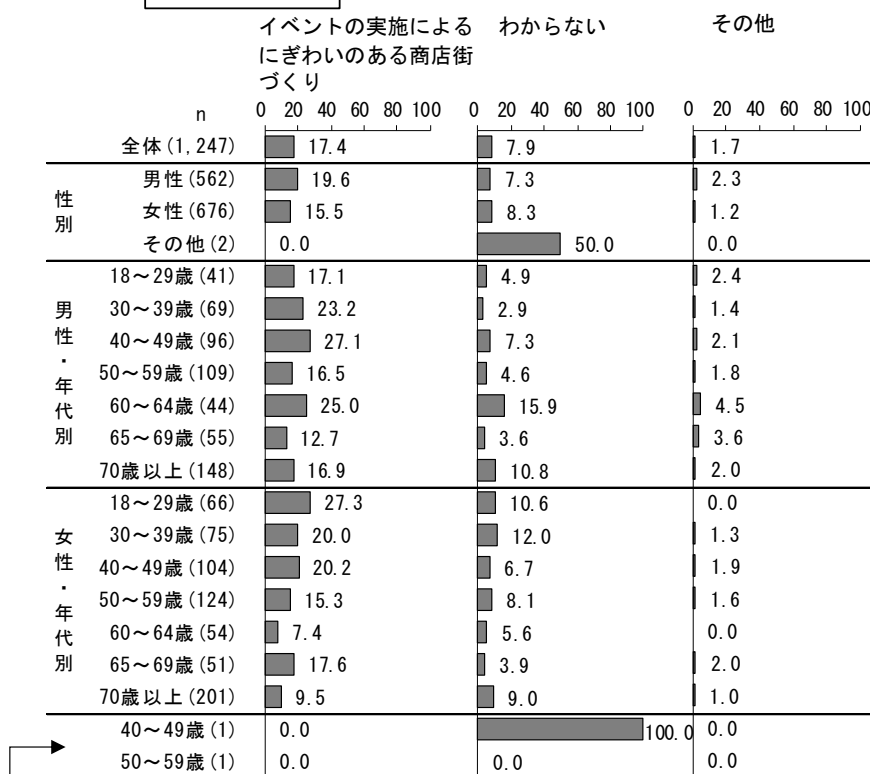
図表Ⅲ-17-3 商業振興について大切なこと（性別／性・年代別）

単位：％



その他・年代別

単位：％



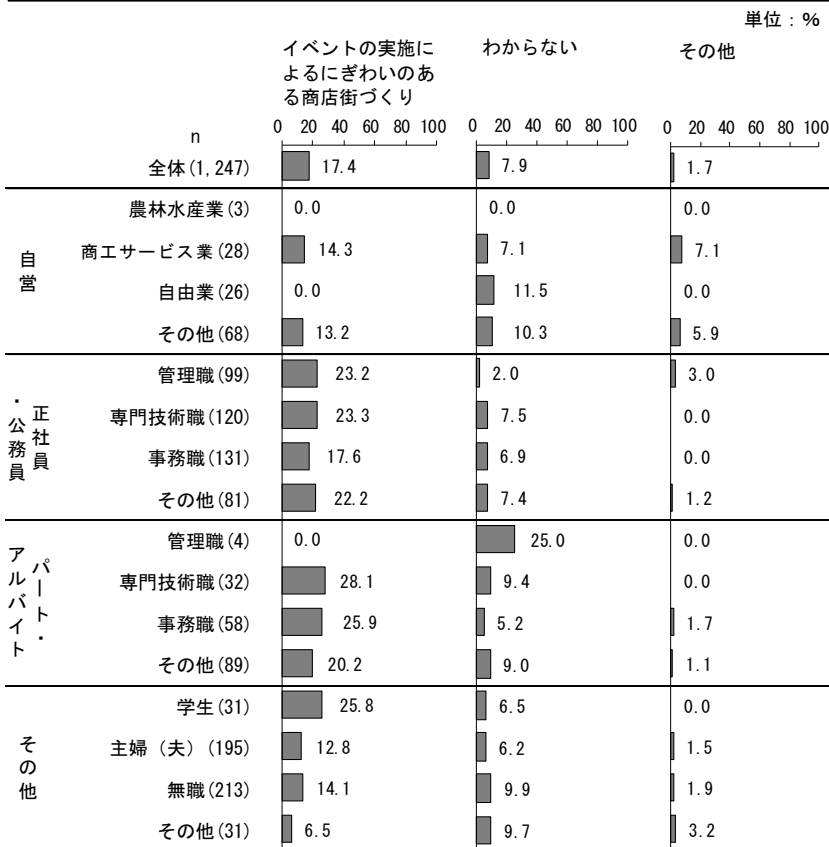
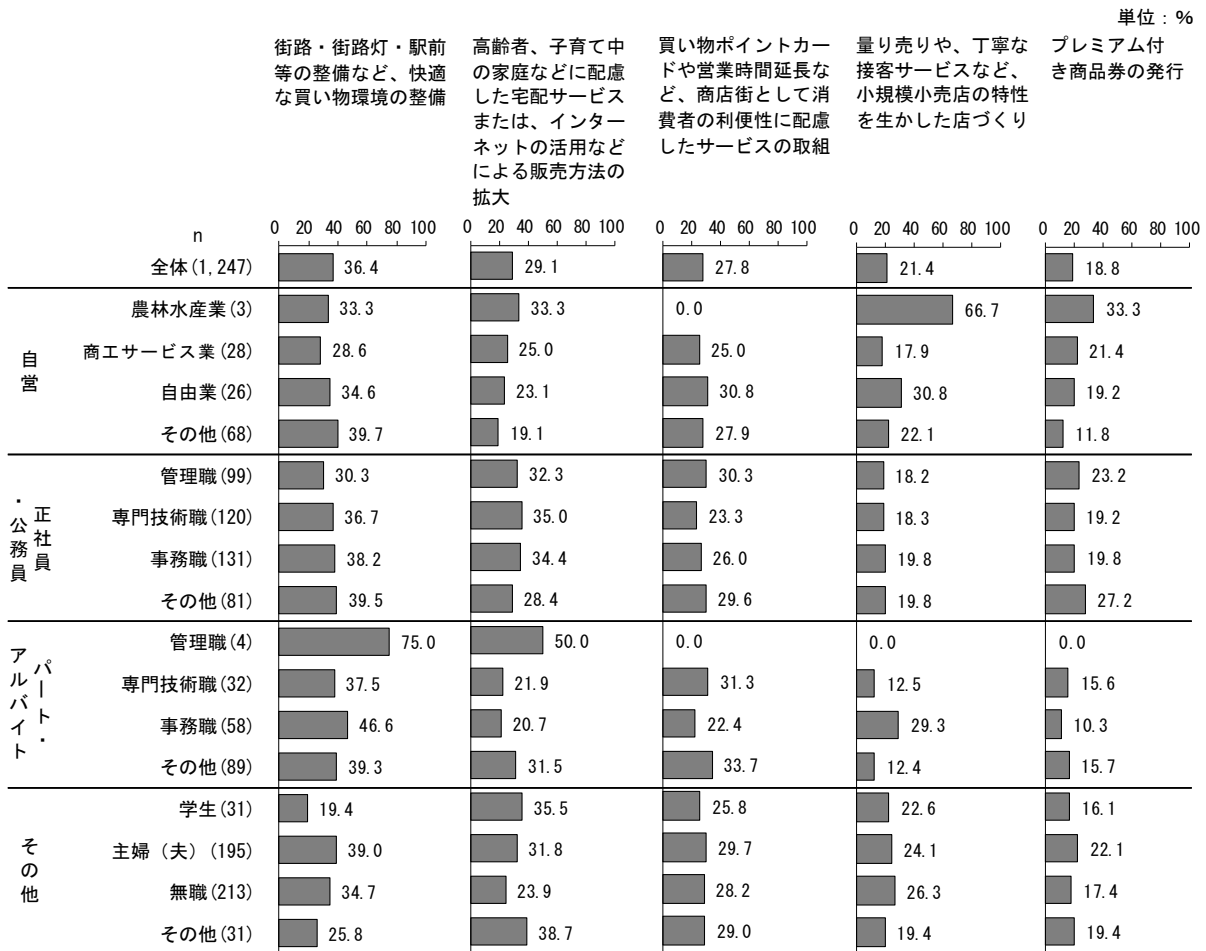
その他・年代別

性別でみると、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」は、「女性」(39.6%)が「男性」(32.4%)より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」は、「女性 30～39歳」(34.7%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-17-3)

【職業別】

図表Ⅲ-17-4 商業振興について大切なこと（職業別）



職業別でみると、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」は、「パート・アルバイト・管理職」（75.0%）を除き、「パート・アルバイト・事務職」（46.6%）が5割近くと最も高くなっている。（図表Ⅲ-17-4）

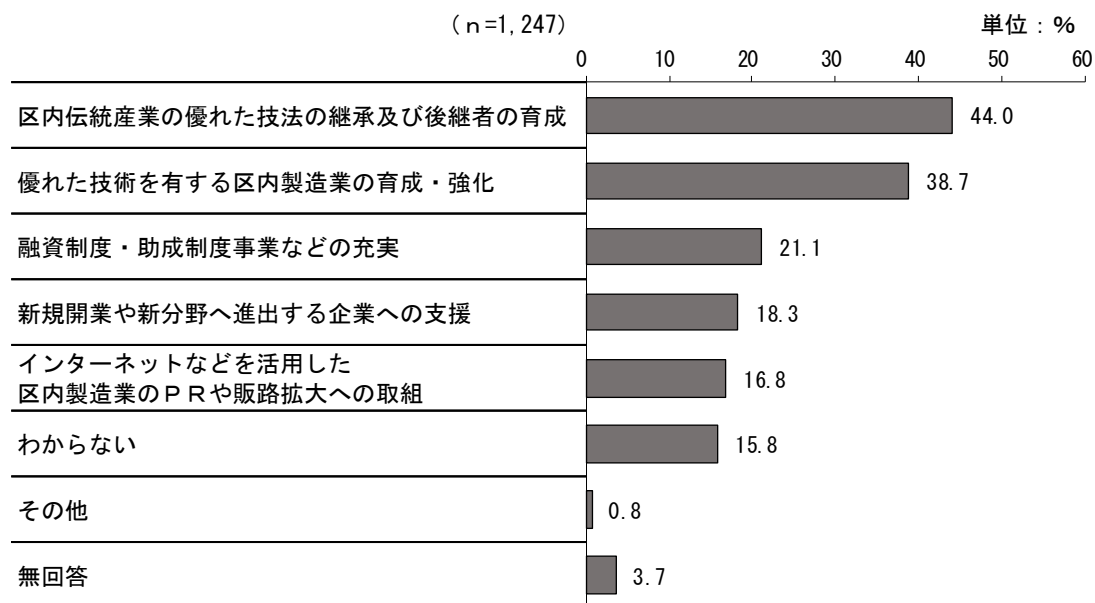
(2) 工業振興について大切なこと

◆ 「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」が4割台半ば

問 29 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(2) 工業振興について (〇は2つまで)

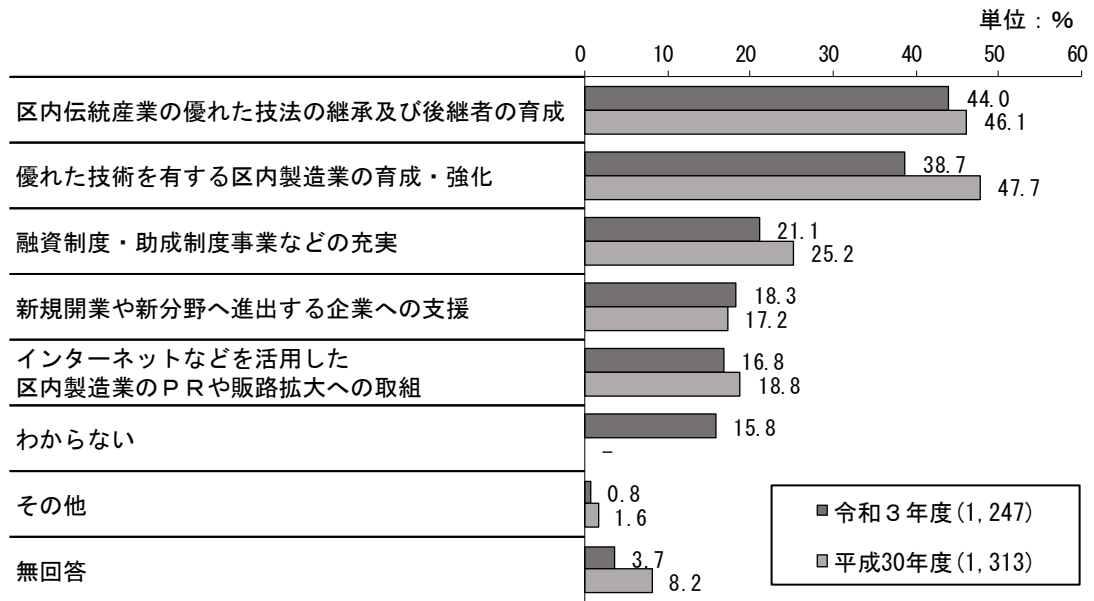
図表Ⅲ-17-5 工業振興について大切なこと



工業振興について大切なことは、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(44.0%)が4割台半ばと最も高く、次いで「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(38.7%)、「融資制度・助成制度事業などの充実」(21.1%)と続いている。(図表Ⅲ-17-5)

【経年変化】

図表Ⅲ－17－6 工業振興について大切なこと（経年変化）



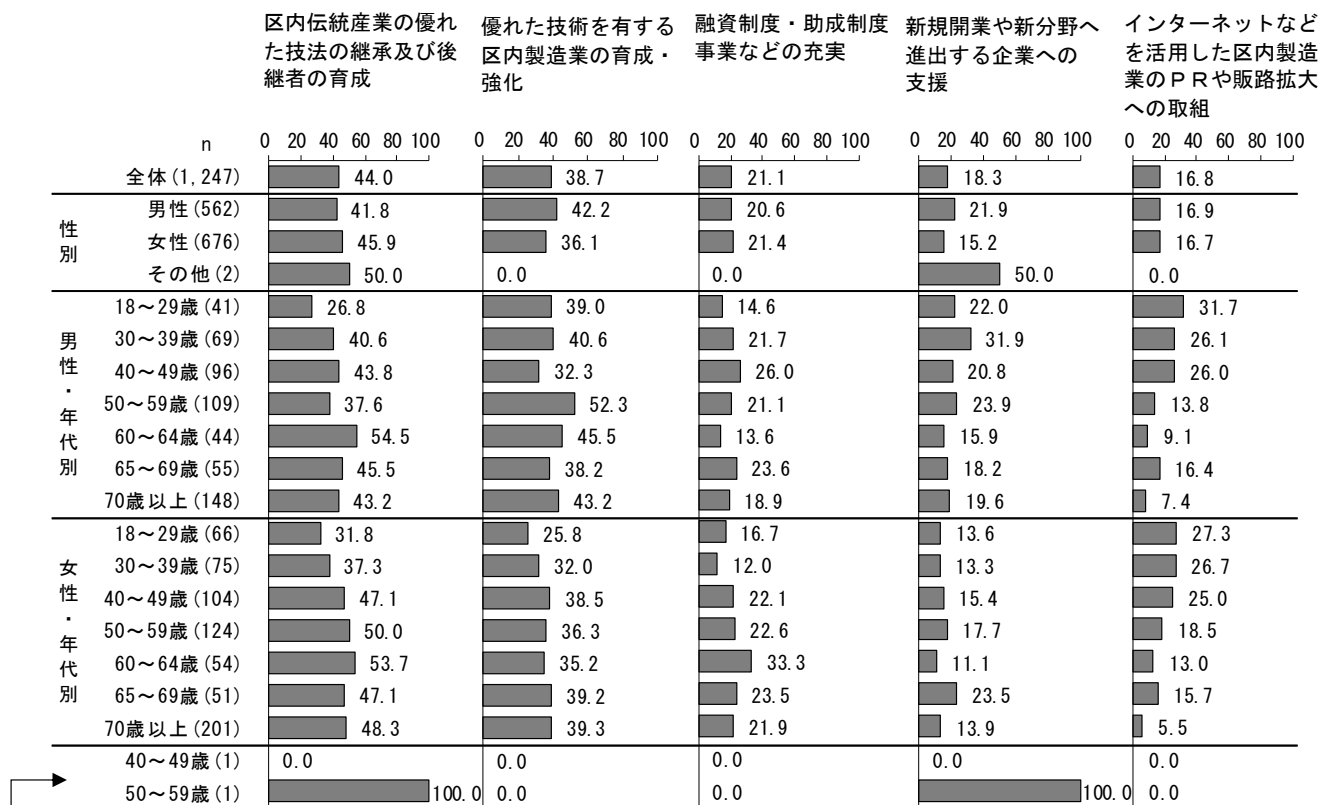
※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(44.0%)は、平成30年度調査(46.1%)より2.1ポイント、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(38.7%)は、平成30年度調査(47.7%)より9.0ポイント、「融資制度・助成制度事業などの充実」(21.1%)は平成30年度調査(25.2%)より4.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「新規開業や新分野へ進出する企業への支援」(18.3%)は、平成30年度調査(17.2%)より1.1ポイント増加している。(図表Ⅲ－17－6)

【性別／性・年代別】

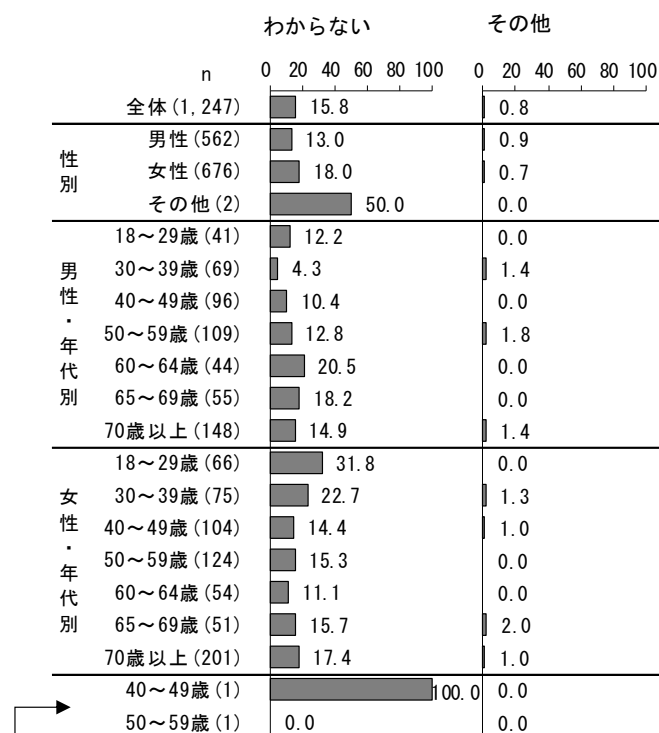
図表Ⅲ-17-7 工業振興について大切なこと（性別／性・年代別）

単位：%



その他・年代別

単位：%



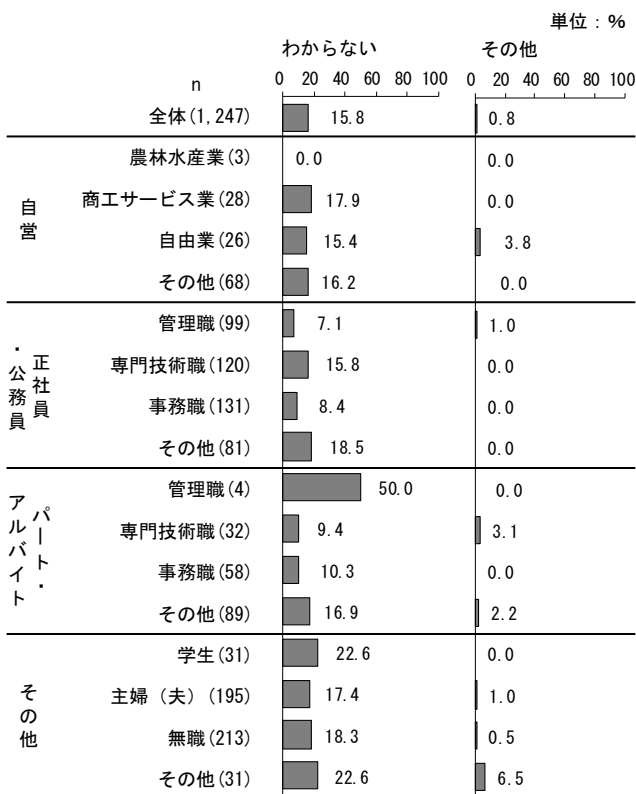
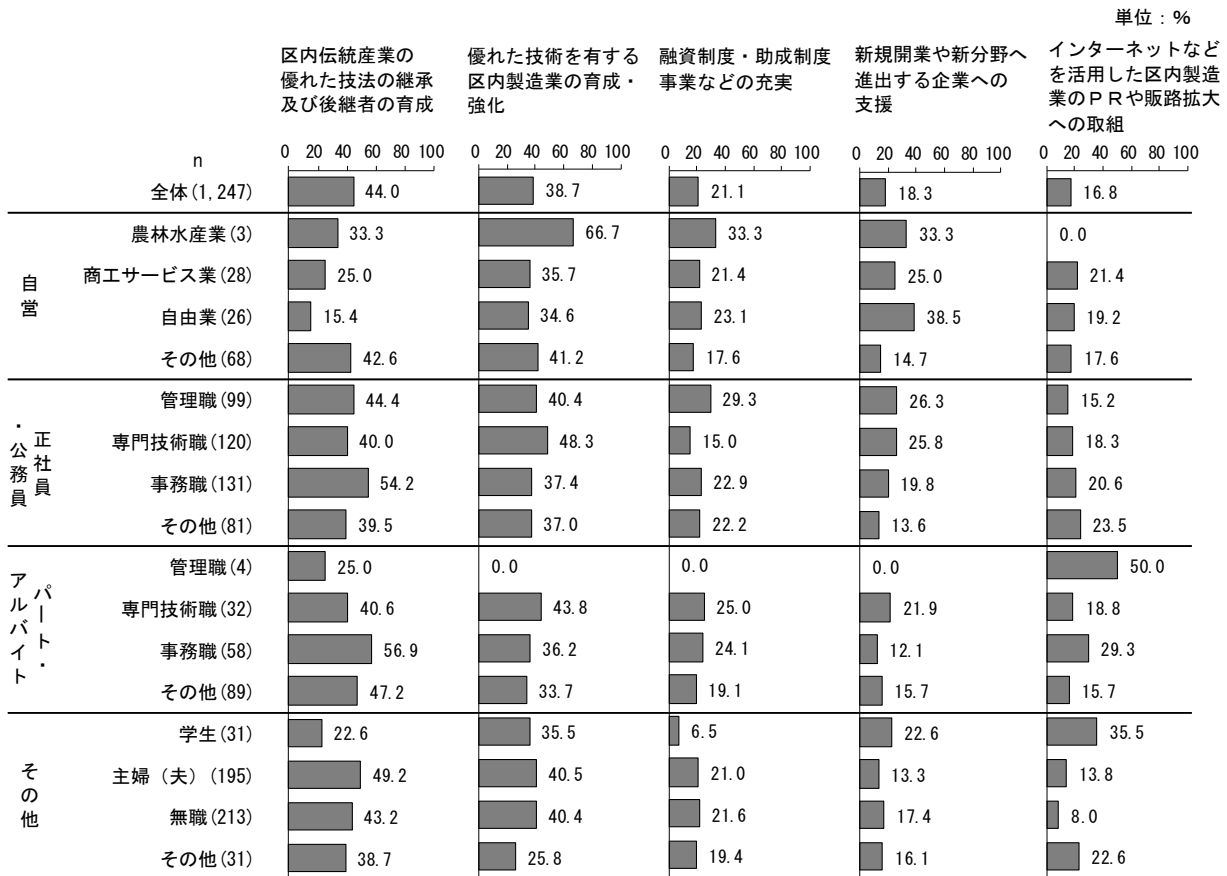
その他・年代別

性別で見ると、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」は、「女性」(45.9%)が「男性」(41.8%)より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」は、「男性 60歳～64歳」(54.5%)が最も高くなっている。「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」は、「男性 50～59歳」(52.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-17-7)

【職業別】

図表Ⅲ-17-8 工業振興について大切なこと（職業別）



職業別でみると、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」は、「パート・アルバイト・事務職」(56.9%) および「正社員・公務員・事務職」(54.2%) が5割以上となっている。(図表Ⅲ-17-8)

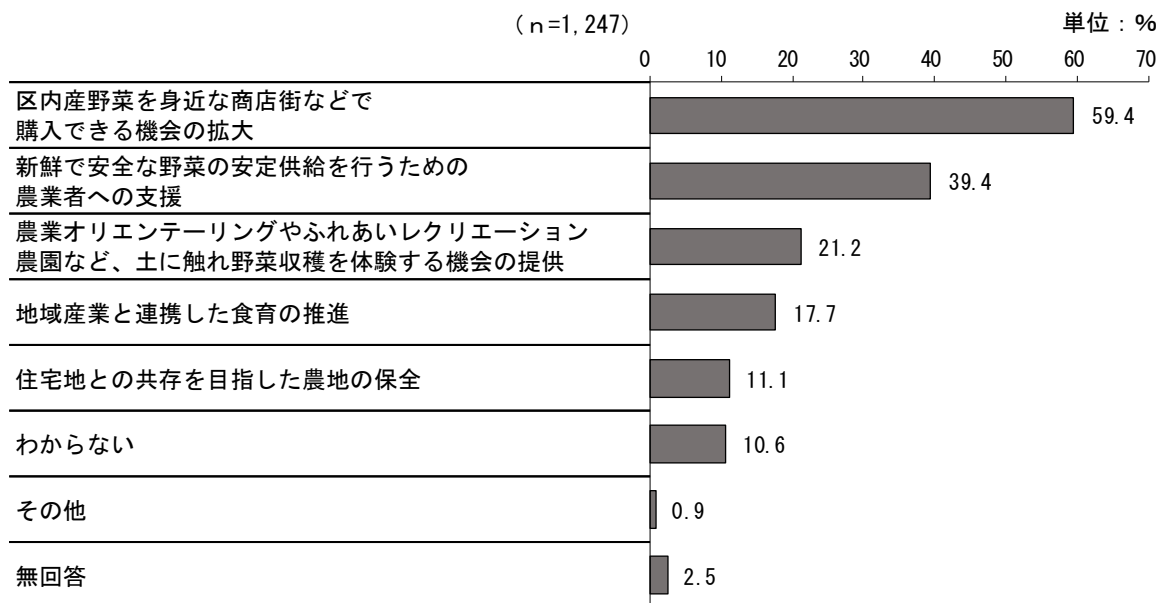
(3) 農業振興について大切なこと

◆ 「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」が6割弱

問 29 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(3) 農業振興について (〇は2つまで)

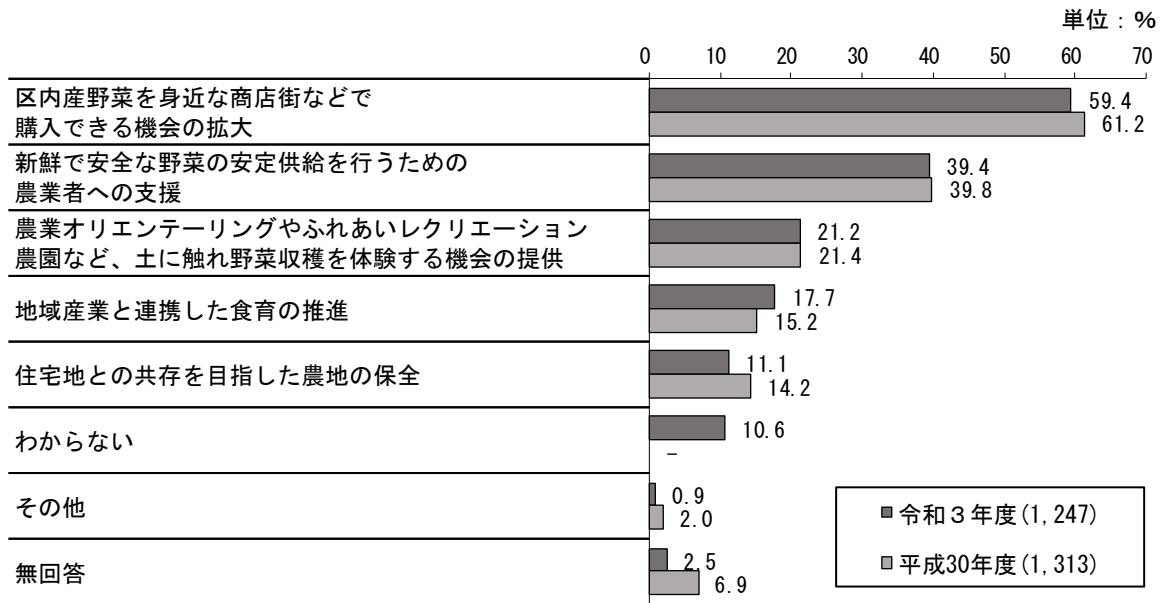
図表Ⅲ-17-9 農業振興について大切なこと



農業振興について大切なことは、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(59.4%)が6割弱と最も高く、次いで「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.4%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(21.2%)と続いている。(図表Ⅲ-17-9)

【経年変化】

図表Ⅲ－17－10 農業振興について大切なこと（経年変化）



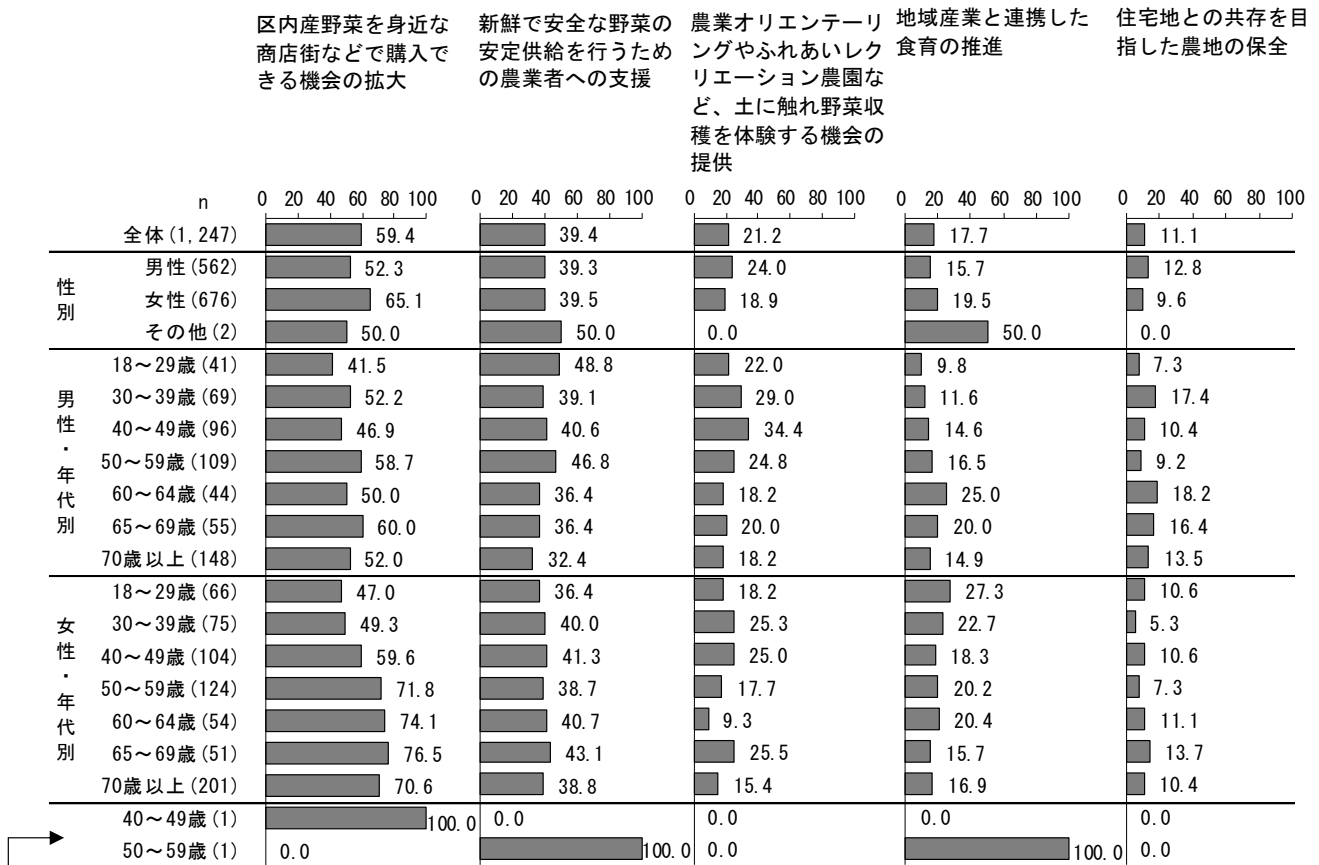
※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(59.4%)は、平成30年度調査(61.2%)より1.8ポイント、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(39.4%)は、平成30年度調査(39.8%)より0.4ポイント、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(21.2%)は、平成30年度調査(21.4%)より0.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「地域産業と連携した食育の推進」(17.7%)は、平成30年度調査(15.2%)より2.5ポイント増加している。(図表Ⅲ－17－10)

【性別／性・年代別】

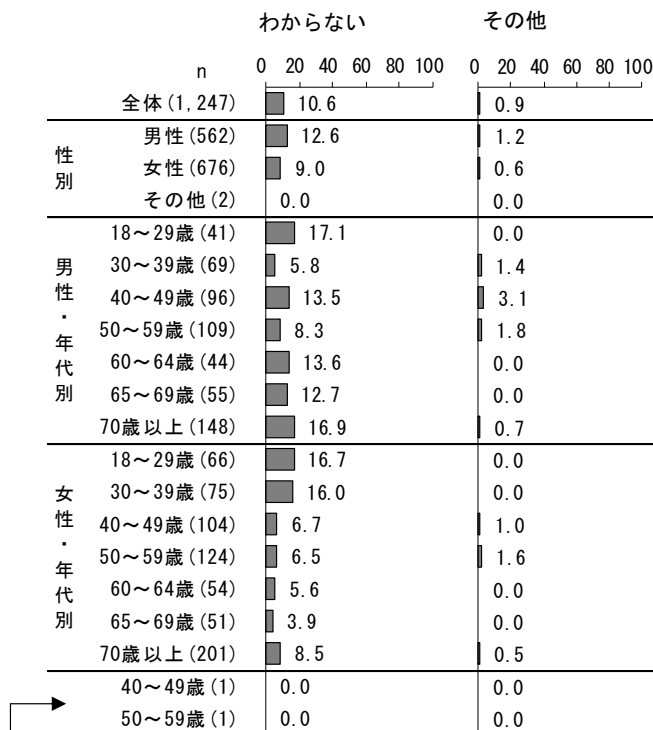
図表Ⅲ-17-11 農業振興について大切なこと（性別／性・年代別）

単位：%



その他・年代別

単位：%



その他・年代別

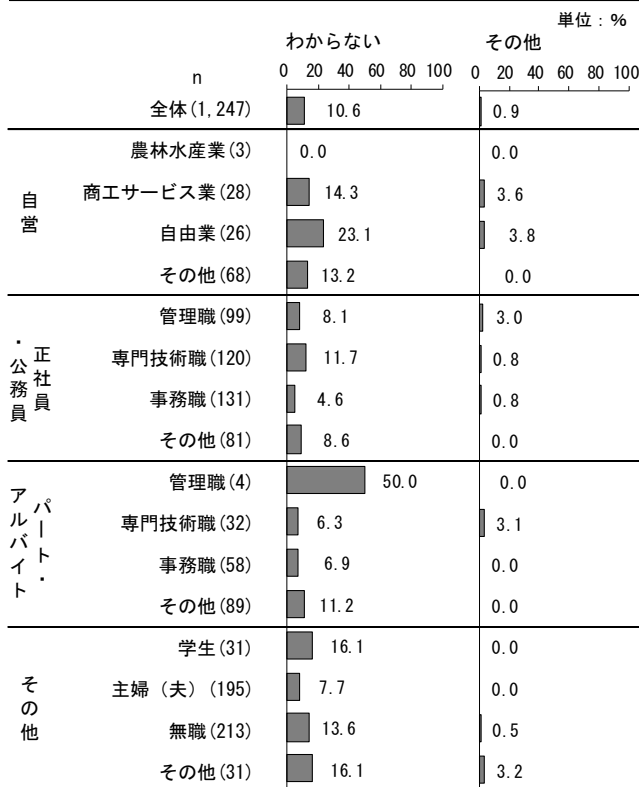
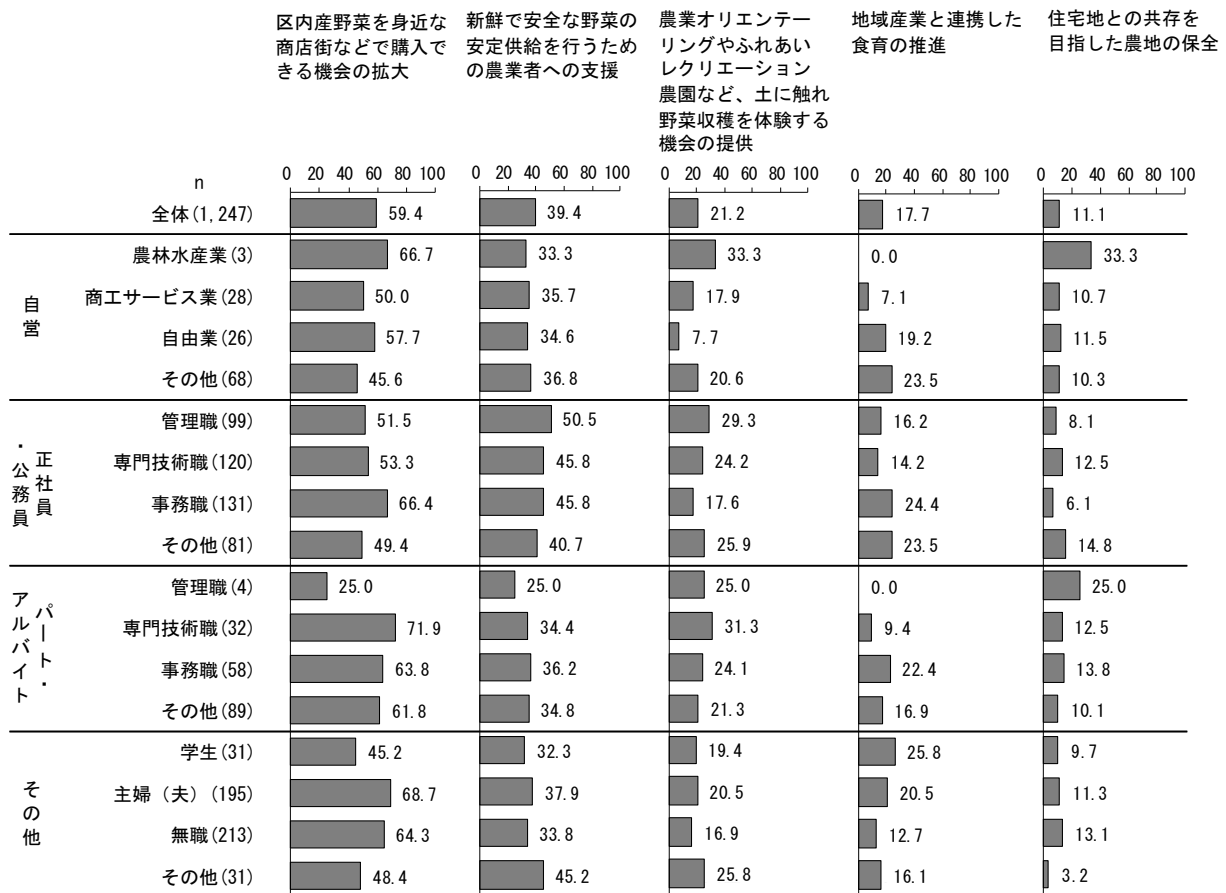
性別でみると、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」は、「女性」(65.1%)が「男性」(52.3%)より12.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」は、「女性65～69歳」(76.5%)が最も高くなっている。また、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」は、「男性18～29歳」(48.8%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-17-11)

【職業別】

図表Ⅲ-17-12 農業振興について大切なこと（職業別）

単位：％



職業別でみると、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」は、「パート・アルバイト・専門技術職」(71.9%)が7割強と最も高くなっている。また、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」は、「正社員・公務員・管理職」(50.5%)が約5割と最も高くなっている。(図表Ⅲ-17-12)

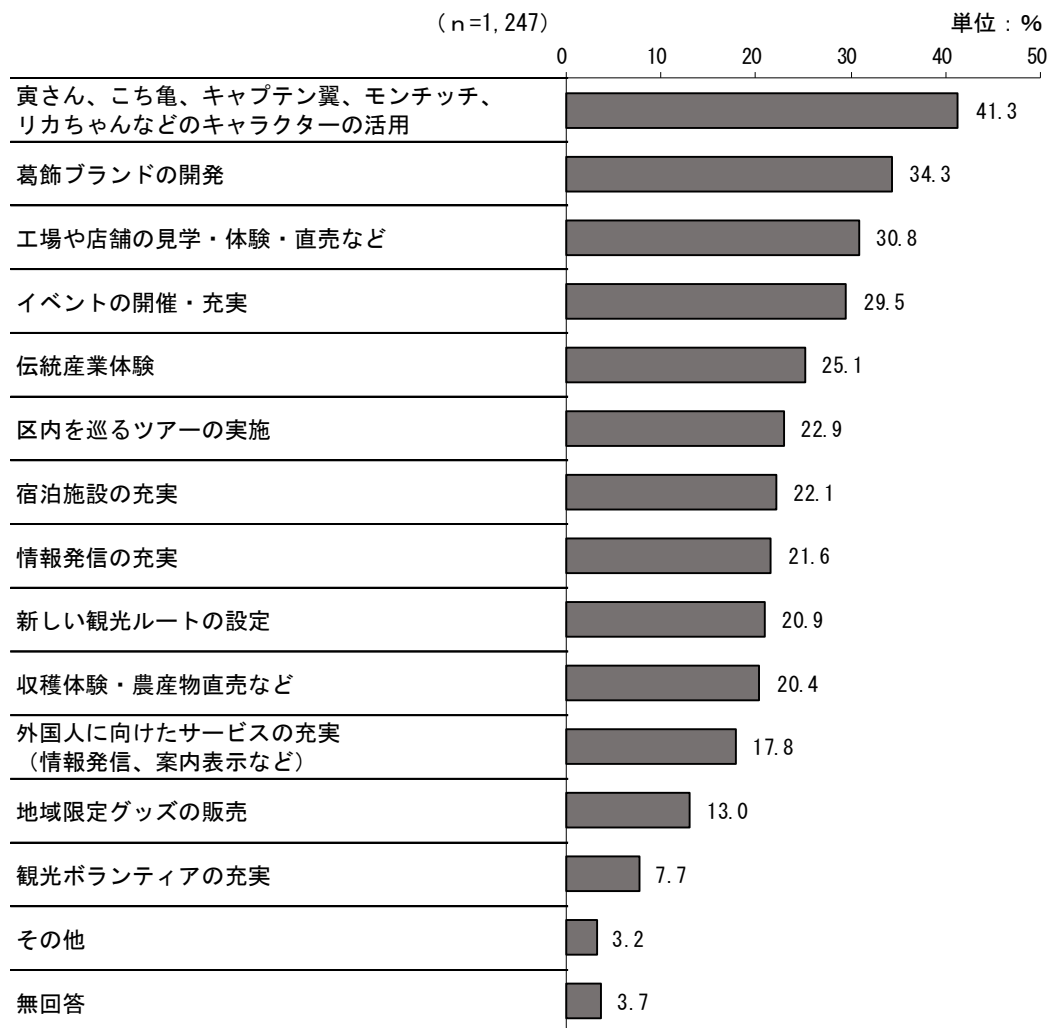
18. 観光

(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと

- ◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が4割強

問 30 葛飾区ではまちのにぎわいを創出するために、観光振興を進めています。葛飾区に観光客を誘致するために、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

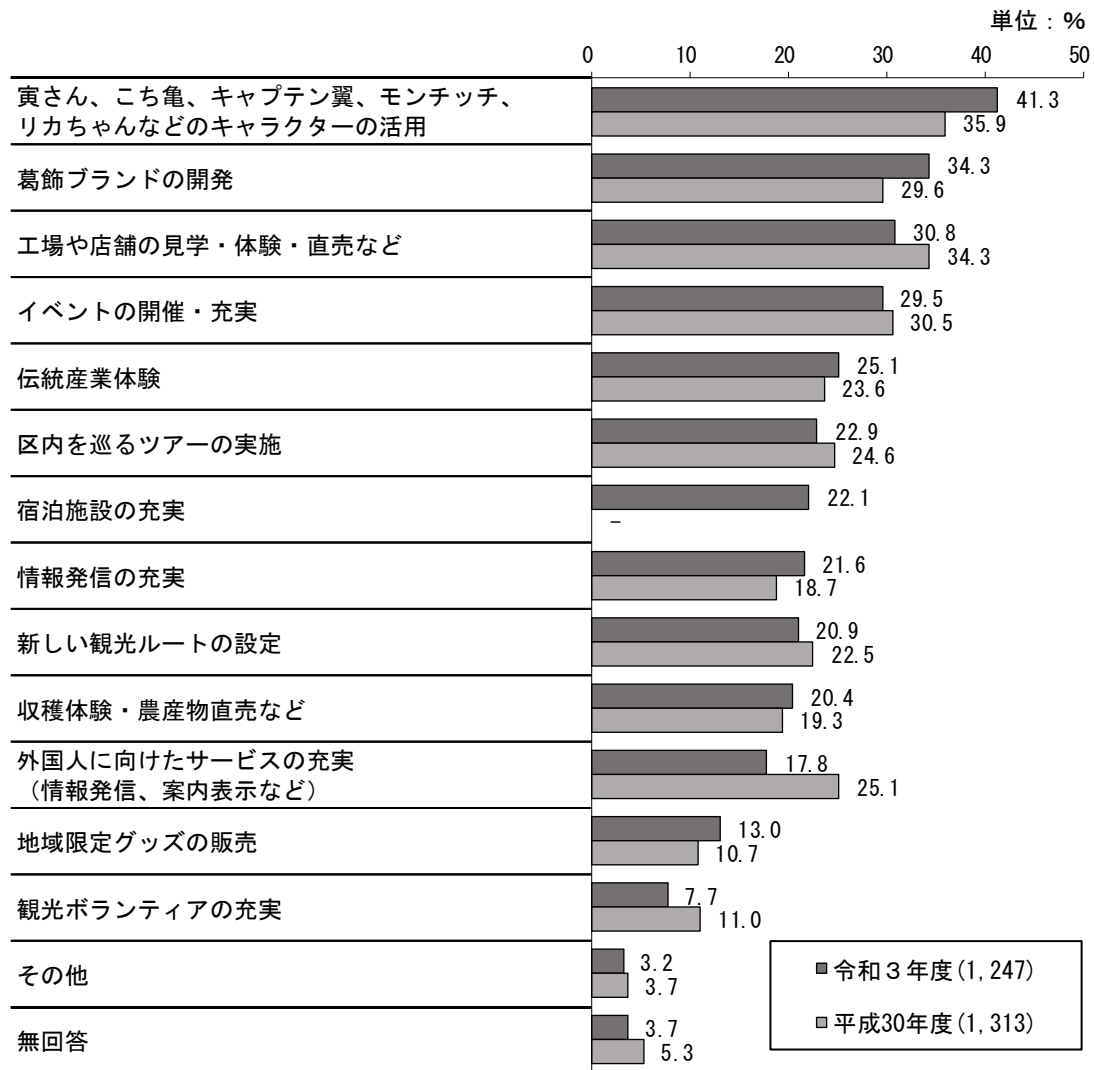
図表Ⅲ-18-1 葛飾区の観光客誘致における重要なこと



葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで「葛飾ブランドの開発」(34.3%)、「工場や店舗の見学・体験・直売など」(30.8%)と続いている。(図表Ⅲ-18-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－18－2 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（経年変化）



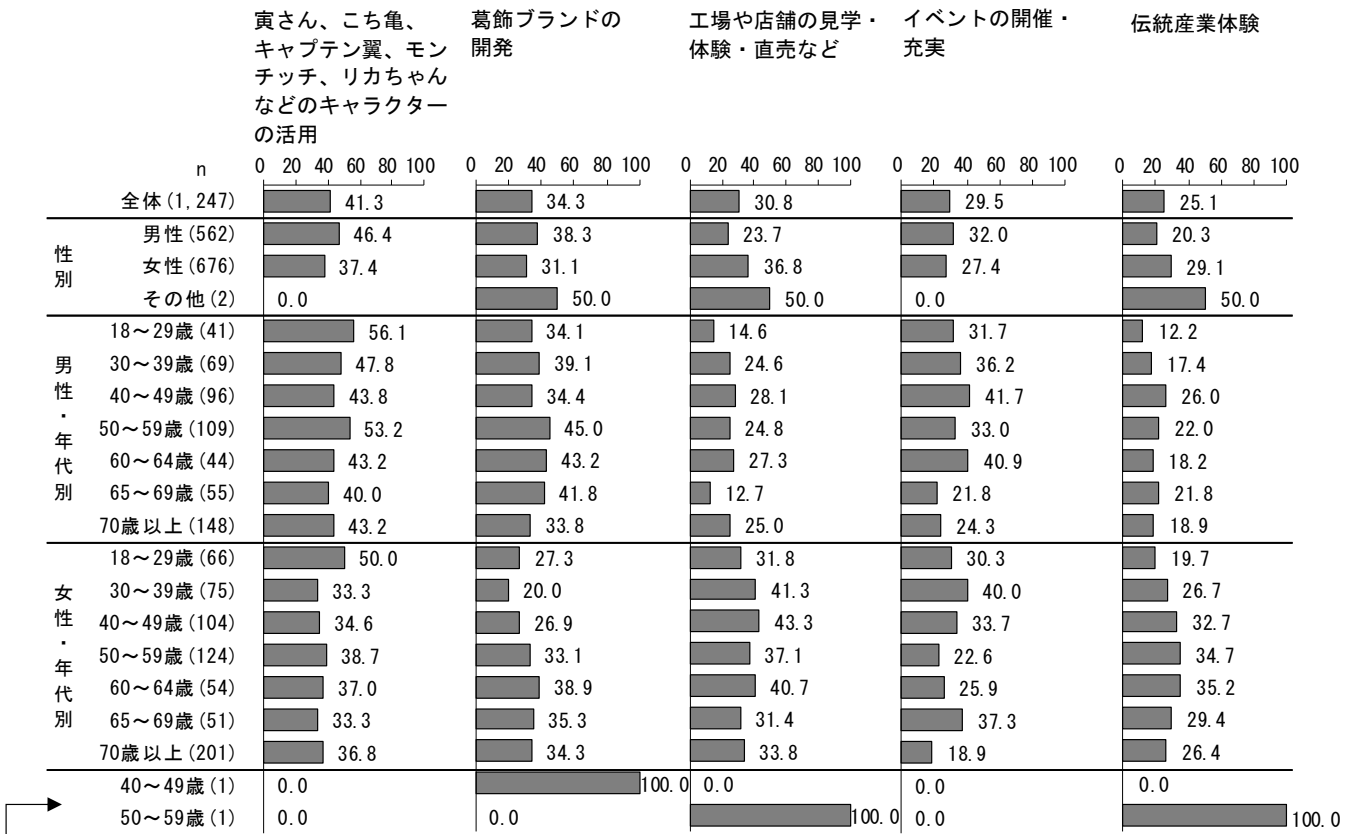
※ 令和3年度調査では、選択肢「宿泊施設の充実」を新たに追加した。

「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(41.3%)は、平成30年度調査(35.9%)より5.4ポイント、「葛飾ブランドの開発」(34.3%)は、平成30年度調査(29.6%)より4.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「工場や店舗の見学・体験・直売など」(30.8%)は、平成30年度調査(34.3%)より3.5ポイント、「イベントの開催・充実」(29.5%)は、平成30年度調査(30.5%)より1.0ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ－18－2)

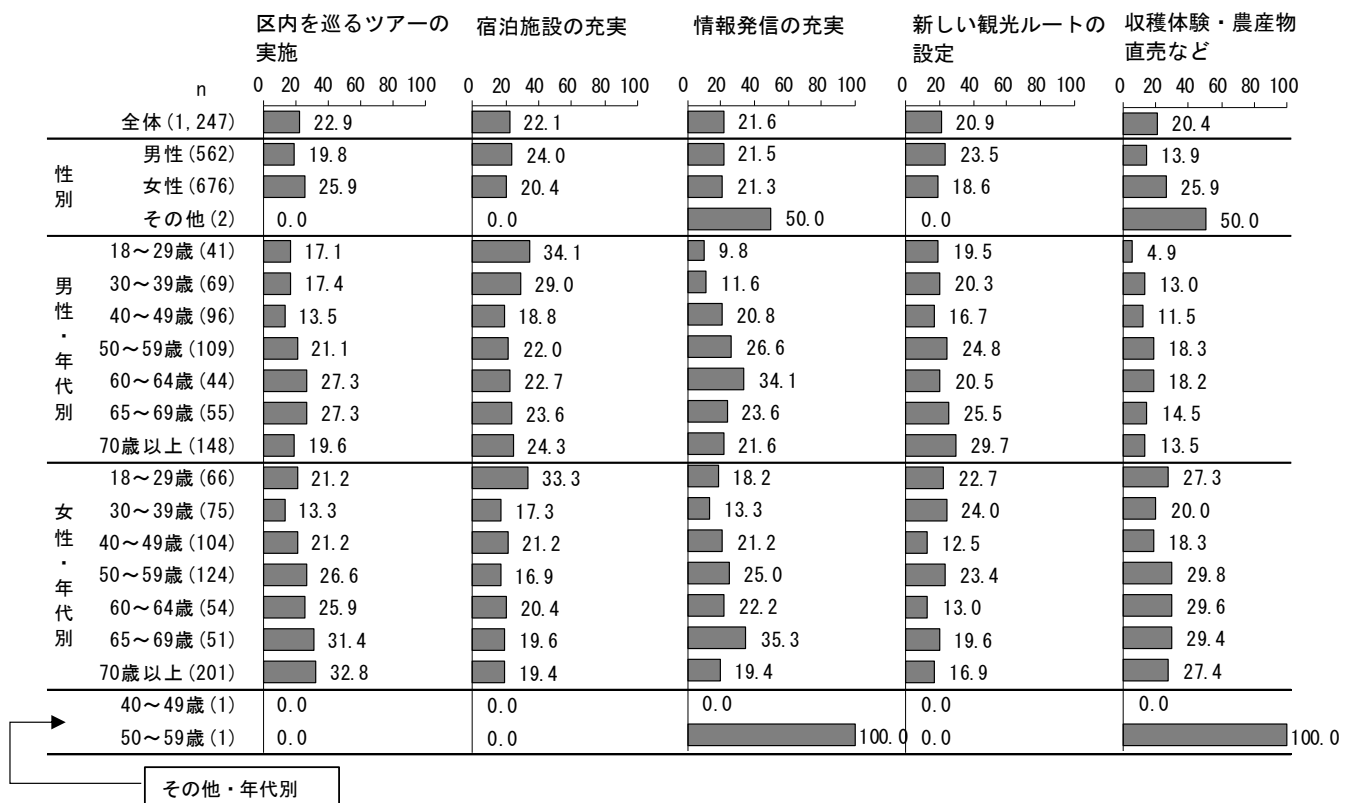
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-18-3 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



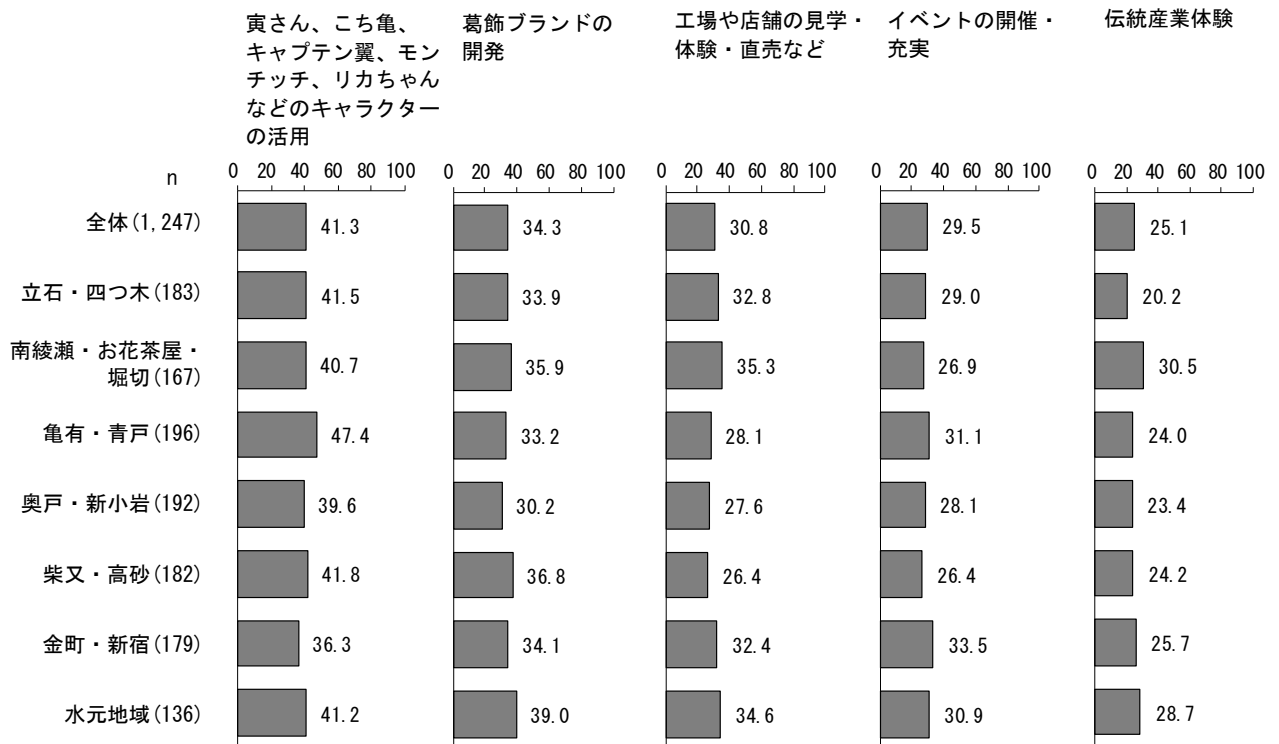
上位10項目について性別で見ると、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」は、「男性」（46.4％）が「女性」（37.4％）より9.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「葛飾ブランドの開発」は、「男性50～59歳」（45.0％）が最も高くなっている。（図表Ⅲ-18-3）

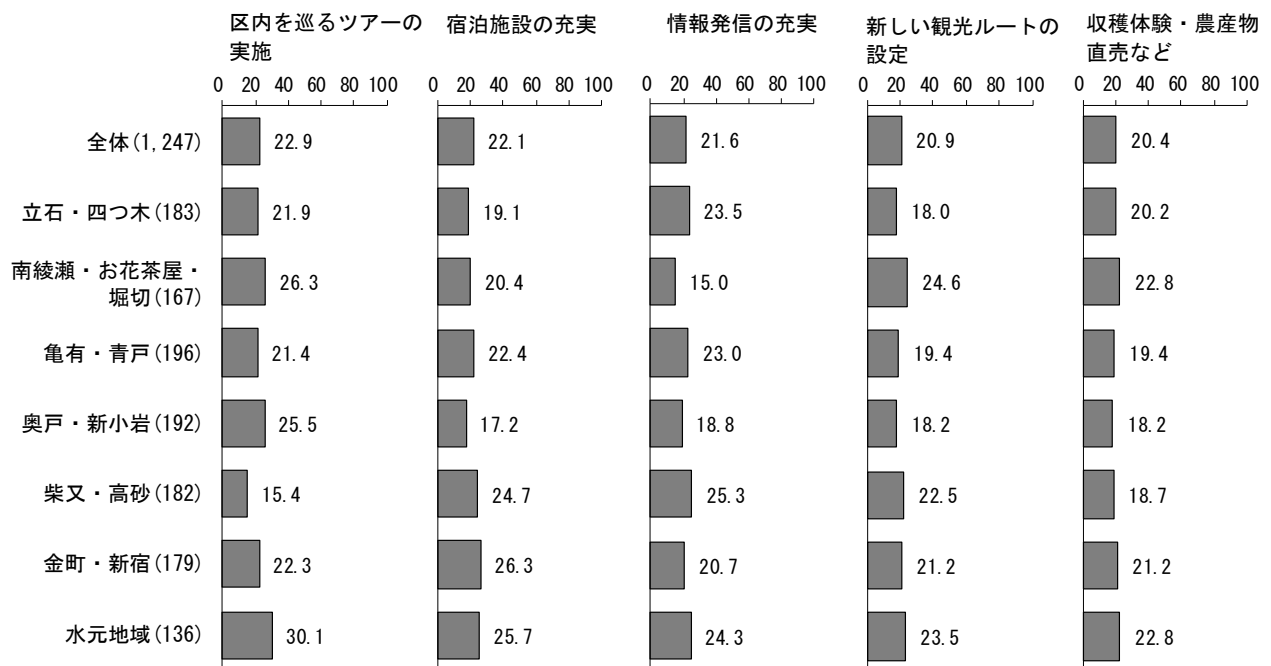
【居住地域別】

図表Ⅲ-18-4 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



単位：%



上位10項目について居住地域別でみると、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」は、「亀有・青戸」（47.4%）が最も高く、次いで「柴又・高砂」（41.8%）、「立石・四つ木」（41.5%）と続いている。また、「葛飾ブランドの開発」は、「水元地域」（39.0%）が最も高く、次いで「柴又・高砂」（36.8%）、「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（35.9%）と続いている。（図表Ⅲ-18-4）

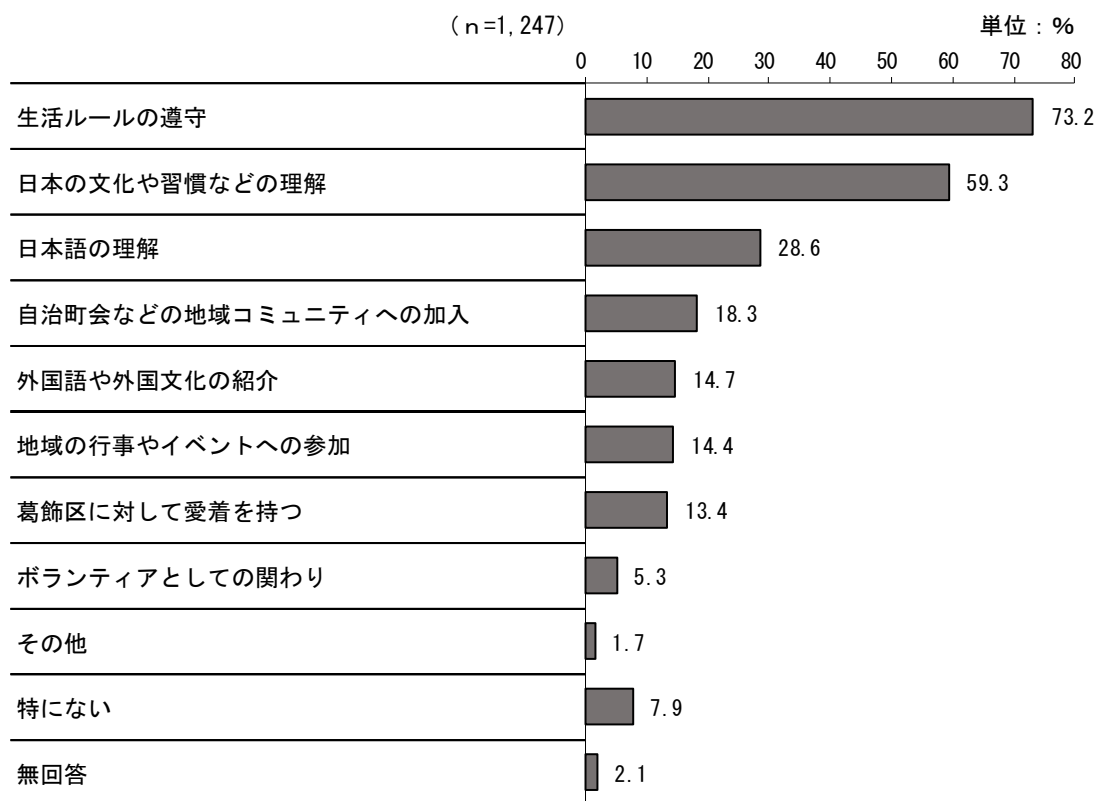
19. 国際

(1) 外国人（区民）に努力してほしいこと

◆ 「生活ルールの遵守」が7割強

問31 同じ地域で暮らしていくために外国人（区民）に努力してほしいことはありますか。
（〇はいくつでも）

図表Ⅲ-19-1 外国人（区民）に努力してほしいこと



外国人（区民）に努力してほしいことは、「生活ルールの遵守」（73.2%）が7割強と最も高く、次いで「日本の文化や習慣などの理解」（59.3%）、「日本語の理解」（28.6%）と続いている。（図表Ⅲ-19-1）

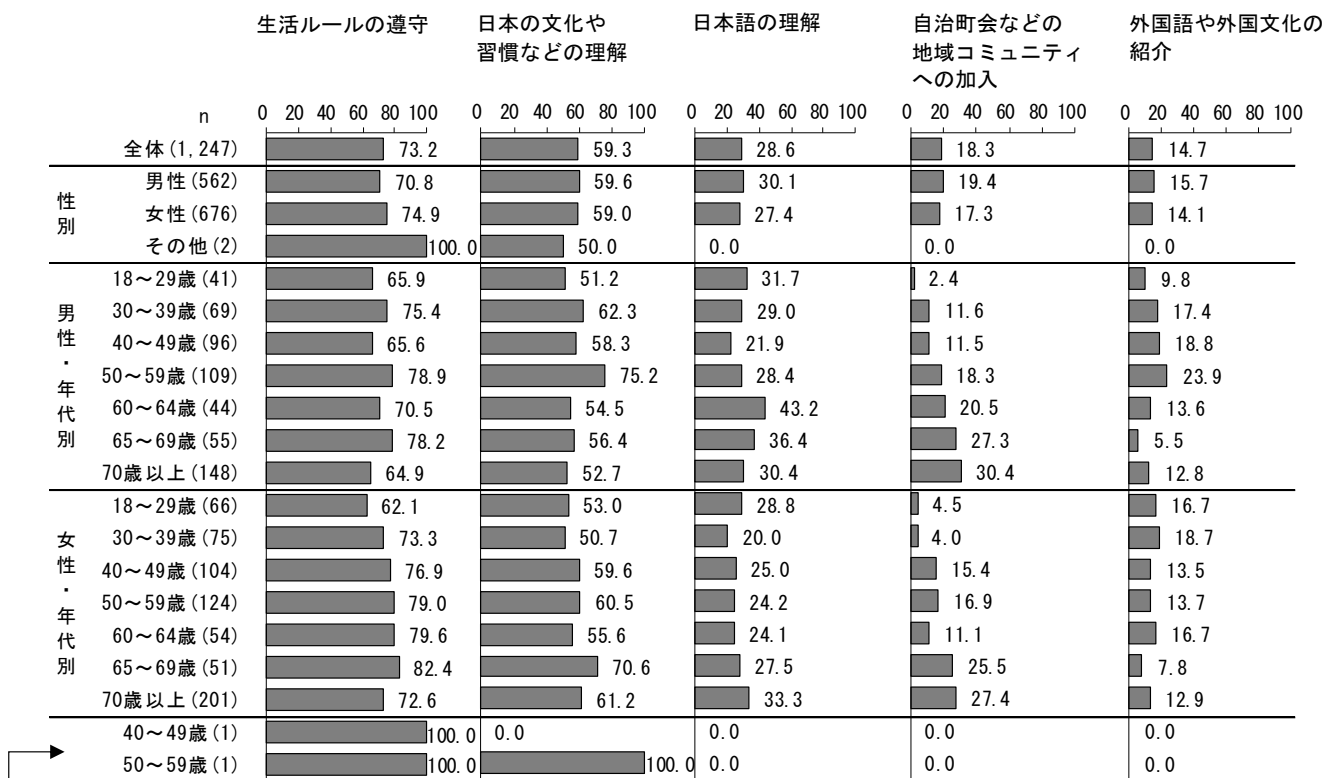
【経年変化】

当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

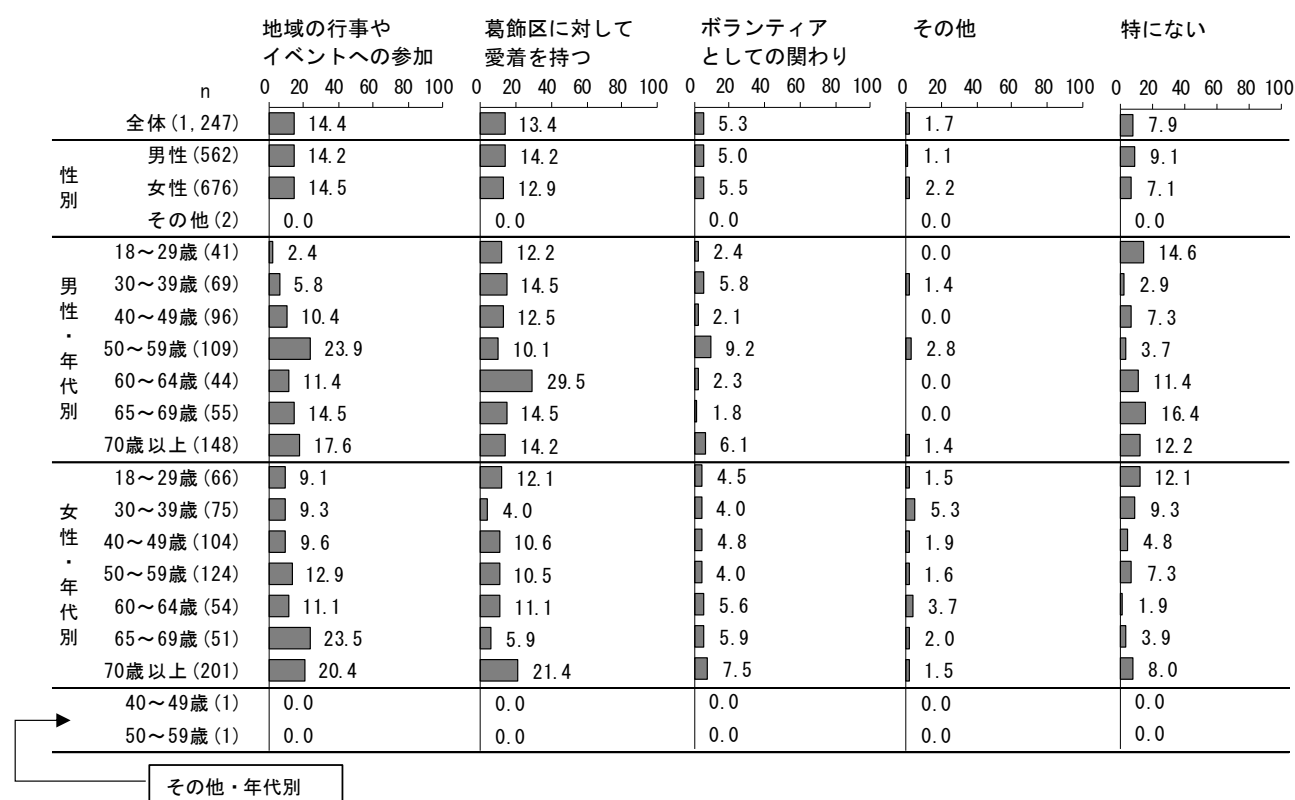
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-19-2 外国人（区民）に努力してほしいこと（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



性別でみると、「生活ルールの遵守」は、「女性」（74.9％）が「男性」（70.8％）より4.1ポイント高くなっている。

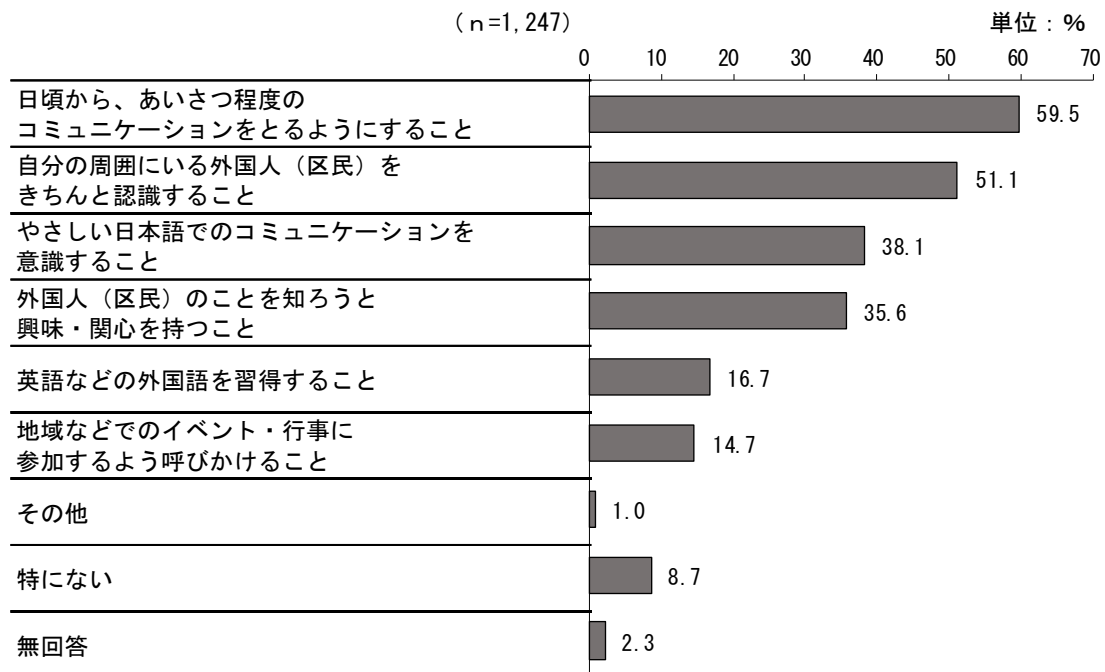
性・年代別でみると、「日本の文化や習慣などの理解」は、「男性50～59歳」（75.2％）が最も高くなっている。また、「日本語の理解」は、「男性60～64歳」（43.2％）が最も高くなっている。（図表Ⅲ-19-2）

(2) 日本人区民が努力・工夫していくべきこと

◆ 「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」が6割弱

問 32 同じ地域で暮らしていくために日本人区民が努力・工夫していくべきことはありますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅲ-19-3 日本人区民が努力・工夫していくべきこと



日本人区民が努力・工夫していくべきことは、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」(59.5%)が6割弱と最も高く、次いで「自分の周囲にいる外国人(区民)をきちんと認識すること」(51.1%)、「やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること」(38.1%)と続いている。(図表Ⅲ-19-3)

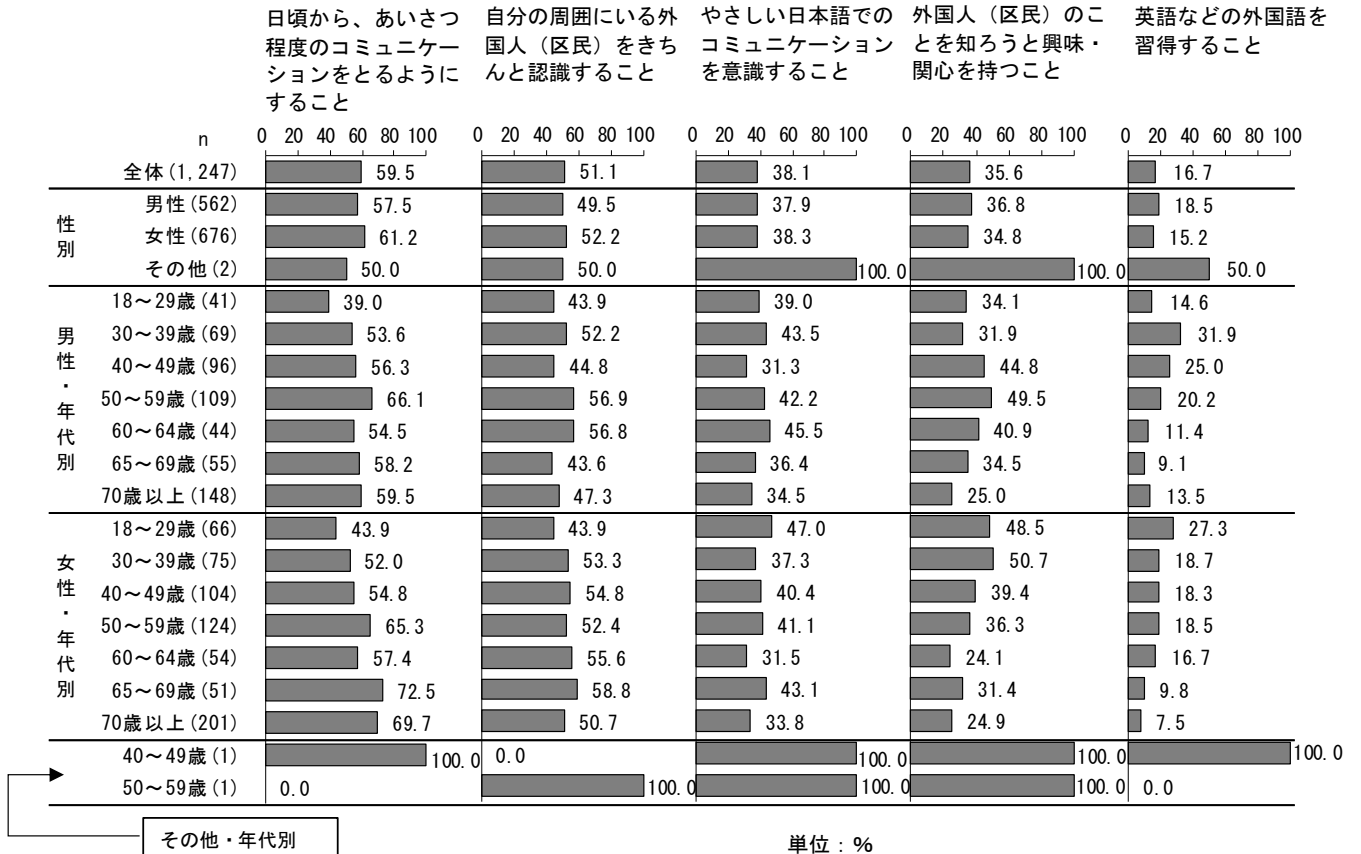
【経年変化】

当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

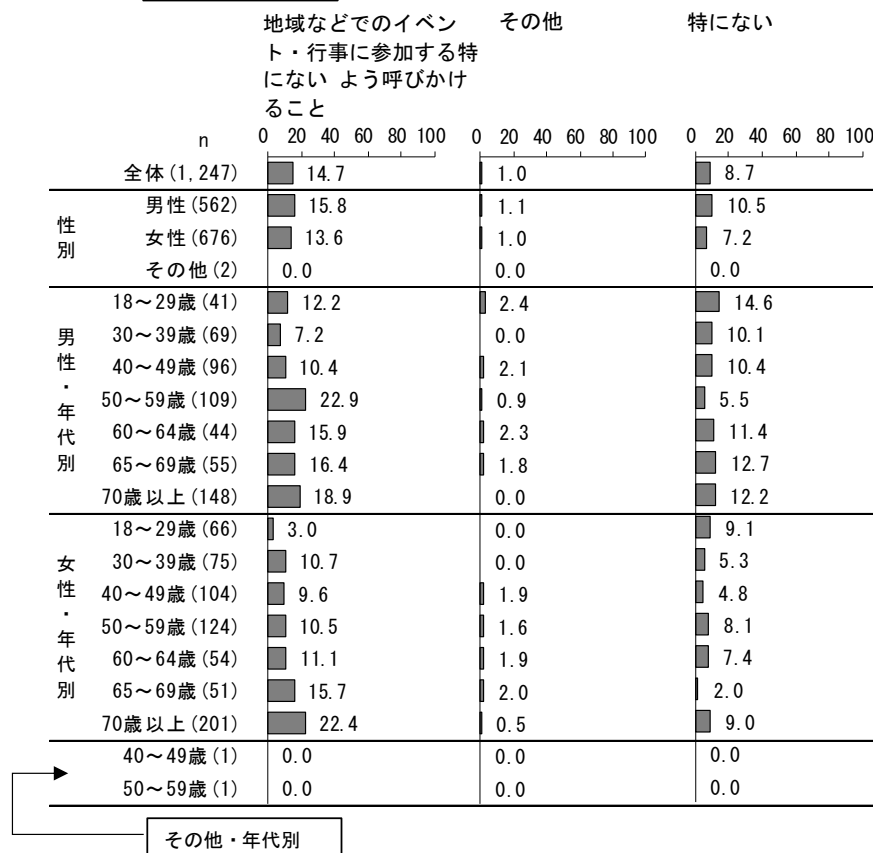
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-19-4 日本人区民が努力・工夫していくべきこと（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％



性別でみると、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」は、「女性」(61.2%)が「男性」(57.5%)より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」は、「女性 65～69歳」(72.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-19-4)

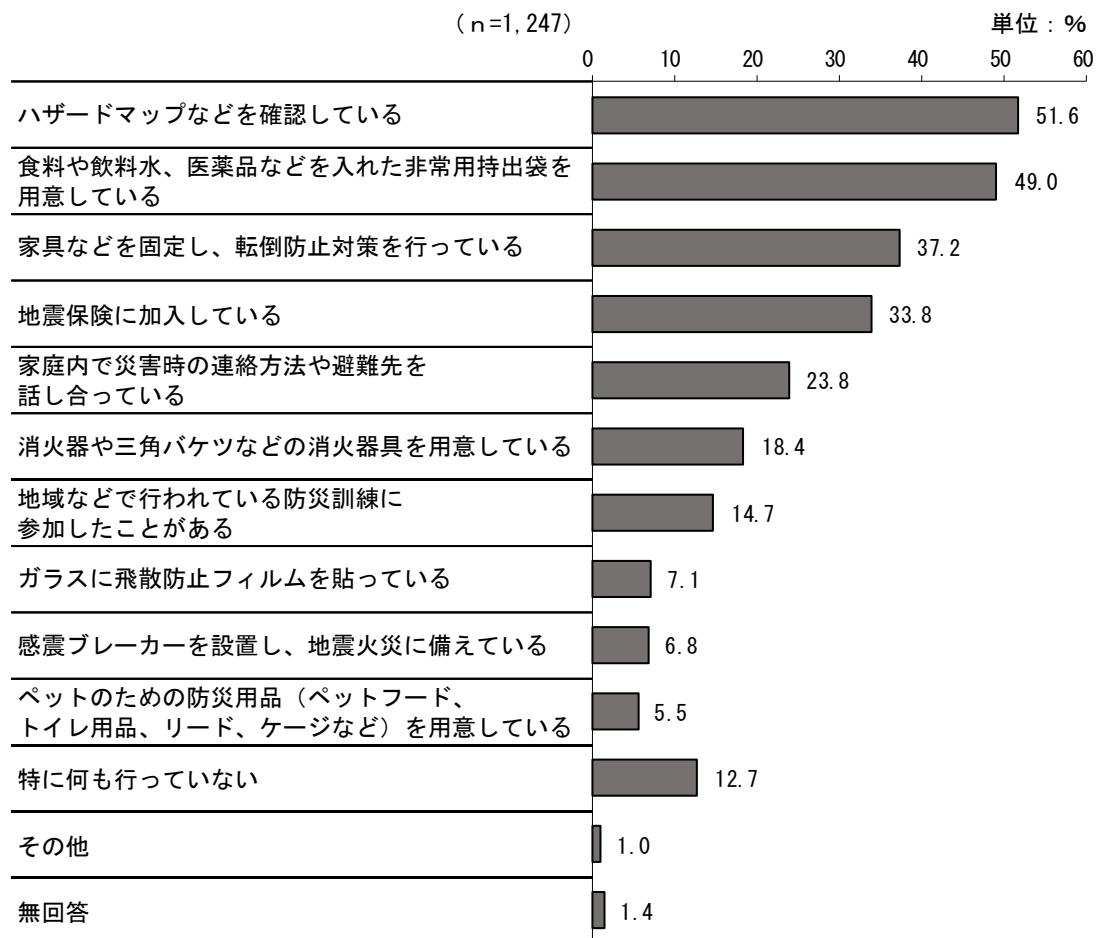
20. 防災

(1) 日頃行っている防災対策や準備

◆ 「ハザードマップなどを確認している」が5割強

問 33 あなたが、日頃行っている防災対策や準備は何ですか。(〇はいくつでも)

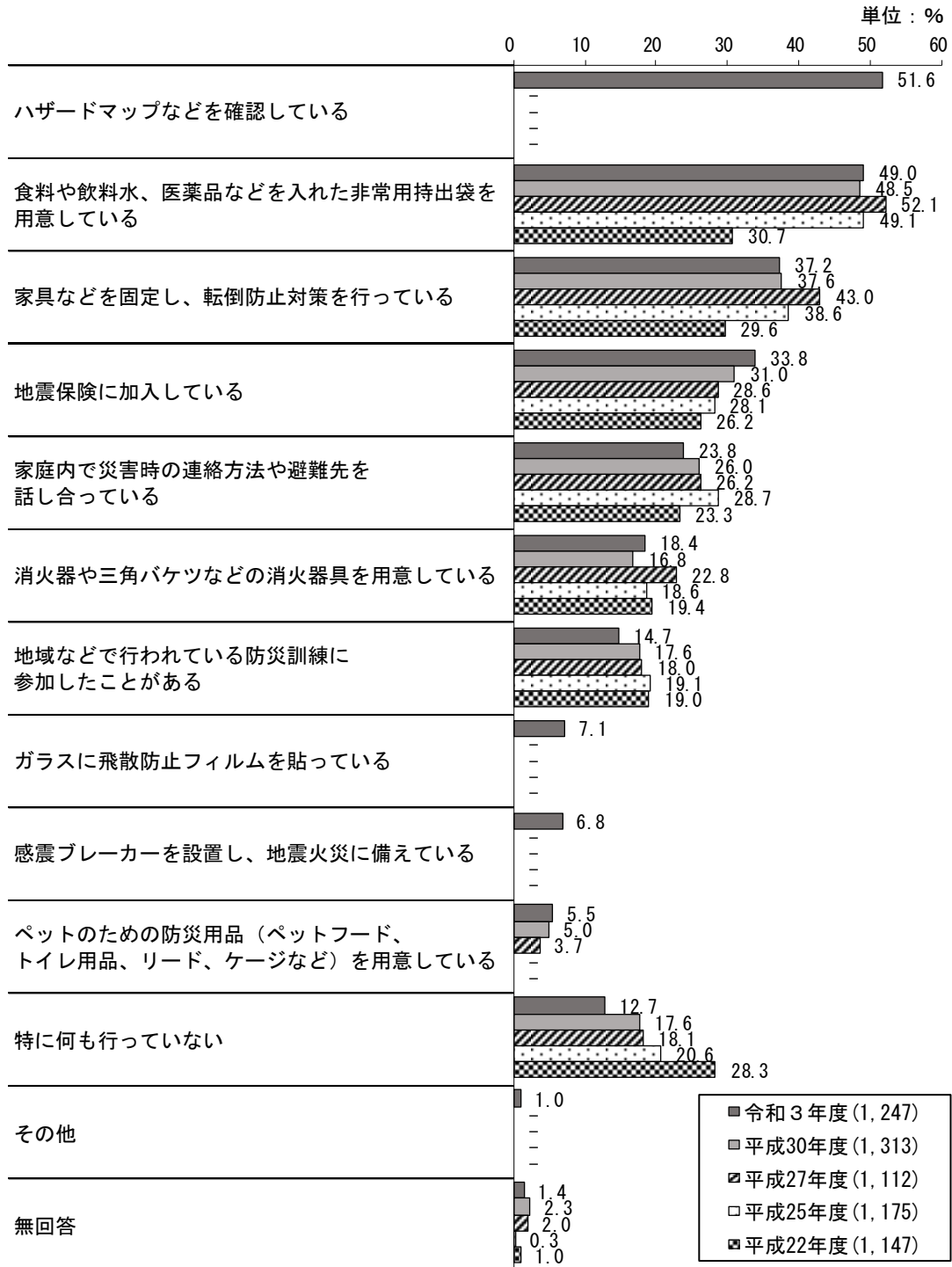
図表Ⅲ-20-1 日頃行っている防災対策や準備



日頃行っている防災対策や準備は、「ハザードマップなどを確認している」(51.6%)が5割強と最も高く、次いで「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(49.0%)、「家具などを固定し、転倒防止対策を行っている」(37.2%)と続いている。(図表Ⅲ-20-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-20-2 日頃行っている防災対策や準備（経年変化）



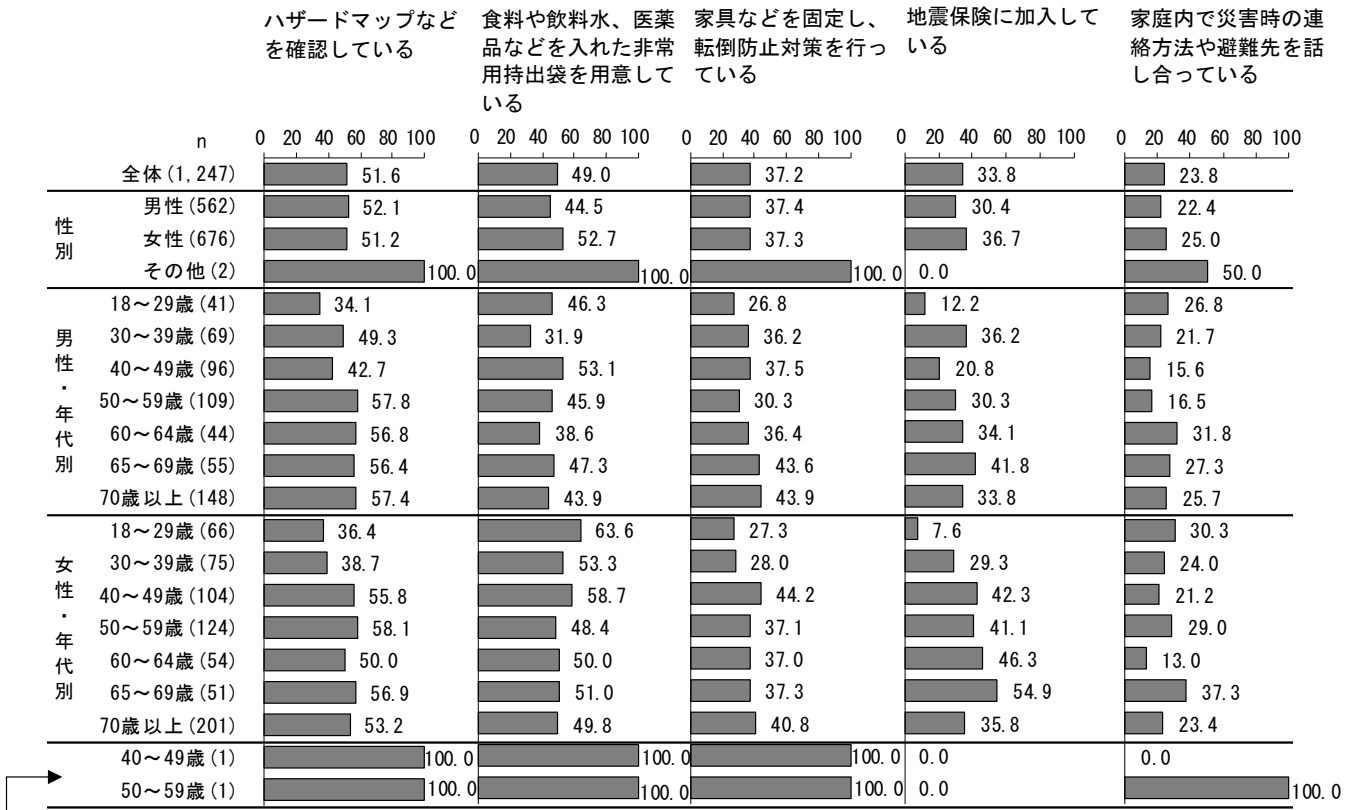
※ 令和3年度調査では、選択肢「ハザードマップなどを確認している」「ガラスに飛散防止フィルムを貼っている」「感震ブレーカーを設置し、地震火災に備えている」「その他」を新たに追加した。

「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」（49.0%）は、平成30年度調査（48.5%）より0.5ポイント増加している。また「地震保険に加入している」（33.8%）は、これまでの調査の中で最も高い割合となっている。（図表Ⅲ-20-2）

【性別／性・年代別】

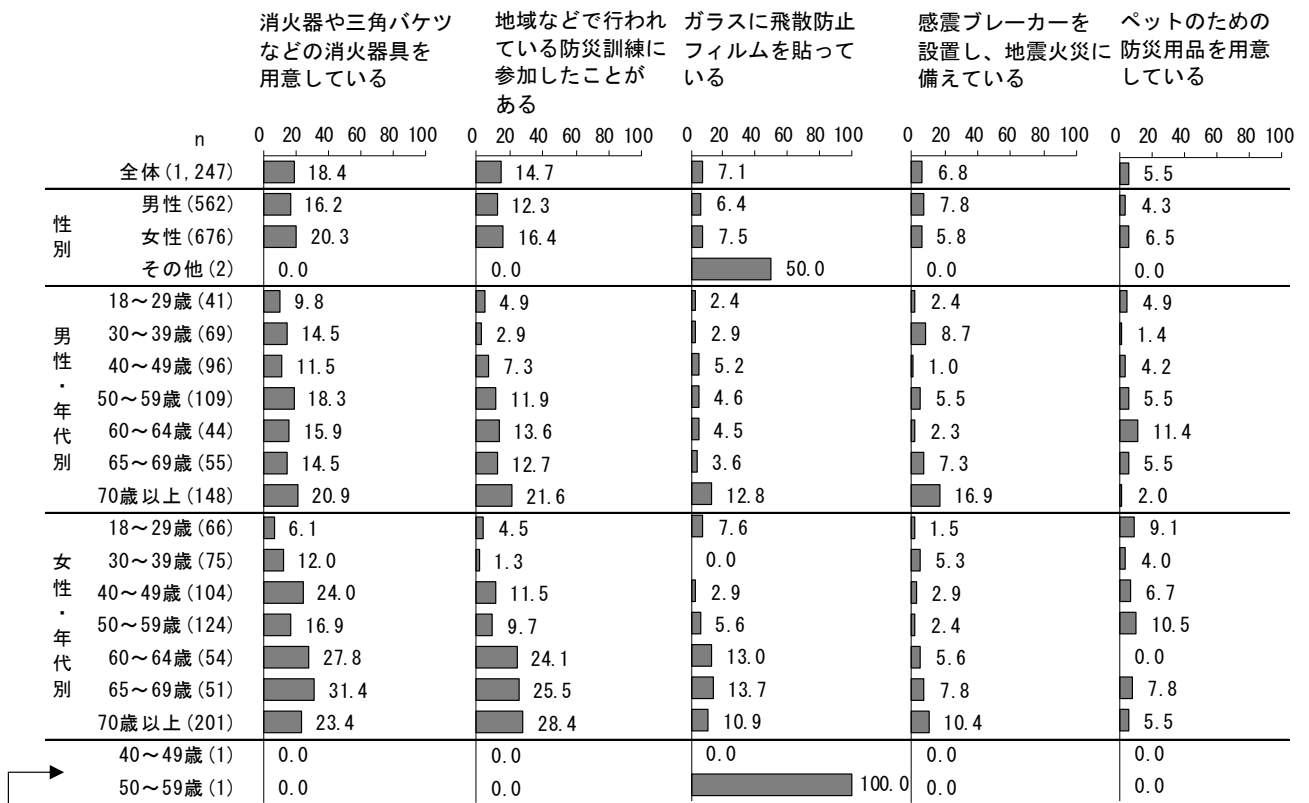
図表Ⅲ-20-3 日頃行っている防災対策や準備（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



その他・年代別

単位：％



その他・年代別

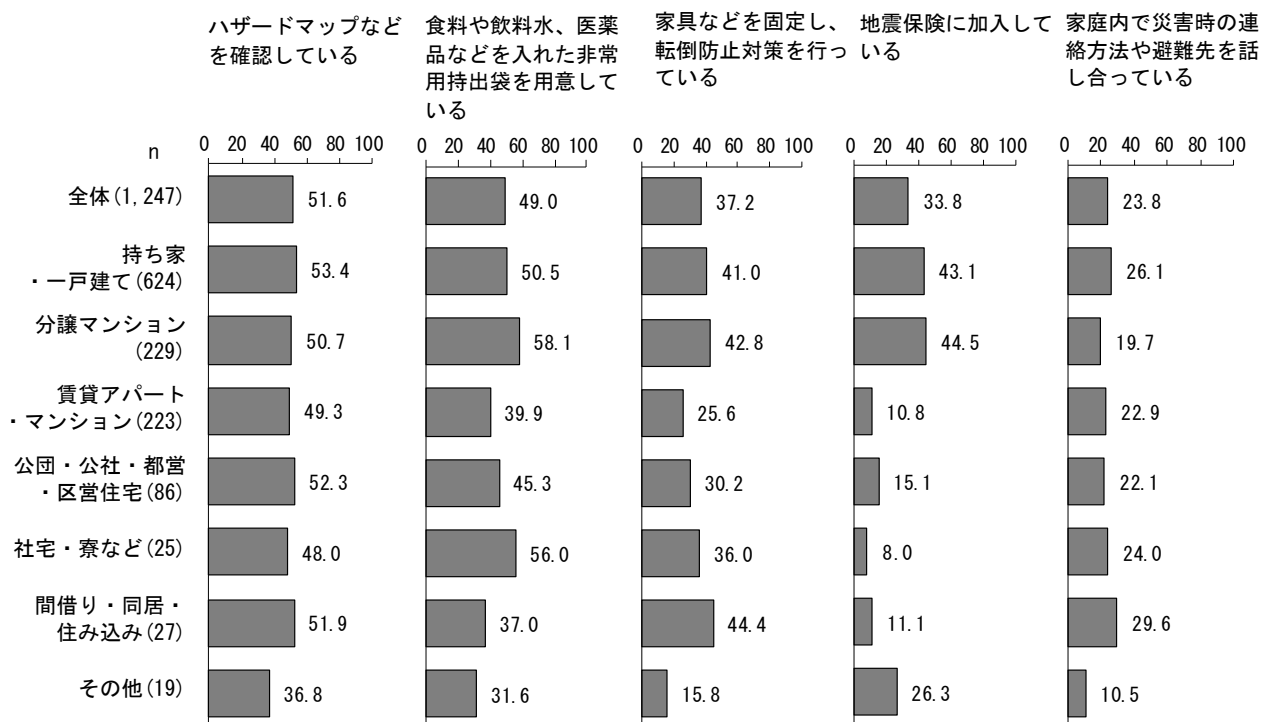
上位10項目について性別でみると、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「女性」(52.7%)が「男性」(44.5%)より8.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「ハザードマップなどを確認している」は、「女性50～59歳」(58.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-20-3)

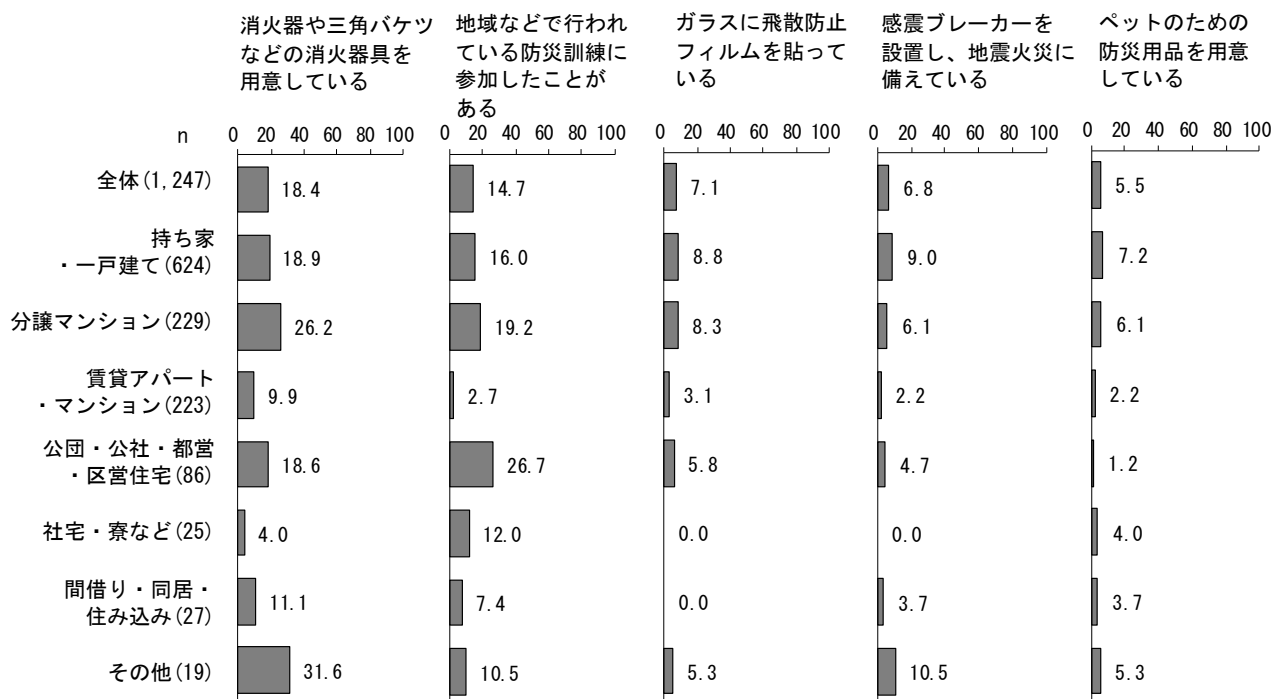
【住居形態別】

図表Ⅲ－20－4 日頃行っている防災対策や準備（上位10項目）（住居形態別）

単位：％



単位：％



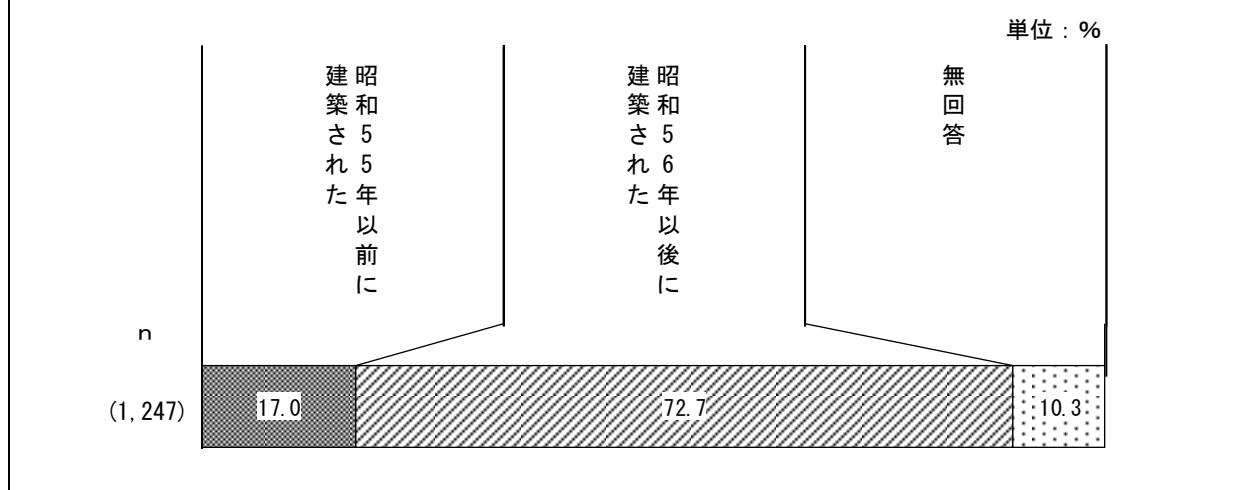
上位10項目について住居形態別で見ると、「ハザードマップなどを確認している」は、「持ち家・一戸建て」(53.4%)が最も高く、次いで「公団・公社・都営・区営住宅」(52.3%)、「間借り・同居・住み込み」(51.9%)と続いている。また、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」は、「分譲マンション」(58.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－20－4)

(2) 住居の建築年数

◆ 「昭和 56 年以後に建築された」が 7 割強

問 34 昭和 56 年 6 月に建築基準法の構造関係規定が改正されました。あなたのお住まいは、次のどちらにあてはまりますか。(○は 1 つ)

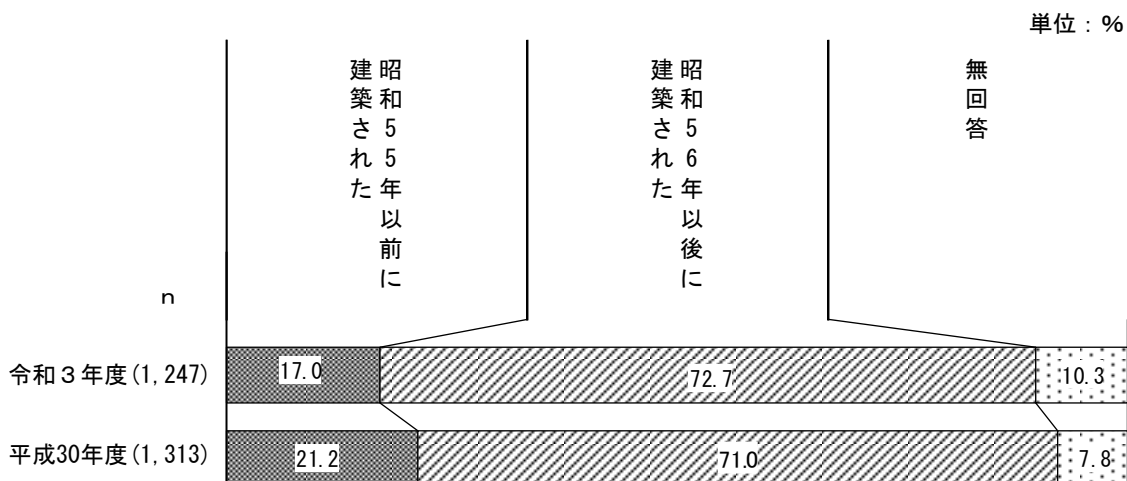
図表Ⅲ-20-5 住居の建築年数



住居の建築年数は、「昭和 56 年以後に建築された」(72.7%) が 7 割強、「昭和 55 年以前に建築された」(17.0%) は、2 割近くとなっている。(図表Ⅲ-20-5)

【経年変化】

図表Ⅲ-20-6 住居の建築年数 (経年変化)

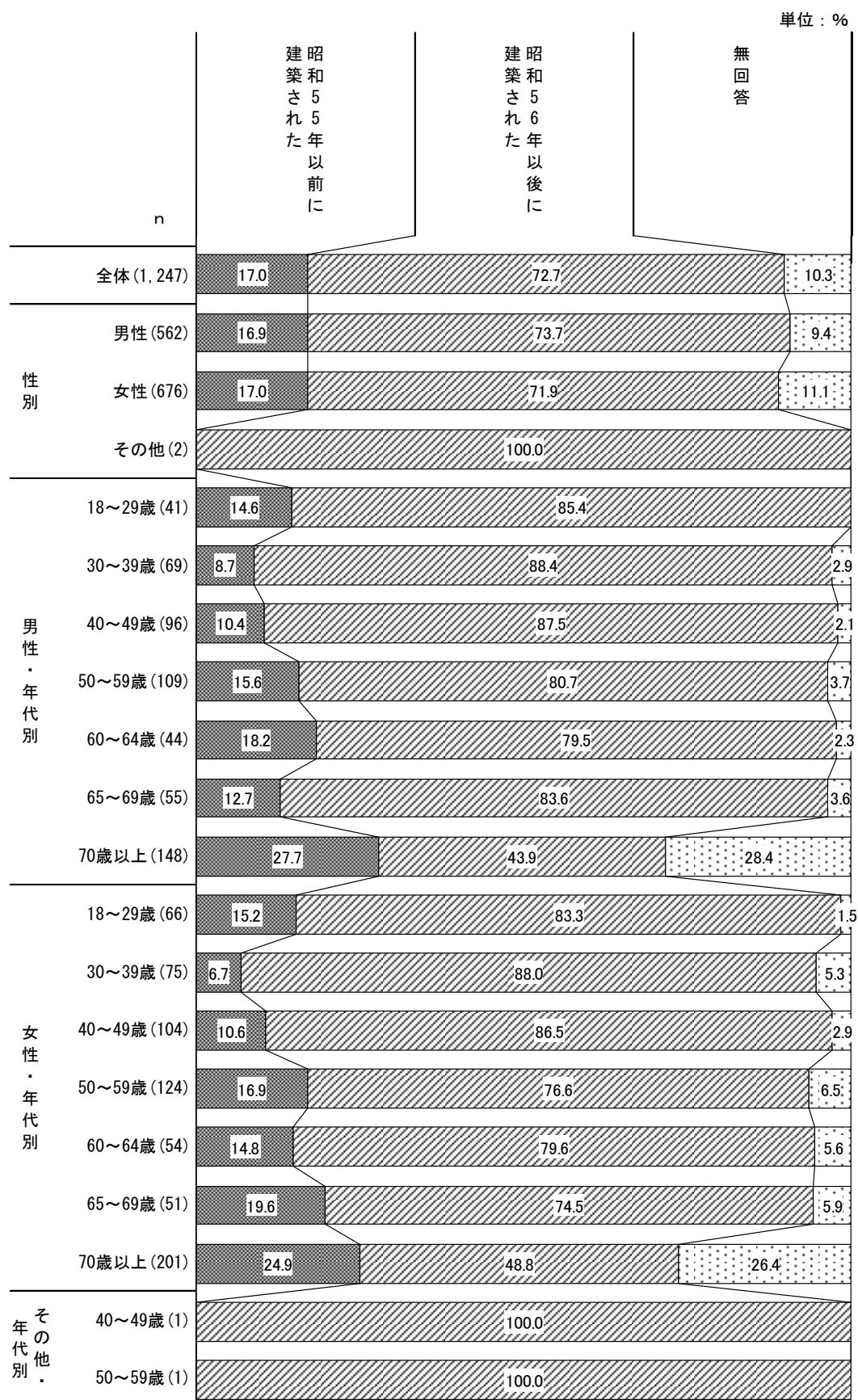


「昭和 55 年以前に建築された」(17.0%) は、平成 30 年度調査 (21.2%) より 4.2 ポイント減少している。

一方、「昭和 56 年以後に建築された」(72.7%) は、平成 30 年度調査 (71.0%) より 1.7 ポイント増加している。(図表Ⅲ-20-6)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-20-7 住居の建築年数（性別／性・年代別）

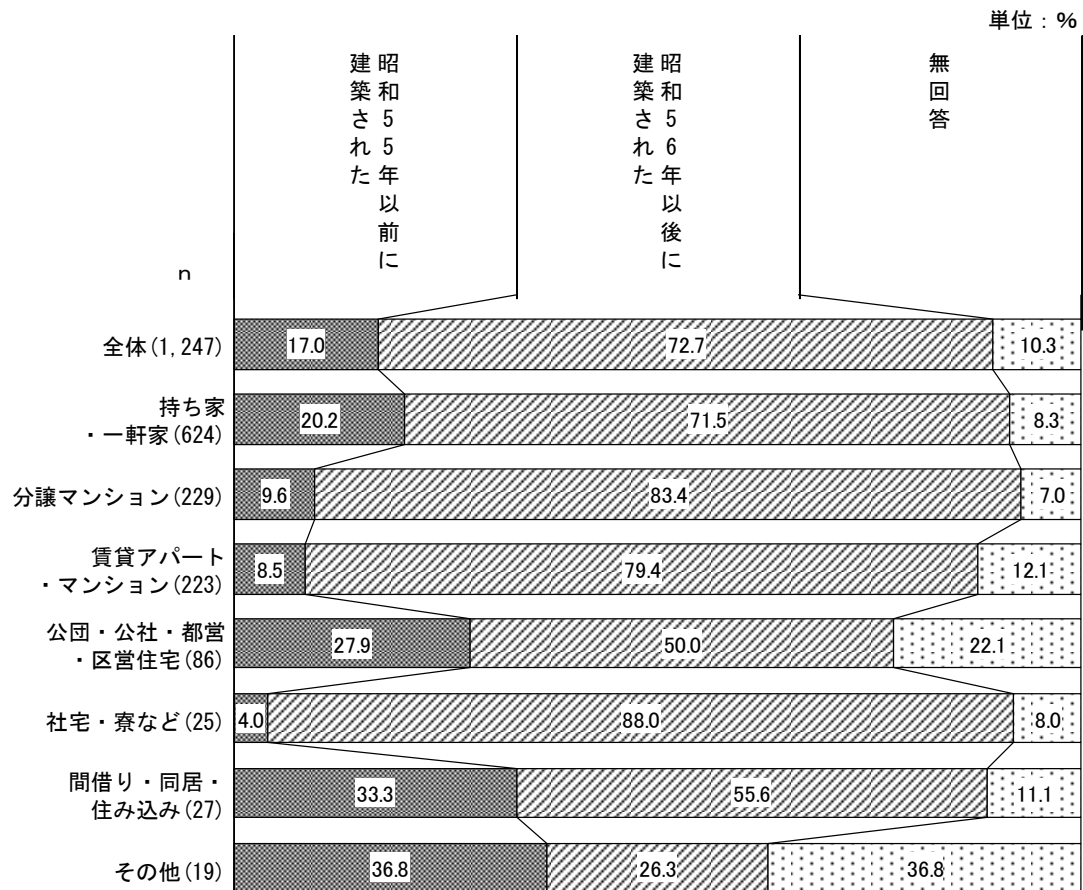


性別でみると、「昭和 55 年以前に建築された」は、「女性」（17.0%）が「男性」（16.9%）より 0.1 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「昭和 55 年以前に建築された」は、「男性 70 歳以上」（27.7%）が 3 割近くと最も高くなっている。（図表Ⅲ-20-7）

【住居形態別】

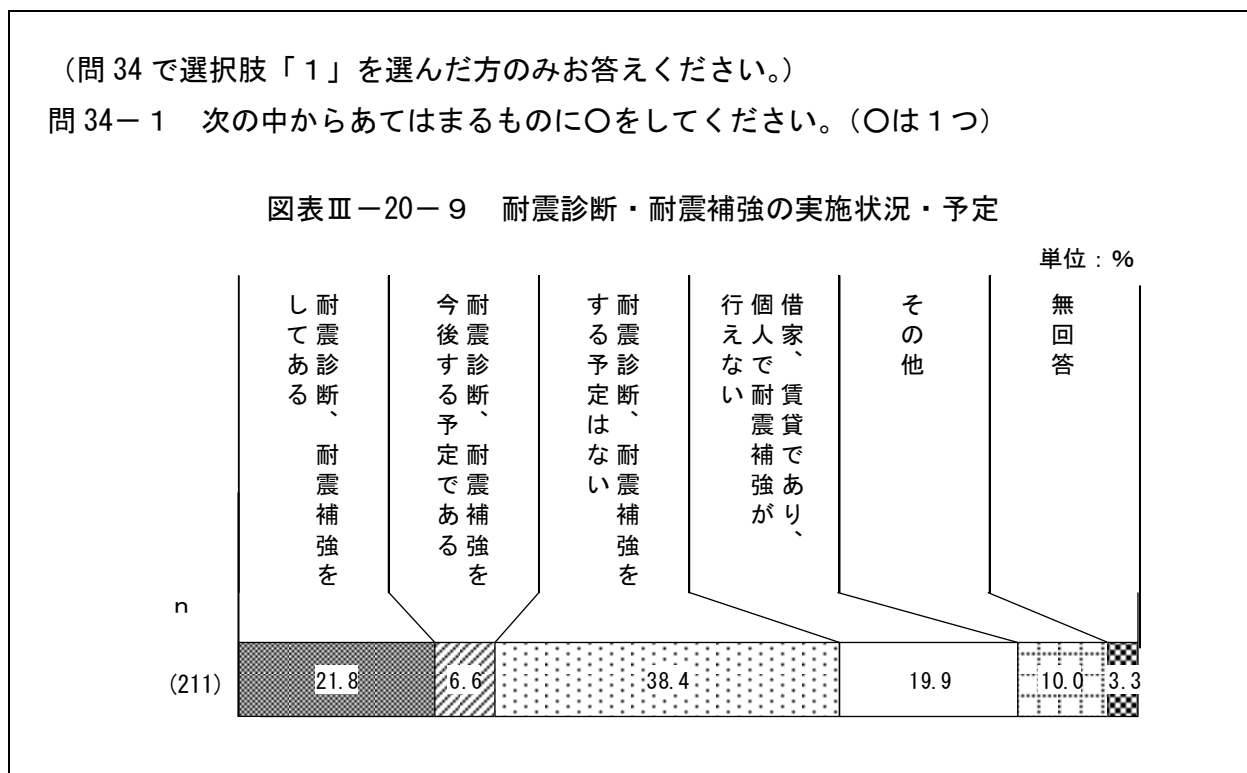
図表Ⅲ-20-8 住居の建築年数（住居形態別）



住居形態別で見ると、「昭和55年以前に建築された」は、「その他」(36.8%)が最も高く、次いで「間借り・同居・住み込み」(33.3%)、「公団・公社・都営・区営住宅」(27.9%)と続いている。また、「昭和56年以後に建築された」は、「社宅・寮など」(88.0%)が9割近くと最も高くなっている。(図表Ⅲ-20-8)

(2-1) 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定

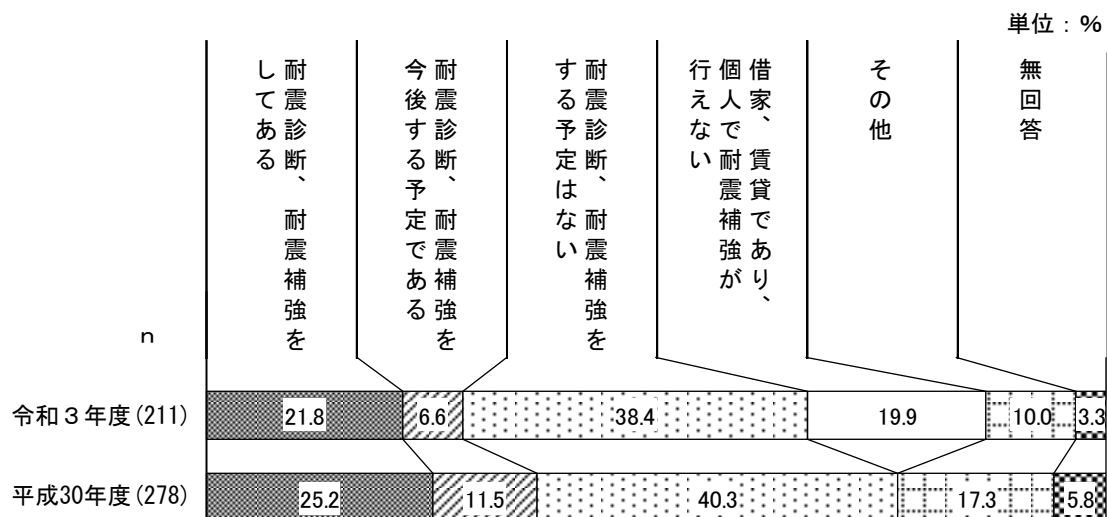
◆ 「耐震診断、耐震補強をする予定はない」が4割近く



耐震診断・耐震補強の実施状況・予定は、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(38.4%)が4割近くと最も高く、次いで「耐震診断、耐震補強をしてある」(21.8%)、「借家、賃貸であり、個人で耐震補強が行えない」(19.9%)と続いている。(図表Ⅲ-20-9)

【経年変化】

図表Ⅲ-20-10 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定(経年変化)

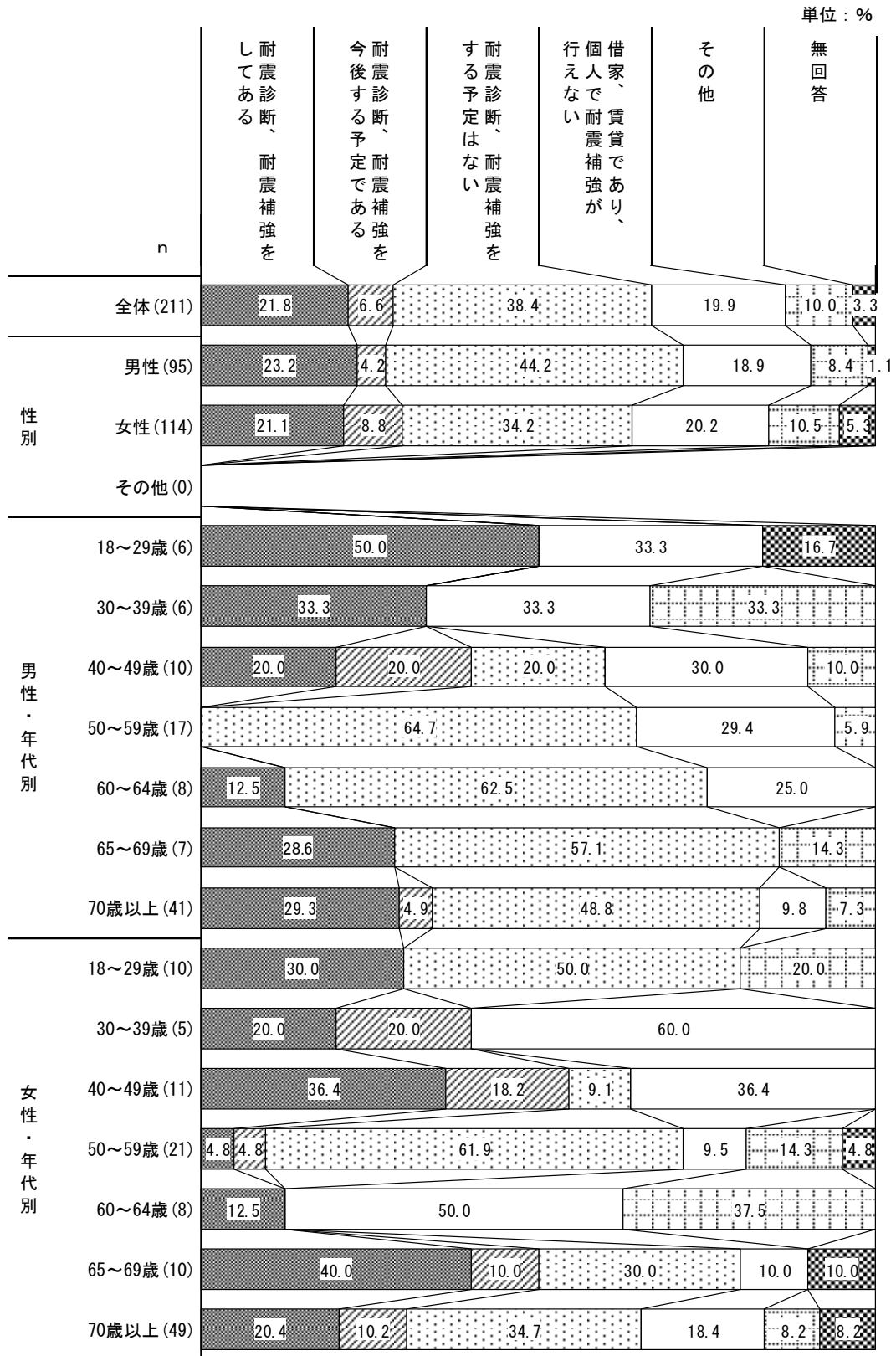


※ 令和3年度調査では、選択肢「借家、賃貸であり、個人で耐震補強が行えない」を新たに追加した。

「耐震診断、耐震補強をしてある」(21.8%)は、平成30年度調査(25.2%)より3.4ポイント、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」(38.4%)は、平成30年度調査(40.3%)より1.9ポイント減少している。(図表Ⅲ-20-10)

【性別／性・年代別】

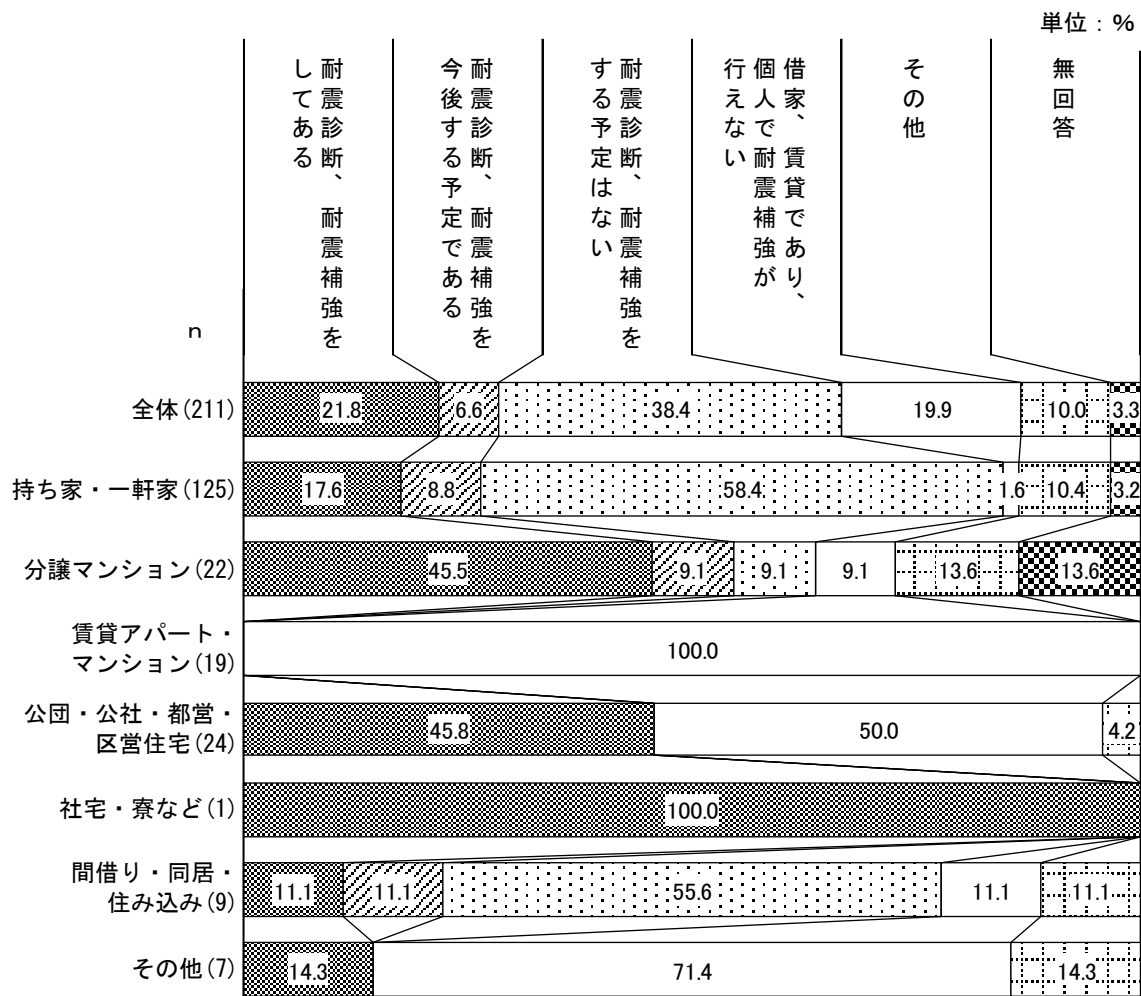
図表Ⅲ-20-11 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定（性別／性・年代別）



性別でみると、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」は、「男性」(44.2%)が「女性」(34.2%)より10.0ポイント高くなっている。(図表Ⅲ-20-11)

【住居形態別】

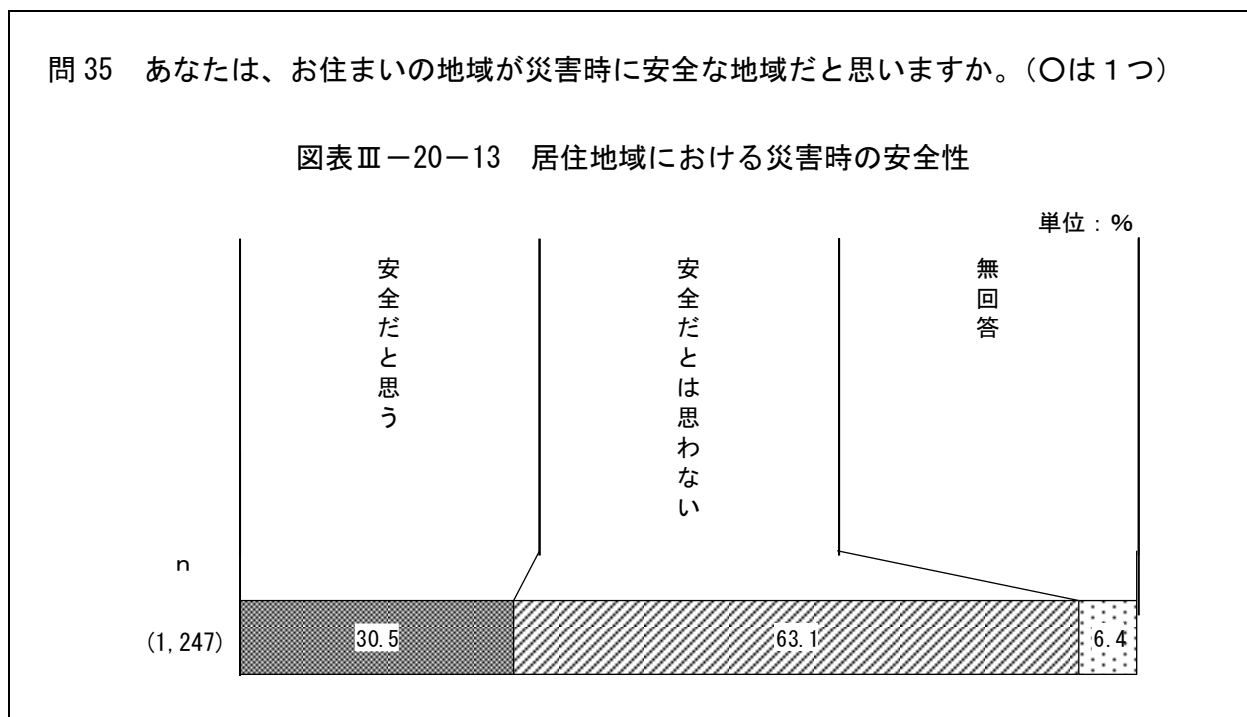
図表Ⅲ-20-12 耐震診断・耐震補強の実施状況・予定（住居形態別）



住居形態別で見ると、「耐震診断、耐震補強をしてある」は「公団・公社・都営・区営住宅」(45.8%)が最も高く、次いで、「分譲マンション」(45.5%)、「持ち家・一戸建て」(17.6%)と続いている。一方、「耐震診断、耐震補強をする予定はない」は、「持ち家・一戸建て」(58.4%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-20-12)

(3) 居住地域における災害時の安全性

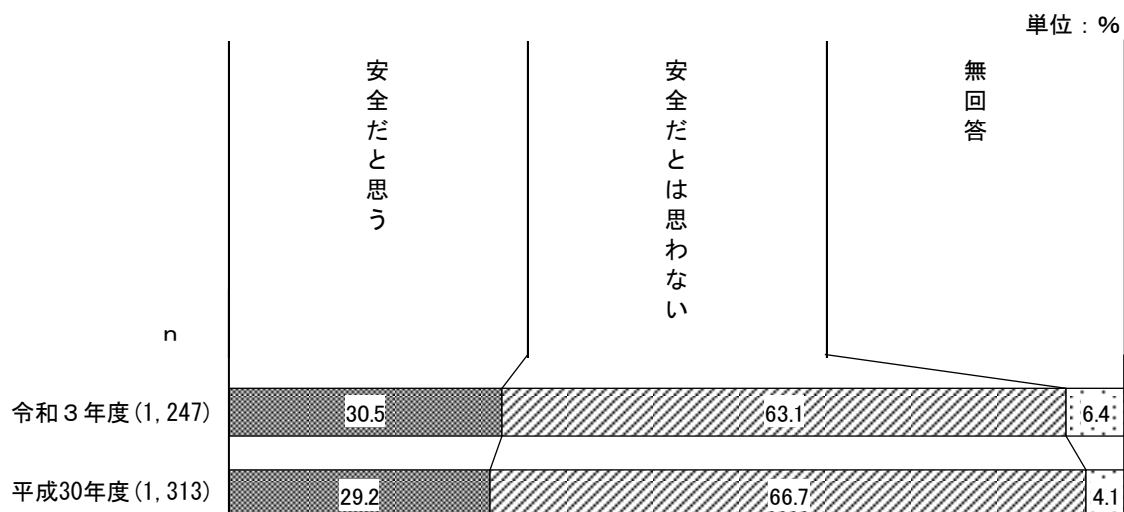
◆ 「安全だとは思わない」が6割強



居住地域における災害時の安全性は、「安全だとは思わない」(63.1%)が6割強となっており、「安全だと思う」(30.5%)が約3割となっている。(図表Ⅲ-20-13)

【経年変化】

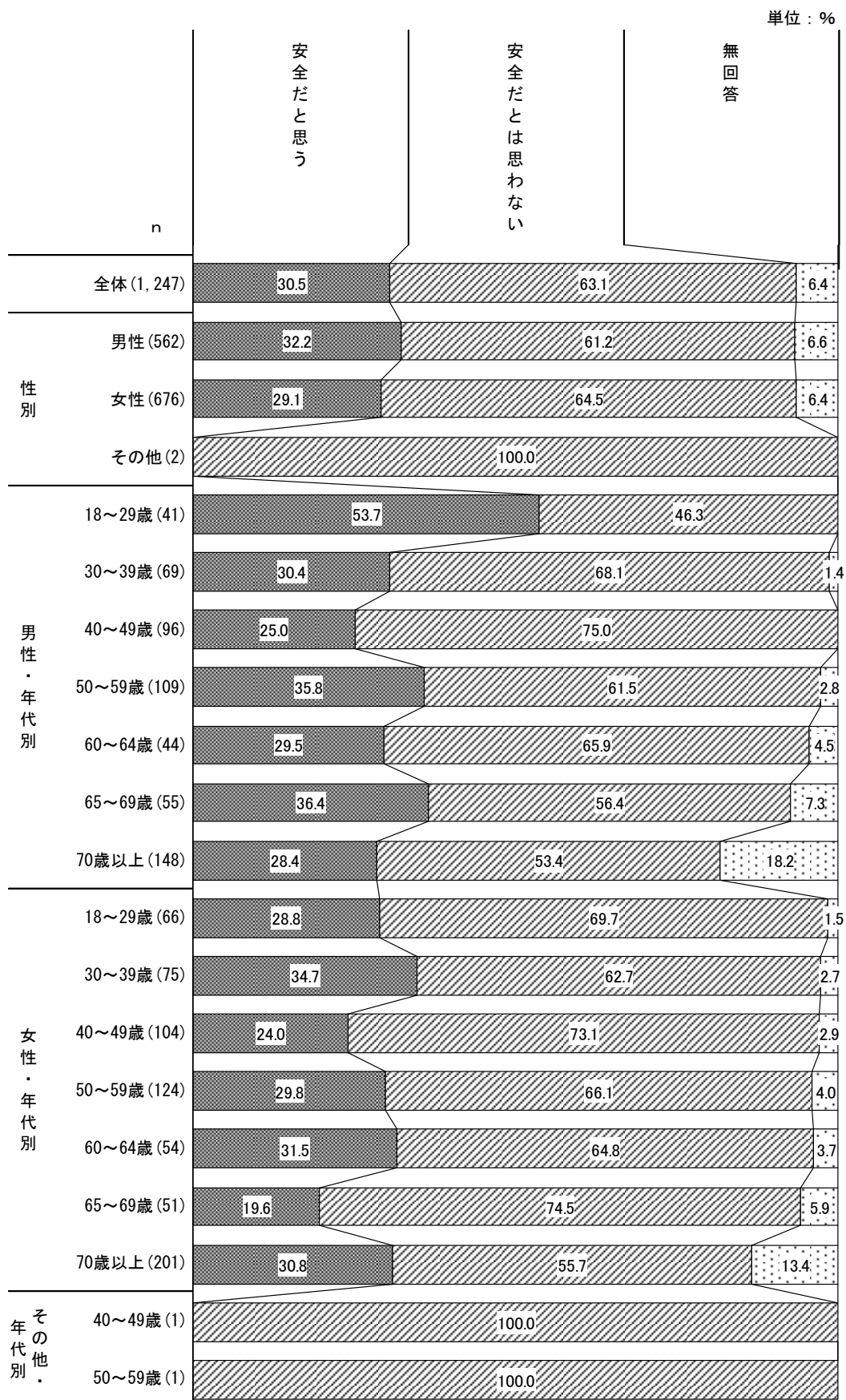
図表Ⅲ-20-14 居住地域における災害時の安全性(経年変化)



「安全だと思う」(30.5%)は、平成30年度調査(29.2%)より1.3ポイント増加している。一方、「安全だとは思わない」(63.1%)は、平成30年度調査(66.7%)より3.6ポイント減少している。(図表Ⅲ-20-14)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ－20－15 居住地域における災害時の安全性（性別／性・年代別）

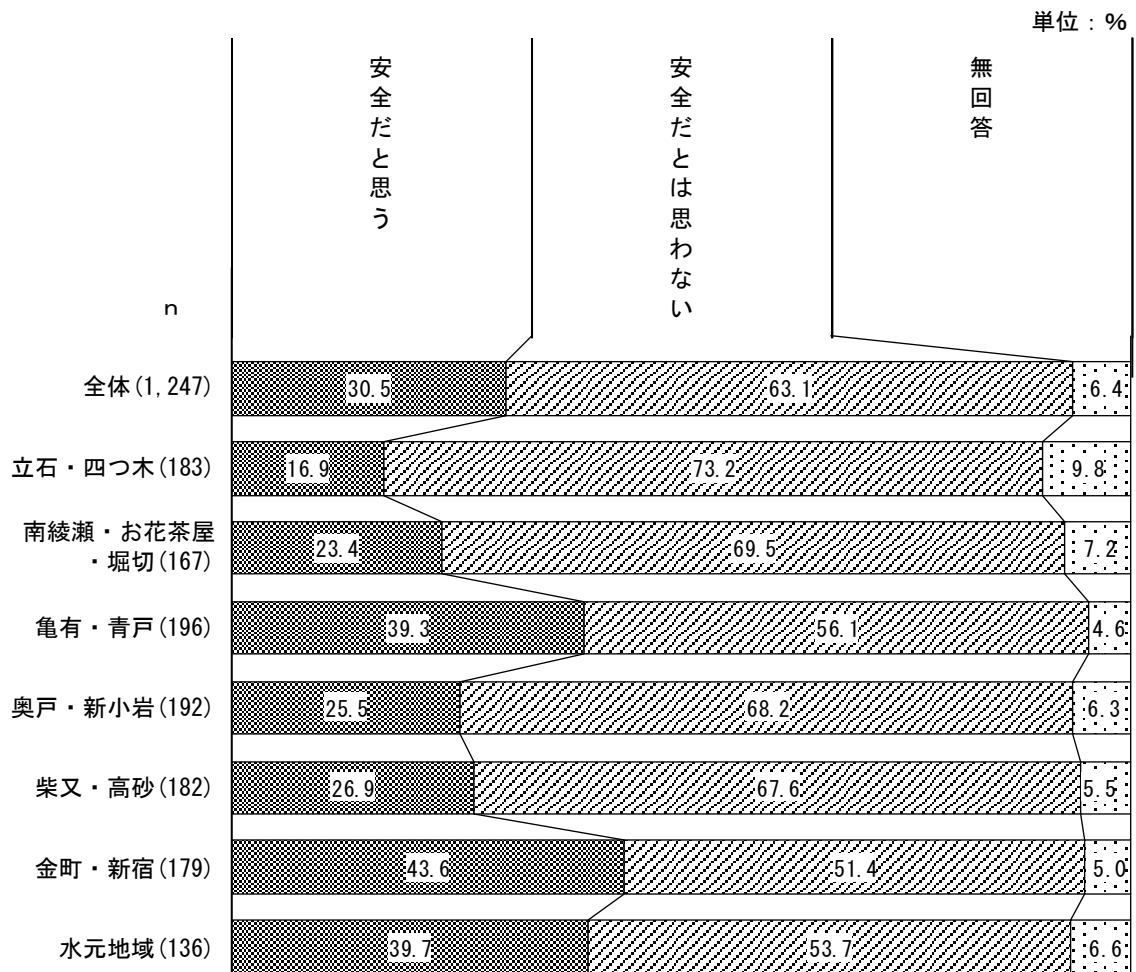


性別でみると、「安全だとは思わない」は、「女性」(64.5%)が「男性」(61.2%)より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「安全だと思う」は、「男性18～29歳」(53.7%)が最も高くなっている。一方、「安全だとは思わない」は、「男性40～49歳」(75.0%)最も高くなっている。(図表Ⅲ－20－15)

【居住地域別】

図表Ⅲ－20－16 居住地域における災害時の安全性（居住地域別）



居住地域別で見ると、「安全だと思う」は「金町・新宿」（43.6%）が最も高く、次いで「水元地域」（39.7%）、「亀有・青戸」（39.3%）と続いている。

一方、「安全だとは思わない」は、「立石・四つ木」（73.2%）が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（69.5%）、「奥戸・新小岩」（68.2%）と続いている。（図表Ⅲ－20－16）

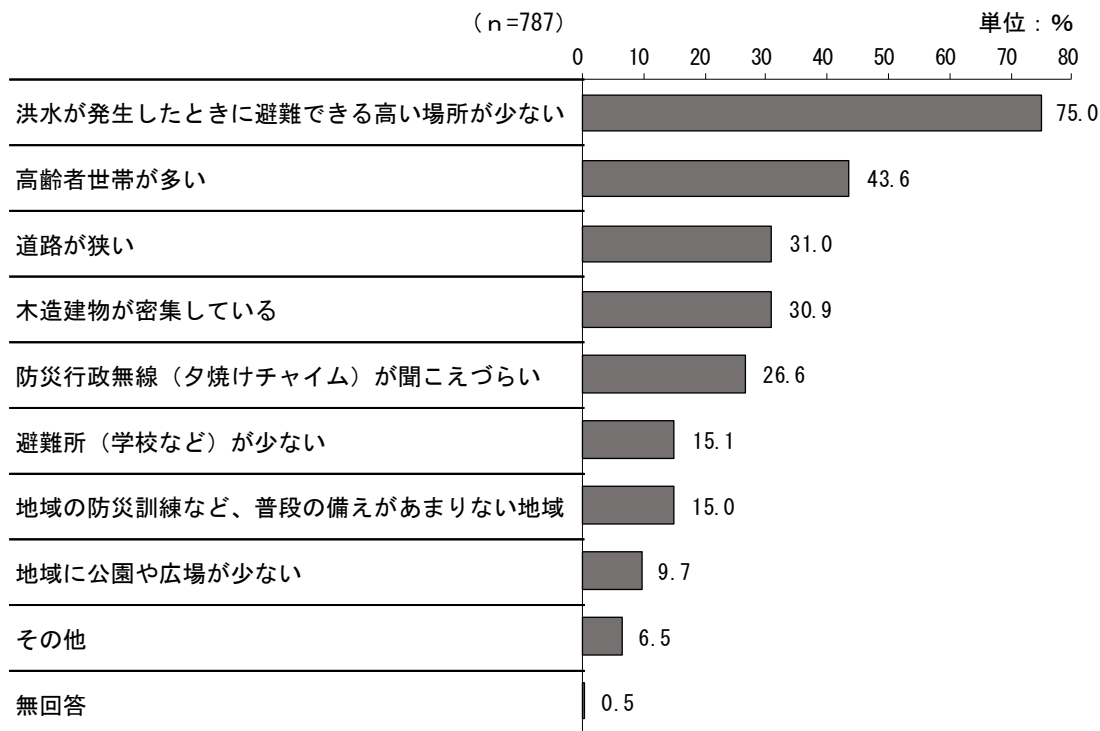
(3-1) 居住地域が災害時に安全でないと思う理由

◆ 「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」が7割台半ば

(問35で選択肢「2」を選んだ方のみお答えください。)

問35-1 安全でないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

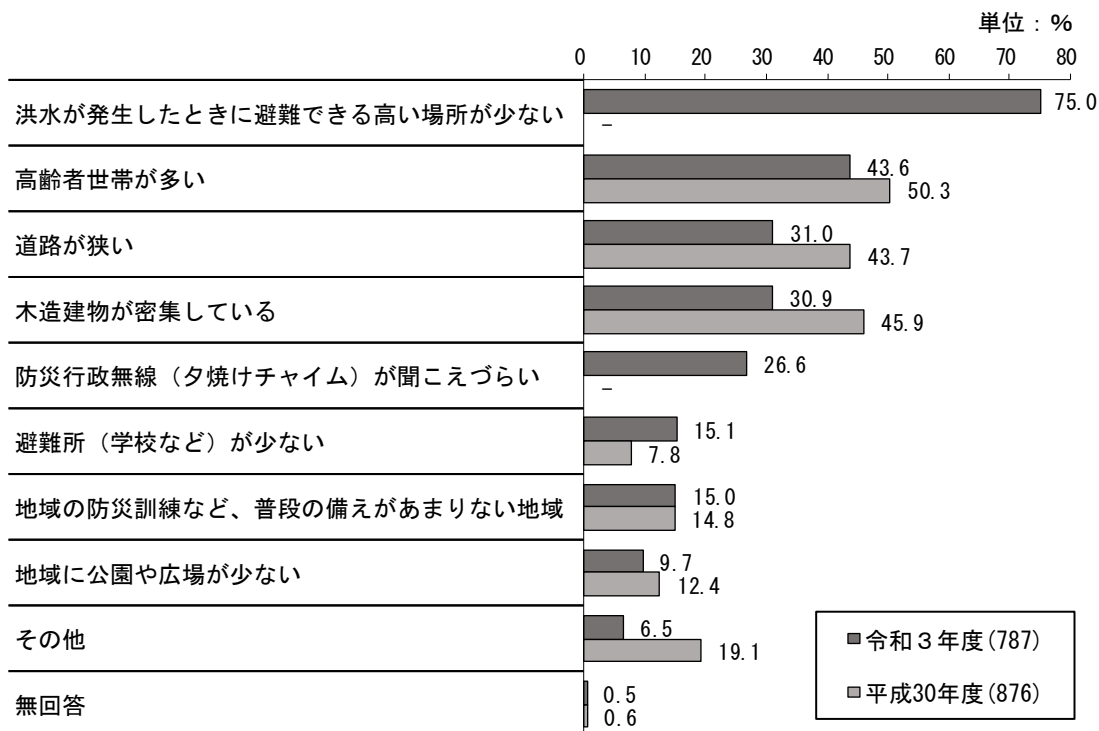
図表Ⅲ-20-17 居住地域が災害時に安全でないと思う理由



居住地域が災害時に安全でないと思う理由は、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」(75.0%)が7割台半ばと最も高く、次いで「高齢者世帯が多い」(43.6%)、「道路が狭い」(31.0%)と続いている。(図表Ⅲ-20-17)

【経年変化】

図表Ⅲ－20－18 居住地域が災害時に安全でないと思う理由（経年変化）



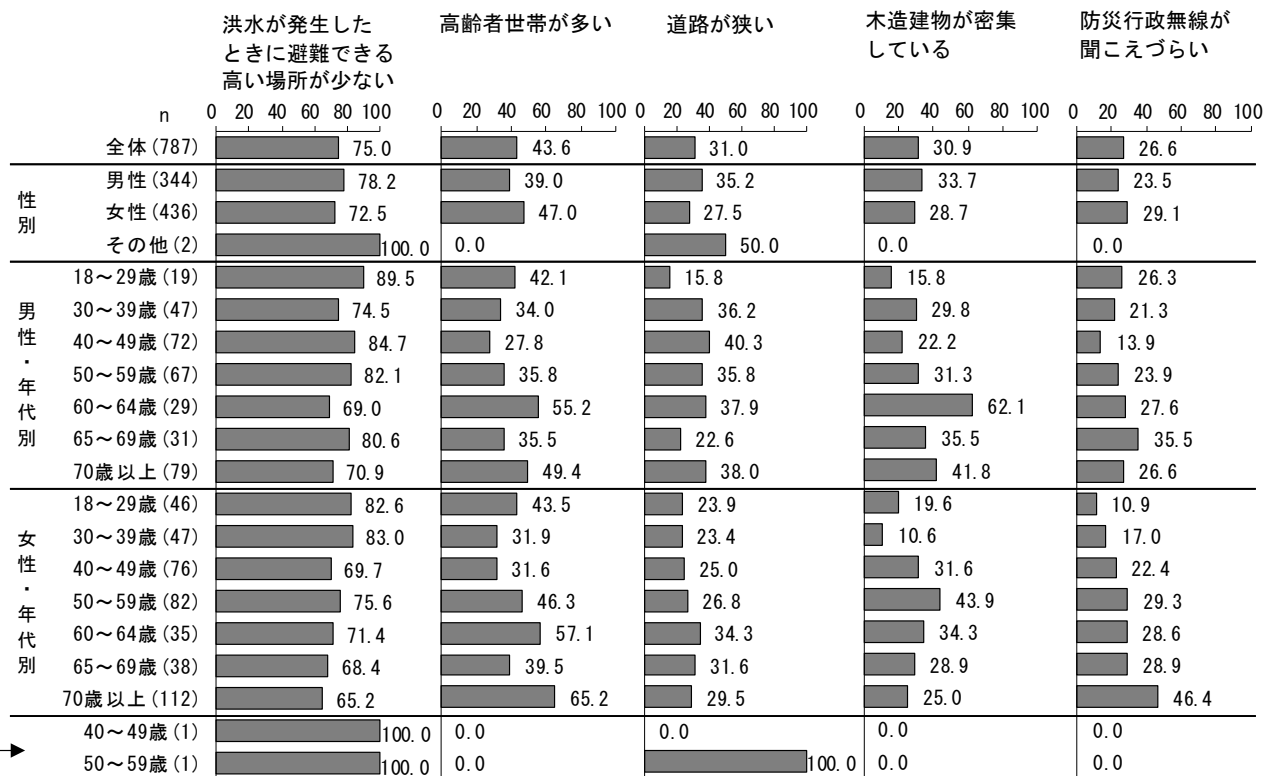
※ 令和3年度調査では、選択肢「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」「防災行政無線（夕焼けチャイム）が聞こえづらい」を新たに追加した。

「高齢者世帯が多い」（43.6％）は、平成30年度調査（50.3％）より6.7ポイント、「道路が狭い」（31.0％）は、平成30年度調査（43.7％）より12.7ポイント、「木造建物が密集している」（30.9％）は、平成30年度調査（45.9％）より15.0ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅲ－20－18）

【性別／性・年代別】

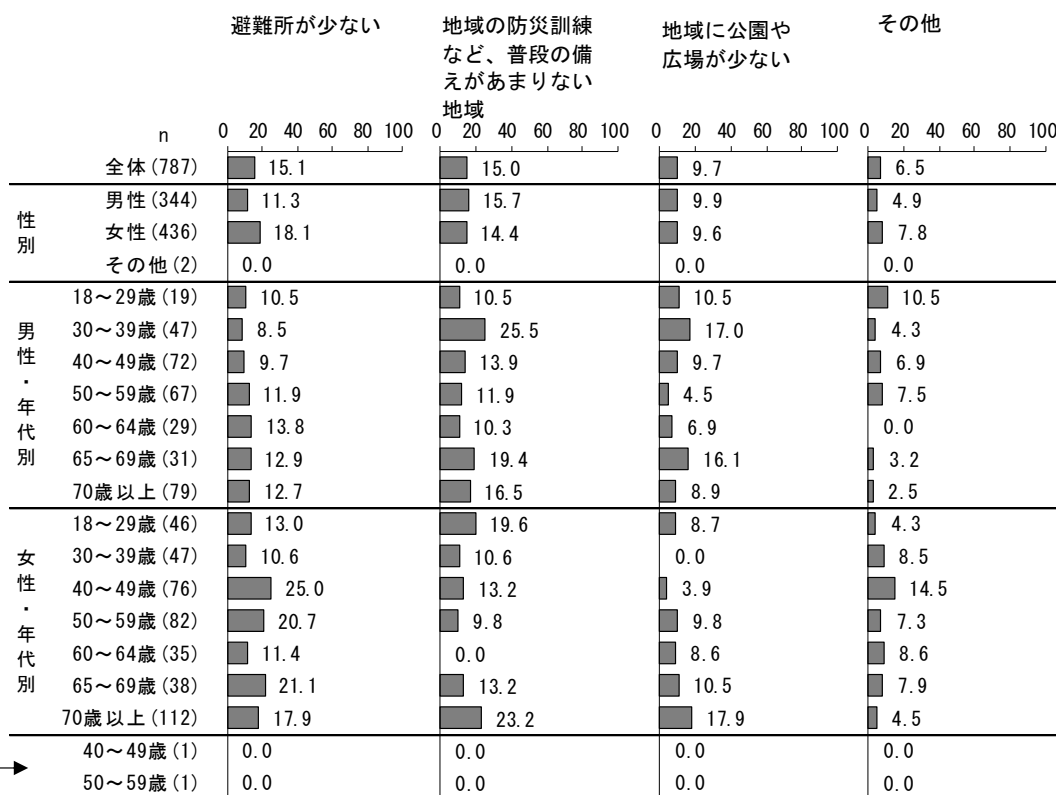
図表Ⅲ－20－19 居住地域が災害時に安全でないと思う理由（性別／性・年代別）

単位：％



その他・年代別

単位：％



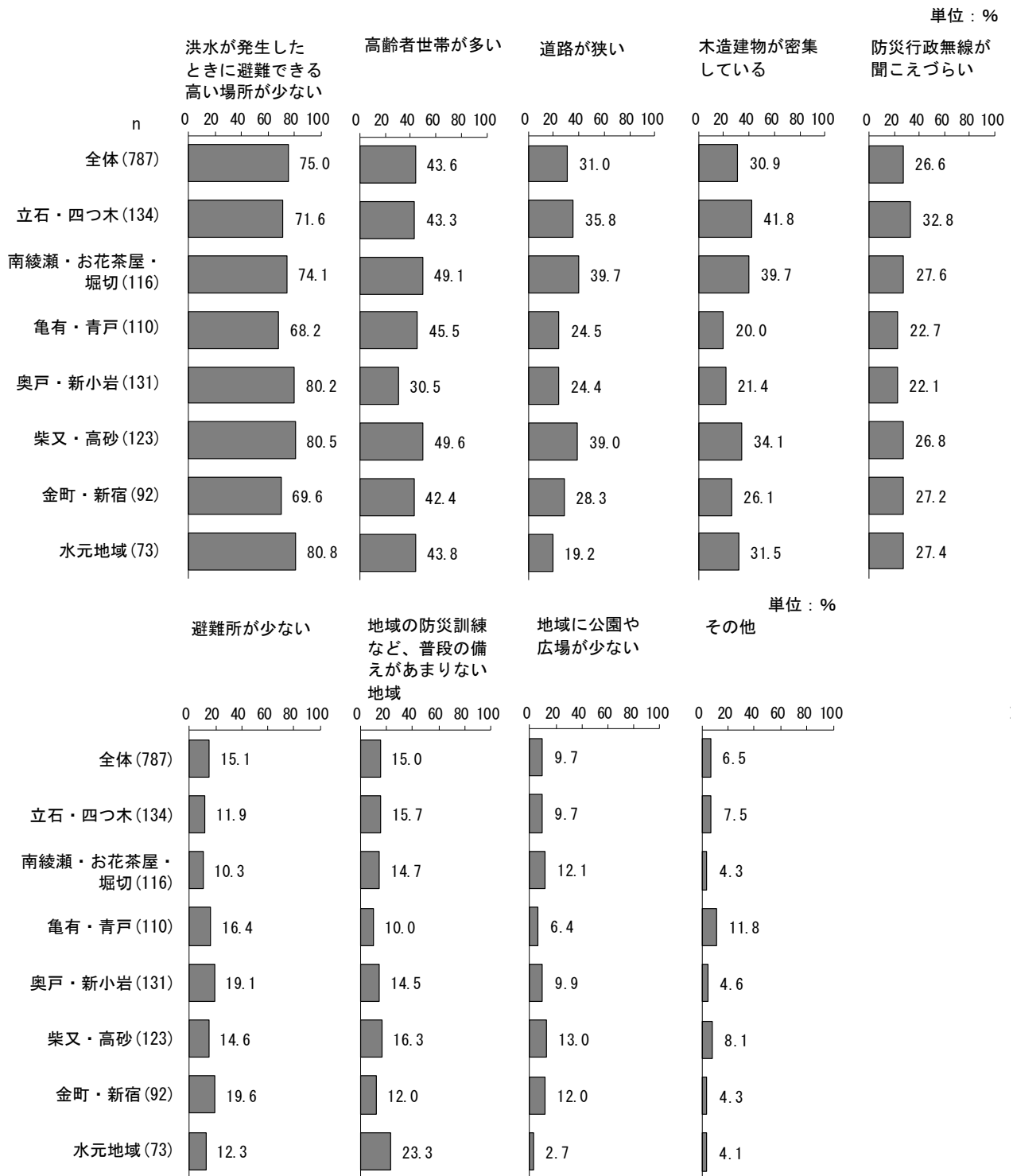
その他・年代別

性別でみると、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」は、「男性」(78.2%)が「女性」(72.5%)より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者世帯が多い」は、「女性70歳以上」(65.2%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ－20－19)

【居住地域別】

図表Ⅲ－20－20 居住地域が災害時に安全でないと思う理由（居住地域別）



居住地域別でみると、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」は、「水元地域」（80.8%）が最も高く、次いで「柴又・高砂」（80.5%）、「奥戸・新小岩」（80.2%）と続いている。また、「高齢者世帯が多い」は、「柴又・高砂」（49.6%）が最も高く、次いで「南綾瀬・お花茶屋・堀切」（49.1%）と続いている。（図表Ⅲ－20－20）

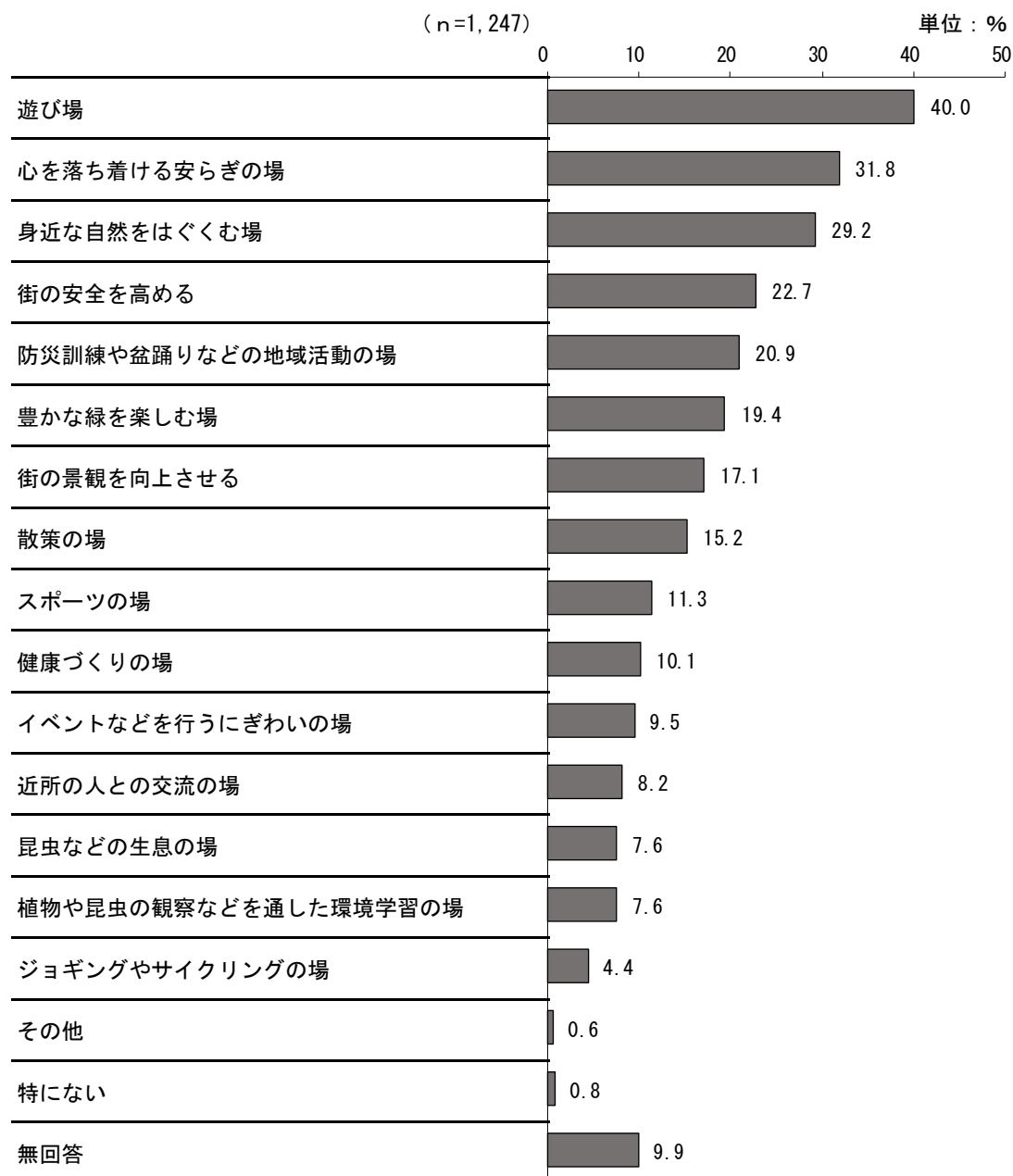
21. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること

◆ 「遊び場」が4割

問 36 【公園】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか。(番号は3つ)

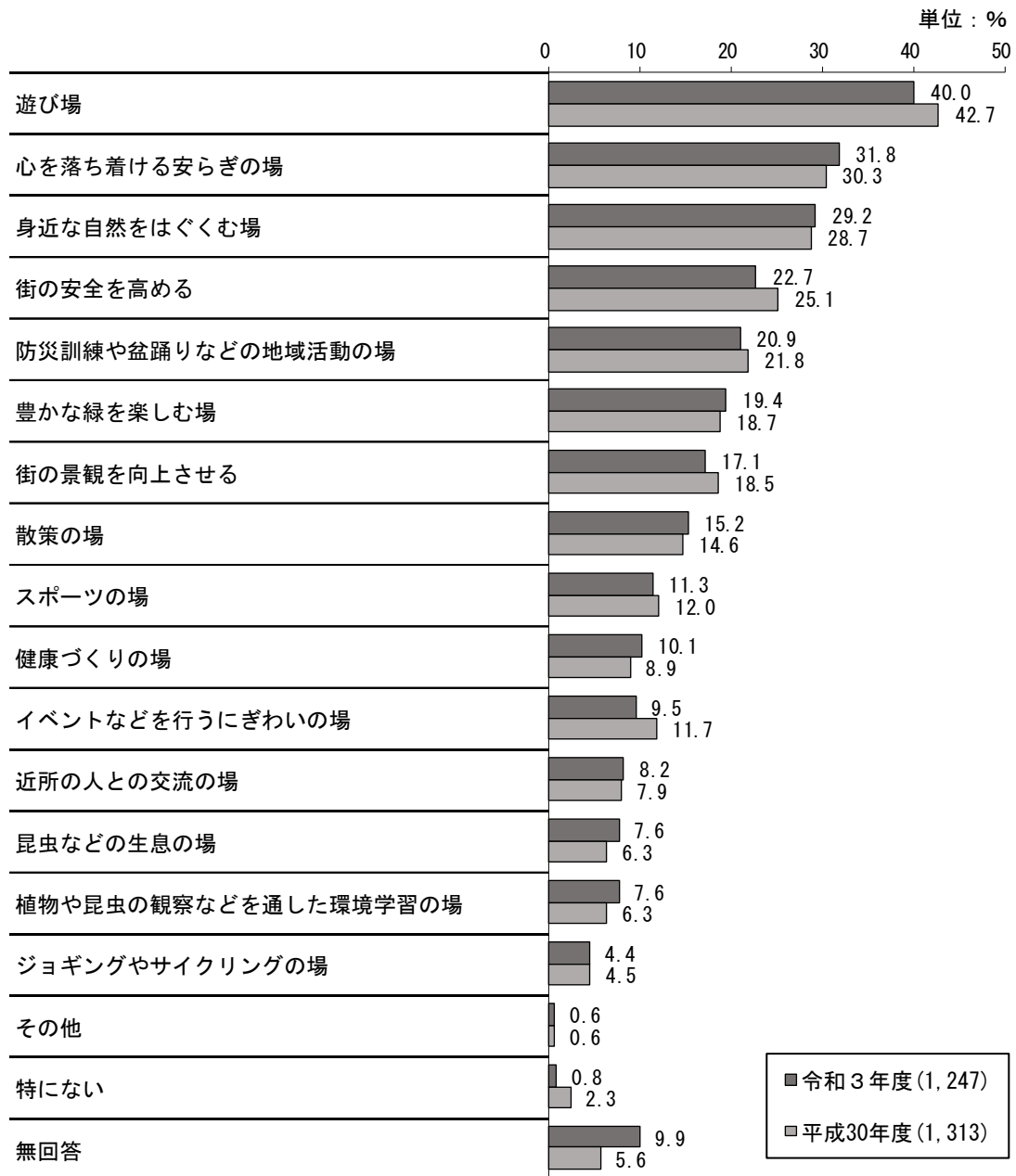
図表Ⅲ-21-1 公園に期待すること



公園に期待することは、「遊び場」(40.0%)が4割と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」(31.8%)、「身近な自然をはぐくむ場」(29.2%)と続いている。(図表Ⅲ-21-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－21－2 公園に期待すること（経年変化）

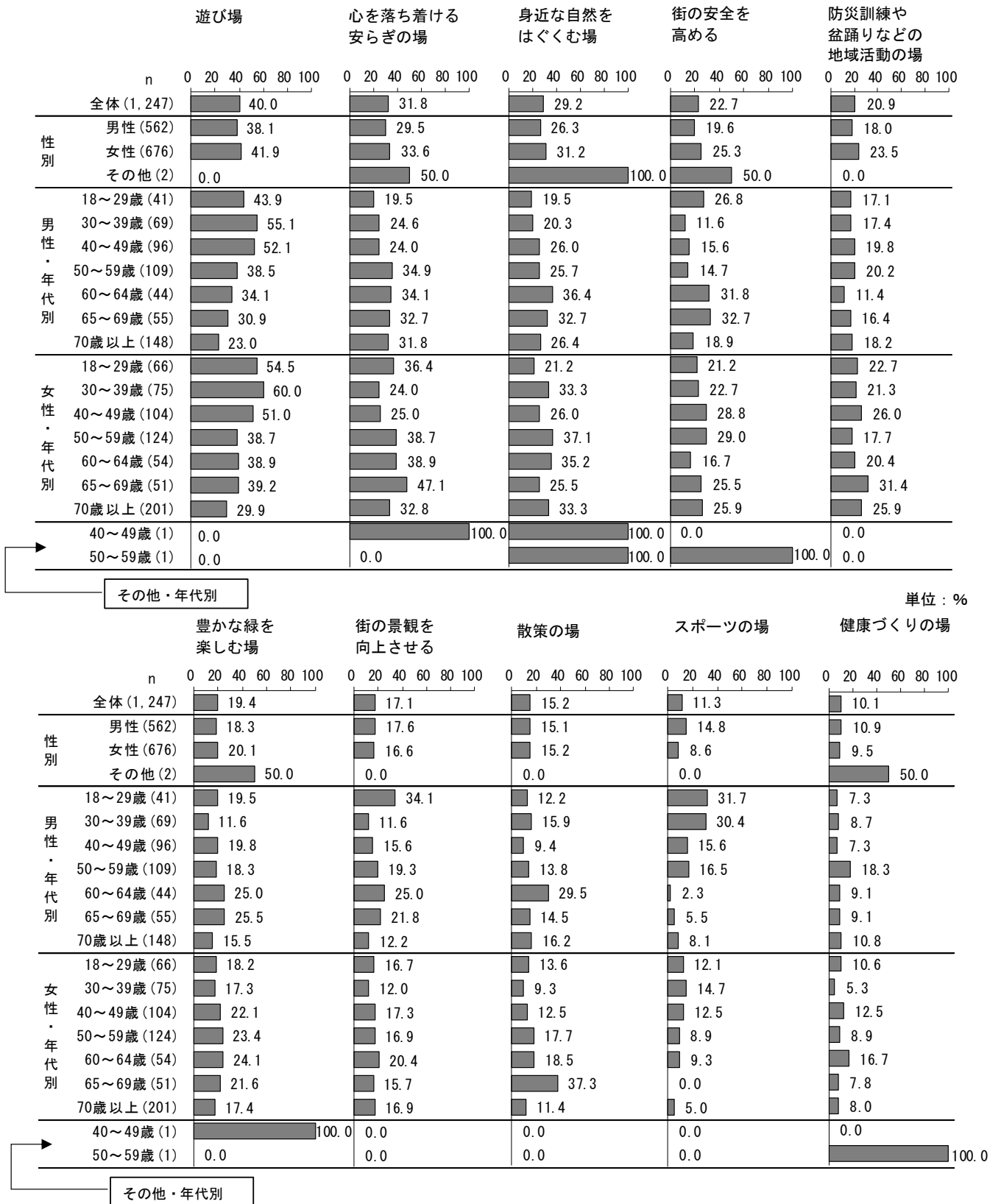


「遊び場」(40.0%)は、平成30年度調査(42.7%)より2.7ポイント、「街の安全を高める」(22.7%)は、平成30年度調査(25.1%)より2.4ポイント、それぞれ減少している。一方、「心を落ち着ける安らぎの場」(31.8%)は、平成30年度調査(30.3%)より1.5ポイント、「身近な自然をはぐくむ場」(29.2%)は、平成30年度調査(28.7%)より0.5ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅲ－21－2)

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-21-3 公園に期待すること（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



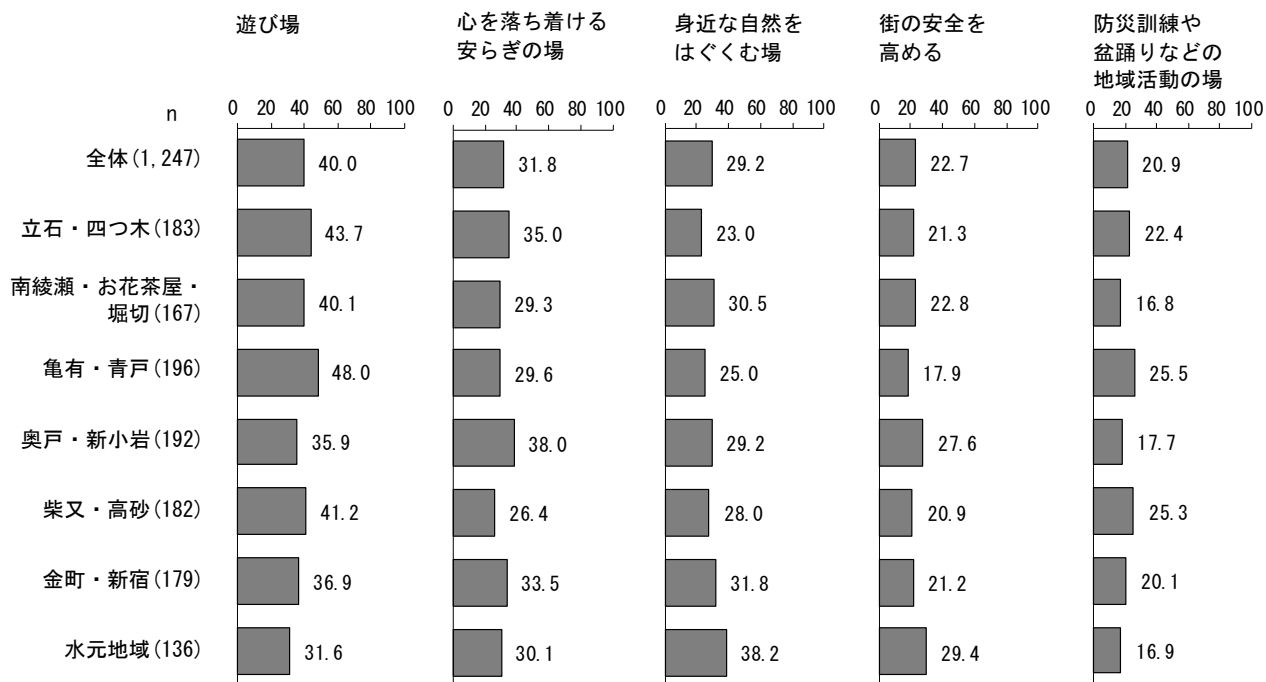
上位10項目について性別でみると、「遊び場」は、「女性」(41.9%)が「男性」(38.1%)より3.8ポイント高くなっている。また「心を落ち着ける安らぎの場」は、「女性」(33.6%)が「男性」(29.5%)より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「遊び場」は、「女性30～39歳」(60.0%)が6割と最も高くなっている。また、「心を落ち着ける安らぎの場」は、「女性65～69歳」(47.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-21-3)

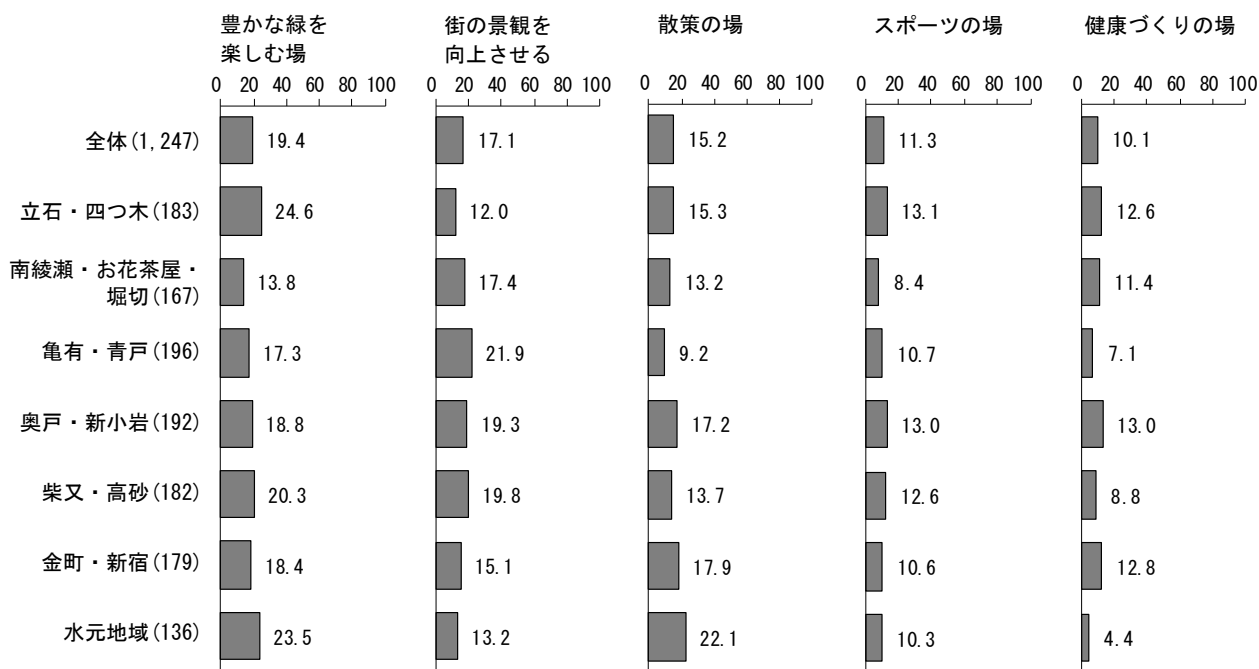
【居住地域別】

図表Ⅲ-21-4 公園に期待すること（上位10項目）（居住地域別）

単位：%



単位：%



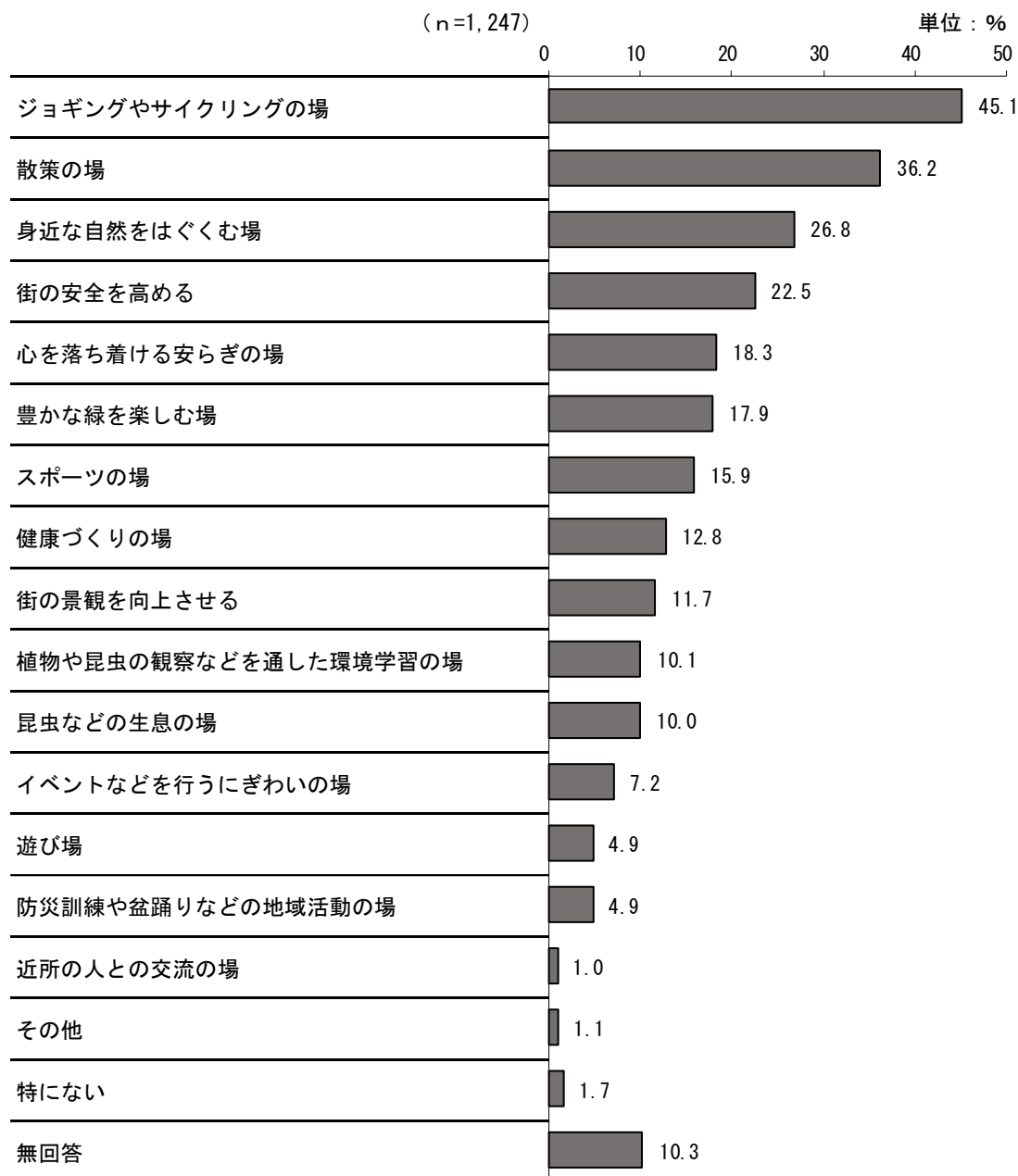
上位10項目について居住地域別でみると、「遊び場」は「亀有・青戸」(48.0%)が最も高く、次いで「立石・四つ木」(43.7%)、「柴又・高砂」(41.2%)と続いている。また、「心を落ち着ける安らぎの場」は、「奥戸・新小岩」(38.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-21-4)

(2) 河川敷に期待すること

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割台半ば

問 36 【河川敷】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか。
(番号は3つ)

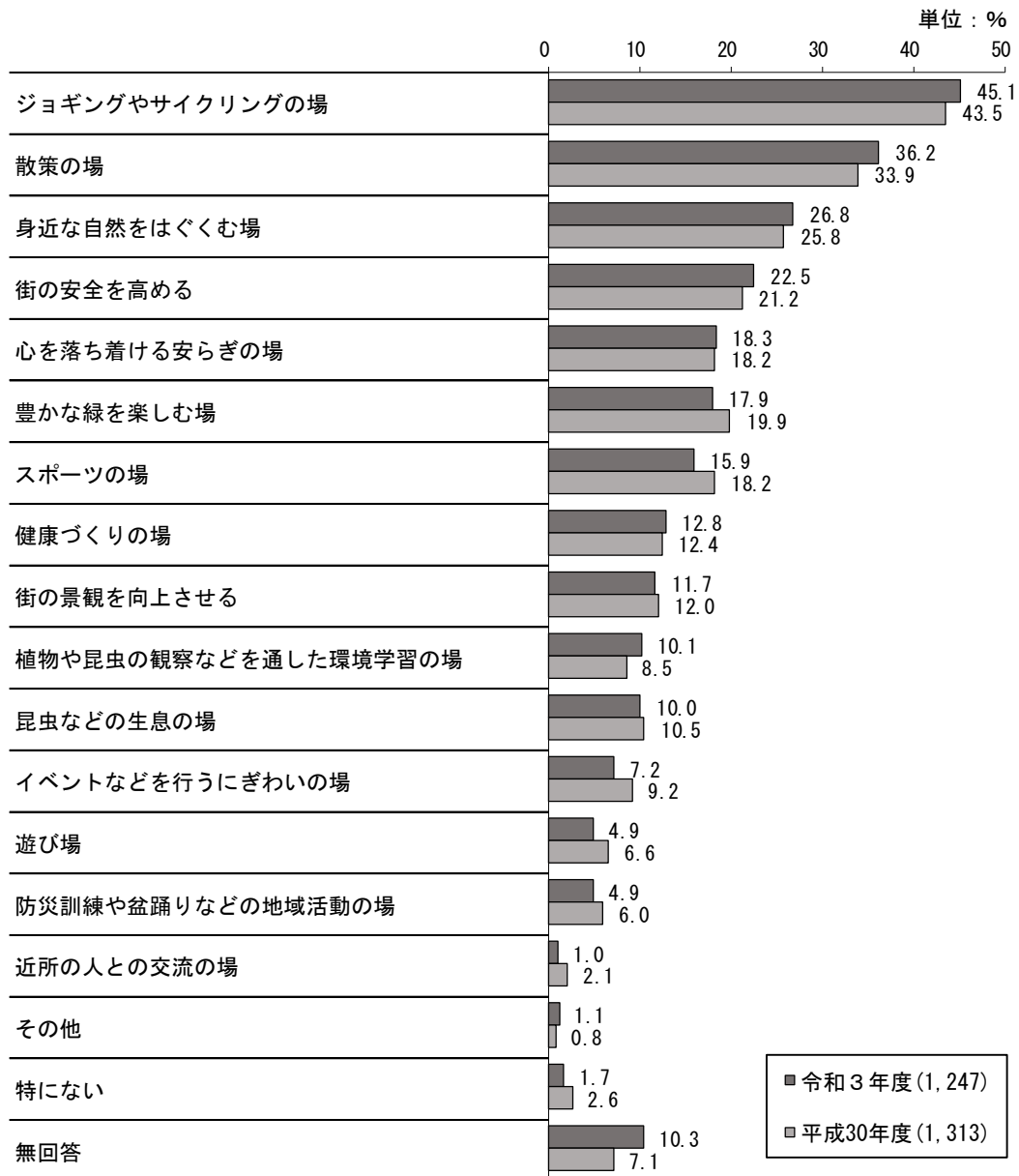
図表Ⅲ-21-5 河川敷に期待すること



河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「散策の場」(36.2%)、「身近な自然をはぐくむ場」(26.8%)と続いている。(図Ⅲ-21-5)

【経年変化】

図表Ⅲ-21-6 河川敷に期待すること（経年変化）

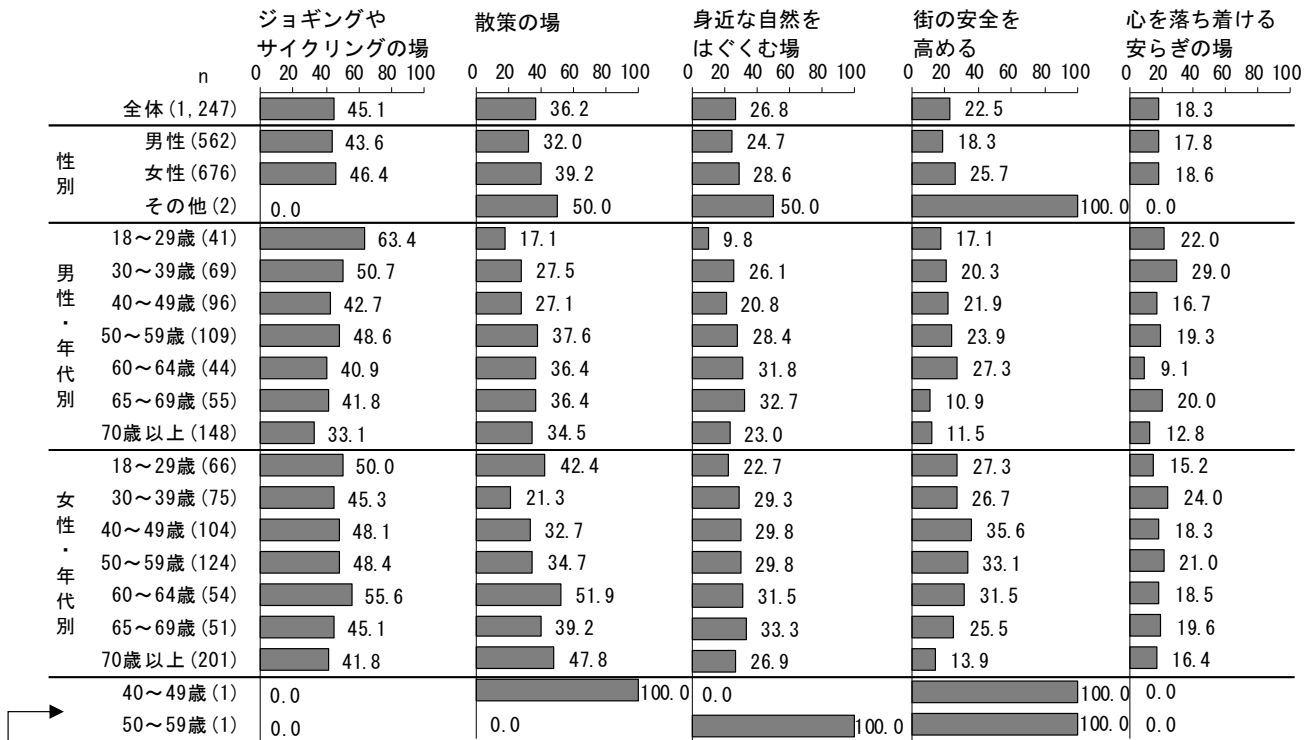


「ジョギングやサイクリングの場」(45.1%)は、平成30年度調査(43.5%)より1.6ポイント、「散策の場」(36.2%)は、平成30年度調査(33.9%)より2.3ポイント、「身近な自然をはぐくむ場」(26.8%)は、平成30年度調査(25.8%)より1.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「豊かな緑を楽しむ場」(17.9%)は、平成30年度調査(19.9%)より2.0ポイント減少している。(図表Ⅲ-21-6)

【性別／性・年代別】

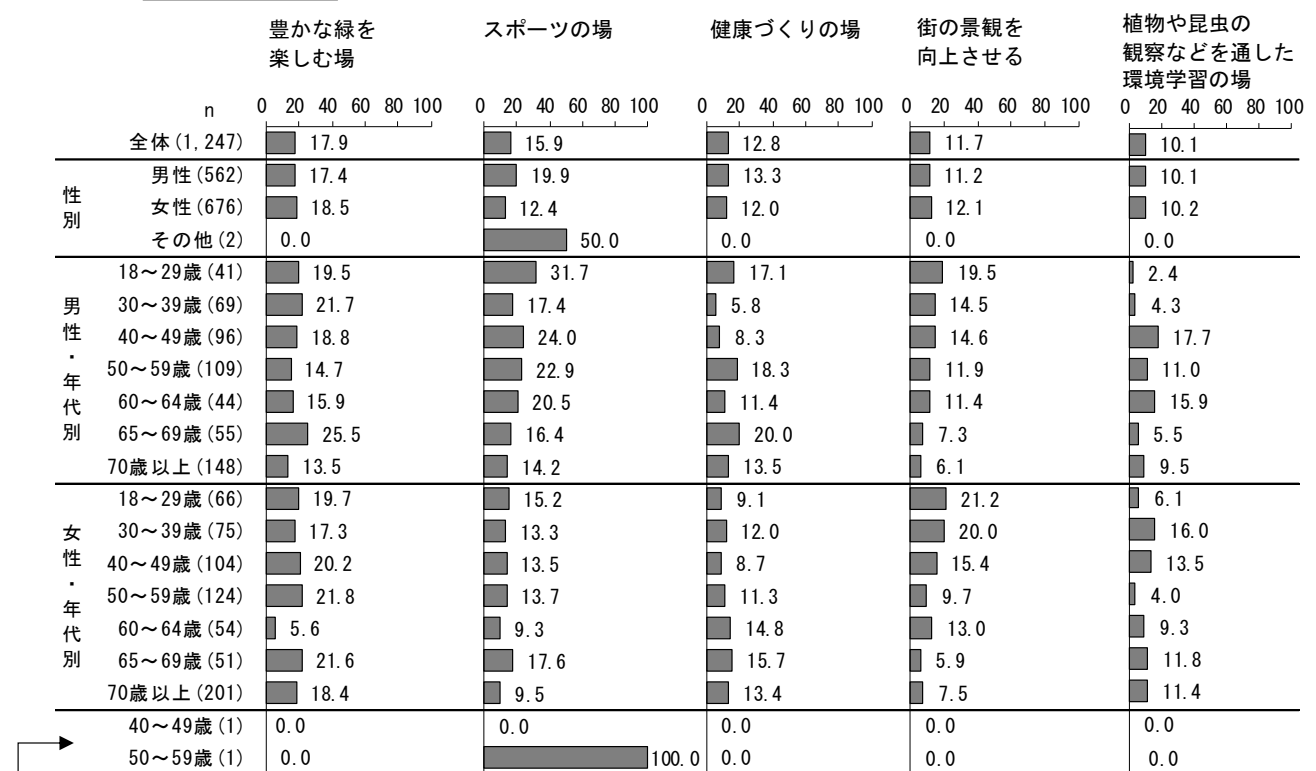
図表Ⅲ-21-7 河川敷に期待すること（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：%



その他・年代別

単位：%



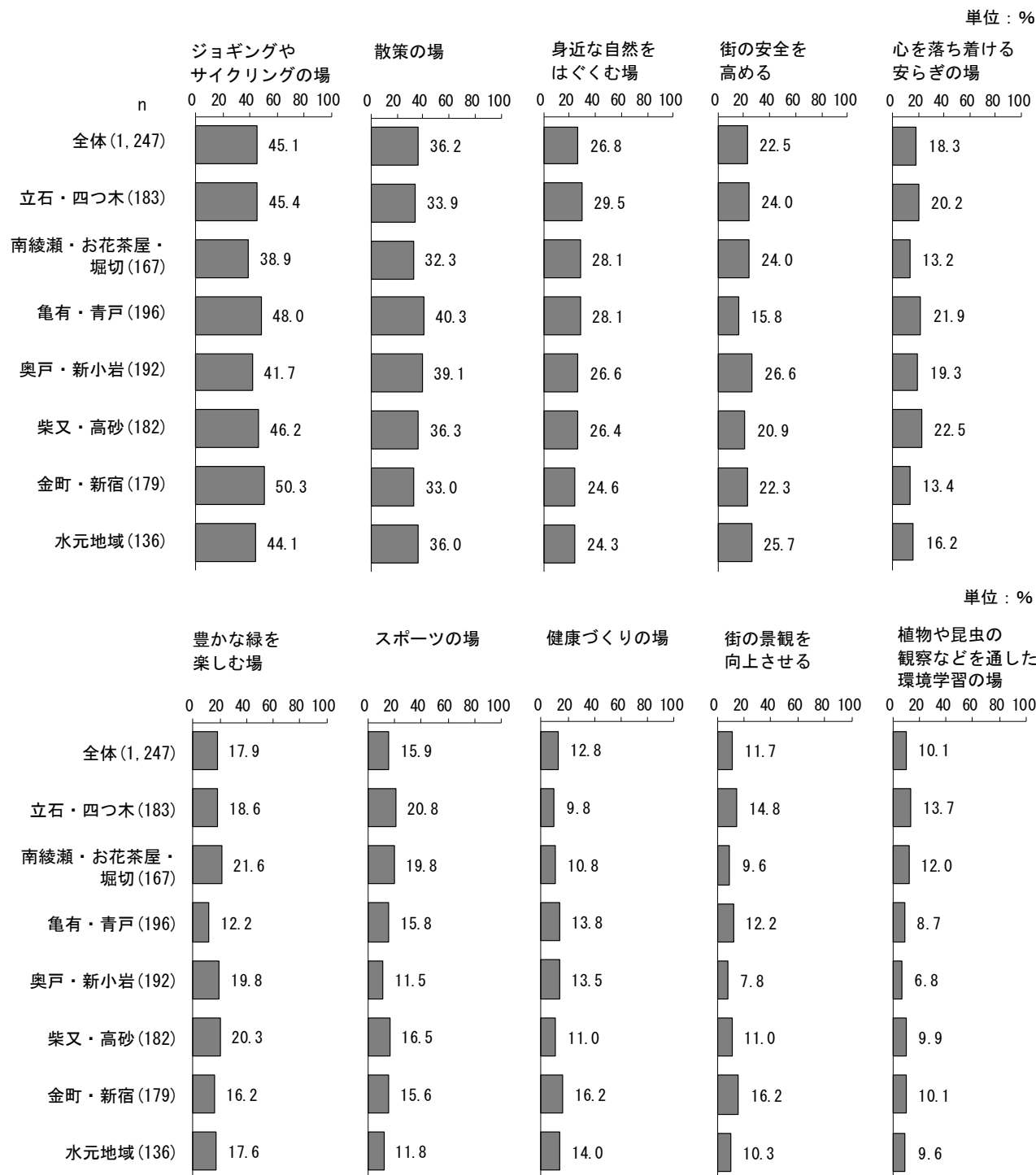
その他・年代別

上位10項目について性別でみると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「女性」(46.4%)が「男性」(43.6%)より2.8ポイント高くなっている。また、「散策の場」は、「女性」(39.2%)が「男性」(32.0%)より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「男性18~29歳」(63.4%)が最も高くなっている。また、「散策の場」は「女性60~64歳」(51.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-21-7)

【居住地域別】

図表Ⅲ-21-8 河川敷に期待すること（上位10項目）（居住地域別）



上位10項目について居住地域別でみると、「ジョギングやサイクリングの場」は、「金町・新宿」(50.3%)が最も高くなっている。また、「散策の場」は、「亀有・青戸」(40.3%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-21-8)

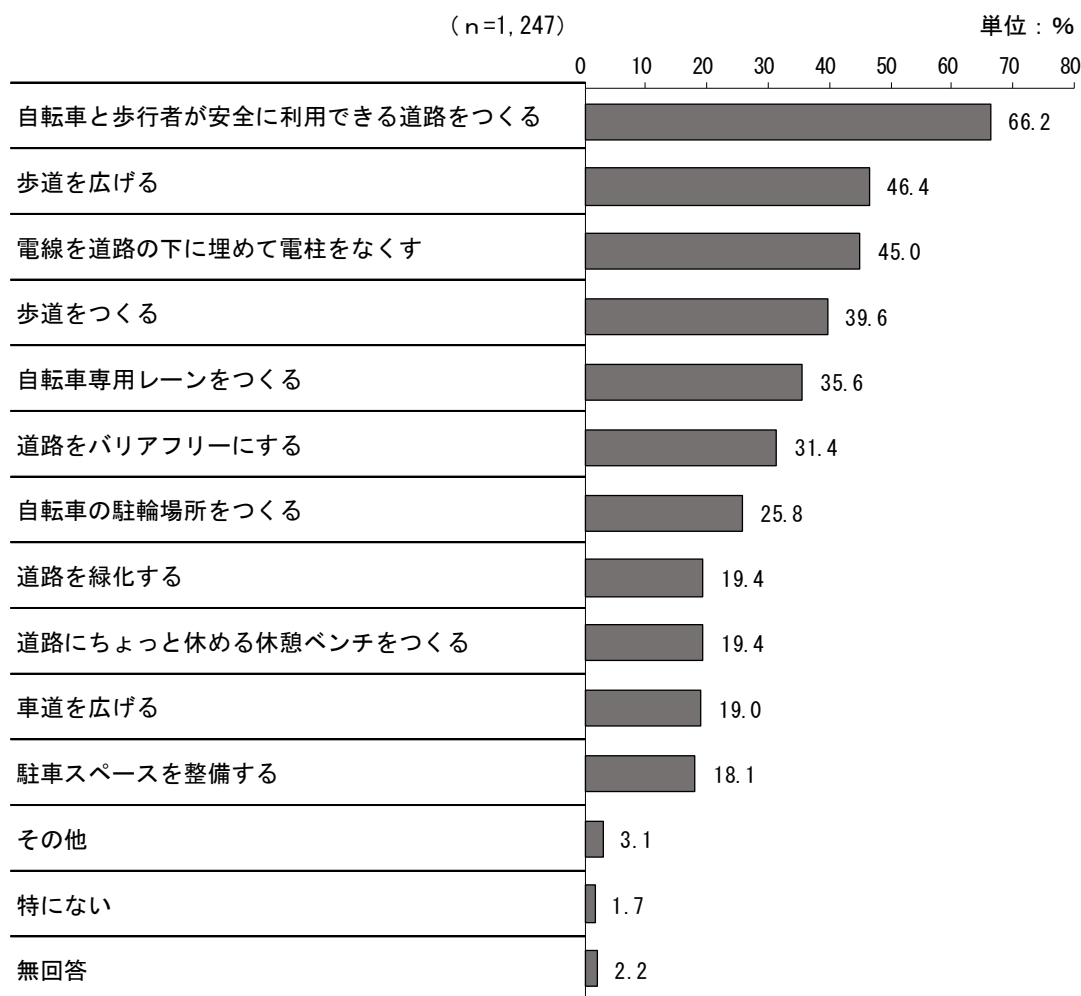
22. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が7割近く

問 37 あなたは葛飾区が道路をつくったり、作りかえる時に、どんなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

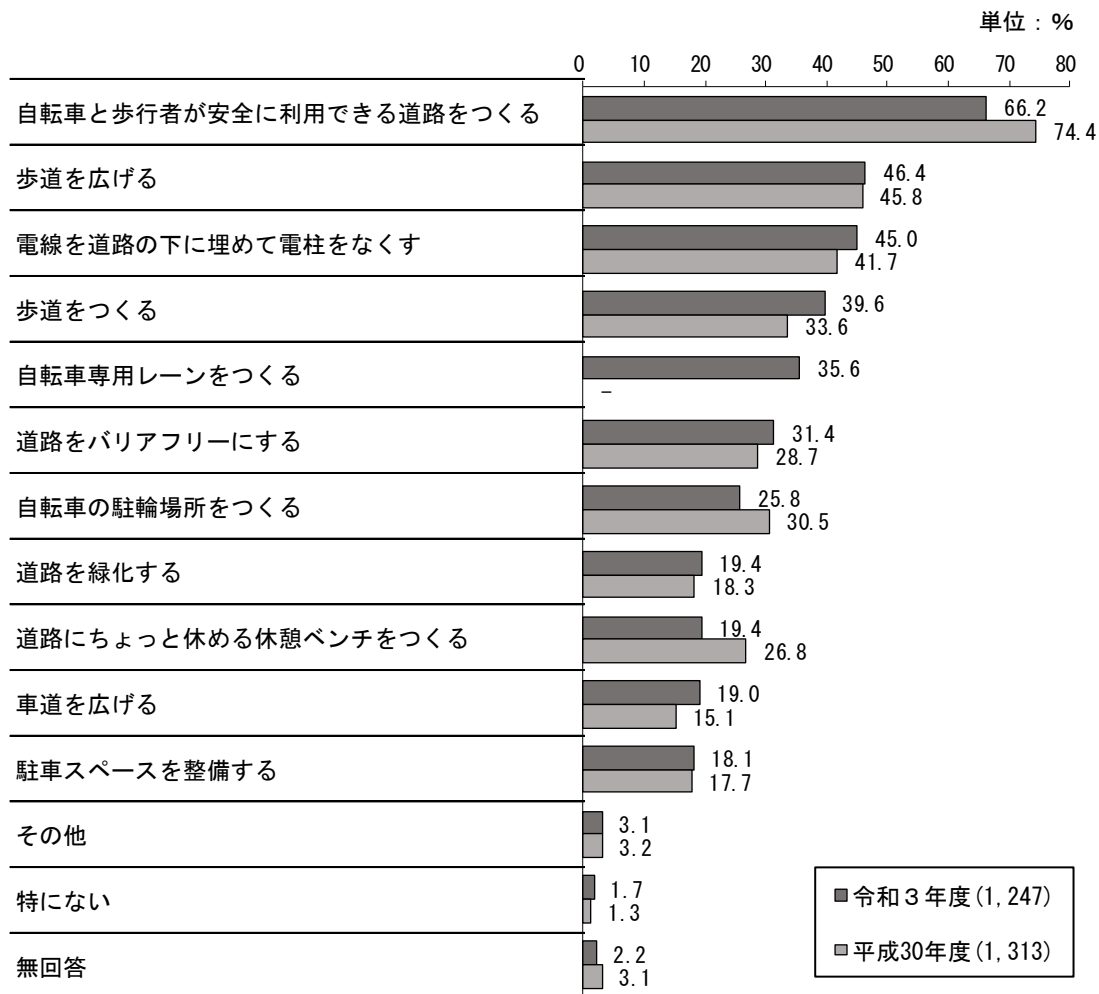
図表Ⅲ-22-1 道路施策で力を入れてほしいこと



道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(66.2%)が7割近くと最も高く、次いで「歩道を広げる」(46.4%)、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」(45.0%)と続いている。(図表Ⅲ-22-1)

【経年変化】

図表Ⅲ－22－2 道路施策で力を入れてほしいこと（経年変化）



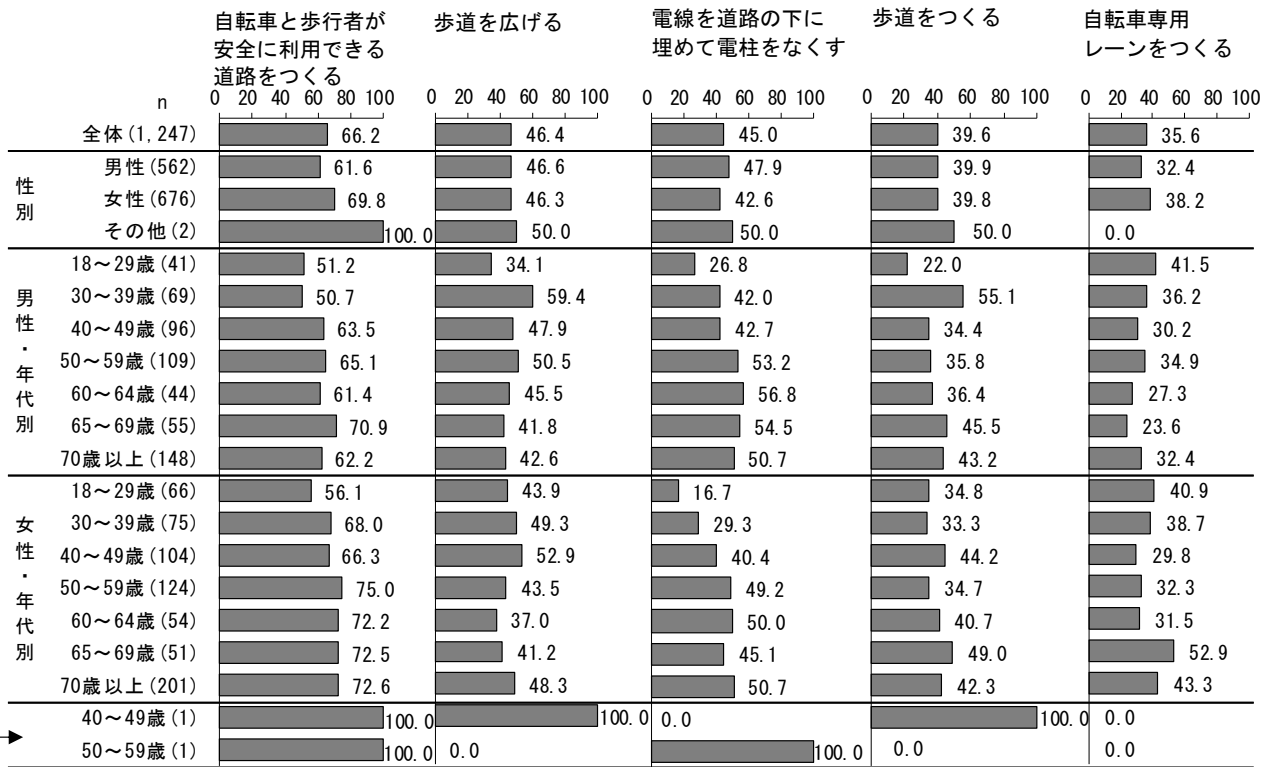
※ 令和3年度調査では、選択肢「自転車専用レーンをつくる」を新たに追加した。

「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(66.2%)は、平成30年度調査(74.4%)より8.2ポイント減少している。一方、「歩道を広げる」(46.4%)は、平成30年度調査(45.8%)より0.6ポイント、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」(45.0%)は、平成30年度調査(41.7%)より3.3ポイント、「歩道をつくる」(39.6%)は、平成30年度調査(33.6%)より6.0ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅲ－22－2)

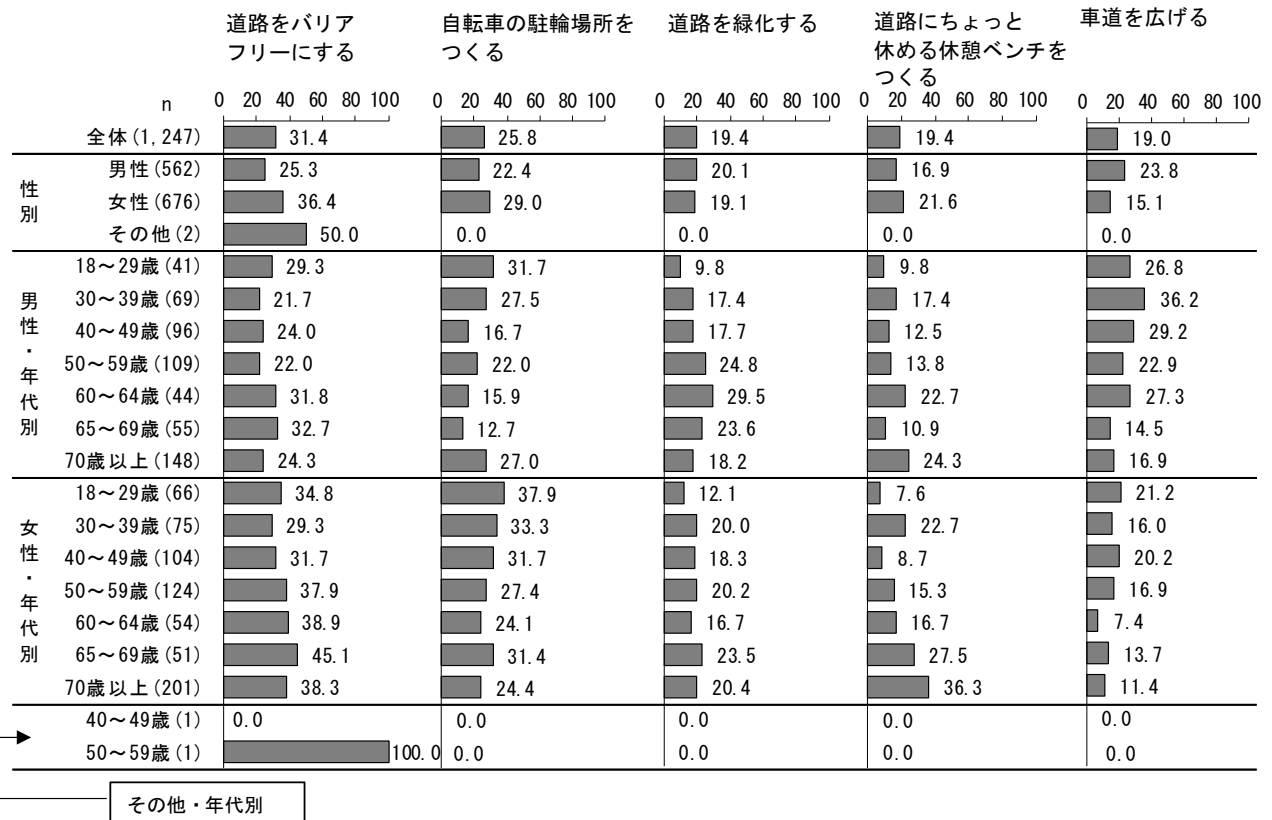
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-22-3 道路施策で力を入れてほしいこと（上位10項目）（性別／性・年代別）

単位：％



単位：％

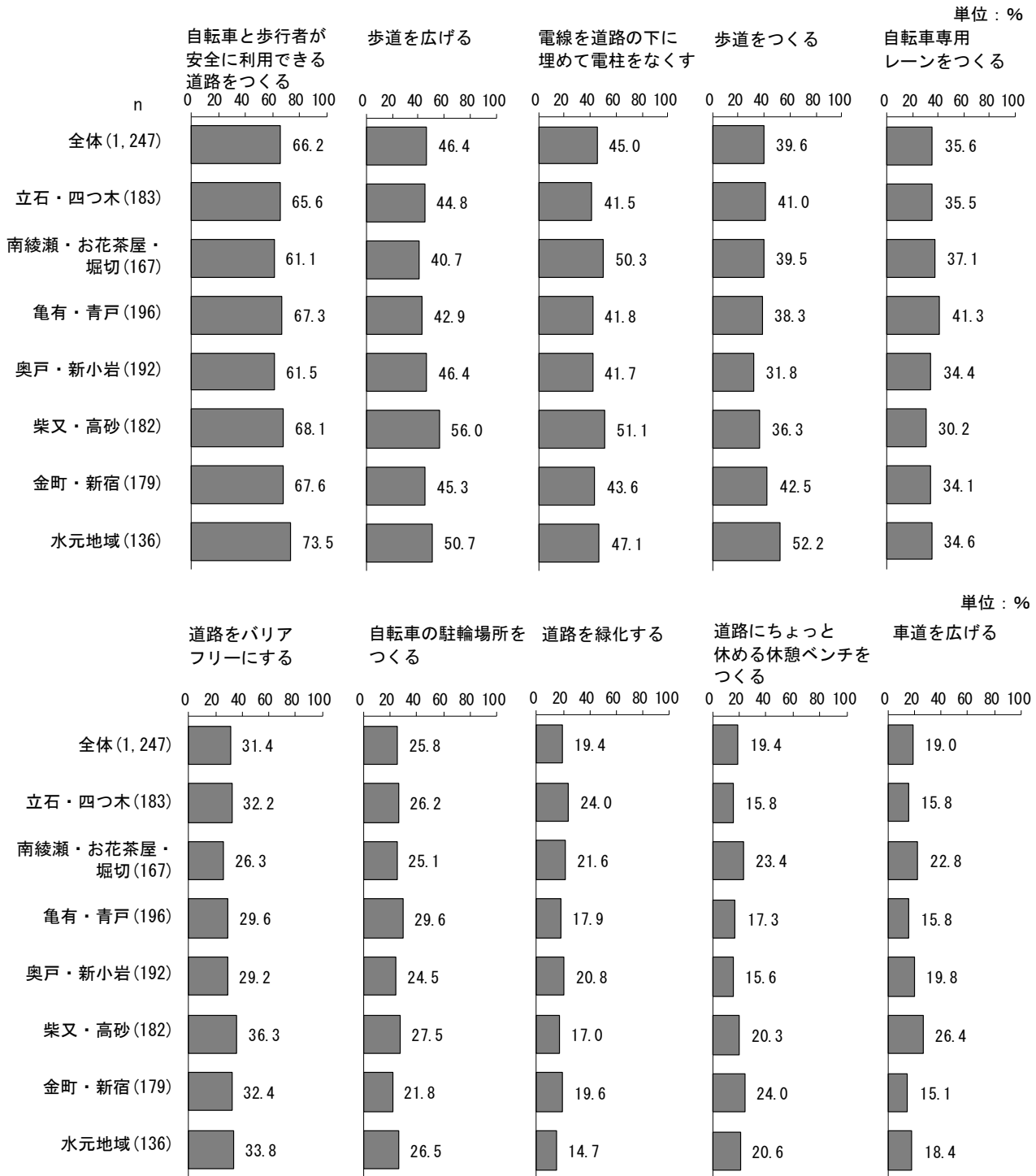


上位10項目について性別でみると、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」は、「女性」（69.8％）が「男性」（61.6％）より8.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「歩道を広げる」は、「男性30～39歳」（59.4％）が最も高くなっている。また、「電線を道路の下に埋めて電柱をなくす」は、「男性60～64歳」（56.8％）が最も高くなっている。（図表Ⅲ-22-3）

【居住地域別】

図表Ⅲ-22-4 道路施策で力を入れてほしいこと（上位10項目）（居住地域別）



上位10項目について居住地域別でみると、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」は、「水元地域」(73.5%)が最も高く、次いで「柴又・高砂」(68.1%)、「金町・新宿」(67.6%)と続いている。また、「歩道を広げる」は、「柴又・高砂」(56.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-22-4)

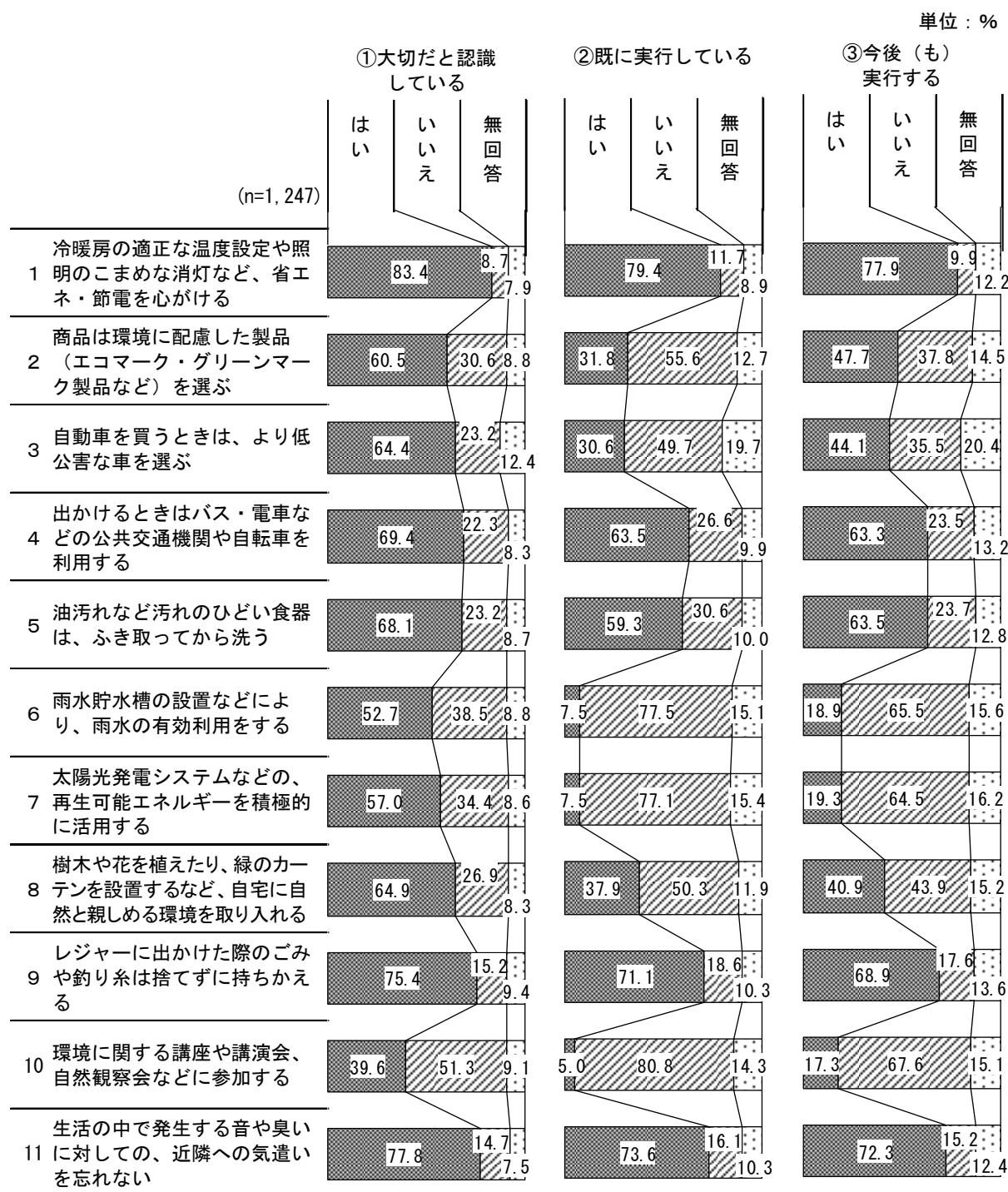
23. 環境

(1) 環境保護のための行動

- ◆ 「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」が認知度、実行状況、今後の実行意思で最も高い

問 38 日頃の暮らしを少し工夫することで、地球温暖化対策や自然環境の保護など大切な環境を守ることができます。次にあげる1～11のような行動について、①大切なことだと思えますか。また、②既に実行していますか。③今後（も）実行しようと思えますか。①、②、③とも「はい」、「いいえ」のどちらかをお選びください。（〇はそれぞれ1つ）

図表Ⅲ-23-1 環境保護のための行動



環境保護のための行動で大切だと認識していることは、冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(83.4%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(77.8%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(75.4%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(39.6%)は、4割弱となっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(79.4%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(73.6%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(71.1%)と続いている。

一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(7.5%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(7.5%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(5.0%)は、1割未満となっている。

環境保護のための行動で今後(も)実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(77.9%)が最も高く、次いで「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(72.3%)、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(68.9%)と続いている。

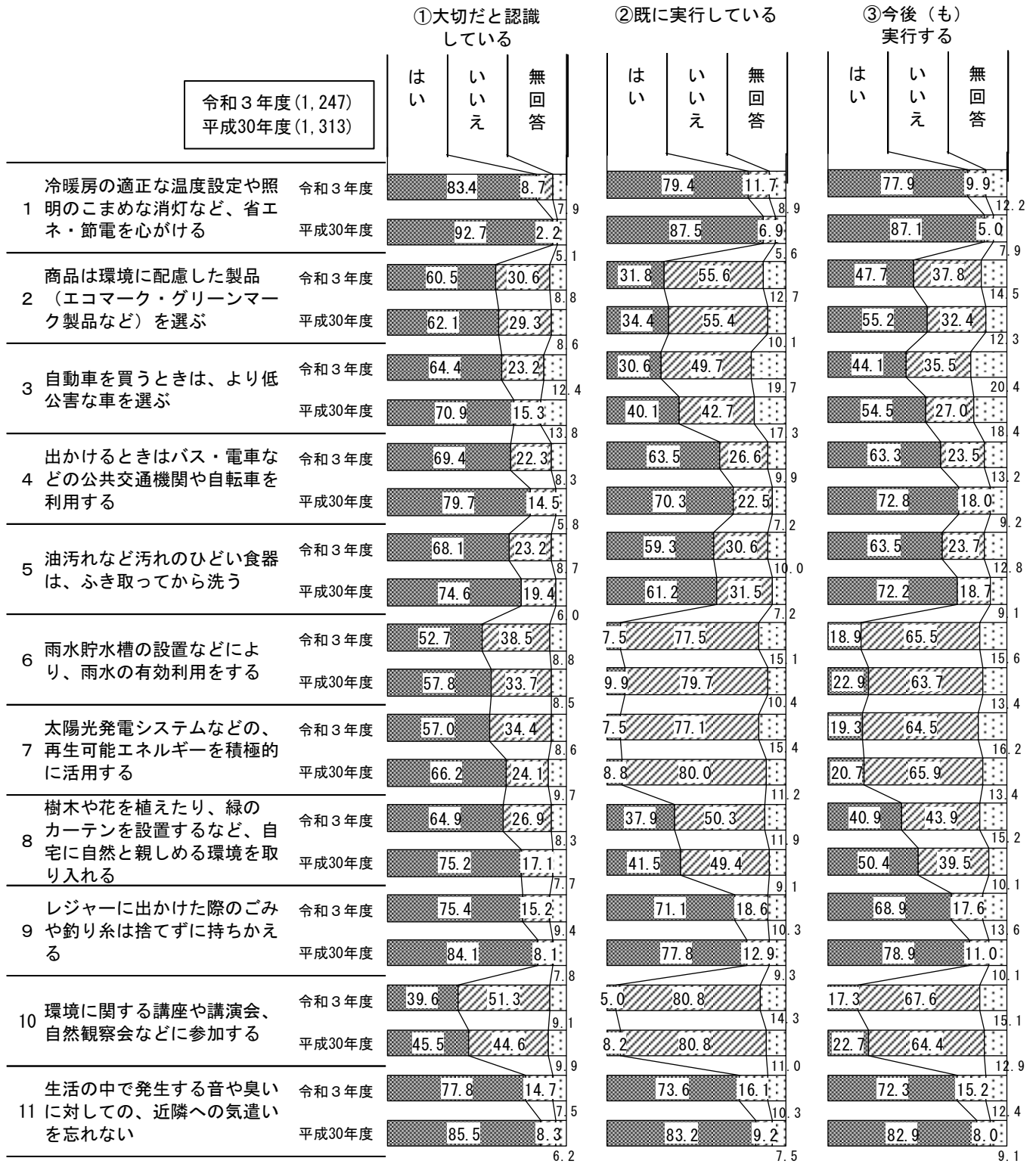
一方、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」(18.9%)、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」(19.3%)、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(17.3%)は、2割近くとなっている。

(図表Ⅲ-23-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-23-2 環境保護のための行動（経年変化）

単位：%



環境保護のための行動で大切だと認識していることは、すべての項目において平成 30 年度調査より減少している。

「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(83.4%) は、平成 30 年度調査 (92.7%) より 9.3 ポイント、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(77.8%) は、平成 30 年度調査 (85.5%) より 7.7 ポイント、それぞれ減少している。

環境保護のための行動で既に実行していることは、すべての項目において平成 30 年度調査より減少している。

「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(73.6%) は、平成 30 年度調査 (83.2%) より 9.6 ポイント、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」(30.6%) は、平成 30 年度調査 (40.1%) より 9.5 ポイント、それぞれ減少している。

環境保護のための行動で今後 (も) 実行することは、すべての項目において平成 30 年度調査より減少している。

「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(72.3%) は、平成 30 年度調査 (82.9%) より 10.6 ポイント、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」(44.1%) は、平成 30 年度調査 (54.5%) より 10.4 ポイント、「レジヤーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(68.9%) は、平成 30 年度調査 (78.9%) より 10.0 ポイント、それぞれ減少している。

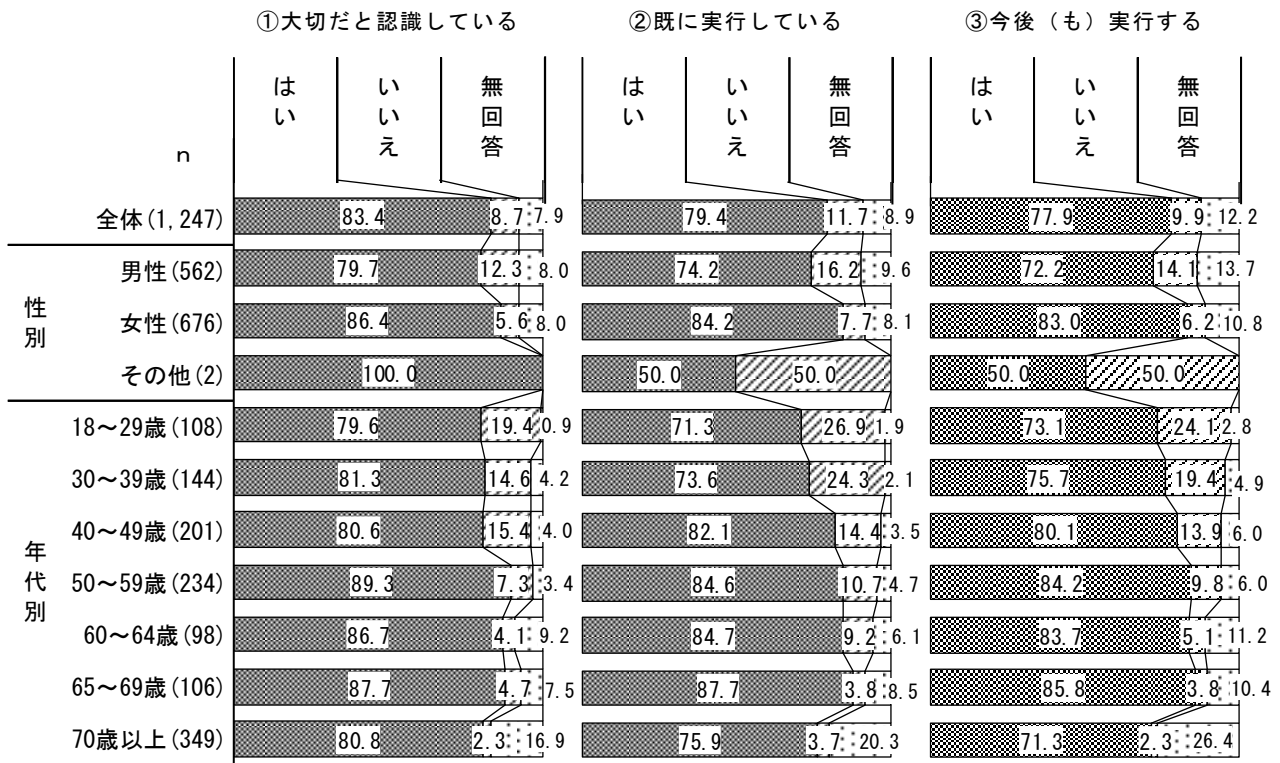
(図表Ⅲ-23-2)

【性別／年代別】

図表Ⅲ-23-3 環境保護のための行動（性別／年代別）

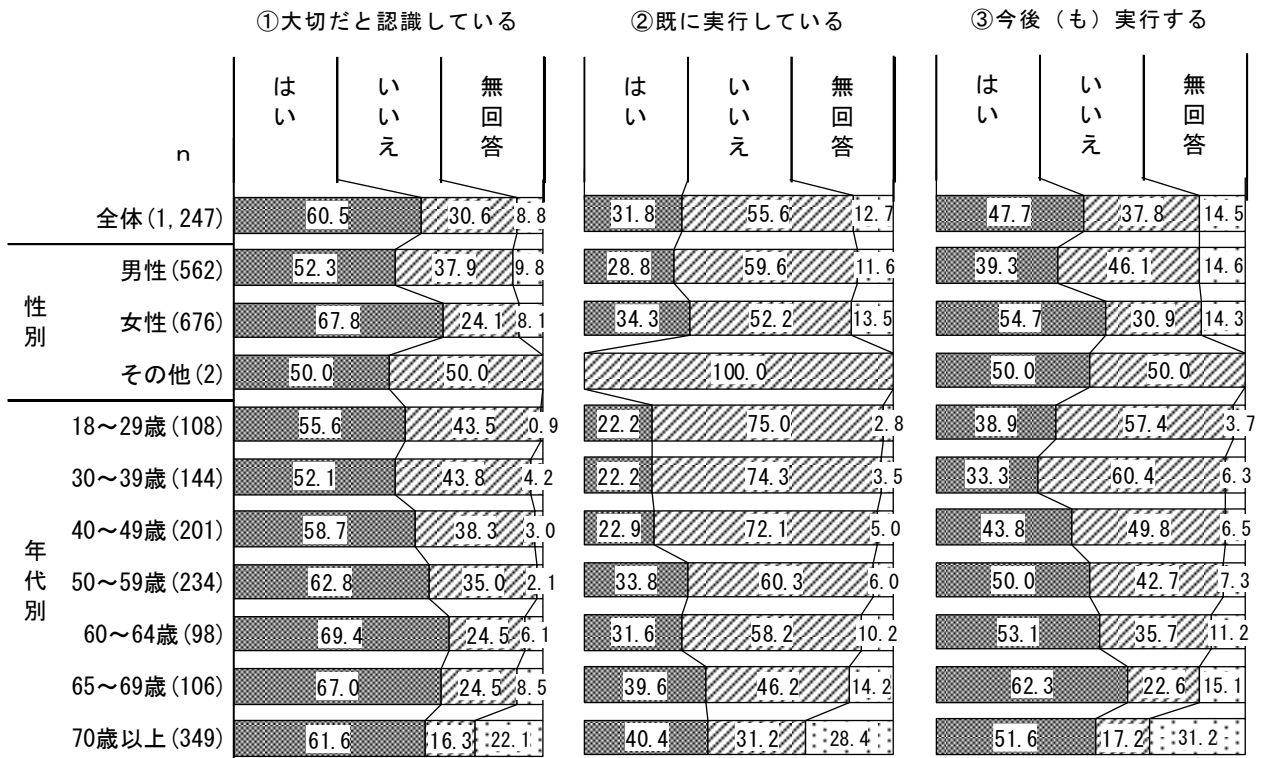
< 1. 冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける >

単位：%



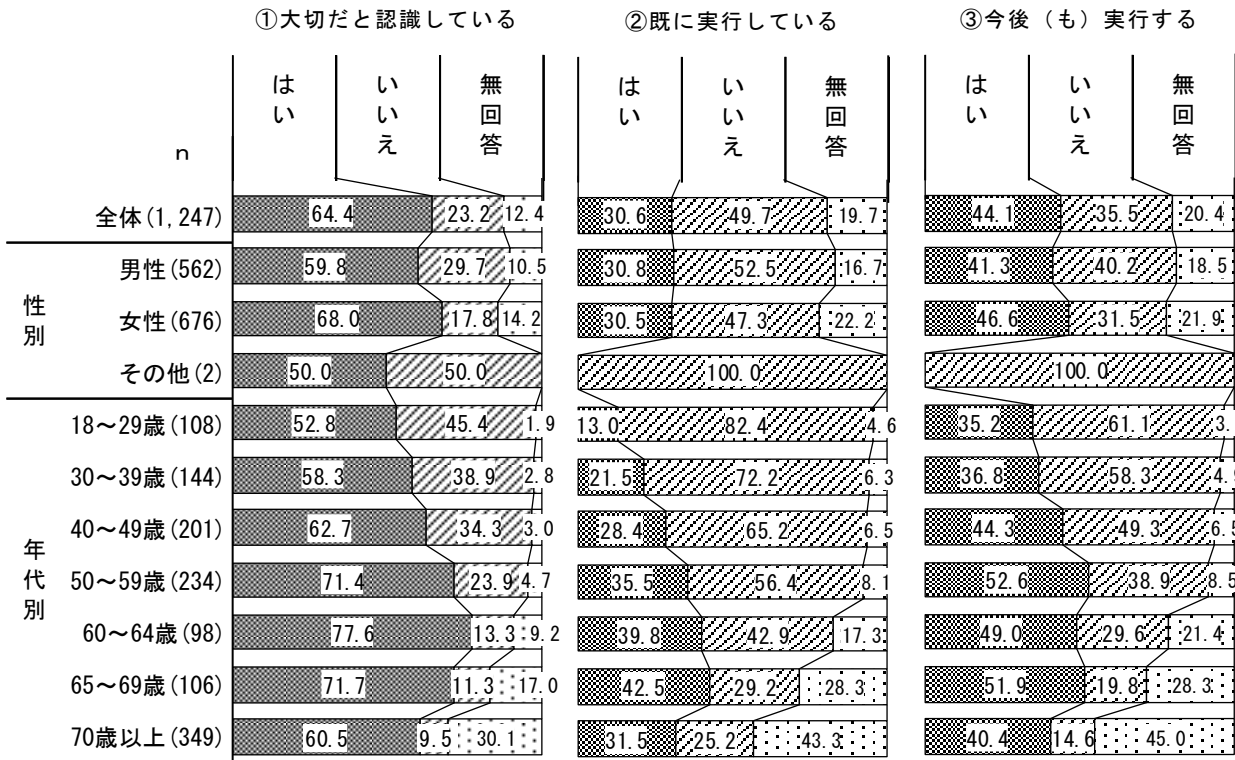
< 2. 商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ >

単位：%



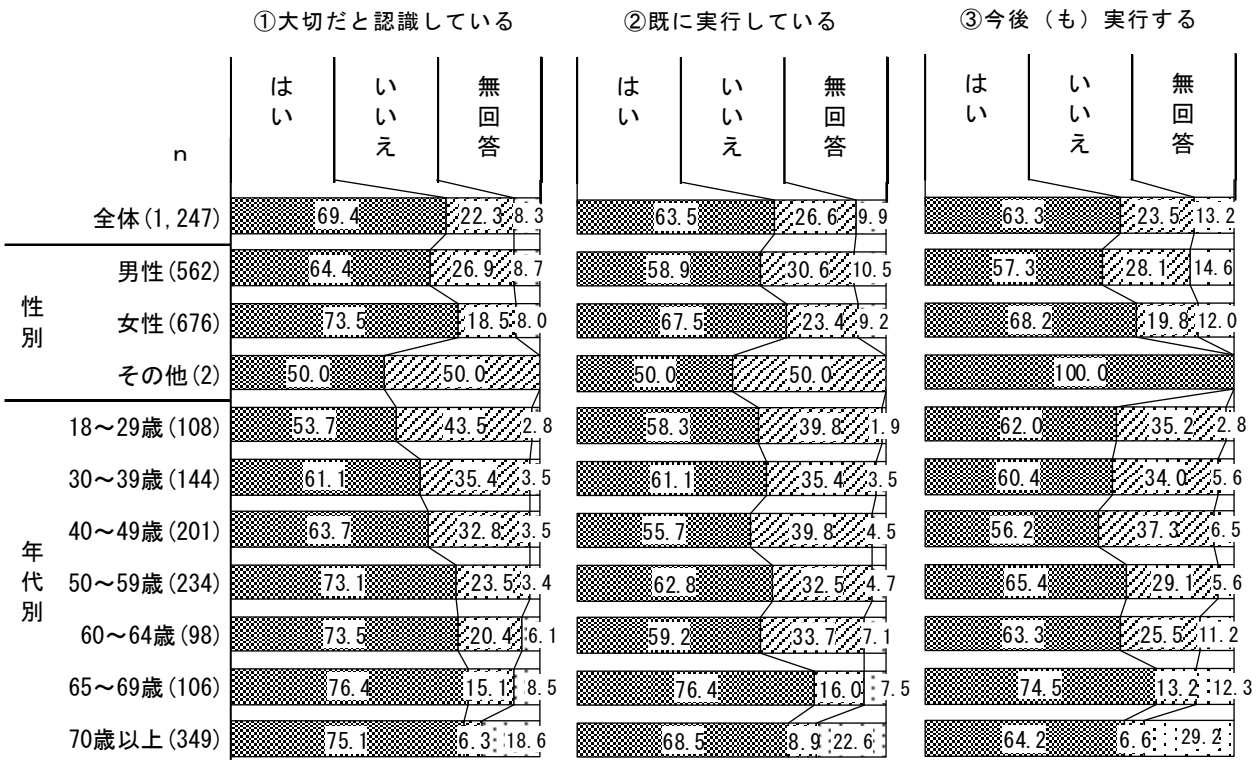
< 3. 自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ >

単位：%



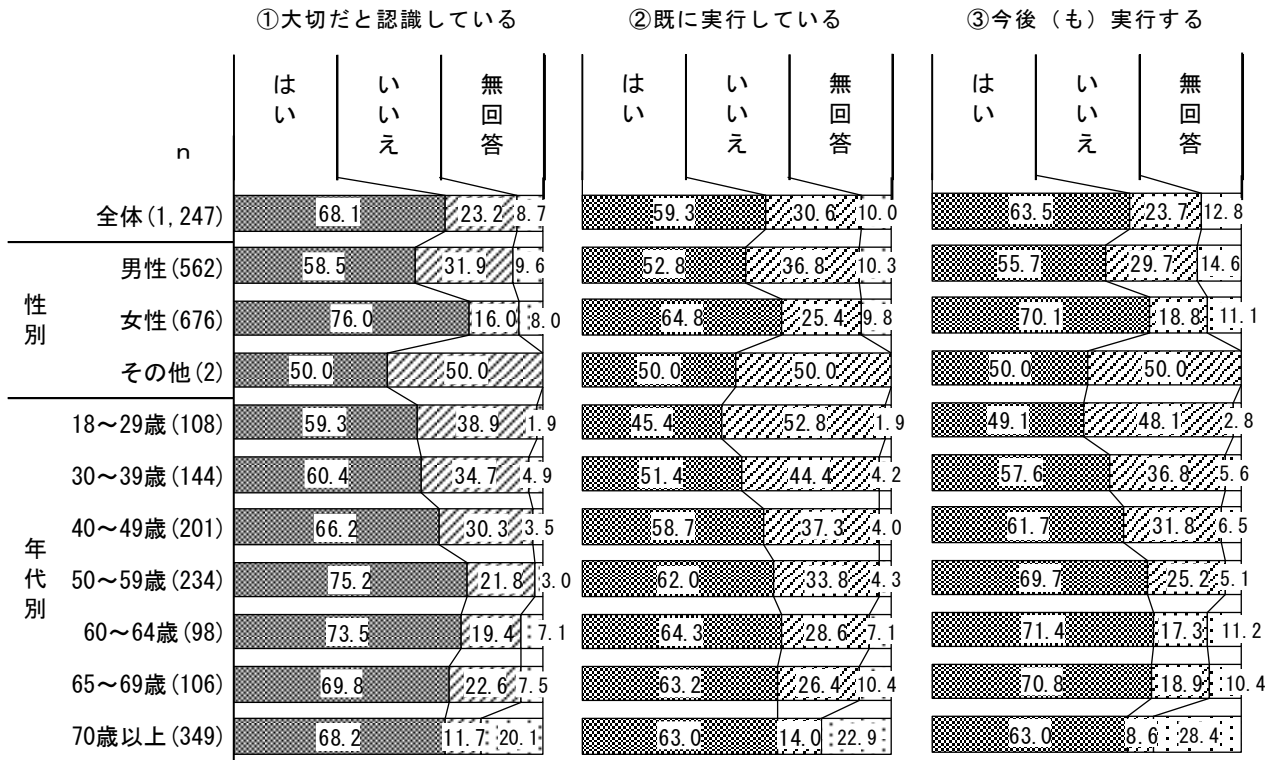
< 4. 出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する >

単位：%



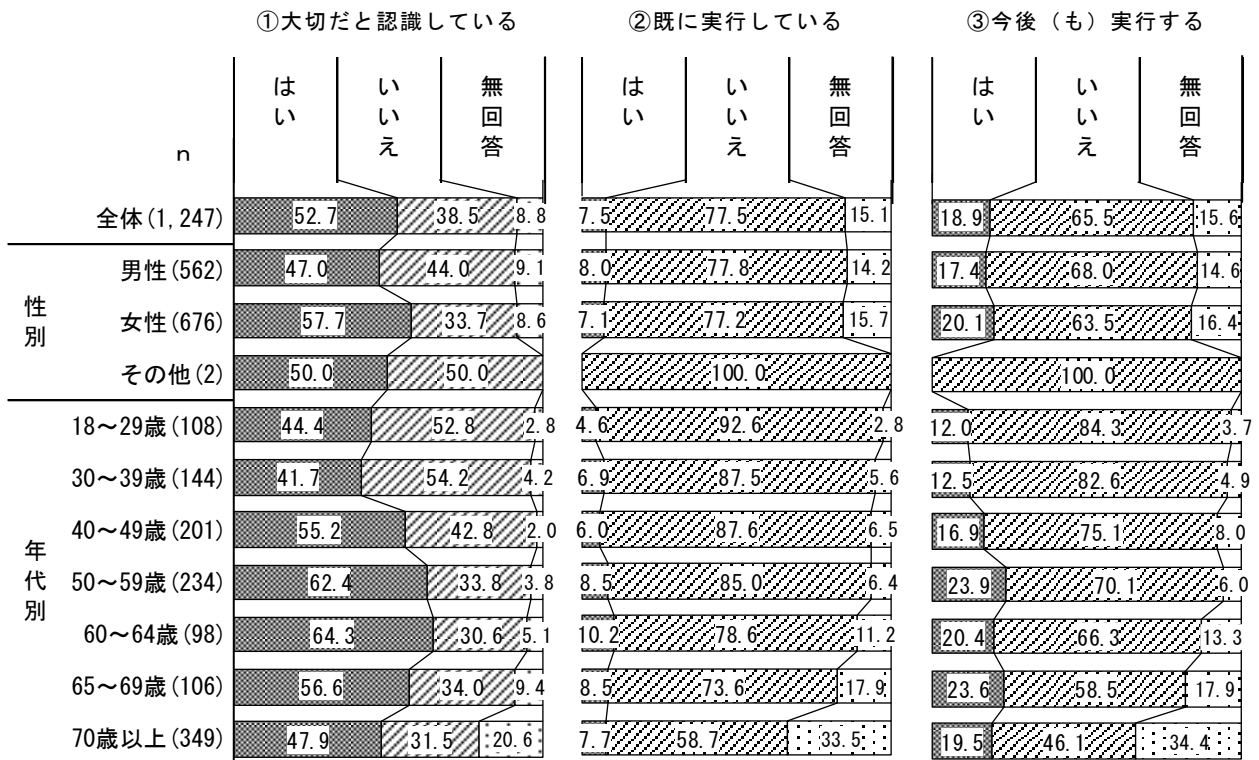
< 5. 油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う >

単位：%



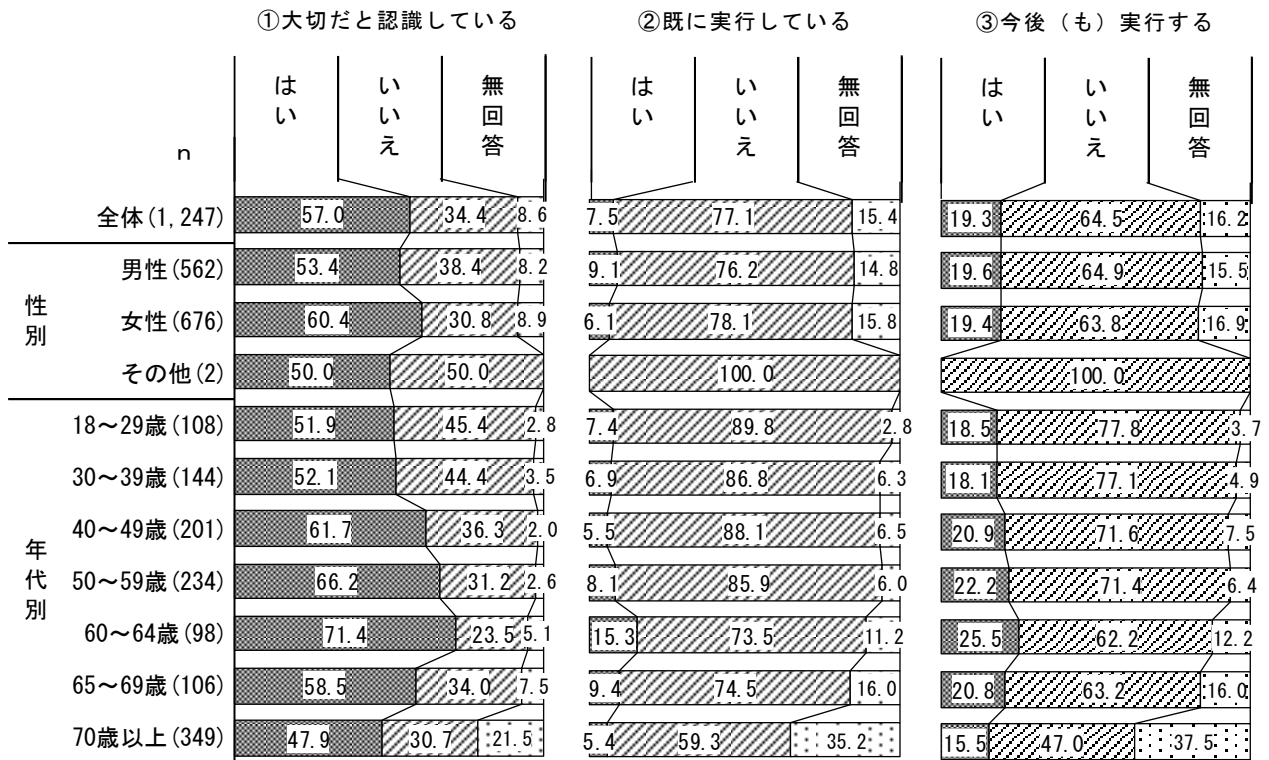
< 6. 雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする >

単位：%



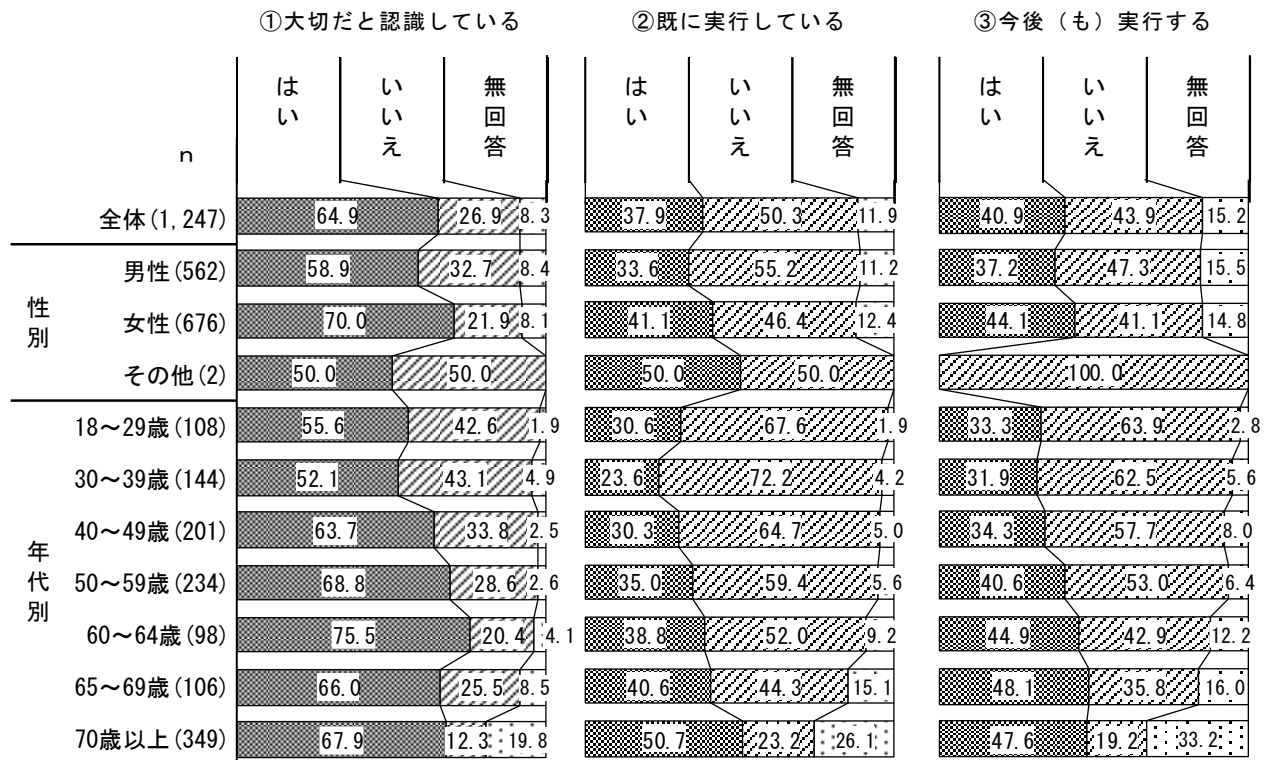
< 7. 太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する >

単位：%



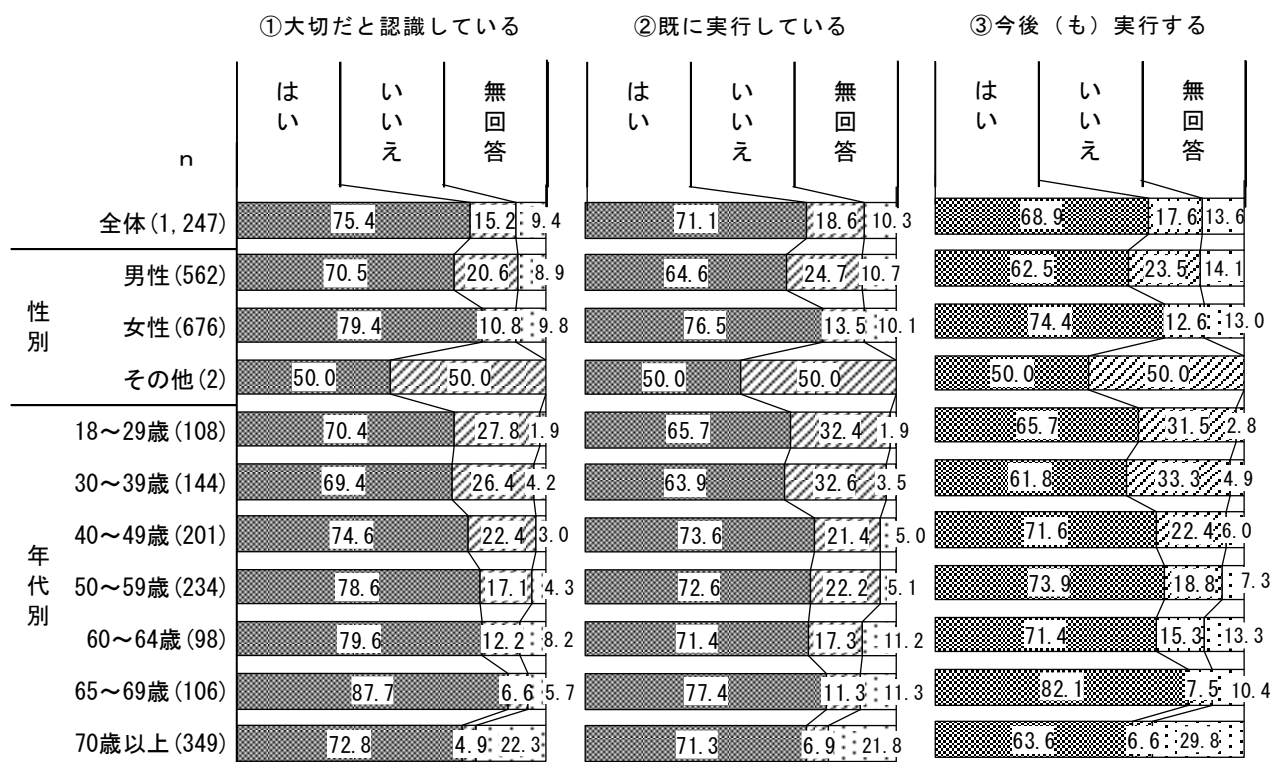
< 8. 樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる >

単位：%



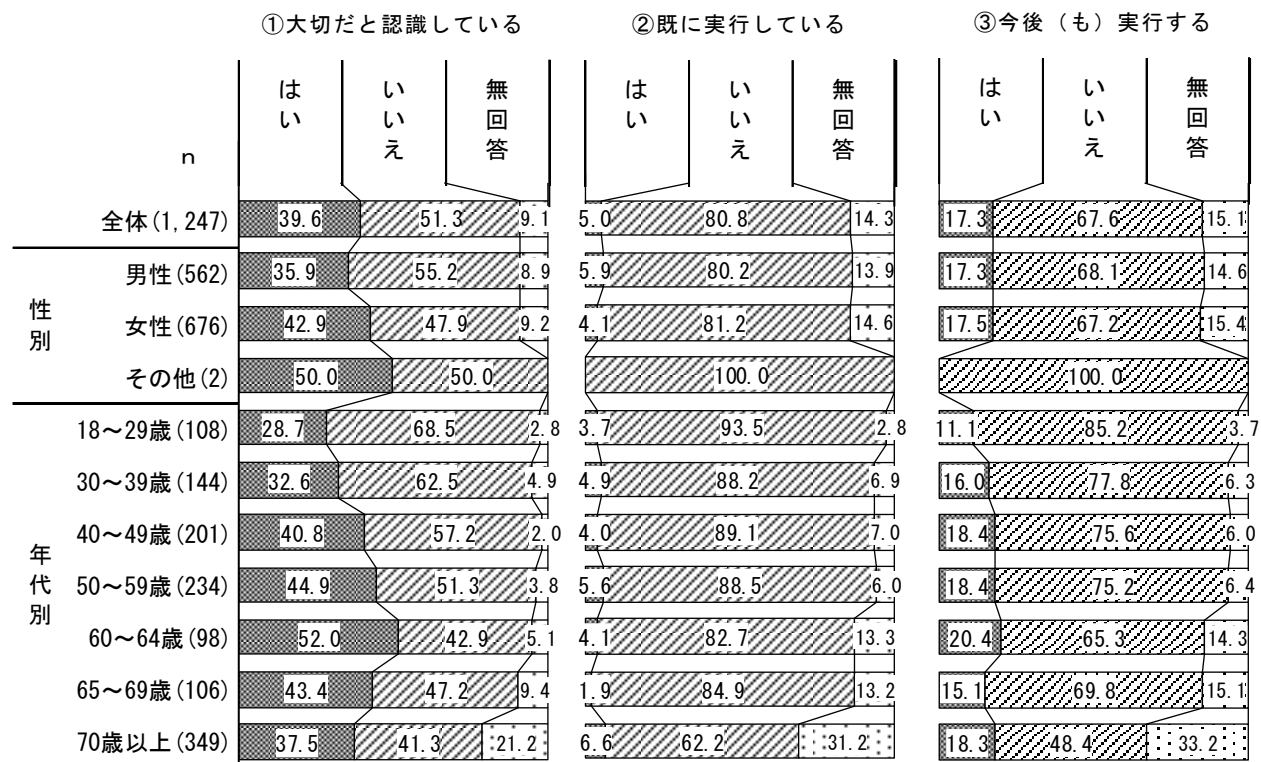
<9. レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる>

単位：%



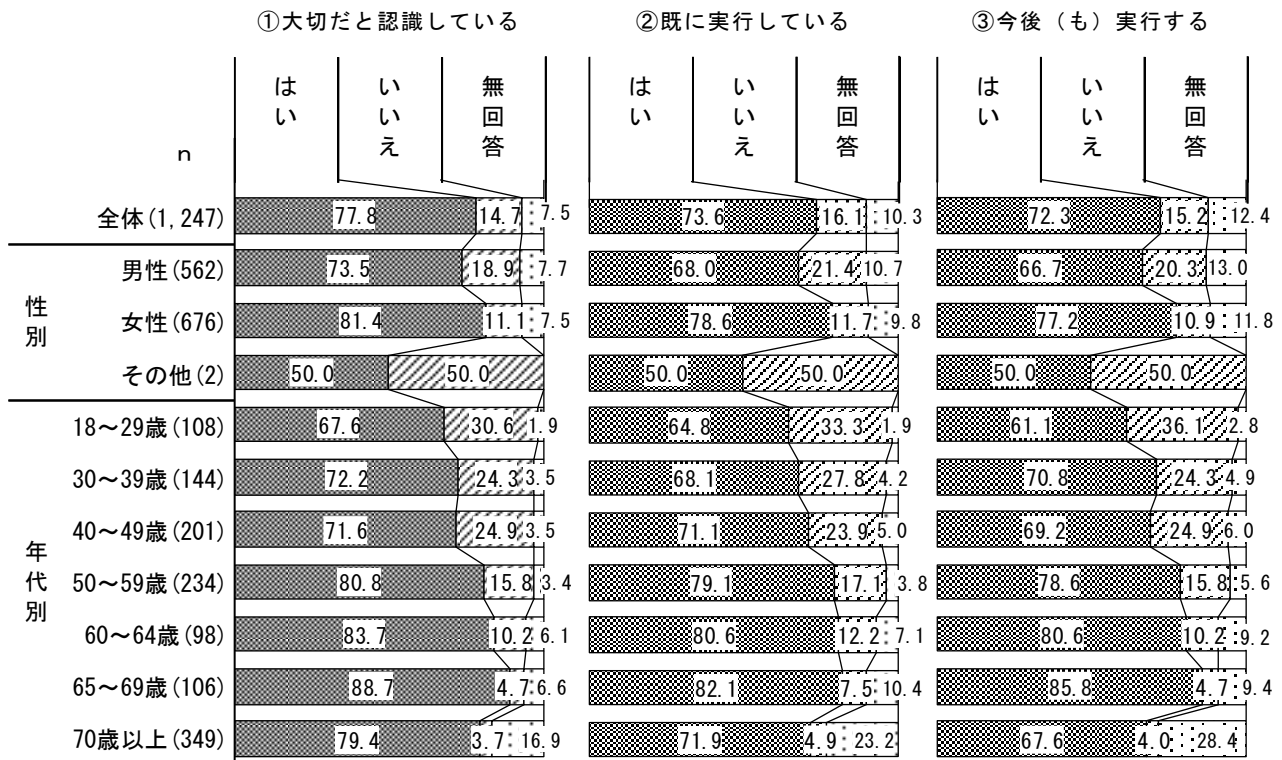
<10. 環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する>

単位：%



<11. 生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない>

単位：%



【性別】

環境保護のための行動で大切だと認識していることは、11項目すべてにおいて「女性」が「男性」よりも高くなっている。

「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」は、「女性」（67.8%）が「男性」（52.3%）より15.5ポイント高くなっている。また、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」（76.0%）が「男性」（58.5%）より17.5ポイント高くなっている。「樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる」は、「女性」（70.0%）が「男性」（58.9%）より11.1ポイント高くなっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」（64.8%）が「男性」（52.8%）より、12.0ポイント高くなっている。また、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」は、「女性」（76.5%）が「男性」（64.6%）より、11.9ポイント、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」は、「女性」（78.6%）が「男性」（68.0%）より、10.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」は、「男性」（9.1%）が「女性」（6.1%）より、3.0ポイント高くなっている。

環境保護のための行動で今後（も）実行することは、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」を除いた10項目において「女性」が「男性」よりも高くなっている。

「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」は、「女性」（54.7%）が「男性」（39.3%）より15.4ポイント高くなっている。また、「油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」は、「女性」（70.1%）が「男性」（55.7%）より14.4ポイント、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」は、「女性」（74.4%）が「男性」（62.5%）より11.9ポイント、それぞれ高くなっている。

(図Ⅲ-23-3)

【年代別】

年代別でみると、環境保護のための行動で大切だと認識していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「油汚れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う」の2項目で、「50～59 歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。また、「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする」、「太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する」、「樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる」、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」の6項目で、「60～64 歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。

環境保護のための行動で実行していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」の5項目で、「65～69 歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。

環境保護のための行動で今後（も）実行することは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」、「商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ」、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」、「樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる」、「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」の6項目で「65～69 歳」が他の年代と比べ最も高くなっている。

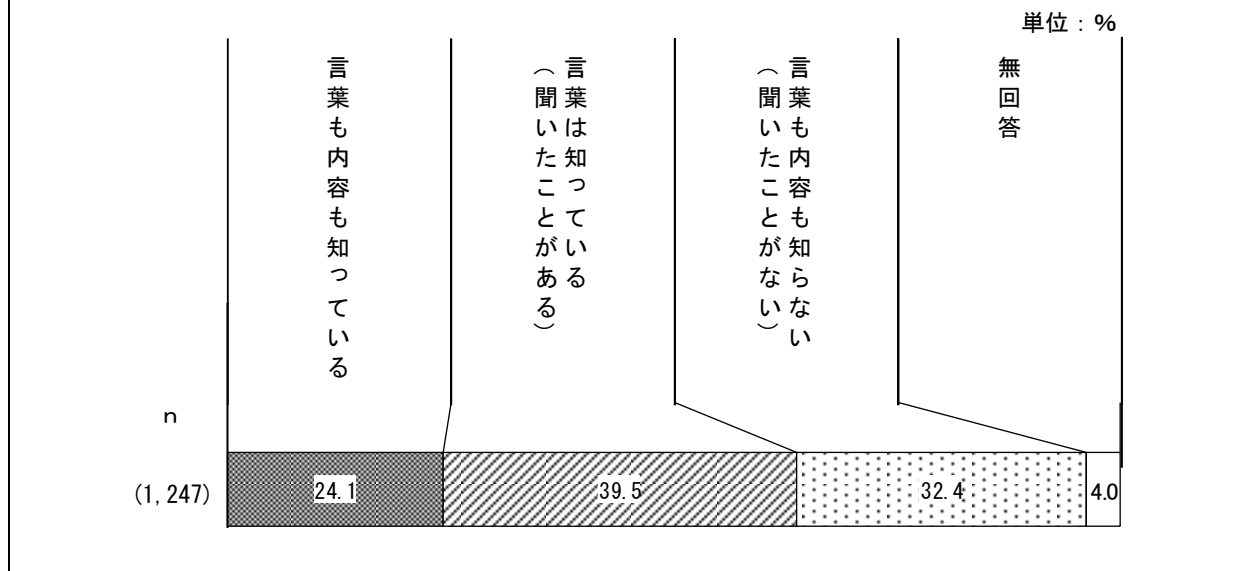
(図Ⅲ-23-3)

(2) 「生物多様性」の認知度

◆ 「言葉も内容も知っている」が2割台半ば

問 39 あなたは、「生物多様性」という言葉や内容を知っていますか。(○は1つ)

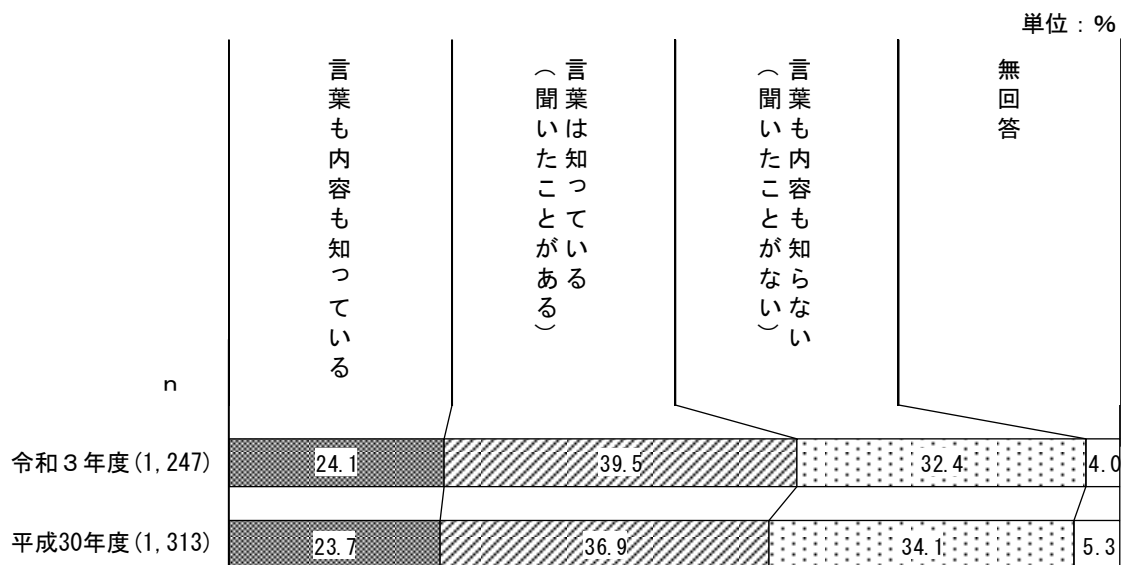
図表Ⅲ-23-4 「生物多様性」の認知度



「生物多様性」の認知度は、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(39.5%)が4割弱と最も高く、次いで「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(32.4%)、「言葉も内容も知っている」(24.1%)と続いている。(図表Ⅲ-23-4)

【経年変化】

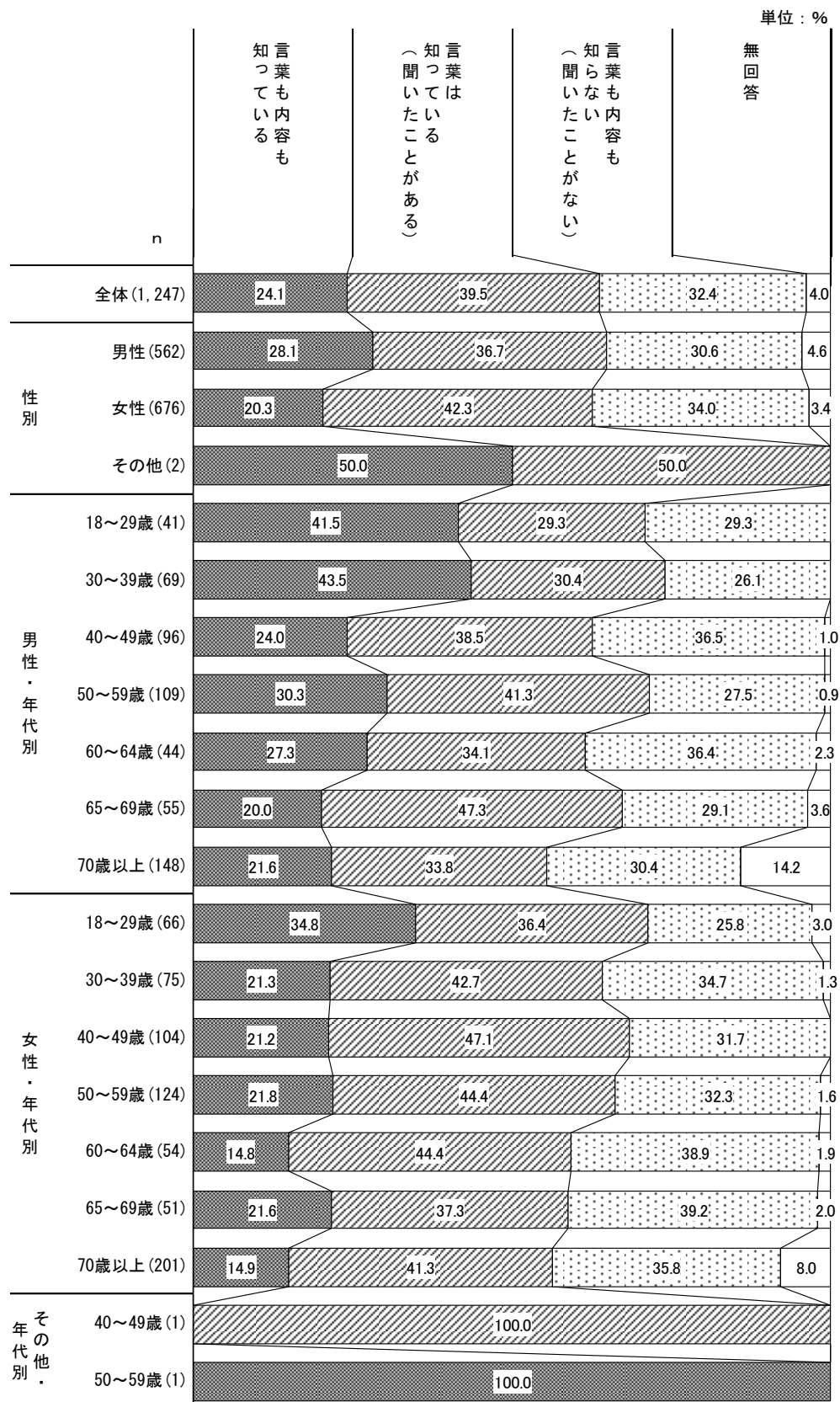
図表Ⅲ-23-5 「生物多様性」の認知度(経年変化)



「言葉も内容も知っている」(24.1%)は、平成30年度調査(23.7%)より0.4ポイント、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(39.5%)は、平成30年度調査(36.9%)より2.6ポイント、それぞれ増加している。

一方、「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(32.4%)は、平成30年度調査(34.1%)より1.7ポイント減少している。(図表Ⅲ-23-5)

図表Ⅲ-23-6 「生物多様性」の認知度（性別／性・年代別）



性別でみると、「言葉も内容も知っている」は、「男性」（28.1%）が「女性」（20.3%）より7.8ポイント高くなっている。一方、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」は、「女性」（34.0%）が「男性」（30.6%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「言葉も内容も知っている」は、「男性30～39歳」（43.5%）が最も高くなっている。一方、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」は、「女性65～69歳」（39.2%）

が最も高くなっている。(図表Ⅲ-23-6)

24. ごみの減量・リサイクル

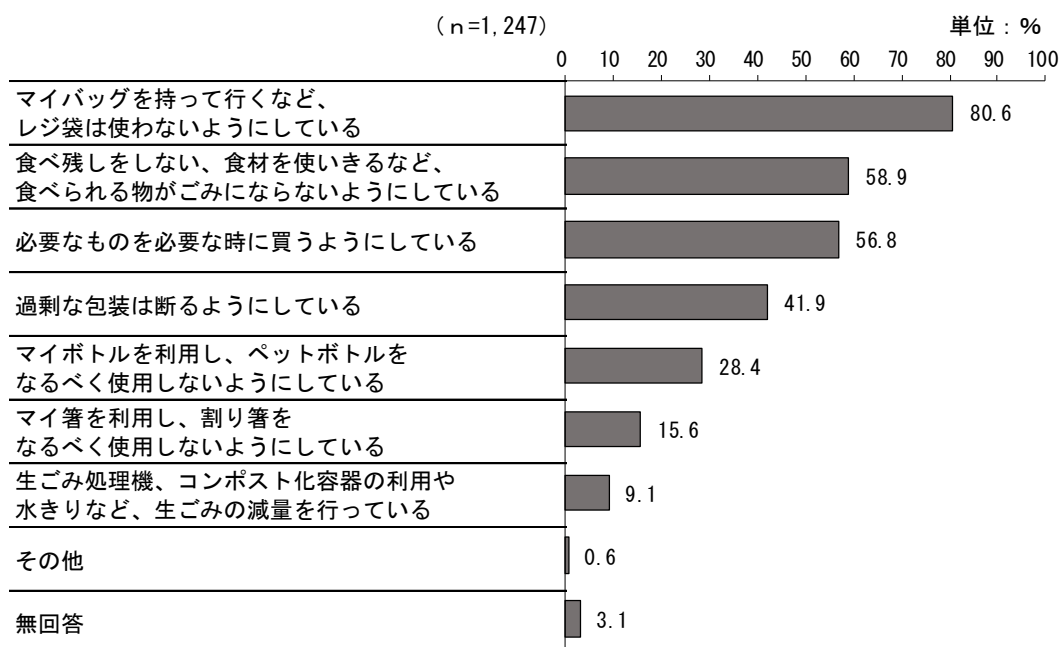
(1) 「3つのR」の実施状況

<リデュース>

◆ 「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」が約8割

問 40 【リデュース】ごみの減量化を進めるためには、まずREDUCE（リデュース）を心がけ、次にREUSE（リユース）に取り組み、最後にRECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。(〇はそれぞれいくつでも)

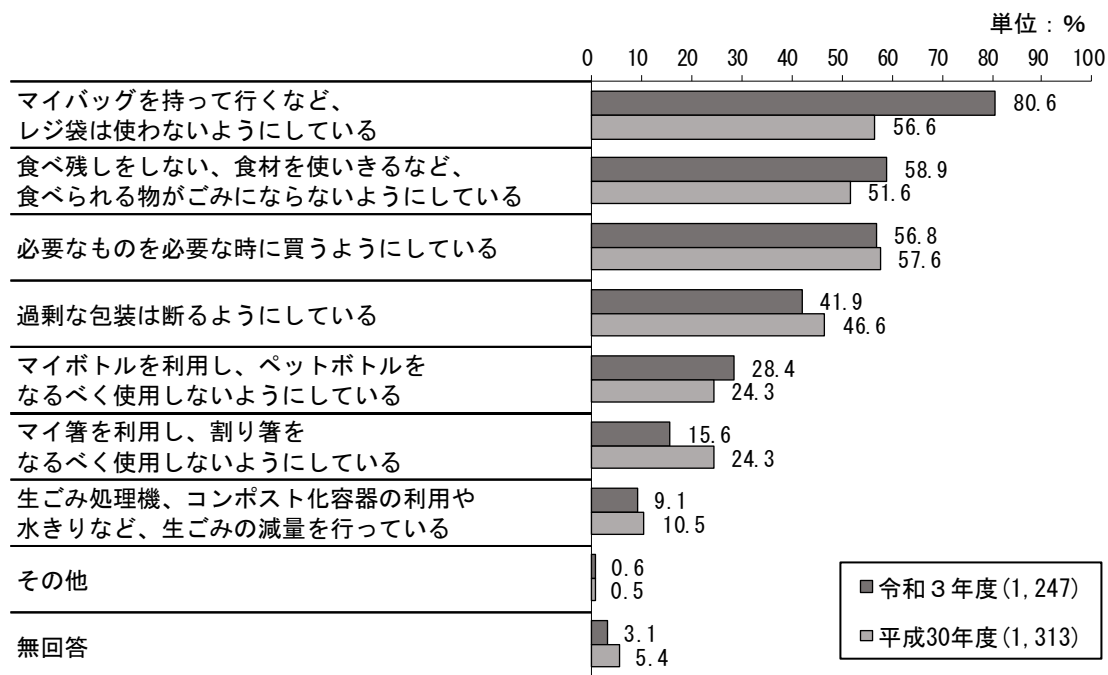
図表Ⅲ-24-1 「3つのR」の実施状況<リデュース>



「3つのR」の実施状況（リデュース）は、「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」（80.6%）が約8割と最も高く、次いで「食べ残しをしない、食材を使いきるなど、食べられる物がごみにならないようにしている」（58.9%）、「必要なものを必要な時に買うようにしている」（56.8%）と続いている。(図表Ⅲ-24-1)

【経年変化】

図表Ⅲ-24-2 「3つのR」の実施状況<リデュース>（経年変化）



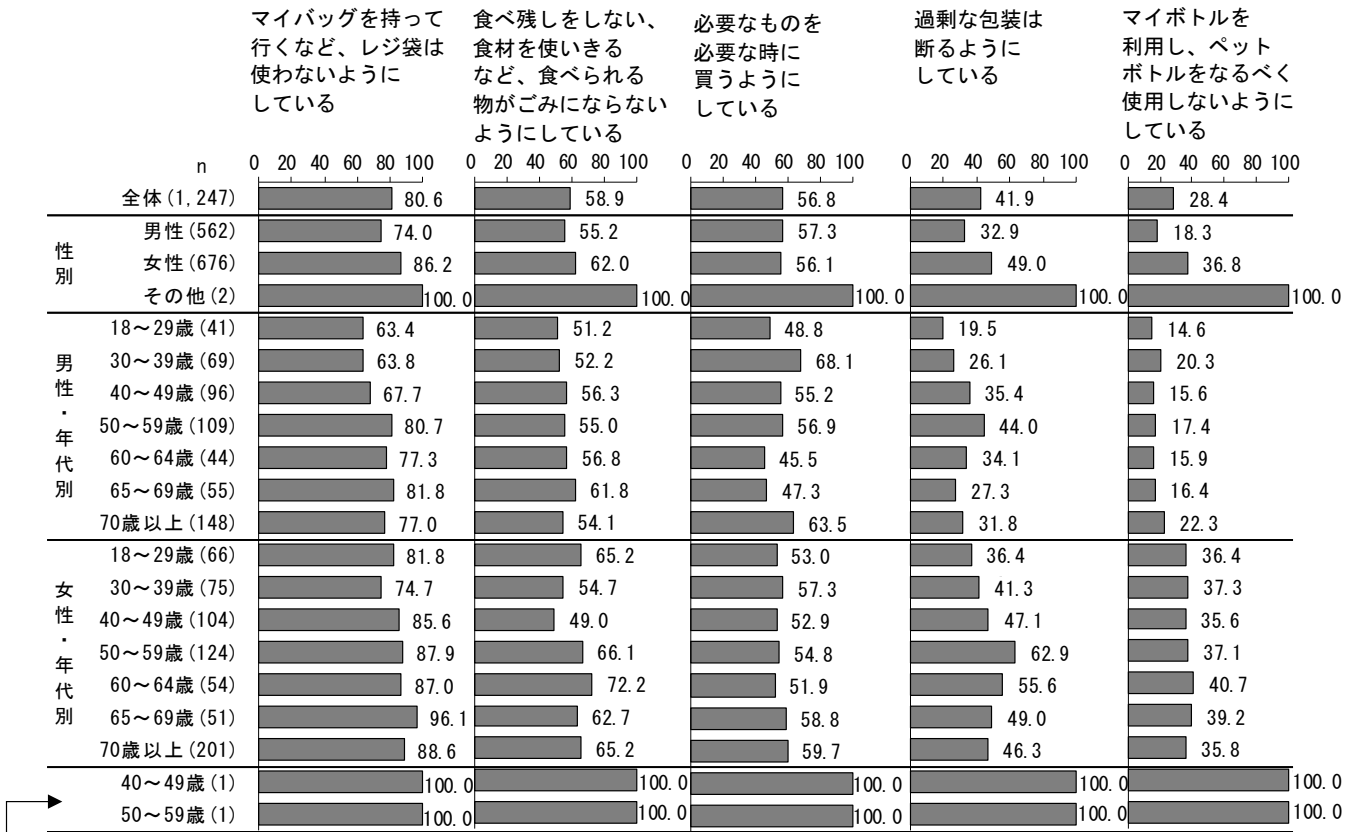
※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「マイボトル・マイ箸を利用し、ペットボトルや割り箸をなるべく使用しないようにしている」を「マイボトルを利用し、ペットボトルをなるべく使用しないようにしている」と「マイ箸を利用し、割り箸をなるべく使用しないようにしている」に分割した選択肢となっている。

「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」(80.6%)は、平成30年度調査(56.6%)より24.0ポイント、「食べ残しをしない、食材を使い切るなど、食べられる物がごみにならないようにしている」(58.9%)は、平成30年度調査(51.6%)より7.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「必要なものを必要な時に買うようにしている」(56.8%)は、平成30年度調査(57.6%)より0.8ポイント、「過剰な包装は断るようになっている」(41.9%)は、平成30年度調査(46.6%)より4.7ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅲ-24-2)

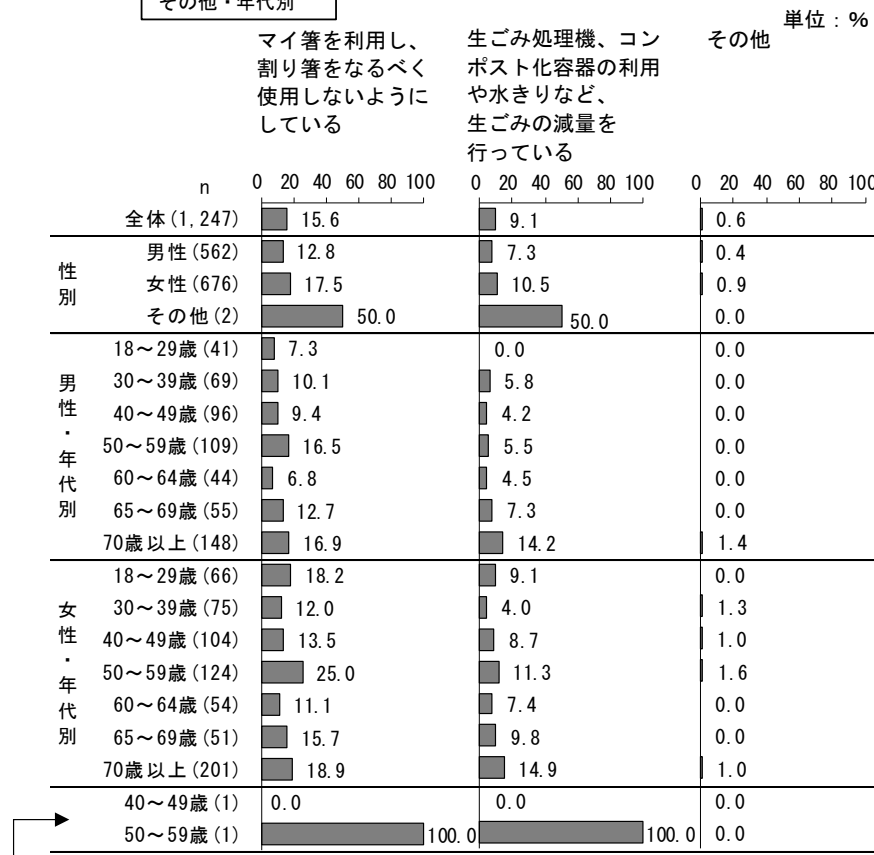
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-24-3 「3つのR」の実施状況<リデュース> (性別／性・年代別)

単位：%



その他・年代別



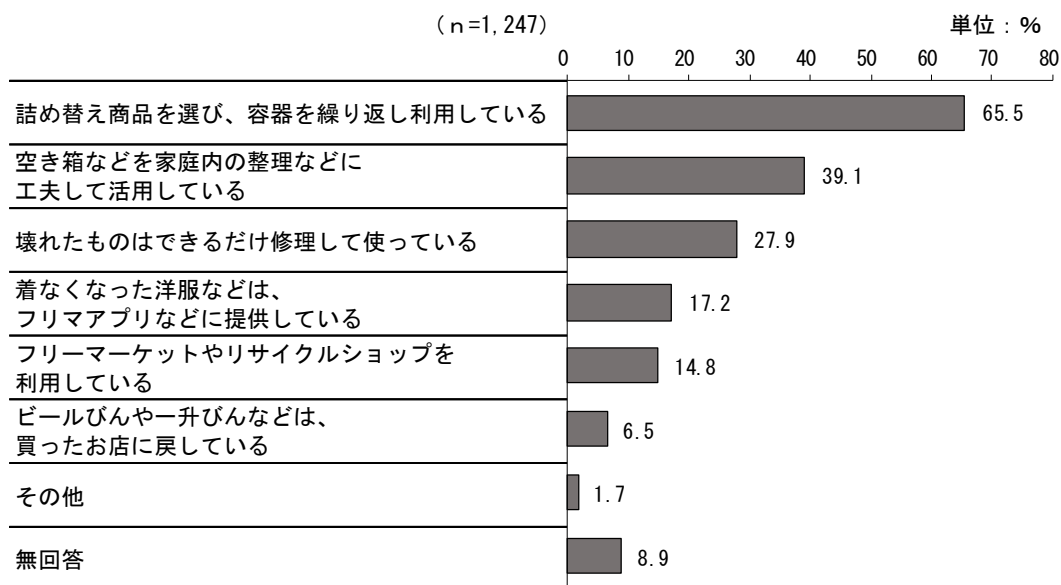
その他・年代別

性別でみると、「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」は、「女性」(86.2%)が「男性」(74.0%)より12.2ポイント高くなっている。
 性・年代別でみると、「過剰な包装は断るようにしている」は、「女性50～59歳」(62.9%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-24-3)

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が6割台半ば

問 40 【リユース】ごみの減量化を進めるためには、まずREDUCE（リデュース）を心がけ、次にREUSE（リユース）に取り組み、最後にRECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。（〇はそれぞれいくつでも）

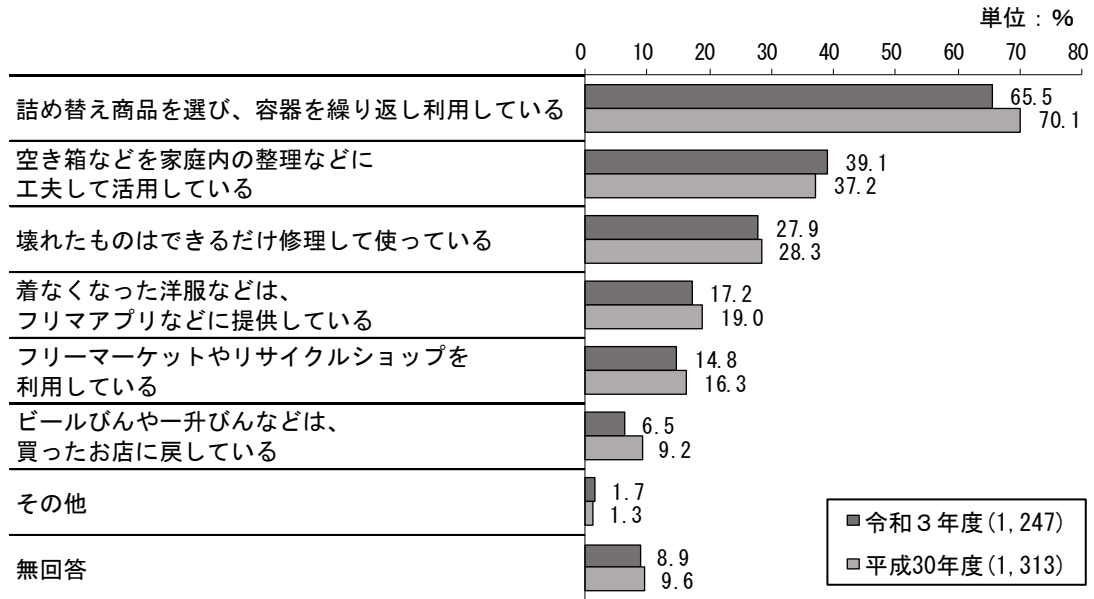
図表Ⅲ-24-4 「3つのR」の実施状況<リユース>



「3つのR」の実施状況（リユース）は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（65.5%）が6割台半ばと最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（39.1%）、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（27.9%）と続いている。（図表Ⅲ-24-4）

【経年変化】

図表Ⅲ-24-5 「3つのR」の実施状況<リユース>（経年変化）

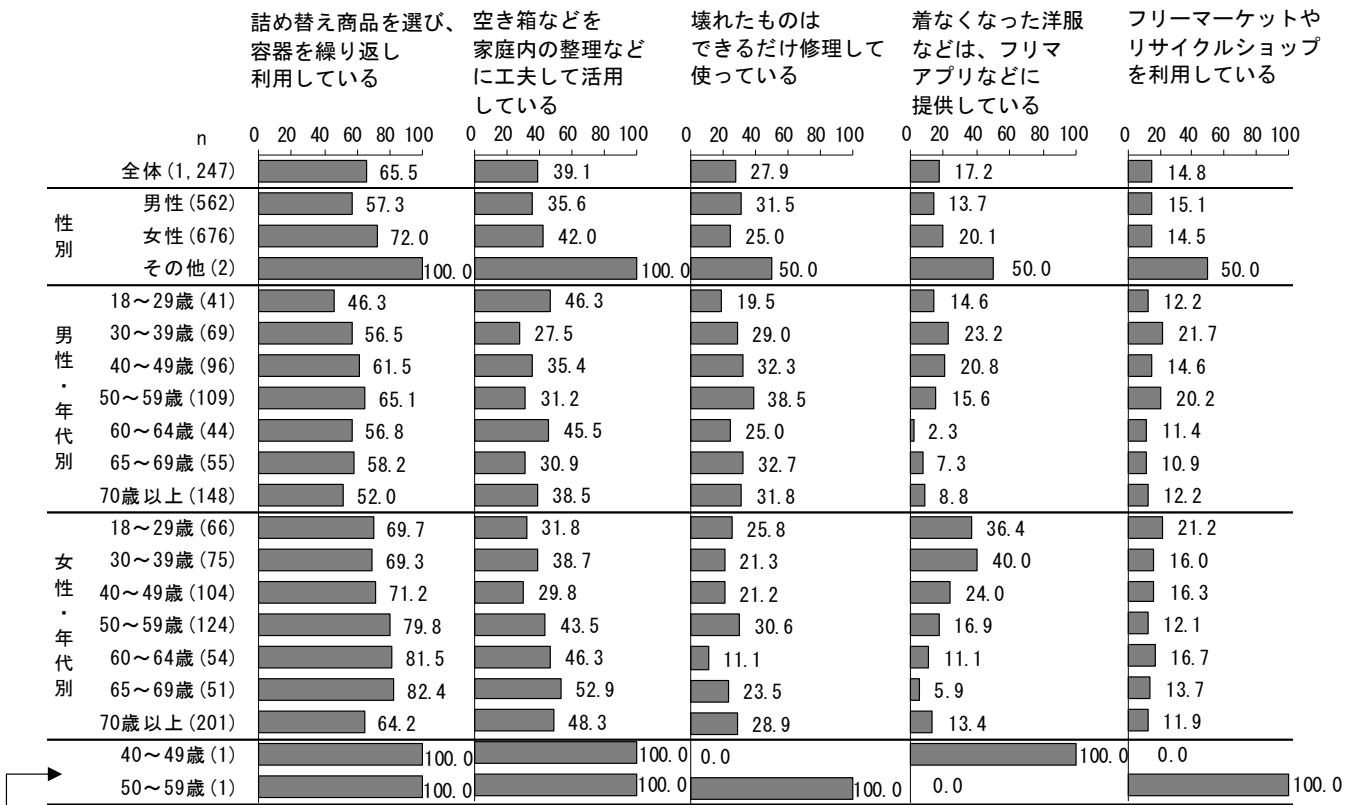


「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」(65.5%)は、平成30年度調査(70.1%)より4.6ポイント、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」(27.9%)は、平成30年度調査(28.3%)より0.4ポイント、それぞれ減少している。一方、「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」(39.1%)は、平成30年度調査(37.2%)より1.9ポイント増加している。(図表Ⅲ-24-5)

【性別／性・年代別】

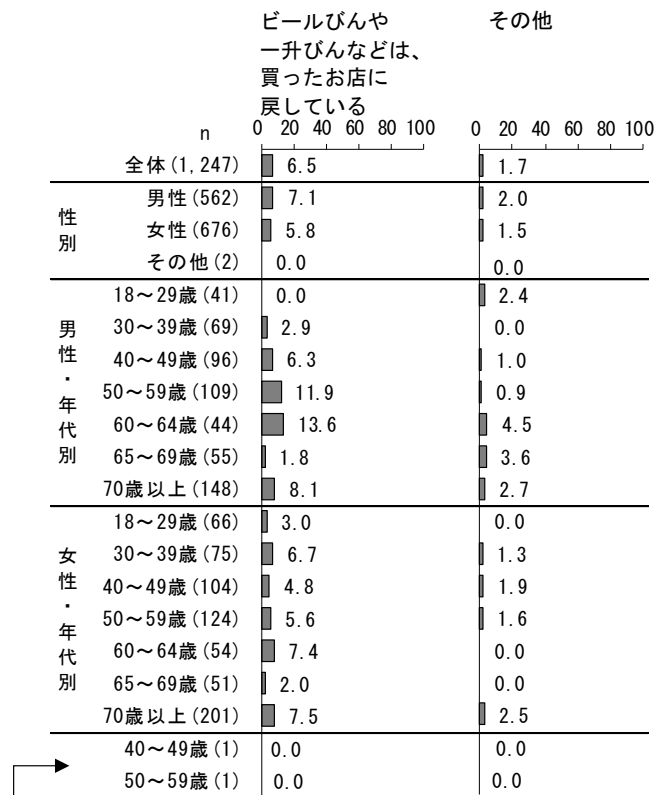
図表Ⅲ-24-6 「3つのR」の実施状況<リユース> (性別／性・年代別)

単位：%



その他・年代別

単位：%



その他・年代別

性別でみると、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」は、「女性」(72.0%)が「男性」(57.3%)より14.7ポイント高くなっている。

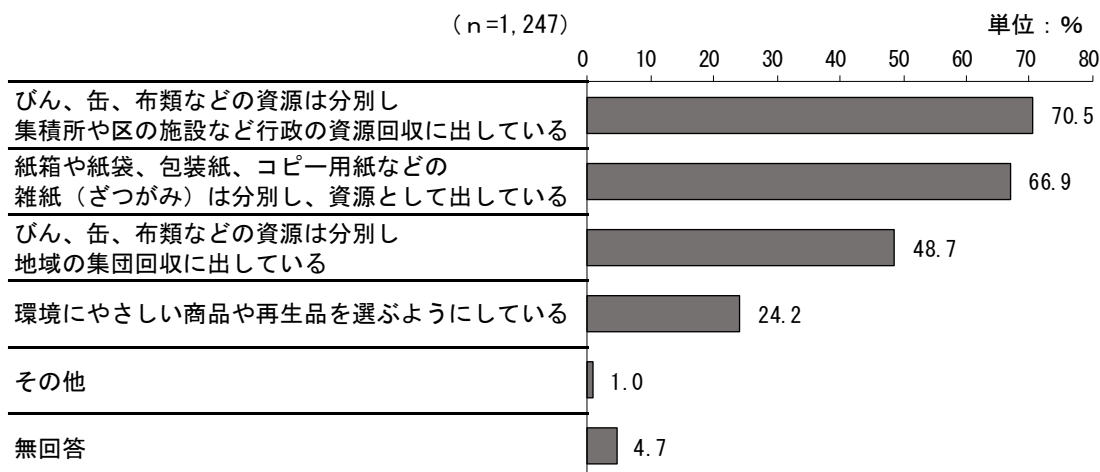
性・年代別でみると、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」は、「男性 50~59歳」(38.5%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-24-6)

<リサイクル>

◆ 「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」が約7割

問 40 【リサイクル】ごみの減量化を進めるためには、まずREDUCE（リデュース）を心がけ、次にREUSE（リユース）に取り組み、最後にRECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。（○はそれぞれいくつでも）

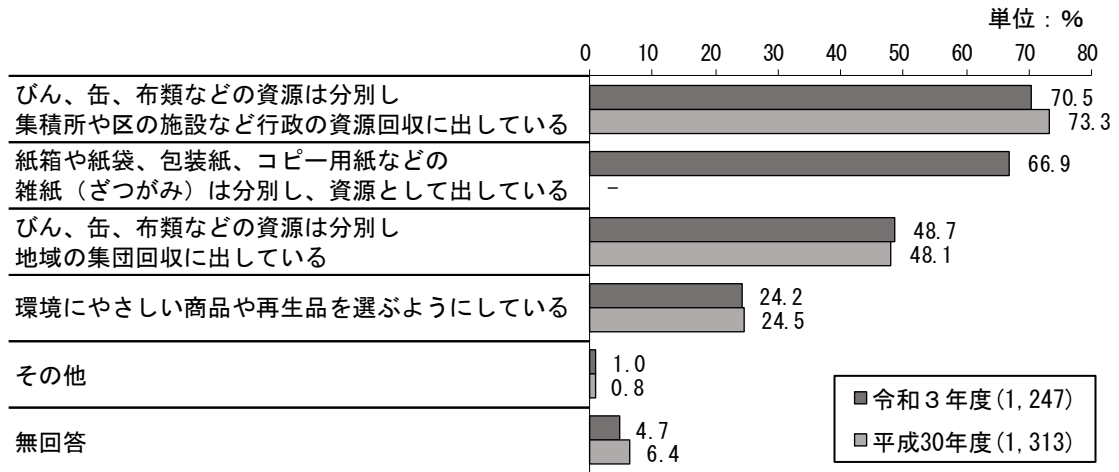
図表Ⅲ-24-7 「3つのR」の実施状況<リサイクル>



「3つのR」の実施状況（リサイクル）は、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（70.5%）が約7割と最も高く、次いで「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」（66.9%）、「びん、缶、布類などの資源は分別し地域の集団回収に出している」（48.7%）と続いている。（図表Ⅲ-24-7）

【経年変化】

図表Ⅲ-24-8 「3つのR」の実施状況<リサイクル>（経年変化）



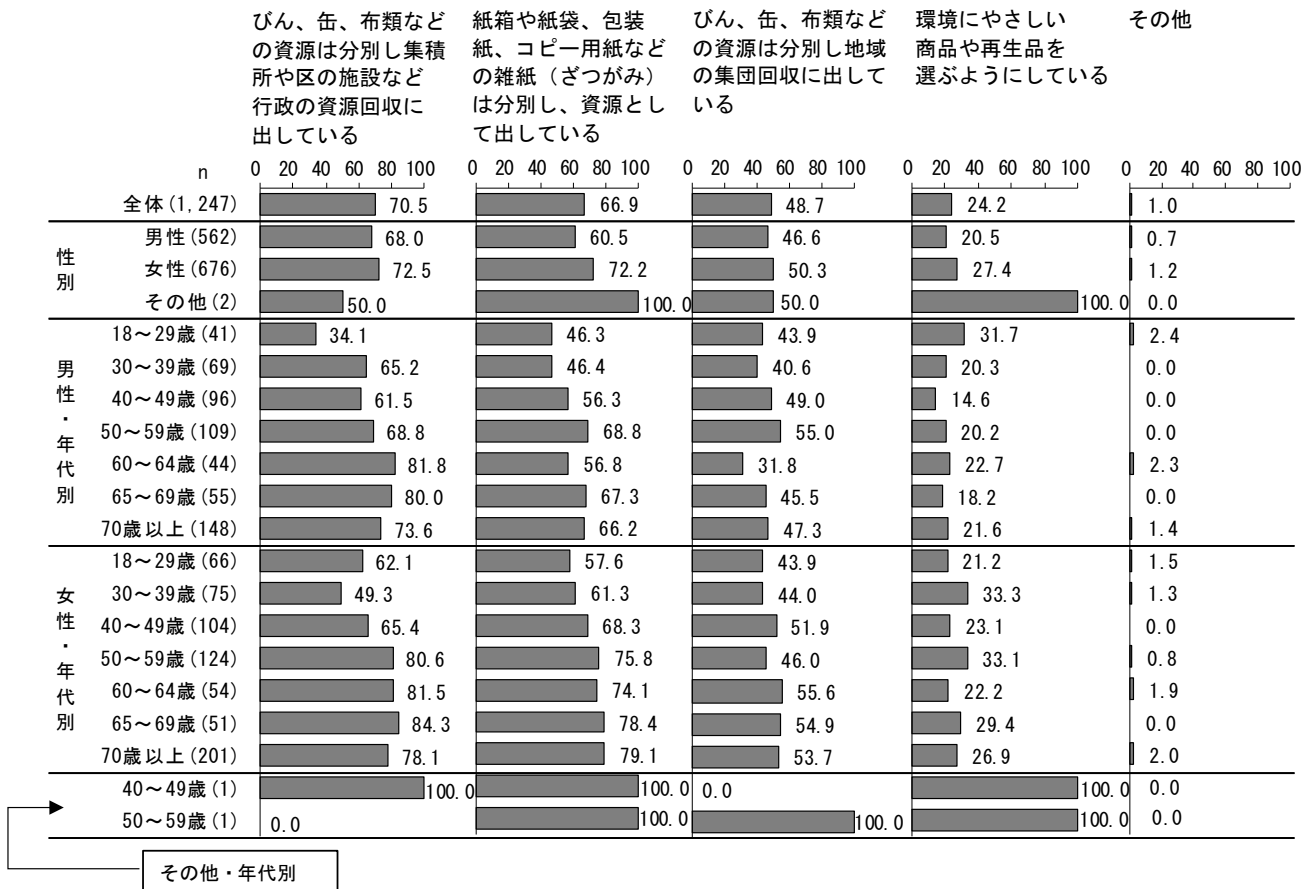
※ 令和3年度調査では、選択肢「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」を新たに追加した。

「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（70.5%）は、平成30年度調査（73.3%）より2.8ポイント、「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」（24.2%）は、平成30年度調査（24.5%）より0.3ポイント、それぞれ減少している。一方、「びん、缶、布類などの資源は分別し地域の集団回収に出している」（48.7%）は、平成30年度調査（48.1%）より0.6ポイント増加している。（図表Ⅲ-24-8）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-24-9 「3つのR」の実施状況<リサイクル> (性別／性・年代別)

単位：%



性別で見ると、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」は、「女性」(72.5%)が「男性」(68.0%)より4.5ポイント、「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙(ざつがみ)は分別し、資源として出している」は、「女性」(72.2%)が「男性」(60.5%)より11.7ポイント、それぞれ高くなっている。

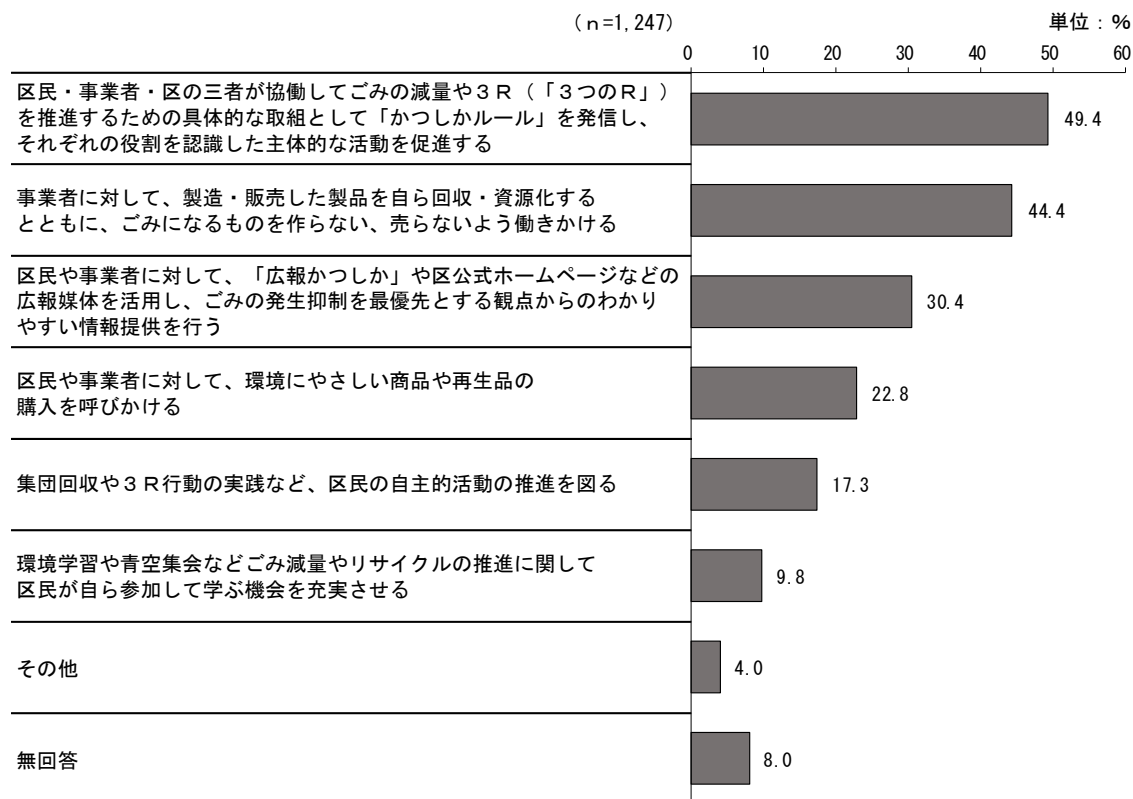
性・年代別で見ると、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」は、「女性65～69歳」(84.3%)が最も高くなっている。また、「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙(ざつがみ)は分別し、資源として出している」は、「女性70歳以上」(79.1%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-24-9)

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと

- ◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が5割弱

問 41 今後、葛飾区がごみの減量やリサイクルを推進するに当たって、より一層重点を置くべきだと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

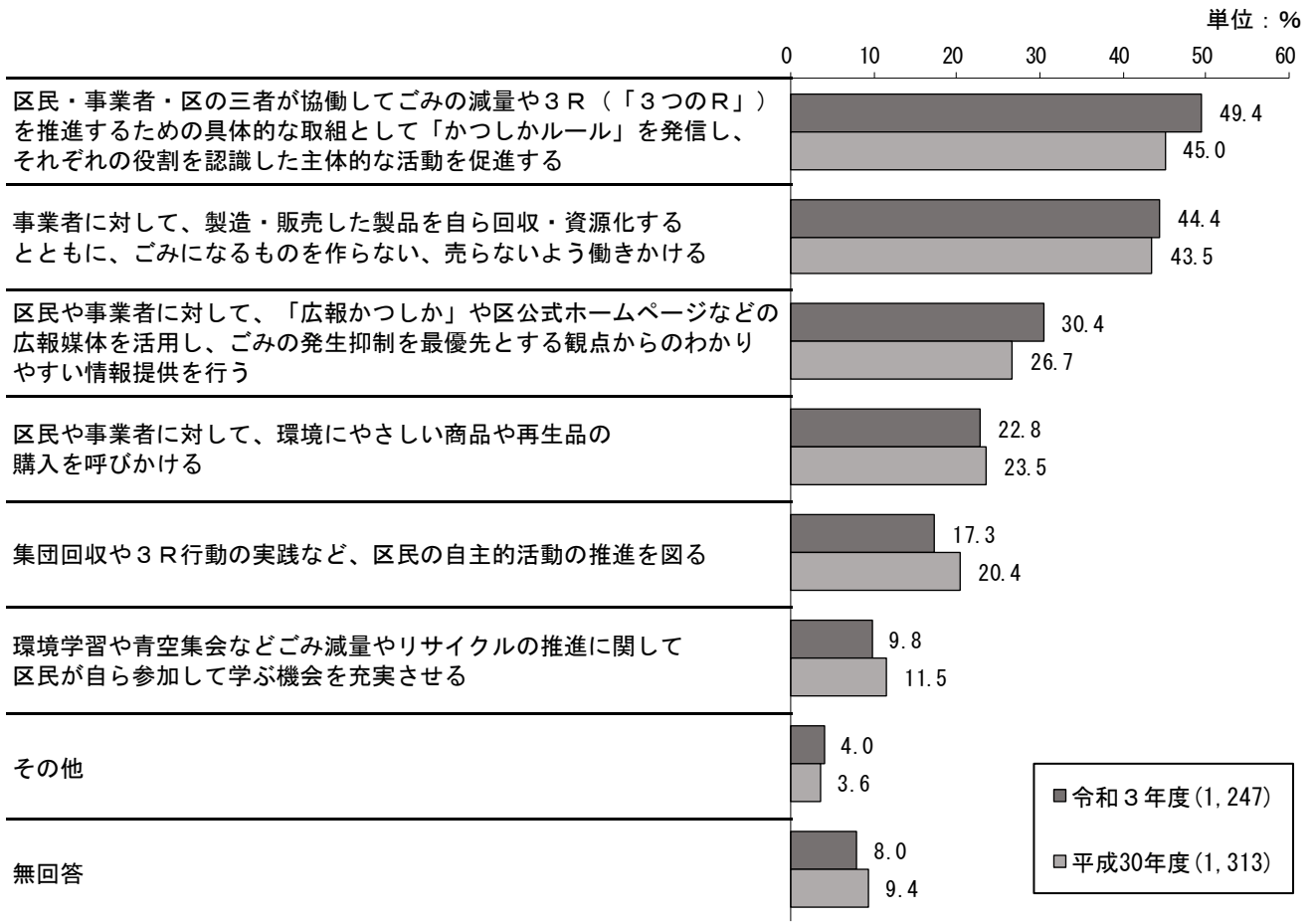
図表Ⅲ-24-10 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと



ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」(49.4%)が5割弱と最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」(44.4%)、「区民や事業者に対して、『広報かつしか』や区ホームページなどの広報媒体を活用し、発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」(30.4%)と続いている。(図表Ⅲ-24-10)

【経年変化】

図表Ⅲ-24-11 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと（経年変化）



「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3R（「3つのR」）を推進するための具体的な取組として「かつしかルール」を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」（49.4%）は、平成30年度調査（45.0%）より4.4ポイント、「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」（44.4%）は、平成30年度調査（43.5%）より0.9ポイント、「区民や事業者に対して、「広報かつしか」や区公式ホームページなどの広報媒体を活用し、ごみの発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」（30.4%）は、平成30年度調査（26.7%）より3.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける」（22.8%）は、平成30年度調査（23.5%）より0.7ポイント減少している。

（図表Ⅲ-24-11）

【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-24-12 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと
(性別／性・年代別)

単位：%

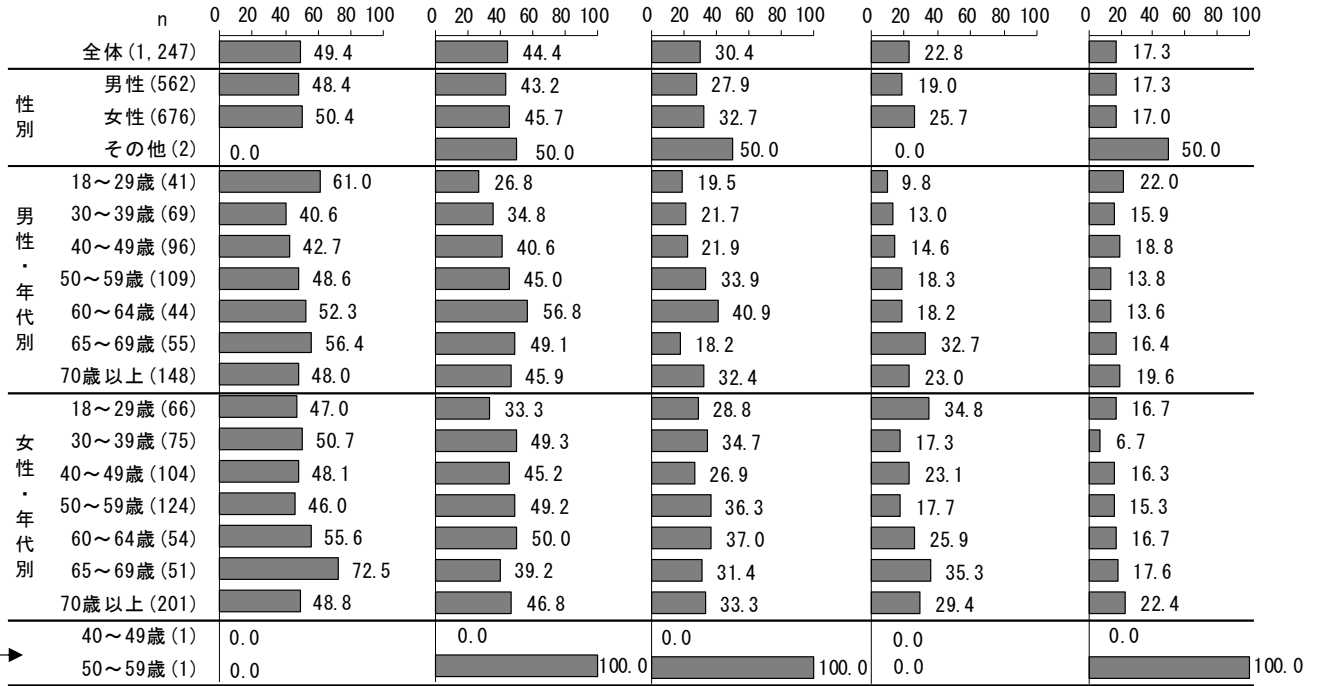
区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として「かつしかルール」を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する

事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける

区民や事業者に対して、「広報かつしか」や区公式ホームページなどの広報媒体を活用し、ごみの発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う

区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける

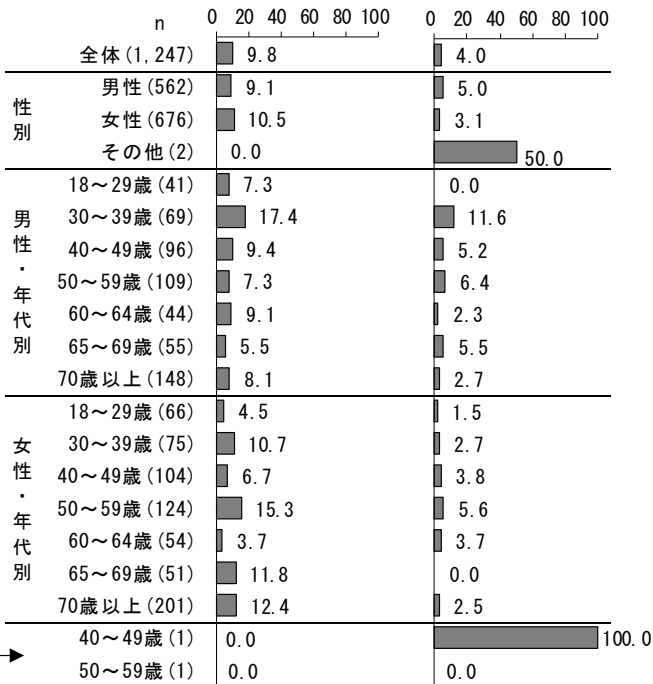
集団回収や3R行動の実践など、区民の自主的活動の推進を図る



その他・年代別

単位：%

環境学習や青空集会
などごみ減量やリサイクルの推進に関して
区民が自ら参加して
学ぶ機会を充実させる
その他



その他・年代別

性別でみると、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3R（「3つのR」）を推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」は、「女性」（50.4%）が「男性」（48.4%）より2.0ポイント、「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」は、「女性」（45.7%）が「男性」（43.2%）より2.5ポイント、「区民や事業者に対して、『広報かつしか』や区公式ホームページなどの広報媒体を活用し、ごみの発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う」は「女性」（32.7%）が「男性」（27.9%）より4.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3R（「3つのR」）を推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」は、「女性 65～69歳」（72.5%）が最も高くなっている。また、「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」は、「男性 60～64歳」（56.8%）が最も高くなっている。（図表Ⅲ-24-12）

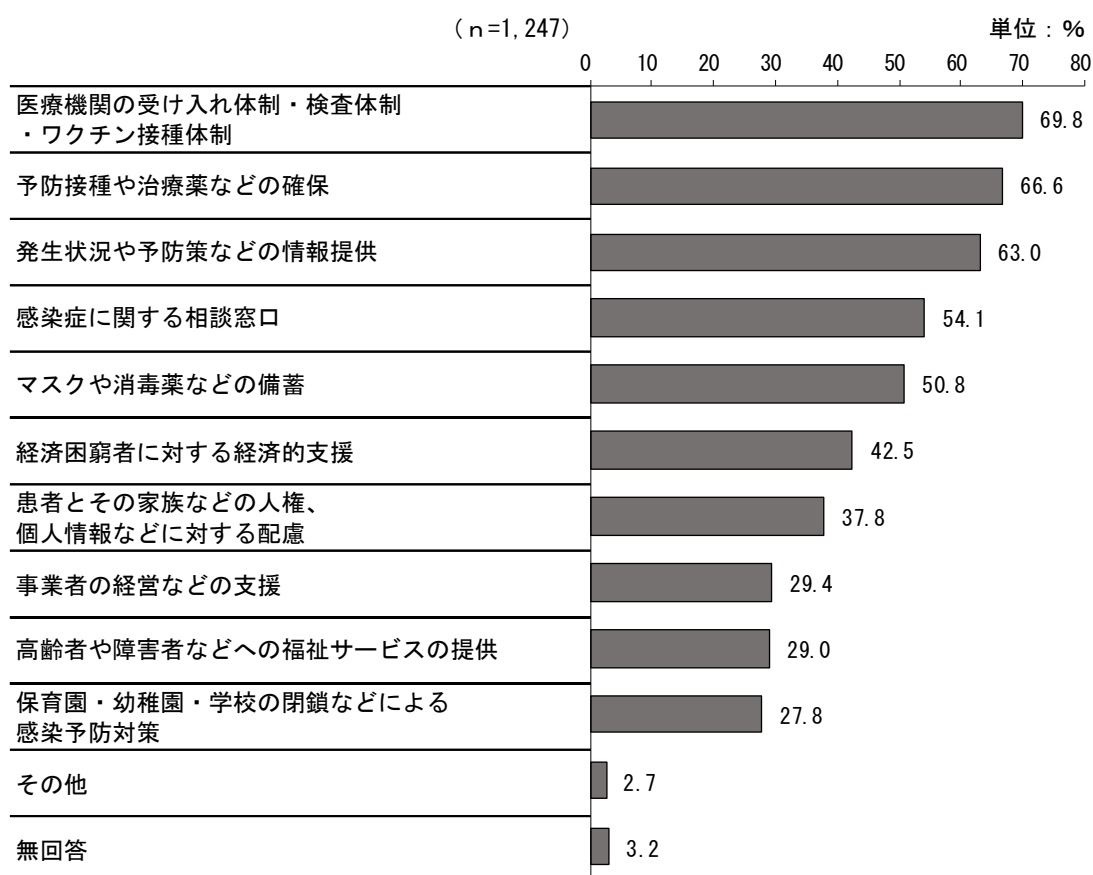
25. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと

◆ 「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」が7割弱

問 42 新型コロナウイルス感染症、エボラ出血熱やMERS、鳥インフルエンザなどの新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

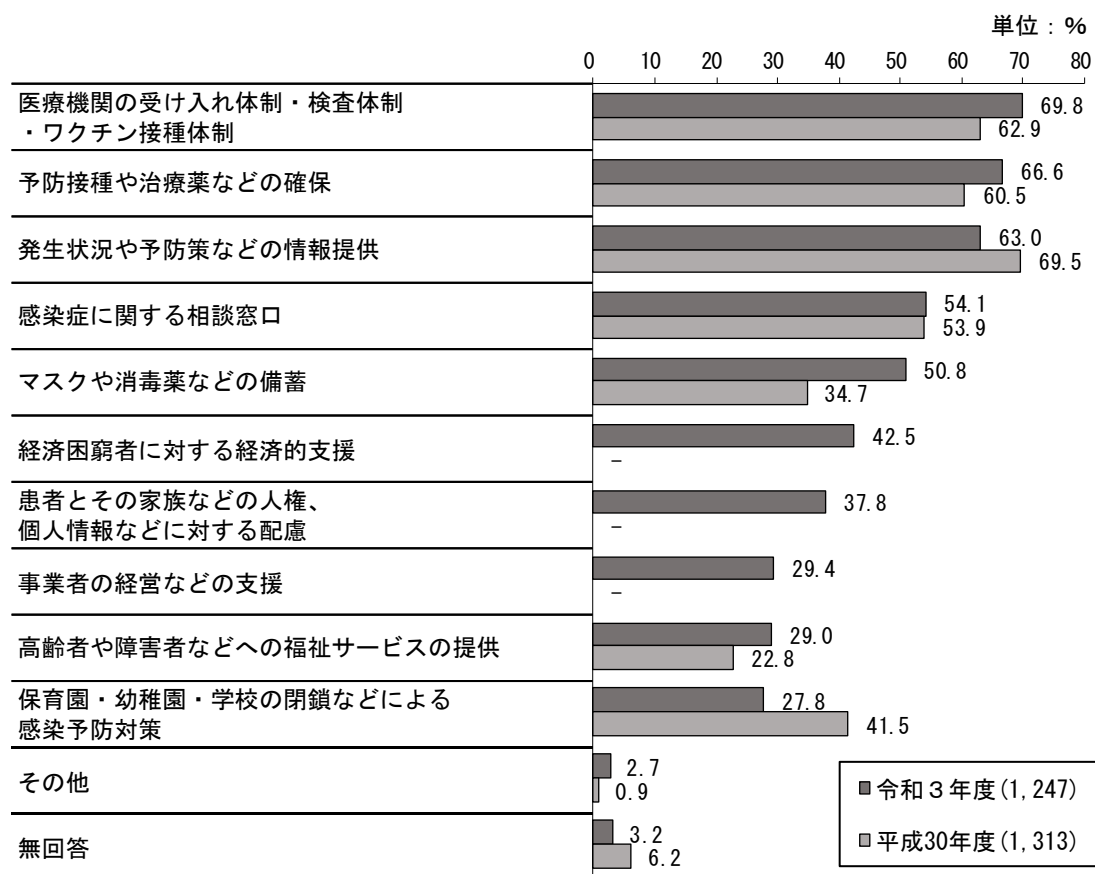
図表Ⅲ－25－1 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと



新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」(69.8%)が7割弱と最も高く、次いで「予防接種や治療薬などの確保」(66.6%)、「発生状況や予防策などの情報提供」(63.0%)と続いている。(図表Ⅲ－25－1)

【経年変化】

図表Ⅲ－25－2 新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うこと（経年変化）



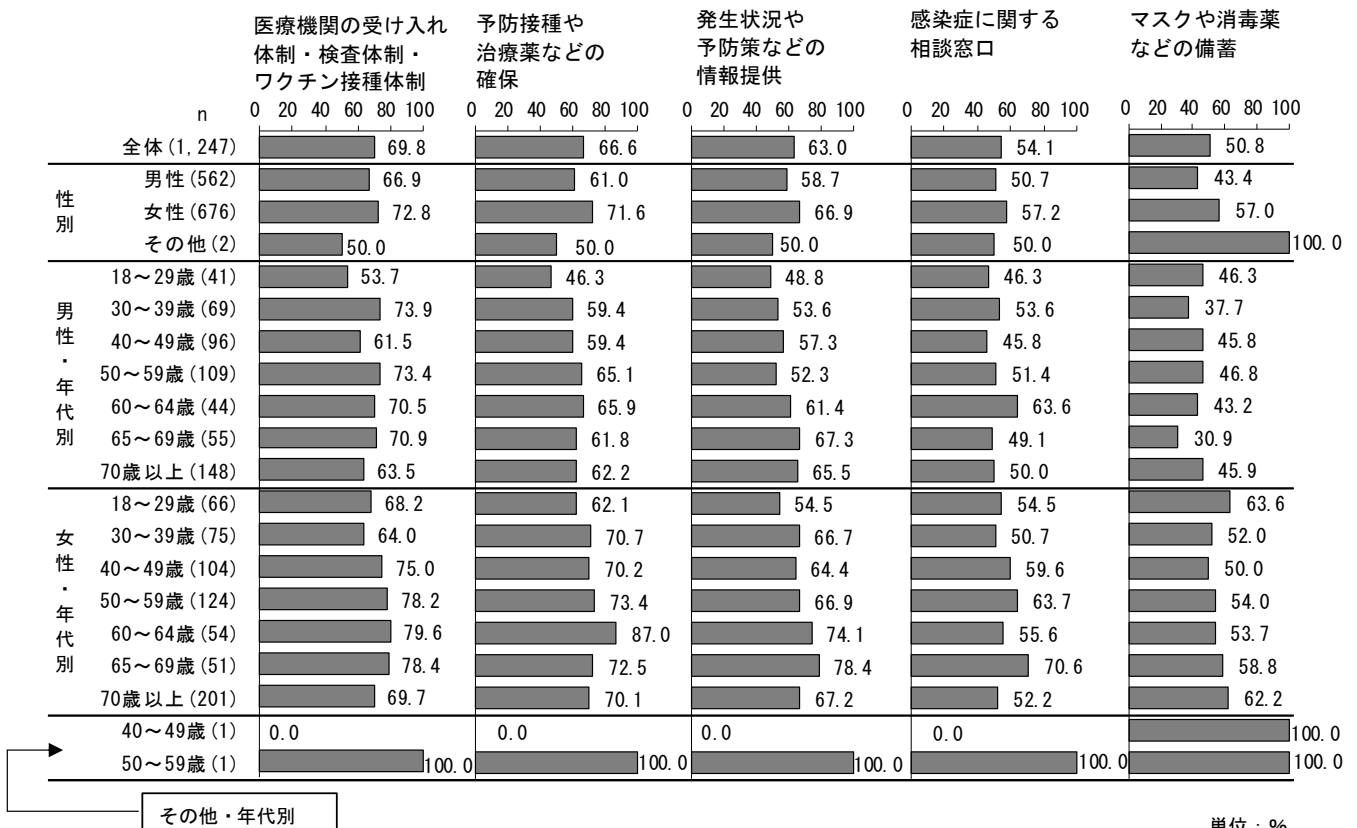
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「経済困窮者に対する経済的支援」「患者とその家族などの人権、個人情報などに対する配慮」「事業者の経営などの支援」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「医療機関の受け入れ体制」を「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」に変更した。

「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」（69.8%）は、平成30年度調査（62.9%）より6.9ポイント、「予防接種や治療薬などの確保」（66.6%）は、平成30年度調査（60.5%）より6.1ポイント、「感染症に関する相談窓口」（54.1%）は、平成30年度調査（53.9%）より0.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「発生状況や予防策などの情報提供」（63.0%）は、平成30年度調査（69.5%）より6.5ポイント減少している。（図表Ⅲ－25－2）

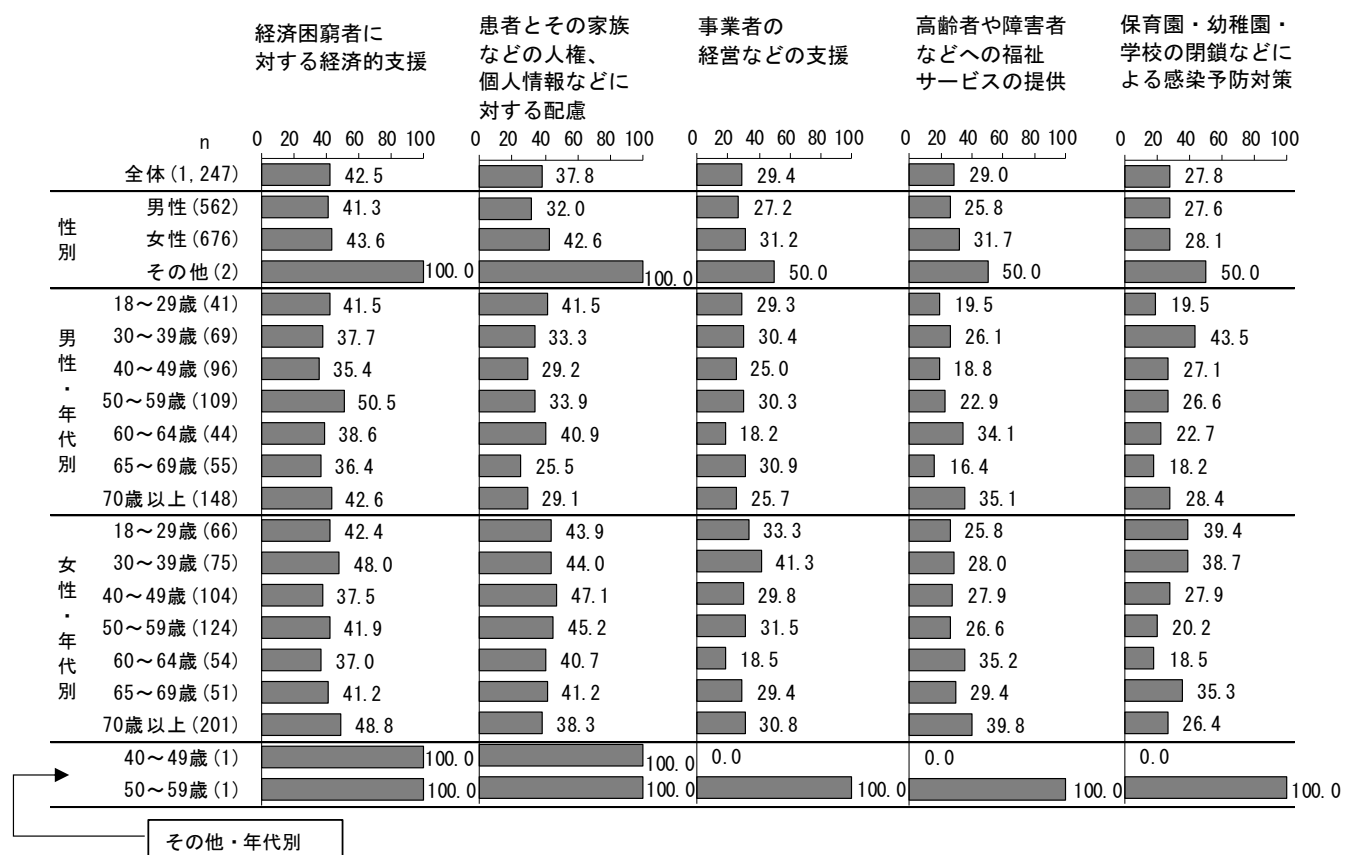
【性別／性・年代別】

図表Ⅲ-25-3 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと
(性別／性・年代別)

単位：％



単位：％

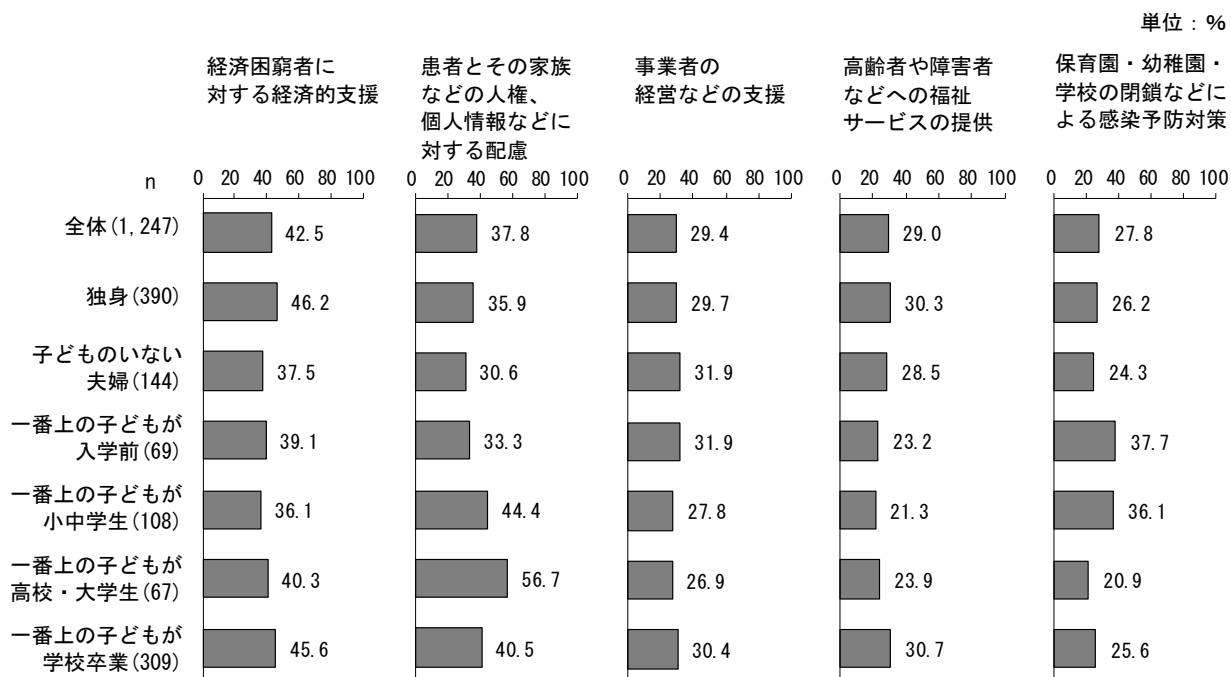
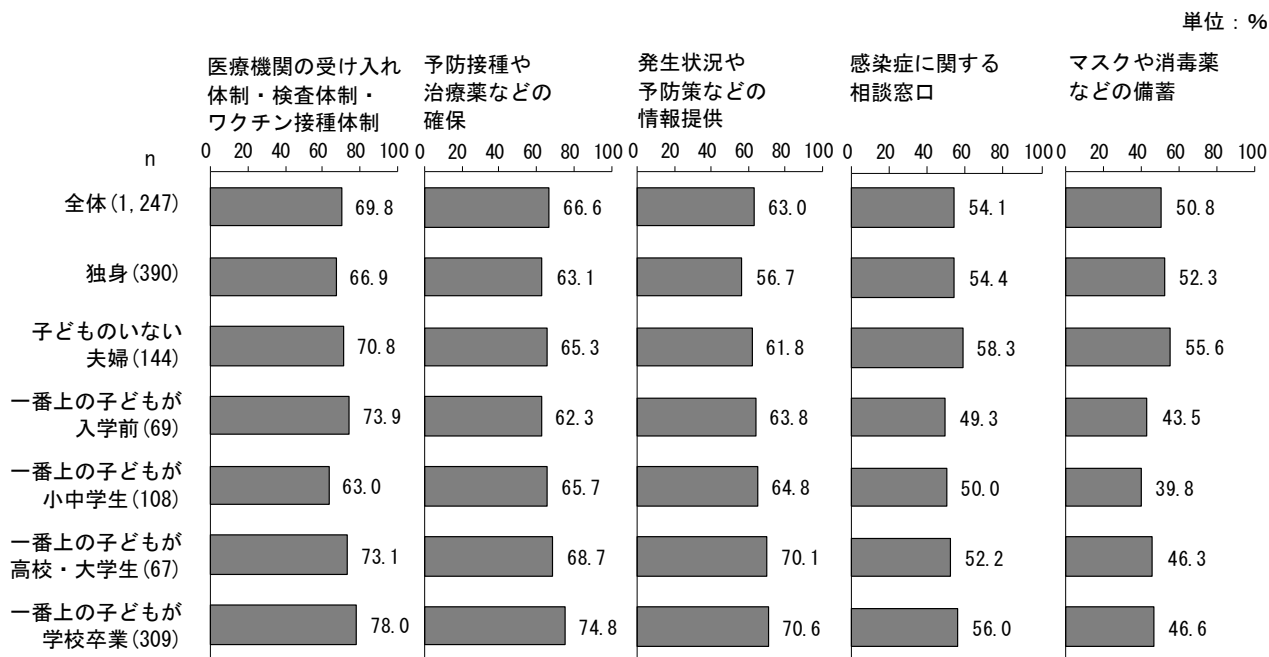


性別で見ると、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」は、「女性」(72.8%)が「男性」(66.9%)より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「予防接種や治療薬などの確保」は、「女性60～64歳」(87.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅲ-25-3)

【ご自身の状況別】

図表Ⅲ-25-4 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと
(ご自身の状況別)



ご自身の状況別でみると、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」は、「一番上の子どもが学校卒業」(78.0%)が最も高く、次いで「一番上の子どもが入学前」(73.9%)、「一番上の子どもが高校・大学生」(73.1%)、と続いている。また、「予防接種や治療薬などの確保」は、「一番上の子どもが学校卒業」(74.8%)が最も高く、次いで「一番上の子どもが高校・大学生」(68.7%)、「一番上の子どもが小中学生」(65.7%)と続いている。(図表Ⅲ-25-4)

IV 学生意識調査

i. 調査の概要

1. 学生意識調査の目的

本調査は、区政の各分野について葛飾区在住・在学の高校生・大学生の意識や意向などを把握し、今後の区政運営の資料とすることを目的としたものである。

2. 学生意識調査の内容

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 定住性 | (13) 高齢社会への対応 |
| (2) 区政への関心 | (14) 男女平等社会の実現 |
| (3) 住民参加 | (15) 同和問題 |
| (4) 広報媒体 | (16) 産業 |
| (5) I T | (17) 観光 |
| (6) 社会貢献活動 | (18) 国際 |
| (7) 地域貢献活動に対する支援 | (19) 防災 |
| (8) 生涯学習 | (20) 公園・河川敷 |
| (9) 健康 | (21) 道路 |
| (10) 高齢者支援 | (22) 環境 |
| (11) 障害者支援 | (23) ごみの減量・リサイクル |
| (12) 子育て | (24) 感染症対策 |

3. 学生意識調査設計

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査対象 | 区内の高校・大学に通う区民 |
| (2) 標本数 | 730 |
| (3) 調査方法 | 学校の協力による調査票配布・回収
(調査協力／都立葛飾商業高等学校、都立葛飾総合高等学校、都立葛飾野高等学校、都立農産高等学校、都立南葛飾高等学校、共栄学園高等学校、修徳高等学校、東京聖栄大学、東京理科大学) |
| (4) 調査時期 | 令和3年6月1日～6月30日 |

4. 学生意識調査機関

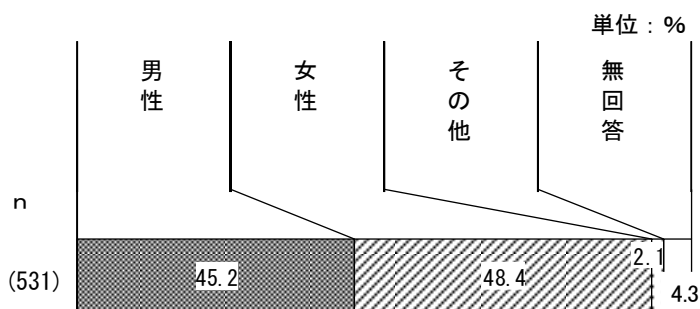
株式会社都市計画21

5. 学生意識調査回収結果

標本数	有効回答数	有効回収率
730	531	72.7%

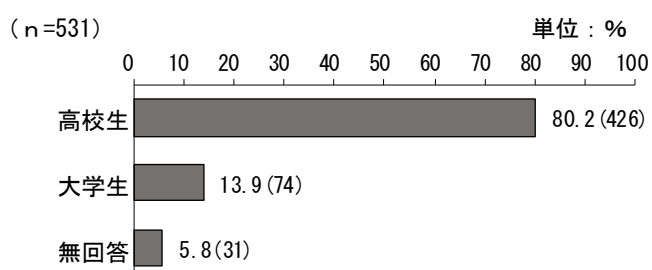
ii. 調査回答者のプロフィール

(1) 性別



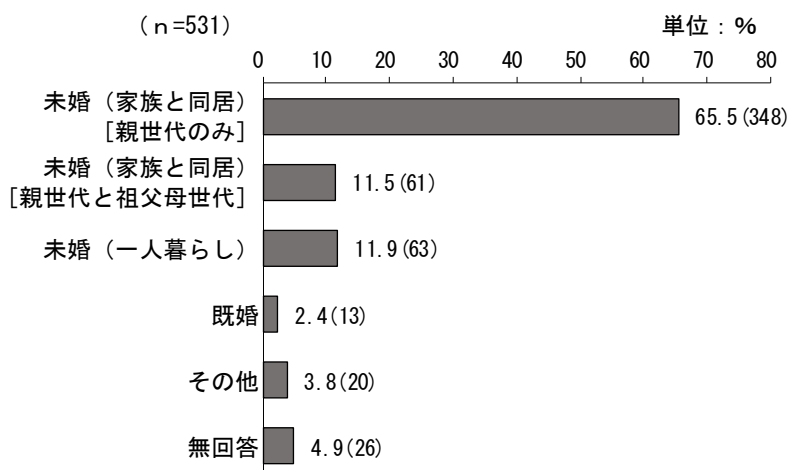
調査回答者の性別は、「男性」(45.2%) が4割台半ば、「女性」(48.4%) が5割近く、「その他」(2.1%) が1割未満となっている。

(2) 学校区分



調査回答者の学校区分は、「高校生」(80.2%) が約8割、「大学生」(13.9%) が1割強となっている。

(3) 結婚の状況 (家族構成)



調査回答者の結婚の状況(家族構成)は、「未婚 (家族と同居) [親世代のみ]」(65.5%) が6割台半ばと最も高く、次いで「未婚 (一人暮らし)」(11.9%)、「未婚 (家族と同居) [親世代と祖父母世代]」(11.5%) と続いている。

iii. 調査結果の詳細

<調査結果の要約>

1. 定住性

(1) 居住年数 (問1 259 ページ)

◆ 『15年以上』が6割台半ば

葛飾区の居住年数は、「15年以上」(15.4%)と「生まれた時から(15年以上)」(50.1%)を合わせた『15年以上』(65.5%)が6割台半ばとなっている。

(2) 定住意向 (問2 260 ページ)

◆ 『今後も葛飾区に住むつもり』が6割近く

葛飾区に対する定住意向は、「当分の間は住むつもり」(36.3%)が最も高く、これに「住み続けるつもり」(22.2%)を合わせた『今後も葛飾区に住むつもり』(58.5%)は6割近くとなっている。

一方、「区外へ移るつもり」(7.9%)は1割未満となっている。

(2-1) 住み続けたい理由 (問2-1 261 ページ)

◆ 「生まれ育った地域だから」、「学校が近いから」、「持ち家があるから」の順

葛飾区に住み続けたい主な理由は、「生まれ育った地域だから」(42.1%)が4割強と最も高く、次いで「学校が近いから」(40.5%)、「持ち家があるから」(37.0%)と続いている。

(2-2) 区外へ移りたい理由 (問2-2 263 ページ)

◆ 「持ち家でないから」、「治安が悪いから」が最多

区外へ移りたい主な理由は、「持ち家でないから」(9.5%)と「治安が悪いから」(9.5%)が1割弱と同率で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便だから」(7.1%)と「自然環境が悪いから」(7.1%)と「災害時に不安な地域だから」(7.1%)と「地元へ帰りたいから」(7.1%)が同率で続いている。

(3) 愛着の有無 (問3 265 ページ)

◆ 『愛着がある』が6割近く

葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというと思う」(33.1%)が最も高く、これと「そう思う」(25.2%)を合わせた『愛着がある』(58.3%)は6割近くとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(4.3%)と「そう思わない」(6.4%)を合わせた『愛着がない』(10.7%)は、約1割となっている。

(4) 誇りの有無 (問3 266 ページ)

◆ 『誇りに思う』が4割近く

葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというと思う」(26.9%)が最も高く、これと「そう思う」(11.7%)を合わせた『誇りに思う』(38.6%)は4割近くとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(10.0%)と「そう思わない」(10.2%)を合わせた『誇りに思わない』(20.2%)は約2割となっている。

(5) 人に区を勧めたい意思 (問4 267 ページ)

◆ 『勧めたいと思う』が4割近く

人に区を勧めたい意思について、「どちらかというと思う」(27.9%)が最も高く、これと「そう思う」(9.2%)を合わせた『勧めたいと思う』(37.1%)は4割近くとなっている。

一方、「どちらかというと思わない」(14.5%)と「そう思わない」(13.2%)を合わせた『勧めたいと思わない』(27.7%)は3割近くとなっている。

(5-1) アピール事項 (問4-1 268 ページ)

◆ 「住みやすさ(子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい)」が5割近く

人に区を勧めるときのアピール事項は、「住みやすさ(子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい)」(47.2%)が5割近くと最も高く、次いで「葛飾区ゆかりのキャラクター(寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなど)」(14.7%)、「人の良さ(下町人情)」(12.7%)と続いている。

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

<子育て・福祉施設> (問5 (1) 270 ページ)

◆ 「保育園・認定こども園・幼稚園」が3割近く

整備・充実が必要な<子育て・福祉施設>は、「保育園・認定こども園・幼稚園」(27.5%)が3割近くと最も高く、次いで「児童館」(17.9%)、「スポーツジム」(17.1%)と続いている。

なお、「特にない」(26.2%)は3割近くとなっている。

<教育・文化・スポーツ施設> (問5 (2) 272 ページ)

◆ 「運動場(野球・サッカー・テニスなど)」が約4割

整備・充実が必要な<教育・文化・スポーツ施設>は、「運動場(野球・サッカー・テニスなど)」(40.9%)が約4割と最も高く、次いで「体育館」(33.3%)、「図書館」(32.8%)と続いている。

なお、「特にない」(19.0%)は2割弱となっている。

<都市施設> (問5 (3) 274 ページ)

◆ 「自転車置き場」が3割台半ば

整備・充実が必要な<都市施設>は、「自転車置き場」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公園・児童遊園」(25.6%)、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(24.9%)と続いている。

(2) 区に力を入れてほしいもの (問6 276 ページ)

◆ 「防犯・治安対策」が3割近く

区に力を入れてほしいものは、「防犯・治安対策」(27.7%)が3割近くと最も高く、次いで「防災対策」(24.7%)、「生活環境対策(ごみ対策など)」(17.9%)と続いている。

3. 住民参加

(1) 区政への参加意向（問7 278 ページ）

◆ 『参加したい』が2割近く

区政への参加意向は、「わからない」（43.7%）が4割強と最も高く、「参加するつもりはない」（38.0%）は4割近くとなっている。

一方、「機会があったら参加したい」（4.5%）と「参加したい気持ちはある」（11.9%）を合わせた『参加したい』（16.4%）は2割近くとなっている。

(1-1) 区政への参加方法（問7-1 279 ページ）

◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」が5割近く

区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」（48.3%）が5割近くと最も高く、次いで「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」（37.9%）、「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」（11.5%）と続いている。

4. 広報媒体

(1) 区の情報の入手方法（問8 281 ページ）

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が3割近く

区の情報の入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」（28.8%）が3割近くと最も高く、次いで「ポスター（区広報掲示板）」（12.6%）、「口コミ（地域情報サイト・SNS（区公式を除く）・友人・知人など）」（10.7%）と続いている。

なお、「特になし」（40.9%）は約4割となっている。

(2) インターネットの利用状況（問9 283 ページ）

◆ 『利用している・利用したい』が9割強

インターネットの利用状況は、「利用している」（91.1%）が最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」（0.9%）を合わせた『利用している・利用したい』（92.0%）が9割強となっている。一方、「利用するつもりはない」（1.1%）は1割未満となっている。

(2-1) インターネットの利用方法（問9-1 284 ページ）

◆ 「スマートフォンを利用」が10割近く

インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」（98.1%）が10割近くと最も高く、次いで「パソコンを利用」（40.1%）、「タブレット端末を利用」（24.6%）と続いている。

5. IT

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況（問 10 285 ページ）

◆ 「はい」が1割未満

「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」（97.4%）が10割近くとなっており、「はい」（0.9%）は1%未満となっている。

(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（問 10-1 286 ページ）

◆ 「防災・防犯」が最多

『葛飾区総合アプリ』のよく利用する機能は平成30年度調査では、「AR機能」（50.0%）が最も高くなっていたが、今回の調査では「防災・防犯」（40.0%）が最も高くなっている。

6. 社会貢献活動

(1) 社会貢献活動への参加（問 11 288 ページ）

◆ 『社会貢献活動の経験あり』が3割強

社会貢献活動への参加は、「現在している」（1.7%）と「現在はしていないが、過去にしたことがある」（30.1%）を合わせた『社会貢献活動の経験あり』（31.8%）が3割強となっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」（27.9%）は3割近くとなっている。一方、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」（37.5%）は、4割近くとなっている。

(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動（問 11-1 290 ページ）

◆ 「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が4割強

現在参加している・参加してみたい社会貢献活動は、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」（42.0%）が4割強と最も高く、次いで「自然環境保護に関する活動」（20.5%）、「動物愛護に関する活動」（18.0%）と続いている。

(1-2) 社会貢献活動をしたくない理由（問 11-2 292 ページ）

◆ 「忙しくて時間がないから」が6割近く

社会貢献活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」（56.8%）が6割近くと最も高く、次いで「興味や関心がないから」（35.7%）、「きっかけがないから」（28.6%）と続いている。

7. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援（問 12 294 ページ）

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が3割強

地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」（31.8%）が3割強と最も高く、次いで「活動の機会の確保」（19.2%）、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」（18.6%）と続いている。

8. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況（問13 296ページ）

◆ 「趣味的なもの」が5割近く

最近1年間における生涯学習の実施状況は、「趣味的なもの」(47.8%)が5割近くと最も高く、次いで「学校（高校、専門・各種学校、大学、大学院）の正規課程での学習」(45.4%)、「健康・スポーツ（健康法、栄養、ジョギング、水泳、体操、球技など）」(33.1%)と続いている。

なお、「特になし」(17.7%)は2割近くとなっている。

(2) 生涯学習を充実させるために重要なこと（問14 298ページ）

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が5割強

生涯学習を充実させるために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(51.8%)が5割強と最も高く、次いで「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(20.9%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(16.6%)と続いている。

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（問15 300ページ）

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」が5割強

誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」(52.0%)が5割強と最も高く、次いで「既存スポーツ施設の整備（活動場所の拡張）」(38.4%)、「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(29.8%)と続いている。

9. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（問16 302ページ）

◆ 「健康診査・がん検診」が3割台半ば

健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」(35.8%)が3割台半ばと最も高く、次いで「飲み水の安全」(33.1%)、「食品の安全」(30.7%)と続いている。

10. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと（問17 304ページ）

◆ 『自宅で生活』が4割台半ば

介護生活に望むことは、「わからない」(29.4%)が3割弱と最も高く、次いで「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」(27.7%)、「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」(18.1%)と続いている。また、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい」(27.7%)と「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい」(18.1%)を合わせた『自宅で生活』(45.8%)が4割台半ばとなっている。

11. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと（問 18 306 ページ）

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が約5割

障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(50.1%)が約5割と最も高く、次いで「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(46.1%)、「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(29.2%)と続いている。

12. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策（問 19 308 ページ）

◆ 「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」が3割台半ば

少子化対策における必要な施策は、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで「男性の家事や育児への参加の促進を啓発する」(34.7%)、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(32.4%)と続いている。

(2) 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（問 20 310 ページ）

◆ 「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」が7割近く

子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策は、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」(66.7%)が7割近くと最も高く、次いで「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」(24.1%)、「学童保育クラブ事業を推進する」(17.5%)と続いている。

13. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（問 21 312 ページ）

◆ 「バリアフリーのまちづくりを進める」が3割強

高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「バリアフリーのまちづくりを進める」(33.7%)が3割強と最も高く、次いで「高齢者の起業への助成や支援を行う」(26.7%)と「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」(26.7%)が同率で続いている。

(2) 民生委員・児童委員の認知度（問 22 314 ページ）

◆ 『知っている・会ったことがある』が1割未満

民生委員・児童委員の認知度は、「よく知っている」(4.1%)と「会ったことはあるが、よく知らない」(4.1%)を合わせた『知っている・会ったことがある』(8.2%)は1割未満となっている。

一方、「知らない」(75.5%)は7割台半ばとなっている。

14. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況（問 23 315 ページ）

◆ 『平等になっている』が3割近く

男女平等社会の進展状況は、「わからない」（33.7%）が3割強と最も高く、次いで「少しは平等になっている」（25.8%）、「十分平等になっている」（13.7%）と続いている。また、「十分平等になっている」（13.7%）と「かなり平等になっている」（12.6%）を合わせた『平等になっている』（26.3%）は3割近くとなっている。

(1-1) 男女の不平等を感じる点（問 23-1 316 ページ）

◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が4割近く

男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」（38.2%）が4割近くと最も高く、次いで「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」（35.5%）、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」（30.2%）と続いている。

15. 同和問題

(1) 同和問題の認知度（問 24 318 ページ）

◆ 「知っている」が4割強

同和問題の認知度は、「知っている」（42.9%）が4割強、「知らない」（54.8%）は5割台半ばとなっている。

(2) 同和問題の解決方法（問 25 319 ページ）

◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」が5割近く

同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」（47.8%）が5割近くと最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」（25.4%）、「どのようにしても差別はなくなる」（17.3%）と続いている。

16. 産業

(1) 商業振興について大切なこと（問 26（1） 320 ページ）

◆ 「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」が3割近く

商業振興について大切なことは、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」（27.5%）が3割近くと最も高く、次いで「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」（25.2%）、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービス、または、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」（22.2%）と続いている。

(2) 工業振興について大切なこと (問 26 (2) 322 ページ)

◆ 「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」が3割強

工業振興について大切なことは、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(32.2%)が3割強と最も高く、次いで「インターネットなどを活用した区内製造業のPRや販路拡大への取組」(24.1%)、「新規開業や新分野へ進出する企業への支援」(16.4%)と続いている。

(3) 農業振興について大切なこと (問 26 (3) 324 ページ)

◆ 「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」が3割強

農業振興について大切なことは、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(32.8%)が3割強と最も高く、次いで「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(28.1%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(19.2%)と続いている。

17. 観光

(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと (問 27 326 ページ)

◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が5割近く

葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(47.1%)が5割近くと最も高く、次いで「イベントの開催・充実」(29.9%)、「宿泊施設の充実」(27.9%)と続いている。

18. 国際

(1) 外国人(区民)に努力してほしいこと (問 28 328 ページ)

◆ 「生活ルールの遵守」が4割強

外国人(区民)に努力してほしいことは、「生活ルールの遵守」(43.1%)が4割強と最も高く、次いで「日本の文化や習慣などの理解」(38.4%)、「日本語の理解」(20.3%)と続いている。

(2) 日本人区民が努力・工夫していくべきこと (問 29 329 ページ)

◆ 「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」が約4割

日本人区民が努力・工夫していくべきことは、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」(40.9%)が約4割と最も高く、次いで「自分の周囲にいる外国人(区民)をきちんと認識すること」(38.6%)、「やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること」(34.8%)と続いている。

19. 防災

(1) 日頃行っている防災対策（問 30 330 ページ）

◆ 「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」が約3割

日頃行っている防災対策は、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(30.3%)が約3割と最も高く、次いで「ハザードマップを確認している」(22.2%)、「家具などを固定し、転倒防止対策を行っている」(21.8%)と続いている。

(2) 居住地域における災害時の安全性（問 31 332 ページ）

◆ 「安全だとは思わない」が4割強

居住地域における災害時の安全性は、「安全だと思う」(52.5%)が5割強となっており、「安全だとは思わない」(43.9%)は4割強となっている。

(2-1) 居住地域が災害時に安全でないと思う理由（問 31-1 333 ページ）

◆ 「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」が6割近く

居住地域が災害時に安全でないと思う理由は、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで「高齢者世帯が多い」(30.9%)、「道路が狭い」(22.3%)と続いている。

20. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること（問 32 335 ページ）

◆ 「遊び場」が5割強

公園に期待することは、「遊び場」(52.4%)が5割強と最も高く、次いで「スポーツの場」(33.1%)、「心を落ち着ける安らぎの場」(22.6%)と続いている。

(2) 河川敷に期待すること（問 32 337 ページ）

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割強

河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(42.2%)が4割強と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」(24.3%)、「スポーツの場」(20.7%)と続いている。

21. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと（問 33 339 ページ）

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が5割近く

道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(47.8%)が5割近くと最も高く、次いで「歩道を広げる」(46.1%)、「自転車専用レーンをつくる」(30.9%)と続いている。

22. 環境

(1) 環境保護のための行動（問 34 341 ページ）

- ◆ **実行状況では「レジヤールに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」が、今後の実行意思では「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」が、それぞれ最も高い**

環境保護のための行動で大切だと認識していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(94.7%)が最も高く、次いで「レジヤールに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(92.7%)と「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(92.7%)が同率で続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(61.2%)は6割強となっている。

環境保護のための行動で既に実行していることは、「レジヤールに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(79.8%)が最も高く、次いで「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(79.5%)、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(78.3%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(12.1%)は1割強となっている。

環境保護のための行動で今後（も）実行することは、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(84.7%)が最も高く、次いで「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(84.4%)、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(83.8%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(29.9%)は3割弱となっている。

(2) 「生物多様性」の認知度（問 35 345 ページ）

- ◆ **「言葉も内容も知っている」が3割強**

「生物多様性」の認知度は、「言葉は知っている（聞いたことがある）」(39.4%)が最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」(31.1%)、「言葉も内容も知らない（聞いたことがない）」(24.7%)と続いている。

23. ごみの減量・リサイクル

(1) 「3つのR」の実施状況

<リデュース> (問 36 346 ページ)

◆ 「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」が約6割

「3つのR」の実施状況（リデュース）は、「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」（60.1%）が約6割と最も高く、次いで「必要なものを必要な時に買うようにしている」（55.9%）、「食べ残しをしない、食材を使いきるなど、食べられる物がごみにならないようにしている」（43.7%）と続いている。

<リユース> (問 36 348 ページ)

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が4割強

「3つのR」の実施状況（リユース）は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（42.2%）が4割強と最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（37.7%）、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（28.6%）と続いている。

<リサイクル> (問 36 350 ページ)

◆ 「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」が4割近く

「3つのR」の実施状況（リサイクル）は、「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」（38.4%）が4割近くと最も高く、次いで「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」（36.3%）、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（31.5%）と続いている。

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと (問 37 352 ページ)

◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が約4割

ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」（40.3%）が約4割と最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」（33.0%）、「区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける」（26.0%）と続いている。

24. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと (問 38 354 ページ)

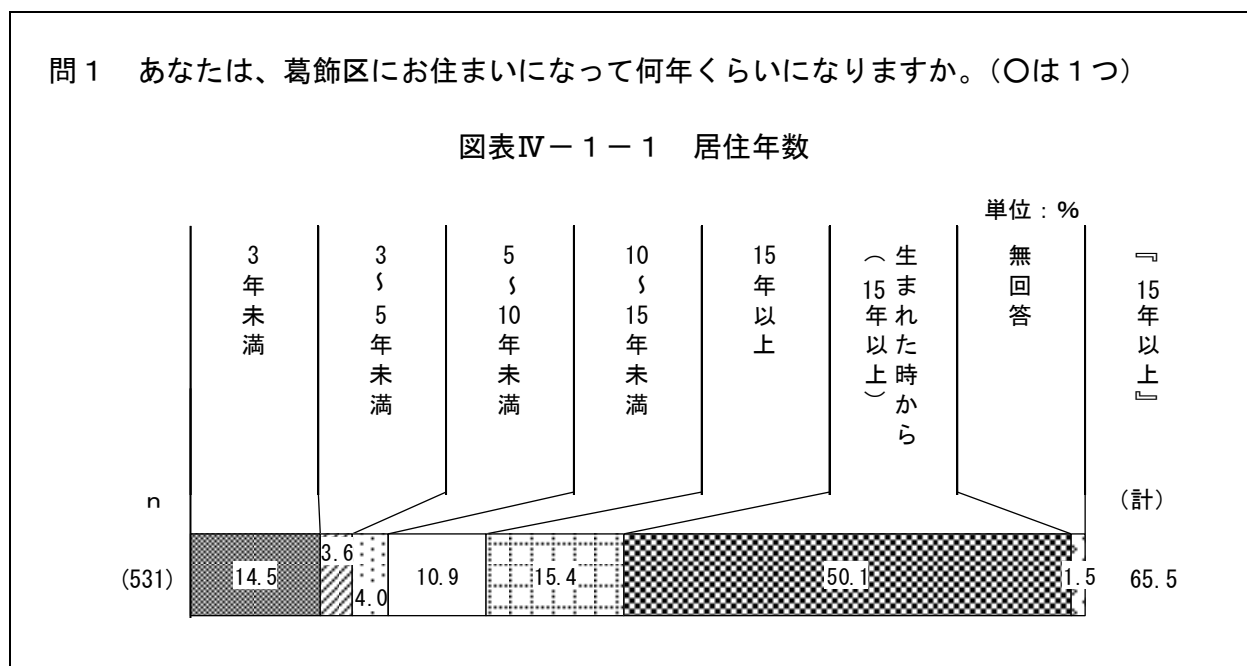
◆ 「マスクや消毒薬などの備蓄」が5割強

新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「マスクや消毒薬などの備蓄」（53.7%）が5割強と最も高く、次いで「感染症に関する相談窓口」（45.8%）、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」（45.4%）と続いている。

1. 定住性

(1) 居住年数

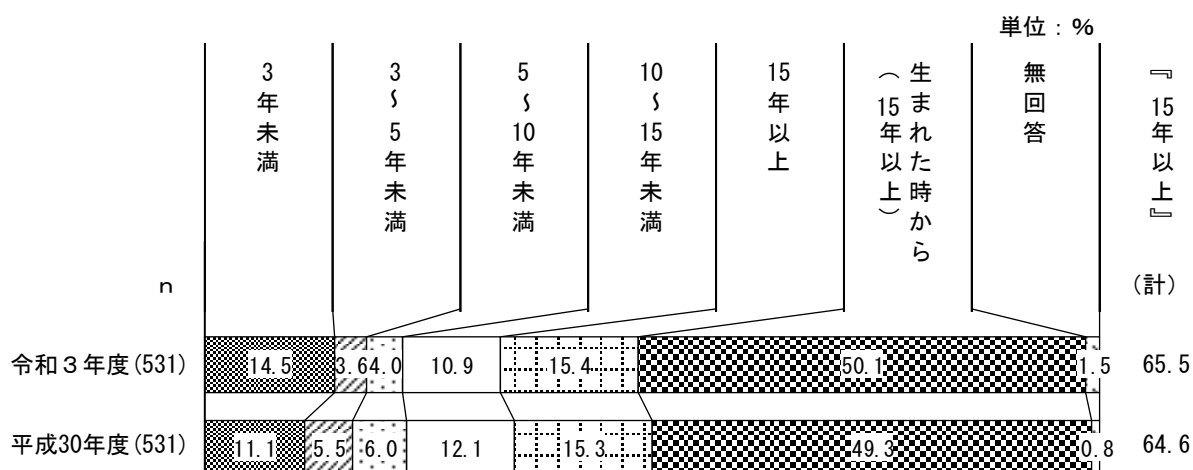
◆ 『15年以上』が6割台半ば



葛飾区の居住年数は、「15年以上」(15.4%)と「生まれた時から(15年以上)」(50.1%)を合わせた『15年以上』(65.5%)が6割台半ばとなっている。(図表Ⅳ-1-1)

【経年変化】

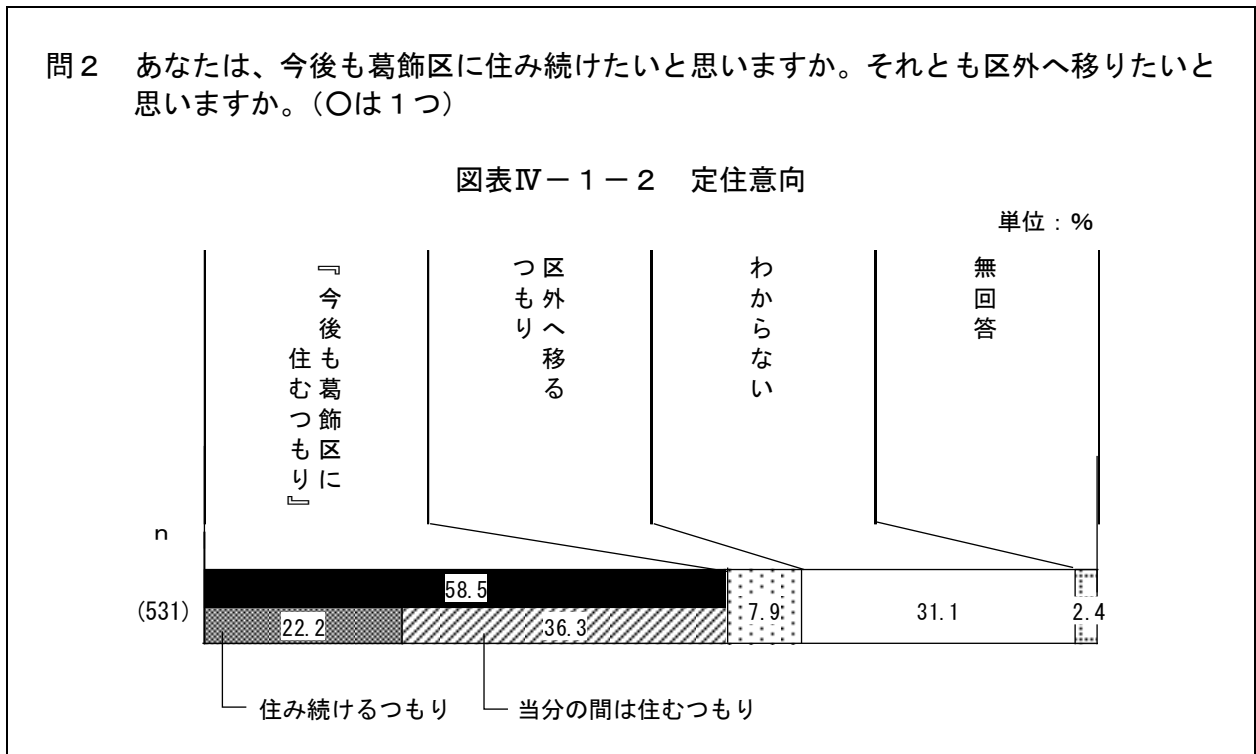
図表Ⅳ-1-2 居住年数(経年変化)



『15年以上』(65.5%)は、平成30年度調査(64.6%)より、0.9ポイント増加している。(図表Ⅳ-1-2)

(2) 定住意向

◆ 『今後も葛飾区に住むつもり』が6割近く

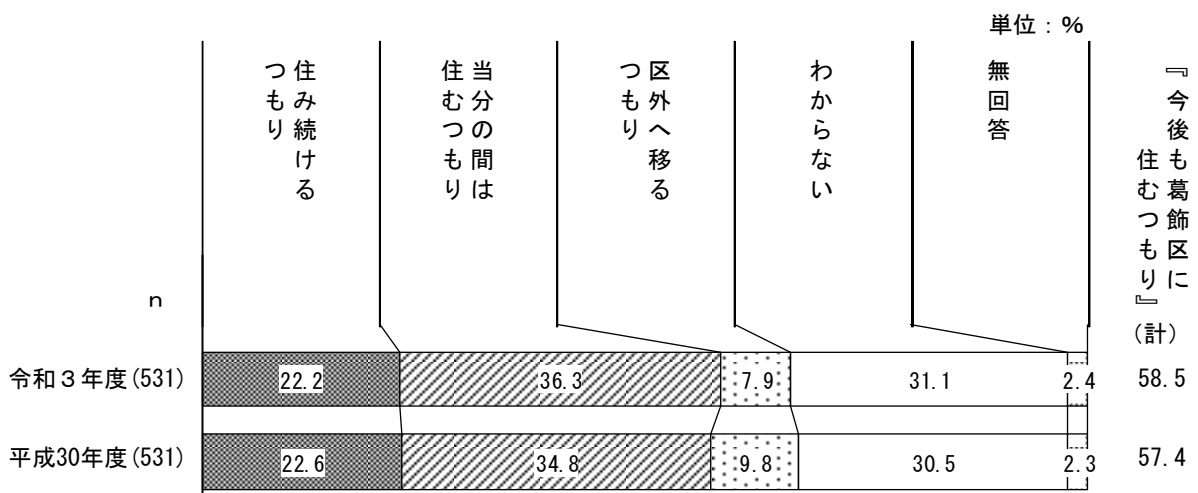


葛飾区に対する定住意向は、「当分の間は住むつもり」(36.3%)が最も高く、これに「住み続けるつもり」(22.2%)を合わせた『今後も葛飾区に住むつもり』(58.5%)は6割近くとなっている。

一方、「区外へ移るつもり」(7.9%)は1割未満となっている。(図表Ⅳ-1-2)

【経年変化】

図表Ⅳ-1-3 定住意向(経年変化)



『今後も葛飾区に住むつもり』(58.5%)は、平成30年度調査(57.4%)より1.1ポイント増加している。(図表Ⅳ-1-3)

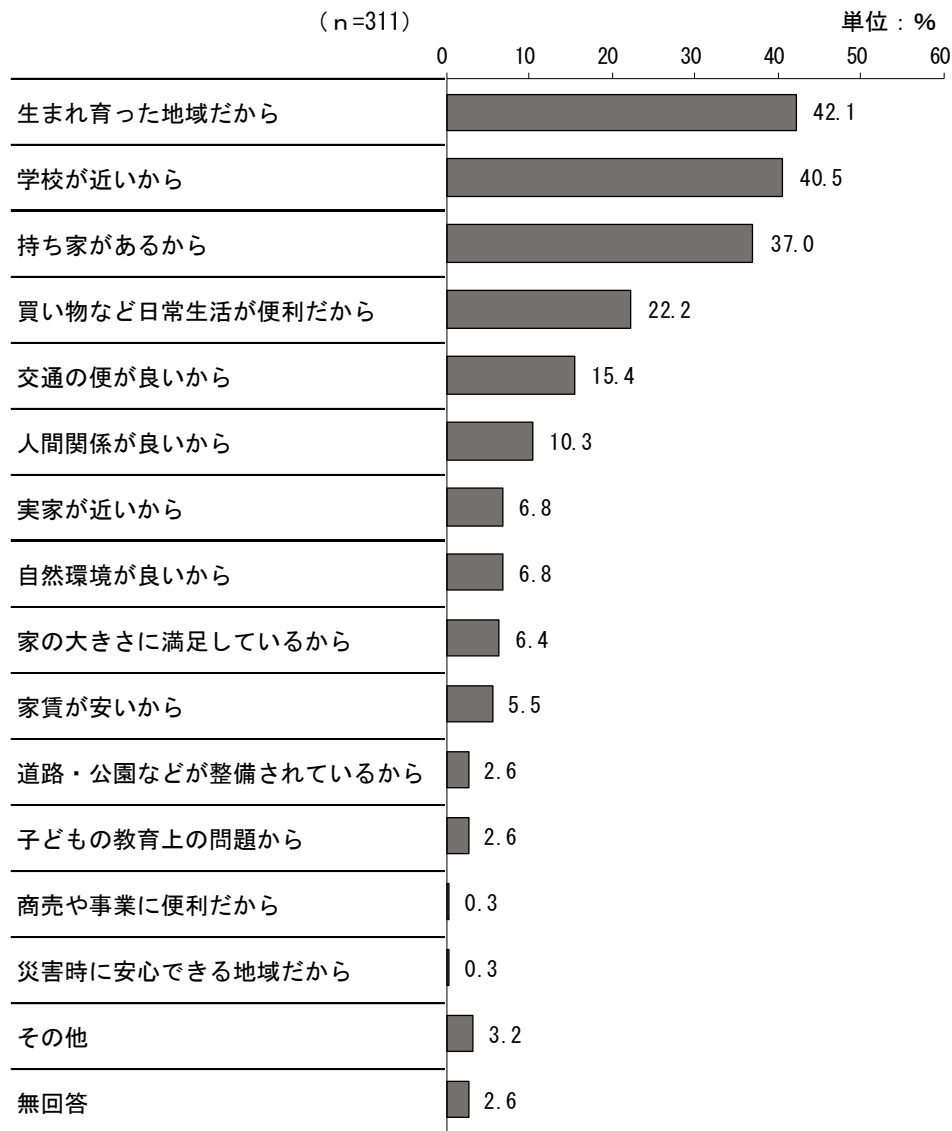
(2-1) 住み続けたい理由

◆ 「生まれ育った地域だから」、「学校が近いから」、「持ち家があるから」の順

(問2で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問2-1 あなたが、葛飾区に住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

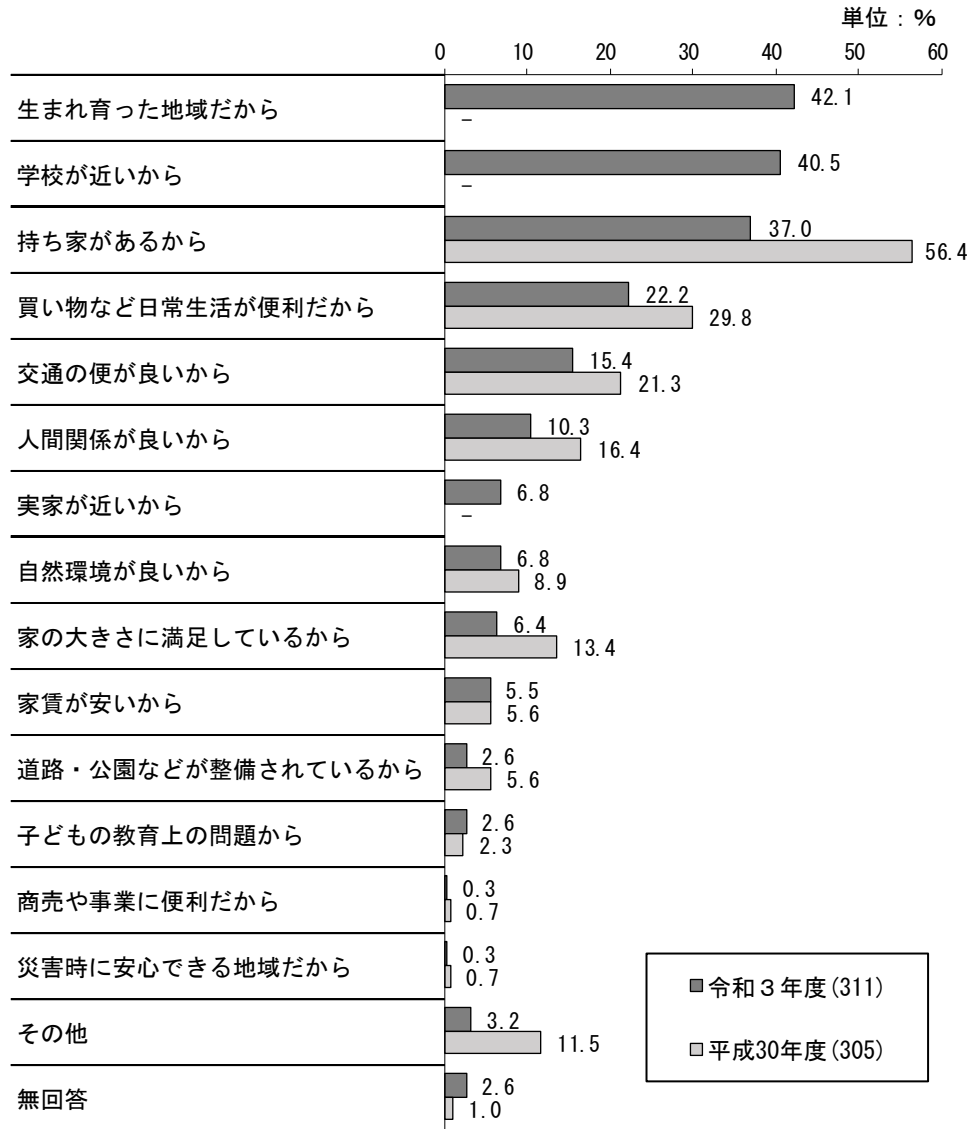
図表IV-1-4 住み続けたい理由



葛飾区に住み続けたい主な理由は、「生まれ育った地域だから」(42.1%)が4割強と最も高く、次いで「学校が近いから」(40.5%)、「持ち家があるから」(37.0%)と続いている。(図表IV-1-4)

【経年変化】

図表Ⅳ－１－５ 住み続けたい理由（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「生まれ育った地域だから」「学校が近いから」「実家が近いから」を新たに追加した。

「持ち家があるから」(37.0%)は、平成30年度調査(56.4%)より19.4ポイント、「買い物など日常生活が便利だから」(22.2%)は、平成30年度調査(29.8%)より7.6ポイント、「交通の便が良いから」(15.4%)は、平成30年度調査(21.8%)より6.4ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ－１－５)

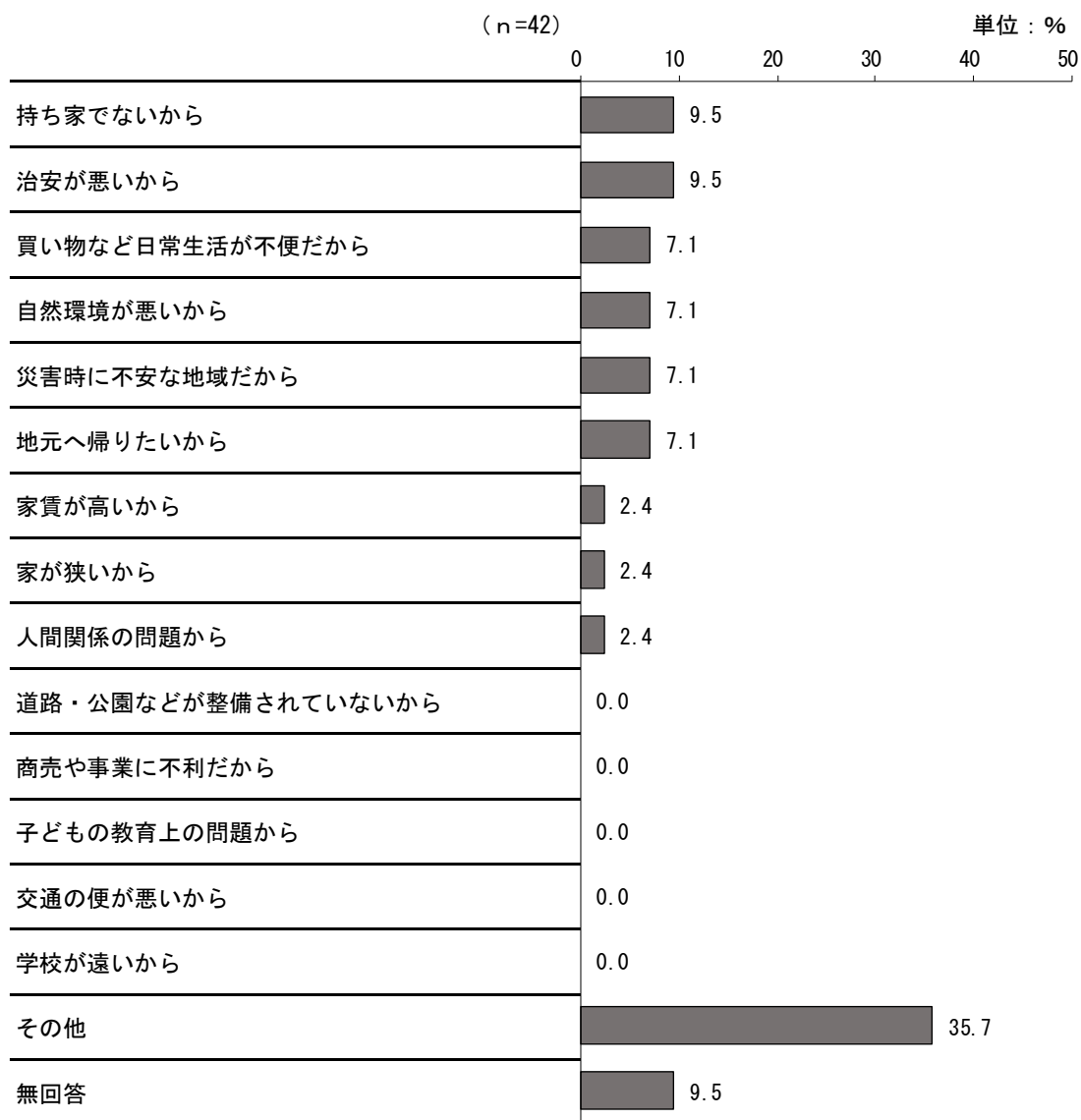
(2-2) 区外へ移りたい理由

◆ 「持ち家でないから」、「治安が悪いから」が最多

(問2で選択肢「3」を選んだ方のみお答えください。)

問2-2 あなたが、区外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は1つ)

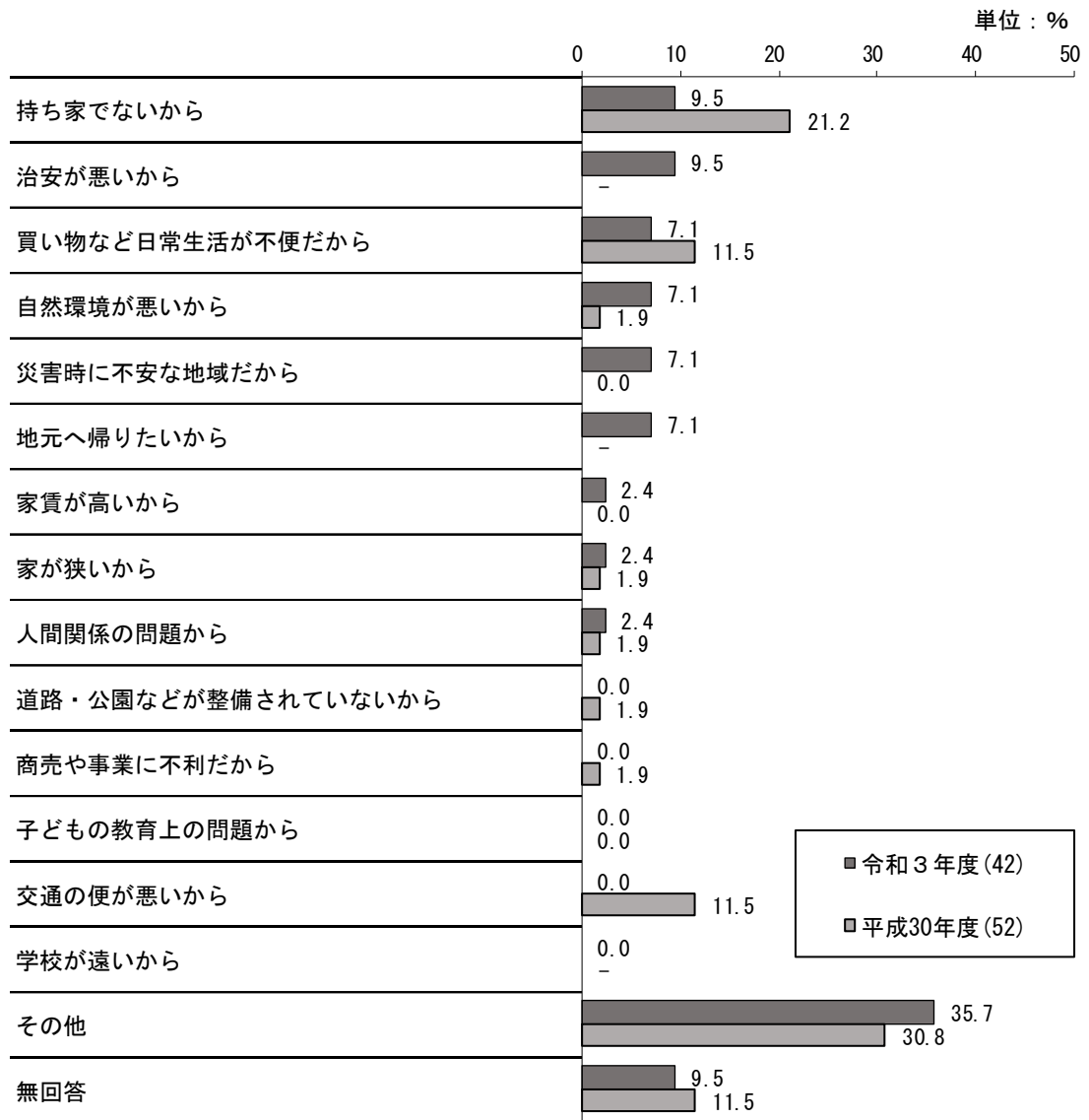
図表IV-1-6 区外へ移りたい理由



区外へ移りたい主な理由は、「持ち家でないから」(9.5%)と「治安が悪いから」(9.5%)が1割弱と同率で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便だから」(7.1%)と「自然環境が悪いから」(7.1%)と「災害時に不安な地域だから」(7.1%)と「地元へ帰りたいから」(7.1%)が同率で続いている。(図表IV-1-6)

【経年変化】

図表Ⅳ－１－７ 区外へ移りたい理由（経年変化）

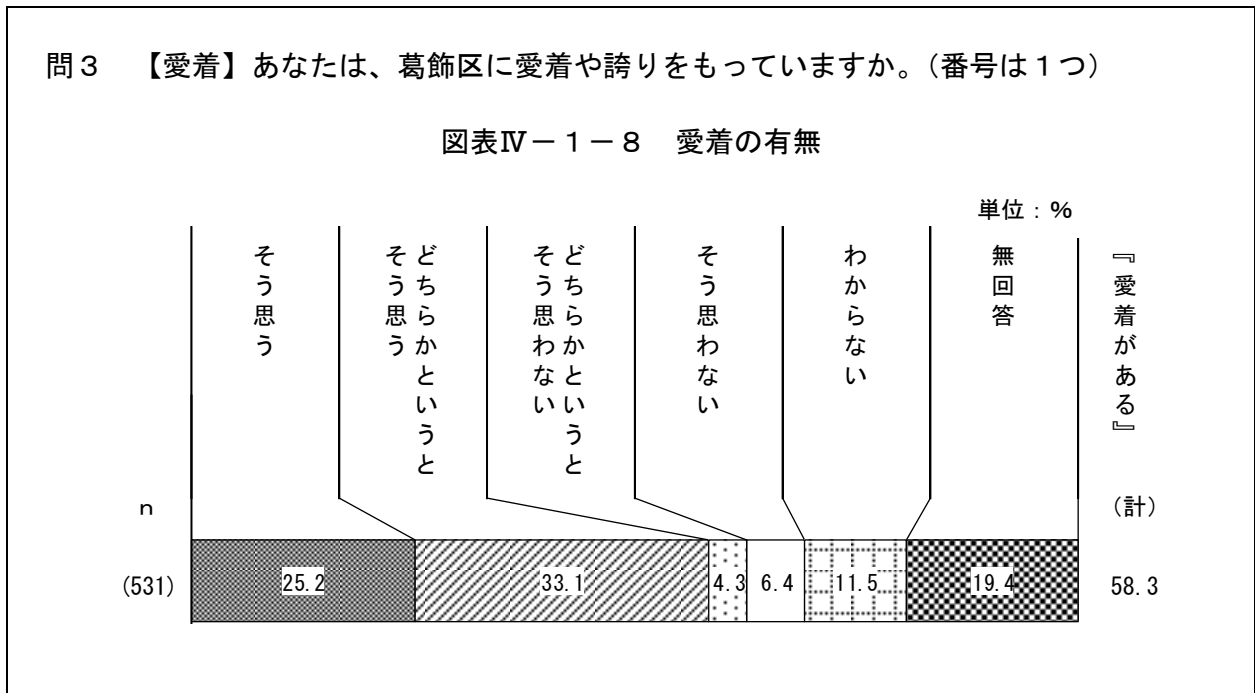


※ 令和3年度調査では、選択肢「治安が悪いから」「地元へ帰りたいから」「学校が遠いから」を新たに追加した。

「持ち家でないから」(9.5%)は、平成30年度調査(21.2%)より11.7ポイント、「買い物など日常生活が不便だから」(7.1%)は、平成30年度調査(11.5%)より4.4ポイント、それぞれ減少している。一方、「自然環境が悪いから」(7.1%)は、平成30年度調査(1.9%)より5.2ポイント増加している。(図表Ⅳ－１－７)

(3) 愛着の有無

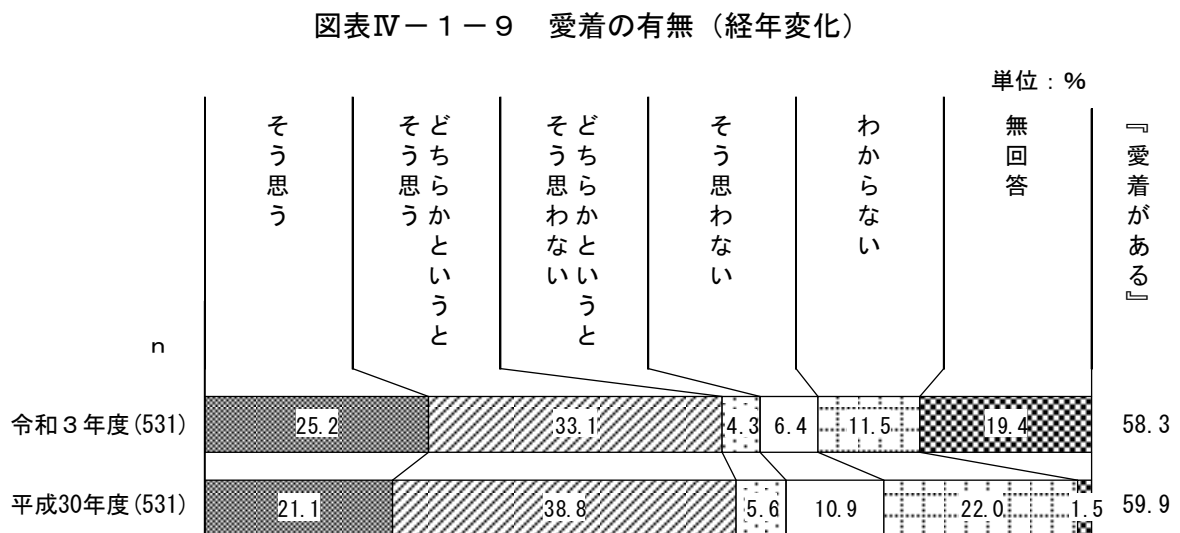
◆ 『愛着がある』が6割近く



葛飾区への愛着の有無について、「どちらかというそう思う」(33.1%)が最も高く、これと「そう思う」(25.2%)を合わせた『愛着がある』(58.3%)は6割近くとなっている。

一方、「どちらかというそう思わない」(4.3%)と「そう思わない」(6.4%)を合わせた『愛着がない』(10.7%)は、約1割となっている。(図表IV-1-8)

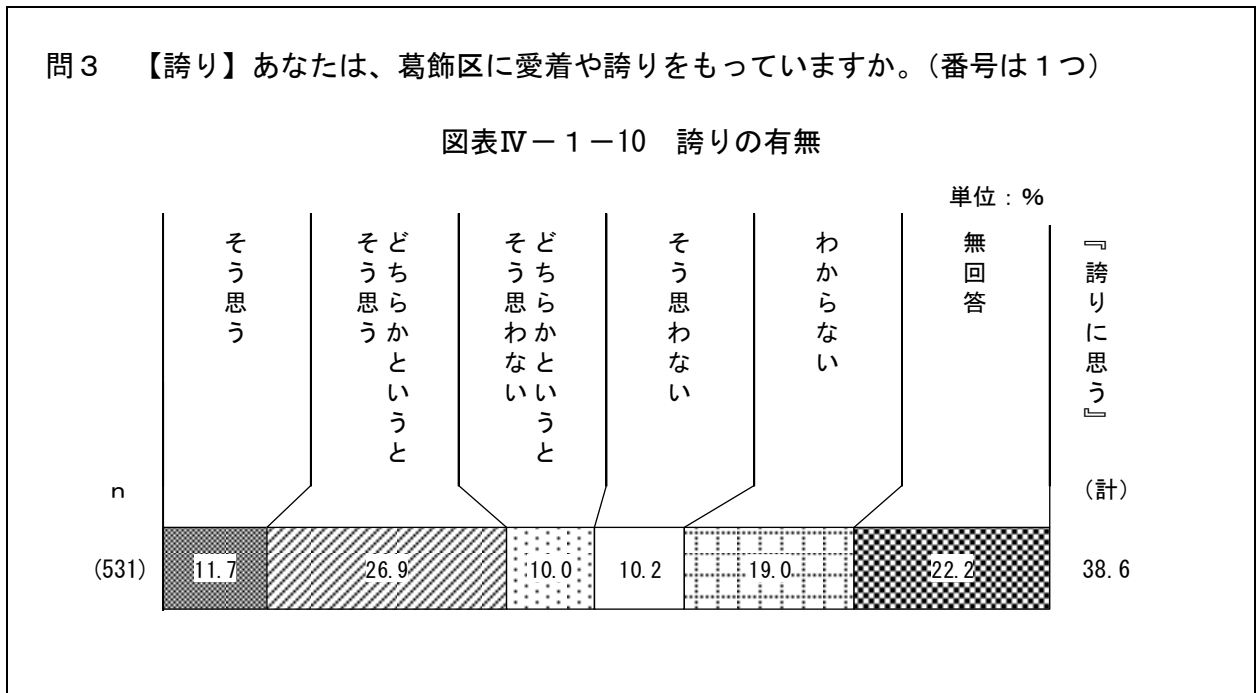
【経年変化】



『愛着がある』(58.3%)は、平成30年度調査(59.9%)より1.6ポイント減少している。(図表IV-1-9)

(4) 誇りの有無

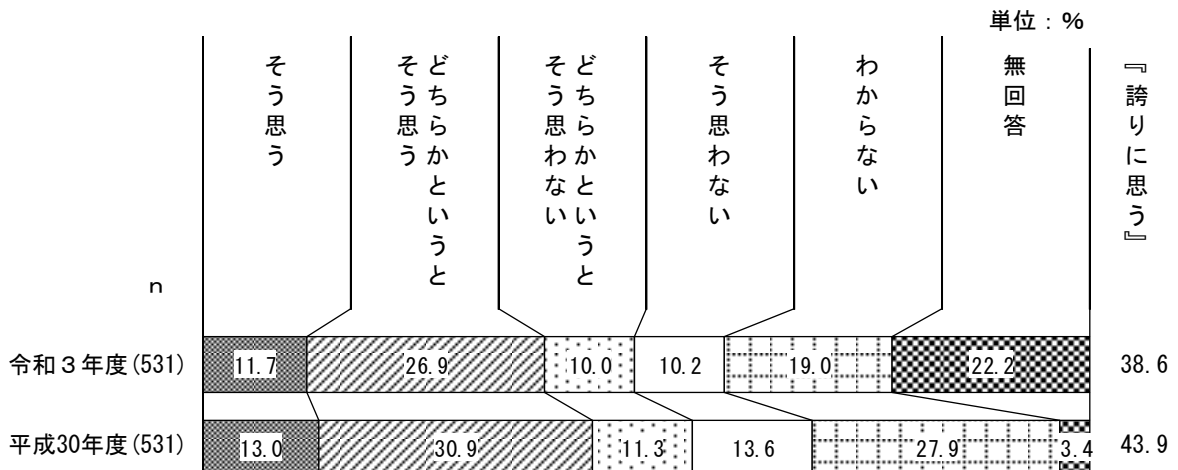
◆ 『誇りに思う』が4割近く



葛飾区への誇りの有無について、「どちらかというそう思う」(26.9%)が最も高く、これと「そう思う」(11.7%)を合わせた『誇りに思う』(38.6%)は4割近くとなっている。一方、「どちらかというそう思わない」(10.0%)と「そう思わない」(10.2%)を合わせた『誇りに思わない』(20.2%)は約2割となっている。(図表IV-1-10)

【経年変化】

図表IV-1-11 愛着の有無(経年変化)



『誇りに思う』(38.6%)は、平成30年度調査(43.9%)より5.3ポイント減少している。(図表IV-1-11)

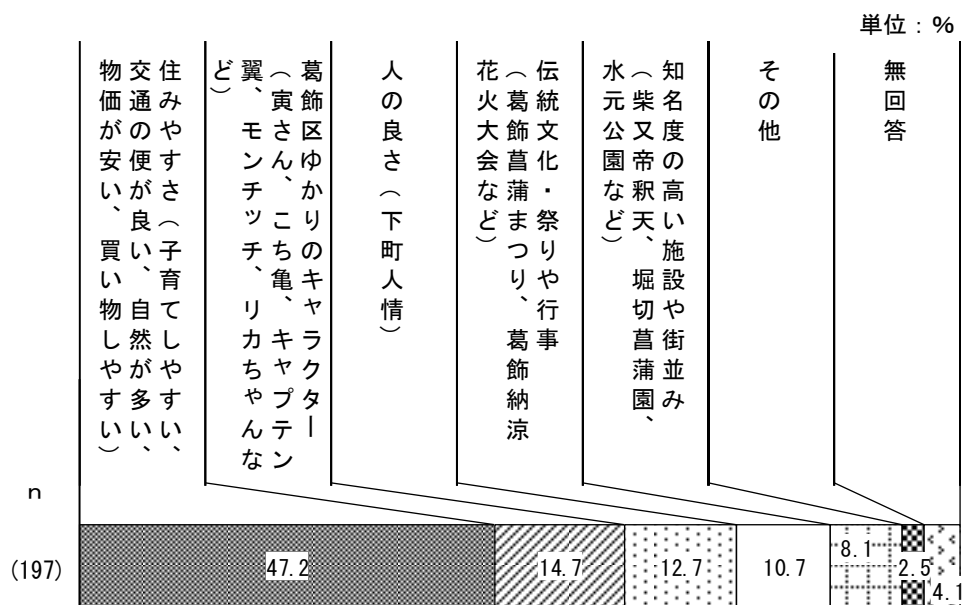
(5-1) アピール事項

- ◆ 「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」が5割近く

(問4で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問4-1 葛飾区を人に勧めるとき、最もアピールしたいことは何ですか。(○は1つ)

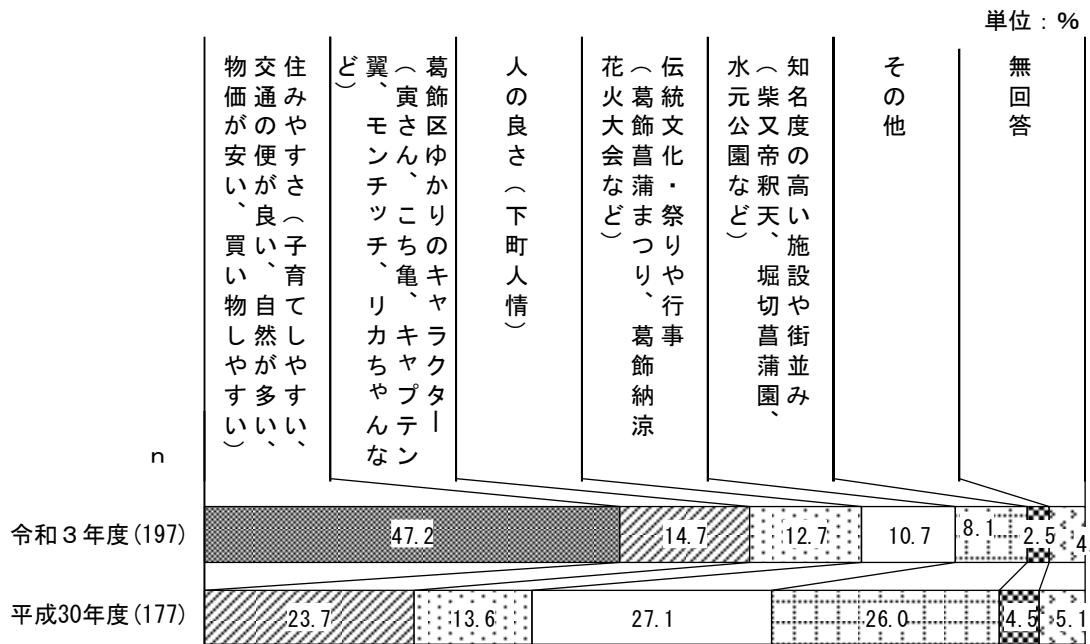
図表IV-1-14 アピール事項



人に区を勧めるときのアピール事項は、「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」(47.2%)が5割近くと最も高く、次いで「葛飾区ゆかりのキャラクター（寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなど）」(14.7%)、「人の良さ（下町人情）」(12.7%)と続いている。(図表IV-1-14)

【経年変化】

図表Ⅳ－１－１５ アピール事項（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」を新たに追加した。

新たに加えた「住みやすさ（子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい）」（47.2%）が5割近くを占めたことに伴い、「葛飾区ゆかりのキャラクター（寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなど）」（14.7%）は、平成30年度調査（23.7%）より9.0ポイント、「人の良さ（下町人情）」（12.7%）は、平成30年度調査（13.6%）より0.9ポイント、「伝統文化・祭りや行事（葛飾菖蒲まつり、葛飾納涼花火大会など）」（10.7%）は、平成30年度調査（27.1%）より16.4ポイント、それぞれ相対的に減少している。（図表Ⅳ－１－１５）

2. 区政への関心

(1) 整備・充実が必要な施設

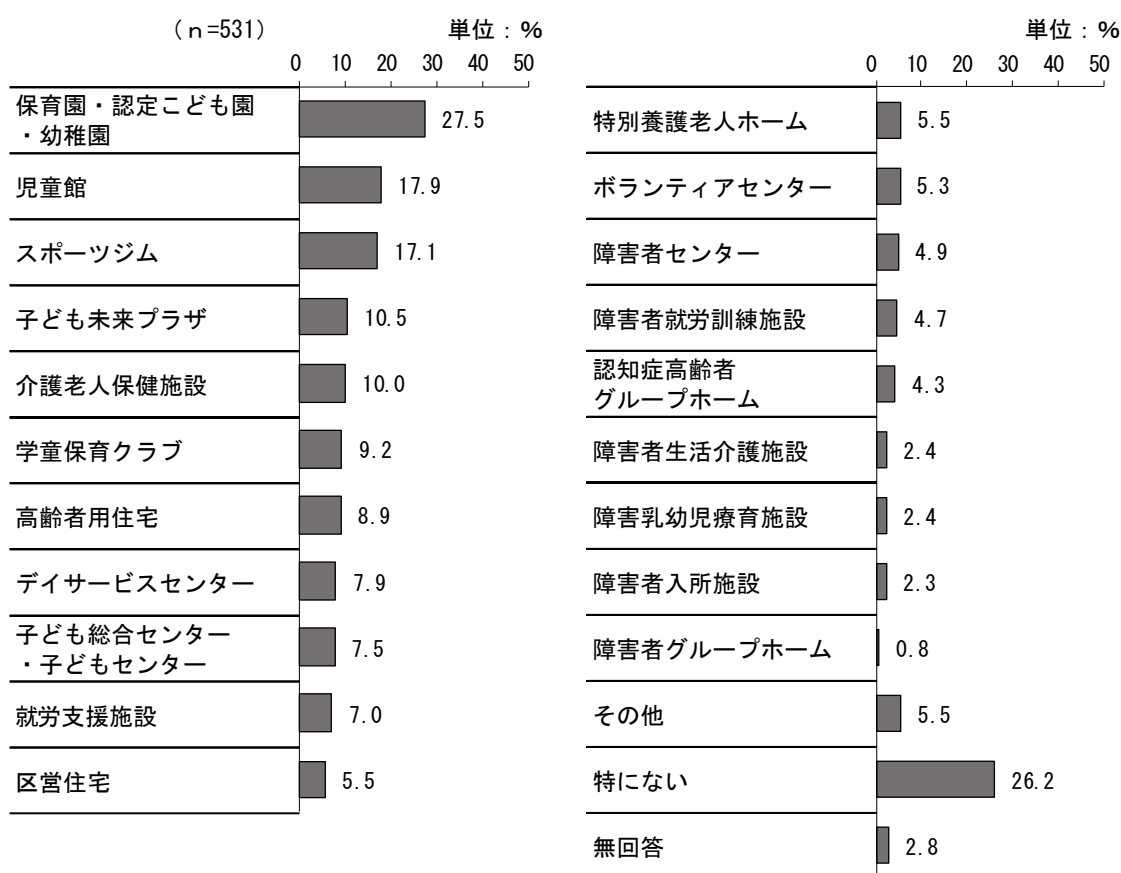
<子育て・福祉施設>

◆ 「保育園・認定こども園・幼稚園」が3割近く

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(1) 子育て、福祉施設について (〇は3つまで)

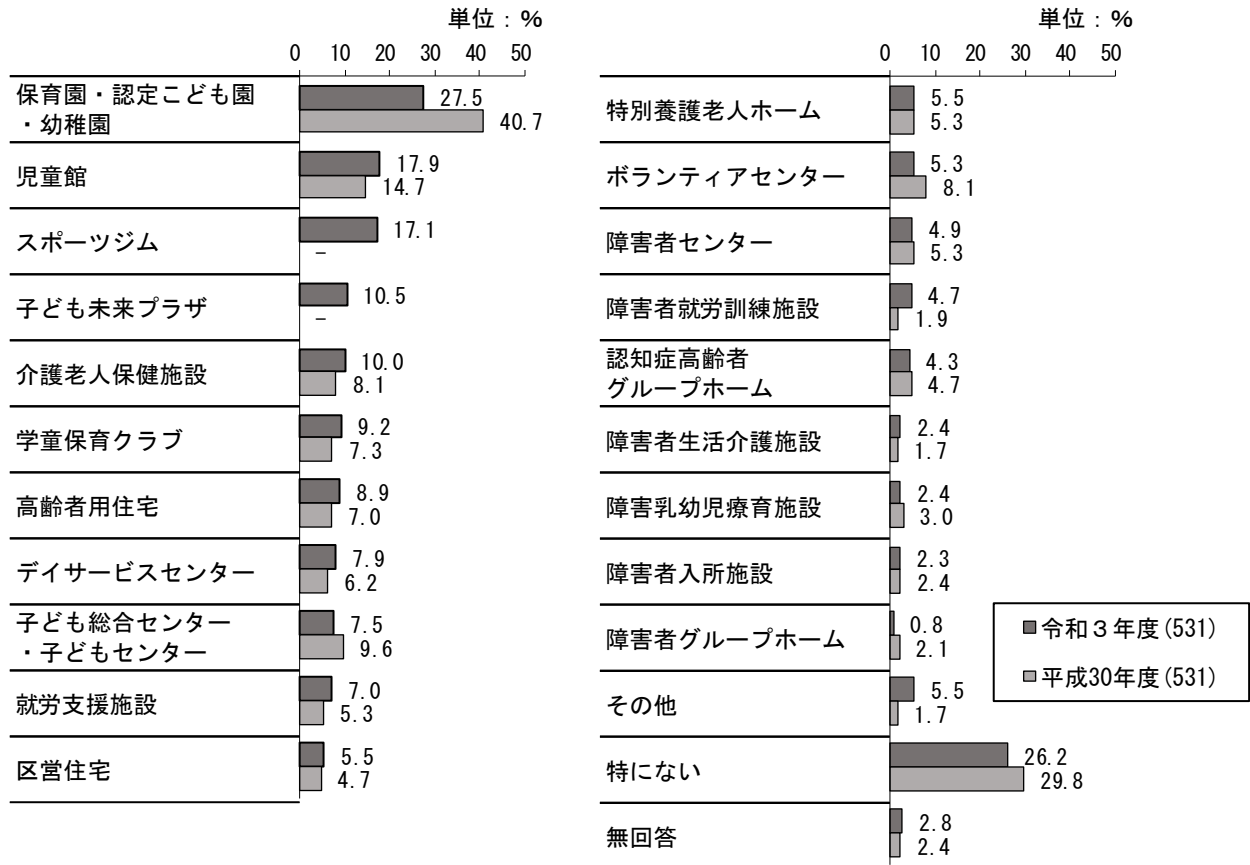
図表Ⅳ-2-1 整備・充実が必要な施設<子育て・福祉施設>



整備・充実が必要なく<子育て・福祉施設>は、「保育園・認定こども園・幼稚園」(27.5%)が3割近くと最も高く、次いで「児童館」(17.9%)、「スポーツジム」(17.1%)と続いている。なお、「特にない」(26.2%)は3割近くとなっている。(図表Ⅳ-2-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－２－２ 整備・充実が必要な施設＜子育て・福祉施設＞（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「スポーツジム」「子ども未来プラザ」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「保育園（認定こども園を含む）」を「保育園・認定こども園・幼稚園」に変更した。

「保育園・認定こども園・幼稚園」（27.5%）は、平成30年度調査（40.7%）より13.2ポイント減少している。一方、「児童館」（17.9%）は、平成30年度調査（14.7%）より3.2ポイント、「介護老人保健施設」（10.0%）は、平成30年度調査（8.1%）より1.9ポイント、「学童保育クラブ」（9.2%）は、平成30年度調査（7.3%）より1.9ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅳ－２－２）

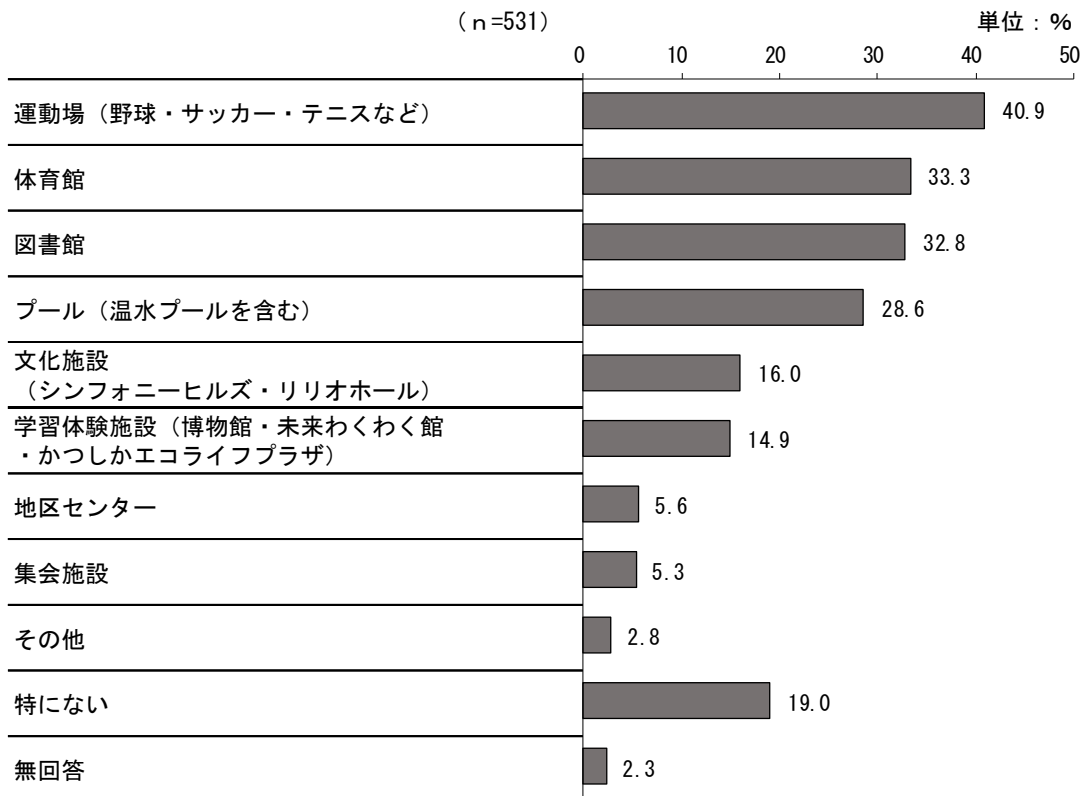
<教育・文化・スポーツ施設>

◆ 「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」が約4割

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(2) 教育・文化・スポーツ施設について (〇は3つまで)

図表Ⅳ-2-3 整備・充実が必要な施設<教育・文化・スポーツ施設>



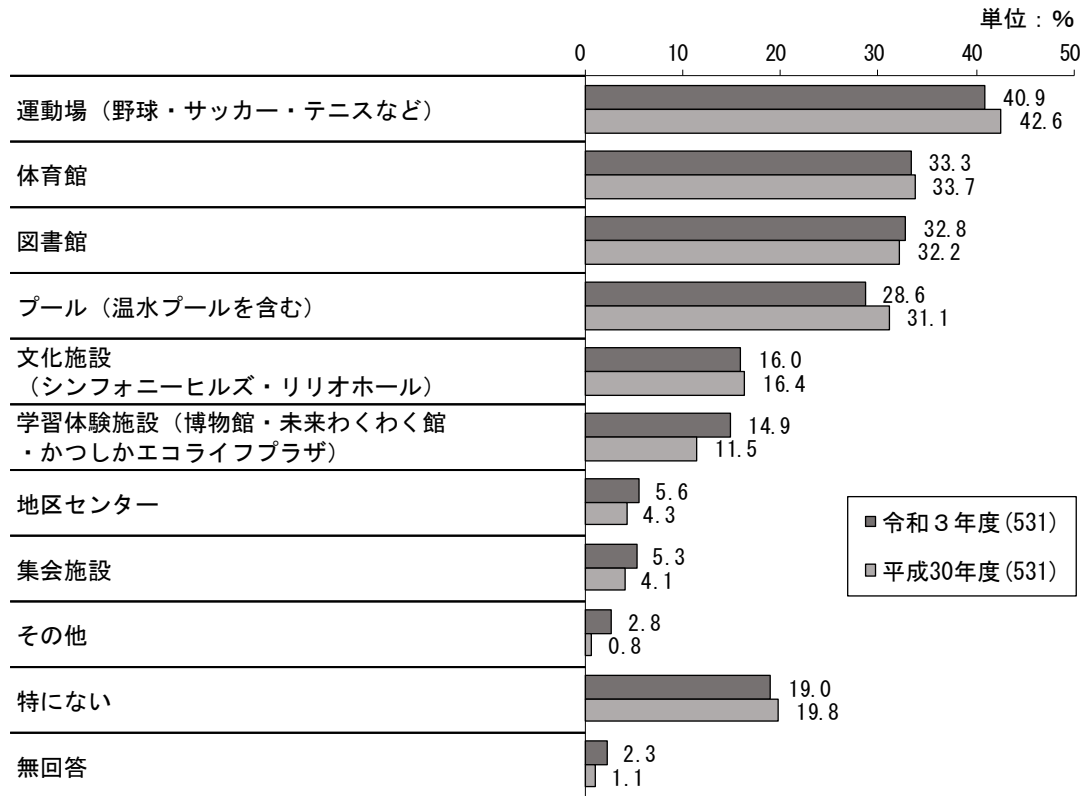
整備・充実が必要な<教育・文化・スポーツ施設>は、「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」（40.9%）が約4割と最も高く、次いで「体育館」（33.3%）、「図書館」（32.8%）と続いている。

なお、「特にない」（19.0%）は2割弱となっている。（図表Ⅳ-2-3）

満18歳以上の区民は「図書館」（37.5%）が最も必要だと答えているのに対し、高校生・大学生に対する調査では「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」（40.9%）が最も高くなっている。

【経年変化】

図表Ⅳ－２－４ 整備・充実が必要な施設＜教育・文化・スポーツ施設＞（経年変化）



「運動場（野球・サッカー・テニスなど）」（40.9％）は、平成30年度調査（42.6％）より1.7ポイント、「体育館」（33.3％）は、平成30年度調査（33.7％）より0.4ポイント、「プール（温水プールを含む）」（28.6％）は、平成30年度調査（31.1％）より2.5ポイント、それぞれ減少している。一方、「図書館」（32.8％）は、平成30年度調査（32.2％）より0.6ポイント増加している。（図表Ⅳ－２－４）

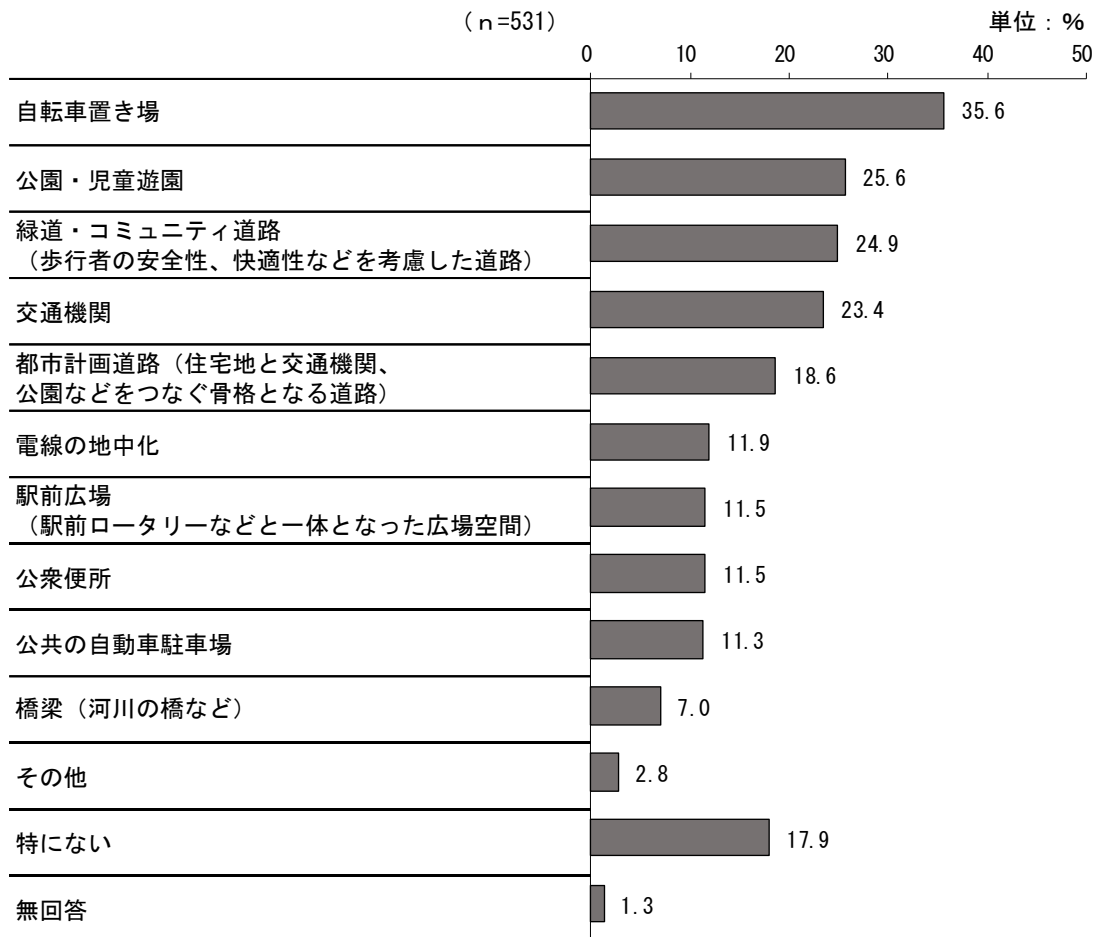
<都市施設>

◆ 「自転車置き場」が3割台半ば

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(3) 都市施設について (〇は3つまで)

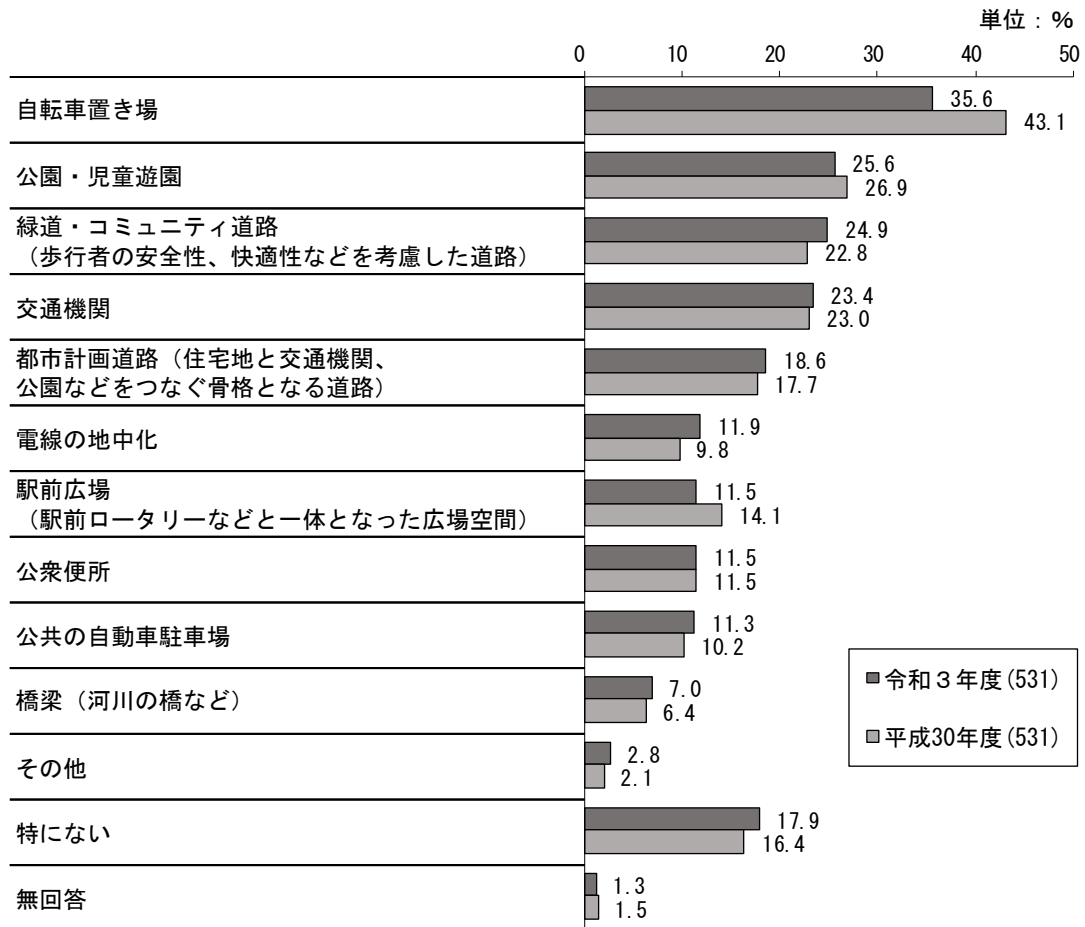
図表Ⅳ-2-5 整備・充実が必要な施設<都市施設>



整備・充実が必要な<都市施設>は、満18歳以上の区民は「緑道・コミュニティ道路」(43.7%)、「電線の地中化」(36.2%)の順に必要だと答えているのに対し、高校生・大学生に対する調査では「自転車置き場」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公園・児童遊園」(25.6%)が高くなっている。(図表Ⅳ-2-5)

【経年変化】

図表Ⅳ－２－６ 整備・充実が必要な施設＜都市施設＞（経年変化）



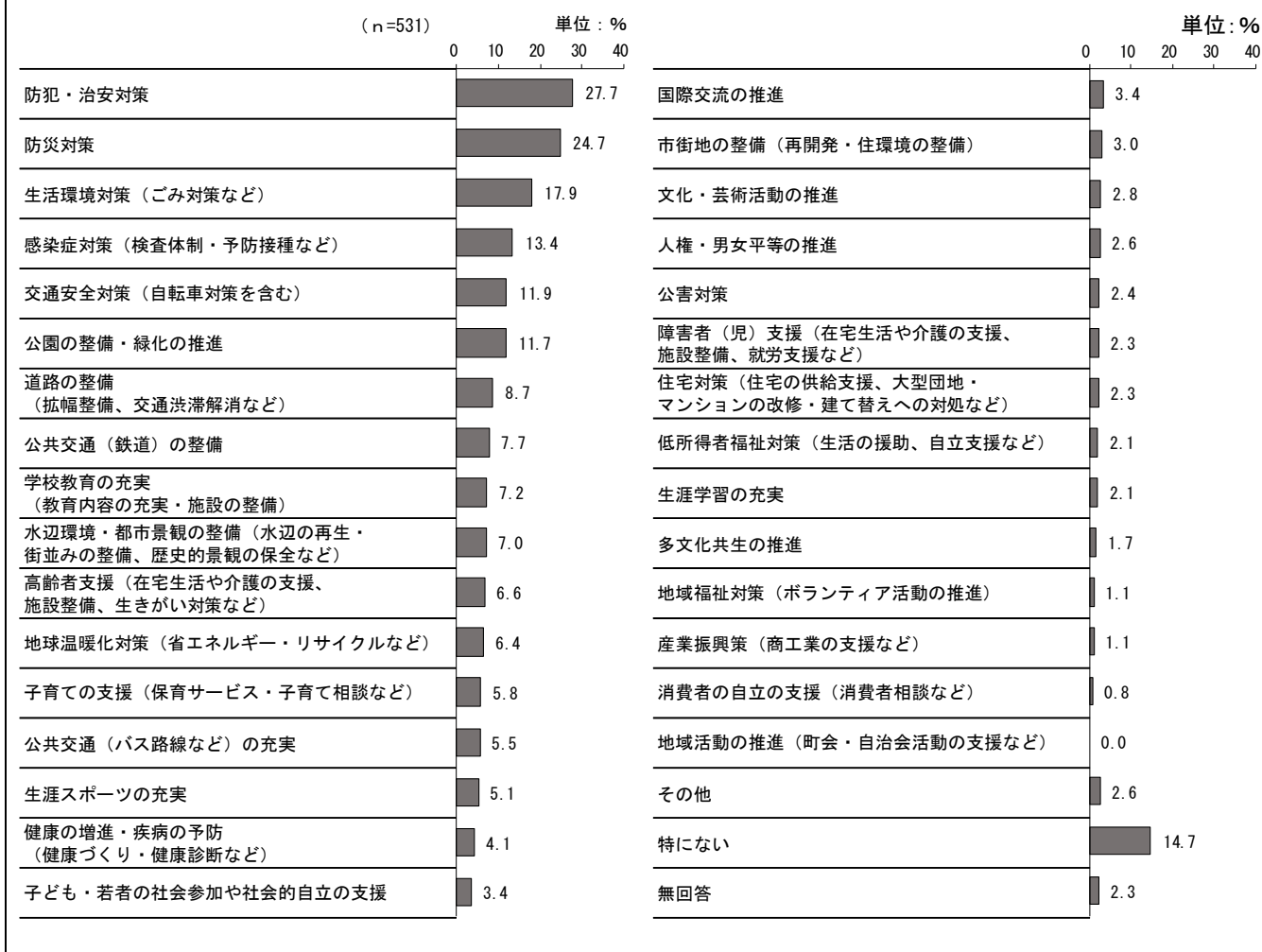
「自転車置き場」(35.6%)は、平成30年度調査(43.1%)より7.5ポイント、「公園・児童遊園」(25.6%)は、平成30年度調査(26.9%)より1.3ポイント、それぞれ減少している。一方、「緑道・コミュニティ道路(歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)」(24.9%)は、平成30年度調査(22.8%)より2.1ポイント、「交通機関」(23.4%)は、平成30年度調査(23.0%)より0.4ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅳ－２－６)

(2) 区に力を入れてほしいもの

◆ 「防犯・治安対策」が3割近く

問6 あなたが、葛飾区に対して特に力を入れてほしいと思うものは何ですか。(〇は3つまで)

図表Ⅳ-2-7 区に力を入れてほしいもの

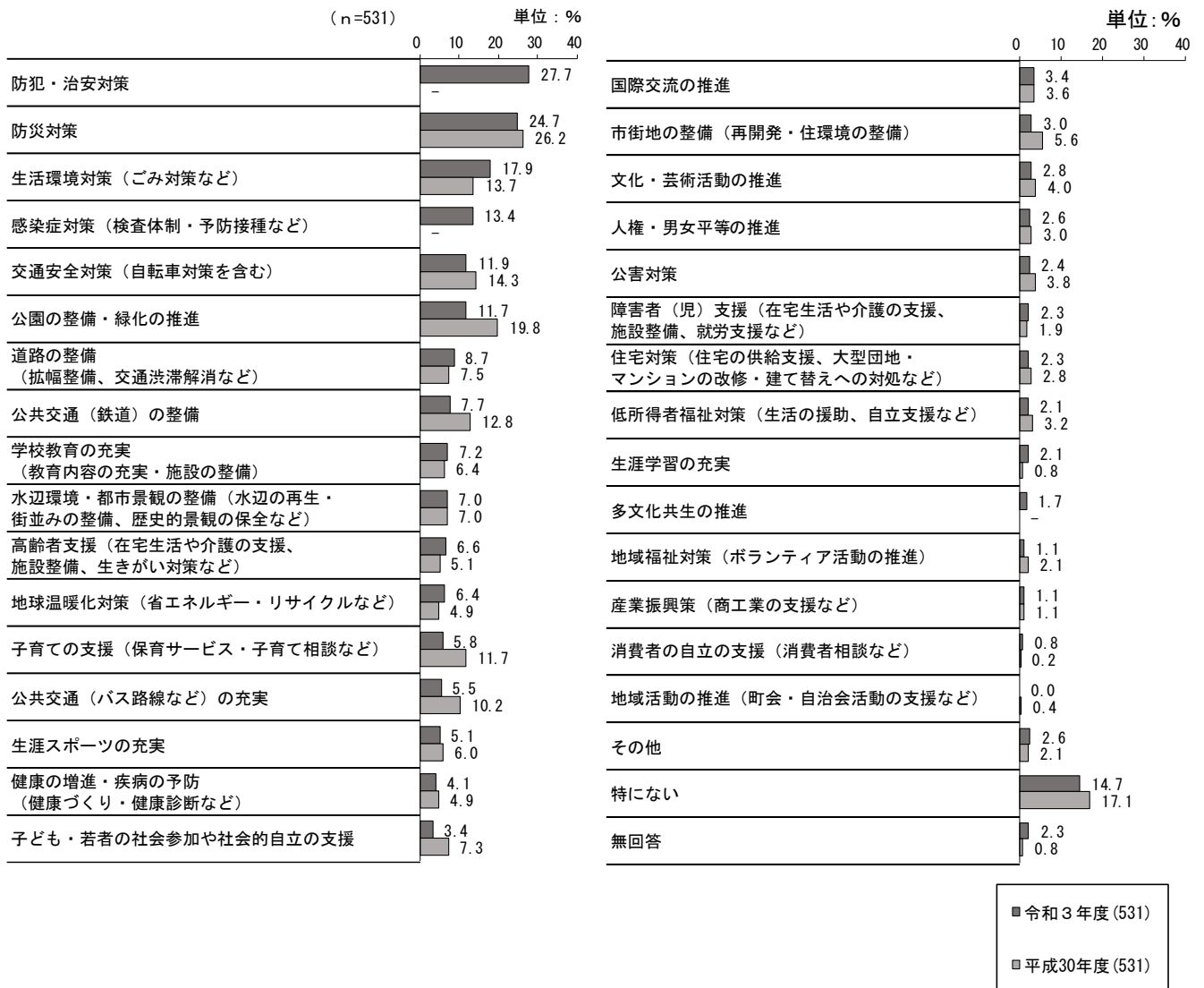


区に力を入れてほしいものは、「防犯・治安対策」(27.7%)が3割近くと最も高く、次いで「防災対策」(24.7%)、「生活環境対策（ごみ対策など）」(17.9%)と続いている。(図表Ⅳ-2-7)

満18歳以上の区民に対する調査では「防災対策」(45.8%)が最も必要だと答えているのに対し、高校生・大学生に対する調査では「防犯・治安対策」(27.7%)が最も高くなっている。

【経年変化】

図表Ⅳ－２－８ 区に力を入れてほしいもの（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「防犯・治安対策」「感染症対策（検査体制・予防接種など）」「多文化共生の推進」を新たに追加した。

「防災対策」(24.7%)は、平成30年度調査(26.2%)より1.5ポイント、「交通安全対策（自転車対策を含む）」(11.9%)は、平成30年度調査(14.3%)より2.4ポイント、「公園の整備・緑化の推進」(11.7%)は、平成30年度調査(19.8%)より8.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「生活環境対策（ごみ対策など）」(17.9%)は、平成30年度調査(13.7%)より4.2ポイント、「道路の整備（拡幅整備、交通渋滞解消など）」(8.7%)は、平成30年度調査(7.5%)より1.2ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅳ－２－８)

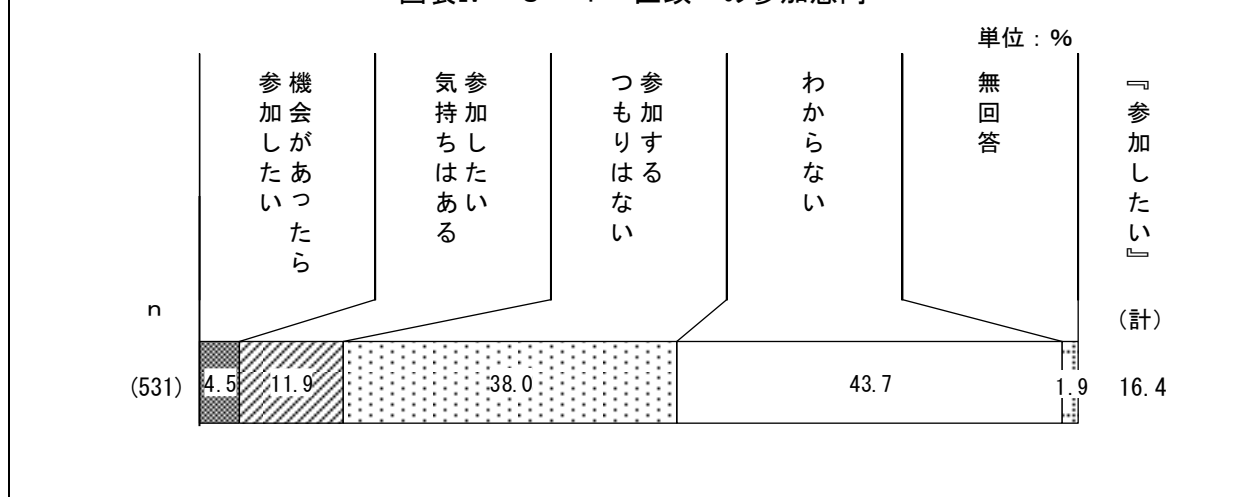
3. 住民参加

(1) 区政への参加意向

◆ 『参加したい』が2割近く

問7 葛飾区では区民との協働（パートナーシップ）により、区政を運営しています。あなたは区政に参加する機会があるならば参加したいという意思はありますか。（○は1つ）

図表IV-3-1 区政への参加意向

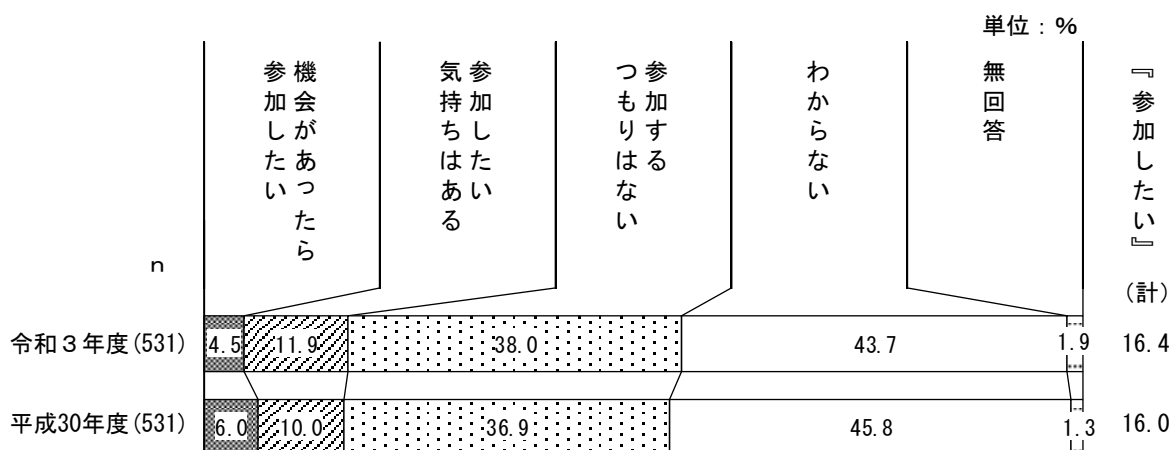


区政への参加意向は、「わからない」(43.7%)が4割強と最も高く、「参加するつもりはない」(38.0%)は4割近くとなっている。

一方、「機会があったら参加したい」(4.5%)と「参加したい気持ちはある」(11.9%)を合わせた『参加したい』(16.4%)は2割近くとなっている。(図表IV-3-1)

【経年変化】

図表IV-3-2 区政への参加意向（経年変化）



『参加したい』(16.4%)は、平成30年度調査(16.0%)より0.4ポイント増加している。(図表IV-3-2)

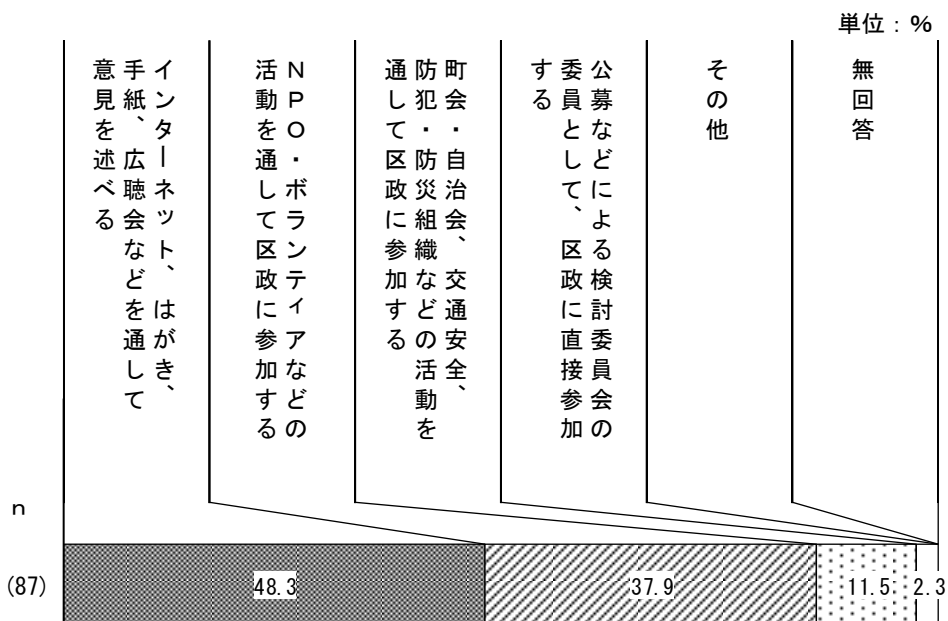
(1-1) 区政への参加方法

◆ 「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」が5割近く

(問7で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問7-1 どのような形で区政へ参加してみたいですか。(〇は1つ)

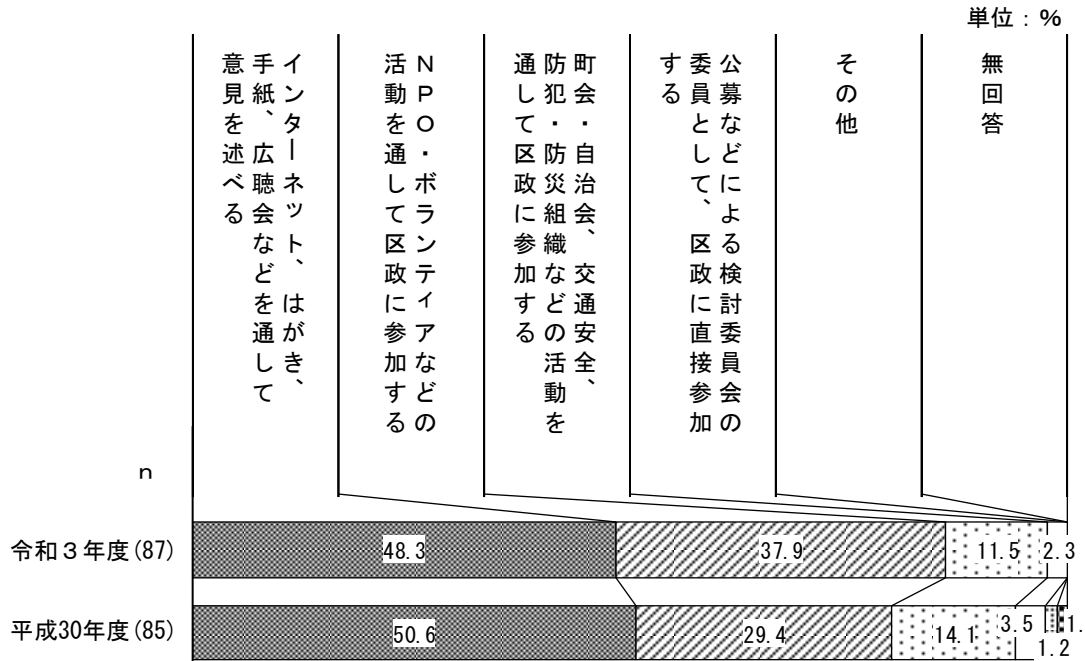
図表Ⅳ-3-3 区政への参加方法



区政への参加方法は、「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」(48.3%)が5割近くと最も高く、次いで「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(37.9%)、「町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する」(11.5%)と続いている。(図表Ⅳ-3-3)

【経年変化】

図表Ⅳ－３－４ 区政への参加方法（経年変化）



「インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる」(48.3%)は、平成30年度調査(50.6%)より2.3ポイント減少している。一方、「NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する」(37.9%)は、平成30年度調査(29.4%)より8.5ポイント増加している。(図表Ⅳ－３－４)

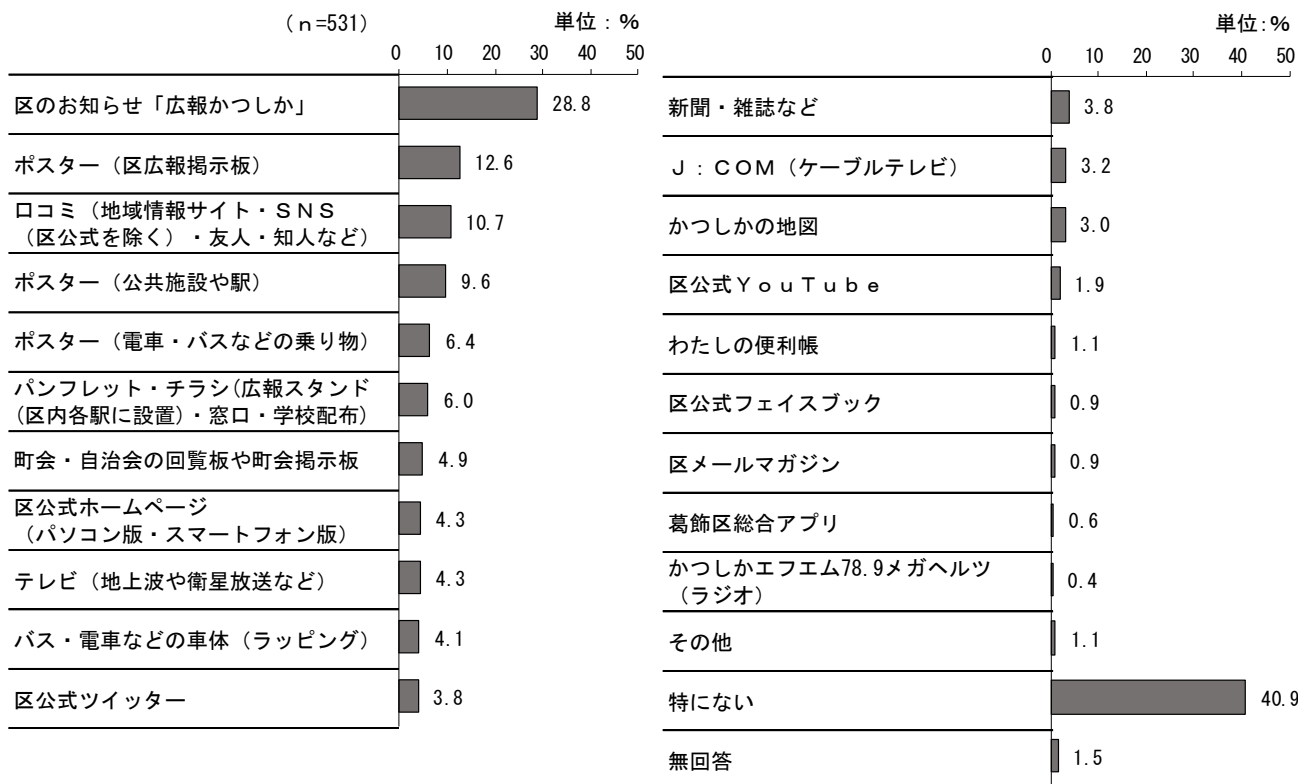
4. 広報媒体

(1) 区の情報入手方法

◆ 「区のお知らせ『広報かつしか』」が3割近く

問8 あなたは、どのようにして葛飾区に関するお知らせや催しなどの情報を入手していますか。(〇はいくつでも)

図表IV-4-1 区の情報入手方法

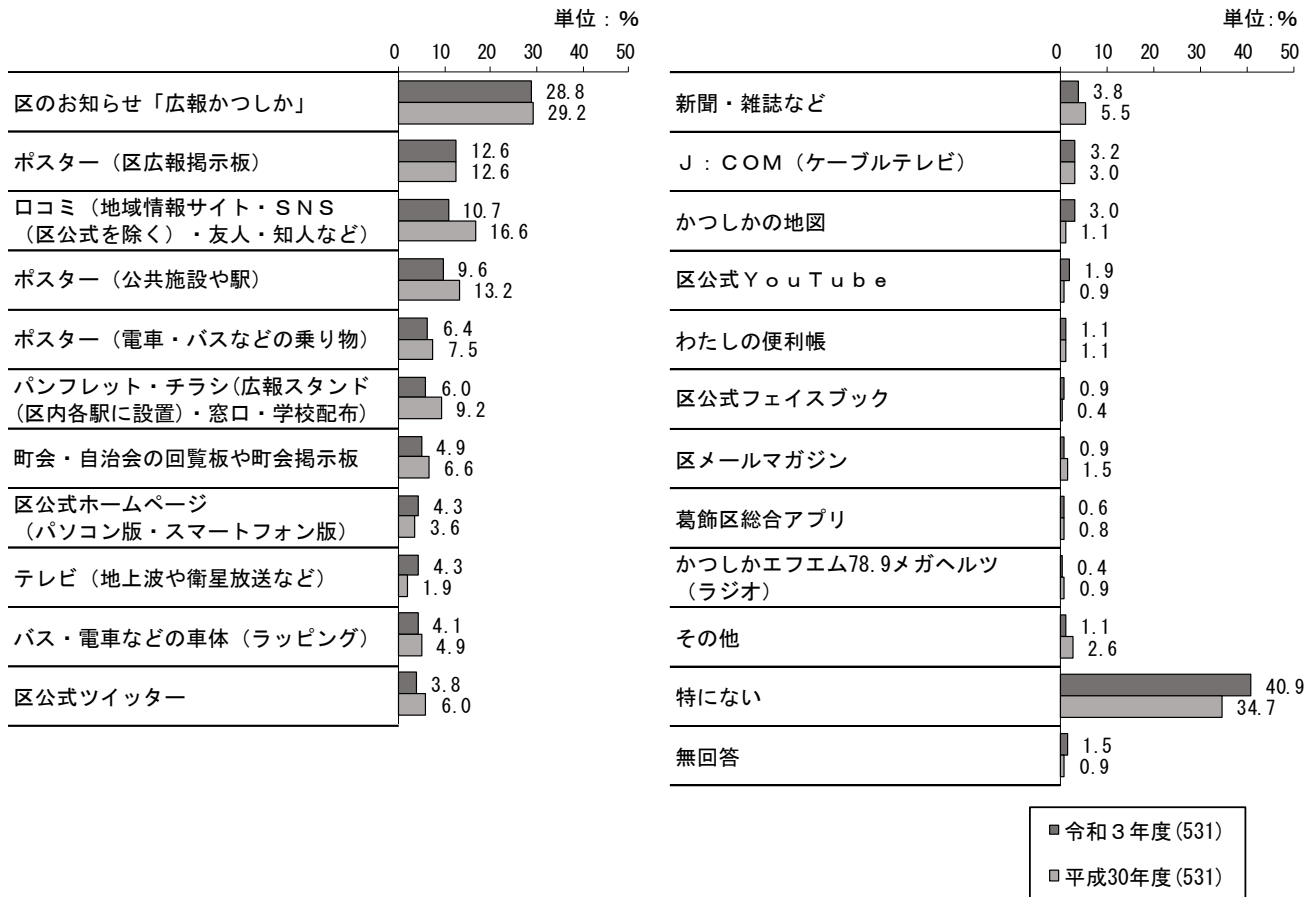


区の情報入手方法は、「区のお知らせ『広報かつしか』」(28.8%)が3割近くと最も高く、次いで「ポスター（区広報掲示板）」(12.6%)、「口コミ（地域情報サイト・SNS（区公式を除く）・友人・知人など）」(10.7%)と続いている。

なお、「特になし」(40.9%)は約4割となっている。(図表IV-4-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－４－２ 区の情報の入手方法（経年変化）

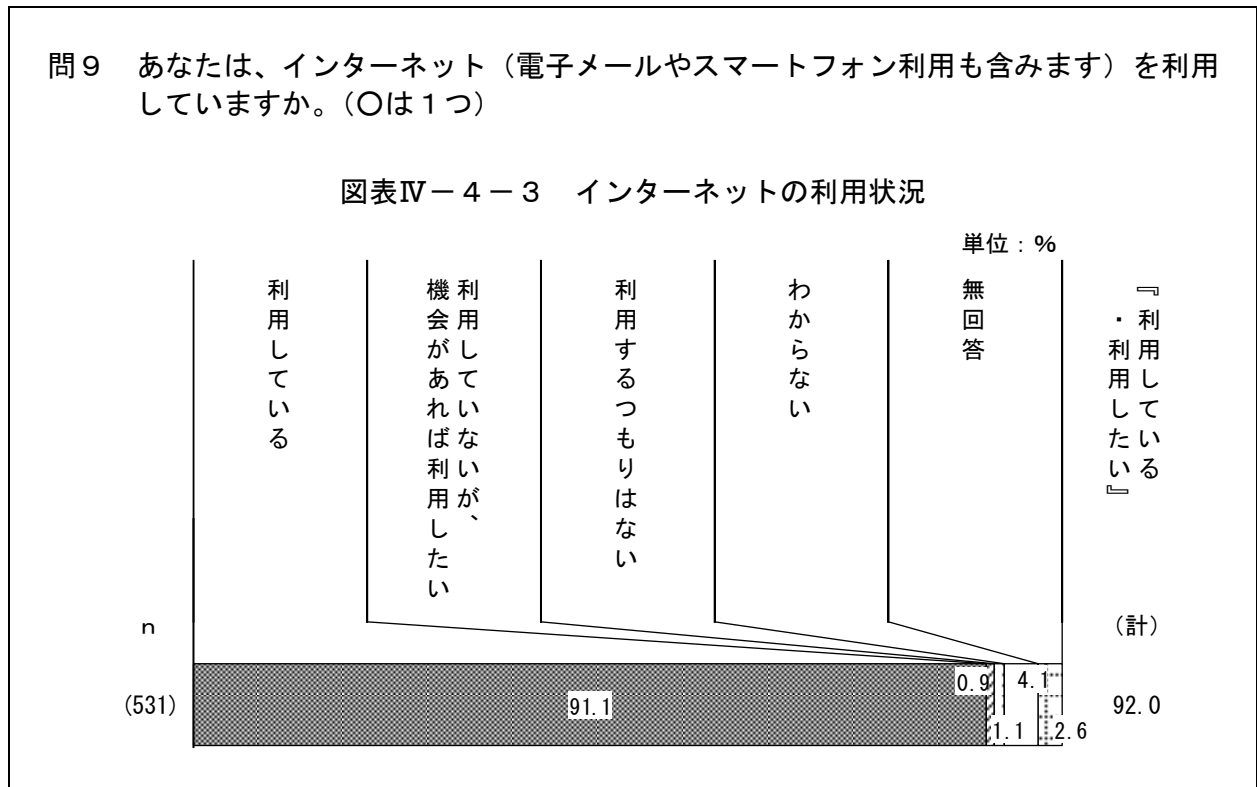


- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「友人・知人からの口コミ」を「口コミ（地域情報サイト・SNS（区公式を除く）・友人・知人など）」に変更した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「窓口・学校配布のパンフレット・チラシ」を「パンフレット・チラシ（広報スタンド（区内各駅に設置）・窓口・学校配布）」に変更した。

「区のお知らせ『広報かつしか』」（28.8%）は、平成30年度調査（29.2%）より0.4ポイント、「口コミ（地域情報サイト・SNS（区公式を除く）・友人・知人など）」（10.7%）は、平成30年度調査（16.6%）より5.9ポイント、「ポスター（公共施設や駅）」（9.6%）は、平成30年度調査（13.2%）より3.6ポイント、それぞれ減少している。一方、「ポスター（区広報掲示板）」（12.6%）は、平成30年度調査（12.6%）と同率で増減なしとなっている。また、「区公式ホームページ（パソコン版・スマートフォン版）」（4.3%）は、平成30年度調査（3.6%）より0.7ポイント増加している。（図表Ⅳ－４－２）

(2) インターネットの利用状況

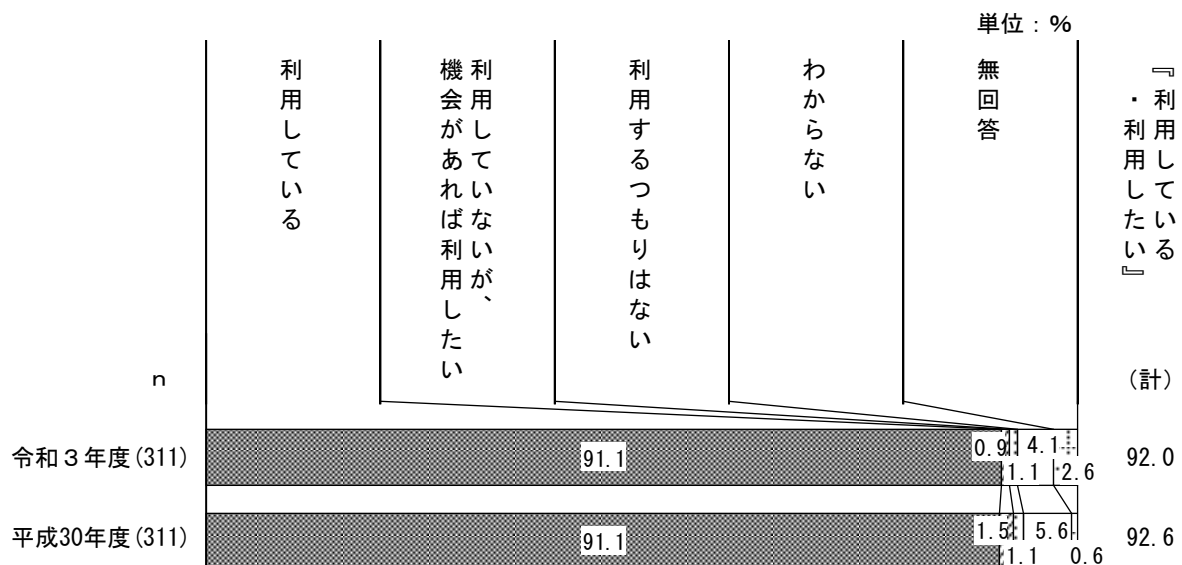
◆ 『利用している・利用したい』が9割強



インターネットの利用状況は、「利用している」(91.1%)が最も高く、これに「利用していないが、機会があれば利用したい」(0.9%)を合わせた『利用している・利用したい』(92.0%)が9割強となっている。一方、「利用するつもりはない」(1.1%)は1割未満となっている。(図表Ⅳ-4-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-4-4 インターネットの利用状況（経年変化）



『利用している・利用したい』(92.0%)は、平成30年度調査(92.6%)より0.6ポイント減少している。一方、「利用するつもりはない」(1.1%)は、平成30年度調査(1.1%)と同率で増減なしとなっている。(図表Ⅳ-4-4)

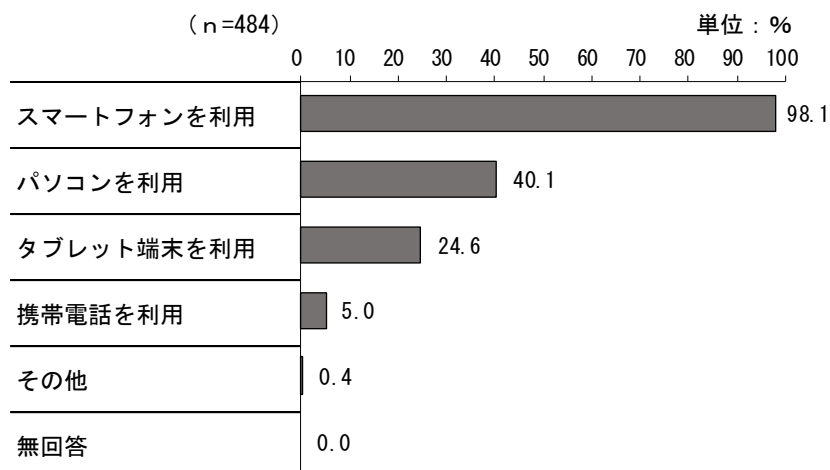
(2-1) インターネットの利用方法

◆ 「スマートフォンを利用」が10割近く

(問9で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問9-1 どのような方法でインターネットを利用していますか。(〇はいくつでも)

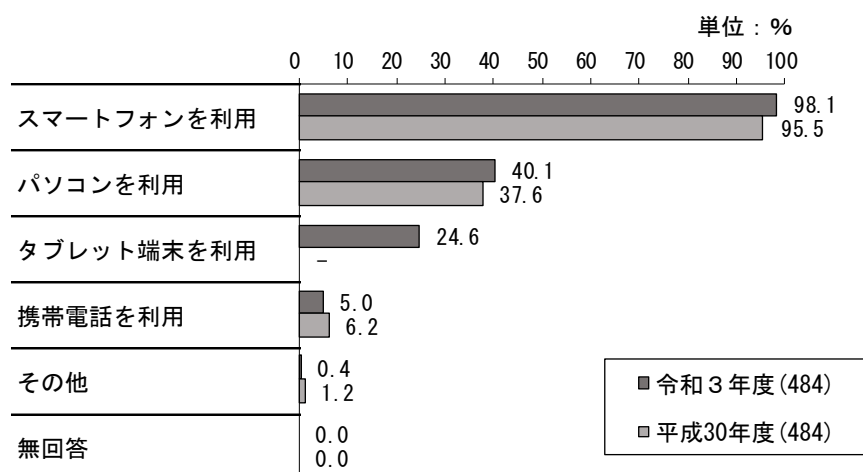
図表IV-4-5 インターネットの利用方法



インターネットの利用方法は、「スマートフォンを利用」(98.1%)が10割近くと最も高く、次いで「パソコンを利用」(40.1%)、「タブレット端末を利用」(24.6%)と続いている。(図表IV-4-5)

【経年変化】

図表IV-4-6 インターネットの利用方法 (経年変化)



※ 令和3年度調査では、選択肢「タブレット端末を利用」を新たに追加した。

「スマートフォンを利用」(98.1%)は、平成30年度調査(95.5%)より2.6ポイント、「パソコンを利用」(40.1%)は、平成30年度調査(37.6%)より2.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「携帯電話を利用」(5.0%)は、平成30年度調査(6.2%)より1.2ポイント減少している。(図表IV-4-6)

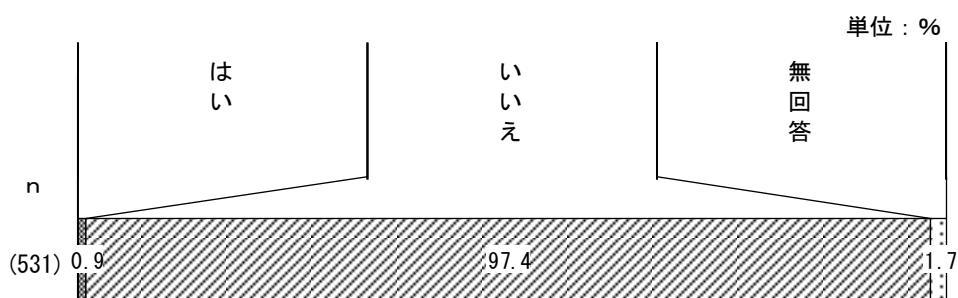
5. I T

(1) 「葛飾区総合アプリ」の利用状況

◆ 「はい」が1割未満

問 10 葛飾区では、平成 29 年 1 月から「葛飾区総合アプリ」として、観光情報や防災情報、ごみ分別、電子母子手帳機能、ARを使った街歩きアプリなどを提供しております。「葛飾区総合アプリ」を使ったことがありますか。(〇は1つ)

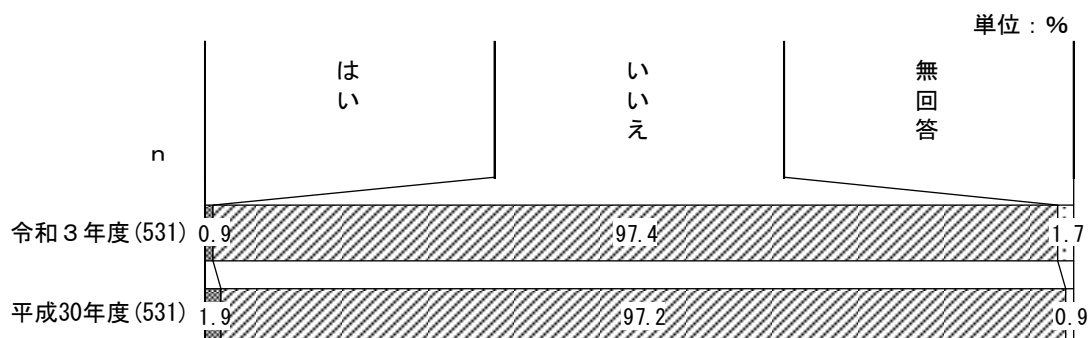
図表Ⅳ-5-1 「葛飾区総合アプリ」の利用状況



「葛飾区総合アプリ」の利用状況は、「いいえ」(97.4%)が10割近くとなっており、「はい」(0.9%)は1%未満となっている。(図表Ⅳ-5-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-5-2 「葛飾区総合アプリ」の利用状況(経年変化)



「いいえ」(97.4%)は、平成30年度調査(97.2%)より0.2ポイント増加している。一方、「はい」(0.9%)は、平成30年度調査(1.9%)より1.0ポイント減少している。(図表Ⅳ-5-2)

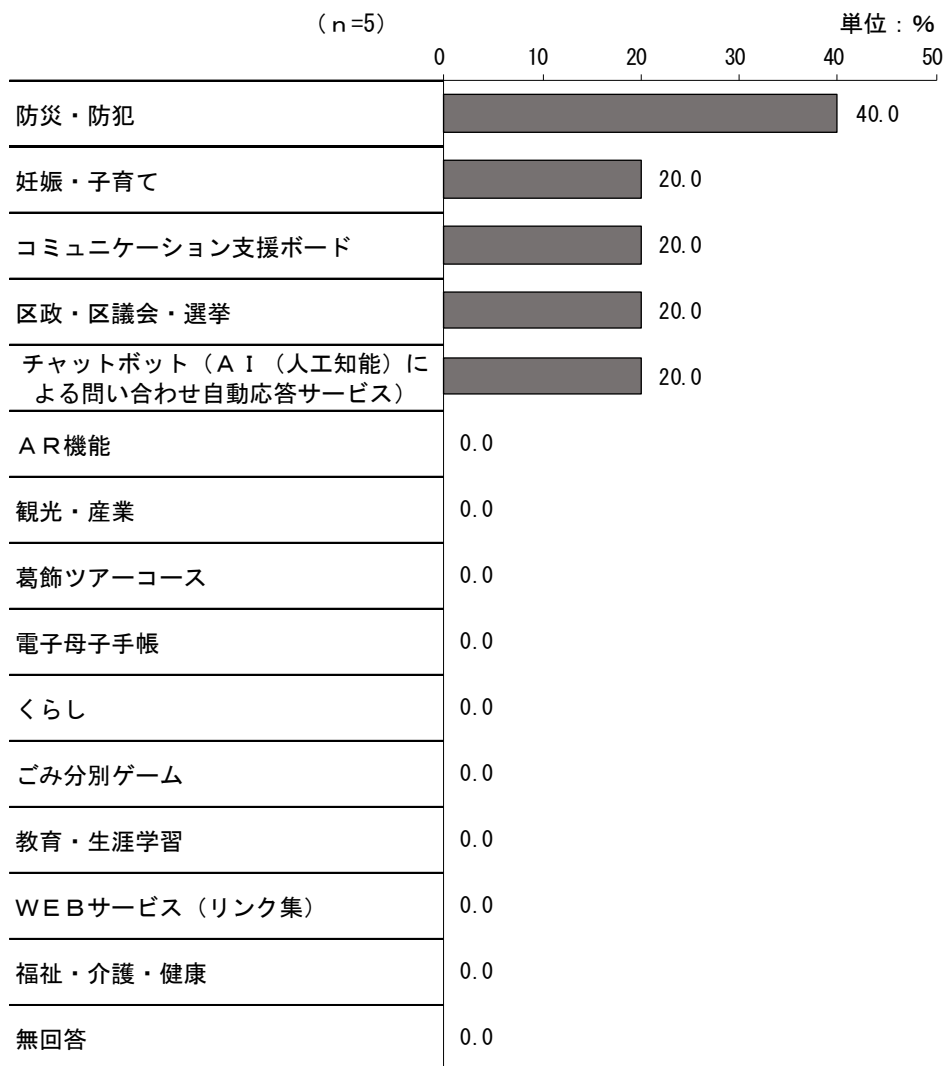
(1-1) 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能

◆ 「防災・防犯」が最多

(問10で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問10-1 「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は何ですか。(〇はいくつでも)

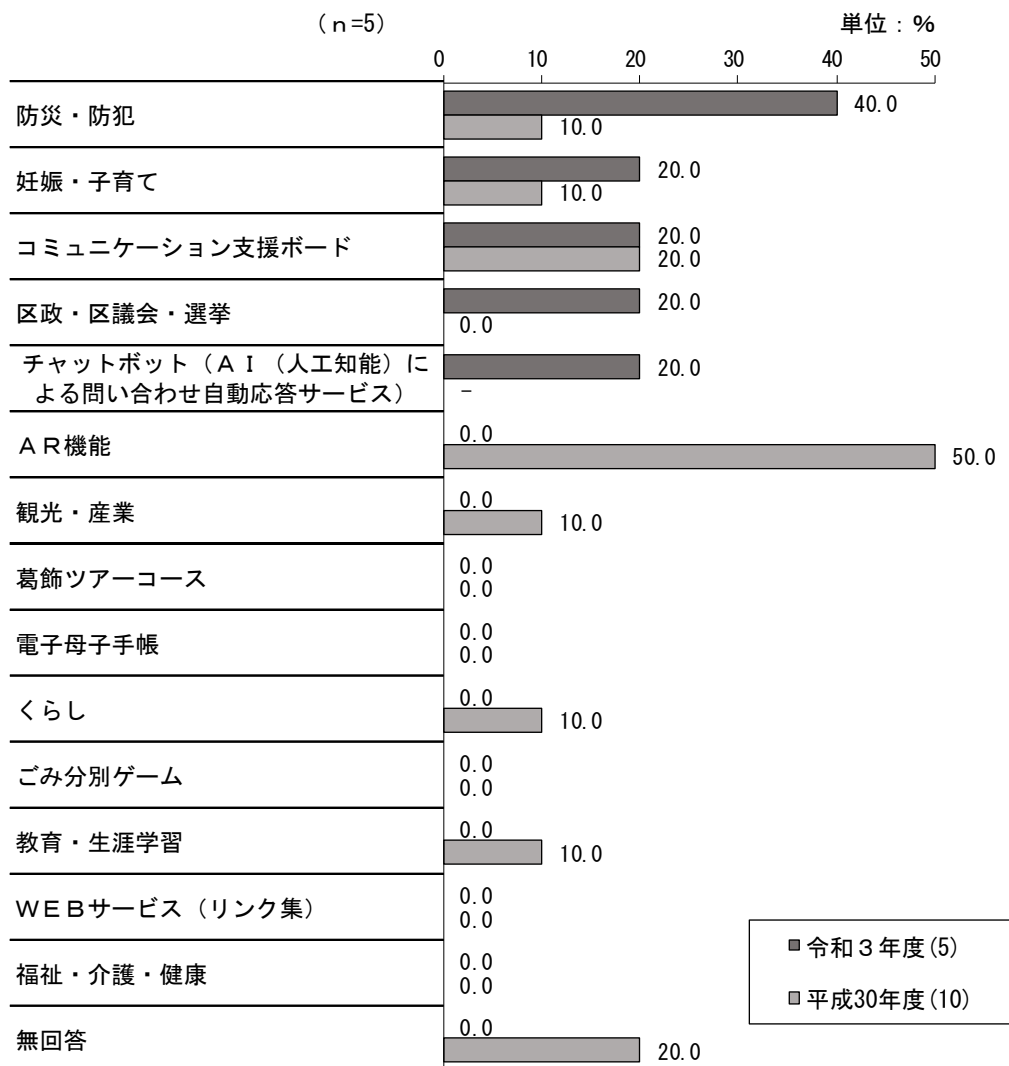
図表Ⅳ-5-3 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能



葛飾区総合アプリを使ったことがあると答えている5人のうち、『葛飾区総合アプリ』のよく利用する機能は、「防犯・防災」(40.0%)が最も高くなっている。(図表Ⅳ-5-3)

【経年変化】

図表Ⅳ－５－４ 「葛飾区総合アプリ」のよく利用する機能（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「チャットボット（A I（人工知能）による問い合わせ自動応答サービス）」を新たに追加した。

平成30年度調査では、「A R機能」（50.0%）が最も高くなっていたが、今回の調査では「防災・防犯」（40.0%）が最も高くなっている。（図表Ⅳ－５－４）

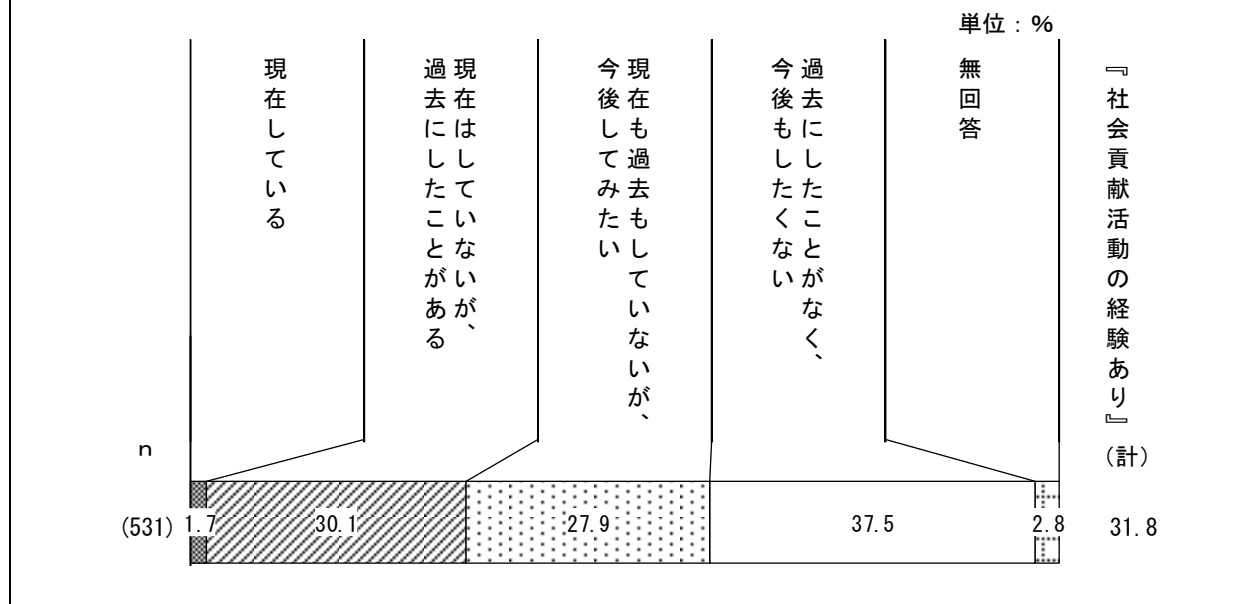
6. 社会貢献活動

(1) 社会貢献活動への参加

◆ 『社会貢献活動の経験あり』が3割強

問11 あなたは現在、社会貢献活動（NPO・ボランティア活動・区政参加など）をしていますか。（○は1つ）

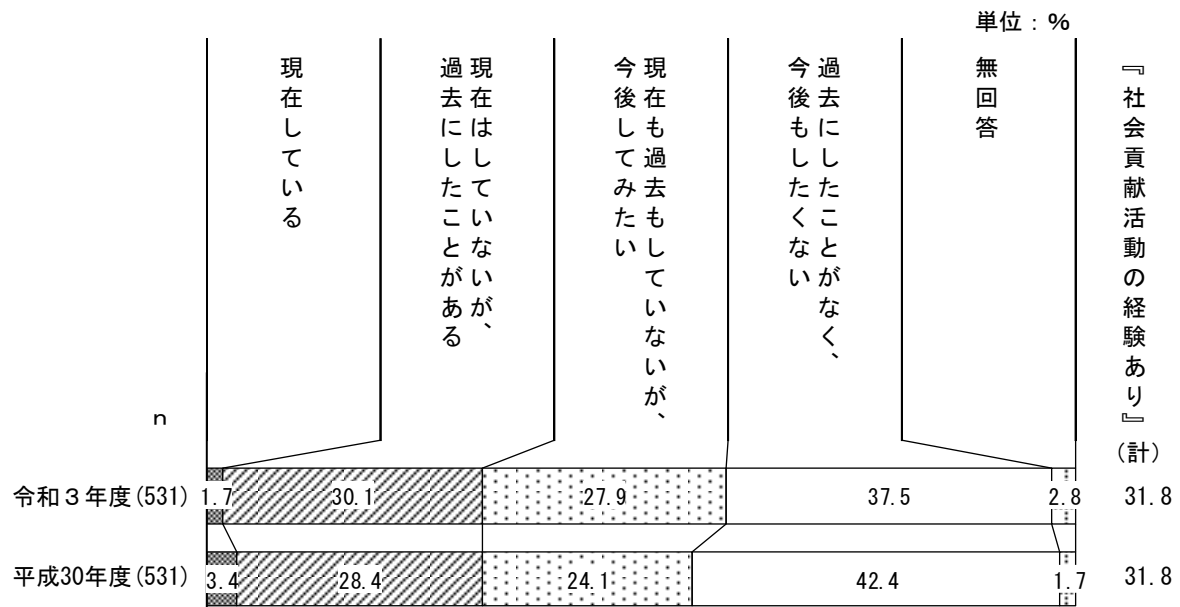
図表IV-6-1 社会貢献活動への参加



社会貢献活動への参加は、「現在している」(1.7%)と「現在はしてないが、過去にしたことがある」(30.1%)を合わせた『社会貢献活動の経験あり』(31.8%)が3割強となっている。また、「現在も過去もしていないが、今後してみたい」(27.9%)は3割近くとなっている。一方、「過去にしたことがなく、今後もしたくない」(37.5%)は、4割近くとなっている。(図表IV-6-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－6－2 社会貢献活動への参加（経年変化）



『社会貢献活動の経験あり』(31.8%)は、平成30年度調査(31.8%)と同率で増減なしとなっている。「現在も過去も活動していないが、今後してみたい」(27.9%)は、平成30年度調査(24.1%)より、3.8ポイント増加している。「過去にしたことがなく、今後もしたくない」(37.5%)は、平成30年度調査(42.4%)より4.9ポイント減少している。(図表Ⅳ－6－2)

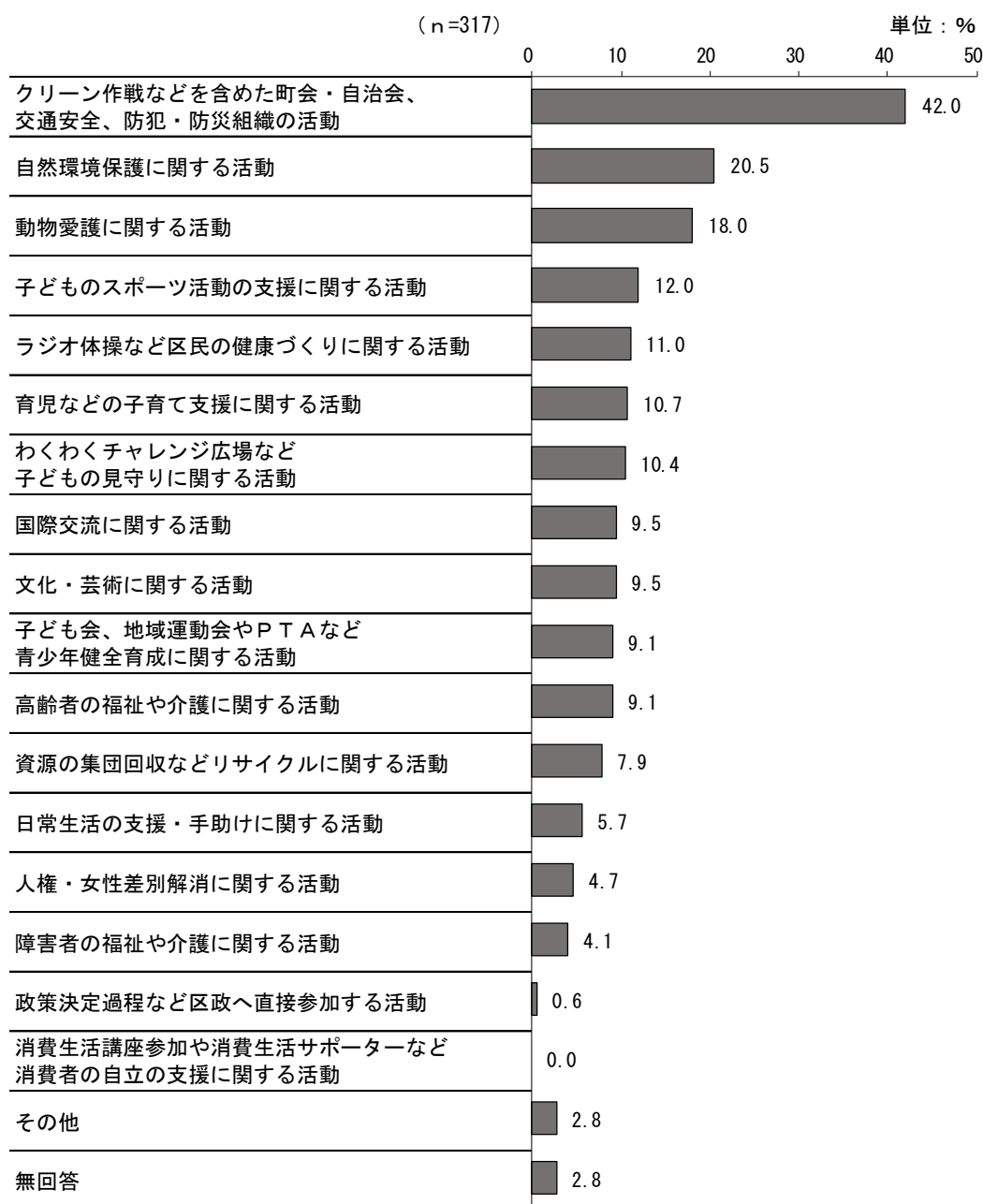
(1-1) 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動

◆ 「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」が4割強

(問11で選択肢「1」から「3」を選んだ方のみお答えください。)

問11-1 あなたが現在参加している、または参加をしてみたい社会貢献活動はどのような分野の活動ですか。(〇はいくつでも)

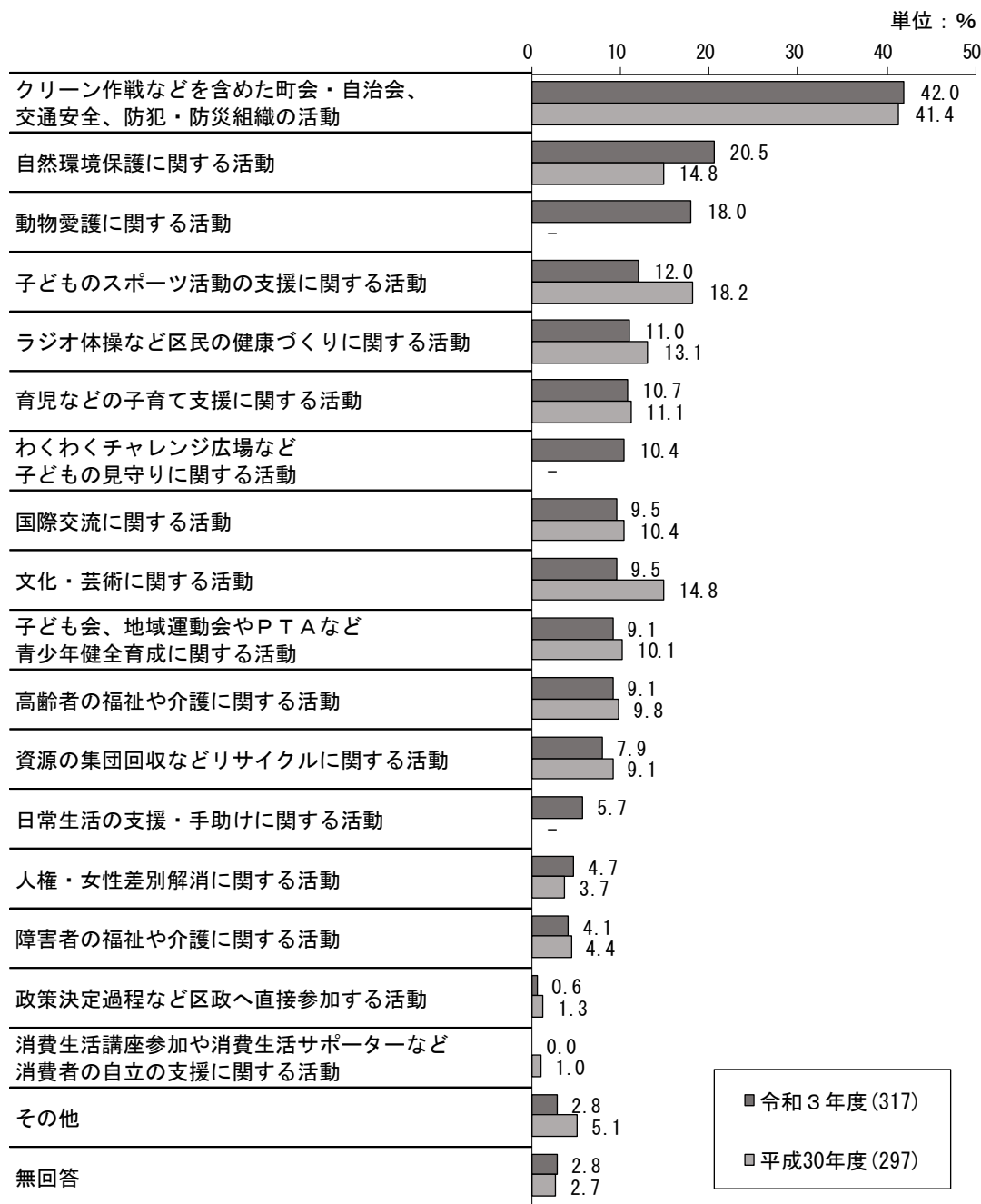
図表IV-6-3 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動



現在参加している・参加してみたい社会貢献活動は、「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」(42.0%)が4割強と最も高く、次いで「自然環境保護に関する活動」(20.5%)、「動物愛護に関する活動」(18.0%)と続いている。(図表IV-6-3)

【経年変化】

図表Ⅳ－６－４ 現在参加している・参加してみたい社会貢献活動（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「動物愛護に関する活動」「わくわくチャレンジ広場など子どもの見守りに関する活動」「日常生活の支援・手助けに関する活動」を新たに追加した。

「クリーン作戦などを含めた町会・自治会、交通安全、防犯・防災組織の活動」（42.0％）は、平成30年度調査（41.4％）より0.6ポイント、「自然環境保護に関する活動」（20.5％）は、平成30年度調査（14.8％）より、5.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「子どものスポーツ活動の支援に関する活動」（12.0％）は、平成30年度調査（18.2％）より6.2ポイント、「ラジオ体操など区民の健康づくりに関する活動」（11.0％）は、平成30年度調査（13.1％）より2.1ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅳ－６－４）

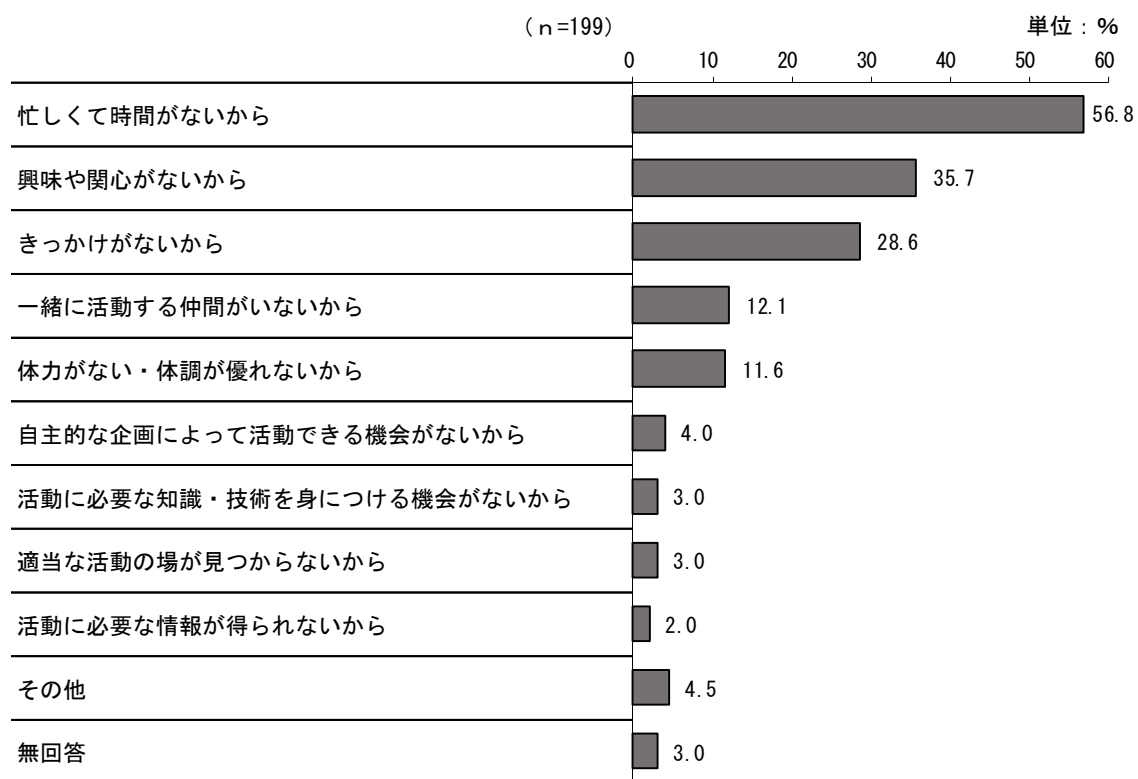
(1-2) 社会貢献活動をしたくない理由

◆ 「忙しくて時間がないから」が6割近く

(問11で選択肢「4」を選んだ方のみお答えください。)

問11-2 社会貢献活動をしたくない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

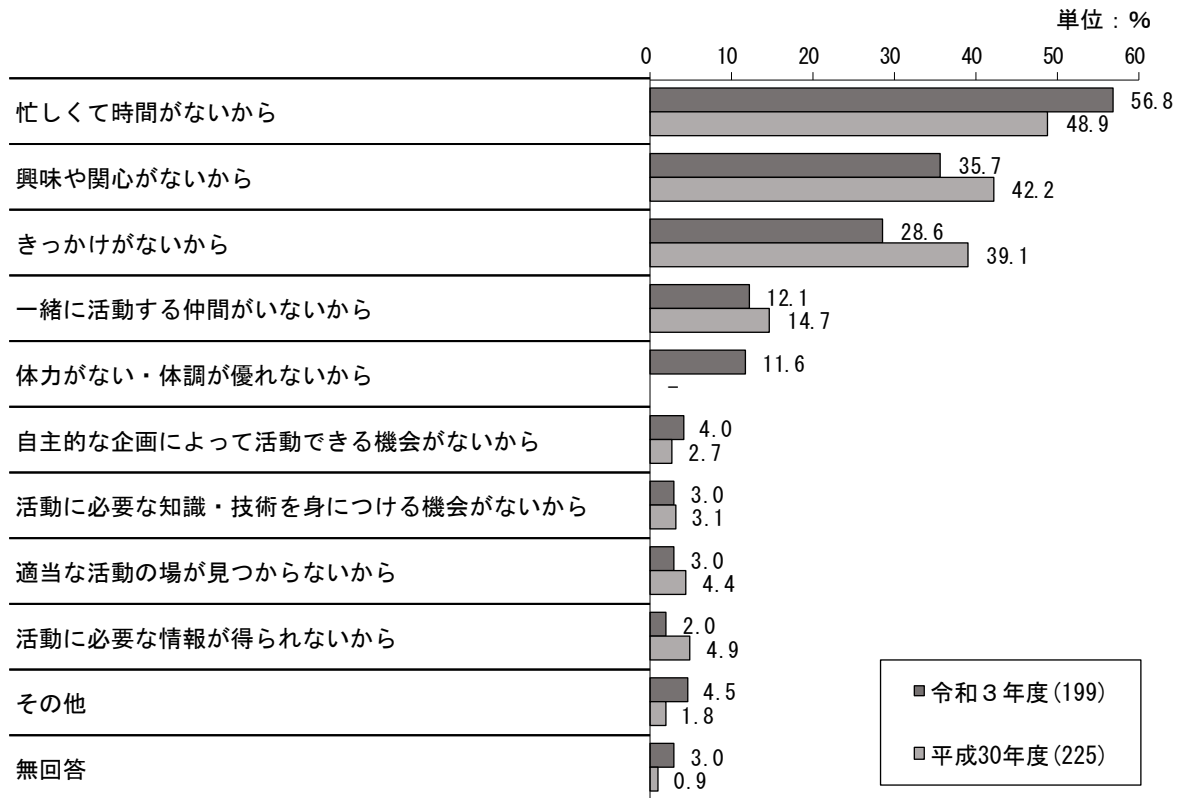
図表IV-6-5 社会貢献活動をしたくない理由



社会貢献活動をしたくない理由は、「忙しくて時間がないから」(56.8%)が6割近くと最も高く、次いで「興味や関心がないから」(35.7%)、「きっかけがないから」(28.6%)と続いている。(図表IV-6-5)

【経年変化】

図表Ⅳ－６－６ 社会貢献活動をしたくない理由（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「体力がない・体調が優れないから」を新たに追加した。

「忙しくて時間がないから」(56.8%)は、平成30年度調査(48.9%)より7.9ポイント増加している。一方、「興味や関心がないから」(35.7%)は、平成30年度調査(42.2%)より6.5ポイント、「きっかけがないから」(28.6%)は、平成30年度調査(39.1%)より10.5ポイント、「一緒に活動する仲間がないから」(12.1%)は、平成30年度調査(14.7%)より2.6ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ－６－６)

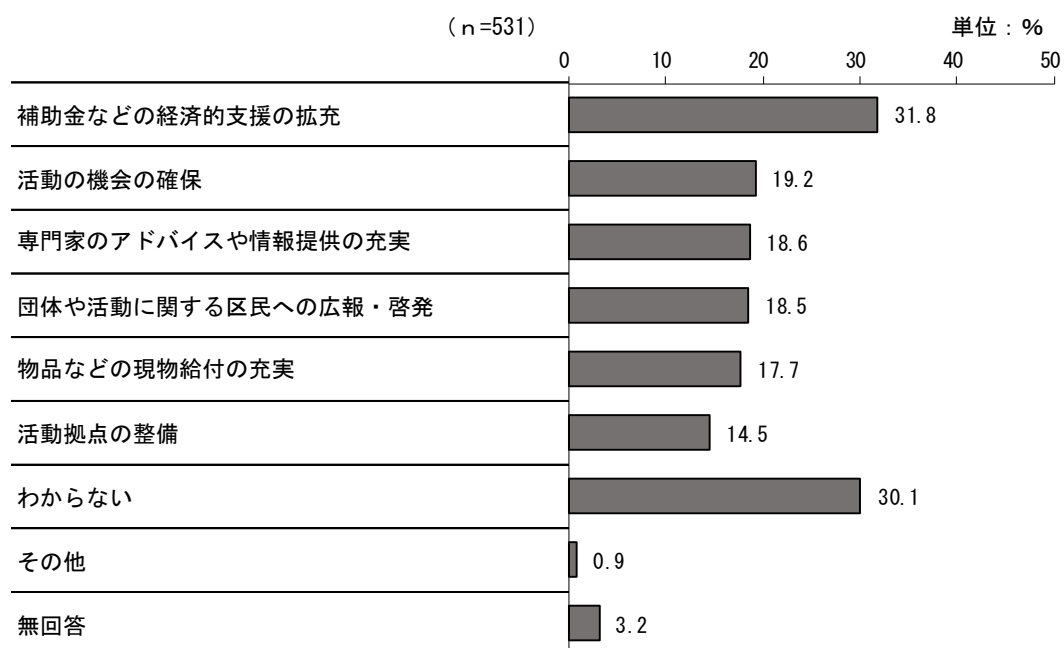
7. 地域貢献活動に対する支援

(1) 地域貢献活動に対する支援

◆ 「補助金などの経済的支援の拡充」が3割強

問 12 自治町会や地域ボランティア団体などの活動を促進するために、行政が支援すべきことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

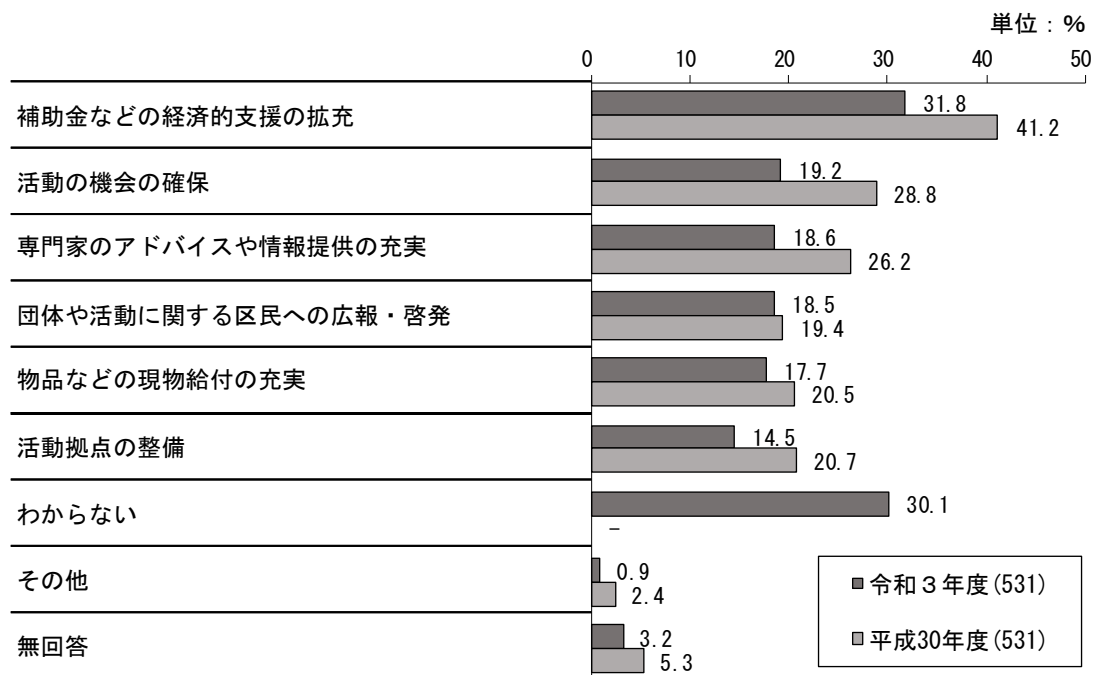
図表IV-7-1 地域貢献活動に対する支援



地域貢献活動に対する支援は、「補助金などの経済的支援の拡充」(31.8%)が3割強と最も高く、次いで「活動の機会の確保」(19.2%)、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」(18.6%)と続いている。(図表IV-7-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－７－２ 地域貢献活動に対する支援（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「補助金などの経済的支援の拡充」(31.8%)は、平成30年度調査(41.2%)より9.4ポイント、「活動の機会の確保」(19.2%)は、平成30年度調査(28.8%)より9.6ポイント、「専門家のアドバイスや情報提供の充実」(18.6%)は、平成30年度調査(26.2%)より7.6ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ－７－２)

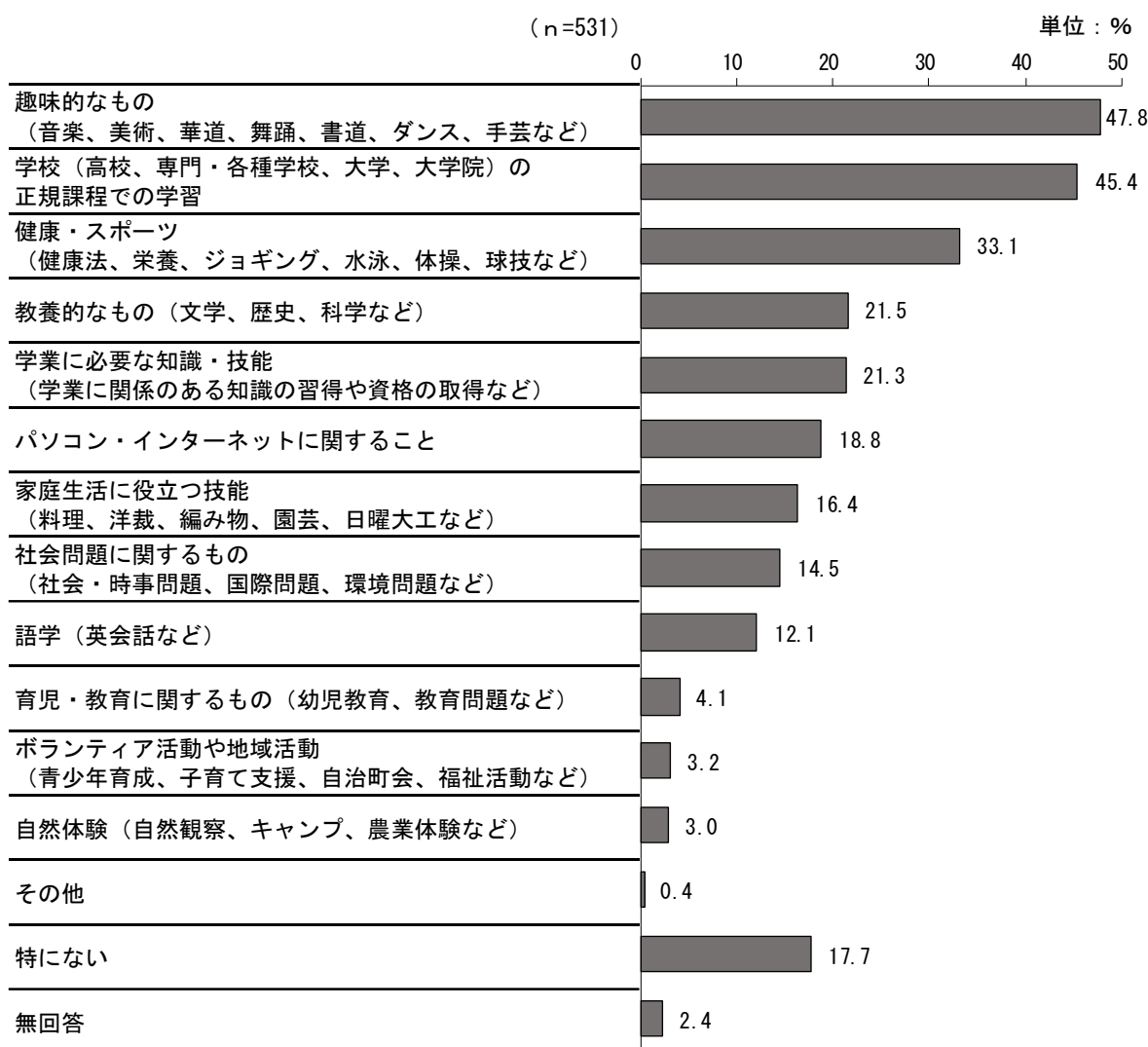
8. 生涯学習

(1) 最近1年間における生涯学習の実施状況

◆ 「趣味的なもの」が5割近く

問13 「生涯学習」とは、学校教育や社会教育、自宅などで行う学習活動を含めて、自分から進んで行う学習・文化活動、スポーツ、ボランティア活動、趣味などの様々な学習活動のことをいいます。あなたは、この1年くらいの間に、このような「生涯学習」をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅳ－8－1 最近1年間における生涯学習の実施状況

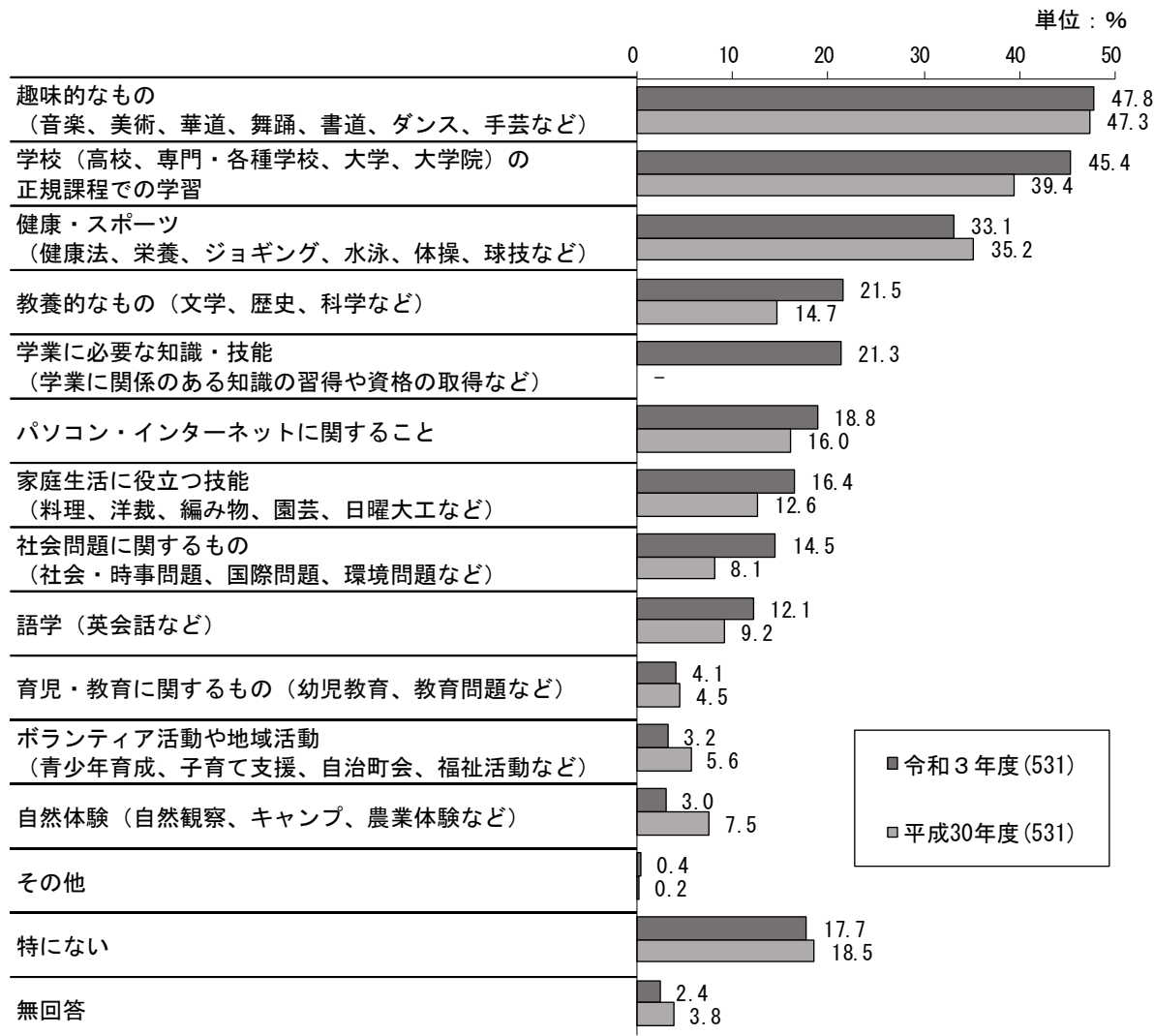


最近1年間における生涯学習の実施状況は、「趣味的なもの」(47.8%)が5割近くと最も高く、次いで「学校(高校、専門・各種学校、大学、大学院)の正規課程での学習」(45.4%)、「健康・スポーツ(健康法、栄養、ジョギング、水泳、体操、球技など)」(33.1%)と続いている。

なお、「特にない」(17.7%)は2割近くとなっている。(図表Ⅳ－8－1)

【経年変化】

図表Ⅳ－８－２ 最近１年間における生涯学習の実施状況（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「学業に必要な知識・技能(学業に関係のある知識の習得や資格の取得など)」を新たに追加した。

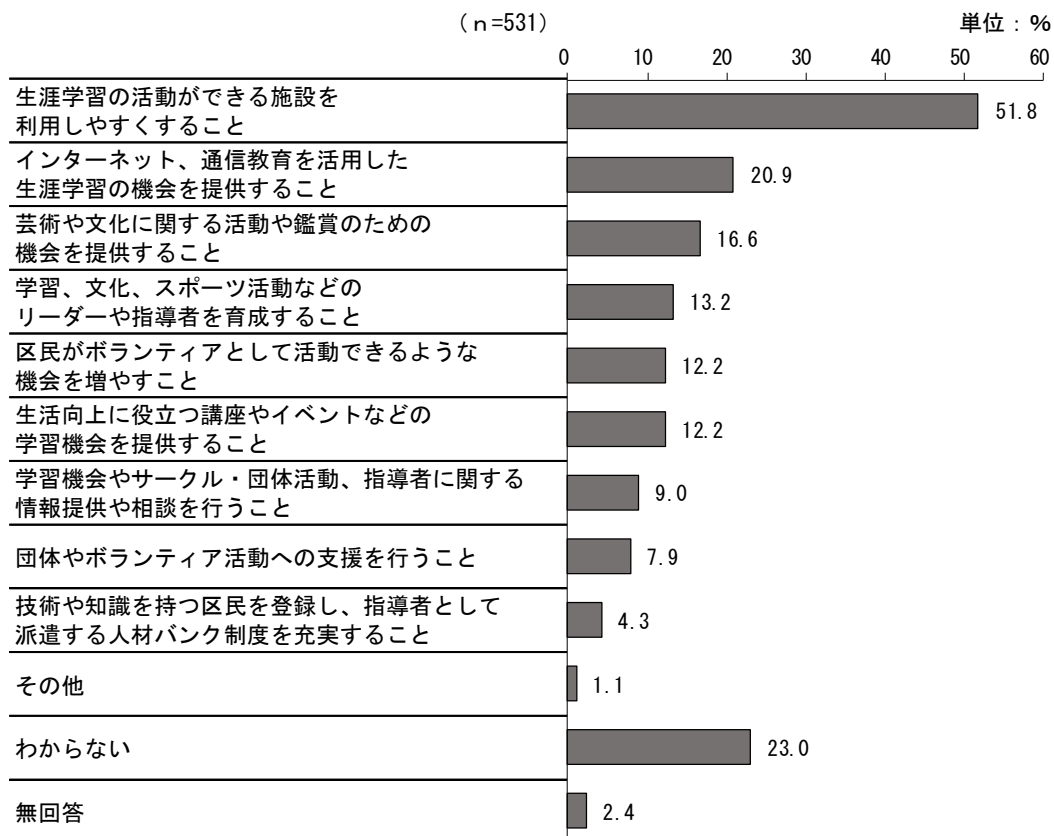
「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、ダンス、手芸など)」(47.8%)は、平成30年度調査(47.3%)より0.5ポイント、「学校(高校、専門・各種学校、大学、大学院)の正規課程での学習」(45.4%)は、平成30年度調査(39.4%)より6.0ポイント、「教養的なもの(文学、歴史、科学など)」(21.5%)は、平成30年度調査(14.7%)より6.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「健康・スポーツ(健康法、栄養、ジョギング、水泳、体操、球技など)」(33.1%)は、平成30年度調査(35.2%)より2.1ポイント減少している。(図表Ⅳ－８－２)

(2) 生涯学習を充実させるために重要なこと

◆ 「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」が5割強

問 14 生涯学習を充実させるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

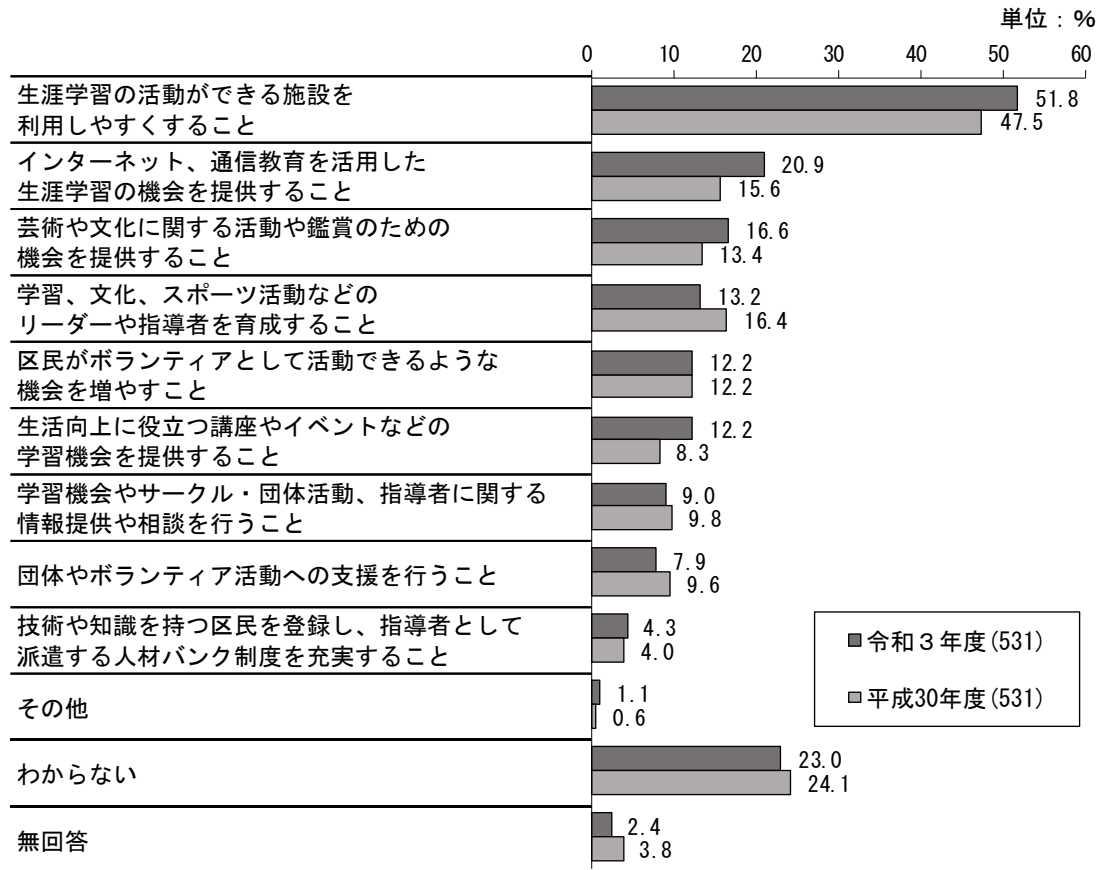
図表Ⅳ－8－3 生涯学習を充実させるために重要なこと



生涯学習を充実させるために重要なことは、「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(51.8%)が5割強と最も高く、次いで「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(20.9%)、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(16.6%)と続いている。(図表Ⅳ－8－3)

【経年変化】

図表Ⅳ－８－４ 生涯学習を充実させるために重要なこと（経年変化）



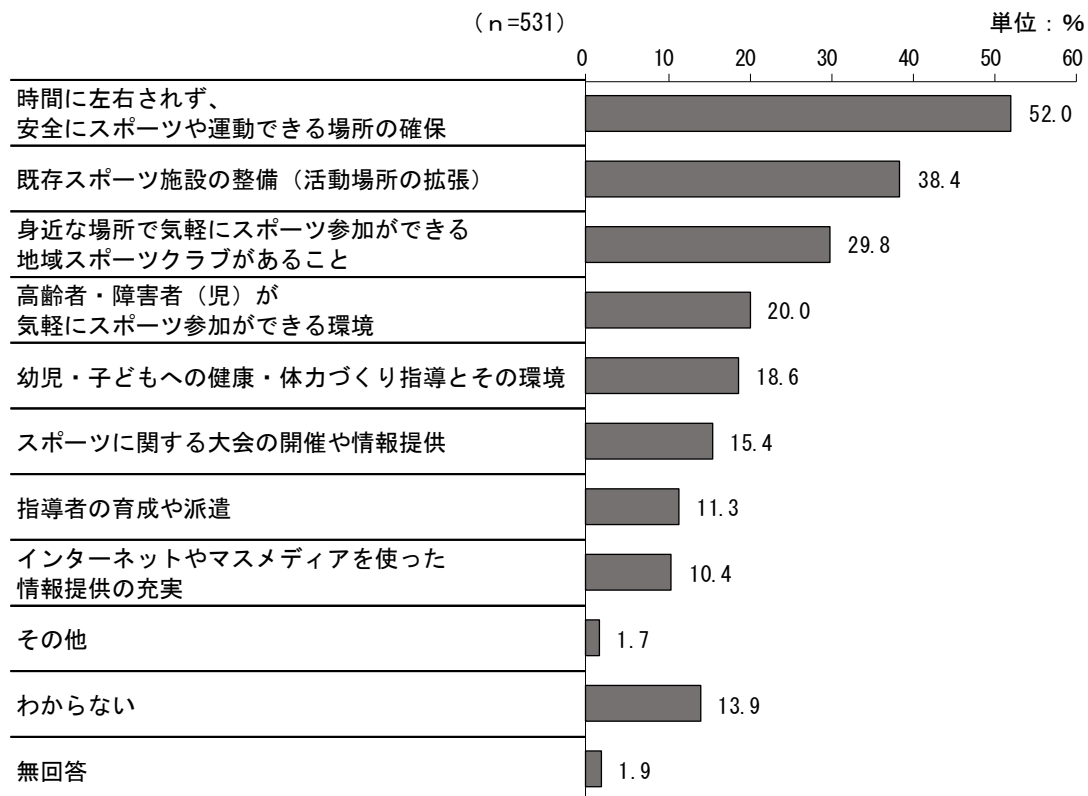
「生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること」(51.8%)は、平成30年度調査(47.5%)より4.3ポイント、「インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること」(20.9%)は、平成30年度調査(15.6%)より5.3ポイント、「芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること」(16.6%)は、平成30年度調査(13.4%)より3.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「学習、文化、スポーツ活動などのリーダーや指導者を育成すること」(13.2%)は、平成30年度調査(16.4%)より3.2ポイント減少している。(図表Ⅳ－８－４)

(3) 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと

◆ 「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」が5割強

問 15 誰もがスポーツを楽しむために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

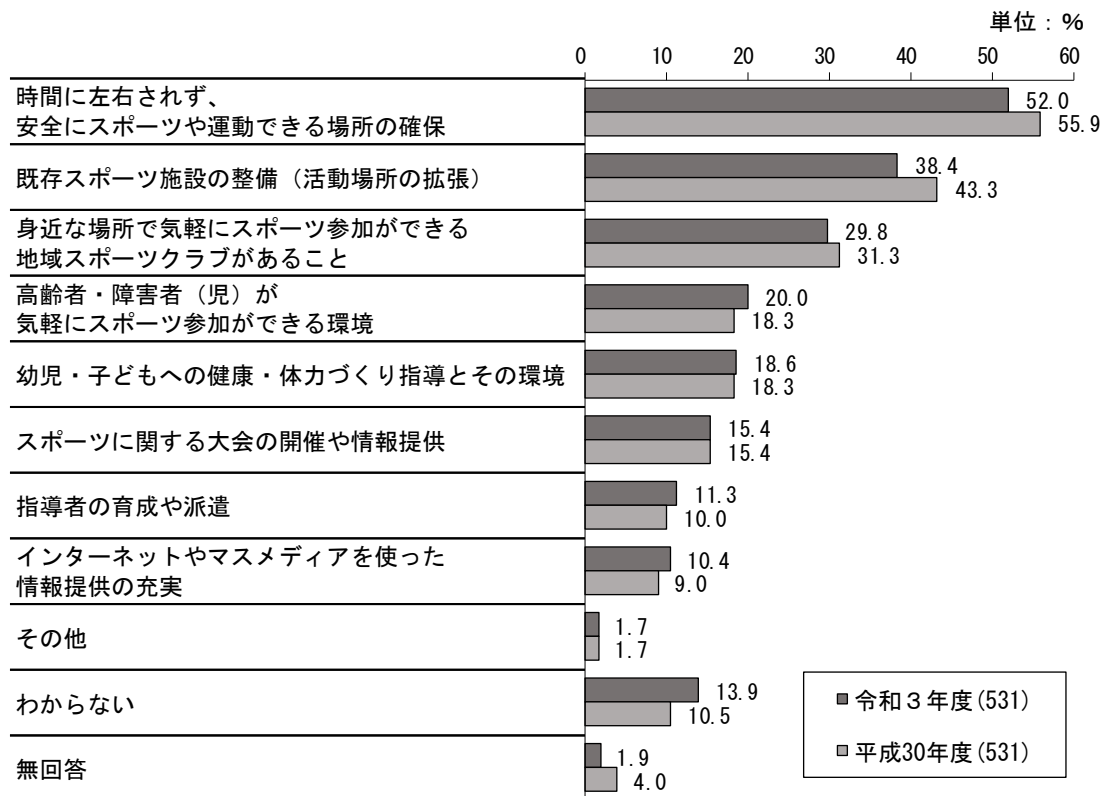
図表Ⅳ－8－5 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと



誰もがスポーツを楽しむために重要なことは、「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」(52.0%)が5割強と最も高く、次いで「既存スポーツ施設の整備(活動場所の拡張)」(38.4%)、「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」(29.8%)と続いている。(図表Ⅳ－8－5)

【経年変化】

図表Ⅳ－８－６ 誰もがスポーツを楽しむために重要なこと（経年変化）



「時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保」（52.0%）は、平成30年度調査（55.9%）より3.9ポイント、「既存スポーツ施設の整備（活動場所の拡張）」（38.4%）は、平成30年度調査（43.3%）より4.9ポイント、「身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること」（29.8%）は、平成30年度調査（31.3%）より1.5ポイント、それぞれ減少している。一方、「高齢者・障害者（児）が気軽にスポーツ参加ができる環境」（20.0%）は、平成30年度調査（18.3%）より1.7ポイント増加している。（図表Ⅳ－８－６）

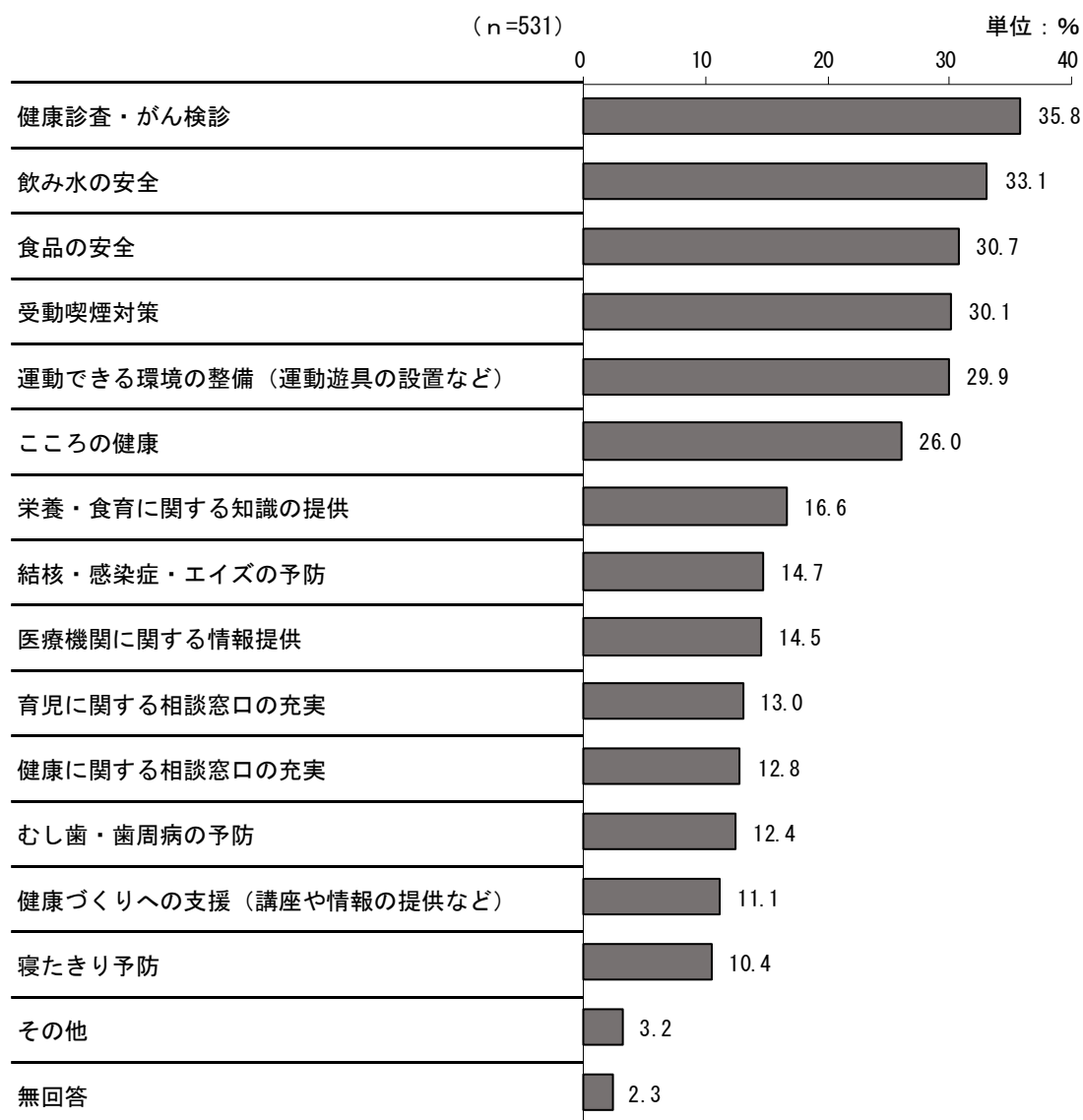
9. 健康

(1) 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと

◆ 「健康診査・がん検診」が3割台半ば

問16 あなたがより健康な生活を送るために、葛飾区にはどのようなことに力を入れてほしいですか。(〇はいくつでも)

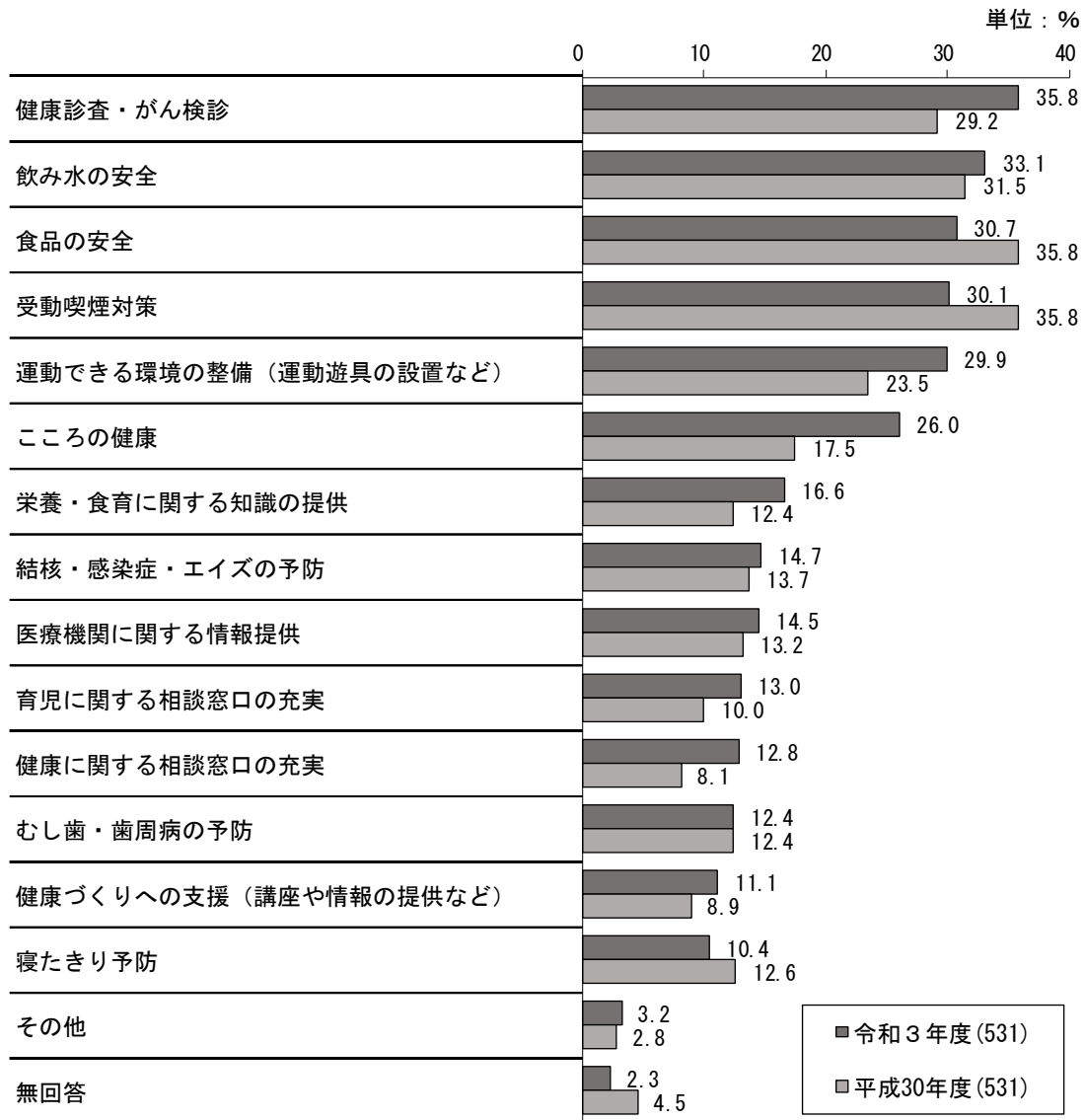
図表IV-9-1 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと



健康な生活を送るために力を入れてほしいことは、「健康診査・がん検診」(35.8%)が3割台半ばと最も高く、次いで「飲み水の安全」(33.1%)、「食品の安全」(30.7%)と続いている。(図表IV-9-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－９－２ 健康な生活を送るために力を入れてほしいこと（経年変化）

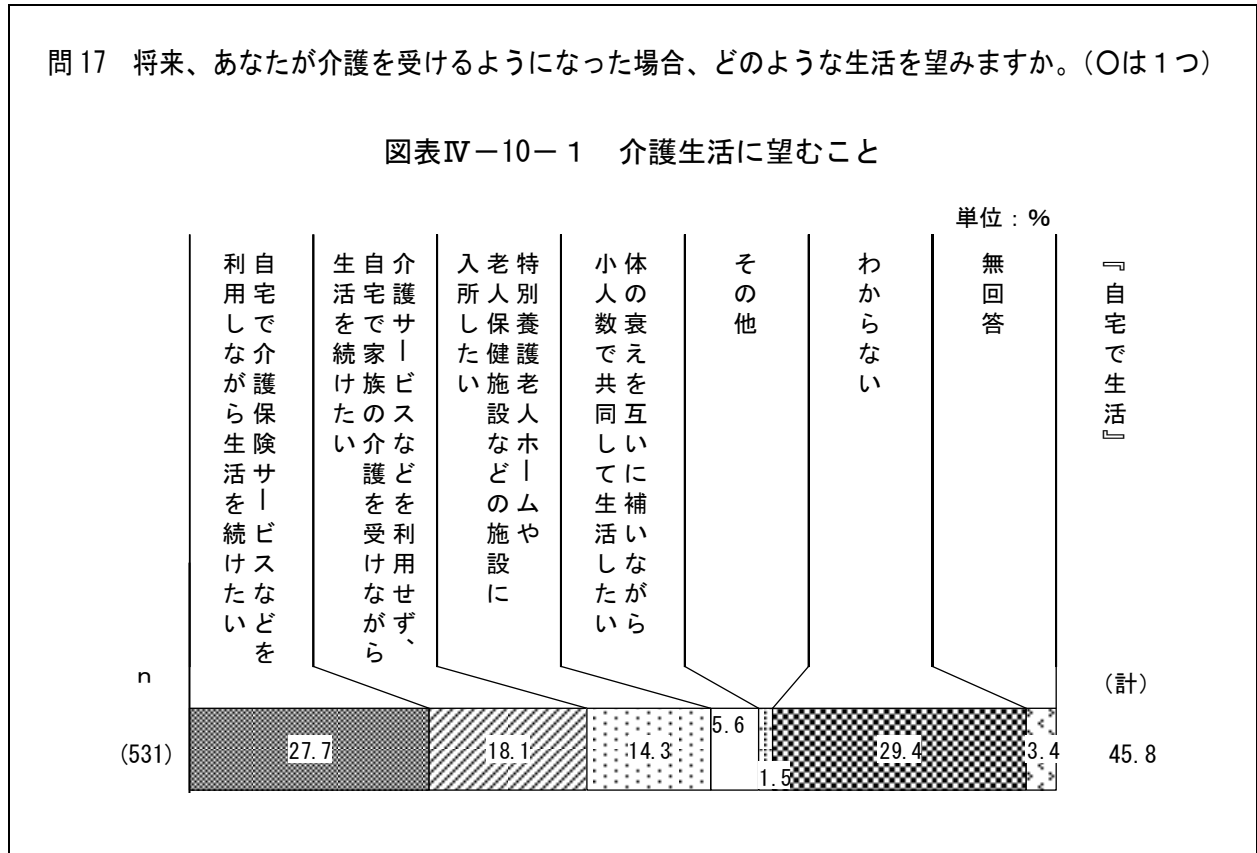


「健康診査・がん検診」（35.8％）は、平成30年度調査（29.2％）より6.6ポイント、「飲み水の安全」（33.1％）は、平成30年度調査（31.5％）より1.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「食品の安全」（30.7％）は、平成30年度調査（35.8％）より5.1ポイント、「受動喫煙対策」（30.1％）は、平成30年度調査（35.8％）より5.7ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅳ－9－2）

10. 高齢者支援

(1) 介護生活に望むこと

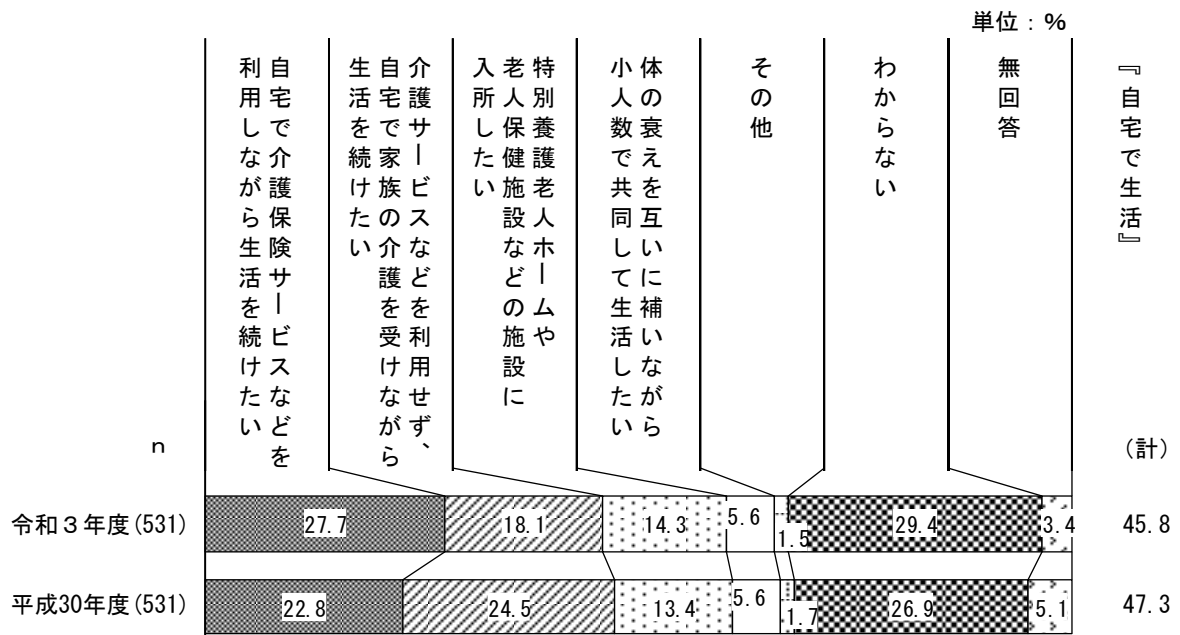
◆ 『自宅で生活』が4割台半ば



介護生活に望むことは、「わからない」(29.4%)が3割弱と最も高く、次いで「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活したい」(27.7%)、「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活したい」(18.1%)と続いている。また、「自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活したい」(27.7%)と「介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活したい」(18.1%)を合わせた『自宅で生活』(45.8%)が4割台半ばとなっている。(図表IV-10-1)

【経年変化】

図表IV-10-2 介護生活に望むこと（経年変化）



『自宅で生活』(45.8%)は、平成30年度調査(47.3%)より1.5ポイント減少している。一方、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」(14.3%)は、平成30年度調査(13.4%)より0.9ポイント増加している。「体の衰えを互いに補いながら小人数で共同して生活したい」(5.6%)は、平成30年度調査(5.6%)と同率で増減なしとなっている。(図表IV-10-2)

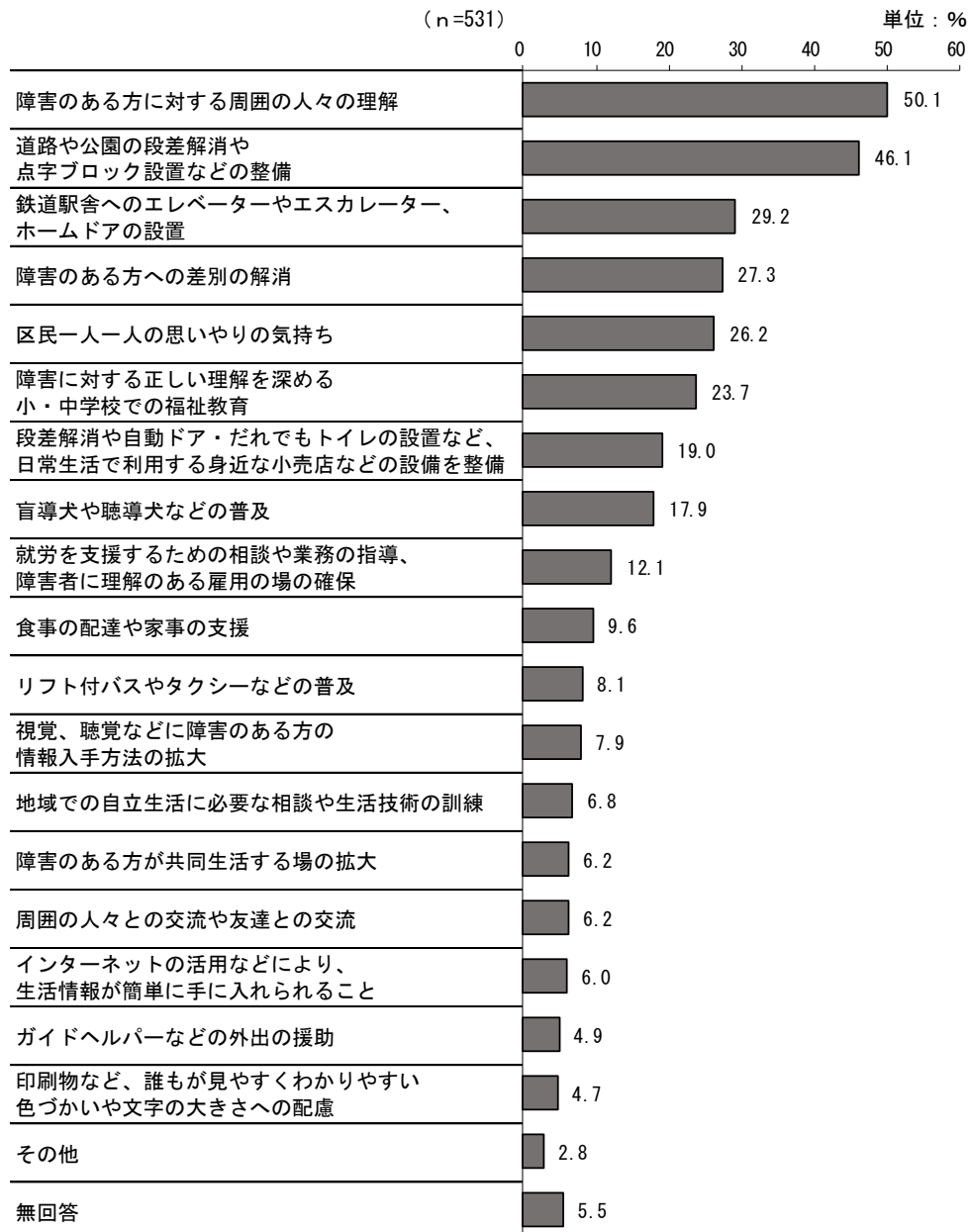
11. 障害者支援

(1) 障害者が安心して暮らすために重要なこと

◆ 「障害のある方に対する周囲の人々の理解」が約5割

問 18 障害がある方など誰もが安心して暮らせるためには、何が重要だと思いますか。(〇は5つまで)

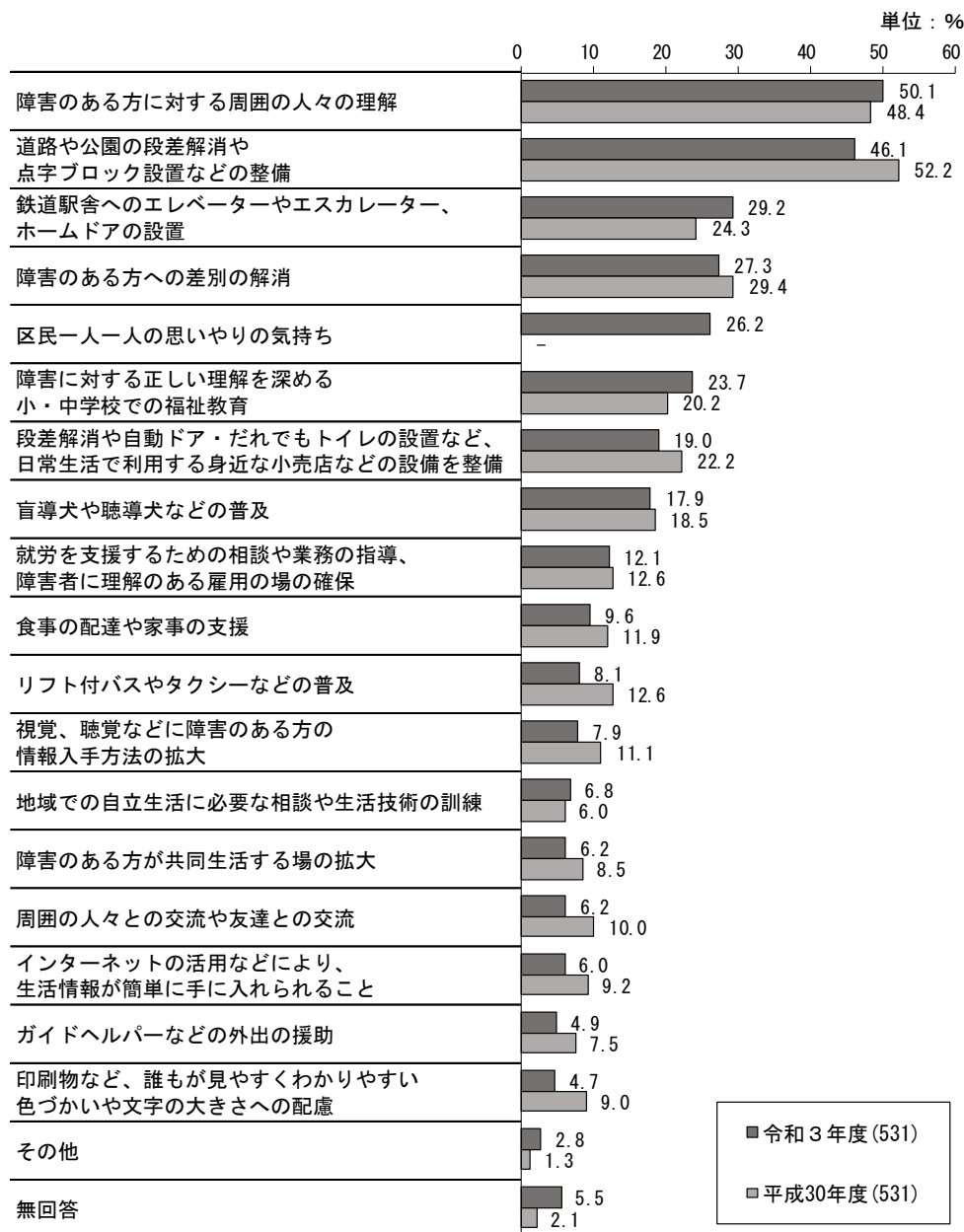
図表IV-11-1 障害者が安心して暮らすために重要なこと



障害者が安心して暮らすために重要なことは、「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(50.1%) が約5割と最も高く、次いで「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(46.1%)、「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(29.2%) と続いている。(図表IV-11-1)

【経年変化】

図表IV-11-2 障害者が安心して暮らすために重要なこと（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「区民一人一人の思いやりの気持ち」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「段差解消や自動ドア・障害者対応トイレの設置等、日常生活で利用する身近な小売店などの設備を整備」を「段差解消や自動ドア・だれでもトイレの設置など、日常生活で利用する身近な小売店などの設備を整備」に変更した。

「障害のある方に対する周囲の人々の理解」(50.1%)は、平成30年度調査(48.4%)より1.7ポイント、「鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置」(29.2%)は、平成30年度調査(24.3%)より4.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備」(46.1%)は、平成30年度調査(52.2%)より6.1ポイント、「障害のある方への差別の解消」(27.3%)は、平成30年度調査(29.4%)より2.1ポイント、それぞれ減少している。(図表IV-11-2)

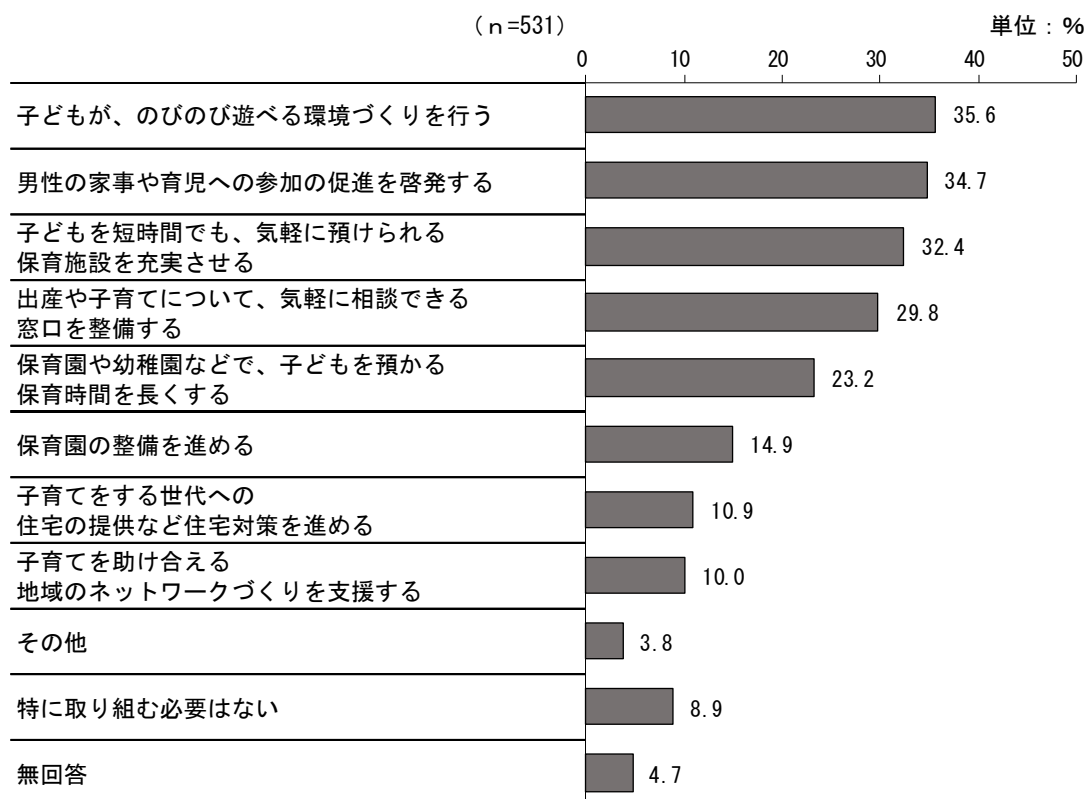
12. 子育て

(1) 少子化対策における必要な施策

◆ 「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」が3割台半ば

問 19 少子化社会の中で、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

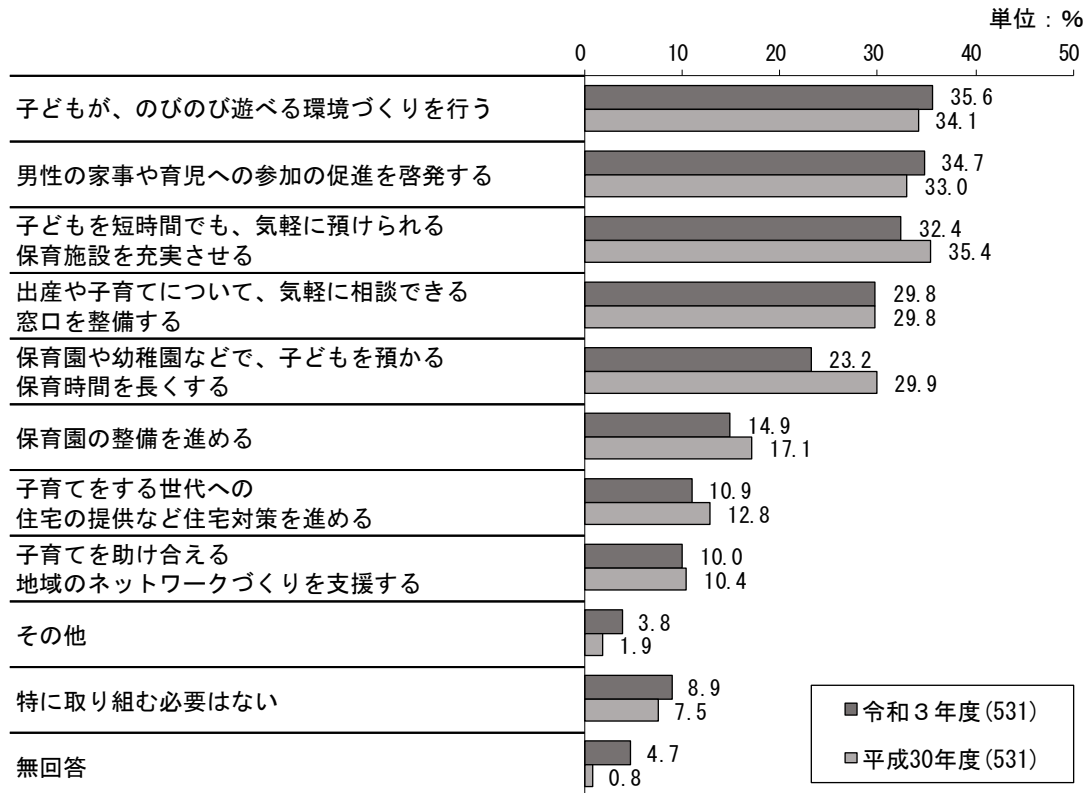
図表IV-12-1 少子化対策における必要な施策



少子化対策における必要な施策は、「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで「男性の家事や育児への参加の促進を啓発する」(34.7%)、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」(32.4%)と続いている。(図表IV-12-1)

【経年変化】

図表Ⅳ－12－2 少子化対策における必要な施策（経年変化）



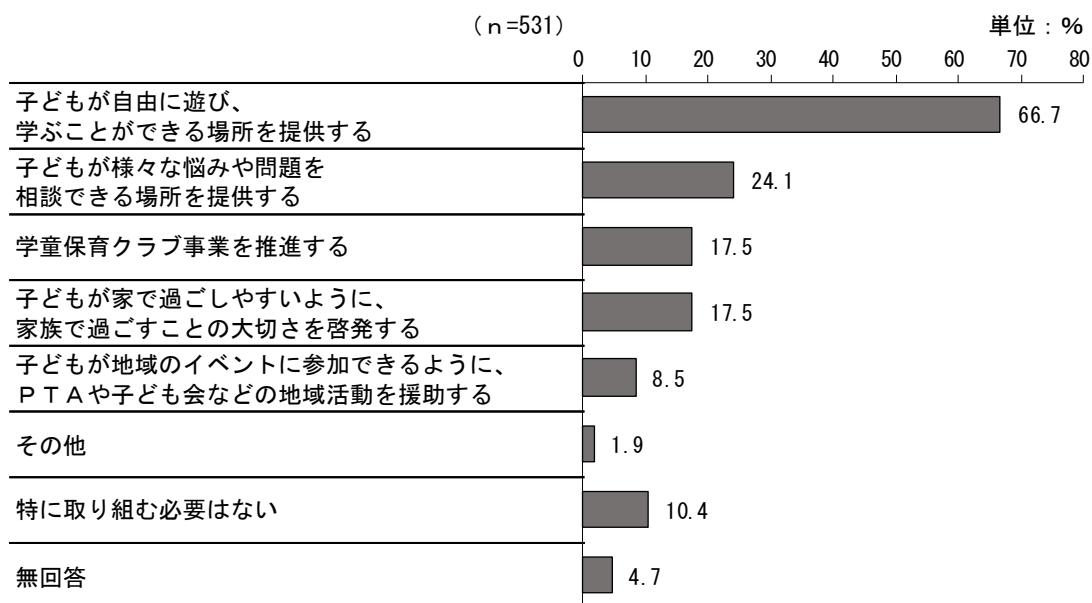
「子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う」（35.6％）は、平成30年度調査（34.1％）より1.5ポイント、「男性の家事や育児への参加の促進を啓発する」（34.7％）は、平成30年度調査（33.0％）より1.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる」（32.4％）は、平成30年度調査（35.4％）より3.0ポイント減少している。また、「出産や子育てについて、気軽に相談できる窓口を整備する」（29.8％）は、平成30年度調査（29.8％）と同率で増減なしとなっている。（図表Ⅳ－12－2）

(2) 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策

◆ 「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」が7割近く

問 20 子どもたちの放課後などの過ごし方について、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は2つまで)

図表IV-12-3 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策

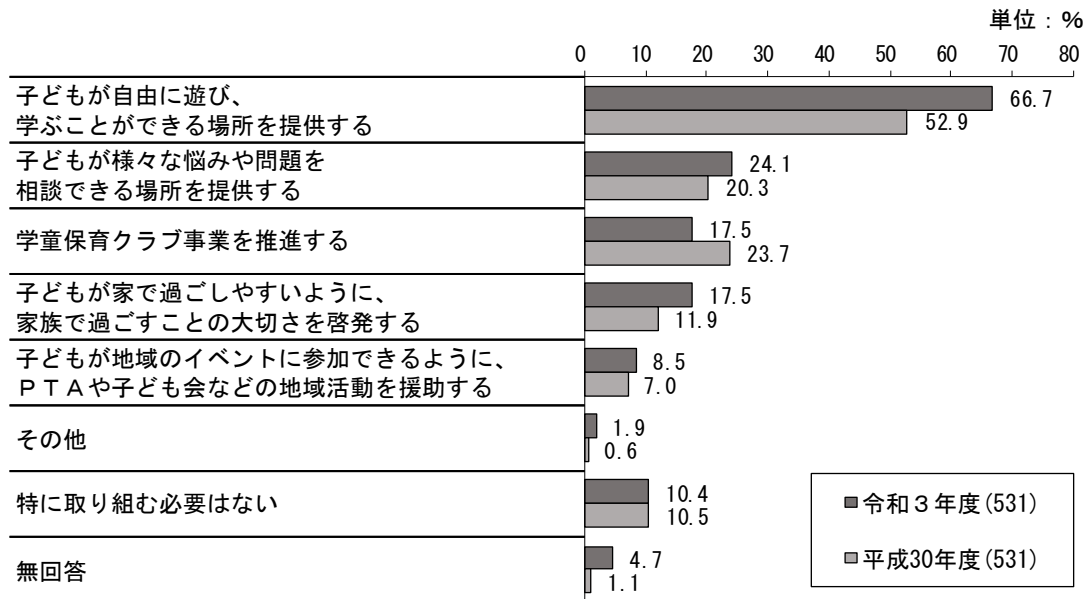


子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策は、「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」(66.7%)が7割近くと最も高く、次いで「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」(24.1%)、「学童保育クラブ事業を推進する」(17.5%)と続いている。

(図表IV-12-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-12-4 子どもたちの放課後などの過ごし方に必要な施策（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」を平成30年度調査の選択肢「集団での遊びや運動遊びなど体を使った活動を安全に行える場所を提供する」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」を平成30年度調査の選択肢「家庭や友人関係等に悩みや問題を抱える子供に適切な支援をする」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「学童保育クラブ事業を推進する」を平成30年度調査の選択肢「子どもを安心して預けられるよう学童保育クラブ事業を推進する」と比較している。
- ※ 令和3年度調査では、選択肢「子どもが家で過ごしやすいうように、家族で過ごすことの大切さを啓発する」を平成30年度調査の選択肢「家庭に対して、家族で過ごすことの大切さを啓発する」と比較している。

「子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する」(66.7%)は、平成30年度調査(52.9%)より13.8ポイント、「子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する」(24.1%)は、平成30年度調査(20.3%)より3.8ポイント、「子どもが家で過ごしやすいうように、家族で過ごすことの大切さを啓発する」(17.5%)は、平成30年度調査(11.9%)より5.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「学童保育クラブ事業を推進する」(17.5%)は、平成30年度調査(23.7%)より6.2ポイント減少している。(図表Ⅳ-12-4)

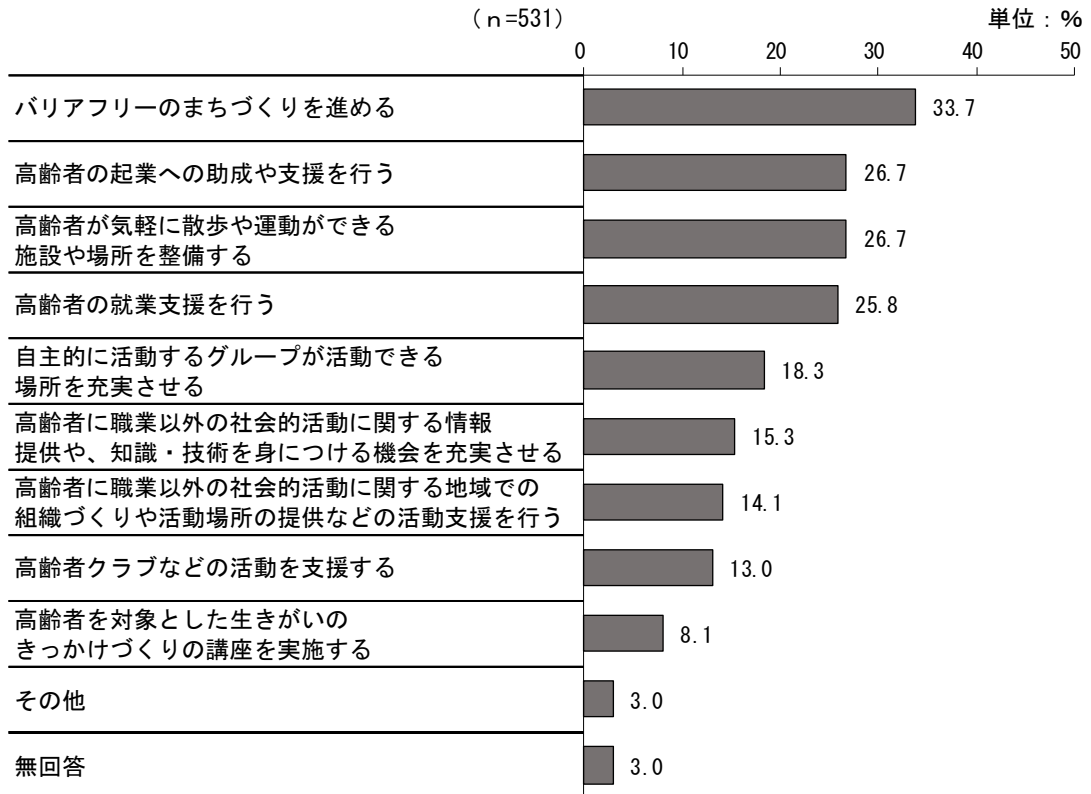
13. 高齢社会への対応

(1) 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策

◆ 「バリアフリーのまちづくりを進める」が3割強

問 21 高齢社会の中で葛飾区は社会参加を促すため、どのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

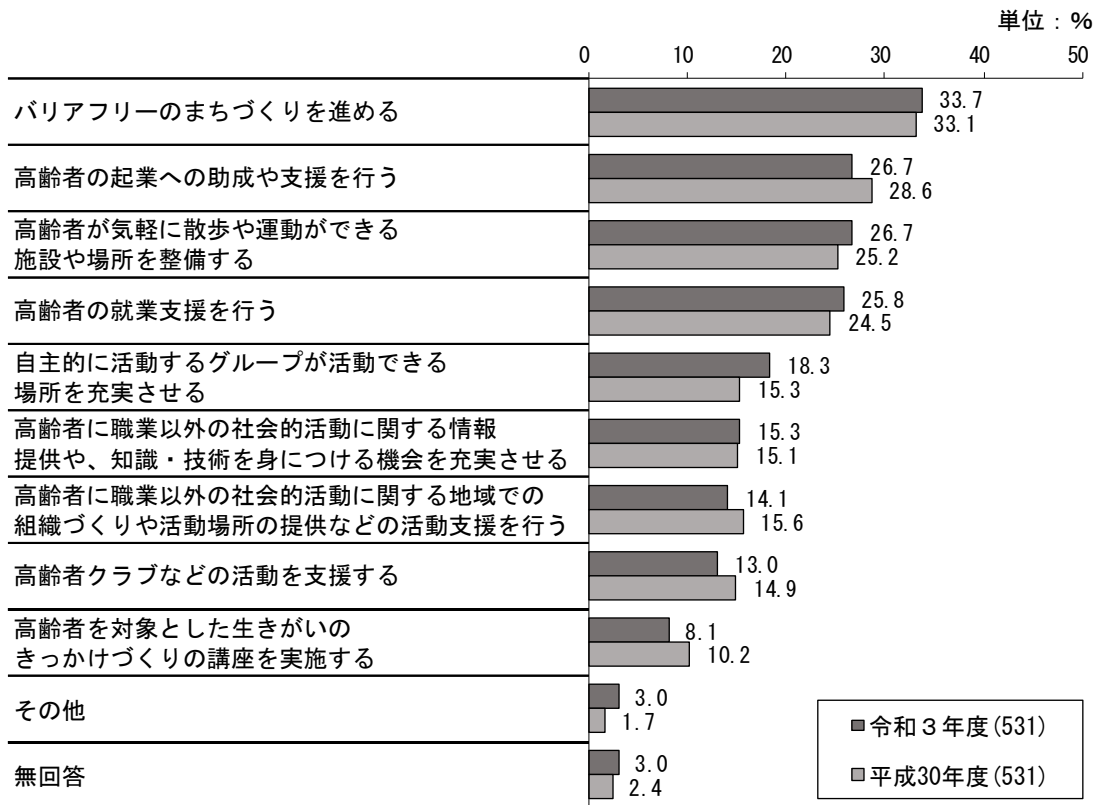
図表IV-13-1 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策



高齢社会の社会参加を促すために必要な施策は、「バリアフリーのまちづくりを進める」(33.7%)が3割強と最も高く、次いで「高齢者の起業への助成や支援を行う」(26.7%)と「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」(26.7%)が同率で続いている。(図表IV-13-1)

【経年変化】

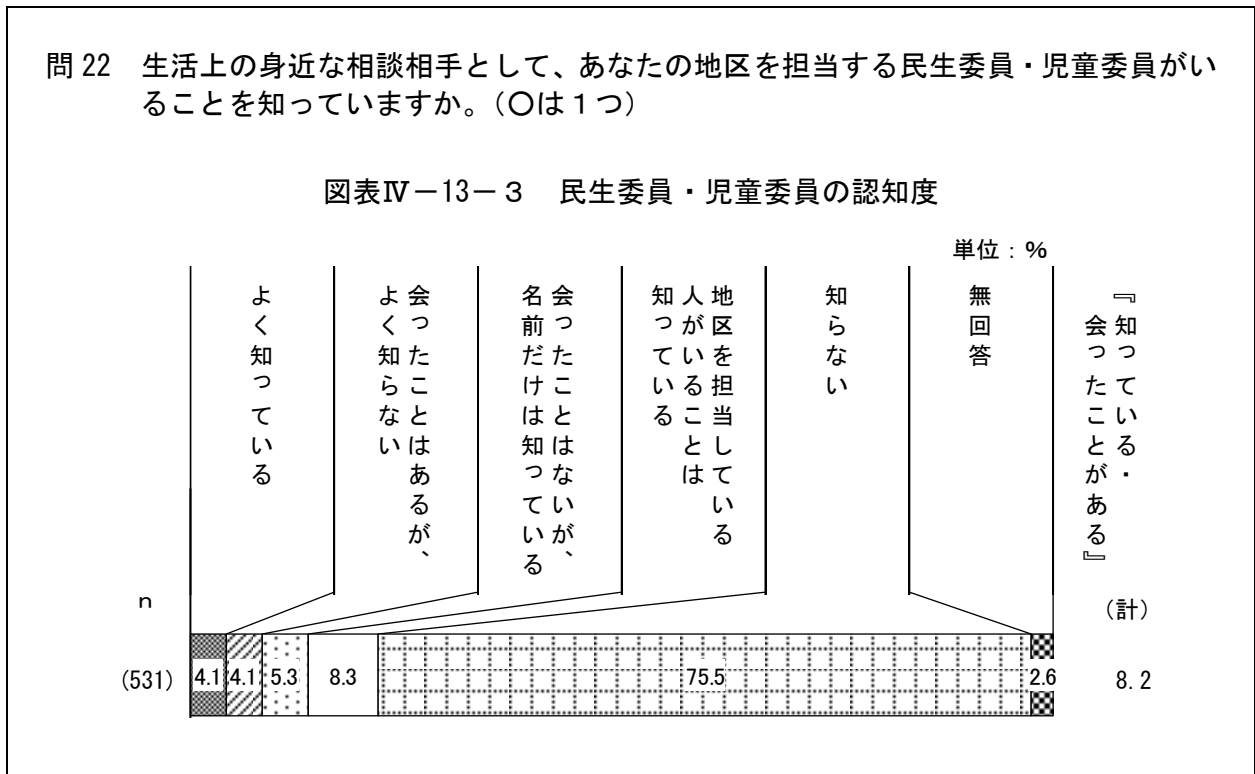
図表Ⅳ－13－2 高齢社会の社会参加を促すために必要な施策（経年変化）



「バリアフリーのまちづくりを進める」(33.7%)は、平成30年度調査(33.1%)より0.6ポイント、「高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する」(26.7%)は、平成30年度調査(25.2%)より1.5ポイント、「高齢者の就業支援を行う」(25.8%)は、平成30年度調査(24.5%)より1.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「高齢者の起業への助成や支援を行う」(26.7%)は、平成30年度調査(28.6%)より1.9ポイント減少している。(図表Ⅳ－13－2)

(2) 民生委員・児童委員の認知度

◆ 『知っている・会ったことがある』が1割未満

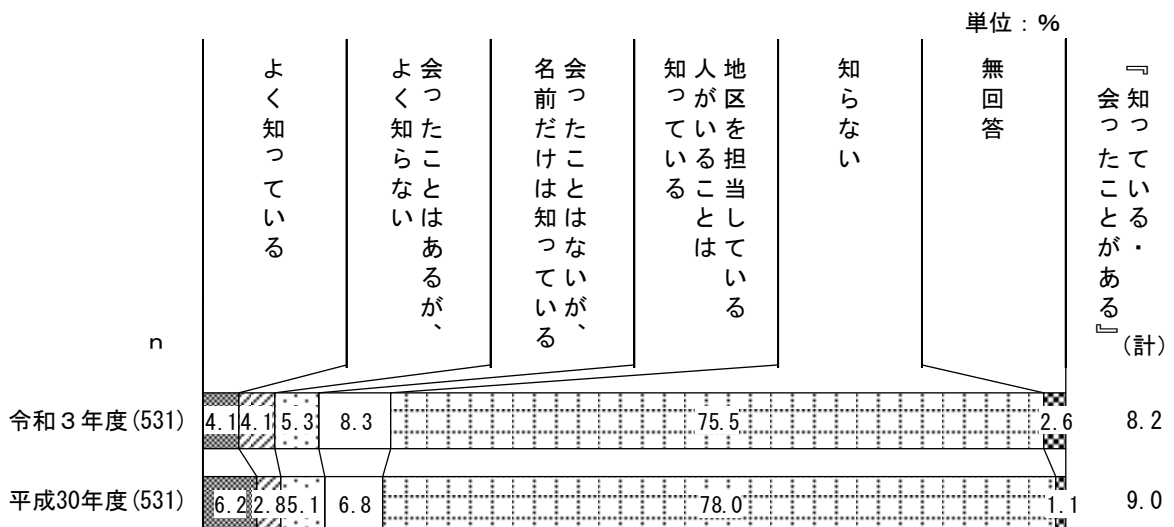


民生委員・児童委員の認知度は、「よく知っている」(4.1%)と「会ったことはあるが、よく知らない」(4.1%)を合わせた『知っている・会ったことがある』(8.2%)は1割未満となっている。

一方、「知らない」(75.5%)は7割台半ばとなっている。(図表Ⅳ-13-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-13-4 民生委員・児童委員の認知度(経年変化)

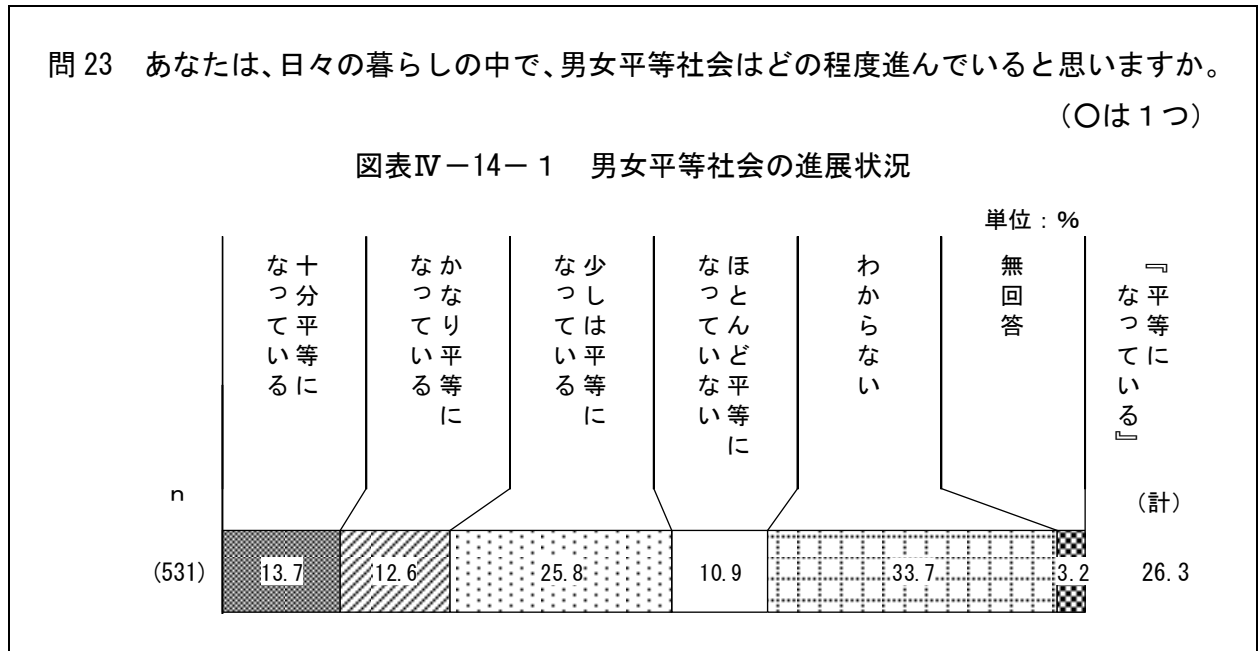


『知っている・会ったことがある』(8.2%)は、平成30年度調査(9.0%)より0.8ポイント減少している。(図表Ⅳ-13-4)

14. 男女平等社会の実現

(1) 男女平等社会の進展状況

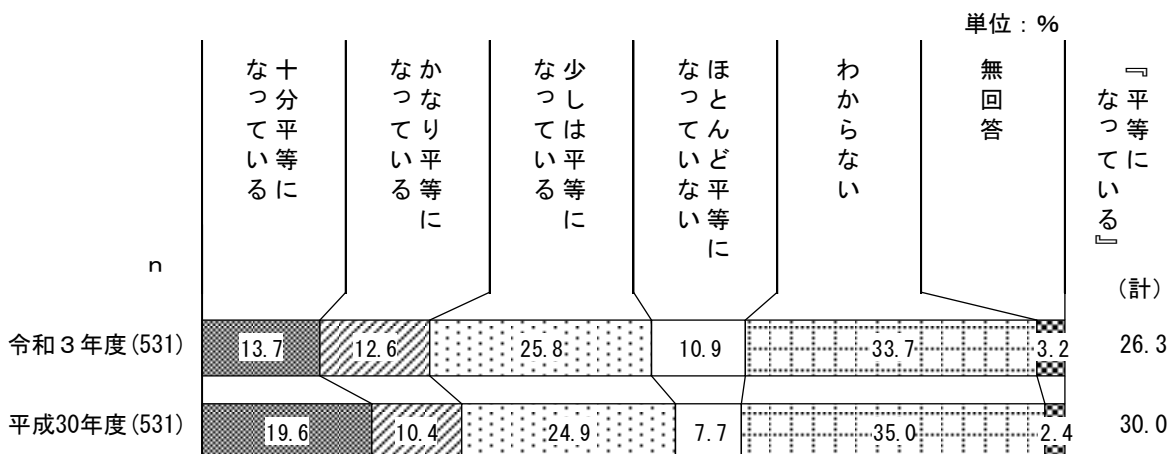
◆ 『平等になっている』が3割近く



男女平等社会の進展状況は、「わからない」(33.7%)が3割強と最も高く、次いで「少しは平等になっている」(25.8%)、「十分平等になっている」(13.7%)と続いている。また、「十分平等になっている」(13.7%)と「かなり平等になっている」(12.6%)を合わせた『平等になっている』(26.3%)は3割近くとなっている。(図表IV-14-1)

【経年変化】

図表IV-14-2 男女平等社会の進展状況 (経年変化)



『平等になっている』(26.3%)は、平成30年度調査(30.0%)から3.7ポイント減少している。一方、「少しは平等になっている」(25.8%)は、平成30年度調査(24.9%)より0.9ポイント増加している。(図表IV-14-2)

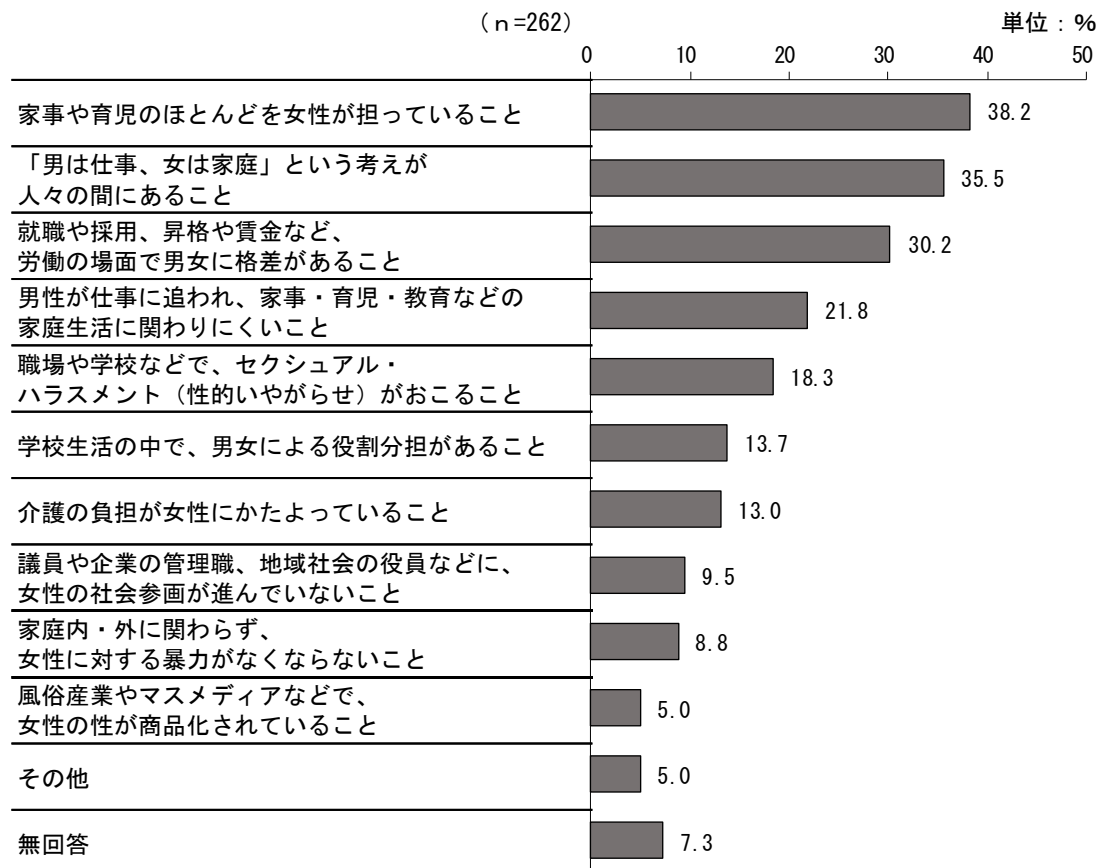
(1-1) 男女の不平等を感じる点

◆ 「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」が4割近く

(問23で選択肢「2」から「4」を選んだ方のみお答えください。)

問23-1 具体的にどのような点で男女の不平等を感じますか。(〇は3つまで)

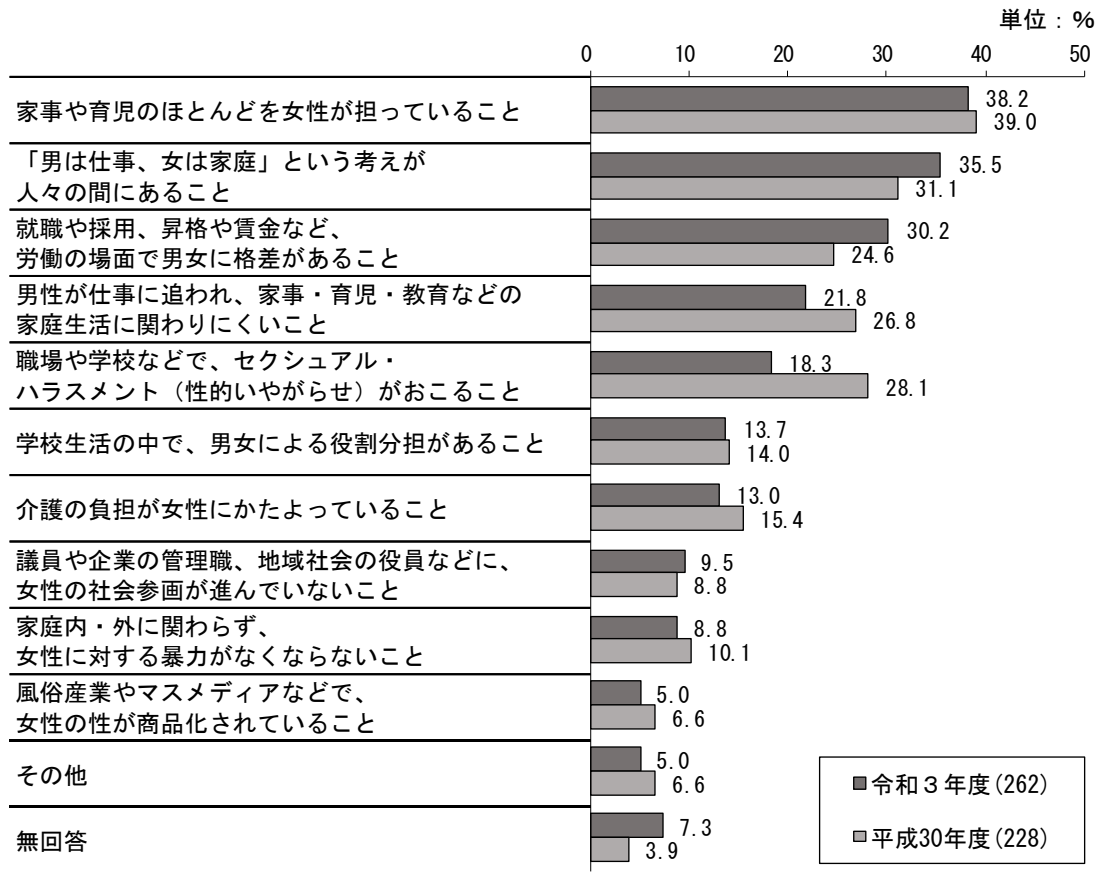
図表IV-14-3 男女の不平等を感じる点



男女の不平等を感じる点は、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」(38.2%)が4割近くと最も高く、次いで「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」(35.5%)、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」(30.2%)と続いている。(図表IV-14-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-14-4 男女の不平等を感じる点（経年変化）



「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」(38.2%)は、平成30年度調査(39.0%)から0.8ポイント、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくいこと」(21.8%)は、平成30年度調査(26.8%)より5.0ポイント、それぞれ減少している。一方、「『男は仕事、女は家庭』という考えが人々の間にあること」(35.5%)は、平成30年度調査(31.1%)より4.4ポイント、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること」(30.2%)は、平成30年度調査(24.6%)より5.6ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅳ-14-4)

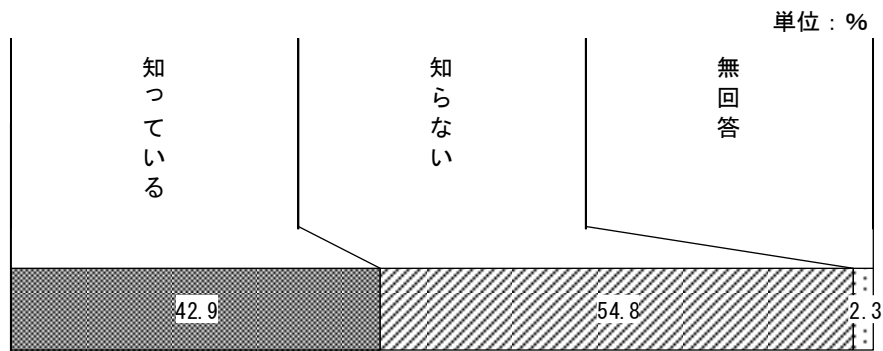
15. 同和問題

(1) 同和問題の認知度

◆ 「知っている」が4割強

問 24 あなたは同和問題（部落問題）といわれる人権侵害の問題（部落差別）があることを知っていますか。（○は1つ）

図表Ⅳ-15-1 同和問題の認知度



同和問題の認知度は、「知っている」(42.9%)が4割強、「知らない」(54.8%)は5割台半ばとなっている。(図表Ⅳ-15-1)

【経年変化】

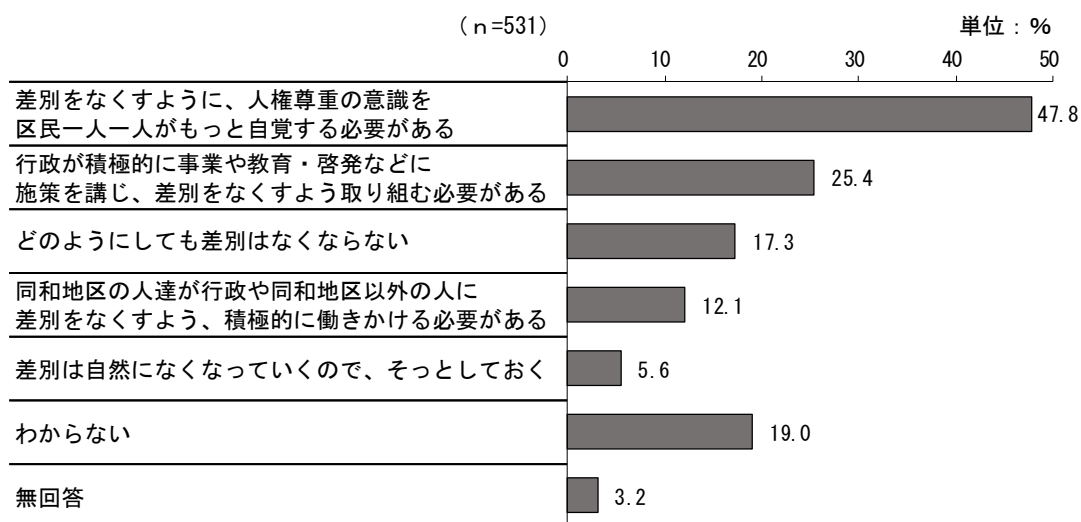
当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

(2) 同和問題の解決方法

- ◆ 「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」が5割近く

問 25 同和問題（部落問題）を解決するためには、今後どのようにすれば良いと思いますか。（○は2つまで）

図表IV-15-2 同和問題の解決方法



同和問題の解決方法は、「差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある」(47.8%)が5割近くと最も高く、次いで「行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」(25.4%)、「どのようにしても差別はなくなる」(17.3%)と続いている。(図表IV-15-2)

【経年変化】

当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

16. 産業

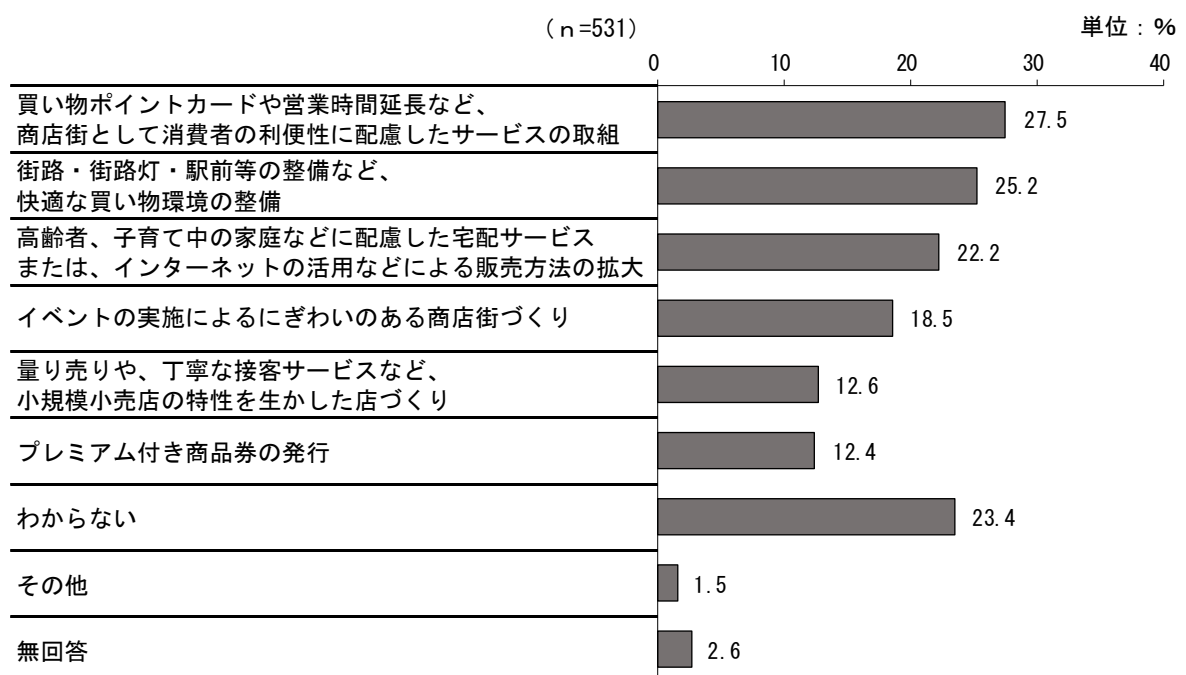
(1) 商業振興について大切なこと

- ◆ 「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」が3割近く

問 26 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(1) 商業振興について (○は2つまで)

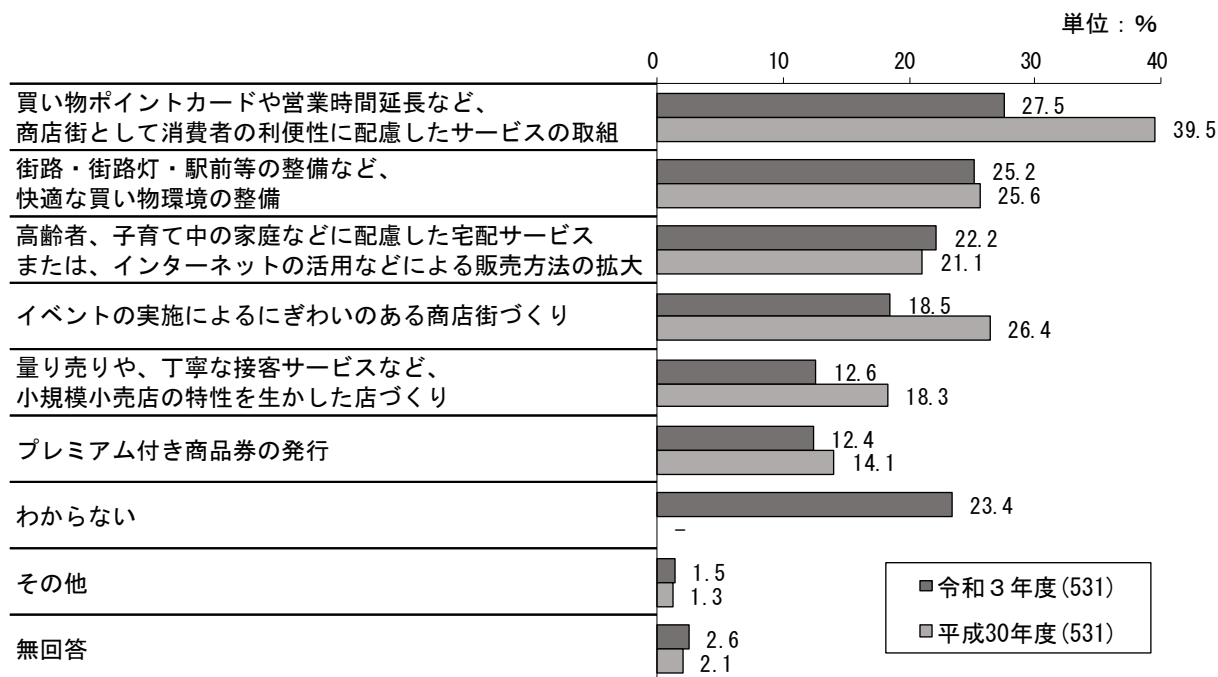
図表Ⅳ-16-1 商業振興について大切なこと



商業振興について大切なことは、「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.5%)が3割近くと最も高く、次いで「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(25.2%)、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービス、または、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(22.2%)と続いている。(図表Ⅳ-16-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-16-2 商業振興について大切なこと（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組」(27.5%)は、平成30年度調査(39.5%)から12.0ポイント、「街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備」(25.2%)は、平成30年度調査(25.6%)より0.4ポイント、「イベントの実施によるにぎわいのある商店街づくり」(18.5%)は、平成30年度調査(26.4%)より7.9ポイント、それぞれ減少している。一方、「高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大」(22.2%)は、平成30年度調査(21.1%)より1.1ポイント増加している。(図表Ⅳ-16-2)

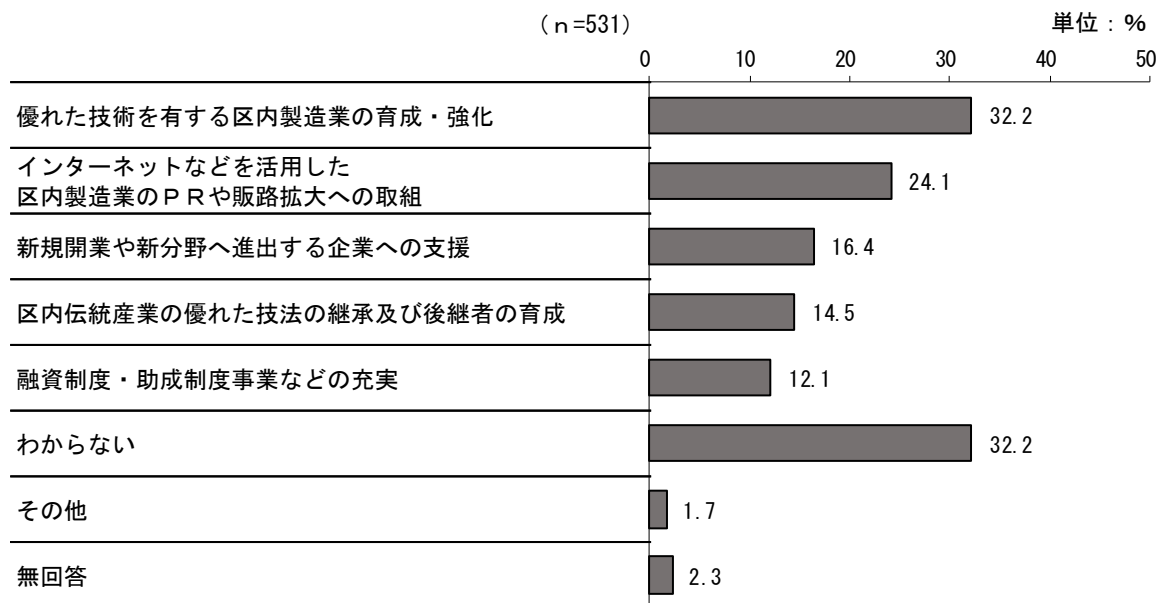
(2) 工業振興について大切なこと

◆ 「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」が3割強

問 26 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(2) 工業振興について (〇は2つまで)

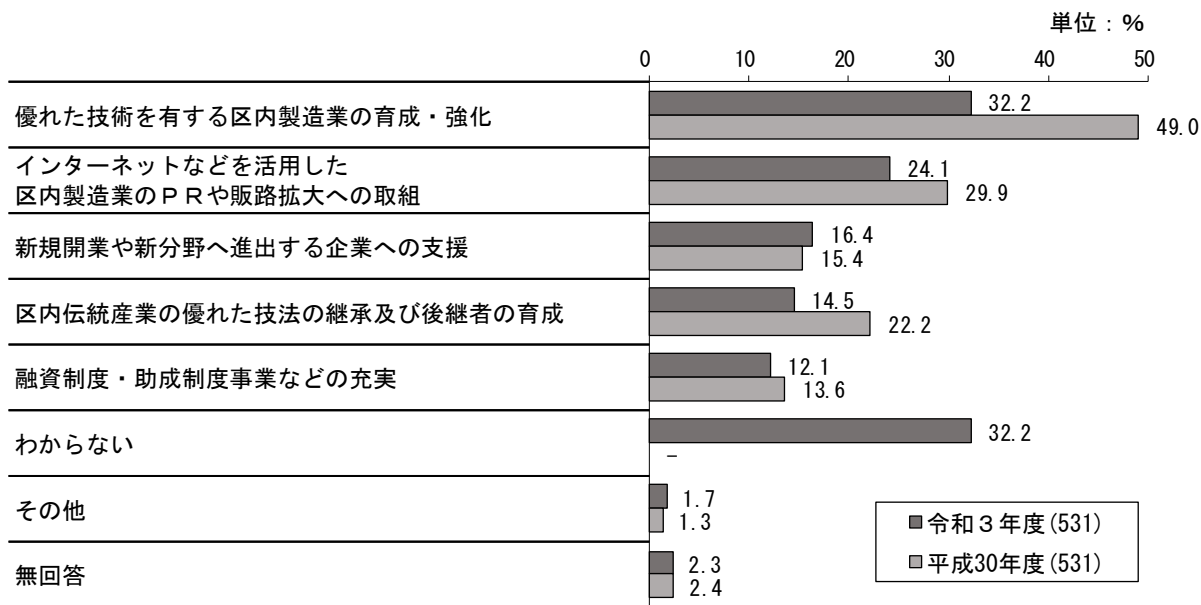
図表IV-16-3 工業振興について大切なこと



工業振興について大切なことは、「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(32.2%)が3割強と最も高く、次いで「インターネットなどを活用した区内製造業のPRや販路拡大への取組」(24.1%)、「新規開業や新分野へ進出する企業への支援」(16.4%)と続いている。(図表IV-16-3)

【経年変化】

図表Ⅳ－16－4 工業振興について大切なこと（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「優れた技術を有する区内製造業の育成・強化」(32.2%)は、平成30年度調査(49.0%)から16.8ポイント、「インターネットなどを活用した区内製造業のPRや販路拡大への取組」(24.1%)は、平成30年度調査(29.9%)より5.8ポイント、「区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成」(14.5%)は、平成30年度調査(22.2%)より7.7ポイント、それぞれ減少している。一方、「新規開業や新分野へ進出する企業への支援」(16.4%)は、平成30年度調査(15.4%)より1.0ポイント増加している。(図表Ⅳ－16－4)

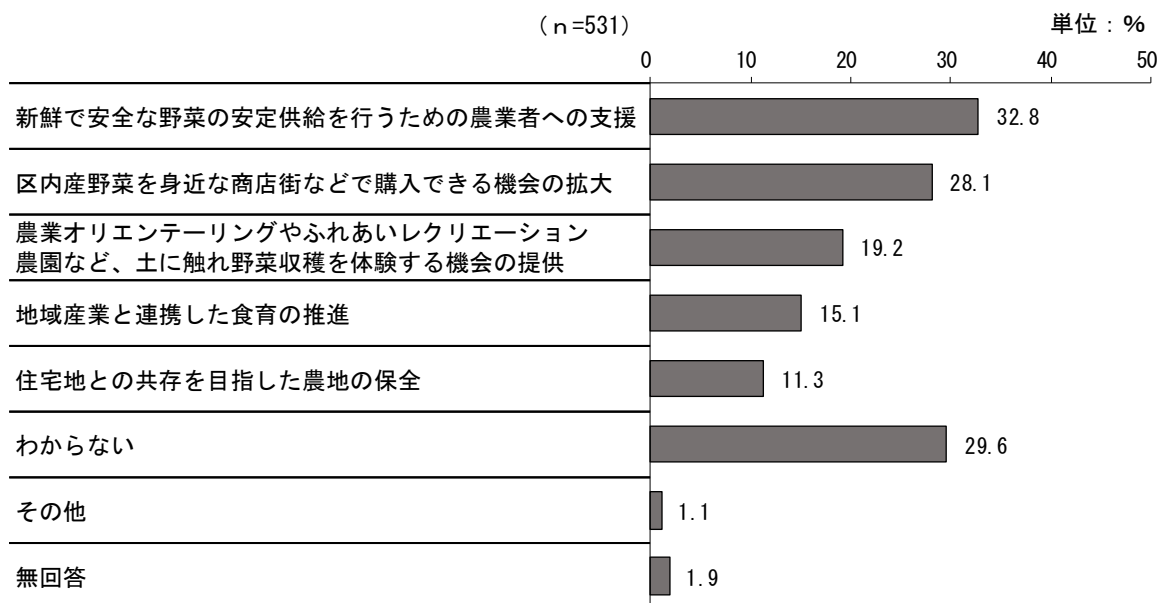
(3) 農業振興について大切なこと

◆ 「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」が3割強

問 26 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

(3) 農業振興について (〇は2つまで)

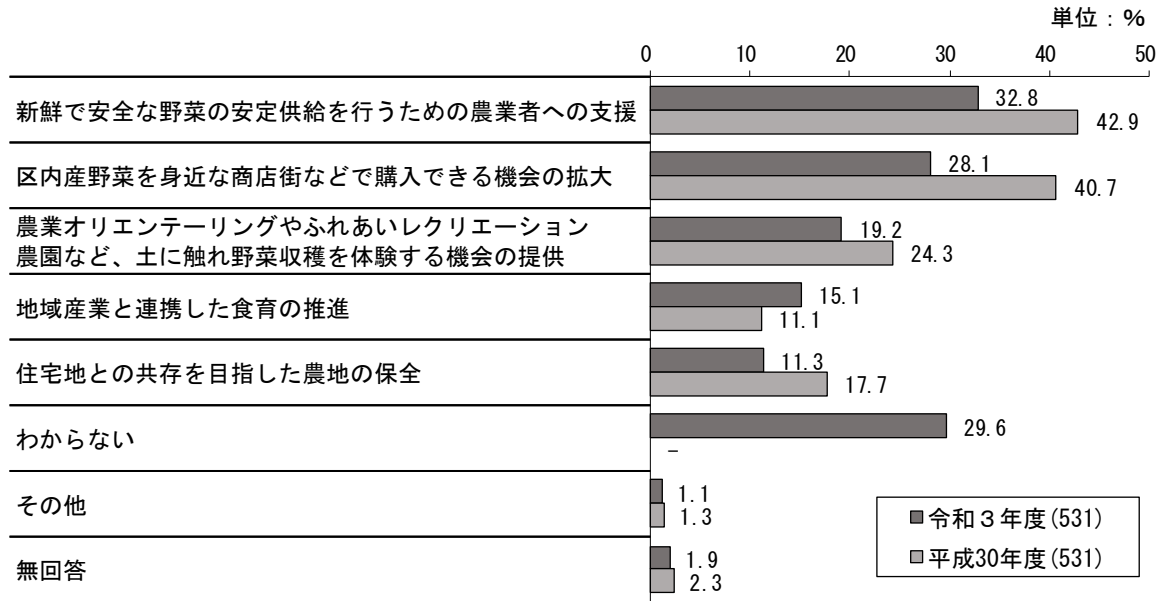
図表Ⅳ-16-5 農業振興について大切なこと



農業振興について大切なことは、「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(32.8%)が3割強と最も高く、次いで「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(28.1%)、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(19.2%)と続いている。(図表Ⅳ-16-5)

【経年変化】

図表Ⅳ-16-6 農業振興について大切なこと（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「わからない」を新たに追加した。

「新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援」(32.8%)は、平成30年度調査(42.9%)から10.1ポイント、「区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大」(28.1%)は、平成30年度調査(40.7%)より12.6ポイント、「農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供」(19.2%)は、平成30年度調査(24.3%)より5.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「地域産業と連携した食育の推進」(15.1%)は、平成30年度調査(11.1%)より4.0ポイント増加している。(図表Ⅳ-16-6)

17. 観光

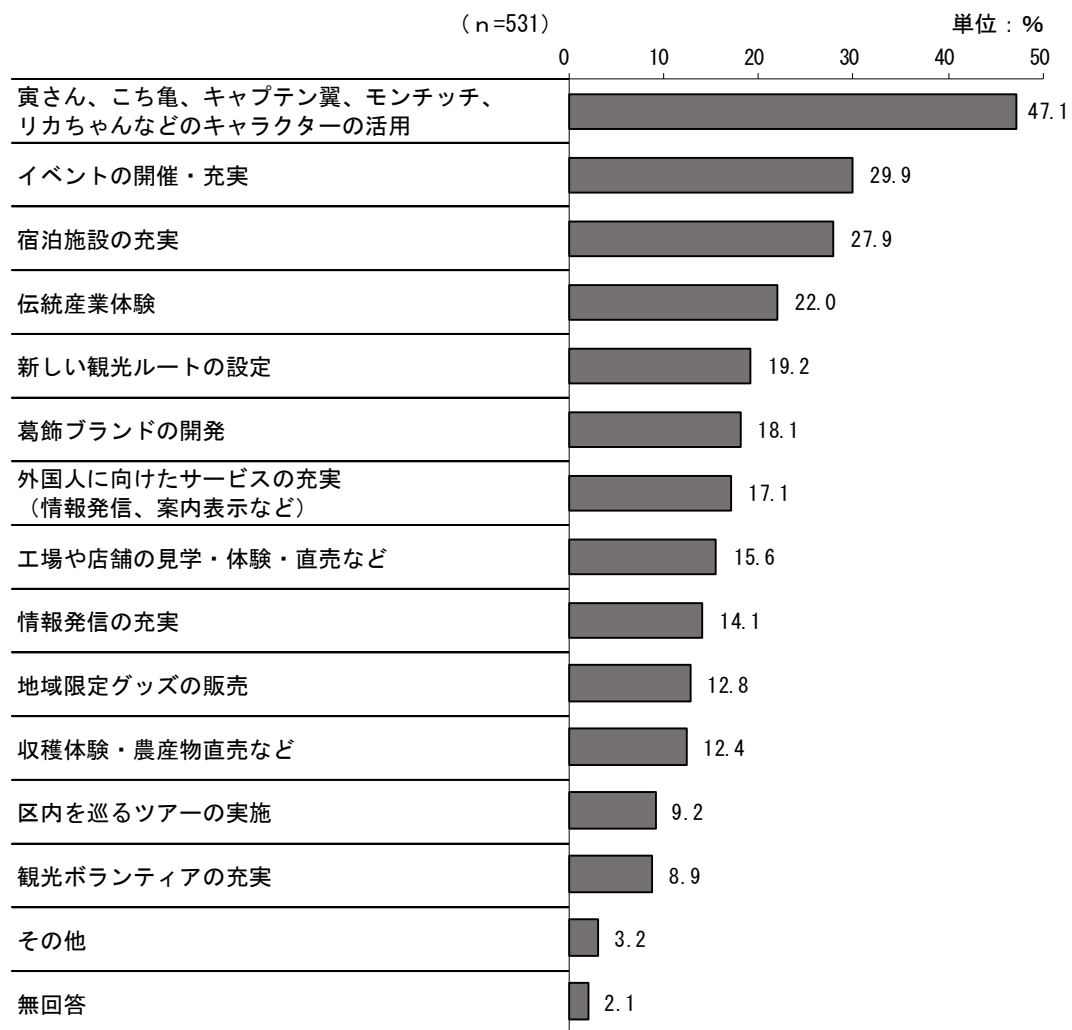
(1) 葛飾区の観光客誘致における重要なこと

- ◆ 「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」が5割近く

問 27 葛飾区ではまちなぎわいを創出するために、観光振興を進めています。葛飾区に観光客を誘致するために、あなたが特に重要と思うものは何ですか。

(〇はいくつでも)

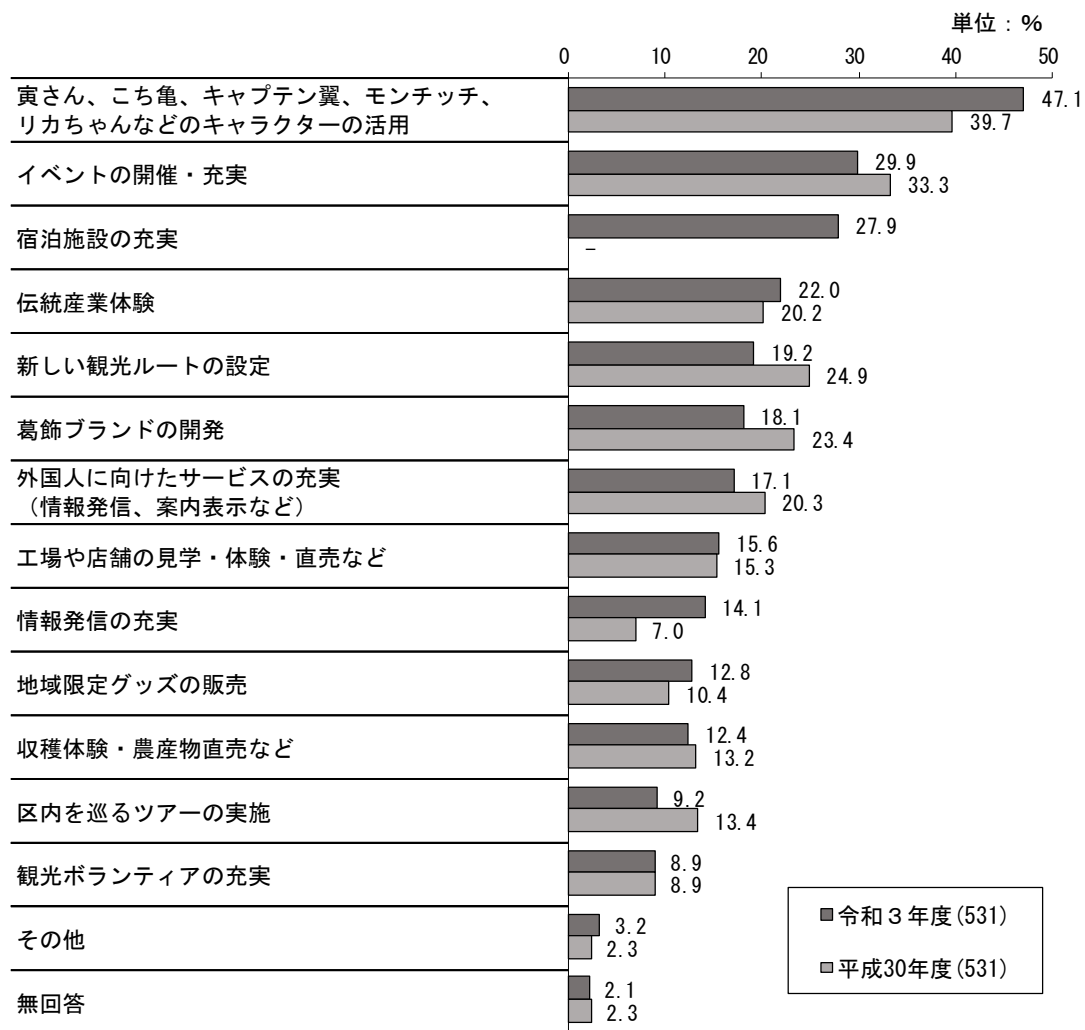
図表Ⅳ-17-1 葛飾区の観光客誘致における重要なこと



葛飾区の観光客誘致における重要なことは、「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(47.1%)が5割近くと最も高く、次いで「イベントの開催・充実」(29.9%)、「宿泊施設の充実」(27.9%)と続いている。(図表Ⅳ-17-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-17-2 葛飾区の観光客誘致における重要なこと（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「宿泊施設の充実」を新たに追加した。

「寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用」(47.1%)は、平成30年度調査(39.7%)から7.4ポイント、「伝統産業体験」(22.0%)は、平成30年度調査(20.2%)より1.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「イベントの開催・充実」(29.9%)は、平成30年度調査(33.3%)より3.4ポイント、「新しい観光ルートの設定」(19.2%)は、平成30年度調査(24.9%)より5.7ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ-17-2)

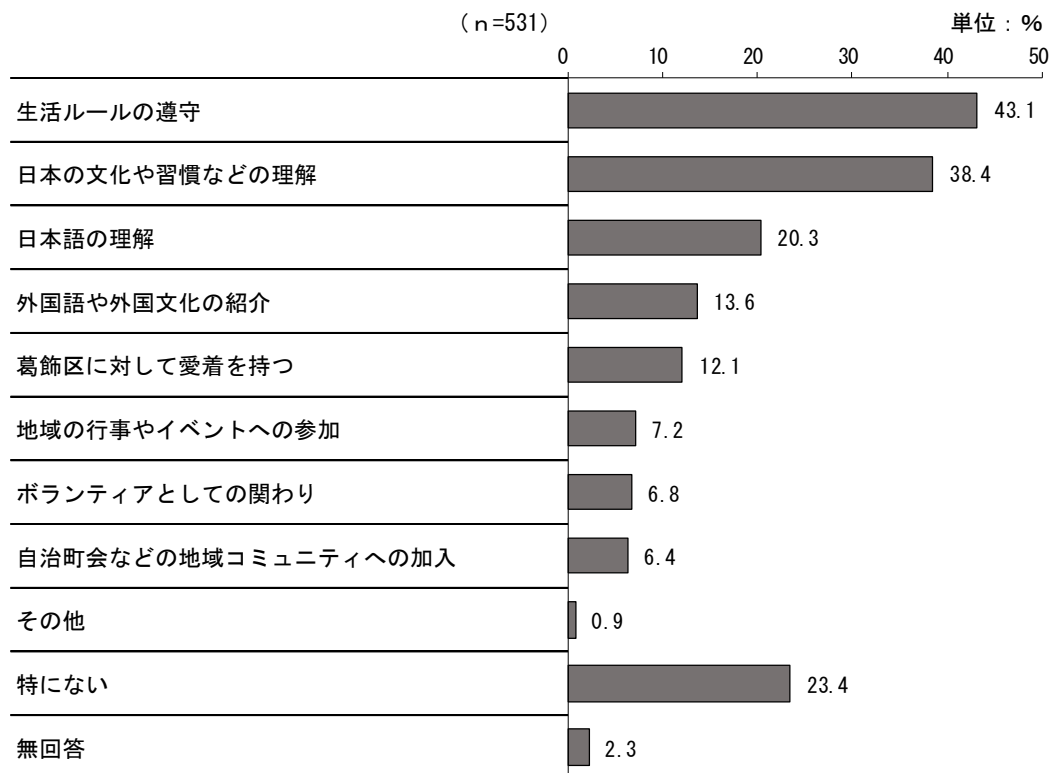
18. 国際

(1) 外国人（区民）に努力してほしいこと

◆ 「生活ルールの遵守」が4割強

問 28 同じ地域で暮らしていくために外国人（区民）に努力してほしいことはありますか。
（○はいくつでも）

図表Ⅳ-18-1 外国人（区民）に努力してほしいこと



外国人（区民）に努力してほしいことは、「生活ルールの遵守」（43.1%）が4割強と最も高く、次いで「日本の文化や習慣などの理解」（38.4%）、「日本語の理解」（20.3%）と続いている。（図表Ⅳ-18-1）

【経年変化】

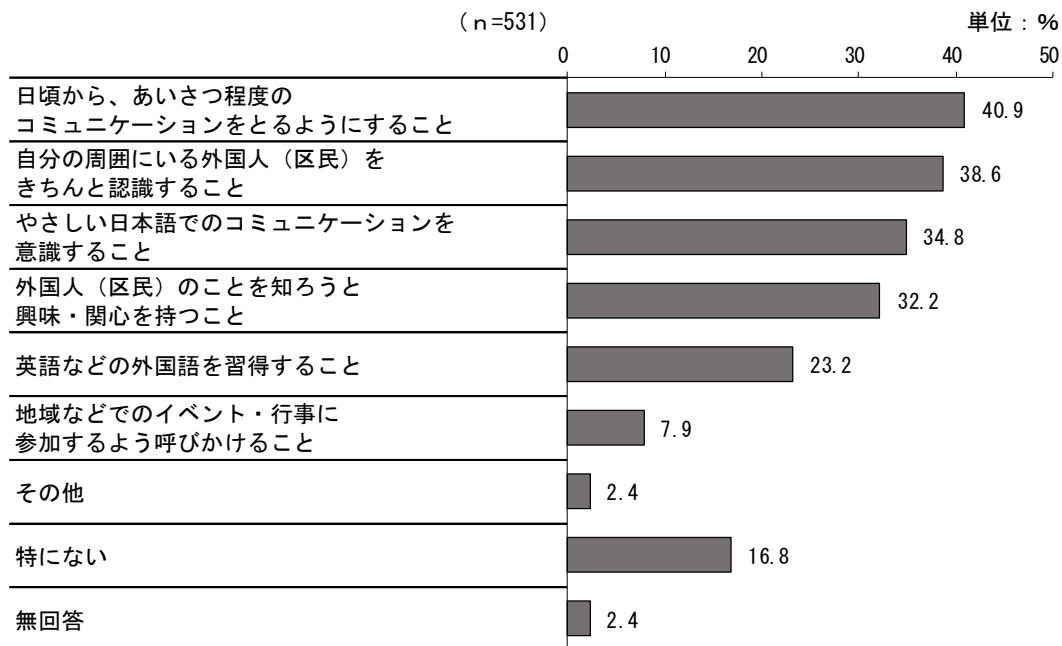
当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

(2) 日本人区民が努力・工夫していきべきこと

◆ 「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」が約4割

問 29 同じ地域で暮らしていくために日本人区民が努力・工夫していきべきことはありますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅳ-18-2 日本人区民が努力・工夫していきべきこと



日本人区民が努力・工夫していきべきことは、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」(40.9%)が約4割と最も高く、次いで「自分の周囲にいる外国人(区民)をきちんと認識すること」(38.6%)、「やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること」(34.8%)と続いている。(図表Ⅳ-18-2)

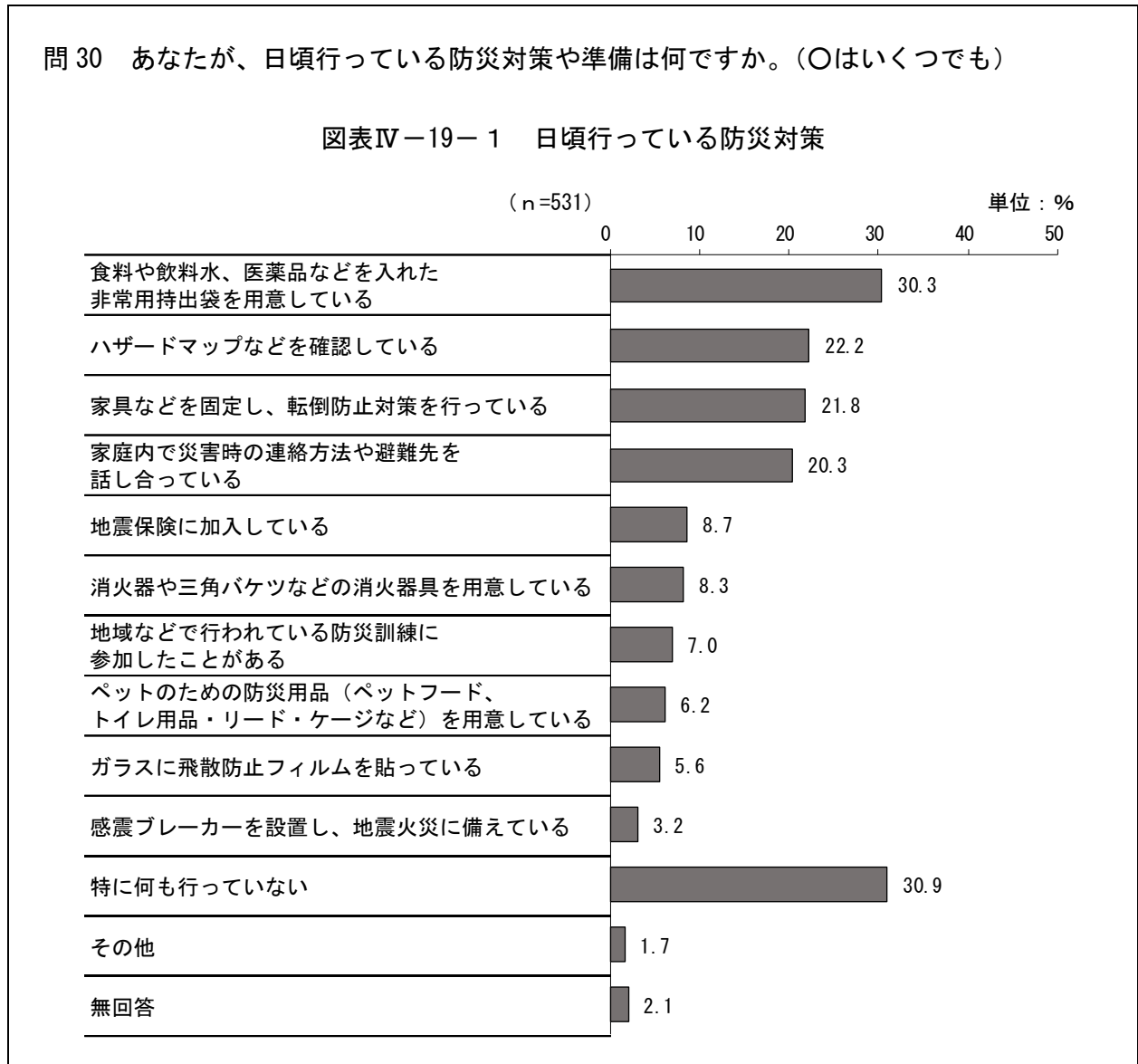
【経年変化】

当該項目は、令和3年度調査で新たに設置された調査項目のため、経年比較は行わない。

19. 防災

(1) 日頃行っている防災対策

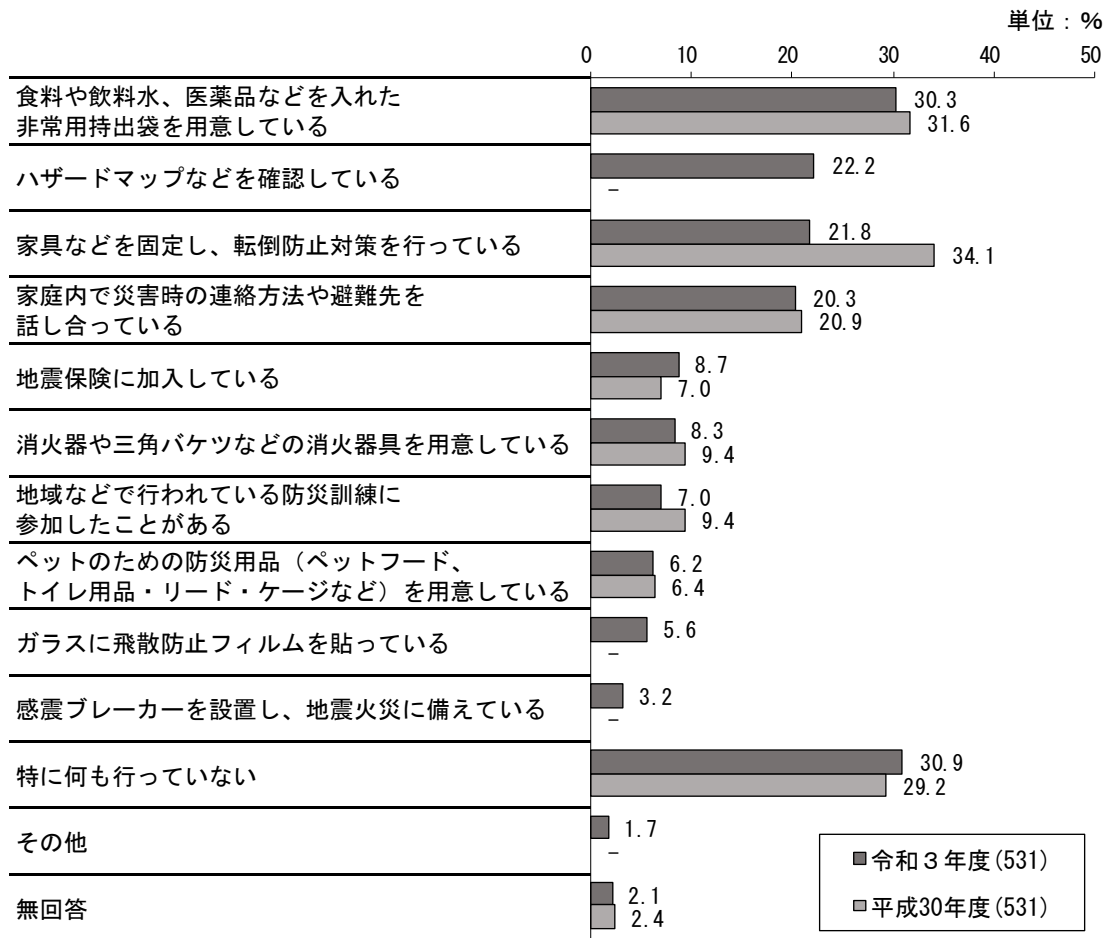
◆ 「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」が約3割



日頃行っている防災対策は、「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」(30.3%)が約3割と最も高く、次いで「ハザードマップなどを確認している」(22.2%)、「家具などを固定し、転倒防止対策を行っている」(21.8%)と続いている。(図表Ⅳ-19-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-19-2 日頃行っている防災対策（経年変化）

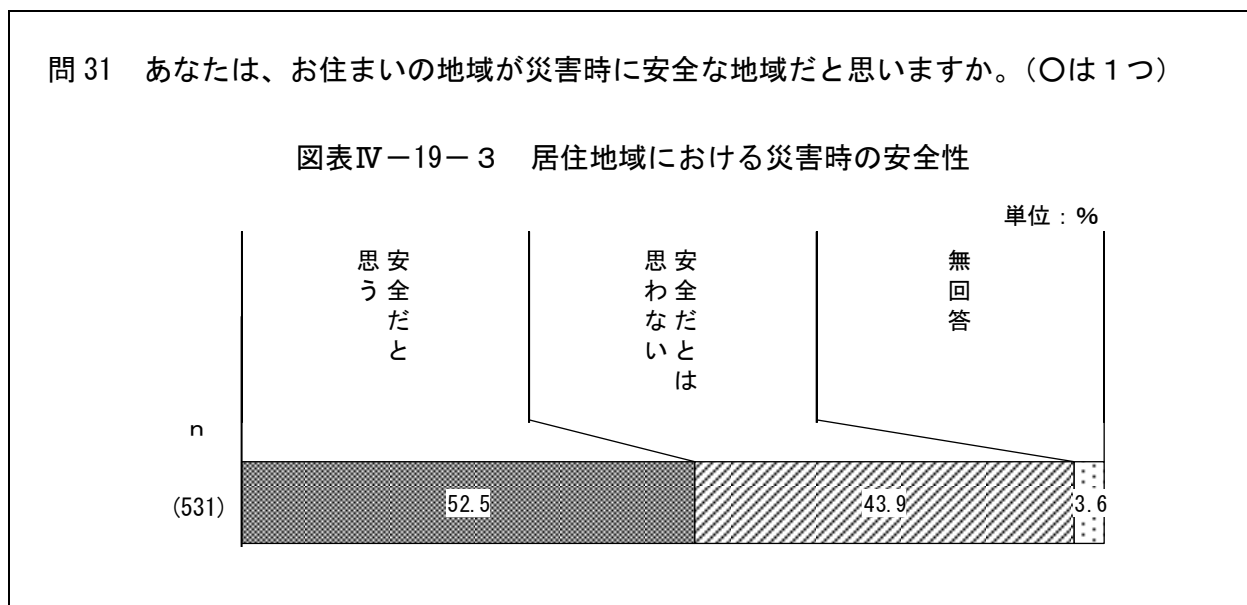


※ 令和3年度調査では、選択肢「ハザードマップなどを確認している」「ガラスに飛散防止フィルムを貼っている」「感震ブレーカーを設置し、地震火災に備えている」「その他」を新たに追加した。

「食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している」（30.3％）は、平成30年度調査（31.6％）から1.3ポイント、「家具などを固定し、転倒防止対策を行っている」（21.8％）は、平成30年度調査（34.1％）より12.3ポイント、「家庭内で災害時の連絡方法や避難先を話し合っている」（20.3％）は、平成30年度調査（20.9％）より0.6ポイント、それぞれ減少している。一方、「地震保険に加入している」（8.7％）は、平成30年度調査（7.0％）より1.7ポイント増加している。（図表Ⅳ-19-2）

(2) 居住地域における災害時の安全性

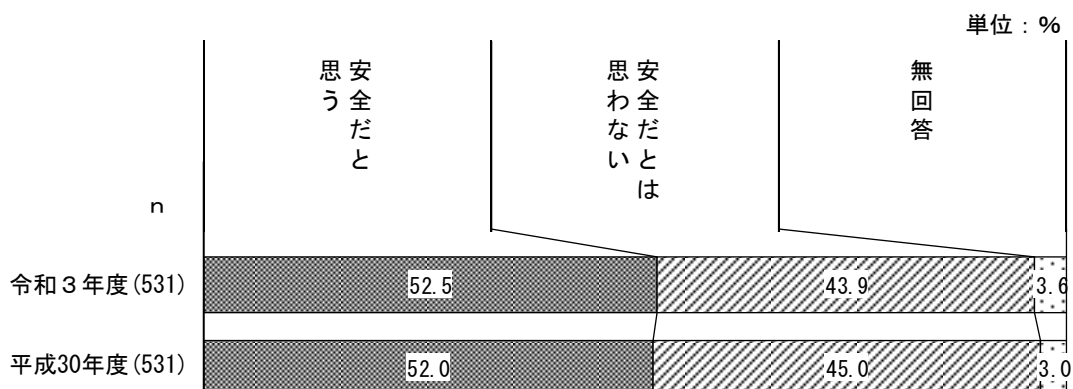
◆ 「安全だとは思わない」が4割強



居住地域における災害時の安全性は、「安全だと思う」(52.5%)が5割強となっており、「安全だとは思わない」(43.9%)は4割強となっている。(図表Ⅳ-19-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-19-4 居住地域における災害時の安全性(経年変化)



「安全だと思う」(52.5%)は、平成30年度調査(52.0%)から0.5ポイント増加し、「安全だとは思わない」(43.9%)は、平成30年度調査(45.0%)から1.1ポイント減少している。(図表Ⅳ-19-4)

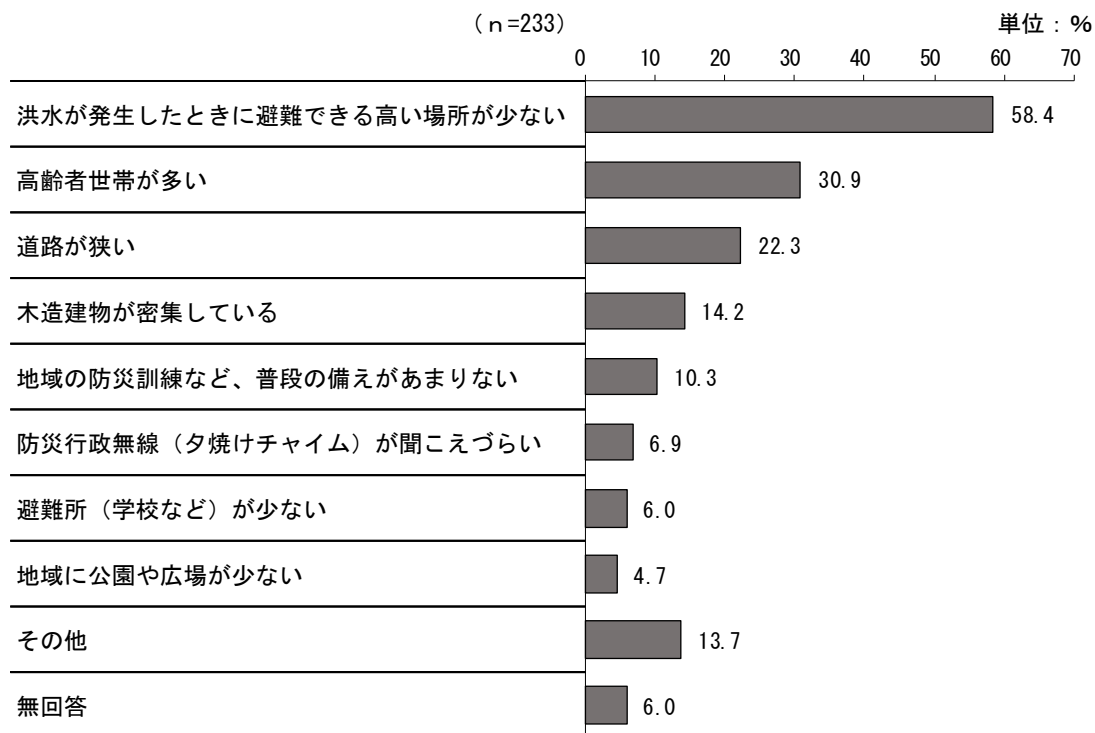
(2-1) 居住地域が災害時に安全でないと思う理由

◆ 「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」が6割近く

(問31で選択肢「2」を選んだ方のみお答えください。)

問31-1 安全でないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

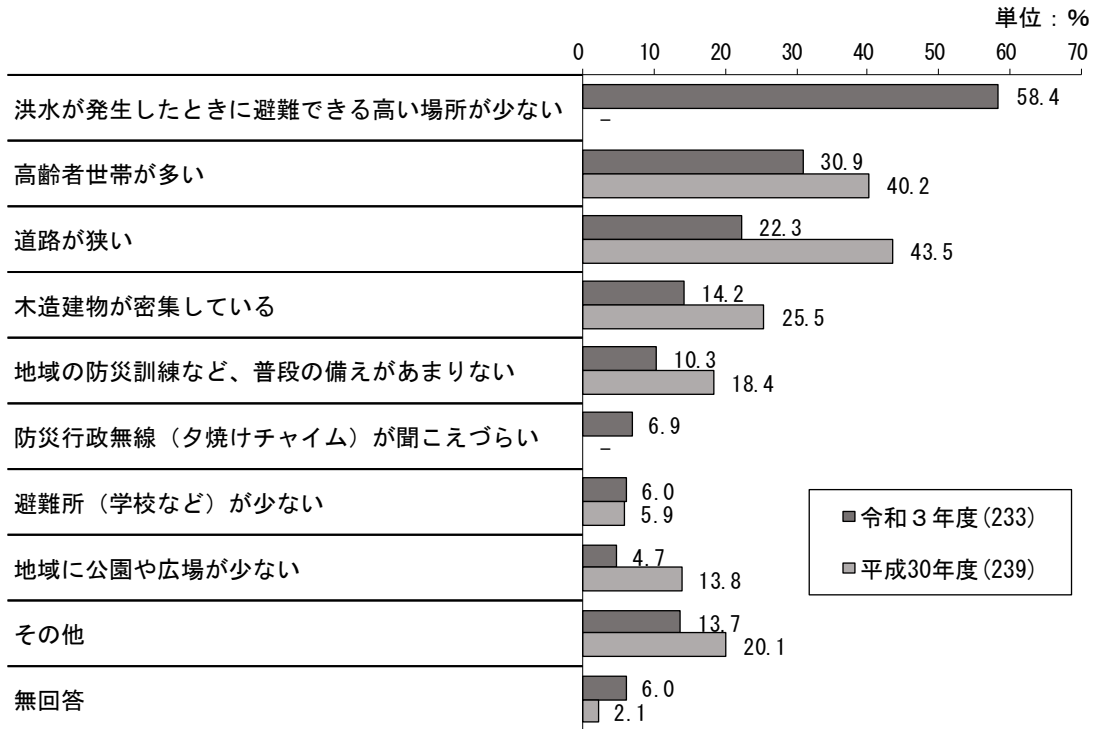
図表IV-19-5 居住地域が災害時に安全でないと思う理由



居住地域が災害時に安全でないと思う理由は、「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで「高齢者世帯が多い」(30.9%)、「道路が狭い」(22.3%)と続いている。(図表IV-19-5)

【経年変化】

図表IV-19-6 居住地域が災害時に安全でないと思う理由（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない」「防災行政無線（夕焼けチャイム）が聞こえづらい」を新たに追加した。

「高齢者世帯が多い」（30.9%）は、平成30年度調査（40.2%）から9.3ポイント、「道路が狭い」（22.3%）は、平成30年度調査（43.5%）より21.2ポイント、「木造建物が密集している」（14.2%）は、平成30年度調査（25.5%）より11.3ポイント、それぞれ減少している。（図表IV-19-6）

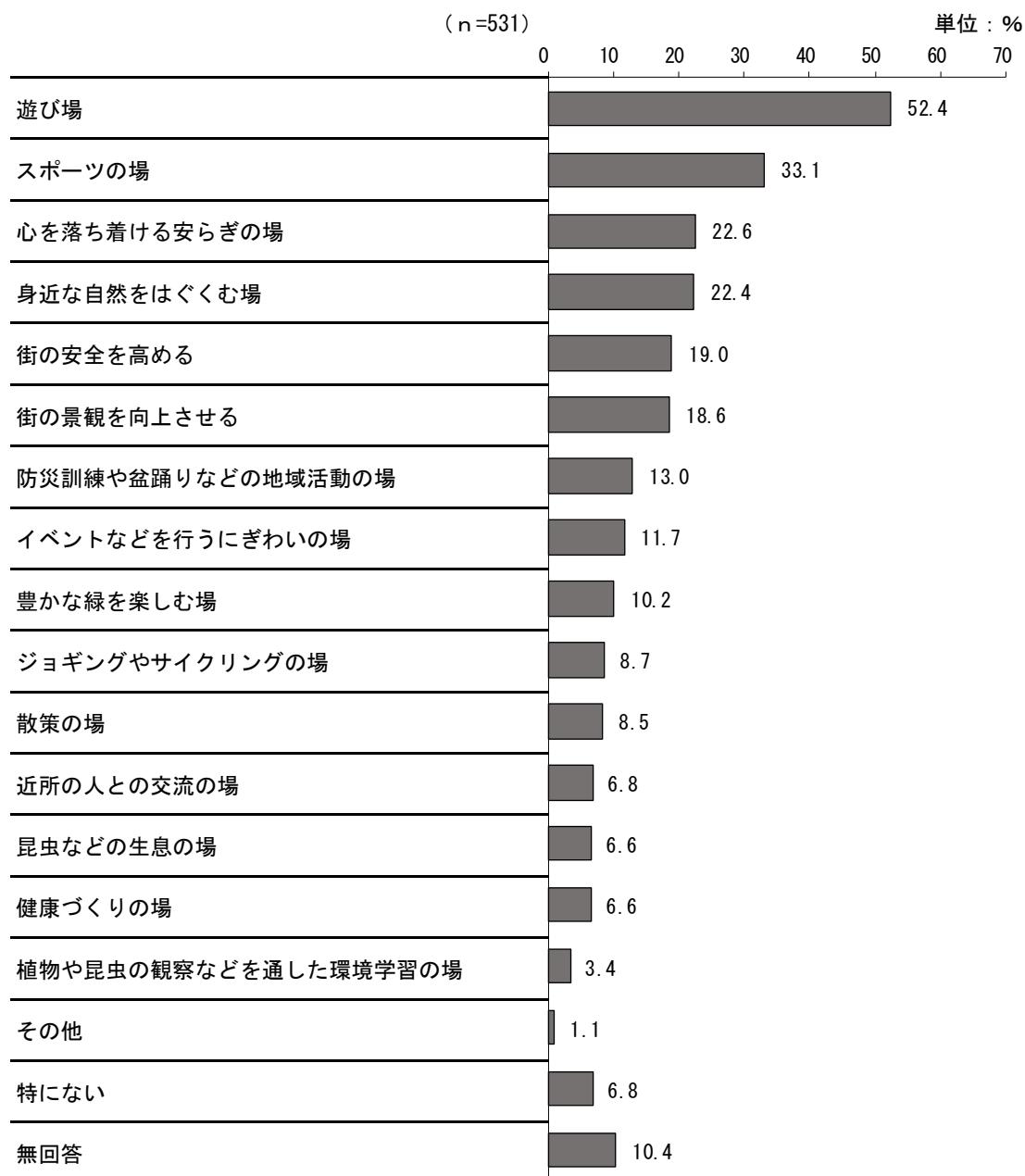
20. 公園・河川敷

(1) 公園に期待すること

◆ 「遊び場」が5割強

問 32 【公園】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか。(番号は3つ)

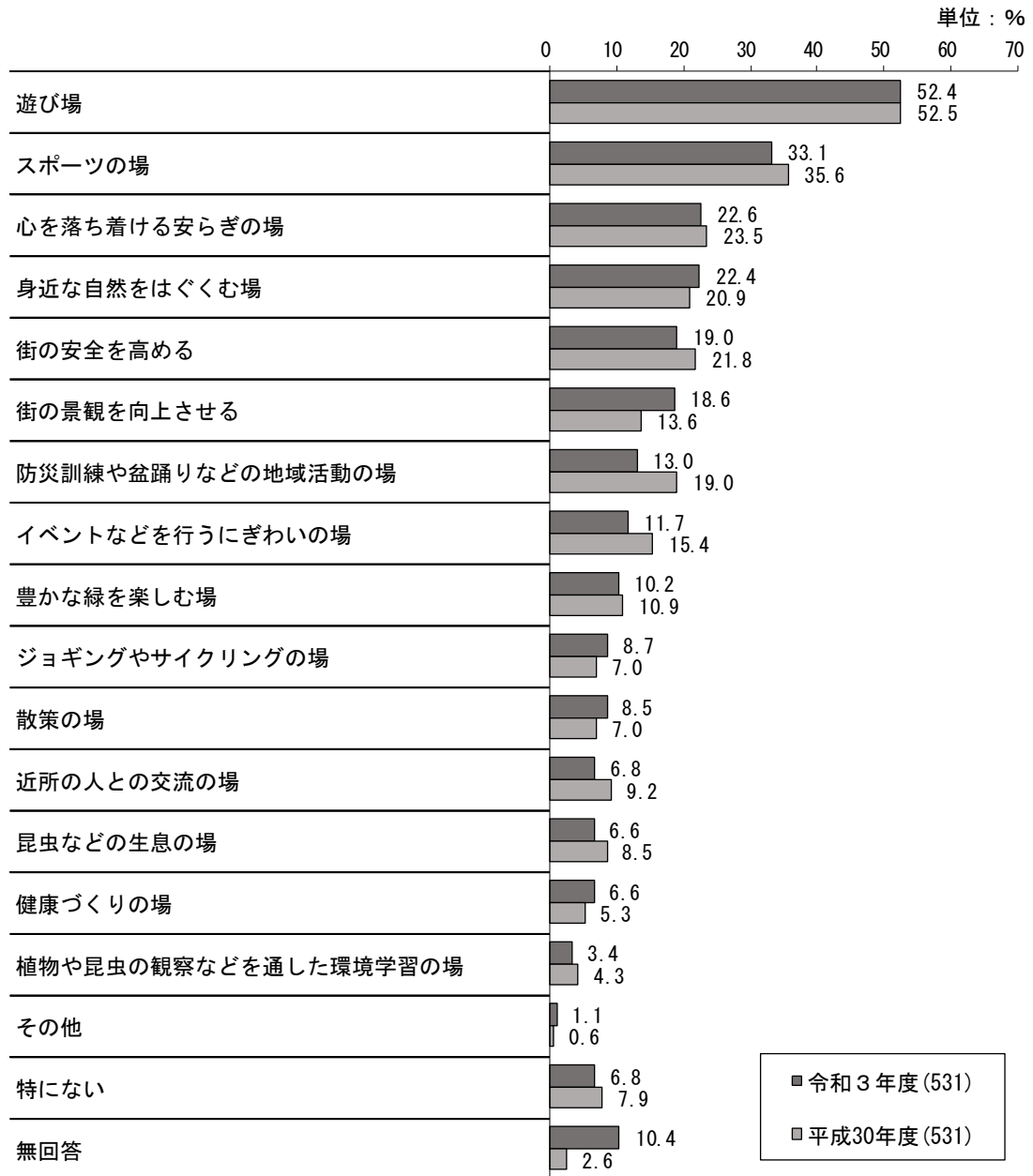
図表IV-20-1 公園に期待すること



公園に期待することは、「遊び場」(52.4%)が5割強と最も高く、次いで「スポーツの場」(33.1%)、「心を落ち着ける安らぎの場」(22.6%)と続いている。(図表IV-20-1)

【経年変化】

図表IV-20-2 公園に期待すること（経年変化）



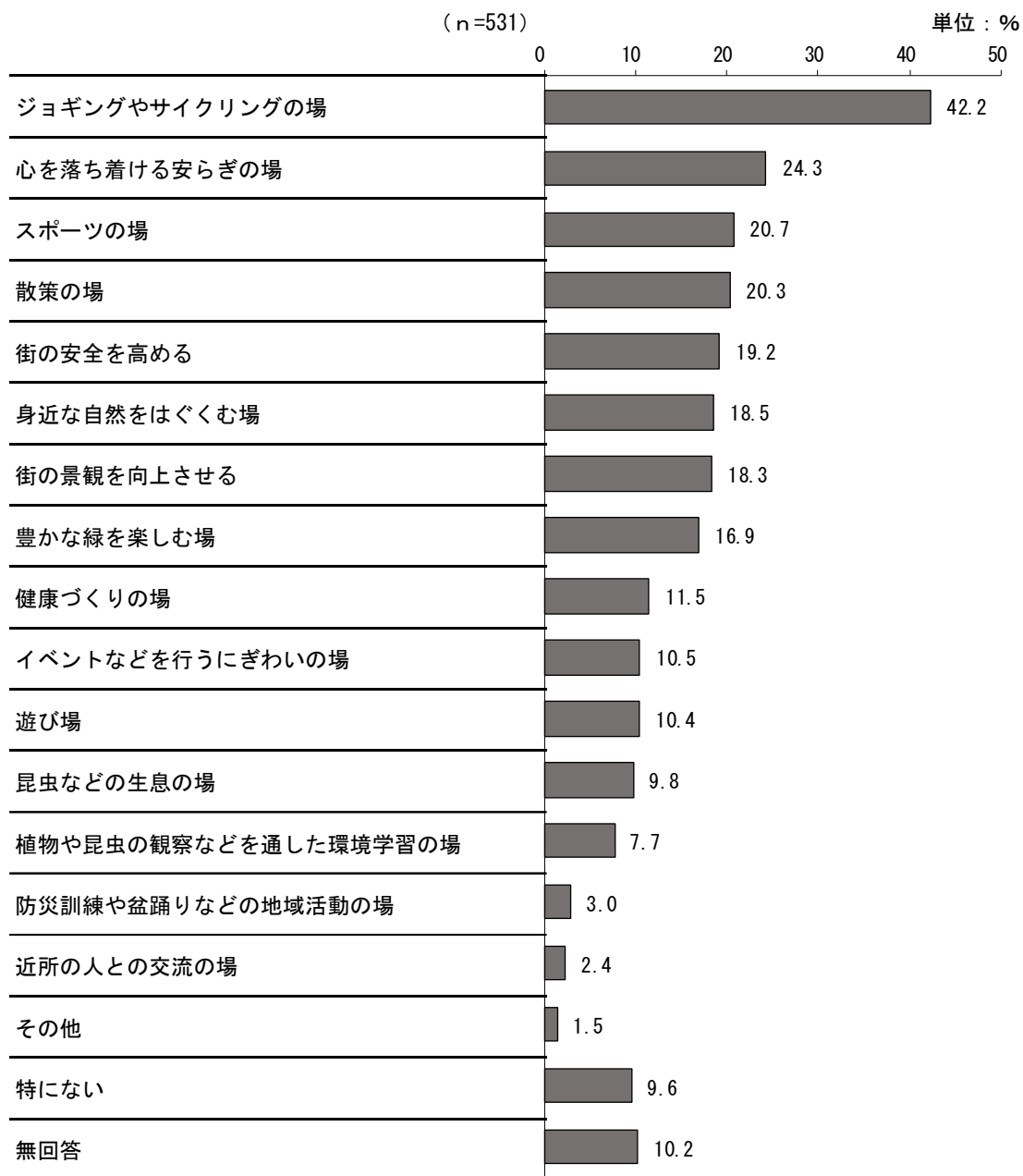
「遊び場」(52.4%)は、平成30年度調査(52.5%)から0.1ポイント、「スポーツの場」(33.1%)は、平成30年度調査(35.6%)より2.5ポイント、「心を落ち着ける安らぎの場」(22.6%)は、平成30年度調査(23.5%)より0.9ポイント、それぞれ減少している。一方、「身近な自然をはぐくむ場」(22.4%)は、平成30年度調査(20.9%)より1.5ポイント増加している。(図表IV-20-2)

(2) 河川敷に期待すること

◆ 「ジョギングやサイクリングの場」が4割強

問 32 【河川敷】あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか。
(番号は3つ)

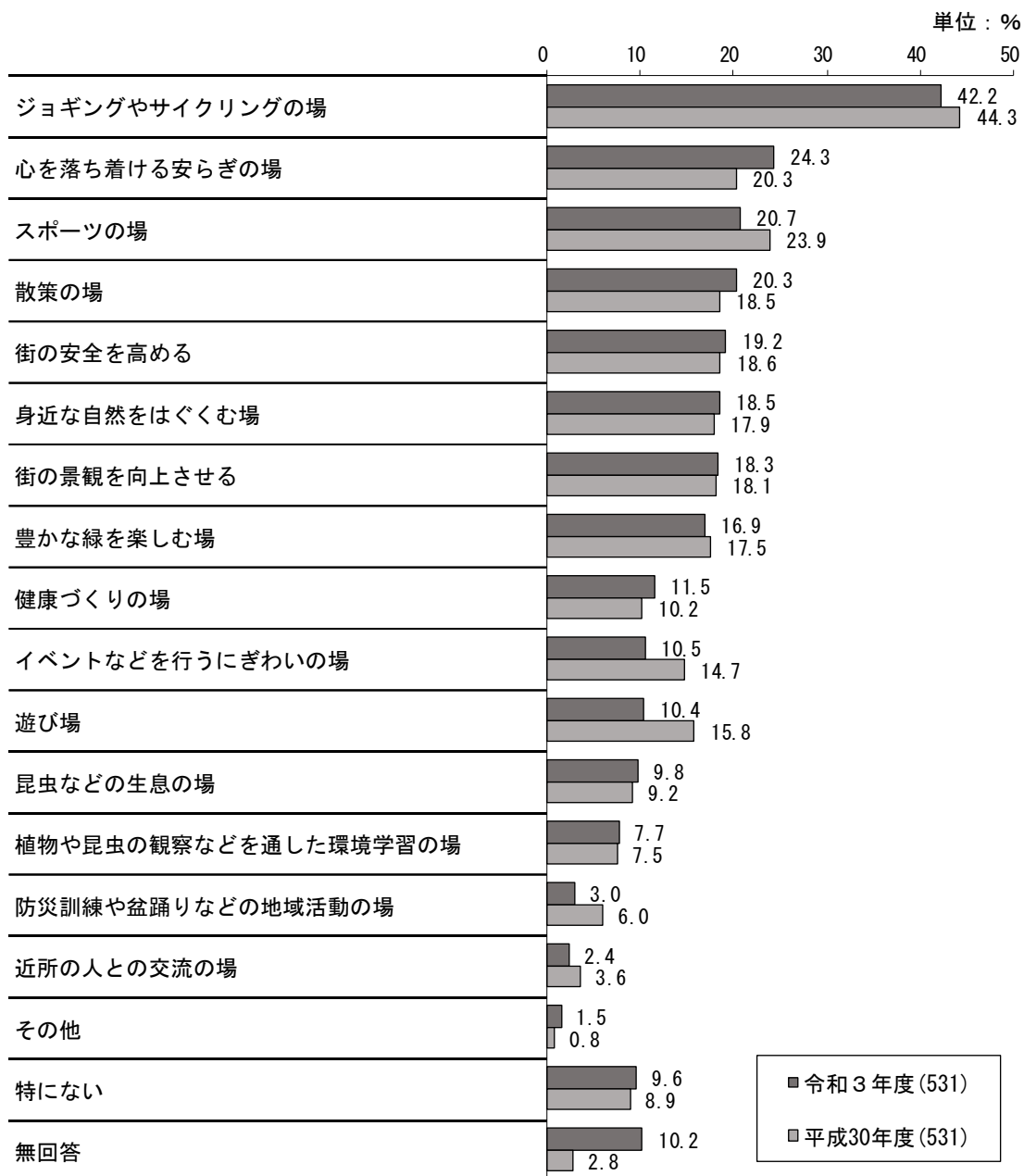
図表IV-20-3 河川敷に期待すること



河川敷に期待することは、「ジョギングやサイクリングの場」(42.2%)が4割強と最も高く、次いで「心を落ち着ける安らぎの場」(24.3%)、「スポーツの場」(20.7%)と続いている。(図IV-20-3)

【経年変化】

図表Ⅳ-20-4 河川敷に期待すること（経年変化）



「ジョギングやサイクリングの場」(42.2%)は、平成30年度調査(44.3%)より2.1ポイント、「スポーツの場」(20.7%)は、平成30年度調査(23.9%)より3.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「心を落ち着ける安らぎの場」(24.3%)は、平成30年度調査(20.3%)より4.0ポイント、「散策の場」(20.3%)は、平成30年度調査(18.5%)より1.8ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅳ-20-4)

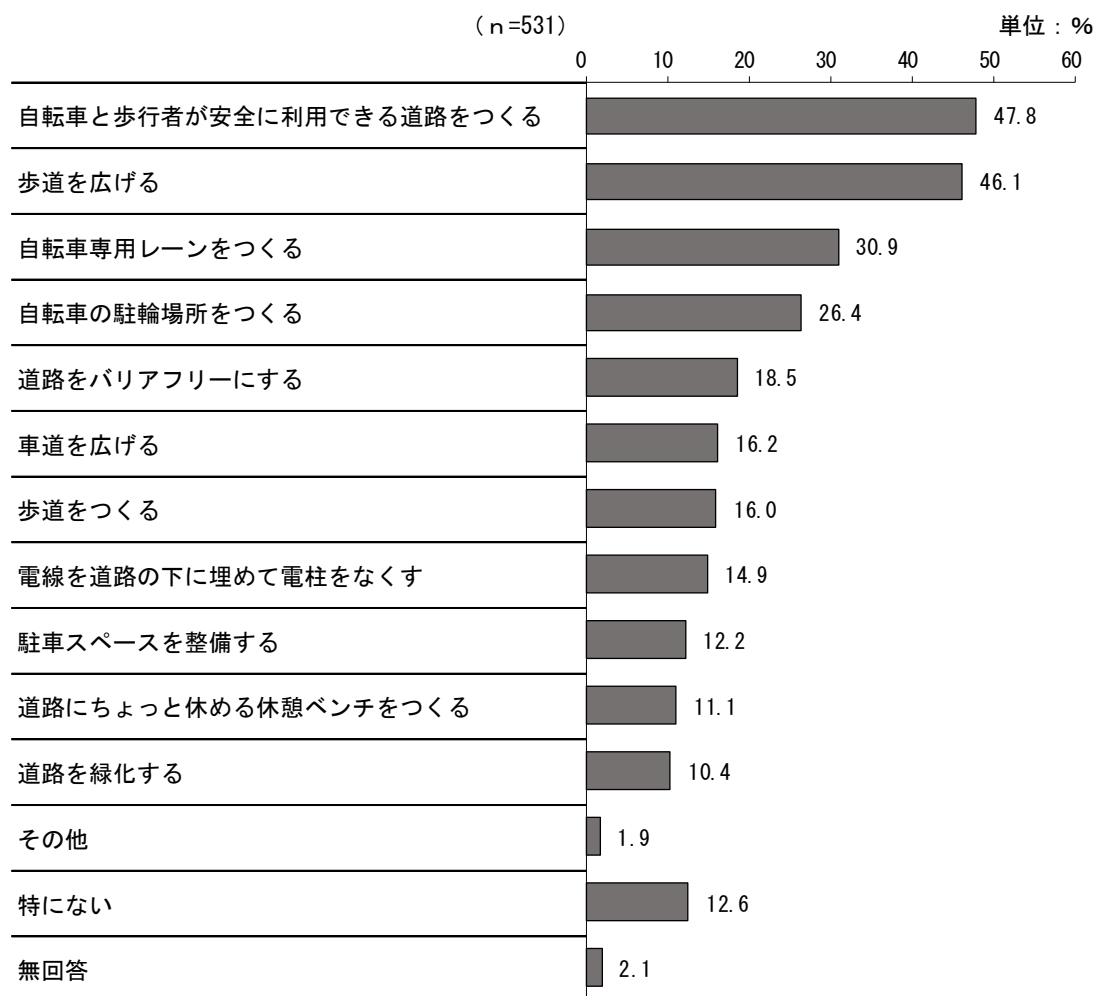
21. 道路

(1) 道路施策で力を入れてほしいこと

◆ 「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」が5割近く

問 33 あなたは葛飾区が道路をつくったり、作りかえる時に、どんなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

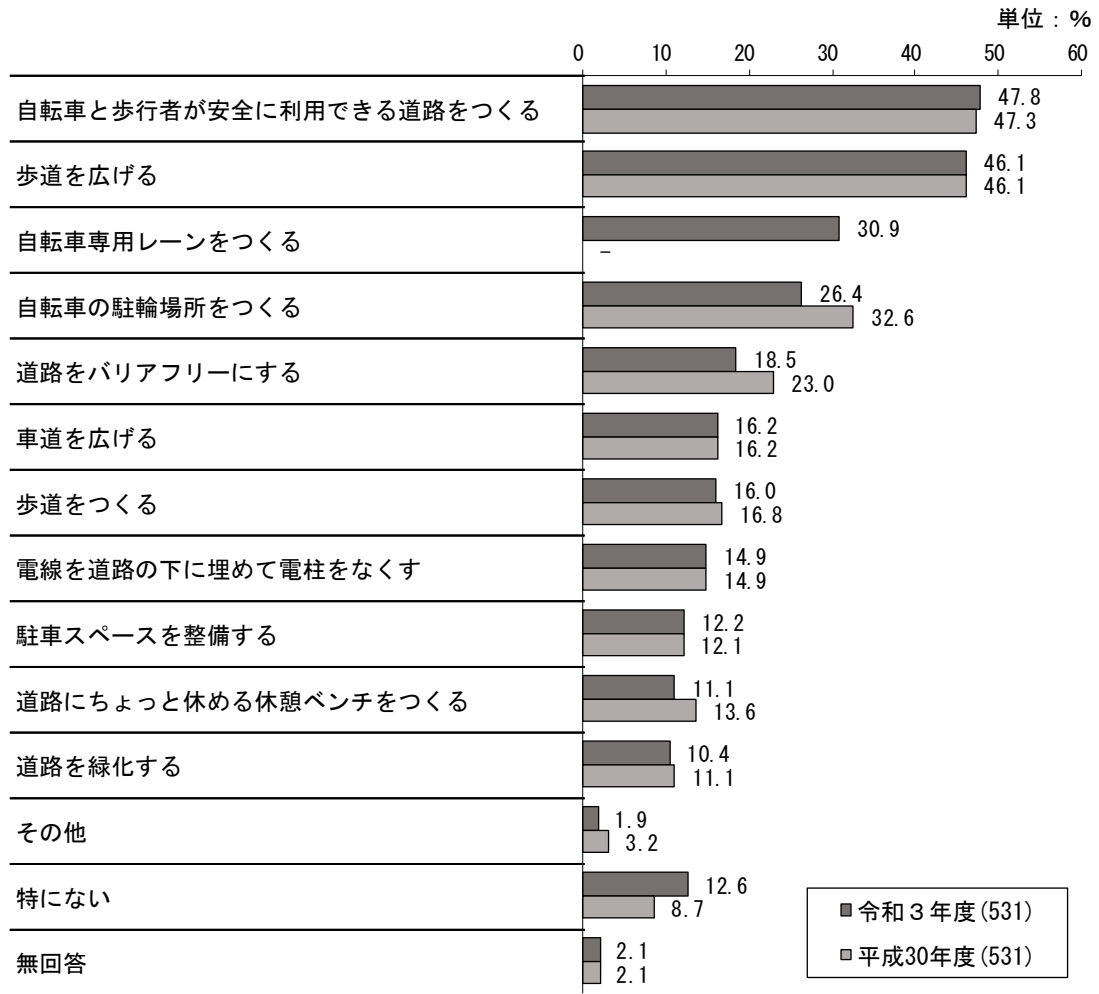
図表Ⅳ-21-1 道路施策で力を入れてほしいこと



道路施策で力を入れてほしいことは、「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(47.8%)が5割近くと最も高く、次いで「歩道を広げる」(46.1%)、「自転車専用レーンをつくる」(30.9%)と続いている。(図表Ⅳ-21-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-21-2 道路施策で力を入れてほしいこと（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「自転車専用レーンをつくる」を新たに追加した。

「自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる」(47.8%)は、平成30年度調査(47.3%)より0.5ポイント増加している。一方、「自転車の駐輪場所をつくる」(26.4%)は、平成30年度調査(32.6%)より6.2ポイント、「道路をバリアフリーにする」(18.5%)は、平成30年度調査(23.0%)より4.5ポイント、それぞれ減少している。また、「歩道を広げる」(46.1%)は、平成30年度調査(46.1%)と同率で増減なしである。(図表Ⅳ-21-2)

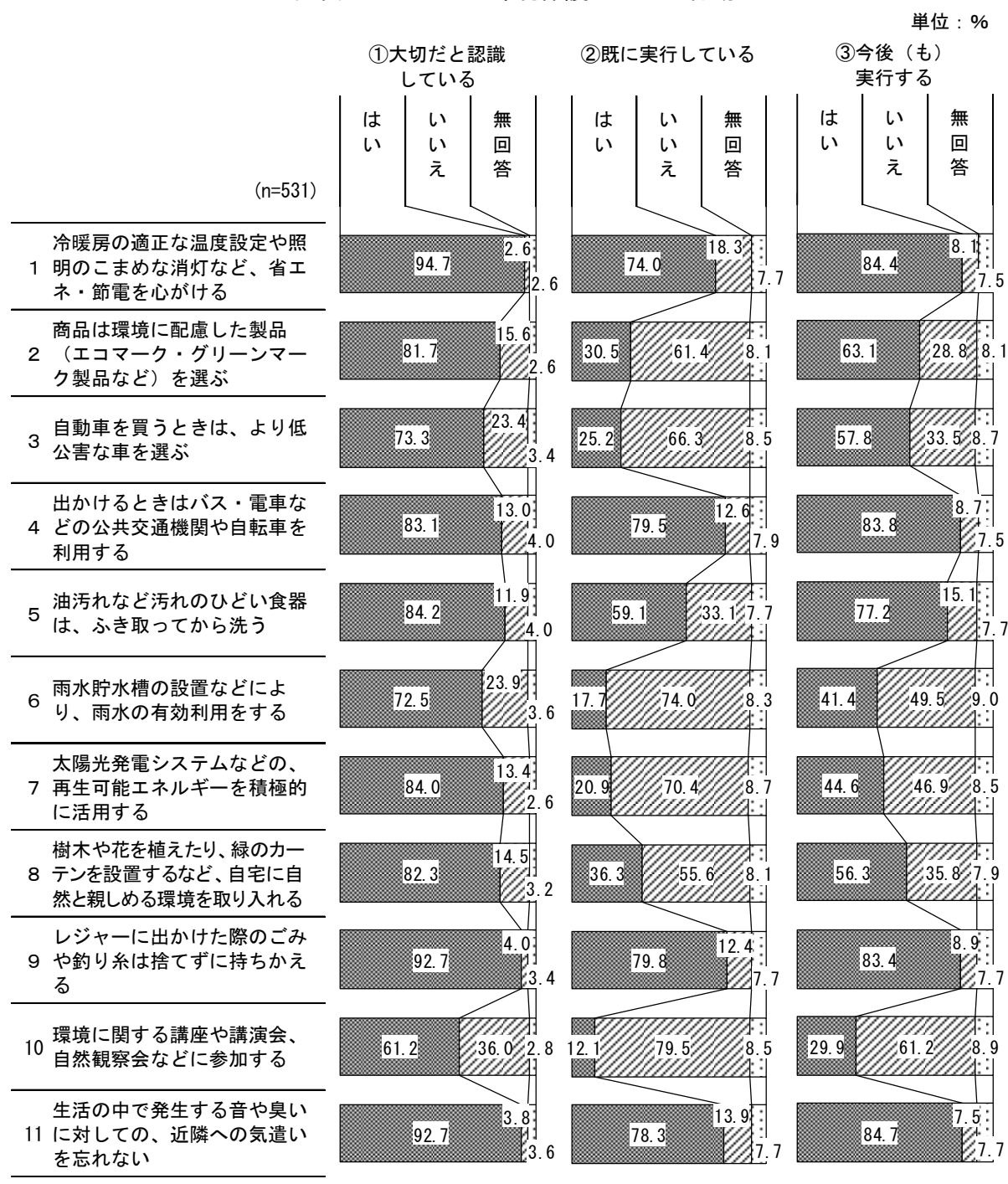
22. 環境

(1) 環境保護のための行動

- ◆ 実行状況では「レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」が、今後の実行意思では「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」が、それぞれ最も高い

問 34 日頃の暮らしを少し工夫することで、地球温暖化対策や自然環境の保護など大切な環境を守ることができます。次にあげる1～11のような行動について、①大切なことだと思えますか。また、②既に実行していますか。③今後（も）実行しようと思えますか。①、②、③とも「はい」、「いいえ」のどちらかをお選びください。（〇はそれぞれ1つ）

図表IV-22-1 環境保護のための行動



環境保護のための行動で大切だと認識していることは、「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(94.7%)が最も高く、次いで「レジヤ-に出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(92.7%)と「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(92.7%)が同率で続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(61.2%)は6割強となっている。

環境保護のための行動で既に実行していることは、「レジヤ-に出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる」(79.8%)が最も高く、次いで「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(79.5%)、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(78.3%)と続いている。

一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(12.1%)は1割強となっている。

環境保護のための行動で今後(も)実行することは、「生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない」(84.7%)が最も高く、次いで「冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける」(84.4%)、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(83.8%)と続いている。

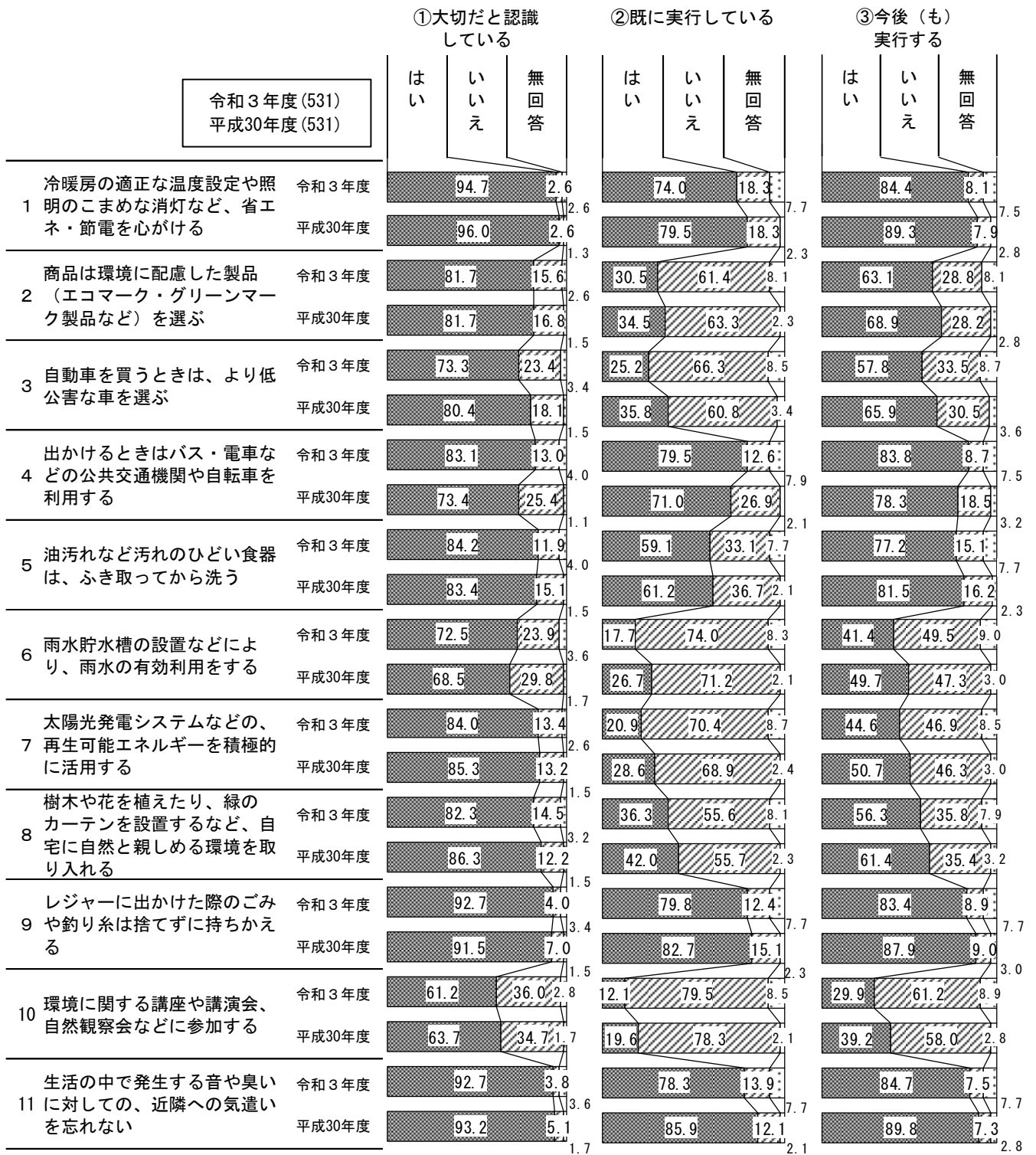
一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(29.9%)は3割弱となっている。

(図表IV-22-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-22-2 環境保護のための行動（経年変化）

単位：％



環境保護のための行動で大切だと認識していることでは、「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」(73.3%)は、平成30年度調査(80.4%)より7.1ポイント減少している。一方、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(83.1%)は、平成30年度調査(73.4%)より9.7ポイント増加している。

環境保護のための行動で既に実行していることでは、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」を除いたすべての項目で平成30年度調査より減少している。

「自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ」(25.2%)は、平成30年度調査(35.8%)より10.6ポイント減少している。一方、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(79.5%)は、平成30年度調査(71.0%)より8.5ポイント増加している。

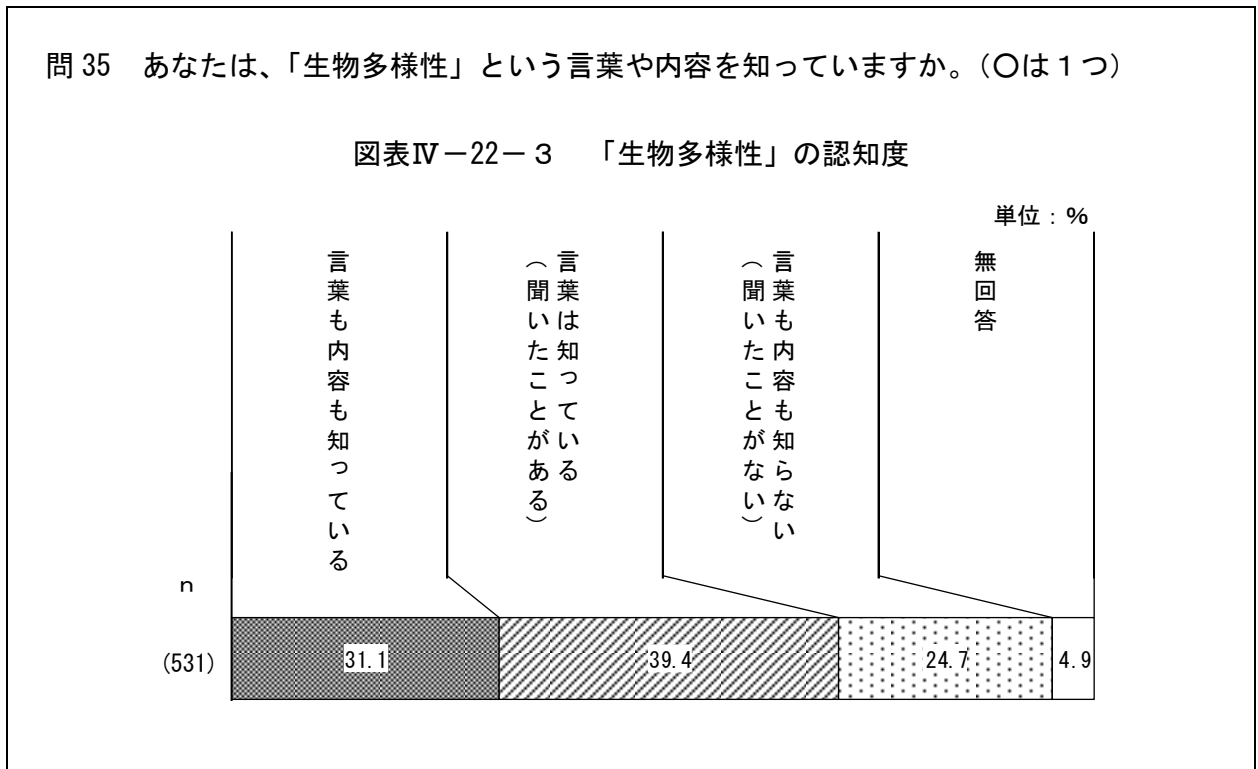
環境保護のための行動で今後(も)実行することでは、「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」を除いたすべての項目で平成30年度調査より減少している。

「出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する」(83.8%)は、平成30年度調査(78.3%)より5.5ポイント増加している。一方、「環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する」(29.9%)は、平成30年度調査(39.2%)より9.3ポイント減少している。

(図表IV-22-2)

(2) 「生物多様性」の認知度

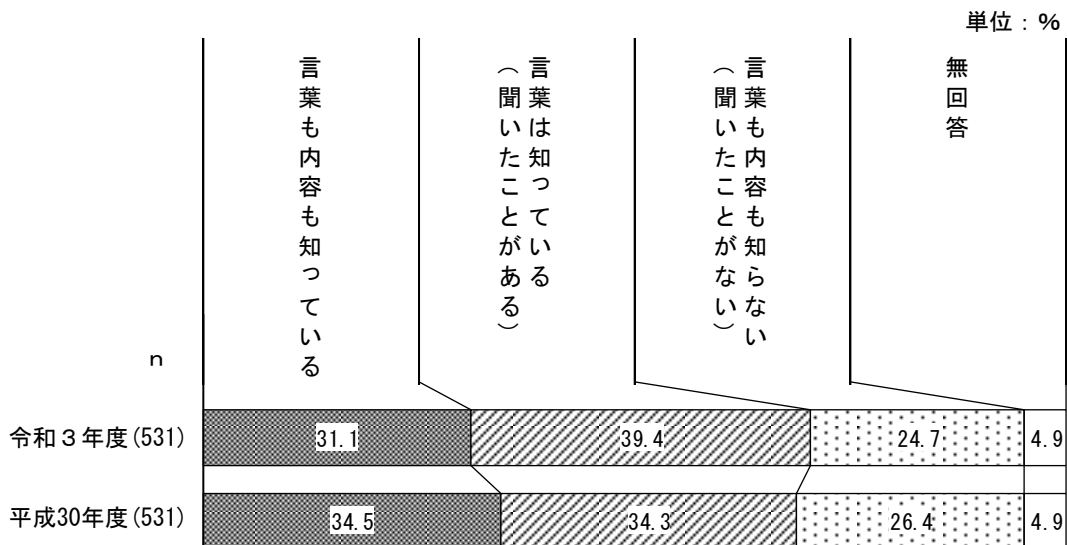
◆ 「言葉も内容も知っている」が3割強



「生物多様性」の認知度は、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(39.4%)が最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」(31.1%)、「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(24.7%)と続いている。(図表IV-22-3)

【経年変化】

図表IV-22-4 「生物多様性」の認知度(経年変化)



「言葉も内容も知っている」(31.1%)は、平成30年度調査(34.5%)より3.4ポイント、「言葉も内容も知らない(聞いたことがない)」(24.7%)は、平成30年度調査(26.4%)より1.7ポイント、それぞれ減少している。

一方、「言葉は知っている(聞いたことがある)」(39.4%)は、平成30年度調査(34.3%)より5.1ポイント増加している。(図表IV-22-4)

23. ごみの減量・リサイクル

(1) 「3つのR」の実施状況

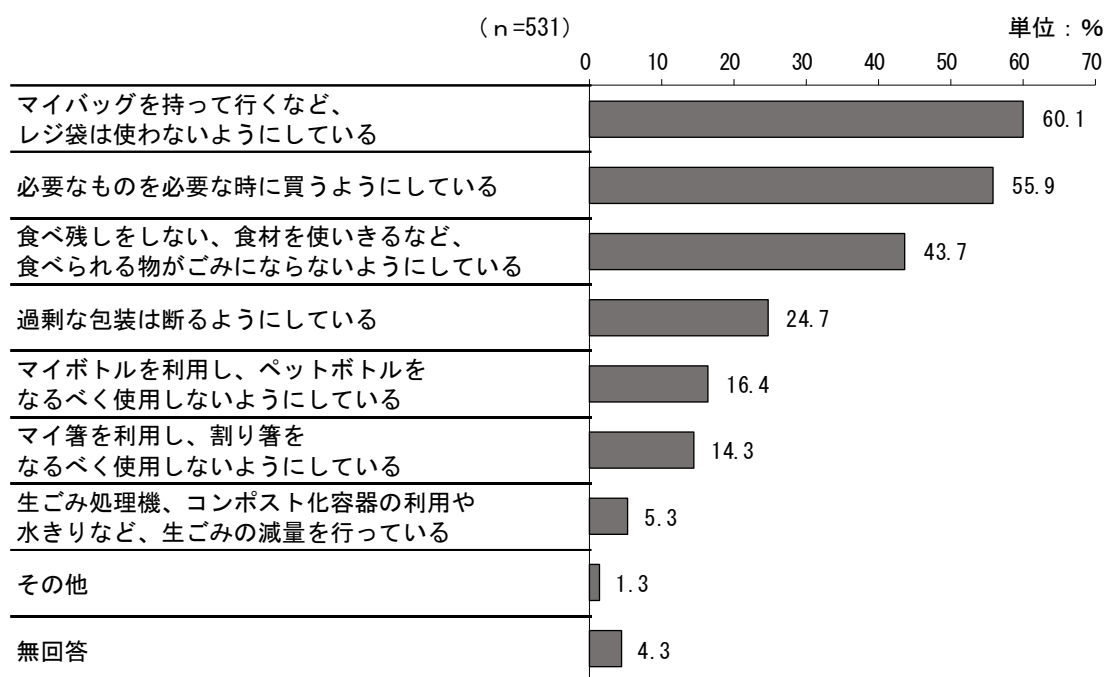
<リデュース>

◆ 「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」が約6割

問 36 【リデュース】ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心がけ、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。

(○はそれぞれいくつでも)

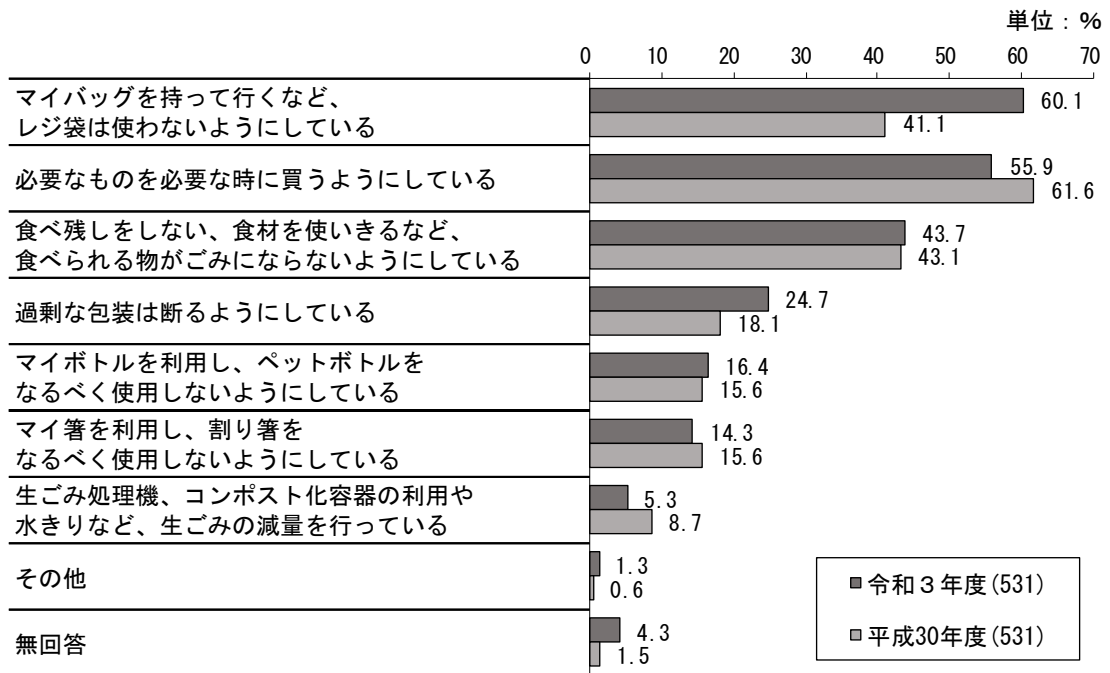
図表Ⅳ-23-1 「3つのR」の実施状況<リデュース>



「3つのR」の実施状況（リデュース）は、「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」（60.1%）が約6割と最も高く、次いで「必要なものを必要な時に買うようにしている」（55.9%）、「食べ残しをしない、食材を使いきるなど、食べられる物がごみにならないようにしている」（43.7%）と続いている。（図表Ⅳ-23-1）

【経年変化】

図表Ⅳ-23-2 「3つのR」の実施状況<リデュース>（経年変化）



※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「マイボトル・マイ箸を利用し、ペットボトルや割りばしをなるべく使用しないようにしている」を「マイボトルを利用し、ペットボトルをなるべく使用しないようにしている」と「マイ箸を利用し、割り箸をなるべく使用しないようにしている」に分割した選択肢となっている。

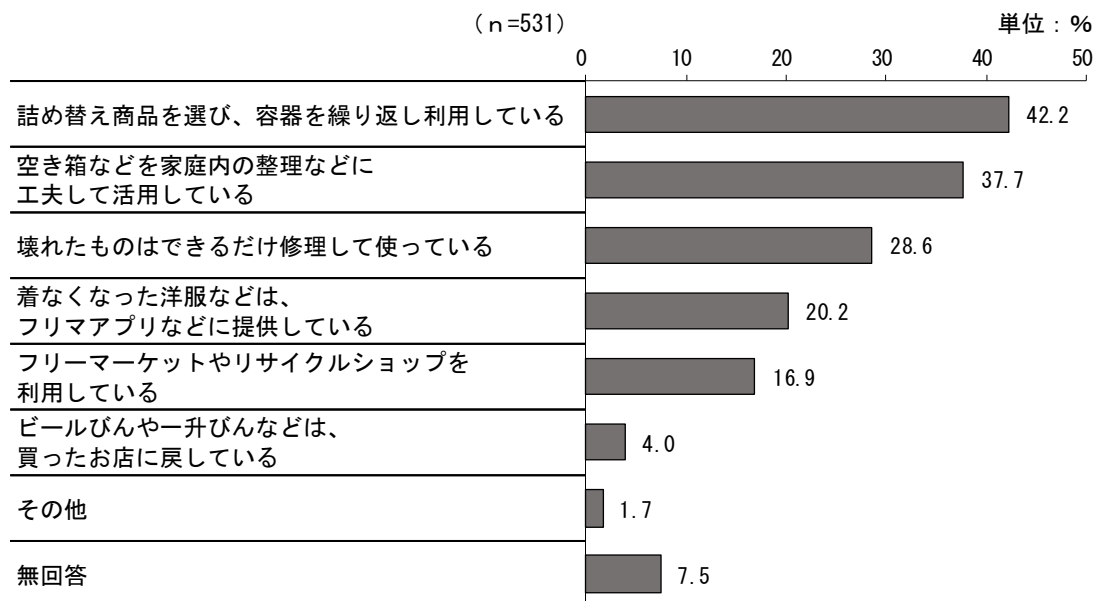
「マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようにしている」(60.1%)は、平成30年度調査(41.1%)より19.0ポイント、「食べ残しをしない、食材を使い切るなど、食べられる物がごみにならないようにしている」(43.7%)は、平成30年度調査(43.1%)より0.6ポイント、「過剰な包装は断るようになっている」(24.7%)は、平成30年度調査(18.1%)より6.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「必要なものを必要な時に買うようにしている」(55.9%)は、平成30年度調査(61.6%)より5.7ポイント減少している。(図表Ⅳ-23-2)

◆ 「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」が4割強

問 36 【リユース】ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心がけ、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。

(○はそれぞれいくつでも)

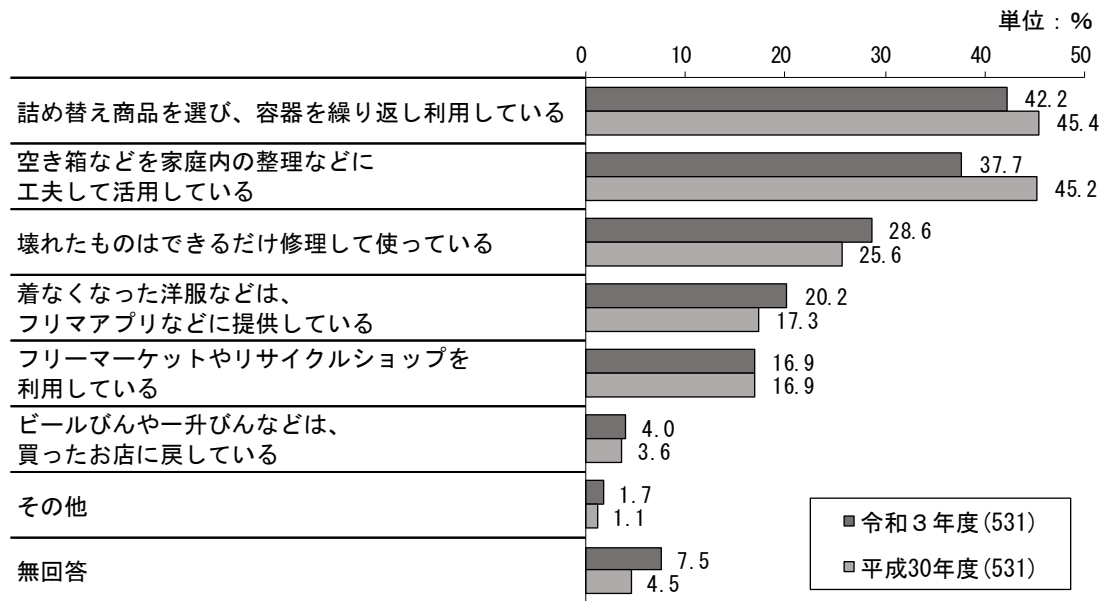
図表IV-23-3 「3つのR」の実施状況<リユース>



「3つのR」の実施状況（リユース）は、「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」（42.2%）が4割強と最も高く、次いで「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」（37.7%）、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」（28.6%）と続いている。（図表IV-23-3）

【経年変化】

図表Ⅳ-23-4 「3つのR」の実施状況<リユース>（経年変化）



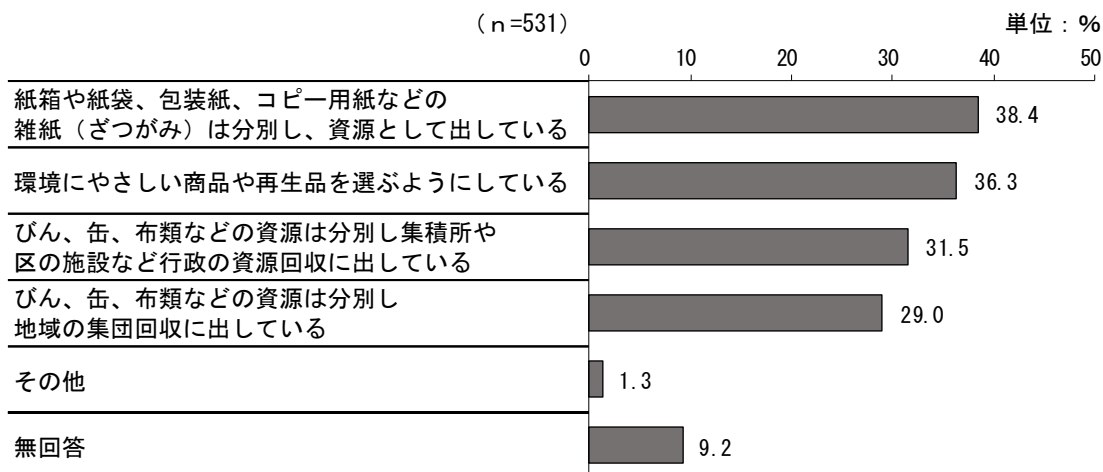
「詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している」(42.2%)は、平成30年度調査(45.4%)より3.2ポイント、「空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している」(37.7%)は、平成30年度調査(45.2%)より7.5ポイント、それぞれ減少している。一方、「壊れたものはできるだけ修理して使っている」(28.6%)は、平成30年度調査(25.6%)より3.0ポイント、「着なくなった洋服などは、フリマアプリなどに提供している」(20.2%)は、平成30年度調査(17.3%)より2.9ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅳ-23-4)

<リサイクル>

- ◆ 「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」が4割近く

問 36 【リサイクル】ごみの減量化を進めるためには、まず REDUCE（リデュース）を心がけ、次に REUSE（リユース）に取り組み、最後に RECYCLE（リサイクル）が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。
 (○はそれぞれいくつでも)

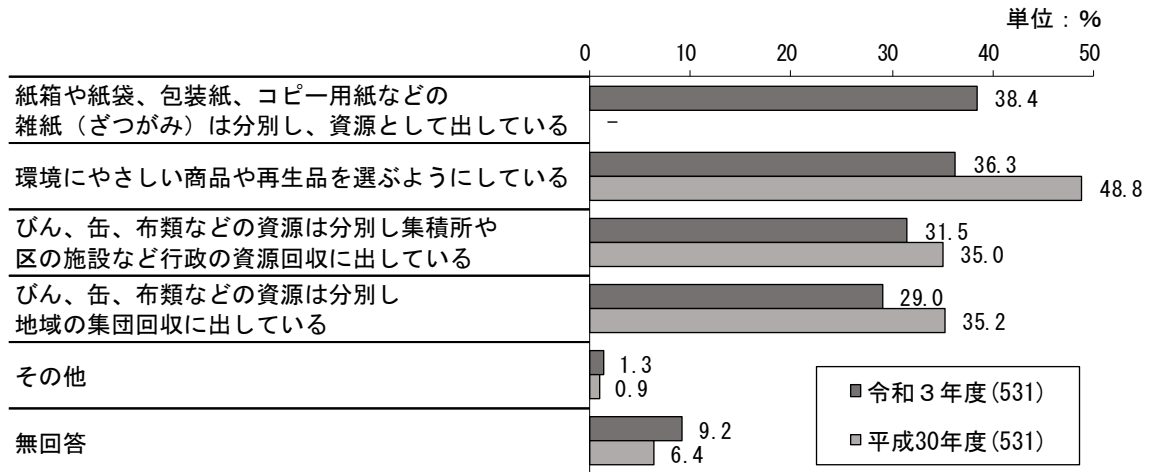
図表Ⅳ-23-5 「3つのR」の実施状況<リサイクル>



「3つのR」の実施状況（リサイクル）は、「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」（38.4%）が4割近くと最も高く、次いで「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」（36.3%）、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」（31.5%）と続いている。（図表Ⅳ-23-5）

【経年変化】

図表Ⅳ-23-6 「3つのR」の実施状況<リサイクル>（経年変化）



※ 令和3年度調査では、選択肢「紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している」を新たに追加した。

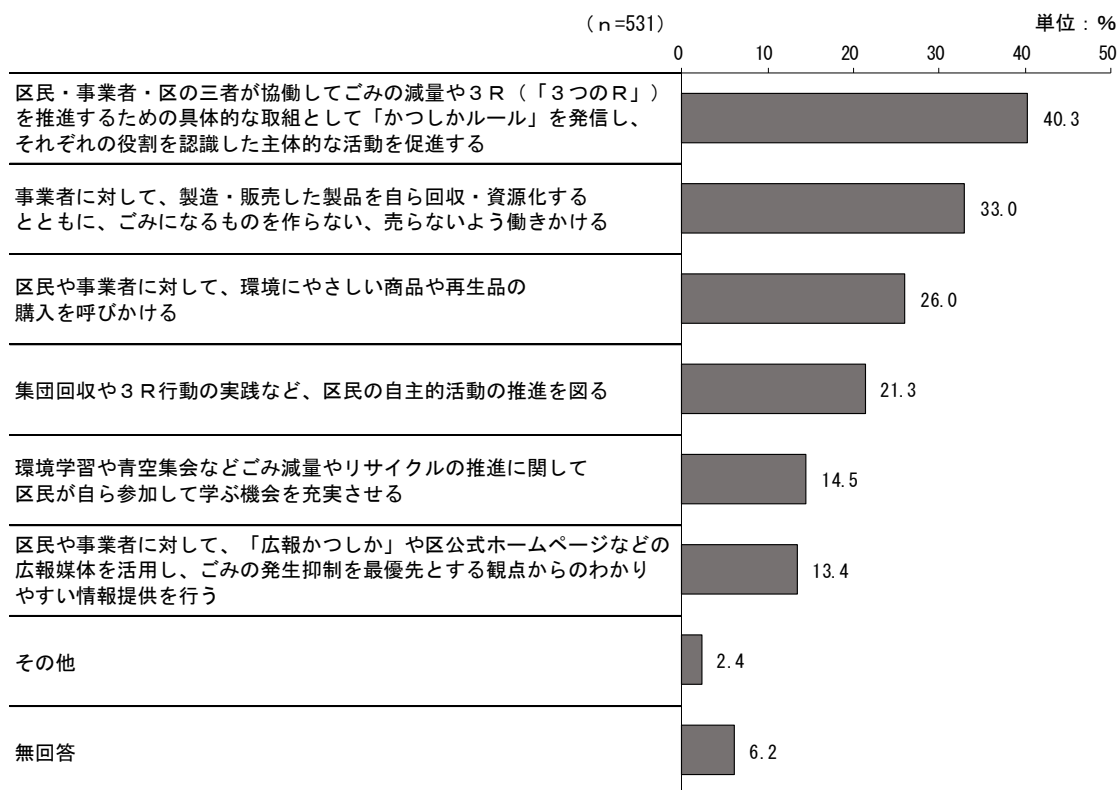
「環境にやさしい商品や再生品を選ぶようにしている」(36.3%)は、平成30年度調査(48.8%)より12.5ポイント、「びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している」(31.5%)は、平成30年度調査(35.0%)より3.5ポイント、「びん、缶、布類などの資源は分別し地域の集団回収に出している」(29.0%)は、平成30年度調査(35.2%)より6.2ポイント、それぞれ減少している。(図表Ⅳ-23-6)

(2) ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと

- ◆ 「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」が約4割

問 37 今後、葛飾区がごみの減量やリサイクルを推進するに当たって、より一層重点を置くべきだと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

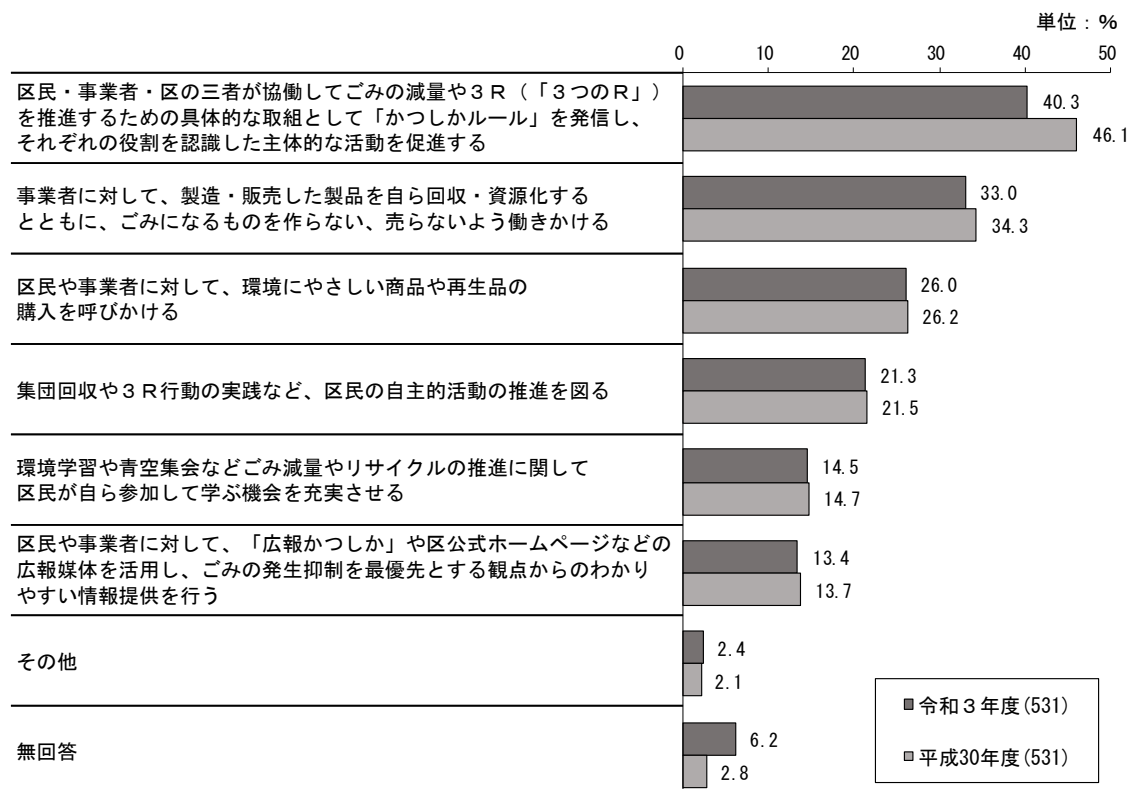
図表IV-23-7 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと



ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきことは、「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」(33.0%)、「区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける」(26.0%)と続いている。(図表IV-23-7)

【経年変化】

図表Ⅳ-23-8 ごみの減量やリサイクルを推進するために重点を置くべきこと（経年変化）



「区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための具体的な取組として『かつしかルール』を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する」（40.3%）は、平成30年度調査（46.1%）より5.8ポイント、「事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける」（33.0%）は、平成30年度調査（34.3%）より1.3ポイント、「区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける」（26.0%）は、平成30年度調査（26.2%）より0.2ポイント、それぞれ減少している。（図表Ⅳ-23-8）

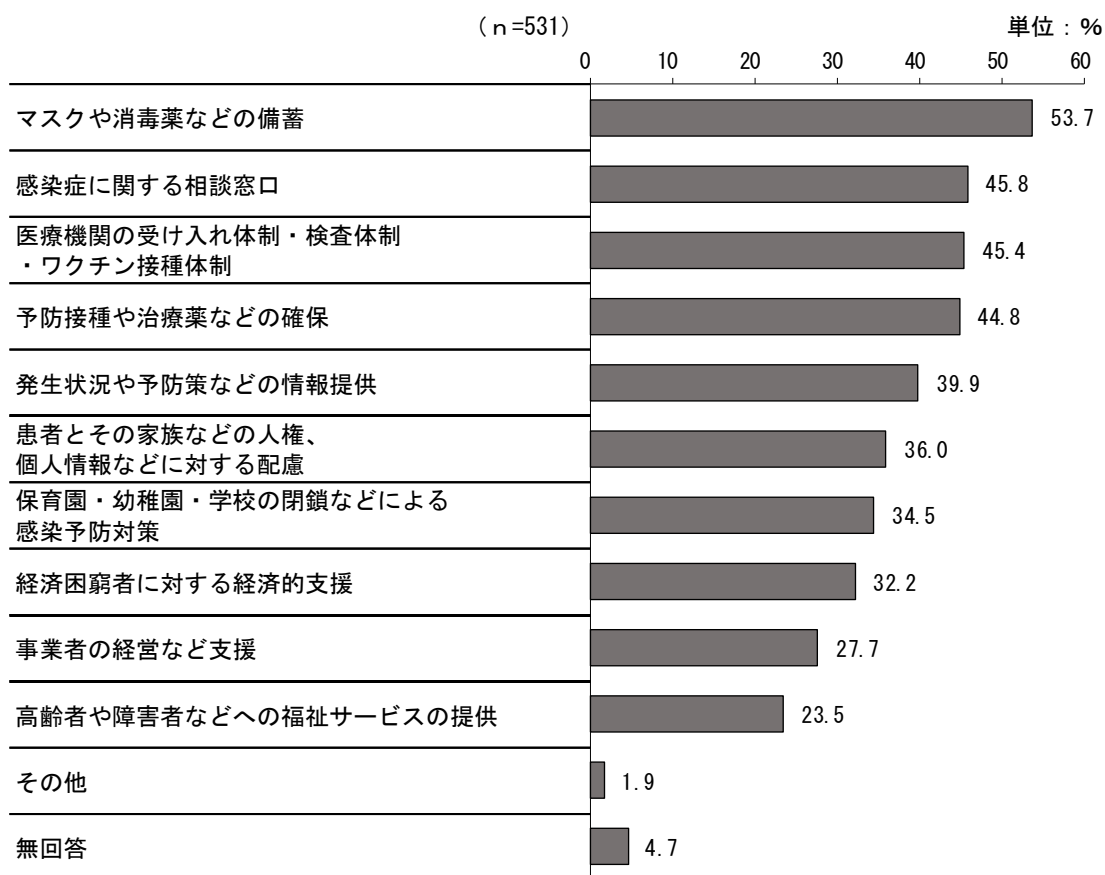
24. 感染症対策

(1) 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと

◆ 「マスクや消毒薬などの備蓄」が5割強

問 38 新型コロナウイルス感染症、エボラ出血熱やMERS、鳥インフルエンザなどの新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

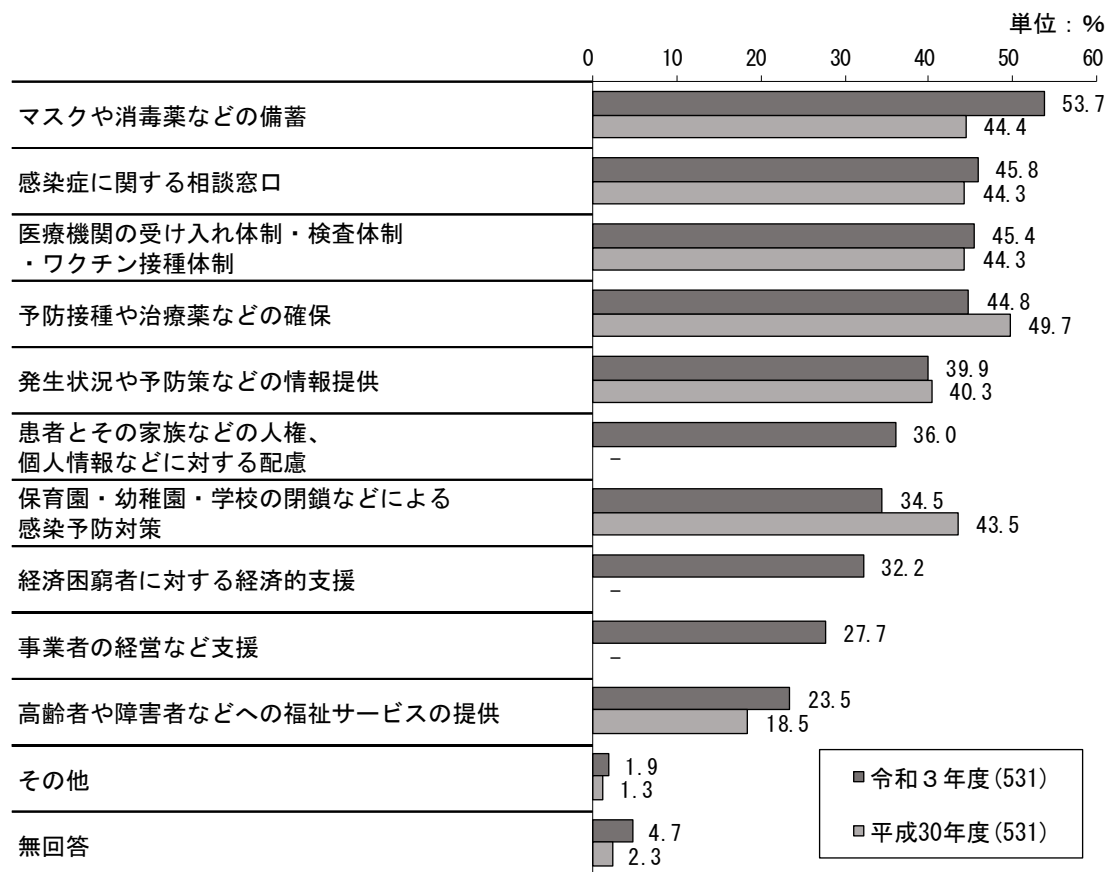
図表IV-24-1 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと



新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うことは、「マスクや消毒薬などの備蓄」(53.7%)が5割強と最も高く、次いで「感染症に関する相談窓口」(45.8%)、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」(45.4%)と続いている。(図表IV-24-1)

【経年変化】

図表Ⅳ-24-2 新興感染症が発生した場合に充実や継続するべきだと思うこと（経年変化）



- ※ 令和3年度調査では、選択肢「経済困窮者に対する経済的支援」「患者とその家族などの人権、個人情報などに対する配慮」「事業者の経営などの支援」を新たに追加した。
- ※ 令和3年度調査では、平成30年度調査の選択肢「医療機関の受け入れ体制」を「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」に変更した。

「マスクや消毒薬などの備蓄」(53.7%)は、平成30年度調査(44.4%)より9.3ポイント、「感染症に関する相談窓口」(45.8%)は、平成30年度調査(44.3%)より1.5ポイント、「医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制」(45.4%)は、平成30年度調査(44.3%)より1.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「予防接種や治療薬などの確保」(44.8%)は、平成30年度調査(49.7%)より4.9ポイント減少している。(図表Ⅳ-24-2)

V 調査票

※ 学生意識調査は、世論調査の調査票を一部変更して実施した。

第17回 葛飾区世論調査

令和3年7月

日頃から、葛飾区の発展にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

葛飾区では、区民との協働のまちづくりを進めるため、広報かつしか等での情報発信や区長へのはがき等でご意見を伺うことで、区政に対する理解と関心を高め、多くの区民の皆様のご意見を施策等に反映させるよう努めています。

このような中で、より効果的に区政を進めていくためには、葛飾区に暮らす皆様の意識や意向を定期的に調査し、把握する必要があることから、本区では3年に一度、世論調査を実施しております。調査の実施にあたり、無作為で選定した18歳以上の区民3,000人を対象に調査用紙をお届けいたしました。

皆様が日頃お考えになっていることにつきまして、率直にお答えくださいますようお願い申し上げます。結果は区ホームページなどで紹介いたします。

ご多用の折、恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひともご協力をお願いいたします。

葛飾区長 青木 克徳

【回答期限】 令和3年7月22日(木)

【回答方法】 郵送又はインターネット

郵送回答

- ① 黒又は青色の鉛筆、ボールペンをお使いいただき、宛名のご本人がお答えください。
- ② (○は1つ)、(○は3つまで)、(○はいくつでも)、(番号を1つ記入)、(自由記述)、(○はそれぞれ1つ)等の指示に従い、選択肢の番号に○や回答欄に番号又は具体的な内容をそれぞれご記入ください。
- ③ 「その他()」とお答えの場合はその番号に○をつけ、()内に具体的にご記入ください。
- ④ 回答終了後、同封の返信用封筒によりご返送ください。
- ⑤

インターネット回答

- ①QRもしくは以下のURLから、専用ウェブサイトへアクセスしてください。
<専用ウェブサイトURL>
<https://form.qooker.jp/SW/ja/katushika/>
- ②ログイン画面で下記のIDとパスワードを入力すると、回答ページに移動できます。
※IDは、郵送とインターネットの重複回答を確認するものです。個人を特定できないようにしています。
- ③調査票と同じ設問が表示されますので、設問に沿ってお答えください。

【調査主体】 葛飾区総務部 すぐやる課 すぐやる係
電話：03-5654-8448(直通) 担当：伊藤・北原

【調査実施機関】 株式会社 都市計画21 電話：03-5623-6371

インターネット回答はこちらから ↓

ID：9999

パスワード：a12345

QR

1. 定住性

問1 あなたは、葛飾区にお住まいになって何年くらいになりますか。(○は1つ)

1 3年未満	4 10～20年未満	7 生まれた時から(30年未満)
2 3～5年未満	5 20～30年未満	8 生まれた時から(30年以上)
3 5～10年未満	6 30年以上	

問2 あなたは、今後も葛飾区に住み続けたいと思いますか。それとも区外へ移りたいと思いますか。(○は1つ)

1 住み続けるつもり	3 区外へ移るつもり	ト → (問2-2へ)
2 当分の間は住むつもり	4 わからない	

→ 問2で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。

問2-1 あなたが、葛飾区に住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

1 持ち家があるから	9 交通の便が良いから
2 生まれ育った地域だから	10 勤め先が近いから
3 家賃が安いから	11 実家が近いから
4 家の大きさに満足しているから	12 自然環境が良いから
5 買い物など日常生活が便利だから	13 人間関係が良いから
6 道路・公園などが整備されているから	14 災害時に安心できる地域だから
7 商売や事業に便利だから	15 その他()
8 子どもの教育上の問題から	

(問2で選択肢「3」を選んだ方のみお答えください。)

問2-2 あなたが、区外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は1つ)

1 持ち家でないから	9 勤め先が遠いから
2 家賃が高いから	10 自然環境が悪いから
3 家が狭いから	11 人間関係の問題から
4 買い物など日常生活が不便だから	12 災害時に不安な地域だから
5 道路・公園などが整備されていないから	13 地元へ帰りたいから
6 商売や事業に不利だから	14 治安が悪いから
7 子どもの教育上の問題から	15 その他()
8 交通の便が悪いから	

問3 あなたは、葛飾区に愛着や誇りをもっていますか。

1 そう思う	4 そう思わない
2 どちらかというそう思う	5 わからない
3 どちらかというそう思わない	

	(番号を1つ記入)		(番号を1つ記入)
愛着をもっている		誇りをもっている	

問4 あなたは、葛飾区を人に勧めたいですか。(○は1つ)

1 そう思う	4 そう思わない
2 どちらかというと思う	5 わからない
3 どちらかというと思わない	

→(問4で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。)

問4-1 葛飾区を人に勧めるとき、最もアピールしたいことは何ですか。(○は1つ)

1 伝統文化・祭りや行事(葛飾菖蒲まつり、葛飾納涼花火大会など)
2 知名度の高い施設や街並み(柴又帝釈天、堀切菖蒲園、水元公園など)
3 葛飾区ゆかりのキャラクター(寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなど)
4 人の良さ(下町人情)
5 住みやすさ(子育てしやすい、交通の便が良い、自然が多い、物価が安い、買い物しやすい)
6 その他()

2. 区政への関心

問5 今後、葛飾区ではどのような施設の整備・充実を図っていくことが必要だと思いますか。

(1) 子育て、福祉施設について(○は3つまで)

1 保育園・認定こども園・幼稚園 ※未就学児が通所する施設	11 就労支援施設 ※高齢者や障害者に働く機会を提供する場
2 子ども未来プラザ ※子育てひろばを含め、妊娠期から就学前までの子育て家庭・子どもなどを対象に、相談を受け付けるなどの支援をする施設	12 ボランティアセンター
3 児童館 ※主に0~18歳までの子どもたちが自由に利用し、遊ぶことができる施設	13 区営住宅 特別養護老人ホーム ※常に介護が必要で在宅で介護を受けることが困難な方が入所して日常生活に必要な介護を受ける施設
4 学童保育クラブ	15 介護老人保健施設 ※介護を必要とする高齢者に、リハビリテーションを中心とした医療サービスと日常サービスを併せて提供し、入所者が自立した日常生活ができるよう支援する施設
5 子ども総合センター・子どもセンター ※子どもに関する悩みや相談を受ける施設	16 認知症高齢者グループホーム ※中・軽度の認知症高齢者が専門的援助を受けながら共同生活をおくる小規模の施設
6 障害者センター ※障害者の相談・訓練の場	17 デイサービスセンター ※介護を必要とする高齢者が通所して日常生活上の介護を受ける施設
7 障害者生活介護施設 ※常に介護を必要とする人に食事の介護などを行うとともに創作的活動の機会を提供する施設	18 高齢者用住宅 ※高齢者の特性に配慮した住宅
8 障害者就労訓練施設 ※一般企業などでの就労が困難な人の働く場の提供、訓練する通所施設	19 障害乳幼児療育施設 ※障害の早期発見、早期療育をするとともに訓練などを行う施設
9 障害者グループホーム ※夜間や休日に、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助、または介護などを行う施設	20 スポーツジム
10 障害者入所施設 ※夜間や休日に、入浴、排せつ、食事の介護などの生活支援を行う施設	21 その他()
	22 特にない

(2) 教育・文化・スポーツ施設について (○は3つまで)

1 図書館	6 集会施設
2 文化施設 (シンフォニーヒルズ・リリオホール)	7 地区センター
3 体育館	8 学習体験施設 (博物館・未来わくわく館・かつしかエコライフプラザ)
4 運動場 (野球・サッカー・テニスなど)	9 その他 ()
5 プール (温水プールを含む)	10 特にない

(3) 都市施設について (○は3つまで)

1 都市計画道路 (住宅地と交通機関、公園などをつなぐ骨格となる道路)	6 駅前広場 (駅前ロータリーなどとなった広場空間)
2 緑道・コミュニティ道路 (歩行者の安全性、快適性などを考慮した道路)	7 公園・児童遊園
3 橋梁 (河川の橋など)	8 公衆便所
4 電線の地中化	9 自転車置き場
5 交通機関	10 公共の自動車駐車場
	11 その他 ()
	12 特にない

問6 あなたが、葛飾区に対して特に力を入れてほしいと思うものは何ですか。(○は3つまで)

1 防災対策	16 生活環境対策 (ごみ対策など)
2 交通安全対策 (自転車対策を含む)	17 公園の整備・緑化の推進
3 防犯・治安対策	18 市街地の整備 (再開発・住環境の整備)
4 健康の増進・疾病の予防 (健康づくり・健康診断など)	19 道路の整備 (拡幅整備、交通渋滞解消など)
5 公害対策	20 公共交通 (鉄道) の整備
6 感染症対策 (検査体制・予防接種など)	21 公共交通 (バス路線など) の充実
7 地球温暖化対策 (省エネルギー・リサイクルなど)	22 学校教育の充実 (教育内容の充実・施設の整備)
8 高齢者支援 (在宅生活や介護の支援、施設整備、生きがい対策など)	23 産業振興策 (商工業の支援など)
9 障害者 (児) 支援 (在宅生活や介護の支援、施設整備、就労支援など)	24 消費者の自立の支援 (消費者相談など)
10 子育ての支援 (保育サービス・子育て相談など)	25 住宅対策 (住宅の供給支援、大型団地・マンションの改修・建て替えへの対処など)
11 子ども・若者の社会参加や社会的自立の支援	26 国際交流の推進
12 人権・男女平等の推進	27 多文化共生の推進
13 低所得者福祉対策 (生活の援助、自立支援など)	28 生涯学習の充実
14 地域福祉対策 (ボランティア活動の推進)	29 生涯スポーツの充実
15 地域活動の推進 (自治町会活動の支援など)	30 文化・芸術活動の推進
	31 水辺環境・都市景観の整備 (水辺の再生・街並みの整備、歴史的景観の保全など)
	32 その他 ()
	33 特にない

3. SDGs

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月に国連総会で採択された、2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現をめざす世界共通の目標です。
17のゴールと169のターゲットから構成されています。

問7 あなたは「SDGs（持続可能な開発目標）」を知っていますか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------|----------|
| 1 知っている | 3 全く知らない |
| 2 聞いたことはあるが内容は知らない | |

問8 「SDGs」の17の目標のうち葛飾区に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。
(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナリシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 18 特になし |

4. 住民参加

問9 葛飾区では区民との協働（パートナーシップ）により、区政を運営しています。あなたは区政に参加する機会があるならば参加したいという意思はありますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 機会があったら参加したい | 3 参加するつもりはない |
| 2 参加したい気持ちはある | 4 わからない |

→（問9で選択肢「1」か「2」を選んだ方のみお答えください。）

問9-1 どのような形で区政へ参加してみたいですか。（○は1つ）

- | |
|-------------------------------------|
| 1 インターネット、はがき、手紙、広聴会などを通して意見を述べる |
| 2 公募などによる検討委員会の委員として、区政に直接参加する |
| 3 自治町会、交通安全、防犯・防災組織などの活動を通して区政に参加する |
| 4 NPO・ボランティアなどの活動を通して区政に参加する |
| 5 その他（) |

5. 広報媒体

問10 あなたは、どのようにして葛飾区に関するお知らせや催しなどの情報を入手していますか。
(○はいくつでも)

1 区のお知らせ「広報かつしか」	12 区メールマガジン
2 わたしの便利帳	13 かつしかエフエム 78.9 メガヘルツ(ラジオ)
3 かつしかの地図	14 テレビ(地上波や衛星放送など)
4 ポスター(区広報掲示板)	15 J:COM(ケーブルテレビ)
5 ポスター(公共施設や駅)	16 自治町会の回覧板や町会掲示板
6 ポスター(電車・バスなどの乗り物)	17 新聞・雑誌など
7 区公式ホームページ(パソコン版・スマートフォン版)	18 パンフレット・チラシ(広報スタンド(区内各駅に設置)・窓口・学校配布)
8 区公式ツイッター	19 バス・電車などの車体(ラッピング)
9 区公式フェイスブック	20 ロコミ(地域情報サイト・SNS(区公式を除く)・友人・知人など)
10 区公式YouTube	21 その他()
11 葛飾区総合アプリ	22 特になし

問11 あなたは、インターネット(電子メールやスマートフォン利用も含みます)を利用していますか。(○は1つ)

1 <input checked="" type="checkbox"/> 利用している	3 利用するつもりはない
2 <input type="checkbox"/> 利用していないが、機会があれば利用したい	4 <input type="checkbox"/> わからない

➤(問11で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問11-1 どのような方法でインターネットを利用していますか。(○はいくつでも)

1 パソコンを利用	4 タブレット端末を利用
2 スマートフォンを利用	5 その他()
3 携帯電話を利用	

6. IT

問12 葛飾区では、平成29年1月から「葛飾区総合アプリ」として、観光情報や防災情報、ごみ分別、電子母子手帳機能、ARを使った街歩きアプリなどを提供しております。「葛飾区総合アプリ」を使ったことがありますか。(○は1つ)

1 <input checked="" type="checkbox"/> はい	2 <input type="checkbox"/> いいえ
--	--------------------------------

➤(問12で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。)

問12-1 「葛飾区総合アプリ」でよく使う機能は何ですか。(○はいくつでも)

1 AR機能	8 教育・生涯学習
2 観光・産業	9 WEBサービス(リンク集)
3 葛飾ツアーコース	10 福祉・介護・健康
4 妊娠・子育て	11 コミュニケーション支援ボード
5 電子母子手帳	12 防災・防犯
6 くらし	13 区政・区議会・選挙
7 ごみ分別ゲーム	14 チャットボット(AI(人工知能)による問い合わせ自動応答サービス)

問 12-2 「葛飾区総合アプリ」に追加してほしい機能はありますか。(自由記述)

7. 社会貢献活動

問 13 あなたは現在、職業以外の社会貢献活動（NPO・ボランティア活動・区政参加など）をしていますか。(○は1つ)

<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 1 現在している </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 4 過去にしたことがなく、今後もしたくない </div>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 2 現在はしていないが、過去にしたことがある </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 3 現在も過去もしていないが、今後してみたい </div>

-----> (問 13-2 へ)

→(問 13 で選択肢「1」から「3」を選んだ方のみお答えください。)

問 13-1 あなたが現在参加している、または参加をしてみたい社会貢献活動はどのような分野の活動ですか。(○はいくつでも)

1 クリーン作戦などを含めた自治町会、交通安全、防犯・防災組織の活動	10 自然環境保護に関する活動
2 子ども会、地域運動会やPTAなど青少年健全育成に関する活動	11 動物愛護に関する活動
3 子どものスポーツ活動の支援に関する活動	12 国際交流に関する活動
4 わくわくチャレンジ広場など子どもの見守りに関する活動	13 消費生活講座参加や消費生活サポーターなど消費者の自立の支援に関する活動
5 育児などの子育て支援に関する活動	14 人権・女性差別解消に関する活動
6 日常生活の支援・手助けに関する活動	15 文化・芸術に関する活動
7 高齢者の福祉や介護に関する活動	16 資源の集団回収などリサイクルに関する活動
8 障害者の福祉や介護に関する活動	17 政策決定過程など区政へ直接参加する活動
9 ラジオ体操など区民の健康づくりに関する活動	18 その他 ()

(問 13 で選択肢「4」を選んだ方のみお答えください。)

問 13-2 職業以外の社会貢献活動をしたくない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

1 忙しくて時間がないから	6 適当な活動の場が見つからないから
2 高齢・体力がない・体調が優れないから	7 興味や関心がないから
3 きっかけがないから	8 一緒に活動する仲間がないから
4 活動に必要な知識・技術を身につける機会がないから	9 自主的な企画によって活動できる機会がないから
5 活動に必要な情報が得られないから	10 その他 ()

8. 地域貢献活動に対する支援

問 14 自治町会や地域ボランティア団体などの活動を促進するために、行政が支援すべきことは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 専門家のアドバイスや情報提供の充実 | 5 補助金などの経済的支援の拡充 |
| 2 活動の機会の確保 | 6 物品などの現物給付の充実 |
| 3 活動拠点の整備 | 7 わからない |
| 4 団体や活動に関する区民への広報・啓発 | 8 その他 () |

9. 生涯学習

問 15 「生涯学習」とは、学校教育や社会教育、自宅などで行う学習活動を含めて、自分から進んで行う学習・文化活動、スポーツ、ボランティア活動、趣味などの様々な学習活動のことをいいます。あなたは、この1年くらいの間に、このような「生涯学習」をしましたか。

(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、ダンス、手芸など) |
| 2 教養的なもの(文学、歴史、科学など) |
| 3 社会問題に関するもの(社会・時事問題、国際問題、環境問題など) |
| 4 健康・スポーツ(健康法、栄養、ジョギング、水泳、体操、球技など) |
| 5 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、編み物、園芸、日曜大工など) |
| 6 育児・教育に関するもの(幼児教育、教育問題など) |
| 7 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など) |
| 8 語学(英会話など) |
| 9 パソコン・インターネットに関すること |
| 10 ボランティア活動や地域活動(青少年育成、子育て支援、自治町会、福祉活動など) |
| 11 自然体験(自然観察、キャンプ、農業体験など) |
| 12 学校(高校、専門・各種学校、大学、大学院)の正規課程での学習 |
| 13 その他() |
| 14 特になし |

問 16 生涯学習を充実させるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 生涯学習の活動ができる施設を利用しやすくすること |
| 2 学習機会やサークル・団体活動、指導者に関する情報提供や相談を行うこと |
| 3 区民がボランティアとして活動できるような機会を増やすこと |
| 4 団体やボランティア活動への支援を行うこと |
| 5 学習、文化、スポーツ活動などのリーダーや指導者を育成すること |
| 6 芸術や文化に関する活動や鑑賞のための機会を提供すること |
| 7 生活向上に役立つ講座やイベントなどの学習機会を提供すること |
| 8 技術や知識を持つ区民を登録し、指導者として派遣する人材バンク制度を充実すること |
| 9 インターネット、通信教育を活用した生涯学習の機会を提供すること |
| 10 その他() |
| 11 わからない |

問 17 誰もがスポーツを楽しむために、どのようなことが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----|-----------------------------------|---|
| 1 | 既存スポーツ施設の整備（活動場所の拡張） | |
| 2 | 時間に左右されず、安全にスポーツや運動できる場所の確保 | |
| 3 | 身近な場所で気軽にスポーツ参加ができる地域スポーツクラブがあること | |
| 4 | スポーツに関する大会の開催や情報提供 | |
| 5 | 指導者の育成や派遣 | |
| 6 | 幼児・子どもへの健康・体力づくり指導とその環境 | |
| 7 | 高齢者・障害者（児）が気軽にスポーツ参加ができる環境 | |
| 8 | インターネットやマスメディアを使った情報提供の充実 | |
| 9 | その他（ | ） |
| 10 | わからない | |

10. 健康

問 18 あなたがより健康な生活を送るために、葛飾区にはどのようなことに力を入れてほしいですか。(○はいくつでも)

- | | | | | |
|---|----------------|----|-----------------------|---|
| 1 | 食品の安全 | 9 | 健康診査・がん検診 | |
| 2 | 飲み水の安全 | 10 | 育児に関する相談窓口の充実 | |
| 3 | こころの健康 | 11 | 健康に関する相談窓口の充実 | |
| 4 | 受動喫煙対策 | 12 | 健康づくりへの支援（講座や情報の提供など） | |
| 5 | むし歯・歯周病の予防 | 13 | 運動できる環境の整備（運動遊具の設置など） | |
| 6 | 結核・感染症・エイズの予防 | 14 | 医療機関に関する情報提供 | |
| 7 | 寝たきり予防 | 15 | その他（ | ） |
| 8 | 栄養・食育に関する知識の提供 | | | |

11. 高齢者支援

問 19 将来、あなたが介護を受けるようになった場合、どのような生活を望みますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 介護サービスなどを利用せず、自宅で家族の介護を受けながら生活を続けたい | |
| 2 | 自宅で介護保険サービスなどを利用しながら生活を続けたい | |
| 3 | 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい | |
| 4 | 体の衰えを互いに補いながら小人数で共同して生活したい | |
| 5 | その他（ | ） |
| 6 | わからない | |

12. 障害者支援

問 20 障害がある方など誰もが安心して暮らせるためには、何が重要だと思いますか。

(○は5つまで)

- | | |
|----|--|
| 1 | 道路や公園の段差解消や点字ブロック設置などの整備 |
| 2 | 障害のある方に対する周囲の人々の理解 |
| 3 | 鉄道駅舎へのエレベーターやエスカレーター、ホームドアの設置 |
| 4 | 地域での自立生活に必要な相談や生活技術の訓練 |
| 5 | 段差解消や自動ドア・だれでもトイレの設置など、日常生活で利用する身近な小売店などの設備を整備 |
| 6 | 就労を支援するための相談や業務の指導、障害者に理解のある雇用の場の確保 |
| 7 | 障害に対する正しい理解を深める小・中学校での福祉教育 |
| 8 | 盲導犬や聴導犬などの普及 |
| 9 | リフト付バスやタクシーなどの普及 |
| 10 | 障害のある方への差別の解消 |
| 11 | 障害のある方が共同生活する場の拡大 |
| 12 | 周囲の人々との交流や友達との交流 |
| 13 | ガイドヘルパーなどの外出の援助 |
| 14 | 食事の配達や家事の支援 |
| 15 | インターネットの活用などにより、生活情報が簡単に手に入れられること |
| 16 | 視覚、聴覚などに障害のある方の情報入手方法の拡大 |
| 17 | 印刷物など、誰もが見やすくわかりやすい色づかいや文字の大きさへの配慮 |
| 18 | 区民一人一人の思いやりの気持ち |
| 19 | その他() |

13. 子育て

問 21 少子化社会の中で、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。

(○は3つまで)

- | | |
|----|------------------------------|
| 1 | 男性の家事や育児への参加の促進を啓発する |
| 2 | 出産や子育てについて、気軽に相談できる窓口を整備する |
| 3 | 保育園や幼稚園などで、子どもを預かる保育時間を長くする |
| 4 | 子どもを短時間でも、気軽に預けられる保育施設を充実させる |
| 5 | 子育てをする世代への住宅の提供など住宅対策を進める |
| 6 | 子どもが、のびのび遊べる環境づくりを行う |
| 7 | 子育てを助け合える地域のネットワークづくりを支援する |
| 8 | 保育園の整備を進める |
| 9 | その他() |
| 10 | 特に取り組む必要はない |

問 22 子どもたちの放課後などの過ごし方について、葛飾区はどのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は2つまで)

- | | |
|---|---|
| 1 | 子どもが自由に遊び、学ぶことができる場所を提供する |
| 2 | 子どもが様々な悩みや問題を相談できる場所を提供する |
| 3 | 学童保育クラブ事業を推進する |
| 4 | 子どもが地域のイベントに参加できるように、PTAや子ども会などの地域活動を援助する |
| 5 | 子どもが家で過ごしやすいうように、家族で過ごすことの大切さを啓発する |
| 6 | その他() |
| 7 | 特に取り組む必要はない |

1 4. 高齢社会への対応

問 23 高齢社会の中で葛飾区は社会参加を促すため、どのような施策を進めていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

- | | |
|----|---|
| 1 | 高齢者の起業への助成や支援を行う |
| 2 | 高齢者の就業支援を行う |
| 3 | 高齢者に職業以外の社会的活動(ボランティア活動など)に関する情報提供や、知識・技術を身につける機会を充実させる |
| 4 | 高齢者に職業以外の社会的活動(ボランティア活動など)に関する地域での組織づくりや活動場所の提供などの活動支援を行う |
| 5 | 自主的に活動するグループが活動できる場所を充実させる |
| 6 | 高齢者が気軽に散歩や運動ができる施設や場所を整備する |
| 7 | 高齢者クラブなどの活動を支援する |
| 8 | 高齢者を対象とした生きがいのきっかけづくりの講座を実施する |
| 9 | バリアフリーのまちづくりを進める |
| 10 | その他() |

問 24 生活上の身近な相談相手として、あなたの地区を担当する民生委員・児童委員がいることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | よく知っている |
| 2 | 会ったことはあるが、よく知らない |
| 3 | 会ったことはないが、名前だけは知っている |
| 4 | 地区を担当している人がいることは知っている |
| 5 | 知らない |

15. 男女平等社会の実現

問 25 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|---|---------------|
| 1 | 十分平等になっている |
| 2 | かなり平等になっている |
| 3 | 少しは平等になっている |
| 4 | ほとんど平等になっていない |
| 5 | わからない |

→(問 25 で選択肢「2」から「4」を選んだ方のみお答えください。)

問 25-1 具体的にどのような点で男女の不平等を感じますか。(○は3つまで)

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 1 | 「男は仕事、女は家庭」という考えが人々の間にあること |
| 2 | 家事や育児のほとんどを女性が担っていること |
| 3 | 男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくいこと |
| 4 | 介護の負担が女性にかたよっていること |
| 5 | 就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること |
| 6 | 職場や学校などで、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)がおこること |
| 7 | 議員や企業の管理職、地域社会の役員などに、女性の社会参画が進んでいないこと |
| 8 | 学校生活の中で、男女による役割分担があること |
| 9 | 風俗産業やマスメディアなどで、女性の性が商品化されていること |
| 10 | 家庭内・外に関わらず、女性に対する暴力がなくなるしないこと |
| 11 | その他() |

16. 同和問題

問 26 あなたは同和問題(部落問題)※といわれる人権侵害の問題(部落差別)があることを知っていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-------|---|------|
| 1 | 知っている | 2 | 知らない |
|---|-------|---|------|

※同和問題(部落問題)とは…現在でも、生まれた場所や家柄など本人の意思や努力では変えられない理由により、いわれのない差別を受けている人たちがいる。これを同和問題(部落問題)という。

問 27 もしあなたのお子さんの結婚相手が「同和地区」(被差別部落)出身の人だとわかった場合、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 二人の結婚には反対する |
| 2 | 二人の結婚に賛成するが、相手の家族(両親や兄弟・姉妹)とはあまり親戚付き合いをしない |
| 3 | 二人の結婚に賛成し、相手の家族とも親戚付き合いをする |
| 4 | わからない |

問 28 同和問題（部落問題）を解決するためには、今後どのようにすれば良いと思いますか。

（○は2つまで）

- | |
|--|
| 1 差別は自然になくなっていくので、そっとしておく |
| 2 差別をなくすように、人権尊重の意識を区民一人一人がもっと自覚する必要がある |
| 3 同和地区（被差別部落）の人達が行政や同和地区以外の人に差別をなくすよう、積極的に働きかける必要がある |
| 4 行政が積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある |
| 5 どのようにしても差別はなくなるらない |
| 6 わからない |

17. 産業

問 29 葛飾区では商業、工業、伝統産業、農業など様々な産業が営まれています。あなたは、これら産業の振興についてどれが大切だと思いますか。

（1）商業振興について（○は2つまで）

- | |
|--|
| 1 買い物ポイントカードや営業時間延長など、商店街として消費者の利便性に配慮したサービスの取組 |
| 2 高齢者、子育て中の家庭などに配慮した宅配サービスまたは、インターネットの活用などによる販売方法の拡大 |
| 3 量り売りや、丁寧な接客サービスなど、小規模小売店の特性を生かした店づくり |
| 4 イベントの実施によるにぎわいのある商店街づくり |
| 5 街路・街路灯・駅前等の整備など、快適な買い物環境の整備 |
| 6 プレミアム付き商品券の発行 |
| 7 わからない |
| 8 その他（) |

（2）工業振興について（○は2つまで）

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 優れた技術を有する区内製造業の育成・強化 | 4 区内伝統産業の優れた技法の継承及び後継者の育成 |
| 2 融資制度・助成制度事業などの充実 | 5 新規開業や新分野へ進出する企業への支援 |
| 3 インターネットなどを活用した区内製造業のPRや販路拡大への取組 | 6 わからない |
| | 7 その他（) |

（3）農業振興について（○は2つまで）

- | |
|---|
| 1 区内産野菜を身近な商店街などで購入できる機会の拡大 |
| 2 新鮮で安全な野菜の安定供給を行うための農業者への支援 |
| 3 農業オリエンテーリングやふれあいレクリエーション農園など、土に触れ野菜収穫を体験する機会の提供 |
| 4 住宅地との共存を目指した農地の保全 |
| 5 地域産業と連携した食育の推進 |
| 6 わからない |
| 7 その他（) |

18. 観光

問 30 葛飾区ではまちなぎわいを創出するために、観光振興を進めています。葛飾区に観光客を誘致するために、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--|
| 1 新しい観光ルートの設定 | 9 寅さん、こち亀、キャプテン翼、モンチッチ、リカちゃんなどのキャラクターの活用 |
| 2 イベントの開催・充実 | 10 葛飾ブランドの開発 |
| 3 区内を巡るツアーの実施 | 11 地域限定グッズの販売 |
| 4 宿泊施設の充実 | 12 観光ボランティアの充実 |
| 5 伝統産業体験 | 13 外国人に向けたサービスの充実 (情報発信、案内表示など) |
| 6 工場や店舗の見学・体験・直売など | 14 その他 () |
| 7 収穫体験・農産物直売など | |
| 8 情報発信の充実 | |

19. 国際

問 31 同じ地域で暮らしていくために外国人(区民)に努力してほしいことはありますか。(〇はいくつでも)

- | |
|-----------------------|
| 1 生活ルールの遵守 |
| 2 日本の文化や習慣などの理解 |
| 3 日本語の理解 |
| 4 外国語や外国文化の紹介 |
| 5 葛飾区に対して愛着を持つ |
| 6 地域の行事やイベントへの参加 |
| 7 自治町会などの地域コミュニティへの加入 |
| 8 ボランティアとしての関わり |
| 9 その他 () |
| 10 特にない |

問 32 同じ地域で暮らしていくために日本人区民が努力・工夫していくべきことはありますか。(〇はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 自分の周囲にいる外国人(区民)をきちんと認識すること |
| 2 外国人(区民)のことを知ろうと興味・関心を持つこと |
| 3 日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること |
| 4 地域などでのイベント・行事に参加するよう呼びかけること |
| 5 やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること |
| 6 英語などの外国語を習得すること |
| 7 その他 () |
| 8 特にない |

20. 防災

問 33 あなたが、日頃行っている防災対策や準備は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----|--|
| 1 | ハザードマップなどを確認している |
| 2 | 家具などを固定し、転倒防止対策を行っている |
| 3 | 感震ブレーカーを設置し、地震火災に備えている |
| 4 | ガラスに飛散防止フィルムを貼っている |
| 5 | 食料や飲料水、医薬品などを入れた非常用持出袋を用意している |
| 6 | 消火器や三角バケツなどの消火器具を用意している |
| 7 | 家庭内で災害時の連絡方法や避難先を話し合っている |
| 8 | 地域などで行われている防災訓練に参加したことがある |
| 9 | 地震保険に加入している |
| 10 | ペットのための防災用品(ペットフード、トイレ用品、リード、ケージなど)を用意している |
| 11 | 特に何も行っていない |
| 12 | その他() |

問 34 昭和 56 年 6 月に建築基準法の構造関係規定が改正されました。あなたのお住まいは、次のどちらにあてはまりますか。(○は 1 つ)

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="radio"/> 1 昭和 55 年以前に建築された | <input type="radio"/> 2 昭和 56 年以後に建築された |
|--|---|

→問 34 で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください。

問 34-1 次の中からあてはまるものに○をしてください(○は 1 つ)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 耐震診断、耐震補強をしてある |
| 2 | 耐震診断、耐震補強を今後する予定である |
| 3 | 耐震診断、耐震補強をする予定はない |
| 4 | 借家、賃貸であり、個人で耐震補強が行えない |
| 5 | その他() |

問 35 あなたは、お住まいの地域が災害時に安全な地域だと思いますか。(○は 1 つ)

- | | |
|--------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 1 安全だと思う | <input checked="" type="radio"/> 2 安全だとは思わない → (問 35-1 へ) |
|--------------------------------|---|

(問 35 で選択肢「2」を選んだ方のみお答えください。)

問 35-1 安全でないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-------------------------|
| 1 | 道路が狭い | 6 | 防災行政無線(夕焼けチャイム)が聞こえづらい |
| 2 | 地域に公園や広場が少ない | 7 | 高齢者世帯が多い |
| 3 | 洪水が発生したときに避難できる高い場所が少ない | 8 | 地域の防災訓練など、普段の備えがあまりない地域 |
| 4 | 避難所(学校など)が少ない | 9 | その他() |
| 5 | 木造建物が密集している | | |

2 1. 公園・河川敷

問 36 あなたは、公園や河川敷にどのようなことを期待しますか。(同じ項目を選択可)

1 街の安全を高める	10 散策の場
2 街の景観を向上させる	11 イベントなどを行うにぎわいの場
3 身近な自然をはぐくむ場	12 近所の人との交流の場
4 昆虫などの生息の場	13 豊かな緑を楽しむ場
5 遊び場	14 ジョギングやサイクリングの場
6 スポーツの場	15 健康づくりの場
7 心を落ち着ける安らぎの場	16 その他 ()
8 植物や昆虫の観察などを通じた環境学習の場	17 特にない
9 防災訓練や盆踊りなどの地域活動の場	

公園	(番号を3つ記入)			河川敷	(番号を3つ記入)		

2 2. 道路

問 37 あなたは葛飾区が道路をつくったり、作りかえる時に、どんなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

1 歩道を広げる	
2 歩道をつくる	
3 車道を広げる	
4 道路をバリアフリーにする	
5 道路を緑化する	
6 駐車スペースを整備する	
7 電線を道路の下に埋めて電柱をなくす	
8 自転車と歩行者が安全に利用できる道路をつくる	
9 自転車の駐輪場所をつくる	
10 道路にちょっと休める休憩ベンチをつくる	
11 自転車専用レーンをつくる	
12 その他 ()	
13 特にない	

23. 環境

問 38 日頃の暮らしを少し工夫することで、地球温暖化対策や自然環境の保護など大切な環境を守ることができます。次にあげる1～11のような行動について、①大切なことだとご存じですか。また、②既に実行していますか。③今後（も）実行しようと思いませんか。①、②、③とも「はい」、「いいえ」のどちらかをお選びください。（○はそれぞれ1つ）

	① 大切だと認識している		② 既に実行している		③ 今後（も）実行する	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
1 冷暖房の適正な温度設定や照明のこまめな消灯など、省エネ・節電を心がける	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
2 商品は環境に配慮した製品（エコマーク・グリーンマーク製品など）を選ぶ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
3 自動車を買うときは、より低公害な車を選ぶ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
4 出かけるときはバス・電車などの公共交通機関や自転車を利用する	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
5 油污れなど汚れのひどい食器は、ふき取ってから洗う	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
6 雨水貯水槽の設置などにより、雨水の有効利用をする	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
7 太陽光発電システムなどの、再生可能エネルギーを積極的に活用する	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
8 樹木や花を植えたり、緑のカーテンを設置するなど、自宅に自然と親しめる環境を取り入れる	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
9 レジャーに出かけた際のごみや釣り糸は捨てずに持ちかえる	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
10 環境に関する講座や講演会、自然観察会などに参加する	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
11 生活の中で発生する音や臭いに対しての、近隣への気遣いを忘れない	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ

問 39 あなたは、「生物多様性※」という言葉や内容を知っていますか。（○は1つ）

1 言葉も内容も知っている
2 言葉は知っている（聞いたことがある）
3 言葉も内容も知らない（聞いたことがない）

※生物多様性とは…昔からその土地にいた様々な生きものが、多様な環境の中でお互いに関わり合って生きていること。

24. ごみの減量・リサイクル

問 40 ごみの減量化を進めるためには、まずREDUCE（リデュース）※¹を心がけ、次にREUSE（リユース）※²に取り組み、最後にRECYCLE（リサイクル）※³が重要です。それぞれの頭文字をとった「3つのR」の行動の中で日頃、あなたがごみの減量やリサイクルのために行っていることを次の中から選んでください。（○はそれぞれいくつでも）

<リデュース>

- | | |
|---|---|
| 1 | 必要なものを必要な時に買うようにしている |
| 2 | 過剰な包装は断るようになっている |
| 3 | マイバッグを持って行くなど、レジ袋は使わないようになっている |
| 4 | マイボトルを利用し、ペットボトルをなるべく使用しないようになっている |
| 5 | マイ箸を利用し、割り箸をなるべく使用しないようになっている |
| 6 | 生ごみ処理機、コンポスト化容器の利用や水きりなど、生ごみの減量を行っている |
| 7 | 食べ残しをしない、食材を使いきるなど、食べられる物がごみにならないようになっている |
| 8 | その他() |

※¹ REDUCE（リデュース）とは…ごみになるものを減らすこと。

<リユース>

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 空き箱などを家庭内の整理などに工夫して活用している |
| 2 | 着なくなった洋服などは、フリマアプリなどに提供している |
| 3 | 詰め替え商品を選び、容器を繰り返し利用している |
| 4 | フリーマーケットやリサイクルショップを利用している |
| 5 | ビールびんや一升びんなどは、買ったお店に戻している |
| 6 | 壊れたものはできるだけ修理して使っている |
| 7 | その他() |

※² REUSE（リユース）とは…使い終わったものを捨てないで再び使うこと。

<リサイクル>

- | | |
|---|---|
| 1 | 環境にやさしい商品や再生品を選ぶようになっている |
| 2 | 紙箱や紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）は分別し、資源として出している |
| 3 | びん、缶、布類などの資源は分別し集積所や区の施設など行政の資源回収に出している |
| 4 | びん、缶、布類などの資源は分別し地域の集団回収に出している |
| 5 | その他() |

※³ RECYCLE（リサイクル）とは…使えなくなったものをもう一度資源として活用すること。

問 41 今後、葛飾区がごみの減量やリサイクルを推進するに当たって、より一層重点を置くべきだと思うことは何ですか。(○は3つまで)

- 1 区民・事業者・区の三者が協働してごみの減量や3R（「3つのR」）を推進するための具体的な取組として「かつしかルール※」を発信し、それぞれの役割を認識した主体的な活動を促進する
- 2 事業者に対して、製造・販売した製品を自ら回収・資源化するとともに、ごみになるものを作らない、売らないよう働きかける
- 3 区民や事業者に対して、環境にやさしい商品や再生品の購入を呼びかける
- 4 区民や事業者に対して、「広報かつしか」や区公式ホームページなどの広報媒体を活用し、ごみの発生抑制を最優先とする観点からのわかりやすい情報提供を行う
- 5 環境学習や青空集会などごみ減量やリサイクルの推進に関して区民が自ら参加して学ぶ機会を充実させる
- 6 集団回収や3R行動の実践など、区民の自主的活動の推進を図る
- 7 その他()

※「かつしかルール」とは…区民・事業者・区の皆が主体となって葛飾区のごみの量を減らし、また、資源を良質なりサイクルにつなげるための取組で、「生ごみの減量」と、「雑紙の分別徹底による資源化」を呼びかけている。

25. 感染症対策

問 42 新型コロナウイルス感染症、エボラ出血熱やMERS、鳥インフルエンザなどの新興感染症が発生した場合、充実や継続するべきだと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 感染症に関する相談窓口
- 2 発生状況や予防策などの情報提供
- 3 高齢者や障害者などへの福祉サービスの提供
- 4 保育園・幼稚園・学校の閉鎖などによる感染予防対策
- 5 マスクや消毒薬などの備蓄
- 6 予防接種や治療薬などの確保
- 7 医療機関の受け入れ体制・検査体制・ワクチン接種体制
- 8 患者とその家族などの人権、個人情報などに対する配慮
- 9 経済困窮者に対する経済的支援
- 10 事業者の経営などの支援
- 11 その他()

最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。あてはまる番号に○を付けてください。

F1 性別	1 男性 2 女性 3 その他			
F2 年齢	1 18～29 歳	3 40～49 歳	5 60～64 歳	7 70 歳以上
	2 30～39 歳	4 50～59 歳	6 65～69 歳	
F3 職業	【自 営】 1 農林水産 2 商工サービス業 3 自由業 4 その他 (具体的に：)	【正社員・公務員】 5 管理職 6 専門技術職 7 事務職 8 その他 (具体的に：)	【パート・アルバイト】 9 管理職 10 専門技術職 11 事務職 12 その他 (具体的に：)	【その他】 13 学生 14 主婦(夫) 15 無職 16 その他 (具体的に：)
F4 勤務先	1 自宅 2 葛飾区(ご自宅を除く) 3 千代田区・中央区・港区 4 墨田区・江東区・江戸川区・足立区 5 2、3、4以外の都内	6 千葉県・埼玉県・神奈川県 7 6以外の道府県 8 決まっていない 9 勤めていない		
F5 住居	1 持ち家・一戸建て 2 分譲マンション 3 賃貸アパート・マンション 4 公団・公社・都営・区営住宅	5 社宅・寮など 6 間借り・同居・住み込み 7 その他 (具体的に：)		
F6 家族構成	1 ひとり暮らし 2 夫婦だけ 3 夫婦と子どもだけ(2世代)	4 親と子ども夫婦と孫(3世代) 5 その他 (具体的に：)		
F7 ご自身	1 独身 2 子どものいない夫婦 3 一番上の子どもが入学前	4 一番上の子どもが小中学生 5 一番上の子どもが高校・大学生 6 一番上の子どもが学校卒業		
F8 お住まいの町	1 青戸 2 奥戸 3 お花茶屋 4 金町 5 鎌倉 6 亀有 7 小菅	8 柴又 9 白鳥 10 新小岩 11 高砂 12 宝町 13 立石 14 新宿	15 西亀有 16 西新小岩 17 西水元 18 東金町 19 東新小岩 20 東立石 21 東堀切	22 東水元 23 東四つ木 24 細田 25 堀切 26 水元 27 南水元 28 四つ木

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

第17回葛飾区世論調査報告書

令和3年（2021年）12月発行

企画・発行：葛飾区 総務部 すぐやる課 すぐやる係
東京都葛飾区立石5-13-1
電話 03-3695-1111（代表）

集計・分析：株式会社都市計画21
東京都中央区日本橋人形町1-6-10
ユニコム人形町ビル6階
電話 03-5623-6371

この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。

